上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

牛頸本堂遺跡群Ⅴ

～ 第２・４・６・15次調査 ～

大野城市文化財調査報告書　第76集

２００８

大野城市教育委員会

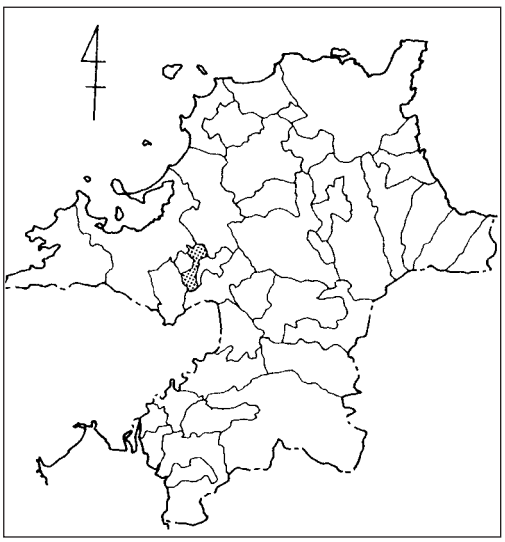
上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

牛頸本堂遺跡群Ⅴ

（うしくびほんどういせきぐん）

～ 第２・４・６・15次調査 ～

大野城市文化財調査報告書　第76集



２００８

大野城市教育委員会

調査地周辺全景（平成15年5月撮影）

序

上大利地区では北・南の２地区で事業面積が48haに及ぶ大規模な区画整理事業が計画され、平成13年度より本格的な発掘調査を実施しました。

今回報告する牛頸本堂遺跡第２・４・６・15次調査は、上大利北土地区画整理事業地の北側に位置します。調査前は田として利用されており、平坦な土地が広がっていましたが、調査の結果、弥生時代から平安時代にかけての集落跡が発見され、古くから人の生活があったことが分かりました。発見された遺構の中でも、特に奈良時代の竪穴住居跡や遺物が多く、九州最大の牛頸窯跡群を支える集落として機能していたようです。

牛頸窯跡群周辺の集落は、盛んに操業がおこなわれている窯と合わせて変遷を追うことで時空間的な位置付けがより明らかとなり、具体的な牛頸窯跡群の盛衰を知る上で非常に重要です。

土地には時代を問わずそこで起こった様々な出来事が遺跡・遺構・遺物といった形で記録されています。この残された埋蔵文化財に関して、慎重に発掘調査を進め、人々の生活を記録し保存しています。本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり広く活用され、文化財愛護の精神が高揚することを心より願うとともに、今後とも文化財行政に対しまして、尚一層ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、上大利北土地区画整理組合をはじめ㈱大成建設、工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成20年２月29日

大野城市教育委員会
教育長　古賀　宮太

例　　言

1．本書は、大野城市教育委員会が上大利北土地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の本堂遺跡第２・４・６・15次発掘調査の報告書である。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸本堂遺跡群』とした。

2．発掘調査は、大野城市上大利北土地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。

3．遺構写真は、石木秀啓・早瀬賢・島田拓（現兵庫県上郡町教育委員会）・岸見泰宏（現愛媛県松山市教育委員会）・上田恵（現小郡市教育委員会）が撮影した。

4．遺物写真は、㈲文化財写真工房（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）が撮影した。

5．遺構平面実測図は、全体図を㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託し、個別の実測図・地形測量図は石木・早瀬・島田・岸見・上田が作成した。また上大利地区旧地形図は、㈱写測エンジニアリングに委託した。なお、地形測量図のコンターは25cm間隔である。

6．遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標（第Ⅱ系）を示す。また、図中の標高は、上大利北土地区画整理組合が提供した３級・４級基準点網図の成果を使用している。なお、この成果と大野城市が管理する水準高について、２級基準点（基－２８）で33.793m（大野城市）、33.617m（組合）と17.6cmの差があることが整理作業中に判明した。このため、上大利区画整理地内の発掘調査地における水準点を追証したところ、本堂遺跡１・２次調査に関しては、大野城市の水準点を使用していることが判明した。したがって、本堂遺跡１・２次調査の標高についても組合のもつ水準高に合わせて誤差を修正したが、全体図の等高線については修正が不可能であったので、原図のままとしたことをお断りしておく。

7．遺物実測図は、島田・上田・岸見・西堂将夫（現福岡市教育委員会）・一瀬智（現福岡県教育委員会）・北川貴洋・井上愛子・城門義廣（現福岡県教育委員会）・森田安哉子（福岡大学学生）・井上理香が作成した。

8．製図は、渡部美香が作成し、一部の遺物は㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

9．拓本は、一瀬・西堂・北川・井上・城門が作成した。

10．観察表は、井上が作成し、一部を㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

11．本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1／25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用したものである。

12．遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。

13．本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。

14．本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。

15．本書の執筆は、文末に担当者名を記し、編集は石木がおこなった。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに
　１．　平成14年度の調査経過 …… １～７
　２．　調査体制 …… ７～８
Ⅱ．調査の結果
　１．第２次調査
　　Ａ．調査概要 …… ９～10
　　Ｂ．遺構と遺物 …… 10～90
　　Ｃ．小結 …… 91～93
　２．第４次調査
　　Ａ．調査概要 …… 94
　　Ｂ．遺構と遺物 …… 94～97
　　Ｃ．小結 …… 97
　３．第６次調査
　　Ａ．調査概要 …… 98～99
　　Ｂ．遺構と遺物 …… 99～113
　　Ｃ．小結 …… 114
　４．第15次調査
　　Ａ．調査概要 …… 115
　　Ｂ．遺構と遺物 …… 115～125
　　Ｃ．小結 …… 125
Ⅲ．まとめ
　１．　弥生時代の井戸 …… 151～165
　２．奈良時代の本堂遺跡群 …… 166～172

図　版　目　次

図版１　（１）２次調査地全景（北西から）
　　（２）２次ＳＢ01・03・04全景（真上より）
図版２　（１）２次ＳＣ01全景（北から）
　　（２）２次ＳＣ01土層（北から）
図版３　（１）２次ＳＣ02全景（西から）
　　（２）２次ＳＣ02土層（西から）
図版４　（１）２次ＳＣ03全景（南西から）
　　（２）２次ＳＣ03土層（南西から）

図版５　（１）２次ＳＣ04全景（北東から）
（２）２次ＳＣ04土層（北西から）
図版６　（１）２次ＳＣ05全景（西から）
（２）２次ＳＣ05土層（北から）
図版７　（１）２次ＳＣ06全景（北東から）
（２）２次ＳＣ08全景（北東から）
図版８　（１）２次ＳＣ09全景（西から）
（２）２次ＳＣ09・ＳＤ13土層（南東から）
図版９　２次ＳＤ01西半部全景（北東から）
図版10　（１）２次ＳＤ01土層（ａ－ａ’面）（北から）
（２）２次ＳＤ01土層（ｂ－ｂ’面）（北東から）
（３）２次ＳＤ01土層（ｃ－ｃ’面）（北東から）
図版11　（１）２次ＳＤ01土層（ｄ－ｄ’面）（東から）
（２）２次ＳＤ01土層（ｅ－ｅ’面）（東から）
（３）２次ＳＤ01床面検出小穴
図版12　（１）２次ＳＤ07土層（ａ－ａ’面）（南東から）
（２）２次ＳＤ08土層（ａ－ａ’面）（北西から）
（３）２次ＳＤ08土層（ｂ－ｂ’面）（北西から）
図版13　（１）２次ＳＤ09土層（ｂ－ｂ’面）（西から）
（２）２次ＳＤ13土層（ａ－ａ’面）（北西から）
（３）２次ＳＤ13土層（ｄ－ｄ’面）（北西から）
図版14　（１）２次ＳＸ01全景（北から）
（２）２次ＳＸ01土層（東から）
図版15　（１）２次ＳＸ09全景（南西から）
（２）２次ＳＸ09土層（北東から）
図版16　（１）２次ＳＸ11全景（南西から）
（２）２次ＳＸ11土層（南西から）
図版17　（１）２次ＳＸ15全景（南から）
（２）２次ＳＸ24全景（東から）
（３）２次ＳＸ28全景・遺物出土状況
図版18　（１）２次ＳＸ35全景（真上から）
（２）２次ＳＸ39全景（東から）
図版19　（１）２次ＳＸ41全景（南から）
（２）２次ＳＸ41土層（南から）
図版20　（１）２次ＳＸ42全景（南東から）
（２）２次ＳＸ42土層（北西から）

図版21　（１）２次ＳＸ43全景（北東から）
（２）２次ＳＸ43遺物出土状況（北西から）
（３）２次ＳＸ43土層（西から）
図版22　（１）２次ＳＸ44全景（北西から）
（２）２次ＳＸ44土層（北西から）
図版23　（１）２次ＳＸ45全景（北西から）
（２）２次ＳＸ45土層（北東から）
図版24　（１）２次ＳＸ49全景（北西から）
（２）２次ＳＸ49土層（南西から）
（３）２次ＳＸ50全景（南東から）
図版25　（１）２次ＳＸ51全景（東から）
（２）２次ＳＸ51土層（北東から）
図版26　２次ＳＸ53遺物出土状況
図版27　（１）２次ＳＸ53全景（南東から）
（２）２次ＳＸ53土層（南東から）
図版28　（１）２次ＳＸ61全景（北から）
（２）２次ＳＸ63全景（北西から）
（３）２次ＳＸ64全景（北から）
図版29　（１）２次ＳＸ68全景（北から）
（２）２次ＳＸ69全景（北西から）
（３）２次ＳＸ69土層（南西から）
図版30　（１）２次ＳＸ75全景（東から）
（２）２次ＳＸ76全景（北東から）
図版31　（１）２次ＳＥ01全景（北東から）
（２）２次ＳＰ668全景（南から）
図版32　（１）４次調査地全景（北東から）
（２）４次ＳＤ01土層（１・２間）（南から）
（３）４次ＳＤ01土層（２・３間）（南から）
図版33　（１）４次ＳＸ01・07全景（北東から）
（２）４次ＳＸ01土層（東から）
（３）４次ＳＸ07土層（東から）
図版34　（１）４次ＳＸ02全景（北西から）
（２）４次ＳＸ02土層（南から）
図版35　（１）４次ＳＸ06全景（南東から）
（２）４次ＳＸ06土層（南から）
図版36　６次調査地全景（東から）

図版37　（１）６次ＳＣ01全景（北から）
（２）６次ＳＣ01遺物出土状況（北西から）
図版38　（１）６次ＳＣ01炉穴土層（北東から）
（２）６次ＳＣ01土層（南東から）
（３）６次ＳＣ02全景（南東から）
図版39　（１）６次ＳＣ03全景（北から）
（２）６次ＳＣ03土層（南東から）
図版40　（１）６次ＳＣ04全景（北から）
（２）６次ＳＣ04土層（南から）
図版41　（１）６次ＳＤ01全景（北から）
（２）６次ＳＤ01土層（北東から）
図版42　（１）６次ＳＸ04全景（東から）
（２）６次ＳＸ04土層（東から）
図版43　（１）６次ＳＸ05全景（北から）
（２）６次ＳＸ05土層（北東から）
図版44　（１）６次ＳＸ06全景（東から）
（２）６次ＳＸ06土層（南東から）
図版45　（１）６次ＳＸ07全景（南東から）
（２）６次ＳＸ07土層（南東から）
図版46　（１）６次ＳＸ10全景（北から）
（２）６次ＳＸ14土層（南東から）
図版47　（１）15次調査地遠景（南から）
（２）15次調査地全景（南西から）
図版48　（１）15次１区土坑群、ＳＸ01・02全景（西から）
（２）15次３区ピット群全景（東から）
図版49　（１）15次溝跡ＳＸ07・08全景（南から）
（２）15次ＳＸ12全景（東から）
（３）15次ＳＸ13全景（西から）
図版50　（１）２次ＳＸ44出土遺物
（２）２次ＳＸ53出土遺物
図版51～70　２次調査出土遺物①～⑳
図版70　４次調査出土遺物
図版70～75　６次調査出土遺物①～⑥
図版76～78　15次調査出土遺物①～③

挿　図　目　次

第１図　平成14年度上大利北土地区画整理地内調査地および２・４・６・15次調査地位置図（１／5,000）… ２
第２図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948年米軍撮影）（１／5,000）…… ３
第３図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図 …… ４
第４図　周辺遺跡分布図（１／50,000）…… ５～６
第５図　平成11年試掘調査地区配置図（１／5,000）…… ９
第６図　２次ＳＢ01実測図（１／60）…… 11
第７図　２次ＳＢ01出土遺物実測図（４は１／２、他は１／３）…… 11
第８図　２次ＳＢ02・05実測図（１／60）…… 12
第９図　２次ＳＢ03実測図（１／60）…… 13
第10図　２次ＳＢ04実測図（１／60）…… 14
第11図　２次ＳＣ01・02実測図（１／60）…… 15
第12図　２次ＳＣ01～03出土遺物実測図（１／３）…… 16
第13図　２次ＳＣ03実測図（１／60）…… 17
第14図　２次ＳＣ04・05実測図（１／60）…… 18
第15図　２次ＳＣ04出土遺物実測図（27・28は１／２、他は１／３）…… 19
第16図　２次ＳＣ05～09出土遺物実測図（33～35・41・48は１／２、他は１／３）…… 21
第17図　２次ＳＣ06・07実測図（１／60）…… 22
第18図　２次ＳＣ08実測図（１／60）…… 23
第19図　２次ＳＣ09実測図（１／60）…… 24
第20図　２次ＳＤ01土層実測図（１／40）…… 26
第21図　２次ＳＤ01出土遺物実測図①（56は１／６、他は１／３）…… 28
第22図　２次ＳＤ01出土遺物実測図②（１／３）…… 29
第23図　２次ＳＤ01出土遺物実測図③（92～94は１／５、他は１／３）…… 30
第24図　２次ＳＤ01出土遺物実測図④（113は１／３、他は１／２）…… 31
第25図　２次ＳＤ03・04出土遺物実測図（117・121・122は１／２、他は１／３）…… 32
第26図　２次ＳＤ07・08土層実測図（１／40）…… 33
第27図　２次ＳＤ07出土遺物実測図（133～136は１／２、他は１／３）…… 34
第28図　２次ＳＤ08出土遺物実測図（146～150は１／２、他は１／３）…… 35
第29図　２次ＳＤ09・12土層実測図（１／40）…… 36
第30図　２次ＳＤ09・12出土遺物実測図（157・158は１／２、他は１／３）…… 37
第31図　２次ＳＤ10出土遺物実測図（１／３）…… 38
第32図　２次ＳＤ11土層実測図（１／40）…… 38
第33図　２次ＳＤ11出土遺物実測図（171～174は１／２、他は１／３）…… 39

第34図　２次ＳＤ13土層実測図（１／40）…… 40
第35図　２次ＳＤ13出土遺物実測図（189・190は１／２、他は１／３）…… 41
第36図　２次ＳＸ01実測図（１／40）…… 43
第37図　２次ＳＸ02・03・08・10実測図（１／40）…… 44
第38図　２次ＳＸ01・05・09・11・13出土遺物実測図（195は１／６、他は１／３）…… 45
第39図　２次ＳＸ09実測図（１／40）…… 46
第40図　２次ＳＸ11・14・17実測図（１／40）…… 47
第41図　２次ＳＸ15出土遺物実測図（１／３）…… 48
第42図　２次ＳＸ21・23・26・27出土遺物実測図
（223・224・226・227は１／２､他は１／３）… 49
第43図　２次ＳＸ24・25・28～30・35実測図（ＳＸ35は１／20、他は１／40）…… 51
第44図　２次ＳＸ28・30・32・33・35出土遺物実測図（232・233は１／２、他は１／３）… 52
第45図　２次ＳＸ39出土遺物実測図①（243は１／６、他は１／３）…… 54
第46図　２次ＳＸ39出土遺物実測図②（249～251は１／２、他は１／３）…… 55
第47図　２次ＳＸ40出土遺物実測図（１／３）…… 56
第48図　２次ＳＸ41～44実測図（１／40）…… 58
第49図　２次ＳＸ41出土遺物実測図（１／３）…… 59
第50図　２次ＳＸ43出土遺物実測図（１／３）…… 60
第51図　２次ＳＸ44出土遺物実測図①（１／３）…… 62
第52図　２次ＳＸ44出土遺物実測図②（292は１／６、他は１／３）…… 63
第53図　２次ＳＸ45・49～51実測図（ＳＸ45は１／20、他は１／40）…… 64
第54図　２次ＳＸ45出土遺物実測図（１／３）…… 65
第55図　２次ＳＸ49・50出土遺物実測図（319は１／２、他は１／３）…… 65
第56図　２次ＳＸ51出土遺物実測図（１／３）…… 66
第57図　２次ＳＸ52・60・61・63・64実測図（１／40）…… 67
第58図　２次ＳＸ53実測図（１／20）…… 68
第59図　２次ＳＸ53出土遺物実測図①（１／３）…… 69
第60図　２次ＳＸ53出土遺物実測図②（１／３）…… 70
第61図　２次ＳＸ53出土遺物実測図③（１／３）…… 71
第62図　２次ＳＸ53出土遺物実測図④（350・351は１／６、他は１／３）…… 72
第63図　２次ＳＸ53出土遺物実測図⑤（１／３）…… 73
第64図　２次ＳＸ53出土遺物実測図⑥（１／３）…… 74
第65図　２次ＳＸ53出土遺物実測図⑦（１／３）…… 75
第66図　２次ＳＸ54～56・61・65出土遺物実測図
（382・385・387・388は１／２、他は１／３）… 77
第67図　２次ＳＸ65・67～70実測図（ＳＸ68は１／20、他は１／40）…… 78

第68図　２次ＳＸ67・68出土遺物実測図（１／３）…… 79
第69図　２次ＳＸ71・75～77実測図（１／40）…… 80
第70図　２次ＳＸ72～76・79出土遺物実測図（405・409は１／２、他は１／３）…… 81
第71図　２次ＳＸ82・94～96・ＳＰ668実測図（ＳＰ668は１／20、他は１／40）…… 82
第72図　２次ＳＸ82・90～92・ＳＥ01出土遺物実測図（412･416は１／２､他は１／３）… 83
第73図　２次ＳＥ01出土遺物実測図②（１／３）…… 83
第74図　２次ＳＥ01実測図（１／40）…… 86
第75図　２次ＳＰ出土遺物実測図①（421・428は１／２、他は１／３）…… 88
第76図　２次ＳＰ出土遺物実測図②（１／３）…… 89
第77図　２次遺構検出時・その他の出土遺物実測図
（444は１／５、447～453は１／２、他は１／３）… 90
第78図　４次調査遺構配置図（１／200）…… 95
第79図　４次遺構実測図（１／40）…… 96
第80図　４次調査出土遺物実測図（456・458・460は１／２、他は１／３）…… 97
第81図　６次ＳＣ01実測図（１／60）…… 98
第82図　６次ＳＣ01出土遺物実測図（１／３）…… 99
第83図　６次ＳＣ02～04実測図（１／60）…… 101
第84図　６次ＳＣ04出土遺物実測図（１／３）…… 102
第85図　６次ＳＤ01土層実測図（１／60）…… 104
第86図　６次ＳＤ01出土遺物実測図（１／３）…… 104
第87図　６次ＳＸ04・05・07・10・14実測図（１／60）…… 105
第88図　６次ＳＸ06実測図（１／80）…… 106
第89図　６次ＳＸ06出土遺物実測図①（１／３）…… 107
第90図　６次ＳＸ06出土遺物実測図②（１／３）…… 108
第91図　６次ＳＸ06出土遺物実測図③（１／３）…… 109
第92図　６次ＳＸ06出土遺物実測図④（１／３）…… 110
第93図　６次ＳＸ07・10出土遺物実測図（１／３）…… 112
第94図　６次ＳＸ05・14、ＳＰ17、包含層出土遺物実測図（１／３）…… 113
第95図　６次ヘラ記号拓本図（１／３）…… 114
第96図　15次調査遺構全体図（１／200）…… 117
第97図　15次ＳＫ01～03、ＳＸ11・15・16・18実測図（１／20）…… 118
第98図　15次ＳＰ01・03・06・10・11・13実測図（１／20）…… 119
第99図　15次ＳＤ01、ＳＸ11、ＳＰ01・02出土遺物実測図（567は１／２、他は１／３）… 120
第100図　15次溝跡（ＳＸ07・08）実測図（１／30）…… 121
第101図　15次ＳＸ01・02実測図（１／30）…… 123
第102図　15次ＳＸ12実測図（１／60）…… 123

第103図　15次ＳＸ01・02・05・13出土遺物実測図
（582～584・589は１／２、他は１／３）… 124
第104図　15次耕作土・包含層出土遺物実測図（595・596は１／２、他は１／３）　…… 125
第105図　井戸を構成する諸要素１　…… 155
第106図　井戸を構成する諸要素２・井戸祭祀パターン　…… 156
第107図　７世紀中頃～８世紀代の金属器模倣須恵器（１／３）…… 169

表　目　次

表１～19　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表①～⑲ …… 126～144
表20　本堂遺跡４次調査出土遺物観察表 …… 145
表21～25　本堂遺跡６次調査出土遺物観察表①～⑤…… 145～149
表26・27　本堂遺跡15次調査出土遺物観察表①・②……149～150
表28～36　福岡県内弥生時代井戸集成①～⑨…… 157～165
表37～39　金属器模倣須恵器出土一覧表（窯跡・集落等①・②）　…… 170～172

巻頭図版目次

巻頭図版　　調査地周辺全景（平成15年５月撮影）

付　　図

本堂遺跡２・６次調査遺構全体図（１／300）

Ⅰ．はじめに

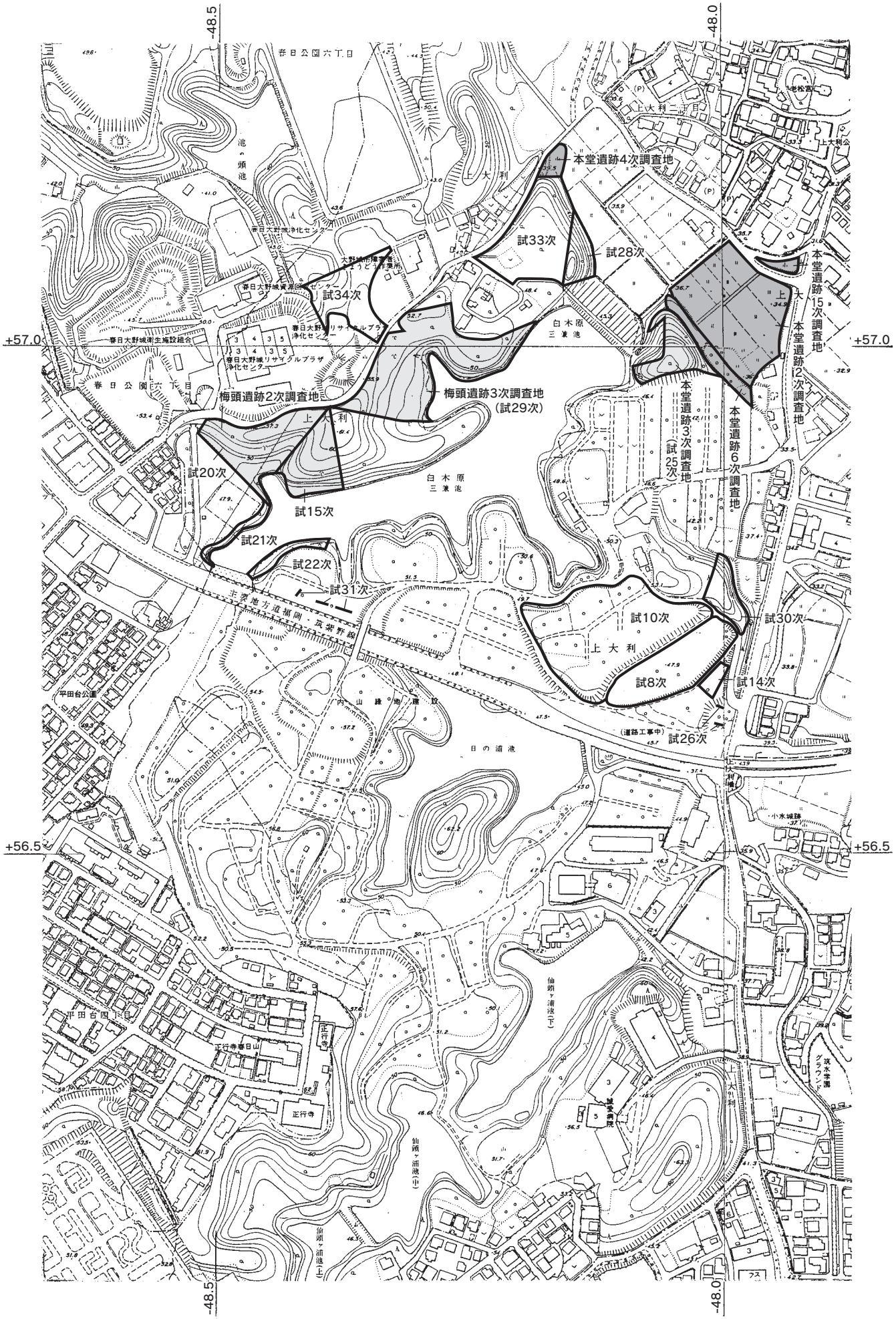
１．　平成14年度の調査経過

上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査経緯については『牛頸梅頭遺跡群Ⅰ』（大野城市文化財調査報告書第60集）に詳述しているため、以下では平成14年度の埋蔵文化財調査についてまとめておきたい。

平成14年度、上大利北土地区画事業地内における埋蔵文化財調査として、試掘調査を13ヶ所（８・10・14・20・21・22・25・26・28・29・30・31・33・34次）実施した。試掘調査の方法は、一部トレンチ調査により遺構の有無や削平状況を確認した場所もあるが、基本的には対象となった試掘調査地全体を重機により表土剥ぎを実施している。以下に、試掘調査の概要について記す。

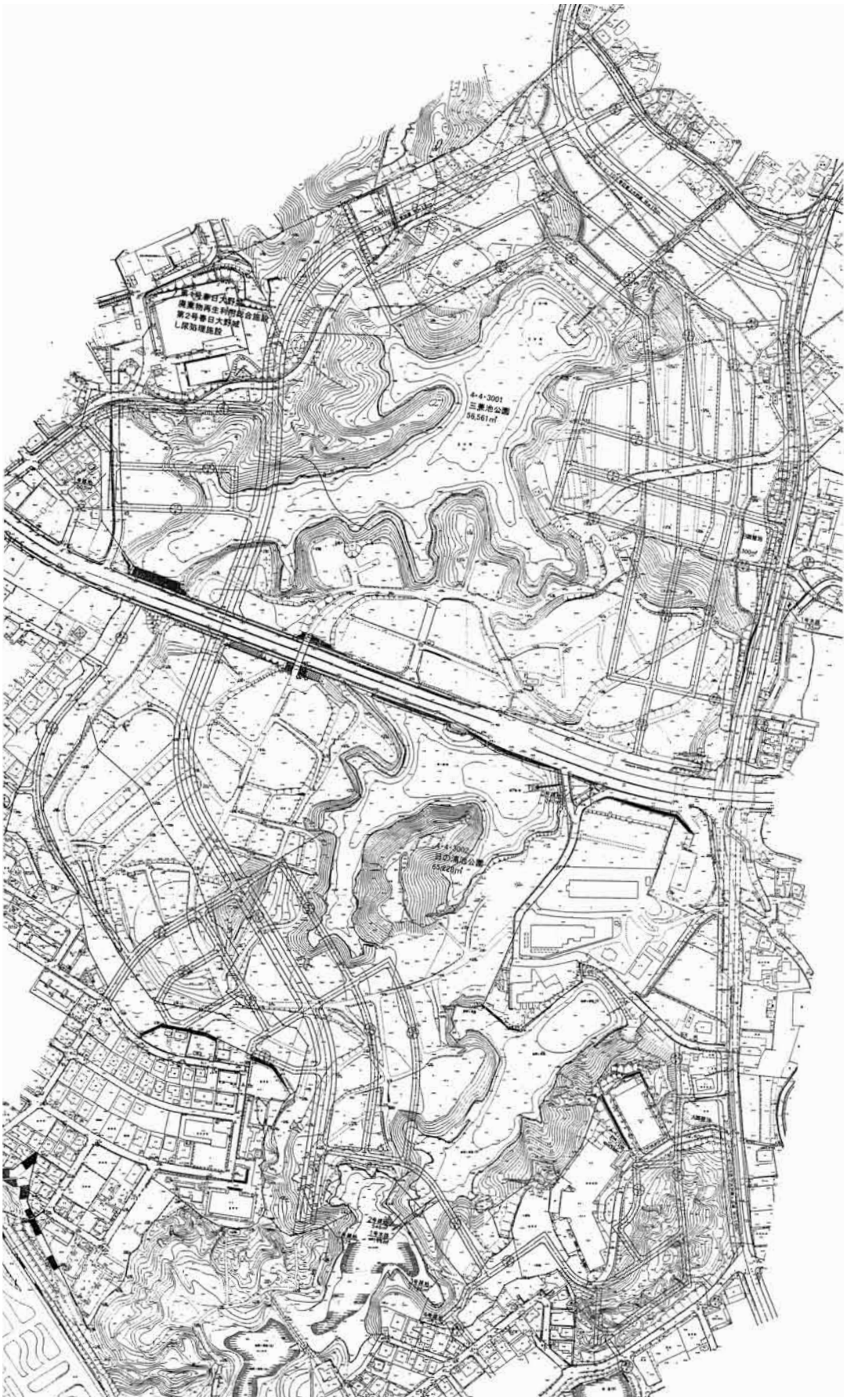
８・10・14次試掘調査は、平成13年度より引き続き実施したもので、窯跡９基・土坑などが確認された。20次試掘調査は、15次試掘調査地の西側斜面にあたり、竪穴住居跡・土坑が多数検出され、おびただしい遺物が出土した。21次試掘調査は、20次試掘調査地の南側に続く斜面であり、一連の調査として全体に表土剥ぎをおこない遺構の検出に努めたが、遺構・遺物ともにまったく出土しなかった。22次試掘調査は、21次試掘調査地と三兼池を挟んだ斜面にあたる。斜面部の表土剥ぎをおこなったが、県道31号線側で大きく道路側へ入り込む谷を検出したが、完掘できなかった。遺構・遺物は認められなかった。25次試掘調査は、三兼池北東側に接する三角錘状に残る斜面にあたり、窯跡１基が確認された。26次試掘調査地は、事業地南東隅にあたる。14次試掘調査地斜面下の平坦面にトレンチ数本を設定して掘り下げをおこなったが、砂質土とグライ化した粘質土が確認されたのみで遺構は検出されなかった。28次試掘調査は、三兼池北側の斜面にあたり、全体に表土剥ぎをおこなったが遺構は検出されなかった。29次試掘調査は、三兼池に面した斜面にあたり、窯跡２基や多数の土坑、甕棺墓などが確認された。30次試掘調査は、８次試掘調査地北側斜面にあたる。表土剥ぎ前に踏査をおこない若干の遺物を表採したが、この範囲では遺構は確認できなかった。31次試掘調査は、県道31号線に平行するような形でトレンチを設定した。結果、最も西側のトレンチ南端で谷への落ち込みが認められたが、谷は県道31号線下に続いており、さらなる深掘りは不可能であった。その他のトレンチは現地表下40cmでマサ土を検出し、遺構・遺物は確認できなかった。著しい削平を受けたものと考えられる。33次試掘調査は、28次試掘調査地西側にあたり、全体を表土剥ぎした結果、調査地中央部を南西から北東方向へむかう谷部を確認した。谷部は調査前、完全に埋没し荒地と化していたが、昭和23年の旧地形図上にも表されており、ここは昭和30年以降に産廃などの捨て場となっていたとのことであった。谷部内は可能な限り表土剥ぎをおこなったが、地盤が軟弱なため充分に表土剥ぎをできなかった場所もある。斜面部はすべて表土剥ぎをおこない、北側の一部で土坑・溝を確認した。34次試掘調査は、春日・大野城リサイクルプラザ東側にあたる。丘陵斜面の表土剥ぎをおこなったが、遺構は確認できなかった。以上のように、平成14年度実施した13ヵ所の試掘調査地のうち、８・10・14・20・25・29・33次調査において遺構が確認できた。

平成14年度の発掘調査は、本市は平成11年度の１次試掘調査地で確認された調査地のうち、事業地北側の田を本堂遺跡２次調査、15・20次試掘調査を梅頭遺跡２次調査、29次試掘調査を梅頭遺跡

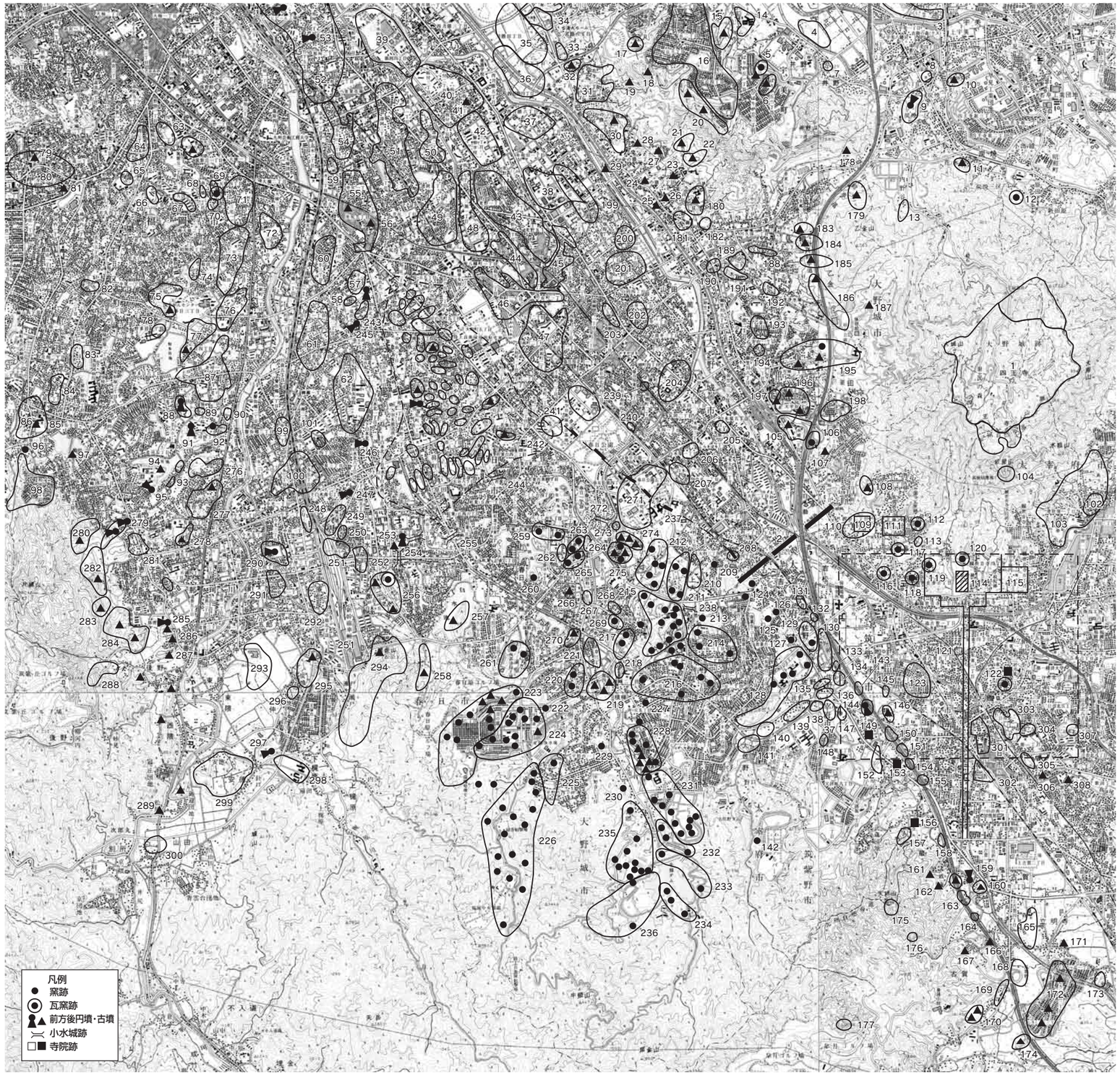


第1図　平成14年度上大利北土地区画整理地内調査地および2･4･6･15次調査地位置図（1／5,000）

第2図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948年米軍撮影）（1／5,000）



第3図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図



第４図　周辺遺跡分布図（1／50,000）

1. 大野城跡
2. 水城跡

宇美町

3. 神領・浦尻古墳群
4. 川原田・供田遺跡群
5. 岩長浦古墳群
6. 観音浦古墳群
7. ウソフキ古墳
8. 宇美中学校遺跡
9. 正籠古墳群
10. 湯沸古墳群
11. 花ノ木古墳群
12. 寺浦窯跡
13. 内野谷古墳群

志免町

14. 松ヶ上・松ヶ下遺跡
15. 松ノ尾古墳群
16. 桜ヶ丘古墳群

福岡市

17. 熊野古墳群
18. 七曲古墳群
19. 金剛山古墳群
20. 持田ヶ浦古墳群Ａ群
21. 持田ヶ浦古墳群Ｂ群
22. 持田ヶ浦古墳群Ｃ群
23. 持田ヶ浦古墳群Ｄ群
24. 持田ヶ浦古墳群Ｅ群
25. 持田ヶ浦古墳群Ｆ群
26. 今里不動古墳
27. 堤ヶ浦古墳群
28. 影ヶ浦古墳群
29. 丸山古墳
30. 金隈遺跡群
31. 立花寺遺跡群
32. 文殊谷古墳群
33. 上月隈Ｂ遺跡
34. 上月隈遺跡群
35. 下月隈Ｃ遺跡群
36. 立花寺Ｂ遺跡群
37. 井相田Ｄ遺跡群
38. 井相田Ｃ遺跡
39. 那珂君休遺跡群
40. 板付遺跡
41. 板付八幡古墳
42. 高畑遺跡
43. 麦野Ａ遺跡
44. 麦野Ｂ遺跡
45. 麦野Ｃ遺跡
46. 南八幡遺跡群
47. 雑餉隈遺跡群
48. 三筑遺跡
49. 笹原遺跡群
50. 諸岡Ｂ遺跡
51. 諸岡Ａ遺跡
52. 比恵・那珂遺跡群
53. 那珂八幡古墳
54. 五十川遺跡群
55. 井尻Ｂ遺跡
56. 井尻Ｂ－１号古墳
57. 寺島遺跡
58. 笠抜遺跡
59. 井尻Ａ遺跡
60. 横手遺跡群
61. 日佐遺跡群
62. 弥永原遺跡群
63. 野間Ａ・Ｂ遺跡
64. 中村町遺跡
65. 若久Ａ遺跡
66. 若久Ｂ遺跡
67. 大橋Ｂ遺跡
68. 大橋Ｃ遺跡
69. 大橋Ｄ遺跡・三宅瓦窯跡
70. 三宅Ａ遺跡・三宅廃寺
71. 大橋Ｅ遺跡
72. 三宅Ｃ遺跡
73. 三宅Ｂ遺跡
74. 和田Ａ遺跡群
75. 和田Ｂ遺跡群
76. 野多目Ａ遺跡
77. 野多目Ｂ遺跡・古墳群
78. 野多目浦ノ池遺跡
79. 穴観音古墳
80. 寺塚Ａ古墳群
81. 寺塚Ｂ古墳群
82. 屋形原遺跡
83. 花畑Ｃ遺跡群
84. 花畑Ｂ遺跡群
85. 花畑Ａ遺跡群
86. 三十田古墳
87. 野多目Ｃ遺跡群
88. 卯内尺古墳・古墳群
89. 老司Ａ遺跡
90. 老司Ｂ遺跡
91. 老司古墳
92. 老松神社古墳群
93. 老司池Ａ・Ｂ遺跡群
94. 中尾古墳
95. 浦ノ田古墳群
96. 中島窯跡
97. 箱池古墳
98. 四十塚・大牟田古墳群
99. 警弥郷Ａ遺跡
100. 警弥郷Ｂ遺跡
101. 弥永遺跡群

太宰府市

102. 浦城跡
103. 原遺跡
104. 岩屋城跡
105. 成屋形古墳群
106. 裏ノ田遺跡
107. 裏ノ田古墳
108. 陣の尾古墳群・遺跡群
109. 筑前国分尼寺跡
110. 国分松本遺跡
111. 筑前国分寺跡
112. 国分瓦窯跡
113. 御笠団印出土地
114. 太宰府政庁跡
115. 観世音寺
116. 松倉瓦窯跡
117. 坂本瓦窯跡
118. 来木古墳群・瓦窯跡
119. 来木北瓦窯跡
120. 都府楼北瓦窯跡
121. 榎寺
122. 般若寺・瓦窯跡
123. 市ノ上遺跡
124. 神ノ前窯跡群
125. 篠振遺跡・窯跡
126. 尊田窯跡
127. 長浦窯跡
128. 宮ノ本遺跡群・窯跡群
129. 日焼遺跡群・窯跡群
130. 前田遺跡
131. 原口遺跡
132. 久郎利遺跡
133. 上川久保遺跡
134. 鏡川遺跡
135. フケ遺跡
136. 尾崎遺跡
137. 脇道遺跡
138. 殿城戸遺跡
139. 京ノ尾遺跡
140. カヤノ遺跡
141. 長ヶ坪遺跡
142. 野口窯跡

筑紫野市

143. 井ノ尻遺跡・古墳
144. 剣塚遺跡・古墳群・瓦窯跡
145. 杉塚大坪遺跡
146. 埴安神社古墳
147. 和久堂城跡
148. 杉塚山の谷遺跡
149. 杉塚廃寺
150. 唐人塚遺跡・古墳群
151. 前田遺跡
152. 脇田遺跡
153. 塔原廃寺
154. 塔原遺跡
155. 樋田山遺跡
156. 武蔵寺跡
157. 武蔵寺経塚群
158. 道場山遺跡
159. 原口古墳・古墳群
160. 鷺田山遺跡・古墳群
161. 八限裏山古墳
162. 八限古墳群
163. 畑添遺跡
164. 山の口遺跡
165. 立明寺地区遺跡
166. 扇祇古墳群
167. 江永浦古墳
168. 貝元遺跡
169. トドキ遺跡
170. 古賀古墳群
171. 厳島神社古墳
172. 上の山古墳群
173. 大牟田西遺跡
174. 萩原古墳群
175. 天判山城
176. 飯盛城跡
177. 博多見城跡
301. 二日市宿跡
302. 堀池遺跡
303. 峯畑遺跡
304. 修理田遺跡
305. 通り浦遺跡
307. 五穀神古墳
308. カケ塚古墳

大野城市

178. 唐山古墳群
179. 乙金北古墳群
180. 御陵古墳群
181. 塚口遺跡
182. 御陵前の椽遺跡
183. 善一田古墳群
184. 王城山古墳群
185. 古野古墳群
186. 原口古墳群
187. 此岡古墳群
188. 松葉園遺跡
189. 森園遺跡
190. ヒケシマ遺跡
191. 中・寺尾遺跡
192. 薬師の森遺跡
193. 銀山遺跡
194. 原門遺跡
195. 雉子ヶ尾遺跡・窯跡
196. 釜蓋原古墳群
197. 金山遺跡
198. 釜蓋原遺跡
199. 仲島遺跡
200. 川原遺跡
201. 御笠の森遺跡
202. 村下遺跡
203. 雑餉隈遺跡
204. 石勺遺跡
205. 原ノ畑遺跡
206. 後原遺跡
207. 御供田遺跡
208. 谷川遺跡
209. 出口窯跡・遺跡
210. 上園遺跡
211. 本堂遺跡群
212. 梅頭遺跡群
213. 谷蟹窯跡
214. 大浦窯跡群
215. 野添遺跡群
216. 平田窯跡群
217. 華無尾遺跡群
218. 屏風田遺跡
219. 塚原遺跡群
220. 畑ヶ坂遺跡群
221. 日ノ浦遺跡群
222. 月ノ浦１号窯跡
223. 後田遺跡群
224. 小田浦遺跡群
225. 大谷窯跡群
226. 石坂窯跡群
227. 東浦窯跡
228. 中通遺跡群・古墳群
229. 城ノ山窯跡群
230. 原窯跡
231. ハセムシ窯跡群
232. 道ノ下窯跡群
233. 長者原窯跡群
234. 笹原窯跡群
235. 井手窯跡群
236. 足洗川窯跡群
237. 池田・池の上遺跡
238. 上大利水上跡

春日市

239. 駿河遺跡
240. 原ノ口遺跡
241. 立石遺跡
242. 須玖・岡本遺跡群
243. 御陵遺跡群・古墳
244. 小倉水城跡
245. 野藤１号墳
246. 下白水大塚古墳
247. 日拝塚古墳
248. 柏田遺跡
249. 辻田遺跡
250. 上白水西遺跡
251. 門田遺跡
252. 天神の木遺跡
253. 天神山古墳
254. 天神山水城跡
255. 大土居水城跡
256. ウトグチ遺跡群
257. 白水池古墳群
258. 西浦古墳群
259. 惣利窯跡群
260. 大牟田窯跡
261. 浦ノ原窯跡群
262. 惣利西遺跡
263. 惣利遺跡
264. 惣利北遺跡
265. 惣利東遺跡
266. 惣利古墳
267. 円入遺跡
268. 春日平田遺跡群
269. 春日平田西遺跡
270. 塚原古墳群
271. 九州大学筑紫キャンパス遺跡群
272. 春日水城跡
273. 向谷北遺跡
274. 向谷古墳群
275. 春日平田北遺跡

那珂川町

276. 野口遺跡群
277. 観音堂遺跡群
278. 井河古墳群
279. 小丸古墳群
280. 浦ノ原古墳群
281. 井河遺跡群
282. 丸ノ口古墳群
283. 白石古墳群
284. 荒平池古墳群
285. 妙法寺古墳
286. 油田古墳群
287. 大万寺前古墳
288. 国太子古墳群
289. 松尾古墳群
290. 今光宗石遺跡群・貝徳寺古墳
291. 松ノ木遺跡群
292. 中原・塔ノ元遺跡群
293. 仲遺跡群
294. 観音山古墳群・深原遺跡
295. エゲ古墳・カクチガ浦古墳群
296. 炭焼古墳群
297. 安徳大塚古墳
298. 平蔵遺跡群
299. 安徳台遺跡群
300. 山田西遺跡群

３次調査として実施した。しかし、大規模な遺跡が次々と確認されたため、区画整理課・北土地区画整理組合と協議をおこない、工事の進行に合わせて発掘調査を順次実施していったにもかかわらず、工程的に無理を生じていたため、25次試掘調査を本堂遺跡３次調査として大阪大谷大学（当時大谷女子大学）中村浩教授に調査を依頼した（註１）。本市ならびに大学の調査期間・面積等については下の表のとおりである。

	遺跡名	試掘調査次数	試掘調査期間	発掘調査期間	調査面積（㎡）	担当
平成14年度発掘調査	本堂遺跡２次調査	１次	平成11年12月６日～12月22日	平成14年４月８日～平成15年７月７日	10,904	島田 石木
	本堂遺跡３次調査	25次	平成15年１月24日～２月19日	平成15年３月３日～３月20日	2,000	中村
	梅頭遺跡２次調査	15・20次	平成14年３月６日～６月３日	平成14年６月３日～平成15年２月28日	9,000	岸見
	梅頭遺跡３次調査	29次	平成14年11月９日～12月16日	平成15年１月８日～５月13日	13,000	石木 島田

なお、平成14年度に発掘調査を実施できなかった８・10・14次試掘調査は本堂遺跡５次調査（註２）、33次試掘調査の一部は本堂遺跡４次調査として平成15年度に調査を実施した。

２．調査体制

平成14～19年度における発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。なお、整理作業は平成19年度に完了した。

[大野城市教育委員会]

教育長　堀内貞夫（～15年６月）　古賀宮太（15年６月～）

教育部長　鬼塚春光（14年３月～17年３月）　小嶋　健（17年４月～）

社会教育課長　秋吉正一（14年４月～17年３月）　水野邦夫（17年４月～18年３月）

ふるさと文化財課長　舟山良一（18年４月～）

文化財担当係長　舟山良一（～18年３月）　中山　宏（18年４月～）

主　査　徳本洋一　石木秀啓　緒方一幹（16年４月～18年３月）　丸尾博恵

主任主事　大道和貴（～16年３月）

主任技師　林　潤也　早瀬　賢（16年４月～）

技　師　上田龍児（19年４月～）

嘱　託　平島義孝（～16年３月）　上田　恵（14年４月～15年４月）　島田　拓（14年４月～15年６月）　岸見泰宏（14年４月～16年３月）　一瀬　智（15年11月～17年７月）　西堂将夫（15年４月～18年３月）　井上愛子（16年４月～）　北川貴洋（16年４月～19年３月）　城門義廣（18年４月～19年８月）

岡田裕之（18年５月～19年３月）　田尻義了（19年４月～６月）　遠藤　茜（19年４月～）　石川　健（19年７月～）　大里弥生（19年10月～）
粟津剛史（16年４月～18年６月）　能塚由紀（18年８月～）

整理作業員　松岡信子　町井裕子　鬼塚穂子　白井典子　村山律子　井上理香　渡部美香　城真奈美　橋本悦子　渡辺直美　仲村美幸

発掘作業員

原田敬子　大海雅子　高木幸子　満富スエコ　吉嗣波津子　岩切ふえ　前田チエ子　西田幸子　那波幸子　高木冴子　藤田和子　三原ひろみ　吉田香織　岡本妙子　馬場孝子　田中照子　寺垣みゆき　中垣　親　松山洋子　日野律子　小林敏子　坂本泰子　渡辺久美子　小林久美子　西村清子　貞包由起子　広渡隆子　穴井和子　立石律子　船越桃子　樋之口浩一　深野人美　大薗英美　仲前冨美子　井口るみ子　倉富倫子　釣屋種利　飯田三治　溝口　忍　金澤好子　田浦秀子　小川ケイ子　三善公子　山下隆子　團野ハマ子　篠崎繁美　東島真弓　安里由利子　中山文子　牧野和美　川村真樹子　村岡真由美　槙坂陽子　原口美奈子　山口文代　大島五津子　大浦旗江　清成健悟　高木由佳　木村奈津子　織田　徹　松田和美　戸渡京子　野崎美智子　倉住孝枝　稲富久子　山田賢治　松尾純子　末永　勝　安達はるみ　西本福雄　田中悦子　田野和代　吉村秀子　宮原ゆかり　尾ノ口英晴　碓井ふき子　木室友希　川岸昌子

[上大利北土地区画整理組合]

理事長	伊　藤　雅　都	
副理事長	樋　口　敬　記	
	林　　尚　司	
事務局長	平　川　松　丸	
技術職	吉　次　俊　二	（～19年３月）
	林　　圭　一	（～18年３月）
	山　下　　健	（16年４月～）
	濱　本　泰　司	（18年４月～）
事務職	伊　藤　衆　子	

註１　報告書既刊。中村浩2003『牛頸本堂遺跡群Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第61集

註２　報告書既刊。中村浩2004『牛頸本堂遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第64集
中村浩・石木秀啓2005『牛頸本堂遺跡群Ⅲ』大野城市文化財調査報告書第68集

（石木）

Ⅱ．調査の結果

１．第２次調査

Ａ．調査概要（第５図）

第２次調査地は、事業地北側の田畑にあたる。大野城市大字上大利637番地ほかにあたり、調査面積は10,904㎡である。調査区は、古くから田畑として利用されていたようであり、明治期の地図においても、当地の利用状況が確認できる。ただし、調査前のような状態になったのは、地元の人の話によれば昭和初期におこなわれた耕地整理以降のことのようである。表土剥ぎをおこなうと、細い溝を掘り、中に直径10cm弱、長さ50cmあまりの素焼きの円筒土管を一列に並べた排水処理施設が田畑の区割に沿う形でのびていた。これが調査区全体に認められ、昭和初期の耕地整理に伴うものと考えられる。これらのことから、本来調査区は北東側にのびる低丘陵であったようであるが、こうした耕地整理や耕作により相当の削平を受けたものと考えられ、遺構の残存状況は極めて悪いことが調査後判明したが、調査前はその状況が分からず、手探り状態で開始した。

第5図　平成11年試掘調査地区配置図（1／5,000）

試掘調査は平成11年12月６日から22日の間におこなった。当時区画整理組合は設立前であったが、７月16日から23日の間におこなった上大利北・南土地区画整理事業地の踏査により事業地内から遺物の出土があるものの、徹底した耕地化により旧地形を完全に失っており、どのくらい遺跡が存在するか全く不明であったため、区画整理課との協議により、着手可能な部分については先行して試掘調査を実施した。なお予算は国庫補助事業として実施した。

試掘調査は対象地をＡ～Ｄ地区に分け、耕作中のものを除き各田畑にトレンチを２本以上設定し、遺構の検出と遺物の採集に努めた。その結果、Ａ・Ｂ地区に関しては黒曜石や須恵器など若干の遺物の出土があったもののいずれも小片であり、また遺構は確認されなかった。一方、Ｃ・Ｄ地区では溝やピットなどの遺構を検出することができた。Ｃ・Ｄ地区の遺構検出面はAso－４火砕流堆積物に由来するローム層であり、調査時には西南学院大学磯望教授に現地で指導を頂いた。Ａ・Ｂ地区に関しては安定したローム層を確認できず、灰白色粘質土を検出したことから、湿地状の様相を呈していた可能性があり、遺跡立地の違いを表すものと考えられる。

このようにＣ・Ｄの２地区で遺跡の存在が確認されたが、調査の都合上、平成13年度にＤ地区を本堂遺跡１次調査として発掘調査を実施し、Ｃ地区の調査は平成14年３月28日から表土剥ぎを開

始した。４月８日には作業員・発掘機材を投入し本格的な調査に入ったが、対象地の表土を一気に除去したため排土の搬出に手間取ったことや、平行して上大利北・南土地区画整理事業地内で野添遺跡４次調査（註１）・梅頭遺跡２次調査を実施し、市内でも他の調査を実施しており作業員の確保が困難であったことなどから調査は遅々として進まなかった。また９月からは工事の工程上梅頭遺跡２次調査を優先して進めることとなり、作業員をすべて投入したため、本堂遺跡２次調査地は一旦シート張りの後に調査を中断し、本格的に再開することができたのは平成15年３月末からであった。以上のことから、調査完了は大幅に遅れ、平成15年７月７日にようやく終了することができた。

休止期間中にはシート張りにより遺構の養生を施していたものの、風雨による遺構の損壊は著しく、大部分の遺構は壁面や上端・下端などが大なり小なり崩壊を蒙ってしまった。また、未実測のまま崩壊した土層ベルトもあり、調査の精度を著しく損ねる結果となってしまった。当時は止むを得ないと考えた措置であったが、今ふりかえってみると調査体制に重大な欠陥があったと言わざるをえない。

調査の結果、掘立柱建物５棟・竪穴住居跡９軒・溝８条・井戸５基・土坑やピットは多数確認された。遺構の残存状況は非常に悪く、竪穴住居跡などは検出面から住居床面まで数cmというものが全んどで、10cm程度残っていればいい方であった。また調査区内のピットの配置を見ると、円周状・方形状に巡るピット群があり、あるいは周壁を完全に削平されて失い、柱穴のみ残存した竪穴住居跡が存在する可能性があるが、それらのピット群の周辺に炉・カマドなどの住居内施設は確認できなかったことから、遺構として認定することはしなかった。ただし、竪穴住居跡等失われた遺構は相当あり、本来の住居の数はもっと多かったことは間違いないであろう。また、調査の最終段階では旧石器時代の文化層・遺物を確認する目的で遺構検出面（Aso-４火砕流堆積物）をさらに掘り下げたが、遺物の出土はなかった。後述のとおり、調査区内ではナイフ形石器や細石刃などの後期旧石器時代に属する遺物が出土しているが、これらの文化層も、耕作により失われたと考えられる。

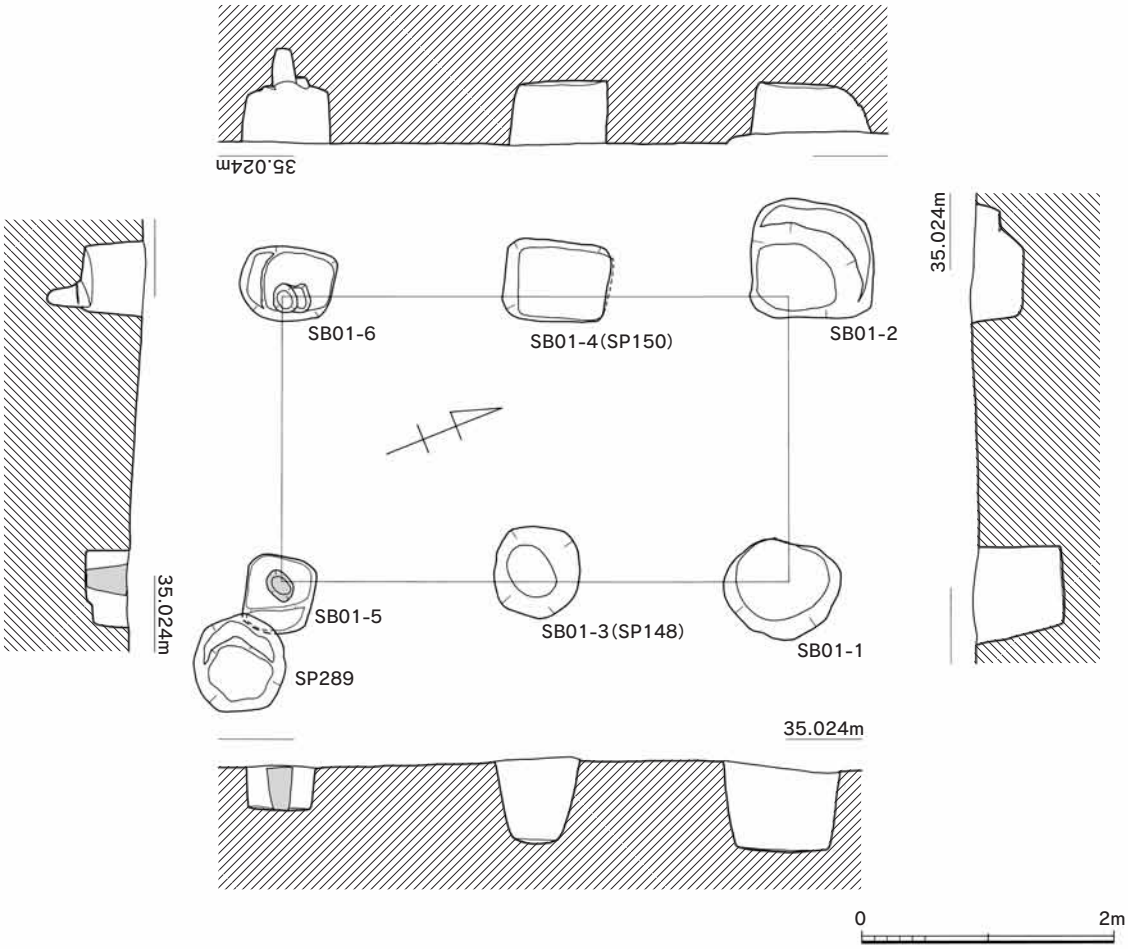
遺物は須恵器・土師器・弥生土器・白磁・青磁・鉄器などの他に、ナイフ形石器や細石刃が出土しており大野城市内では古い石器を出土する遺跡となった。遺構は数多く検出されたが、時期の判明するものは少ない。弥生時代中期には井戸と竪穴住居が営まれ、井戸内からはたくさんの遺物の出土があったが、集落規模としては小規模である。竪穴住居跡は、弥生時代中期１軒と古墳時代後期のもの１軒を除くと奈良時代のものが３軒と最も多い。隣接する本堂遺跡６次調査地でも奈良時代の竪穴住居跡や遺物の出土が多く、九州最大の須恵器窯跡群として最も操業が盛んになる時期の牛頸窯跡群の操業集団を支える集落として機能したと考えられる。中世後期には調査区南辺に大きく直線的な溝が営まれるが、建物などを囲んだり土地の区画などの意義は考えがたい。　　（石木）

Ｂ．遺構と遺物

（１）掘立柱建物

ＳＢ01（第６図・図版１）

調査区の南東側で確認された。ＳＤ01に隣接し、１×２間の規模を有する。桁行4.00ｍ、梁行

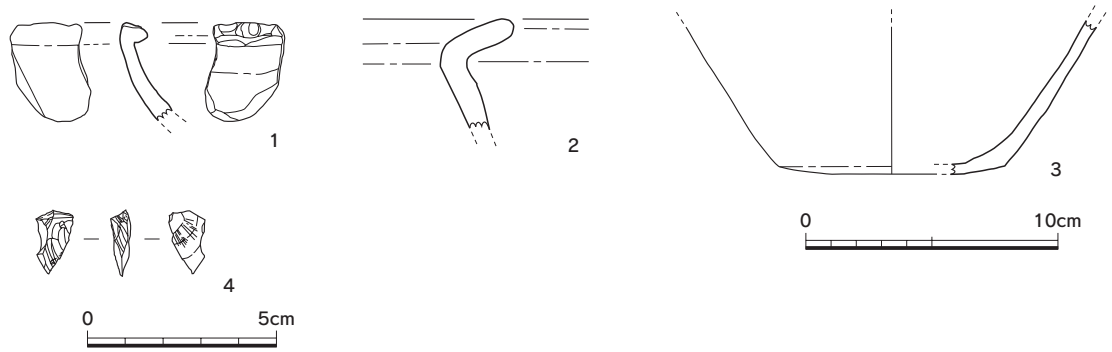


第6図　２次ＳＢ01実測図（1／60）

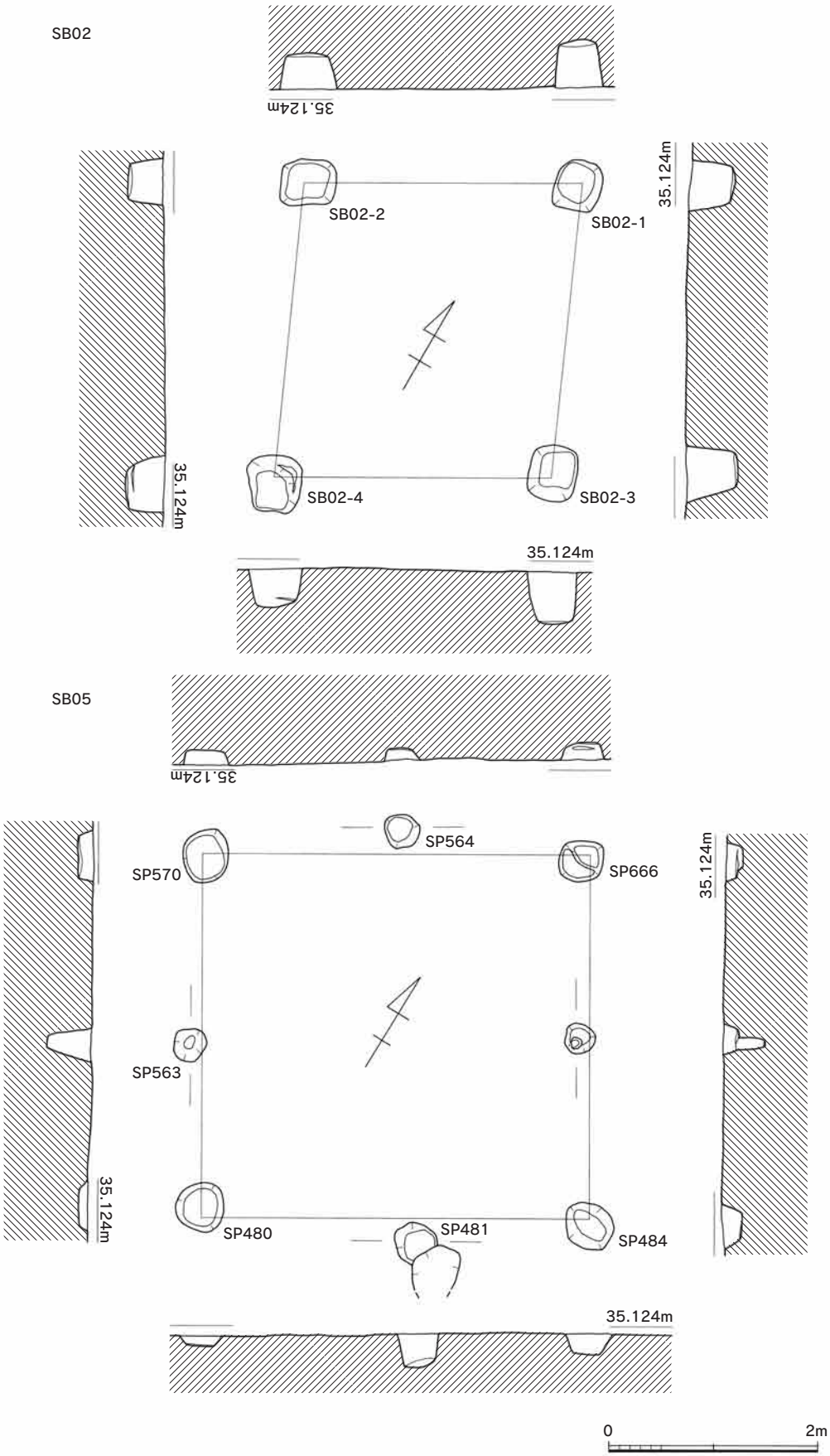
2.25m。建物は、北西隅の柱（ＳＢ01-2）がＳＣ04を切ることが土層断面から観察され、南東隅の柱（ＳＢ01-5）は隣接するＳＢ03の柱（ＳＰ289）により切られる。このことからＳＣ04→ＳＢ01→ＳＢ03の順序が考えられる。ＳＢ01-5では柱痕が確認され、径15～25cm。柱の掘方は、方形のものと、略円形のものとがある。各柱穴からは突帯文土器・弥生土器などが出土したが、いずれも小片である。（石木）

出土遺物（第７図）

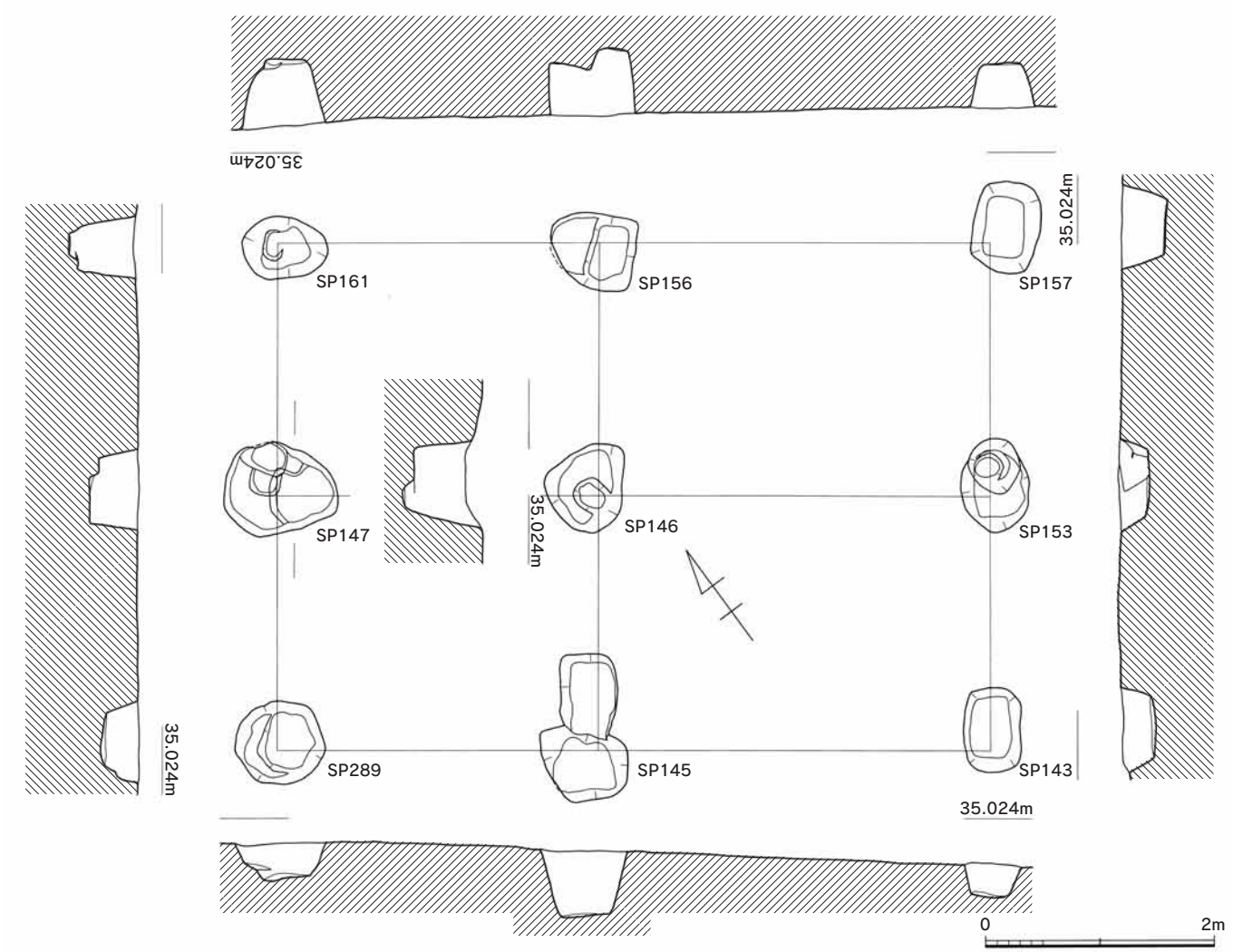
突帯文土器（１）　甕もしくは深鉢か。突帯は口縁端部に貼り付けられ、刻目の幅は大きい。小片のため縄文時代の所産か、弥生時代の所産か判別できない。



第7図　2次ＳＢ01出土遺物実測図（4は1／2、他は1／3）



第8図　２次ＳＢ02・05実測図（1／60）



第9図　２次ＳＢ03実測図（1／60）

弥生土器（２・３）　いずれも甕である。２の口縁部は屈曲するが、内面の稜は緩やかである。頸部外面にススが付着している。３は底部を欠損し、詳細は不明であるが、薄く、丸底気味になるようである。

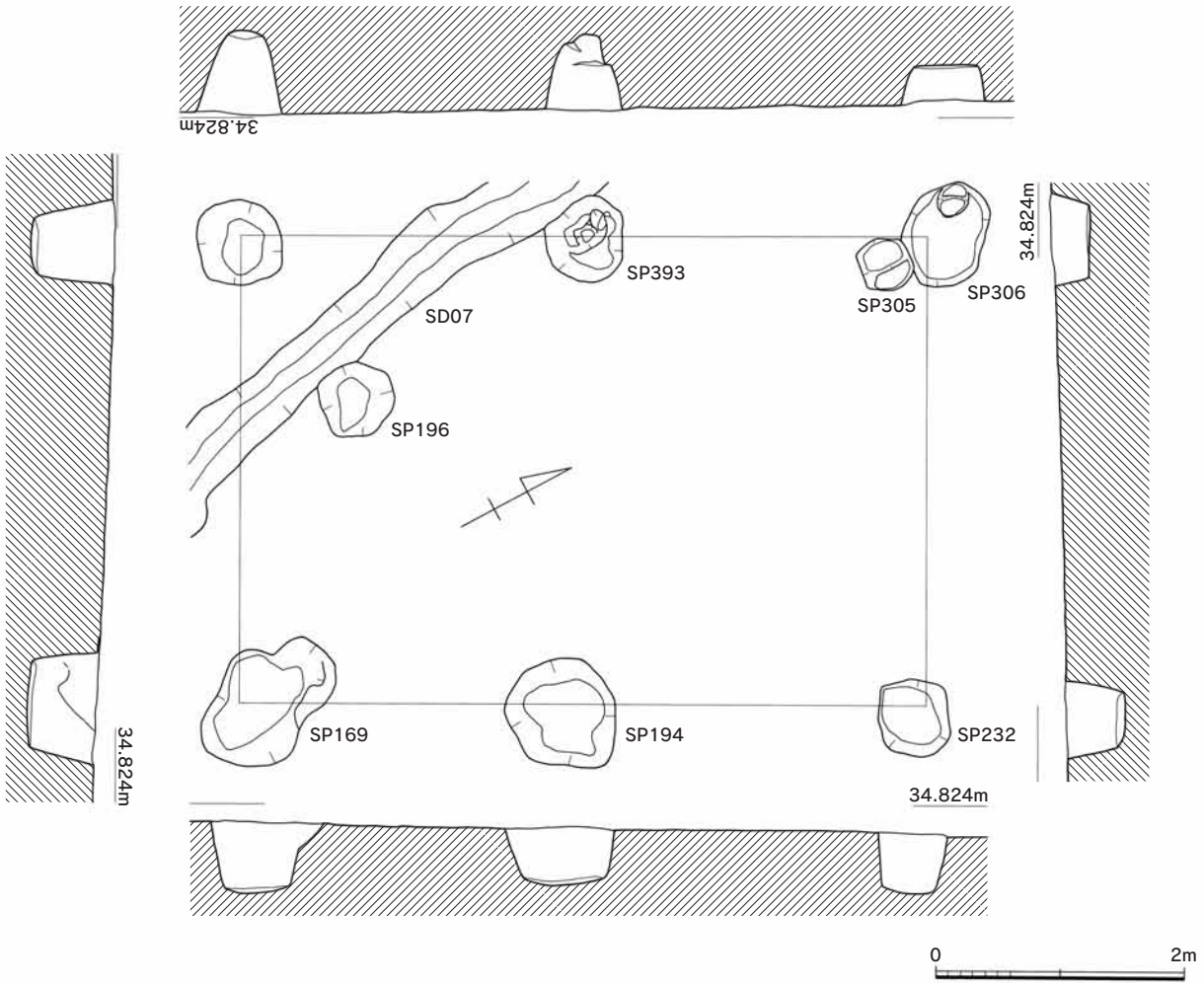
石器（４）　腰岳産黒曜石製の剥片である。（井上）

ＳＢ02（第８図・付図）

調査区のほぼ中央付近で確認された。ＳＤ11に平行し、１×１間の規模を有する。桁行2.82m、梁行2.64m。柱筋はひし形にゆがみ、柱間もやや広いことから竪穴住居跡の主柱穴の可能性もあるが、ここでは一応掘立柱建物としておく。各柱穴からは弥生土器・黒曜石チップなどが出土したが、小片のため詳細は不明である。（石木）

ＳＢ03（第９図・図版１）

ＳＢ01の東側に隣接する、２×２間の総柱建物である。桁行6.22m、梁行4.40mであるが、西側・中央の柱列が柱間2.80mに対し、中央・東側の柱間3.44mとやや広くなる。柱列はそろっているが、ややいびつな感を受ける。ＳＢ01と切りあっており（ＳＰ289）、ＳＢ01→ＳＢ03の順序が考えられる。柱穴の掘方は、円形を呈するものと、方形を呈するものがある。各柱穴からは弥生土器が



第10図　２次ＳＢ04実測図（1／60）

出土しており、器種の分かるものとしては弥生土器（袋状口縁壺）があるが、小片のため図化できなかった。（石木）

ＳＢ04（第10図・図版１）

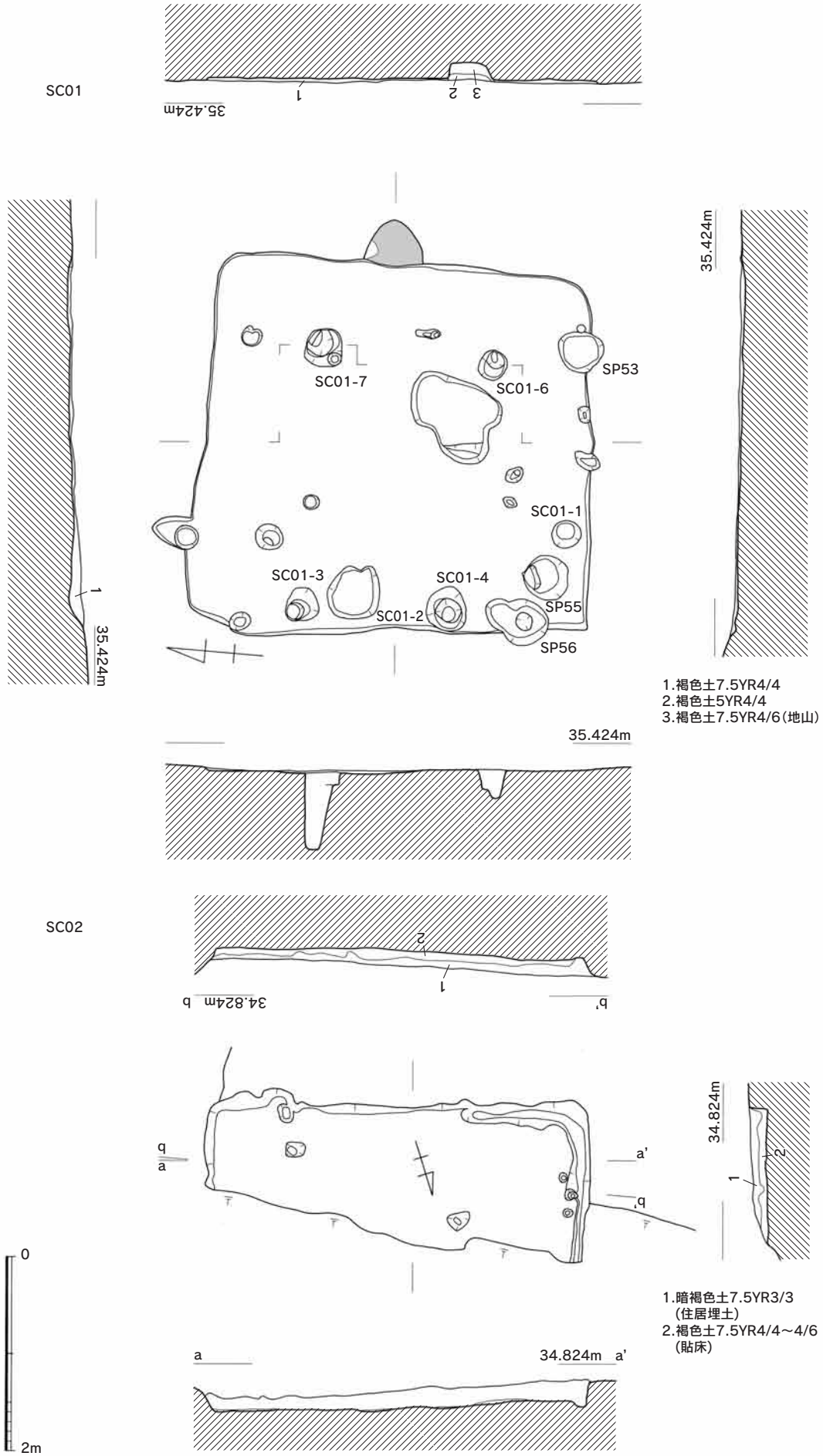
調査区東側中央部に位置する。１×２間の規模を有する。桁行5.50m、梁行3.74m。ＳＰ393はＳＤ07により切られている。ＳＰ306からは古墳時代初頭の土師器高杯が出土したが、その他時期の判明するものはなかった。（石木）

ＳＢ05（第８図・付図）

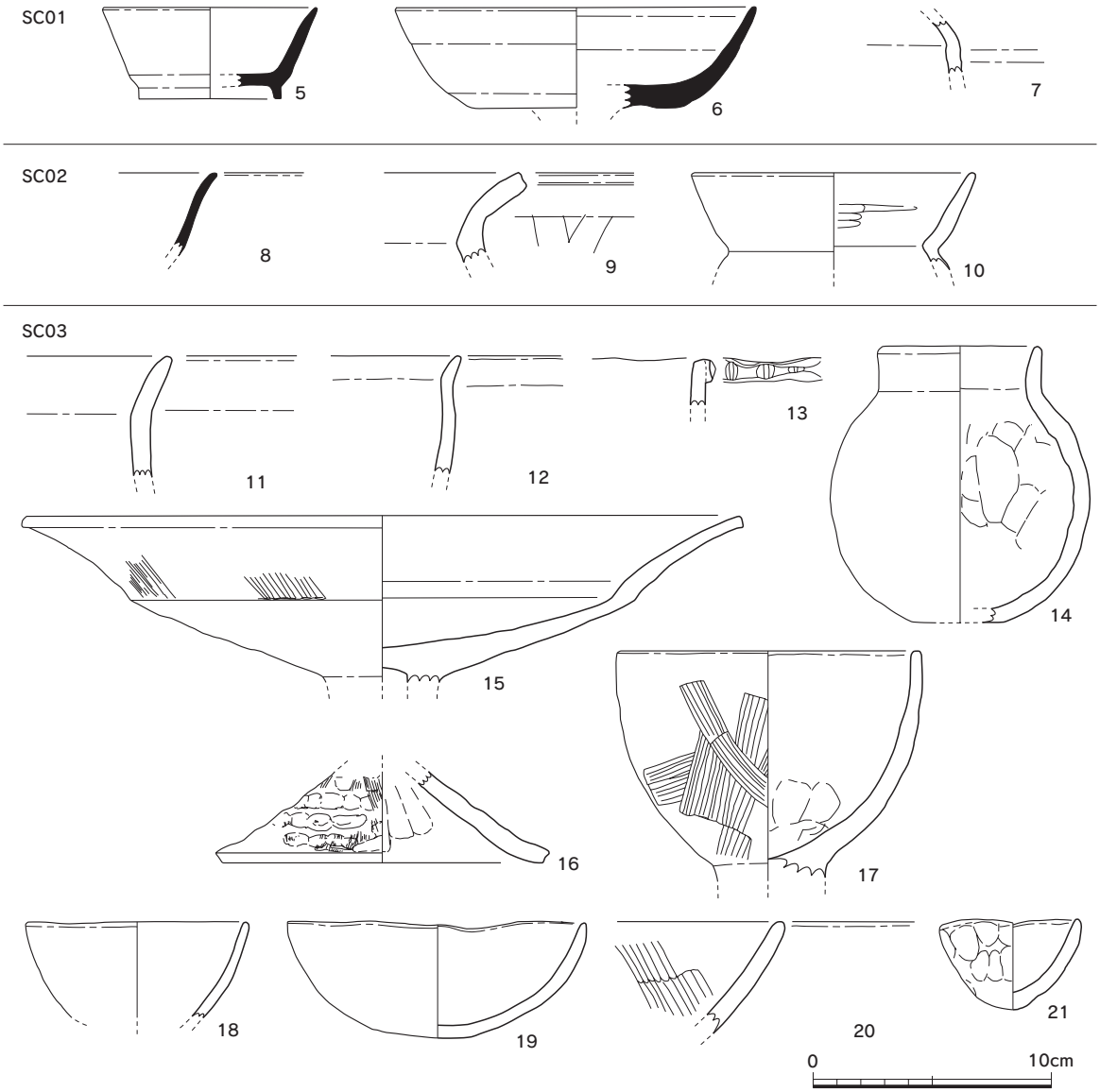
調査区のほぼ中央、ＳＢ02の西側に位置している。ＳＢ02とは建物主軸をほぼ揃える。２×２間の規模を有する。桁行3.70m、梁行3.47m。柱列の中央の柱穴は柱筋を外れ、四隅の柱が径0.45mの円形プランを呈するのに対し、径0.25～0.40mとやや小さい。各柱穴からは弥生土器などが出土しているが、小片のため詳細は不明である。（石木）

（２）竪穴住居跡

ＳＣ01（第11図・図版２）



第11図　２次ＳＣ01・02実測図（1／60）



第12図　2次ＳＣ01～03出土遺物実測図（1／3）

調査区の南側に位置し、隅丸方形プランを呈する。遺構検出時、カマドと考えられる焼土面が確認できたことから竪穴住居跡と判断した。東西3.68m、南北4.00m。主軸はほぼ東西方向にとる。埋土は褐色土で、検出面からの深さは最大でも13cmと非常に浅い。壁溝・貼床は認められなかった。主柱穴はＳＣ01-６・７と考えられる。

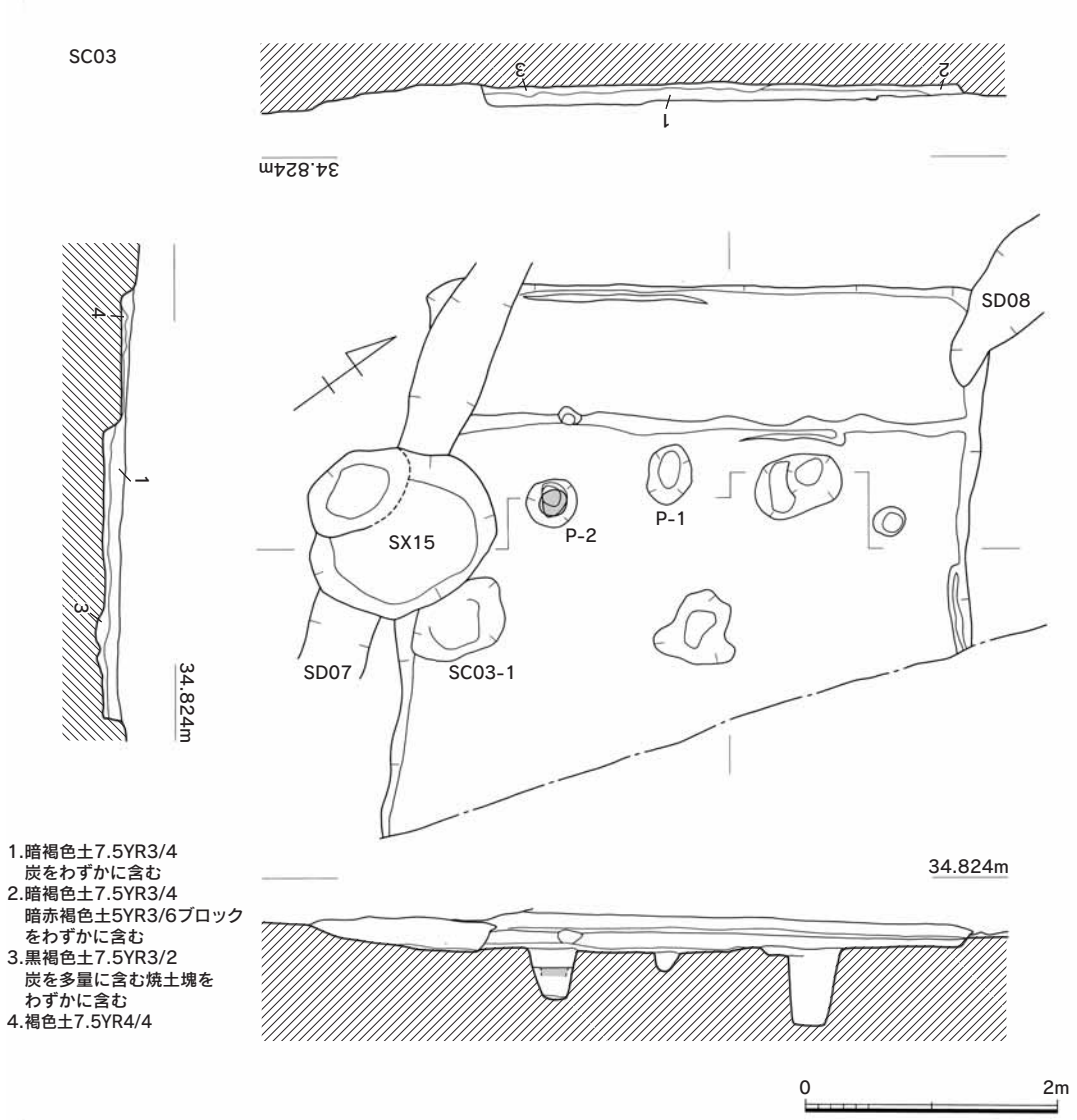
カマドは東壁のほぼ中央に位置するが、半円形の焼土面が住居外に確認されたのみで、袖などは全く確認できなかった。ただし、削平が著しいため、本来のカマドの形状は全んど失われていると考えられる。出土遺物は、須恵器・土師器などがあるが、いずれも小片である。　（石木）

出土遺物（第12図）

須恵器（５・６）　５は杯Ｂ身で高台は底部端に貼り付けられる。６は高杯。杯部体部外面と底部外面の境は丸みを持つ。

陶器（７）　住居跡を切るピットから出土。陶器壺肩部で外面にごく薄く施釉される。　（井上）

ＳＣ02（第11図・図版３）



第13図　２次ＳＣ03実測図（1／60）

ＳＣ01の10m北東側に位置し、ＳＤ01に切られ北側半分を失う。残存する南壁は長さ3.87mで、ＳＣ01とほぼ同じ規模と考えられる。埋土は暗褐色土で、土層断面図より褐色土の貼床を有していたようであるが、不手際により掘方まで下げており、掲載した平面図は完掘状況である。床面はほぼ水平だったようであり、平面図上では南・西壁側に深さ10cm程度の壁溝が認められる。主柱穴は確認できなかった。出土遺物は須恵器・土師器などがあり、いずれも小片となっているが、須恵器杯Ｂ身が含まれ、平面プラン・規模ともにＳＣ01に似ることから、ほぼ同じ時期の住居跡と考えられる。（石木）

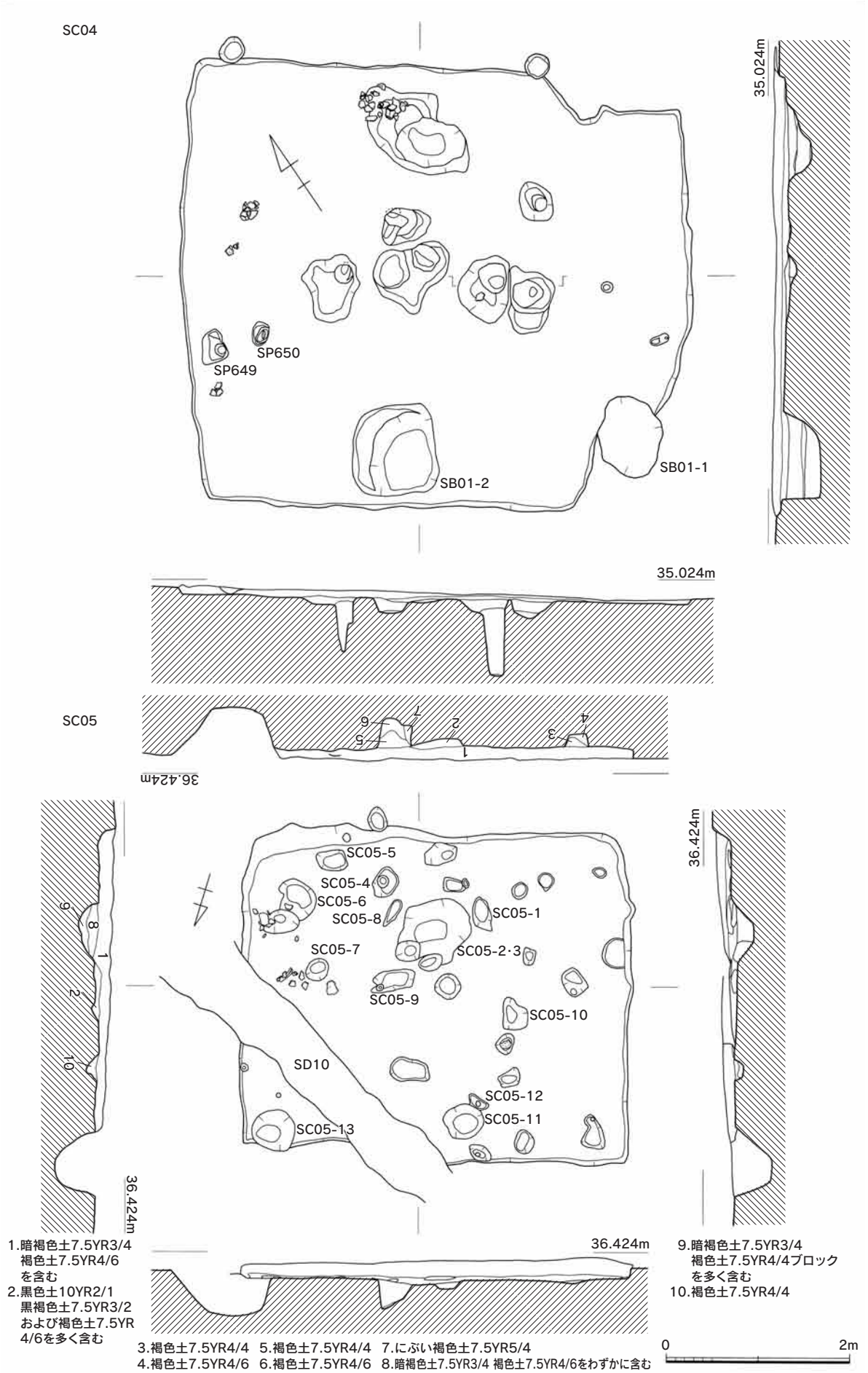
出土遺物（第12図）

須恵器（８）　杯もしくは杯Ｂ身の口縁片である。

弥生土器（９）　甕口縁片である。口縁端部は角張り、頸部内面の屈曲は強い。

土師器（10）　小型丸底壺である。器表が摩滅しており、ヘラミガキは頸部内面にわずかにみられる。（井上）

ＳＣ03（第13図・図版４）



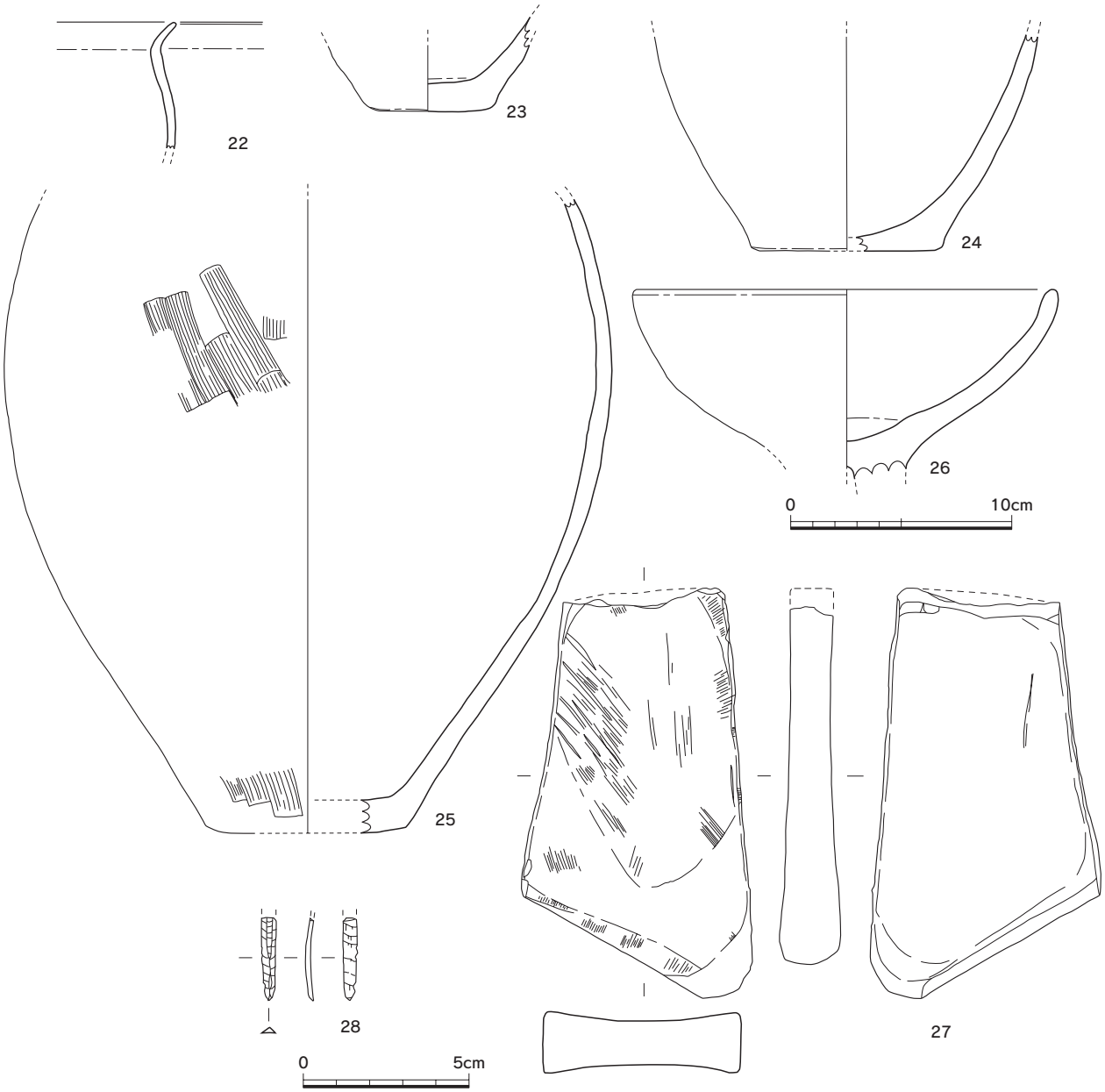
第14図　２次ＳＣ04・05実測図（1／60）

ＳＢ03の東側に隣接し、住居の東側は調査区外へのびる。西壁4.40ｍ、南壁残存長4.40ｍとほぼ正方形に近いプランになると考えられる。住居の南東隅はＳＤ07、南壁はＳＸ15に切られており、北西隅はＳＤ08を切っている。埋土は暗褐色土～褐色土で、下層には炭が多く含まれている。西壁には、幅約１ｍのベッド状遺構がつく。床面からの高さは10～17cmである。北壁・西壁の一部には、壁溝が認められるが、わずか３cm程度と極めて浅い。主柱穴はＰ-１と他１本が確認できるが、その他は不明である。Ｐ-１には径20cmの柱痕が確認された。出土遺物は、１点須恵器杯Ｂ蓋小片が出土し、その他は土師器・弥生土器などである。（石木）

出土遺物（第12図・図版51）

弥生土器（11・12）　甕、もしくは鉢で、いずれも口縁部の屈曲は弱い。

突帯文土器（13）　深鉢、もしくは甕か。口縁端部は波打ち、突帯の断面形は丸みを帯びた三角形



第15図　2次ＳＣ04出土遺物実測図（27・28は1／2、他は1／3）

で、刻目の幅は大きい。小片のため縄文時代の所産か、弥生時代の所産か判別できない。

土師器（14～21）　14は直口壺。体部は丸く、最大径は中位にあり、平底である。体部外面は縦位のヘラケズリ、内面は指頭圧痕が顕著で粘土紐の接合痕もみられる。15は高杯。体部外面の屈曲は緩やかである。16は高杯脚部か。器壁は全体的に厚く、脚裾端部は角張る。17は台付椀。素口縁の上端部は平坦気味である。脚部を欠損している。18～20は椀。18の胎土は精良で、20は器壁が厚い。21は手づくねによる椀で、尖底である。（井上）

ＳＣ04（第14図・図版５）

ＳＢ01・03の北側に隣接し、ＳＢ01の北側の柱（ＳＢ01-１・４）が埋土を切っている。東西5.57m、南北4.78mの長方形に近いプランをとり、住居の北東・南東コーナーが不整となる。埋土を見ると、褐色土で構成されるが、東側へ行くにしたがい浅くなっており、このことから北東・南東コーナー部が失われたと考えられる。主柱穴は住居中央部の土坑両側の２本かとも考えられるが、確認することはできなかった。出土遺物は、弥生土器・石器が出土したほか、焼土塊が多数出土している。（石木）

出土遺物（第15図・図版51）

弥生土器（22～26）　22～25は甕。23は平底ではあるが底部端は丸みを持つ。25は若干、丸底化の傾向にある。23～25は二次焼成を受ける。26は高杯。杯部は素口縁で、浅い鉢形を呈し、脚部基部には軸心痕が認められる。

石器（27・28）　27は凝灰岩製の砥石である。全面を使用しており、仕上げ砥と考えられる。28は安山岩製の細石刃。（井上）

ＳＣ05（第14図・図版６）

調査区の西南側に位置し、ＳＤ01の北側に隣接する。ＳＤ10やＳＣ05－13に切られており、住居北側はほぼ失われている。検出面はこの遺構の東側35mにあるＳＣ01より約１m高い所に位置しており、調査前は北側の田よりも一段高くなっていた。調査区内でも最高所に近い位置にあるが、残存状況からみて住居はなお数十cm削平されていると考えられる。東西4.2m、南北3.55mの長方形に近いプランをとる。埋土は暗褐色土から黒色土で構成される。貼床の有無は明確にできない。床面からは多数のピット・土坑が検出されたが、いずれも細く、主柱穴を構成するものは確認できなかった。また、カマドや炉の痕跡は確認できなかった。出土遺物は、須恵器・弥生土器・白磁・鉄器がある。（石木）

出土遺物（第16図･図版51）

須恵器（29）　杯Ｂ身。体部と底部の境は丸みを帯びる。

弥生土器（30・31）　須玖Ⅱ式の甕、もしくは鉢。残存する限りでは、ススは付着していない。

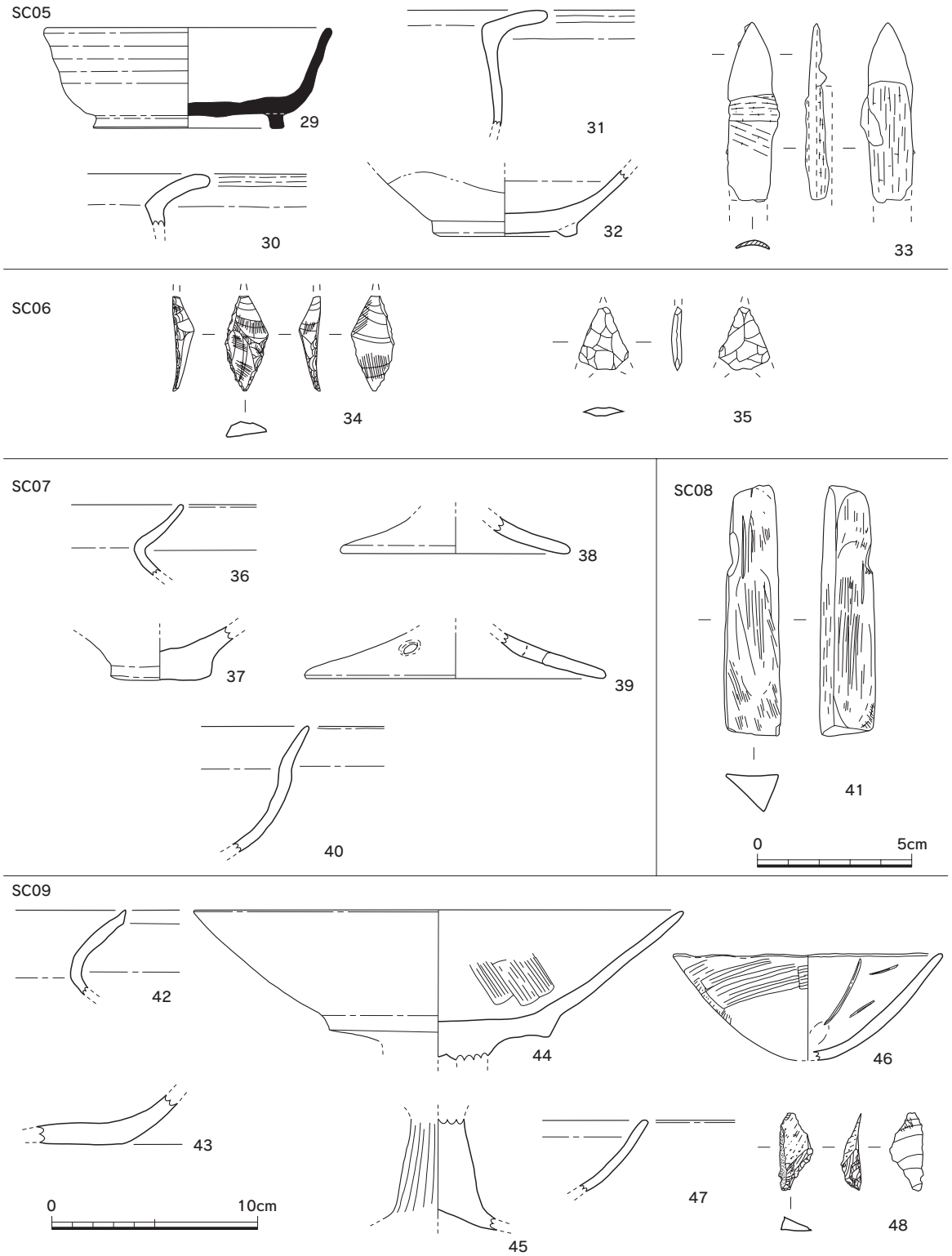
磁器（32）　白磁椀である。釉はごく薄く、内面と外面は体部中位まで施釉される。太宰府分類Ⅳ類。

鉄器（33）　鉄製鉈。表面に樹皮を巻いていたらしく、木質が残存している。（井上）

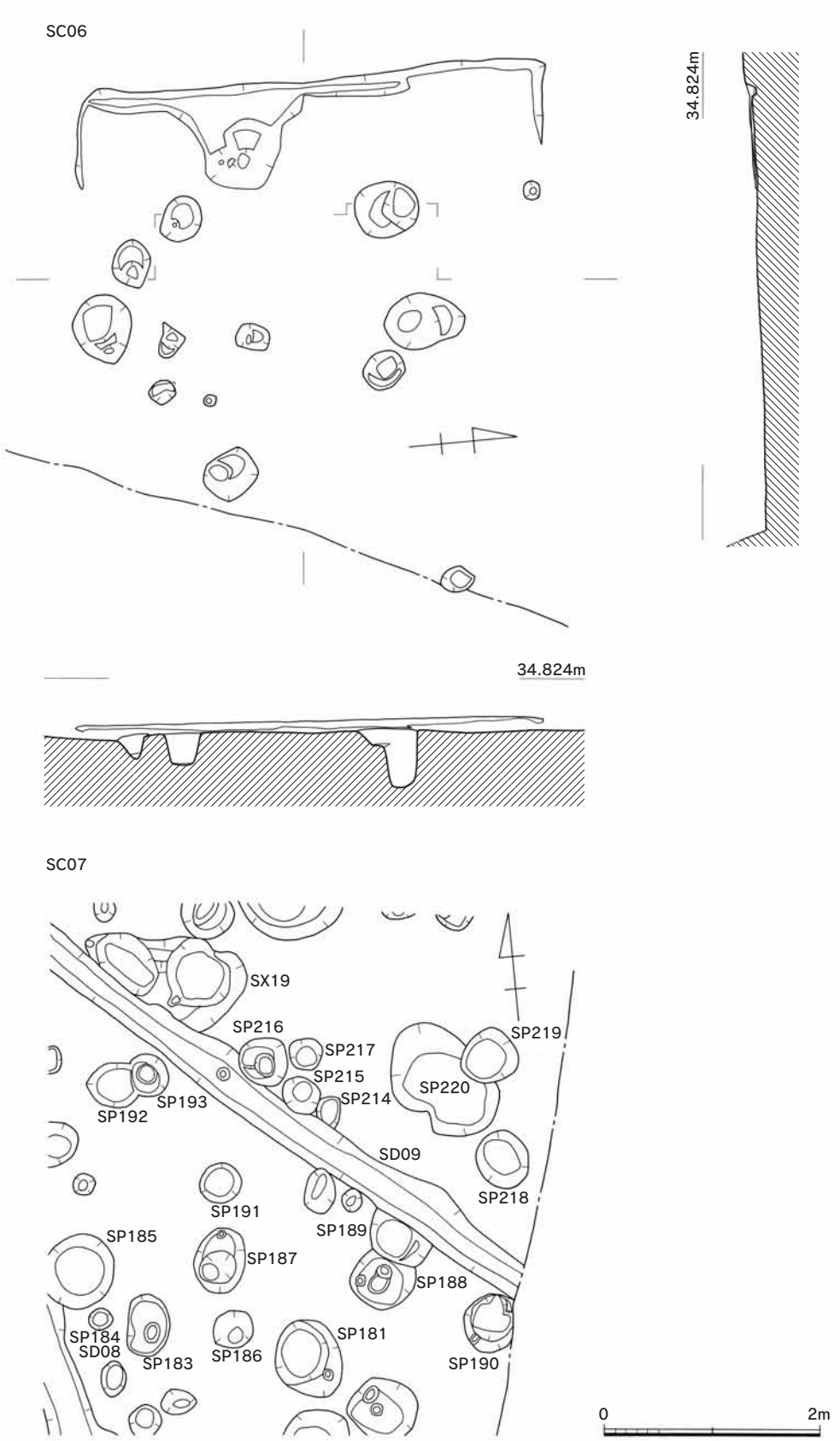
ＳＣ06（第22図･図版７）

調査区東壁側にあり、ＳＣ03の北側20mの所に位置する。検出時、一辺が直線的にのび、コーナ

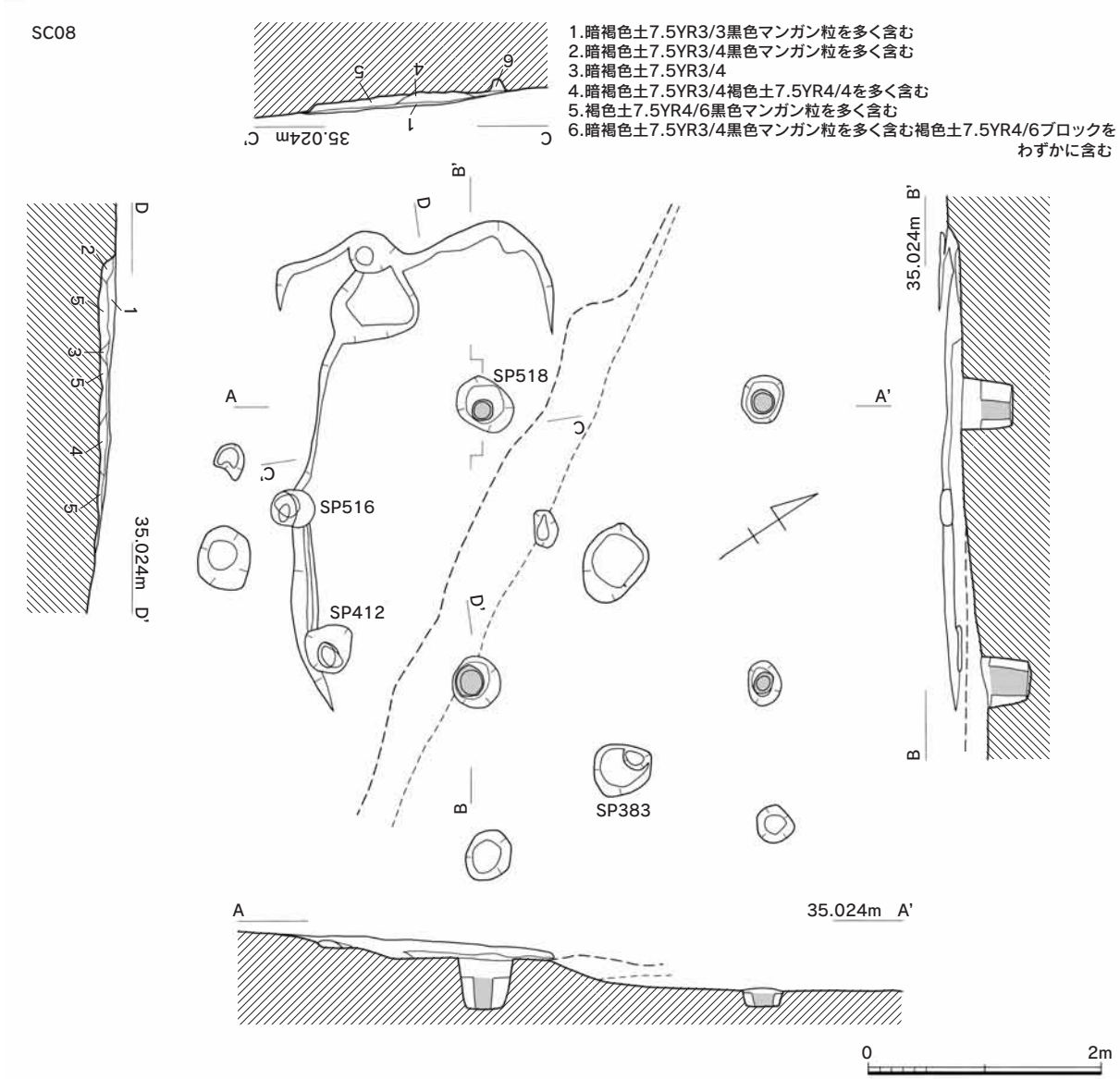
ーをもつ不整形の遺構を確認したことから、竪穴住居跡と考えた。残存するのは西壁のみであり、埋土はわずか数cmであった。西壁長4.28mの方形プランを呈する。主柱穴は西壁に平行する２本のピットと考えられる。西壁沿いには壁溝が認められるが、浅く全周しない。貼床は確認できなかった。炉・カマド等の施設は認められなかった。出土遺物は須恵器・土師器・弥生土器・石器など



第16図　2次 ＳＣ05～09出土遺物実測図(33～35・41・48は1/2、他は1/3)



第17図　２次ＳＣ06・07実測図（1／60）



第18図　２次ＳＣ08実測図（1／60）

があるが、土器は小片のため図化できなかった。　（石木）

出土遺物（第16図･図版51・52）

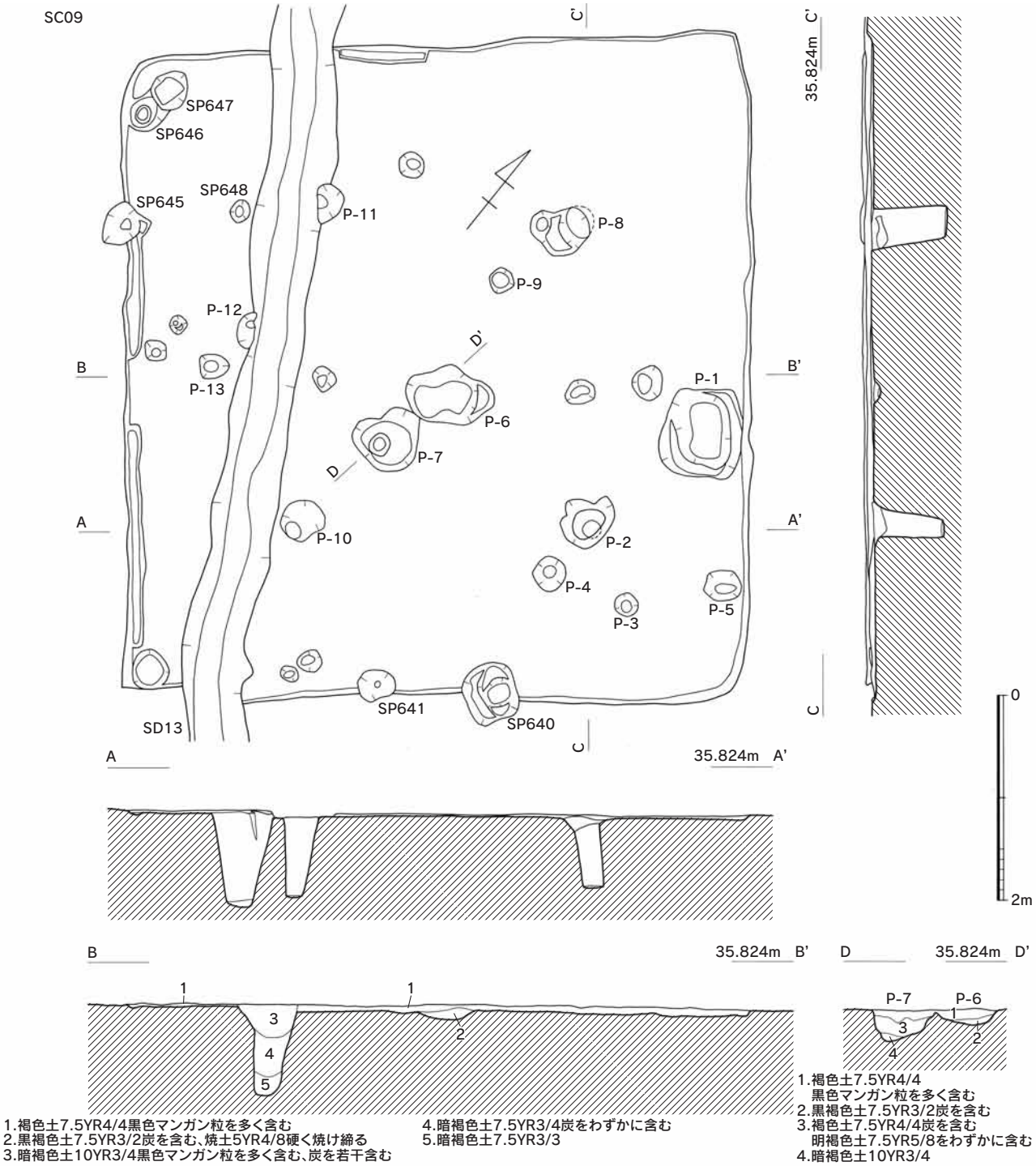
石器（34・35）　34は腰岳産黒曜石製ナイフ形石器である。両側縁部に微細剥離を施し刃部を形成する。35は安山岩製打製石鏃で、切先と両脚部を欠損する。剥離面は大きく、雑な印象を受ける。

（井上）

ＳＣ07（第17図･付図）

ＳＤ07・08の交差部分のすぐ東側にあたる。調査中、ＳＸ19およびＳＰ185へのびる土坑（ＳＸ18）を確認した。当初土坑と考えて掘り下げをおこなったが、調査の途中から竪穴住居跡ではないかと考えられた。しかし、掘り込みや住居内施設はまったく確認できなかった。削平により完全に失われた可能性もあるが、竪穴住居跡ではない可能性もある。ＳＤ08→ＳＣ07→ＳＤ09の切り合い関係が確認できた。出土遺物は、須恵器・土師器などがある。　（石木）

出土遺物（第16図）



第19図　２次ＳＣ09実測図（1／60）

土師器（36～40）　36・37は甕。36は口縁部で、内湾する。37の底部は小さく、平底気味である。38・39は高杯脚裾部で、39は小孔が穿たれている。40は小型丸底壺。頸部の屈曲は弱く、器表の摩滅が著しい。　（井上）

ＳＣ08（第18図･図版７）

調査区の北東側に位置し、ＳＤ08の東側に隣接する。住居の周壁は西側の一部を除き完全に削平されており、残存状況からはどのような平面プランをもつか分からないが、大略方形プランと考えることができよう。主柱穴は４本検出され、径18～26cmの柱痕が確認された。埋土は西側の一部で

確認されたが、最大でも12cmと極めて浅い。出土遺物は極めて少なく、弥生土器かと思われる土器の小片とわずかな石器が出土したのみである。（石木）

出土遺物（第16図･図版52）

石器（41）　凝灰岩の手持ち砥石である。三角柱状を呈し、側面の三面とも使用している。石材の粒子は細かく、仕上げ砥と考えられる。（井上）

ＳＣ09（第19図･図版８）

調査区の中央部よりやや南側に位置する。長辺6.37ｍ、短辺6.10ｍ。正方形に近いプランを呈しており、本調査区内で最大規模の竪穴住居跡である。ＳＤ13により南東壁から北西壁まで縦断されており、周壁上はＳＰ640・641・645により切られている。埋土は褐色土を呈するが、最も深い所でもわずか８cmと残存状況は極めて悪い。主柱穴はＰ-２・Ｐ-８・Ｐ-11・Ｐ-10の４本と考えられ、いずれの柱もやや内傾して立てられており、柱穴の底面もほぼ揃っている。中央には炉跡と考えられる土坑（Ｐ-６）がある。長さ0.90m幅0.58m深さ14cmの不整楕円形を呈し、炉の床面は橙色に酸化焔焼結しており、下層は炭を多く含んでいた。出土遺物は、須恵器の小片のほかはいずれも土師器で一部石器を含む。（石木）

出土遺物（第16図･図版52）

土師器（42～47）　42は甕口縁片で、端部は平坦である。43は甕もしくは壺底部片で平底を呈す。44・45は高杯。44は杯部底部と体部境の接合面が段をなし、体部は直線的に口縁部へと至る。45は高杯脚部で、基部は中実である。46は鉢。内面はヘラケズリ、外面はハケメを施す。47は椀口縁片か。口縁部から体部にかけて、やや内湾する。

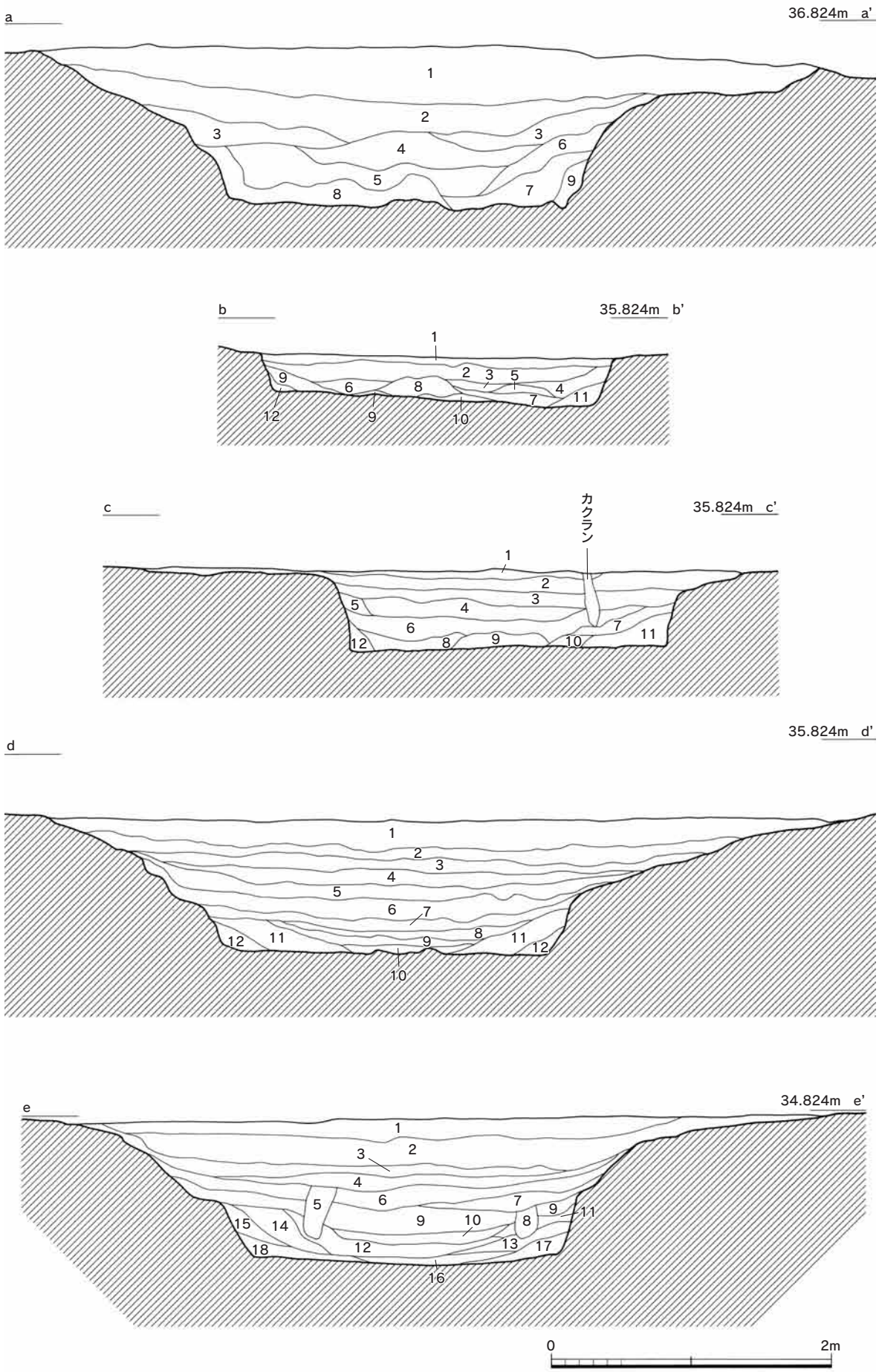
石器（48）　黒曜石製の剥片である。（井上）

（３）溝

ＳＤ01（第20図･図版９～11）

調査区の南側に位置する。東側は調査区外、西側は６次調査地へのびる。幅約2.6～４ｍ、深さは、0.31～1.16ｍ。調査区東壁より略東方向へ23ｍ直線的にのびた後、角度を変えて33ｍまた直線的に南西方向へのびる。溝の断面は逆台形を呈する。溝の床面は、調査区東壁より屈曲部までは緩やかに上がっており、凹凸はほとんどなくほぼ平らであり、屈曲部では床面が一段階段状に上がる。屈曲部から西側は、床面に細かな凹凸が認められる。屈曲部から14ｍ南西へいった所ではさらに一段床面が上がっており、調査区の南側へ向かって床面が全体に緩く上がっている。埋土は、褐色土～暗褐色土を主体とし、自然堆積状態を見せる。通水状態にはあったものの、滞水状態を示す土層は認められない。

溝は調査区南辺を囲むように巡るが、本来の丘陵は北東方向へのびることが想定され、６次調査地では丘陵斜面に溝の続きがのびることが確認された。幅や規模をみると集落等を囲む環濠のようにもみえるが、丘陵斜面を斜行していることが明らかである。したがって何らかの区画を目的とした溝と考えられるが、床面が平らに掘られることはここを通路とした可能性もあり、性格をにわかに決め難い。出土遺物は、須恵器・土師器のほか青磁・白磁・土師質土器などが出土した。（石木）



第20図　２次ＳＤ01土層実測図（1／40）

a-a' 面土層

1.褐色土7.5YR4/4
2.暗褐色土7.5YR3/4　明褐色土7.5YR5/8ブロックを含む
3.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR4/4ブロックを含む
4.褐色土7.5YR4/4
5.褐色土7.5YR4/4　炭を含む　明褐色土7.5YR5/6ブロックを含む
6.暗褐色土10YR3/4　炭を含む
7.暗褐色土10YR3/4
8.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR5/6ブロックを含む
9.褐色土7.5YR4/4　褐色土7.5YR4/6ブロックを含む

b-b' 面土層

1.暗褐色土7.5YR3/4　マンガン粒を多量に含む
2.褐色土7.5YR4/4　にぶい褐色土7.5YR5/4をわずかに含む　マンガン粒を多く含む
3.褐色土7.5YR4/4
4.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR5/8ブロックを含む
5.明褐色土7.5YR5/6
6.にぶい褐色土7.5YR5/4
7.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR5/6ブロックを含む
8.褐色土7.5YR4/4
9.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR5/6ブロックをわずかに含む
10.にぶい褐色土7.5YR5/4
11.褐色土7.5YR4/4
12.褐色土7.5YR4/3

c-c' 面土層

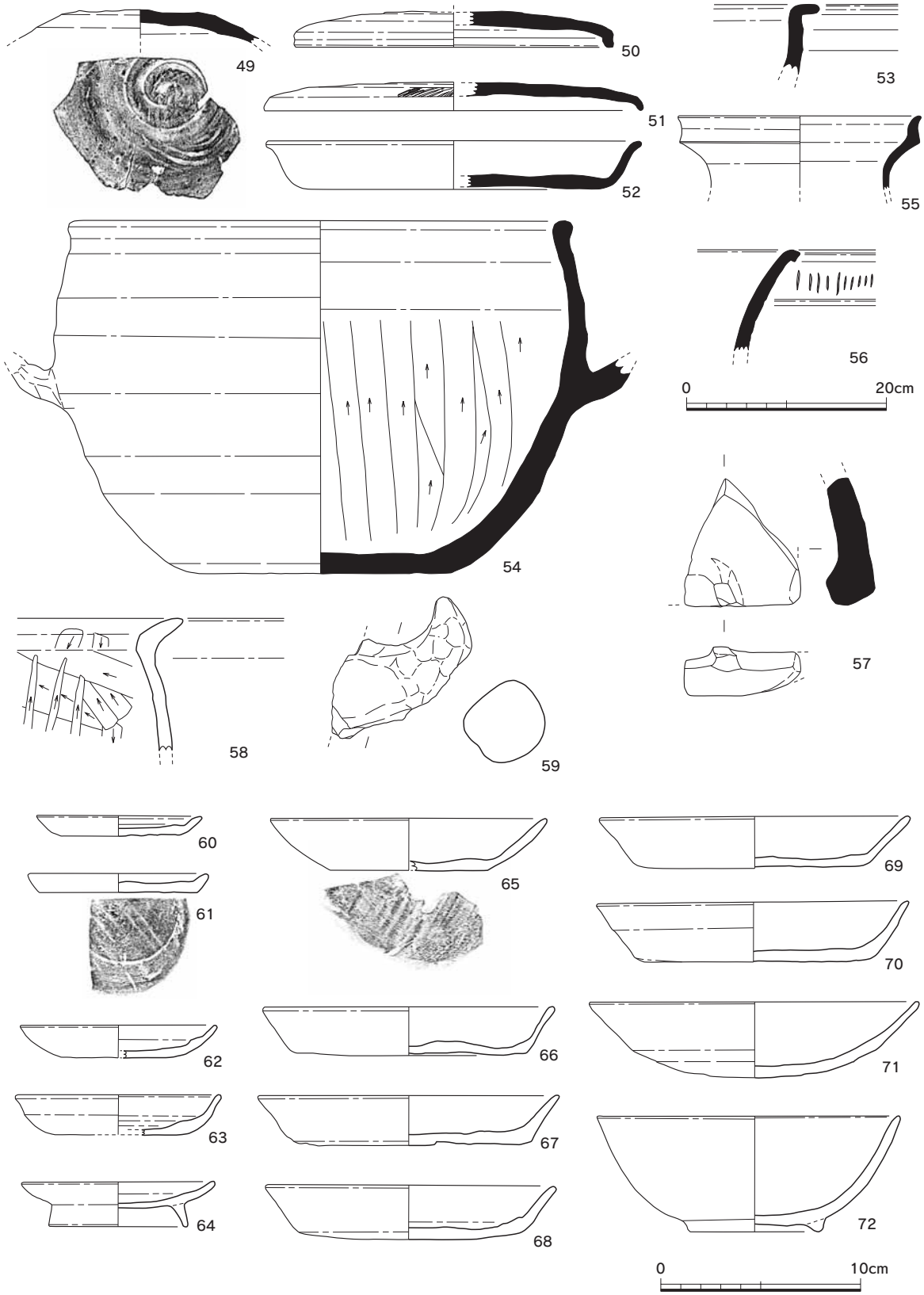
1.にぶい黄褐色土10YR5/3　マンガン粒を多量に含む
2.暗褐色土7.5YR3/4　マンガン粒を多量に含む　明褐色土7.5YR5/8ブロックをわずかに含む
3.暗褐色土7.5YR3/3　明褐色土7.5YR5/8ブロックを多く含む
4.暗褐色土7.5YR3/4　明褐色土7.5YR5/8ブロックをわずかに含む
5.暗褐色土7.5YR3/4
6.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR5/6ブロックをわずかに含む
7.褐色土7.5YR4/4　褐色土7.5YR4/6ブロックをわずかに含む
8.暗褐色土7.5YR3/4　褐色土7.5YR4/6ブロックをわずかに含む
9.明褐色土7.5YR5/6と褐色土7.5YR4/4の互層
10.褐色土7.5YR4/4
11.褐色土7.5YR4/4　地山の流れこみ
12.暗褐色土7.5YR3/4

d-d' 面土層

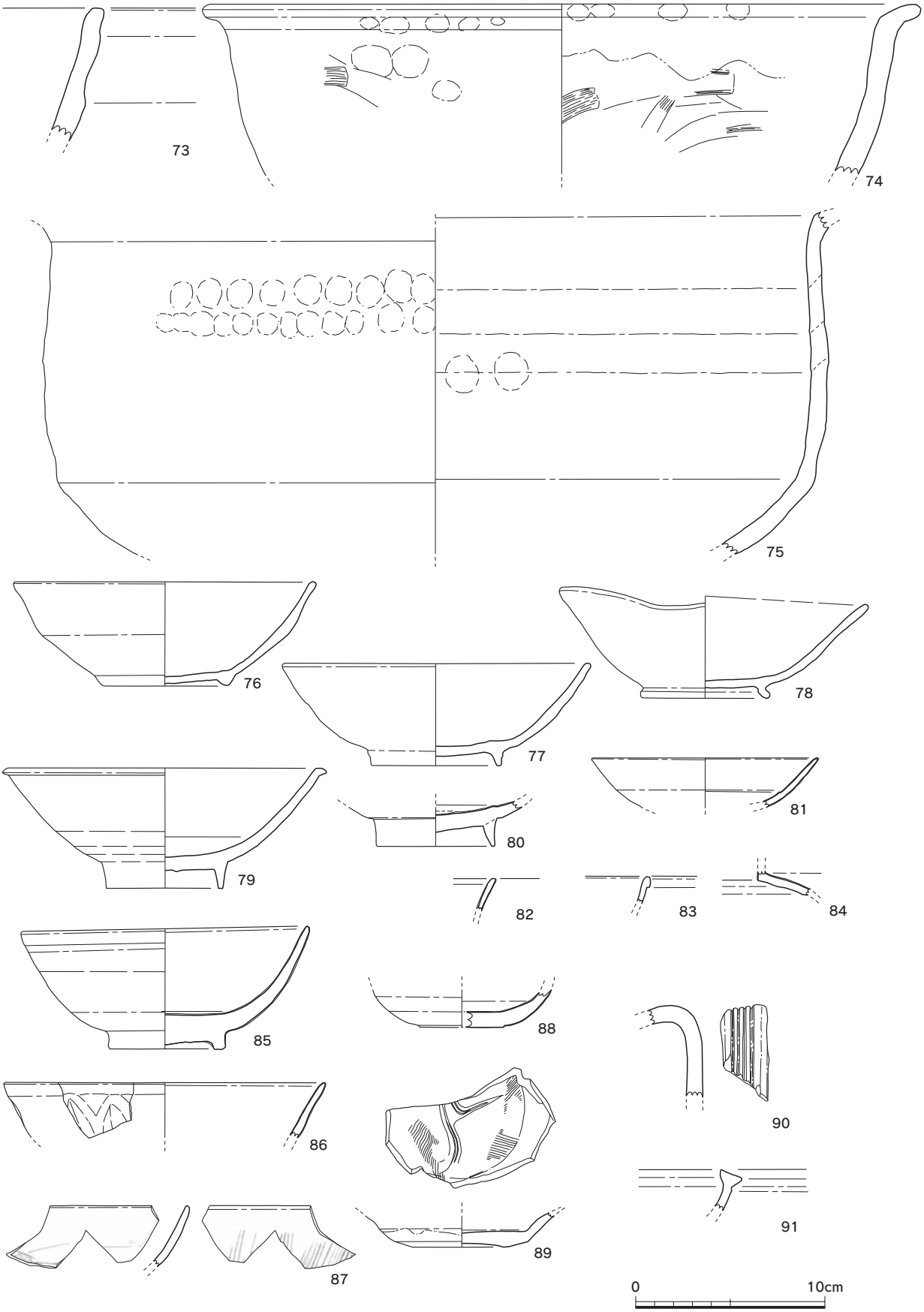
1.にぶい黄褐色土10YR5/3　マンガン粒をわずかに含む　明褐色土7.5YR5/6ブロックを多く含む
2.褐色土7.5YR4/4　明褐色土を多く含む　7.5YR5/6をわずかに含む　マンガン粒を多く含む　炭をわずかに含む
3.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR5/8をわずかに含む　マンガン粒を多く含む
4.褐色土7.5YR4/4　マンガン粒を多く含む
5.褐色土7.5YR4/3
6.褐色土7.5YR4/3　明赤褐色土5YR5/8ブロックをわずかに含む
7.褐色土7.5YR4/4　明褐色土7.5YR5/8　褐色土7.5YR4/6をわずかに含む
8.褐色土7.5YR4/6
9.褐色土7.5YR4/6
10.褐色土7.5YR4/6と赤褐色土5YR4/6の互層
11.褐色土7.5YR4/6　明褐色土7.5YR5/8ブロックをわずかに含む
12.褐色土7.5YR4/6　褐色土7.5YR4/3ブロックをわずかに含む　赤褐色土5YR4/8ブロックを多く含む

e-e' 面土層

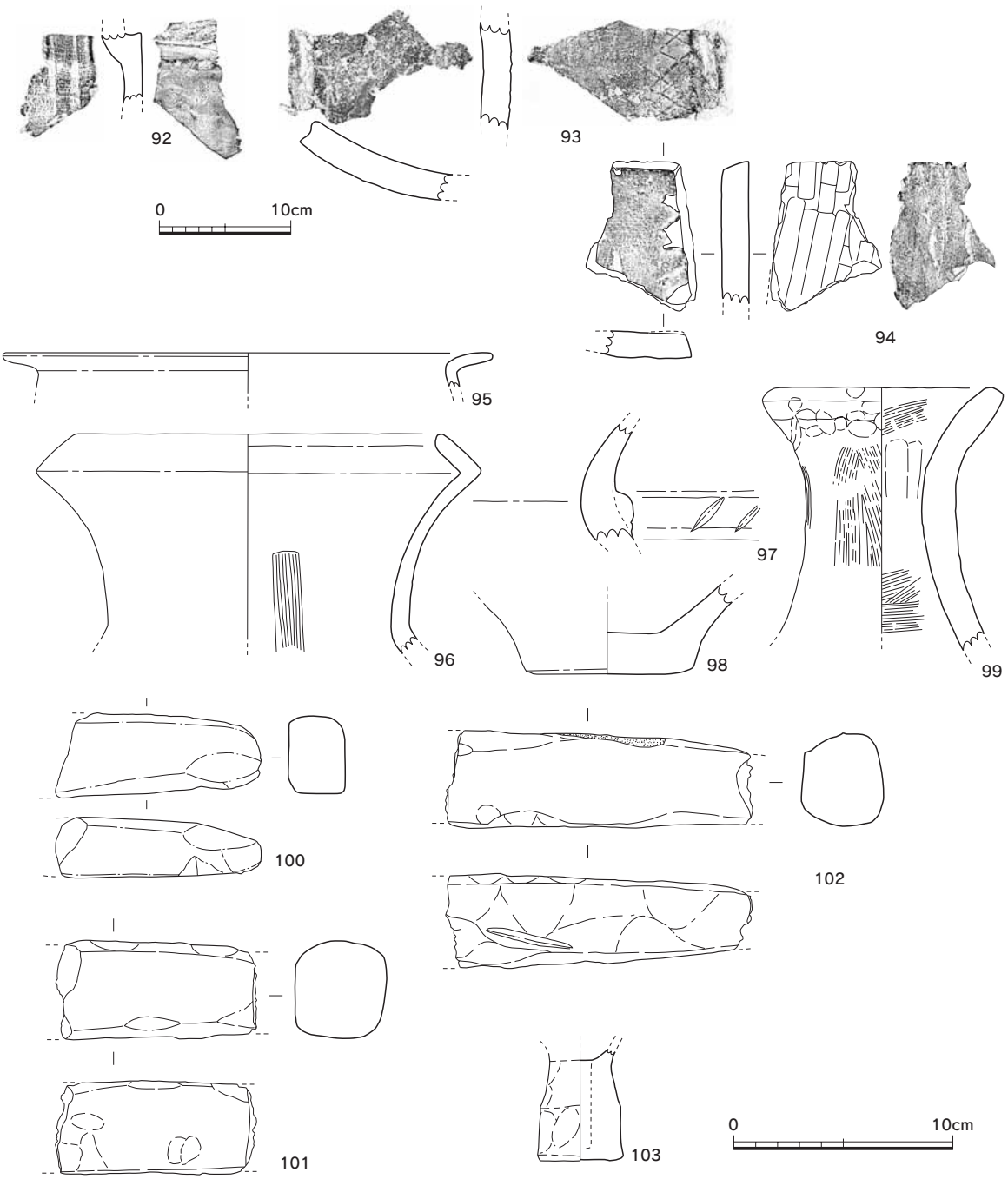
1.褐色土7.5YR4/4　明褐色土ブロック7.5YR5/8をわずかに含む　マンガン粒を多く含む
2.褐色土7.5YR4/4　マンガン粒を多く含む　明褐色土7.5YR5/8をわずかに含む
3.褐色土7.5YR4/6　マンガン粒をわずかに含む
4.褐色土7.5YR4/3　マンガン粒をわずかに含む
5･8.カクラン
6.褐色土7.5YR4/4
7.褐色土10YR4/4　マンガン粒を多く含む
9.褐色土7.5YR4/6　マンガン粒を多く含む　明褐色土7.5YR5/8ブロックを多く含む　明褐色土7.5YR5/6をわずかに含む
10.褐色土7.5YR4/3　明褐色土7.5YR5/8ブロックを多く含む
11.褐色土7.5YR4/3　マンガン粒をわずかに含む
12.にぶい褐色7.5YR5/4
13.褐色土7.5YR4/4　マンガン粒を斑点状に含む
14.褐色土7.5YR4/4　上層にマンガン粒を多く含み、下層に行くに従い少なくなる
15.褐色土7.5YR4/4　マンガン粒をわずかに含む
16.にぶい橙色土7.5YR6/4とにぶい褐色土7.5YR5/4の互層
17.暗褐色土7.5YR5/4　赤褐色土5YR4/8ブロックを多量に含む
18.褐色土7.5YR4/6　にぶい赤褐色土5YR4/4ブロックをわずかに含む



第21図　2次ＳＤ01出土遺物実測図①（56は1／6、他は1／3）



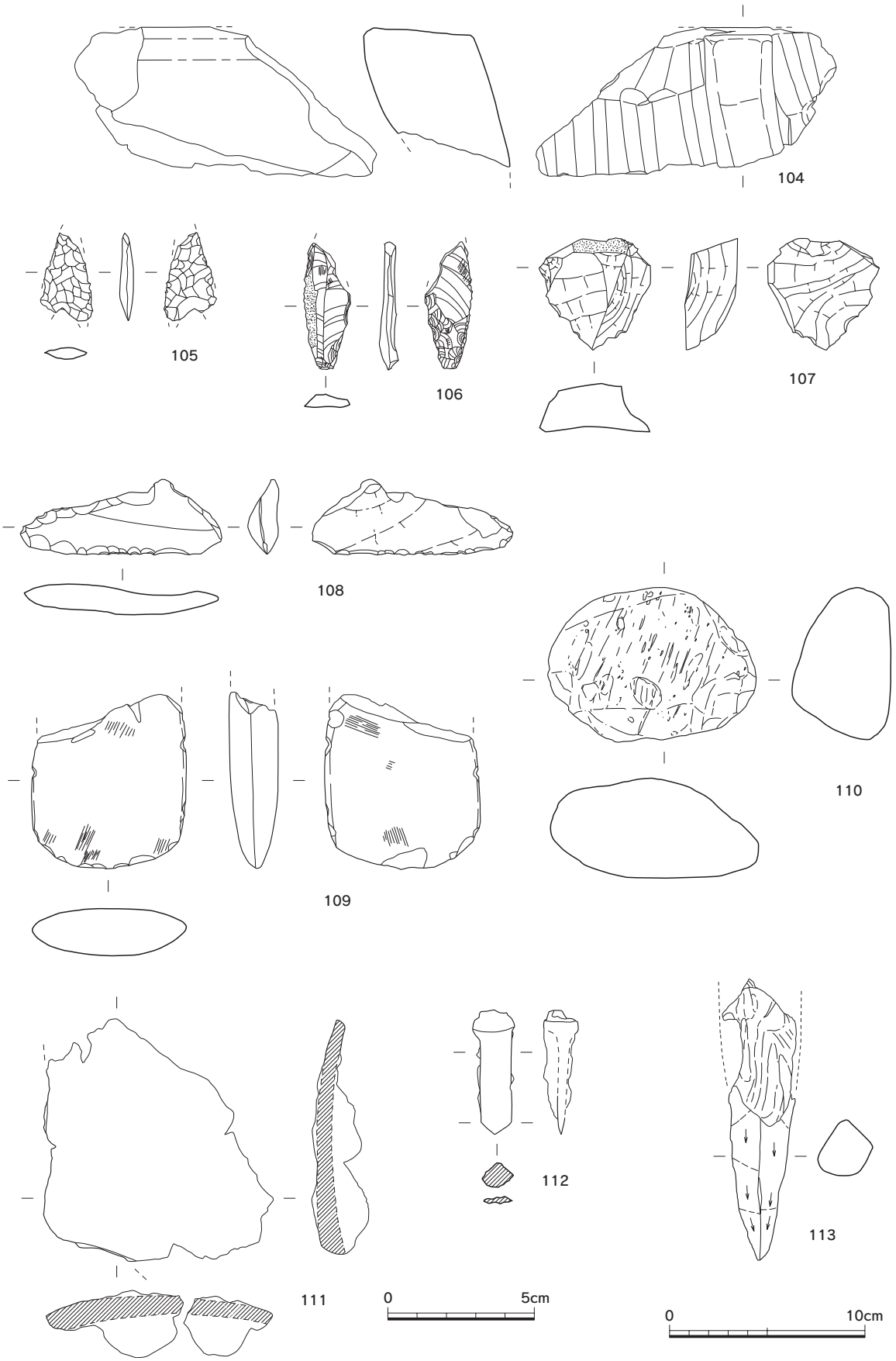
第22図　2次ＳＤ01出土遺物実測図②（1／3）



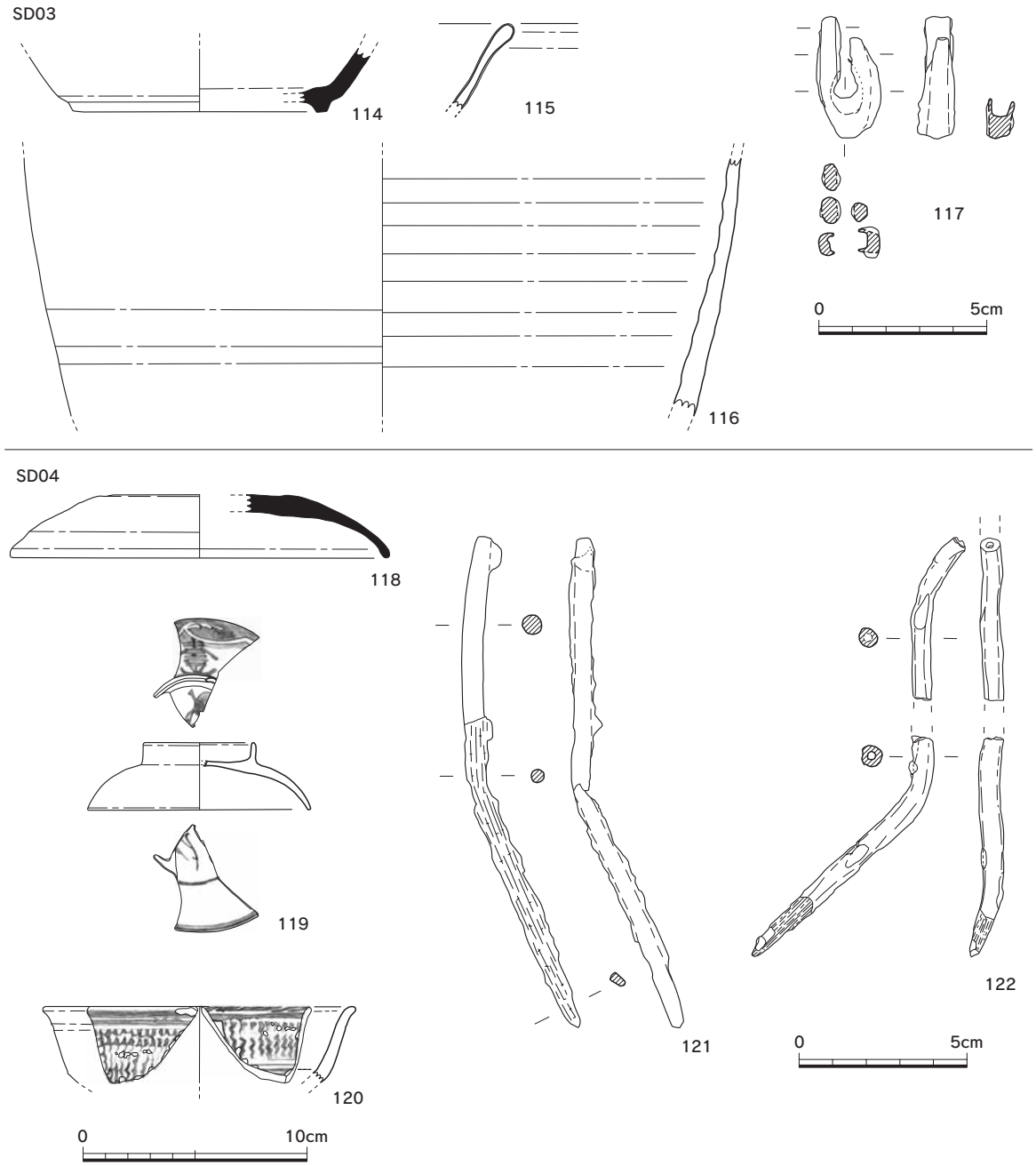
第23図　2次ＳＤ01出土遺物実測図③（92～94は1／5、他は1／3）

出土遺物（第21～24図・図版52～55）

須恵器（49～57）　49は杯H蓋か？天井部内面に当て具痕がみられる。50・51は杯Ｂ蓋。50の口縁部は太く、垂直に折り曲げる。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。52は皿。口縁端部は外反し、底部外面は回転ヘラケズリが施される。53は鉢で口縁部は垂直に折り曲げる。54は把手付鉢。平底で体部は丸みを持ちながら開き、把手貼り付け部～玉縁状口縁部にかけて内湾する。478（本堂遺跡６次調査ＳＣ04出土）と類似する。55は壺で二重口縁を呈しており、口縁部はほぼ直立する。56は大甕。頸部外面に沈線を一条施し、それと口縁の間に直立気味の斜線文を施す。57は瓦塔片か？屋蓋四隅の一部と考えられ、隅部は反っている。また、屋蓋上には方柱状の突起が



第24図　2次ＳＤ01出土遺物実測図④（113は1／3、他は1／2）



第25図　2次ＳＤ03・04出土遺物実測図（117・121・122は1／2、他は1／3）

貼り付けられている。

土師器（58～72）　58は甕で二次焼成を受ける。59は把手で器表の摩滅が著しい。60～63は小皿。60・61の体部は浅く、底部外面は糸切りである。62・63は体部外面と底部外面の境は丸みを持ち、底部外面は回転ヘラ切りである。64は高台付小皿で体部は浅く、高台は細く高い。65～70は杯。65は口径に対し底径が小さく、太宰府分類の杯ｄに似るが、底部糸切り。69の底部外面は器表が摩滅しているため、調整不明であるが、他はいずれも糸切りである。71は丸底杯。72は椀。体部は丸みを持ち深く、高台は低い。

土師質土器（73～75）　73は素口縁の鉢で、器表は摩滅しており調整は不明である。74・75は鍋。74の口縁部は外方へ屈曲し体部は丸みを持つ。75の体部は直立し、粘土紐を積み上げる際の指頭

圧痕が器表外面に認められる。

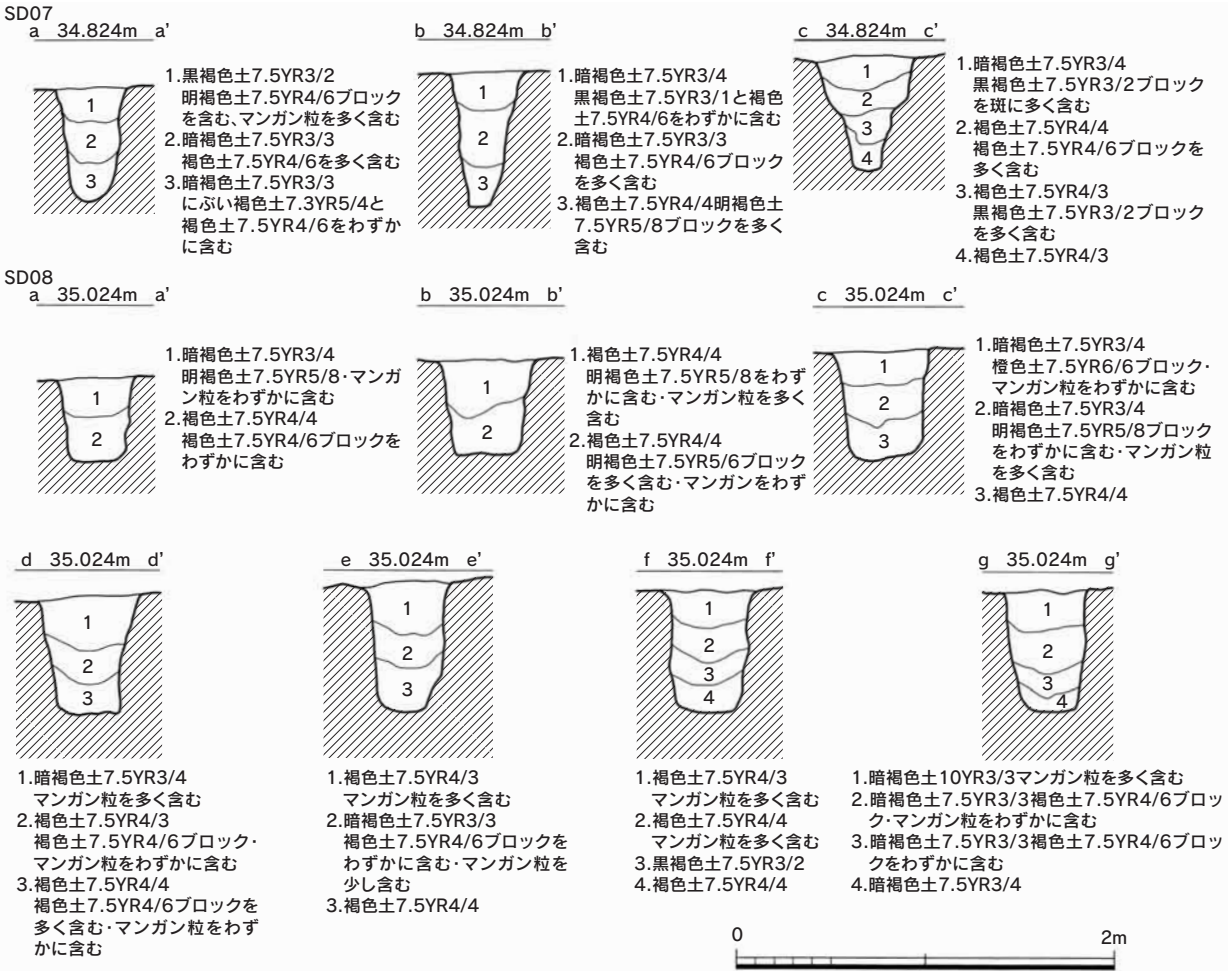
瓦器（76～78）　椀である。いずれも高台は低く、76は体部中位に稜を持つ。

磁器（79～97）　79～84・88は白磁である。79・80・82・83は椀。79・80の高台は細く高く直立する。79の口縁上端部は平坦で、見込み上方に沈線を巡らし、内面から体部外面下位まで施釉される。79は太宰府分類Ｖ－４a類、80は同Ｖ類である。81・88は皿。81は内面に沈線を巡らす。88は皿か。平底で体部下半は丸みを持ち、底部は露胎である。太宰府分類Ⅱ×Ⅳ類。84は白磁壺肩部か。85～87・89・90は青磁である。85・86は龍泉窯系青磁椀。85は高台内をケズリ出すため、畳付と高台内は露胎である。86は外面に鎬蓮弁文が施される。87・89は同安窯系青磁。87は椀で、外面には櫛目文が施される。89は皿で、見込みにはヘラ書き文、その周囲に櫛目文が施される。体部外面下半から底部外面は露胎である。90は越州窯系青磁水注の把手で、櫛目文が施され施釉される。

陶器（91）　91は中国陶器、小鉢。口縁端部は断面三角形状で、施釉される。

瓦（92～94）　92は玉縁を持つ丸瓦で凹面は布目痕、凸面はナデが施される。93・94は平瓦。93の側縁部はナデ、凸面は格子目タタキが施される。94は側縁部と狭端部はヘラ切り、凹面は布目痕、凸面はナデが施される。

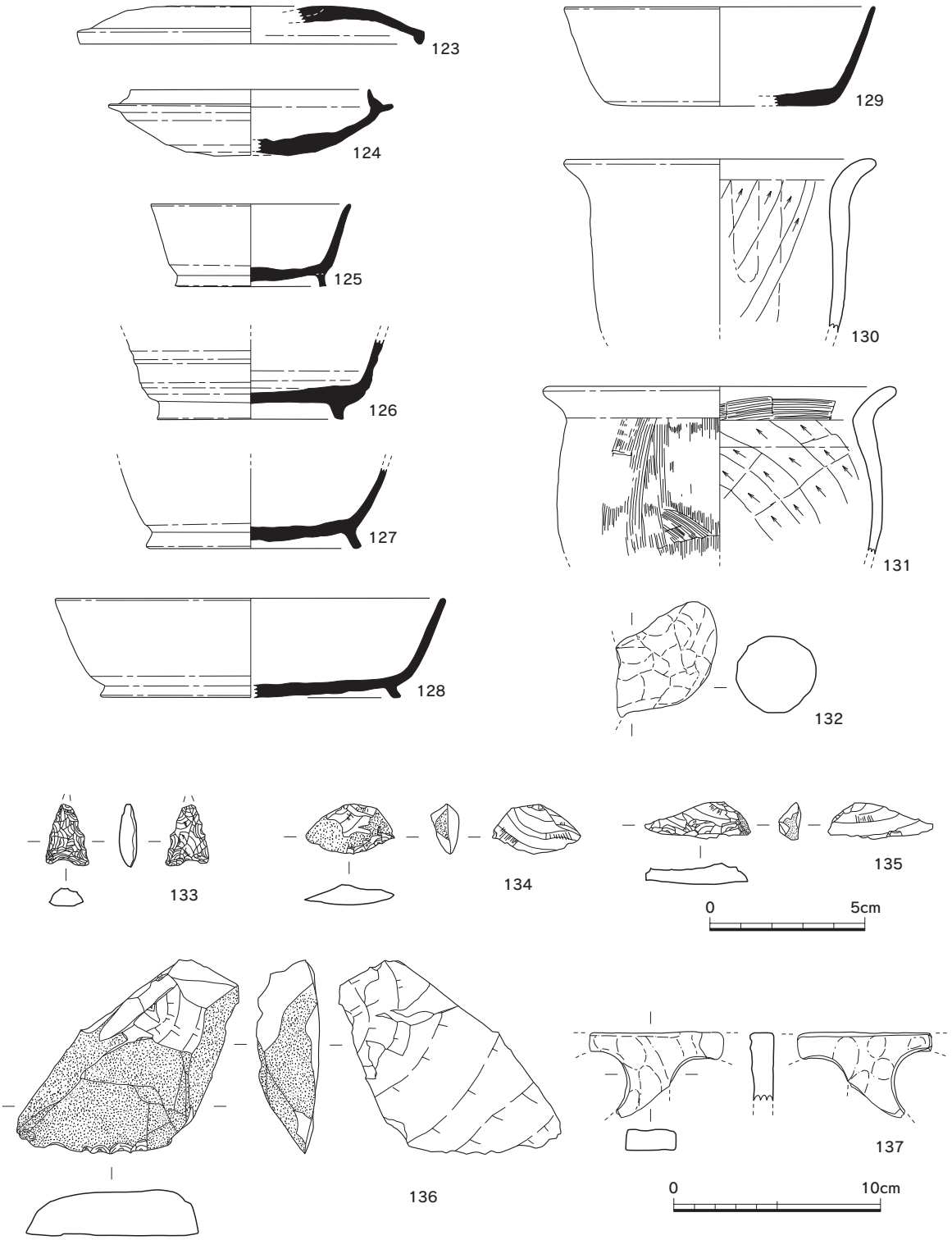
弥生土器（95～99）　95は甕で二次焼成を受ける。96は複合口縁壺、97は突帯に刻目が施される



第26図　２次ＳＤ07・08土層実測図（1／40）

壺である。98は甕もしくは壺底部。平底で分厚い。99は器台で、外面はハケ目調整後、上端部外面下からくびれる部位にかけて、ヘラ状工具の端部でぐるりと刺突する。

土製品（100～103）　100～102は棒状土製品である。一面は平坦で他は緩く膨らみ、端部は細くなる。二次焼成はみられない。103はミニチュア土器、壺である。頸部外面と体部外面の境に稜を持ち、平底を呈す。体部内面は狭く、筒状である。



第27図　2次ＳＤ07出土遺物実測図（133～136は1／2、他は1／3）

石器・石製品・軽石（104～110）　104は滑石製石鍋口縁片で、外面は丁寧に削り出している。105は姫島産黒曜石製打製石鏃。切先と脚部を欠損する。106は姫島産黒曜石製ナイフ形石器。表面の背部は先端部のみに刃つぶしが施される。107はサヌカイトの剥片である。108は安山岩製石匙である。刃部は両面ともに細かい剥離を施す。つまみ部は片面のみに剥離を施し作り出す。109は流紋岩製磨製石斧である。刃部に使用痕がみられる。110は軽石。加工痕は認められないが、風化が著しく未製品の可能性も否定できない。

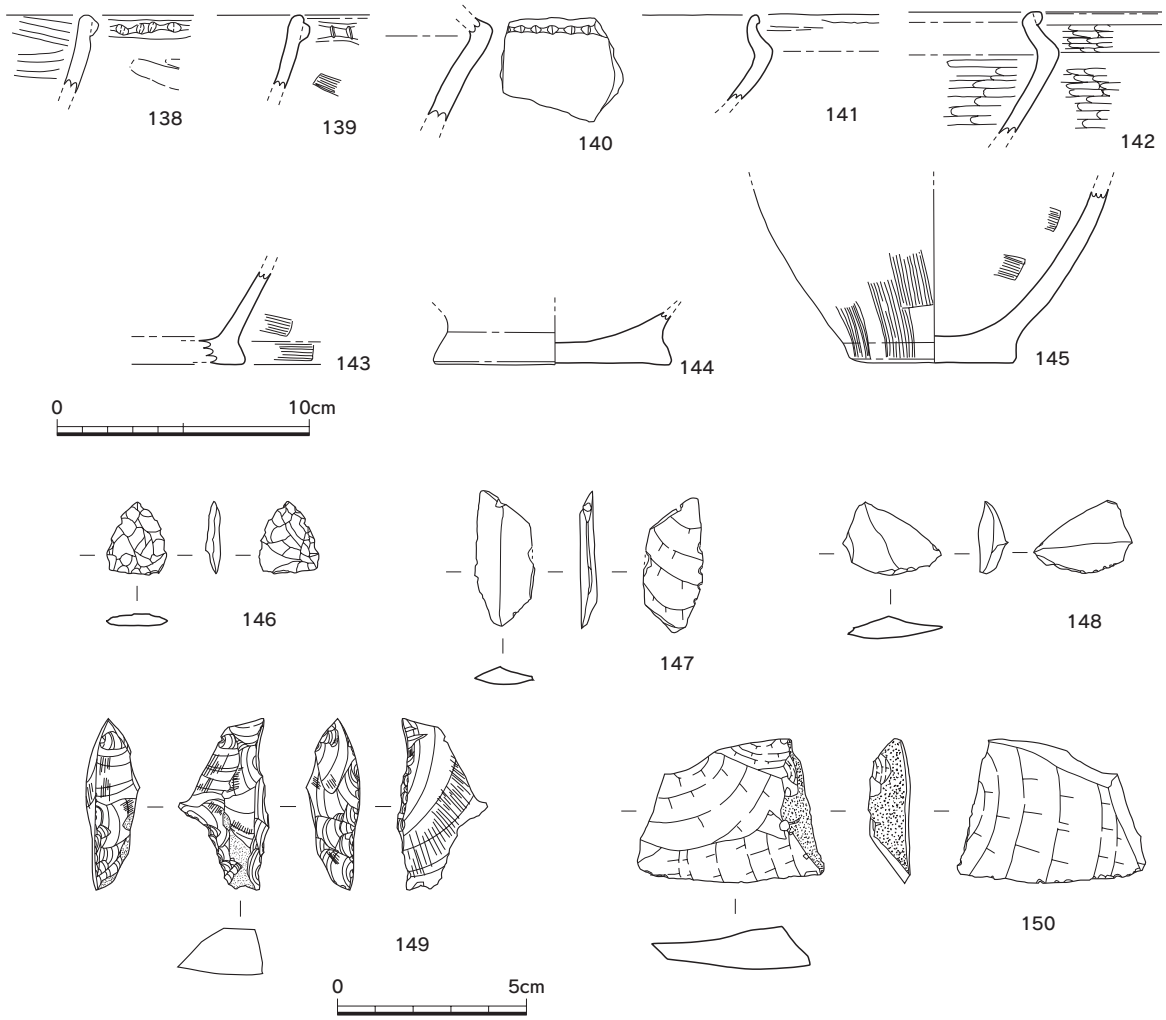
鉄器（111・112）　いずれも用途不明である。111は板状を呈し、断面は弧を描く。112は先端の断面形は扁平で、残存するもう一端の断面形は円形である。

木器（113）　杭状木製品。先端は細く削られ、もう一端は破断している。（井上）

ＳＤ０３（付図）

ＳＣ01の西側約10ｍに位置する。溝は調査区壁側から略北西方向に約20ｍ、ほぼ直線的にのびて終わる。幅30～50cm、深さ10cmあまり、溝の断面はＵ字形を呈する。溝底の比高差は、壁際と北西隅でほとんど差がない。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・青磁・瓦・石鍋などが出土した。（石木）

出土遺物（第25図）



第28図　2次ＳＤ08出土遺物実測図（146～150は1／2、他は1／3）

須恵器（114）　杯Ｂ身。高台は低く、底部端よりやや内側に貼り付けられる。

磁器（115）　青磁椀で口縁端部は肥厚する。龍泉窯系か。

陶器（116）　壺。体部内面は露胎、体部外面は施釉されるが、大部分は剥落する。

鉄器（117）　用途は不明である。釣針状で、断面形は楕円形状を呈す。（井上）

ＳＤ04（付図）

ＳＤ01の屈曲部から南側に不整形に広がる。ＳＤ01へむかって緩やかに下り、溝としての掘方はないことや、ＳＤ01を切る形でＳＤ01の南北に埋土の広がりが認められたことから、ＳＤ01埋没後に周辺が田として利用される際に形成されたものと考えられる。出土遺物は、須恵器・土師器のほか、白磁・染付・粉青沙器・桟瓦などがある。（石木）

出土遺物（第25図・図版55）

須恵器（118）　杯Ｂ蓋。天井部は平坦となる。天井部外面の調整は器表が摩滅しており不明である。

磁器（119・120）　119は広東椀蓋である。外面にみえるのは「壹」の文字か。120は粉青沙器椀である。内外面に象嵌が施されている。

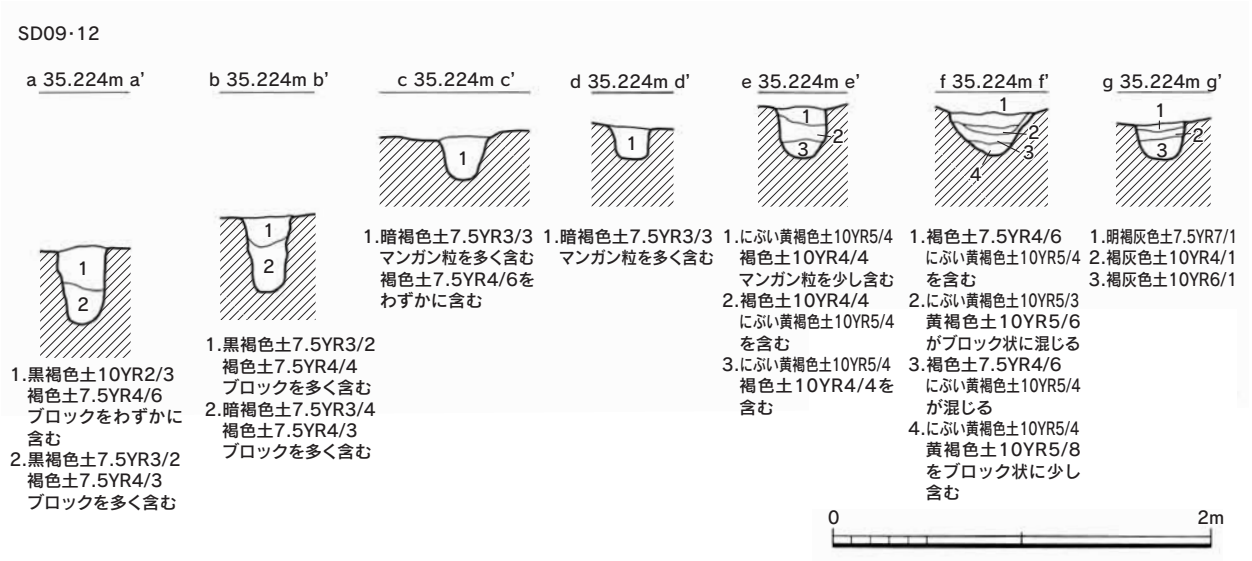
鉄器（121・122）　棒状鉄製品。121の先端の断面形は扁平で、残存するもう一端の断面形は円形である。122の先端は、細くなっており、断面形はいずれの部位も円形である。（井上）

ＳＤ07（第26図・図版12）

調査区東壁から北北西方向に緩やかにのび、ＳＸ39で溝が交差する部分までをＳＤ07として取り扱った。ＳＣ03を切り、ＳＤ01・ＳＸ15・ＳＸ39に切られる。幅40～50cm、深さ50～70cm程度。幅の割に深く、断面は逆台形に近い。溝底は南へむかっておおむね下がっている。埋土は暗褐色土を主体とし、滞水したような状況は認められない。出土遺物は、須恵器・土師器のほか、黒曜石・サヌカイトのチップがある。（石木）

出土遺物（第27図･図版55）

須恵器（123～129）　123は杯Ｂ蓋で、口縁端部は垂直に折り曲げる。124は杯Ｈ身で、体部はや



第29図　２次ＳＤ09・12土層実測図（1／40）

や浅い。125～128は杯Ｂ身。125・127は底部端に高台が貼り付けられる。126・128は底部外面と体部外面の境は丸みを持つ。129は杯で、体部は深い。

土師器（130～132）　130・131は甕で、いずれも内面にススが付着している。130の体部は張らず、131は体部上位が張るものである。132は把手である。

石器（133～136）　133は腰岳産黒曜石製打製石鏃で、切先を欠損する。134は腰岳産黒曜石製の剥片である。135は黒曜石製の剥片で、石核の打面部から剥離されたものである。作業面の調整痕と考えられる細かな剥離が認められる。136は安山岩製の剥片である。

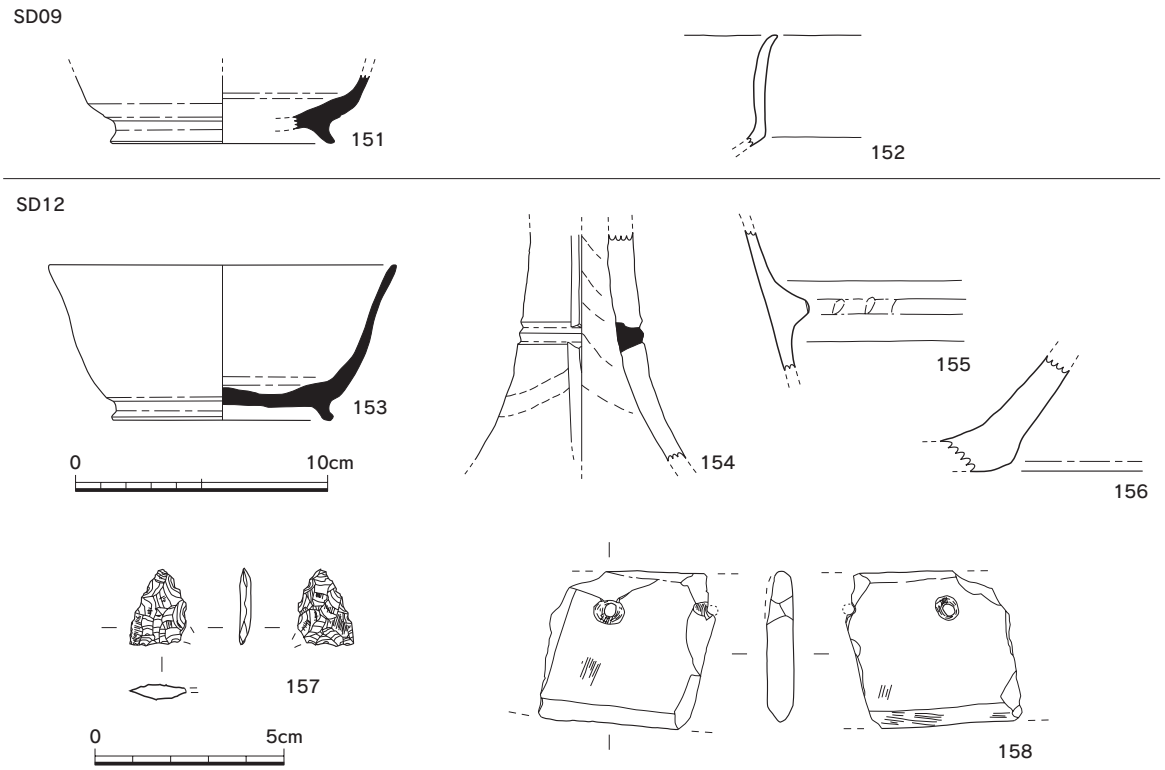
瓦質土器（137）　一辺は直線的であり、焼成前に円孔を切り取る。香炉もしくは火鉢か。　（井上）

ＳＤ08（第26図･図版12）

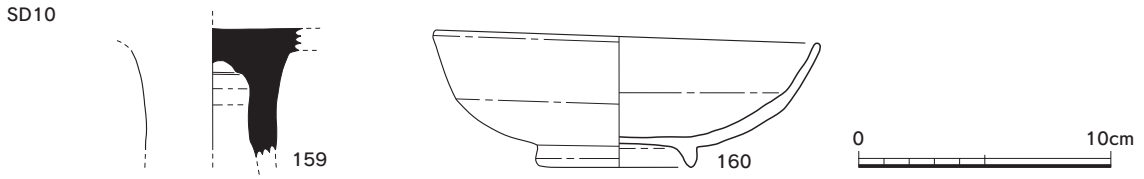
調査区の東側から北西方向へのびる。東側から約25m直線的にのび、緩やかに方向を変えてまた直線的に60m近くのびる。北西側は不明確になるが、調査区をほぼ縦断しており、溝の延長は80m以上ある。東側はＳＣ03に切られており、途中でＳＤ09に切られる。幅40～50cm、深さ40～70cm。幅の割に深く、断面箱形を呈する。溝底は南へむかって緩やかに下がっている。埋土は、暗褐色土～褐色土を主体とし、滞水したような状況は認められない。出土遺物は、弥生土器を主体とし、黒曜石・安山岩の石器・チップがある。須恵器は小片・少量出土するが、溝の時期とは無関係である。　（石木）

出土遺物（第27図･図版55・56）

弥生土器（138～145）　138～140・143～145は甕である。138は口縁端部に、139は口縁端部よりやや下方に突帯を貼り付ける。140は屈曲部に刻目を施している。141・142は浅鉢で、いずれ



第30図　2次ＳＤ09・12出土遺物実測図（157・158は1／2、他は1／3）



第31図　2次ＳＤ10出土遺物実測図（1／3）

も口縁端部は外反する。145は平底で、体部下位は丸みを持ち、外面は縦位のハケメが施される。

石器（146～150）　146は腰岳産黒曜石製打製石鏃で、基部は平基式である。147は安山岩製の縦長剥片、148・150は安山岩製の剥片で、使用痕は見られない。149は黒曜石製ナイフ形石器で、側縁部には刃潰しを施している。（井上）

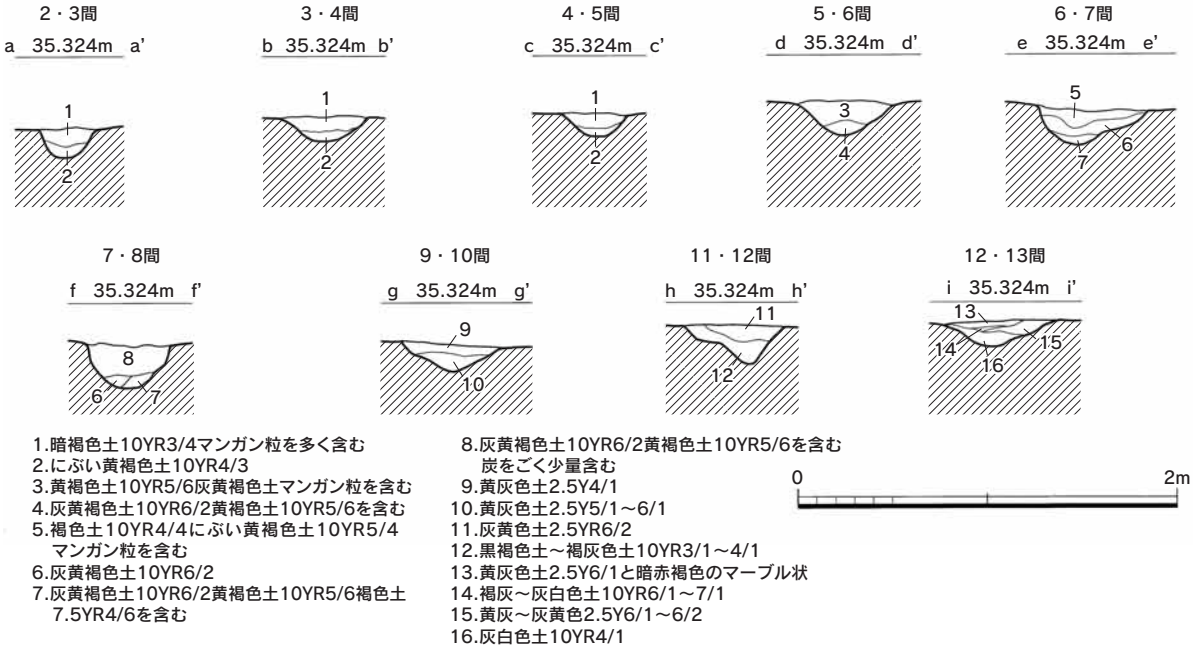
ＳＤ09（第29図･図版13）

調査区の東壁から西側へのびる。ＳＤ07と交わる所から東側をＳＤ09とした。調査中は確認できなかったが、ＳＤ07・09は切り合いがあったようである。現時点では確認のしようがないが、溝底や土層の状況を写真で確認したところ、ＳＤ09→ＳＤ07の順番と考えられる。ＳＤ12とは連続していたようである。幅20～30cm、深さ40cm。掘り込みが深く、断面箱形に近い。溝底は、ＳＤ12に比べ急激に東側へむけて下がっている。埋土は、溝の黒褐色土～暗褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器などがあるが、ＳＸ39側に奈良時代の須恵器を含み、混じる可能性がある。（石木）

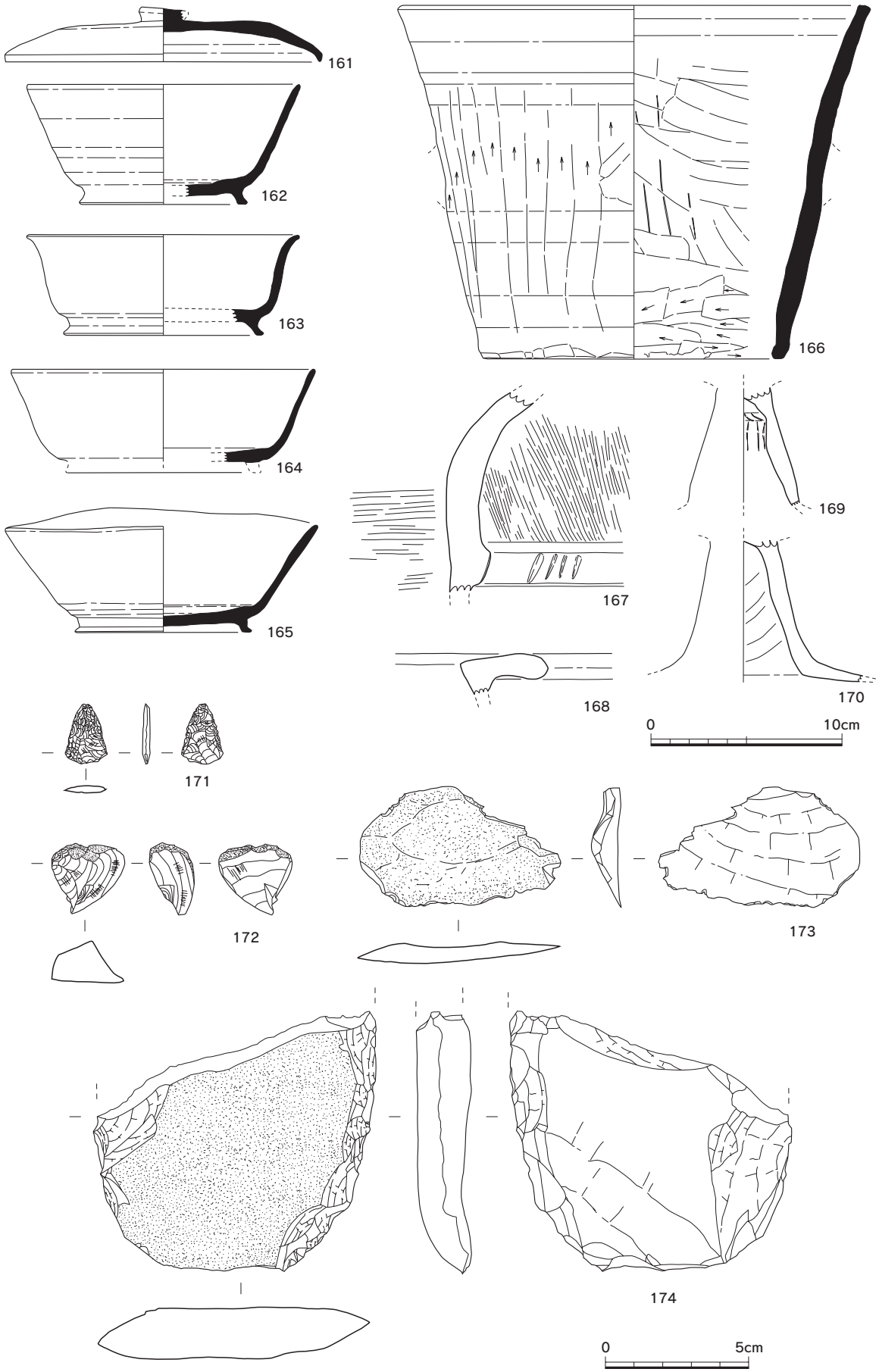
出土遺物（第30図）

須恵器（151）　杯Ｂ身。底部外面と体部外面の境は丸みをもち、体部から口縁部にかけては開くであろう。

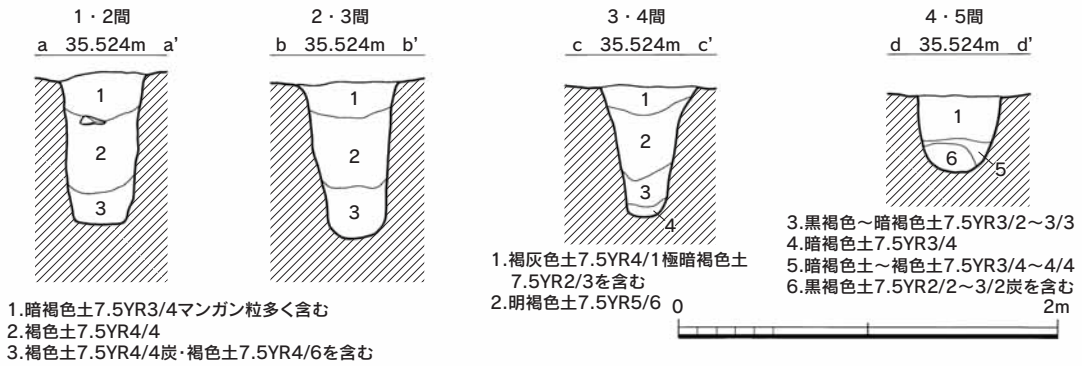
土師器（152）　二重口縁壺か？小片のため不明。（井上）



第32図　２次ＳＤ11土層実測図（1／40）



第33図　2次ＳＤ11出土遺物実測図（171～174は1／2、他は1／3）



第34図　２次ＳＤ13土層実測図（1／40）

ＳＤ10（付図）

調査区の南西側に位置する。ＳＤ01に接し、ＳＣ05を切り、西北西方向にのびる。約13m直線的にのびた後、田の境で切られる。幅約60～80cm、深さ約30～40cm。溝底のレベルはほぼ水平に近い。埋土は暗褐色土を主体とし、滞水した状況は認められない。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器などがある。（石木）

出土遺物（第31図・図版56）

須恵器（159）　高杯脚部の基部で、焼成不良である。

土師器(160)　椀。体部外面に稜を持ち、高台は低い。器表の摩滅が著しい。（井上）

ＳＤ11（第32図）

調査区の中央付近を蛇行しながら略東西方向にのびた後、北西方向にのびる。溝の両端は削平され、この延長がどのようにのびるのかは明らかではない。ＳＤ08を切り、西側ではＳＤ12を切る。幅約25～70cm、深さ約15～25cm、断面鍋底状を呈する浅い溝である。溝底のレベルは、東側へ向かって緩やかに下がっている。埋土は暗褐色土を主体とし、しまりなくやわらかであった。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器のほか、石器などがある。（石木）

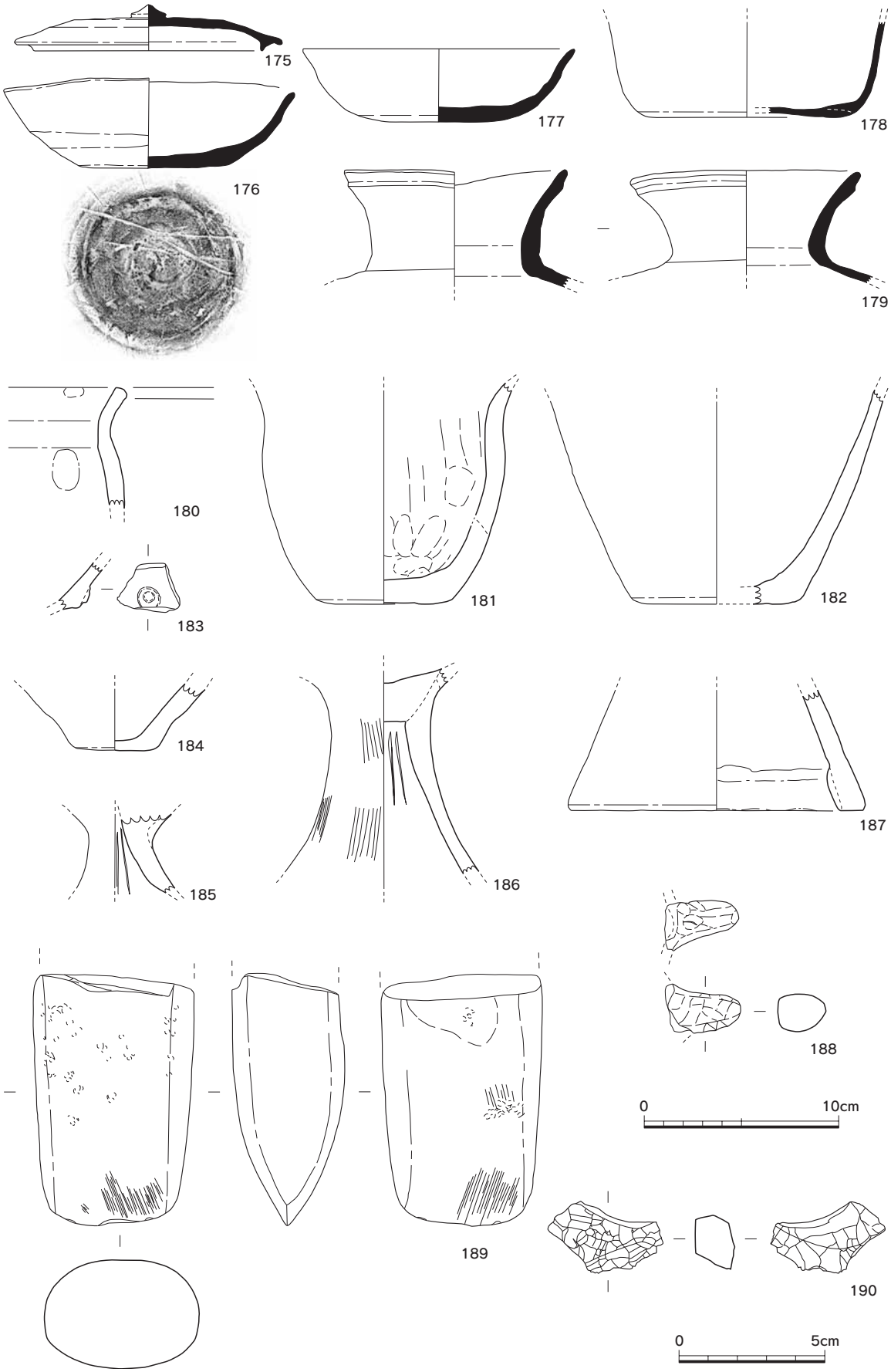
出土遺物（第33図・図版56・57）

須恵器（161～166）　161は杯Ｂ蓋である。口縁端部はわずかに立つ程度で、天井部外面は平坦で回転ナデが施される。162～165は杯Ｂ身で、体部は深く、高台は外方へふんばる。163の口縁部は外反する。165は体部外面に沈線をらせん状にめぐらせる。166は甑である。底部の抜けたバケツ形を呈し、体部外面は縦位の板ナデ、体部内面は縦位のヘラケズリ後ナデを施す。把手は剥落している。

弥生土器（167・168）　167は壺か。断面方形の突帯が貼り付けられ、刻目が施される。168は須玖Ⅰ式の甕口縁片である。

土師器（169・170）　高杯脚部。170の脚部内面は板ナデを施す。脚裾部から工具を差し込んで、時計周りに回転させながら器表を整えている。

石器（171～174）　171は腰岳産黒曜石製打製石鏃で、基部は凸基式である。172は黒曜石、173は安山岩製剥片で使用痕は認められない。174は安山岩製スクレイパー。大型剥片の縁部の両面に剥離を施し、刃部を作り出す。（井上）



第35図　2次ＳＤ13出土遺物実測図（189・190は1／2、他は1／3）

ＳＤ12（第29図）

調査区の東壁から蛇行しながら西側へのびる。ＳＤ07と交わる所から西側をＳＤ12とした。幅20cm前後、深さ10～30cm。ＳＤ09側は掘り込みが深く、断面箱形に近いが、ＳＤ12に至ると浅くなり、西側へ行くと溝の断面形が鍋底状になる所もある。西側はＳＤ11に切られる。溝底は、東側にむかって緩やかに下がり、ＳＤ09へは急激に下がる。埋土は、褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・石器などがある。（石木）

出土遺物（第30図・図版56）

須恵器（153・154）　153は杯Ｂ身で、体部は深い。154は高杯脚部で、長脚となろう。脚部外面中位に沈線二条、上下２段に長方形の透かしを持つ。

弥生土器（155・156）　155は甕もしくは壺。小片のため傾きに難がある。突帯を貼り付けて刻目を施している。156は壺で、やや丸底気味である。

石器（157・158）　157は腰岳産黒曜石製打製石鏃である。一方の脚部を欠損する。158は流紋質凝灰岩製石庖丁である。径2.7mmの小孔が穿たれ、紐ずれも認められる。（井上）

ＳＤ13（第34図・図版13）

調査区の中央よりやや南西側にあり、ＳＤ01の溝上端より20cmの所で掘り込みがはじまる。北西方向に直線的にのび、ＳＣ09を切り、北西側はＳＤ11に切られる。幅約40～60cm、深さは約10～80cm。溝の掘り込みは深く、断面箱形を呈する。埋土は、暗褐色土を呈する。溝底のレベルは、ＳＤ01側にむかって下がる。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・石器などがあり、須恵器には生焼けのものを含んでいる。（石木）

出土遺物（第35図・図版57）

須恵器（175～179）　175は杯Ｂ蓋。天井部は平坦で、口縁部にはかえりを持つ。176・177は杯で、平底を呈し体部は開く。177は底部と体部の境は丸みを持つ。底部外面の調整は、176は回転ヘラ切り、177は回転ヘラケズリを施す。178は椀。体部はあまり開かず深い。179は横瓶である。

弥生土器（180～187）　180～182は甕。181・182は二次焼成を受ける。183・184は壺。183は複合口縁壺か。円形の浮文が付される。185・186は高杯脚部。185の脚部基部はしぼられて狭くなっている。186の脚部内面は170と同様の調整が施される。187は支脚か。脚裾部から体部に従って器壁は薄くなっている。脚裾部内面は分厚くなっている。

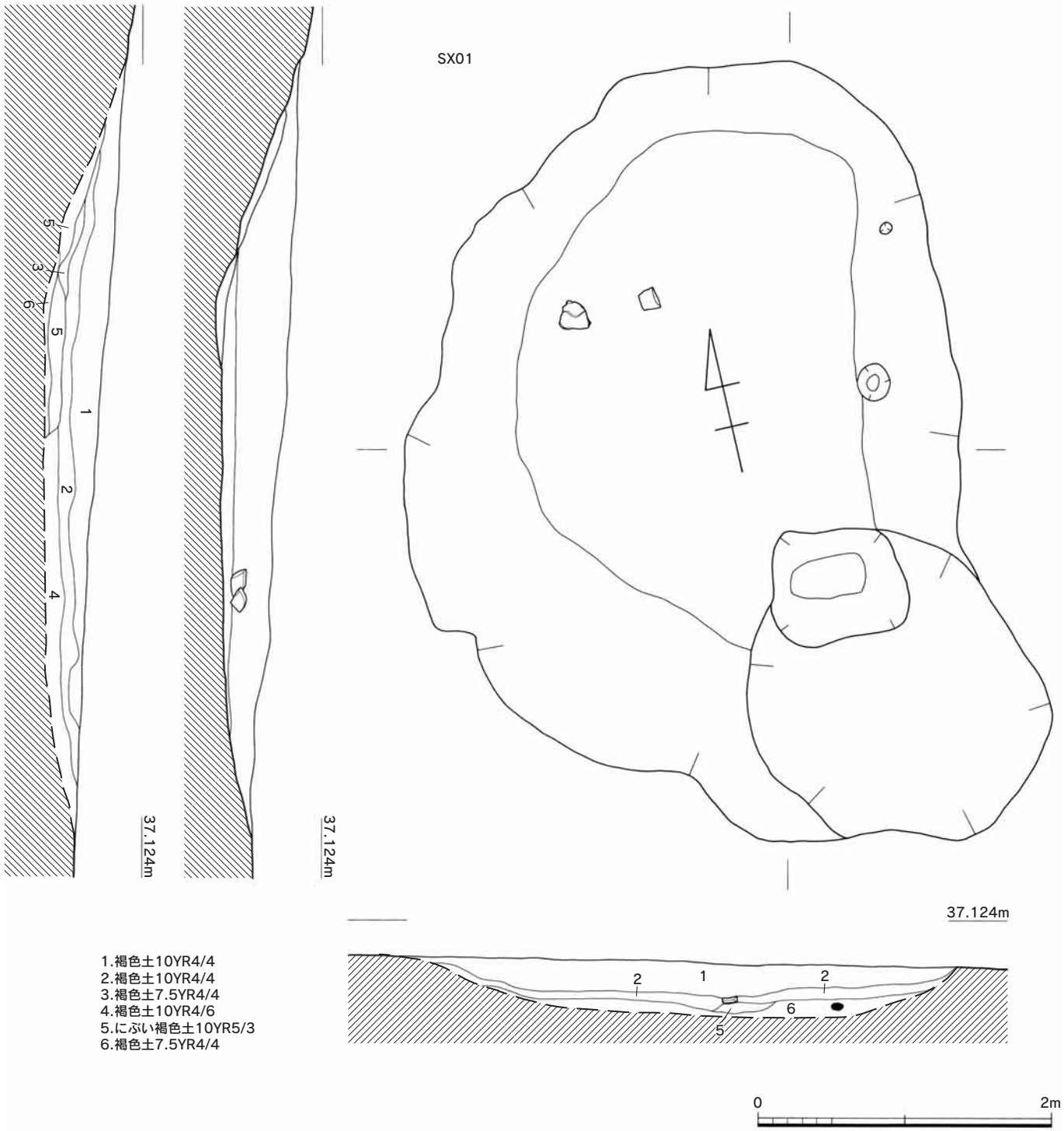
土師器（188）　把手である。甕、もしくは甑に貼り付けられるか。

石器・礫（189・190）　189は砂岩製磨製石斧。刃部には使用痕が認められ、右利きの人物による使用が考えられる。190は安山岩礫で、加工痕は認められない。表面はひび状の細い溝が走っている。（井上）

（4）土坑

ＳＸ01（第36図･図版14）

調査区の南側、ＳＤ01の南側３ｍに位置する。長さ5.27ｍ、幅3.78ｍ。不整長楕円形プランを呈し、底面は浅い鍋底状を呈する。土坑の南東部は、長さ2.43ｍ、幅1.90ｍの浅いくぼみが確認で

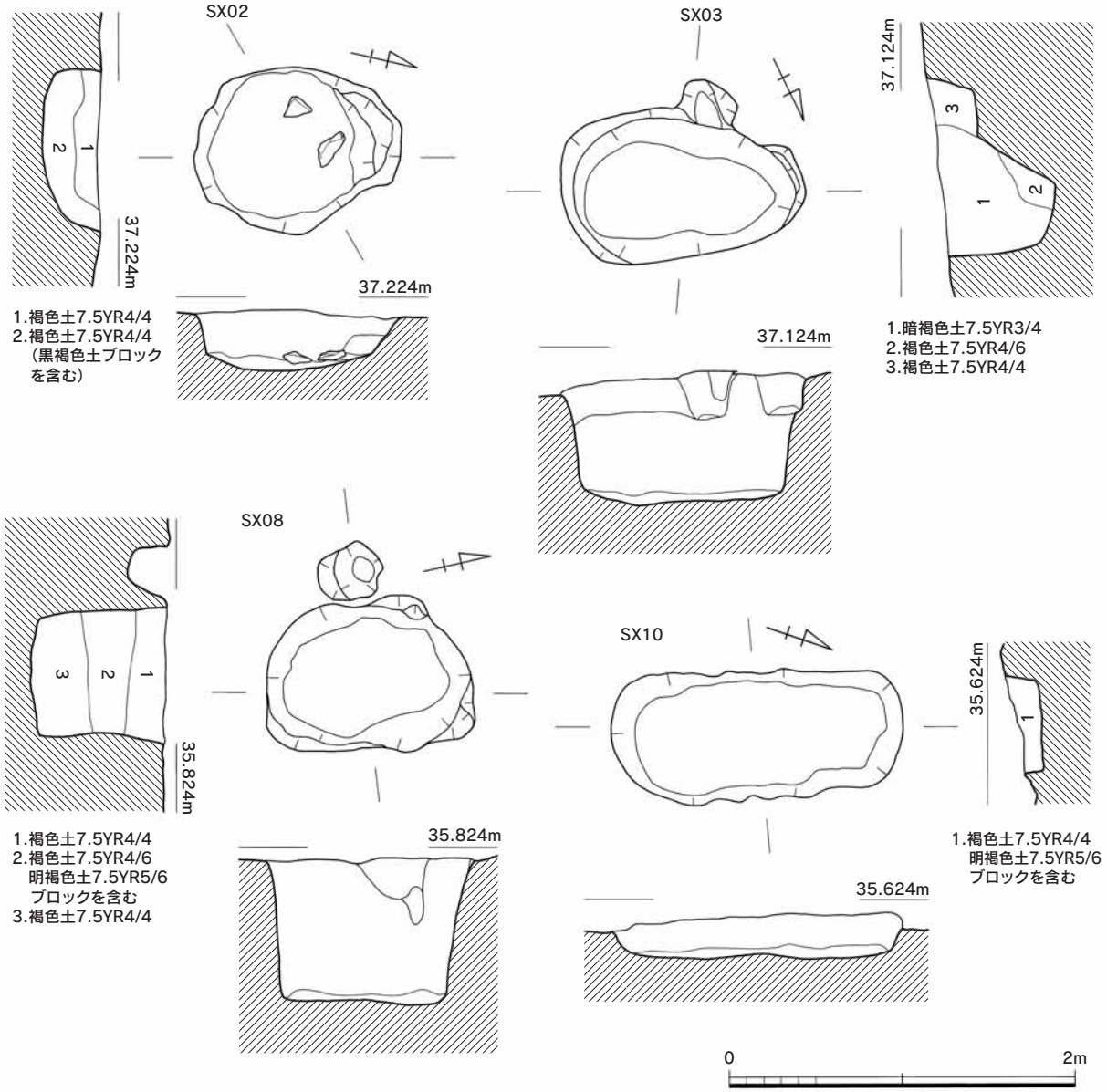


第36図　ＳＸ01実測図（1／40）

きる。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・土師質土器・朝鮮系雑釉陶器・石臼などがある。（石木）

出土遺物（第38図･図版57）

須恵器（191）　杯Ｂ蓋。天井部外面は平坦となり、口縁端部は折り曲げられ、断面三角形を呈す。天井部外面にヘラ記号らしき沈線が認められるが、残存部位が少なく明言できない。



第37図　２次ＳＸ02・03・08・10実測図（1／40）

土師器（192）　高杯である。胎土は精良で、欠損する裾部はラッパ状に開くか。

土師質土器（193）　鍋で、口縁部の屈曲は緩い。内面はハケメが施され、外面にススが付着している。

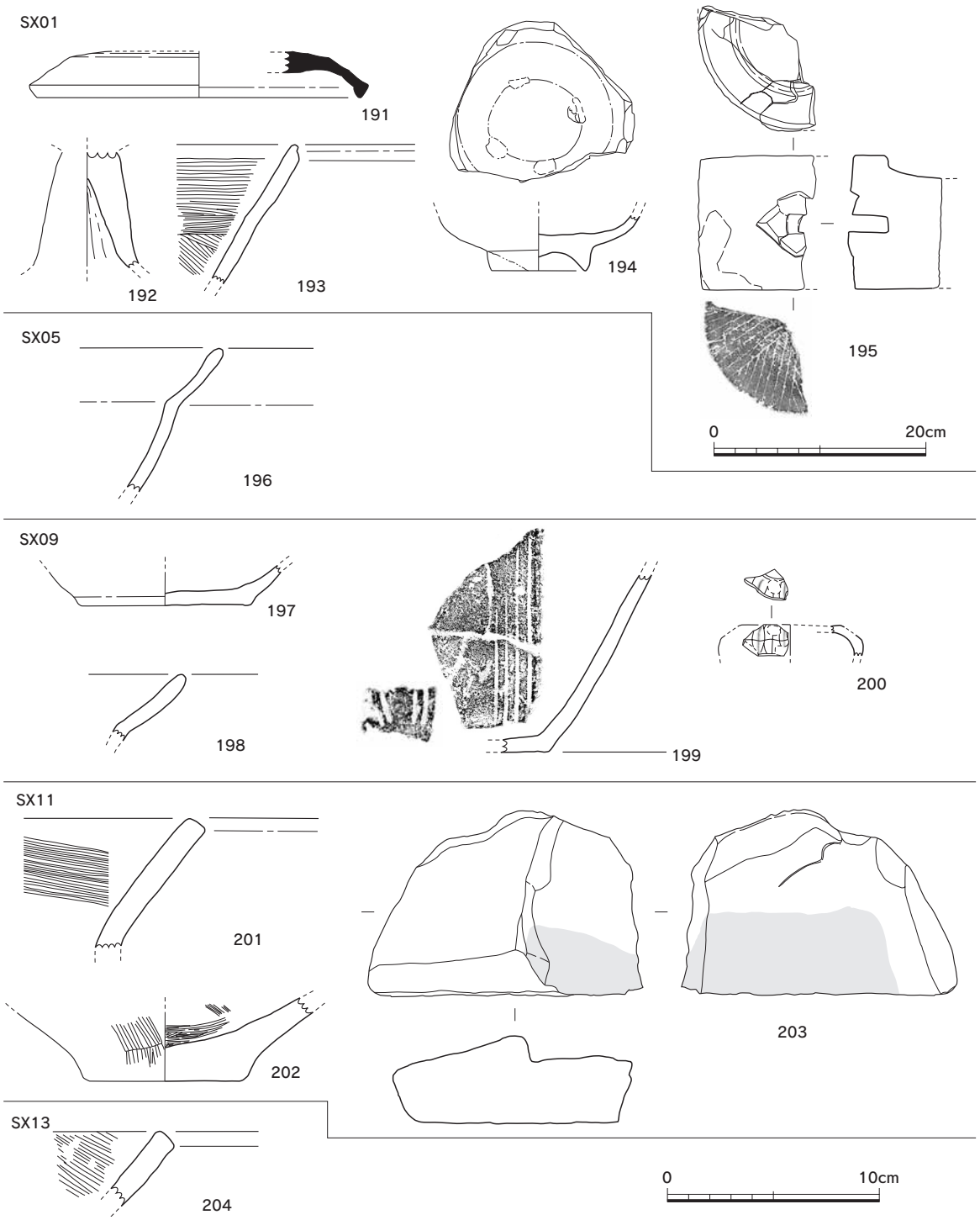
陶器（194）　朝鮮系雑釉陶器の椀である。見込みに目跡が見られ、内外面に施釉される。

石製品（195）　花崗岩製臼の上臼。目は主溝間は７本の副溝で構成され、摩滅が著しい。　（井上）

ＳＸ02（第37図）

調査区の南側、ＳＸ01の２ｍ南側に位置する。長さ1.20ｍ、幅0.96ｍ、深さ0.35ｍ。楕円形に近いプランを呈し、底面は浅くくぼむ。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器があり、奈良時代の遺物を含むが、小片のため図化できなかった。　（石木）

ＳＸ03（第37図）

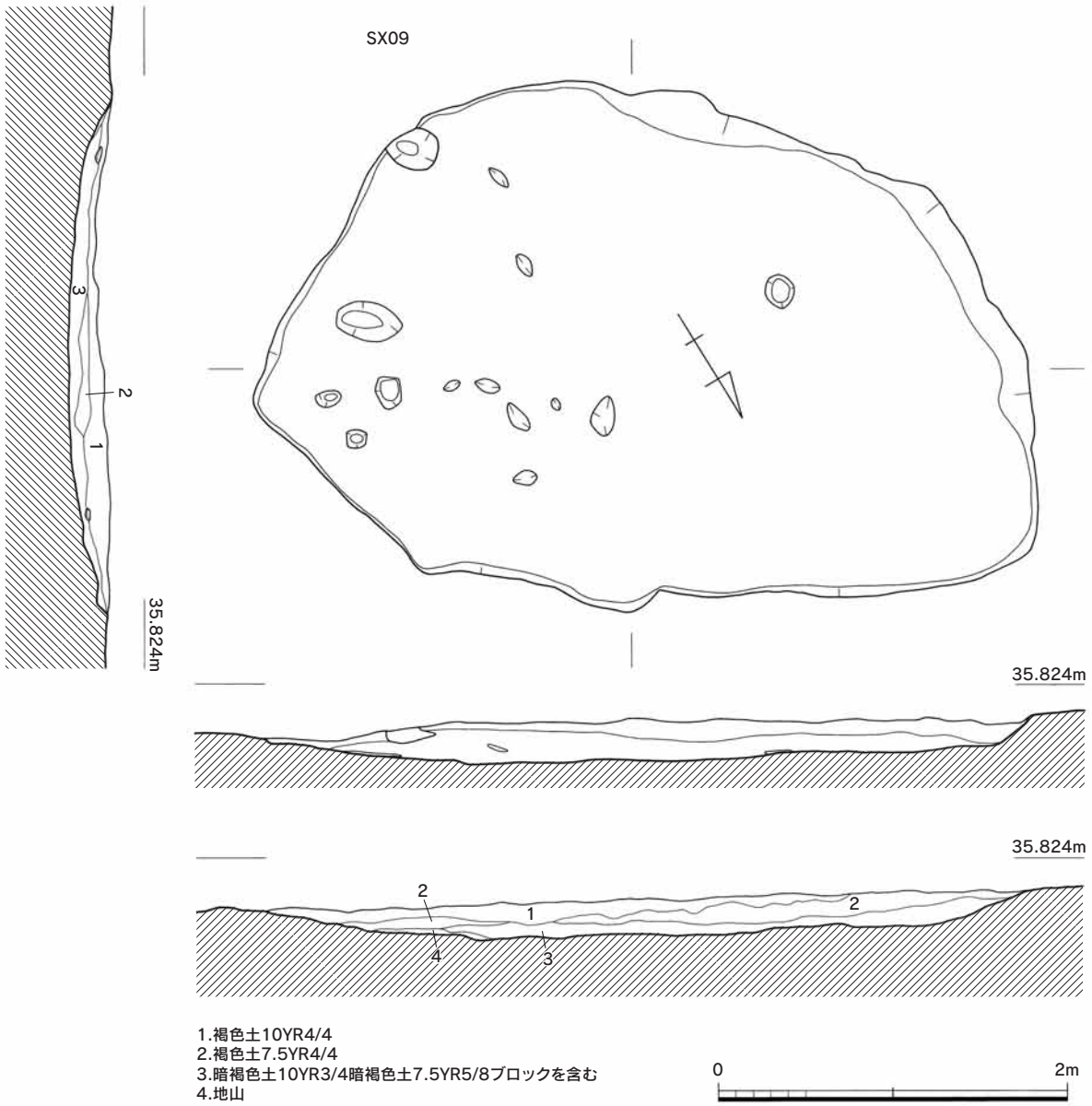


第38図　2次ＳＸ01・05・09・11・13出土遺物実測図（195は1／6、他は1／3）

調査区の南側に位置する。長さ1.42ｍ、幅0.88ｍ、深さ0.71ｍの楕円形プランを呈する。底面はほぼ平らで、掘方は箱形に近い。検出時は明らかにできなかったが、土坑南側ではピットを切っている。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は若干出土したが、小片のため土師器とも弥生土器ともつかない。（石木）

ＳＸ05（付図）

調査区の南側に位置し、ＳＤ05を切る。長さ1.42ｍ、幅0.94ｍ、深さ0.15ｍの長方形プランを



第39図　２次ＳＸ09実測図（1／40）

呈する浅い土坑である。出土遺物は須恵器・土師器・土師質土器・安山岩剥片などがある。（石木）

出土遺物（第38図）

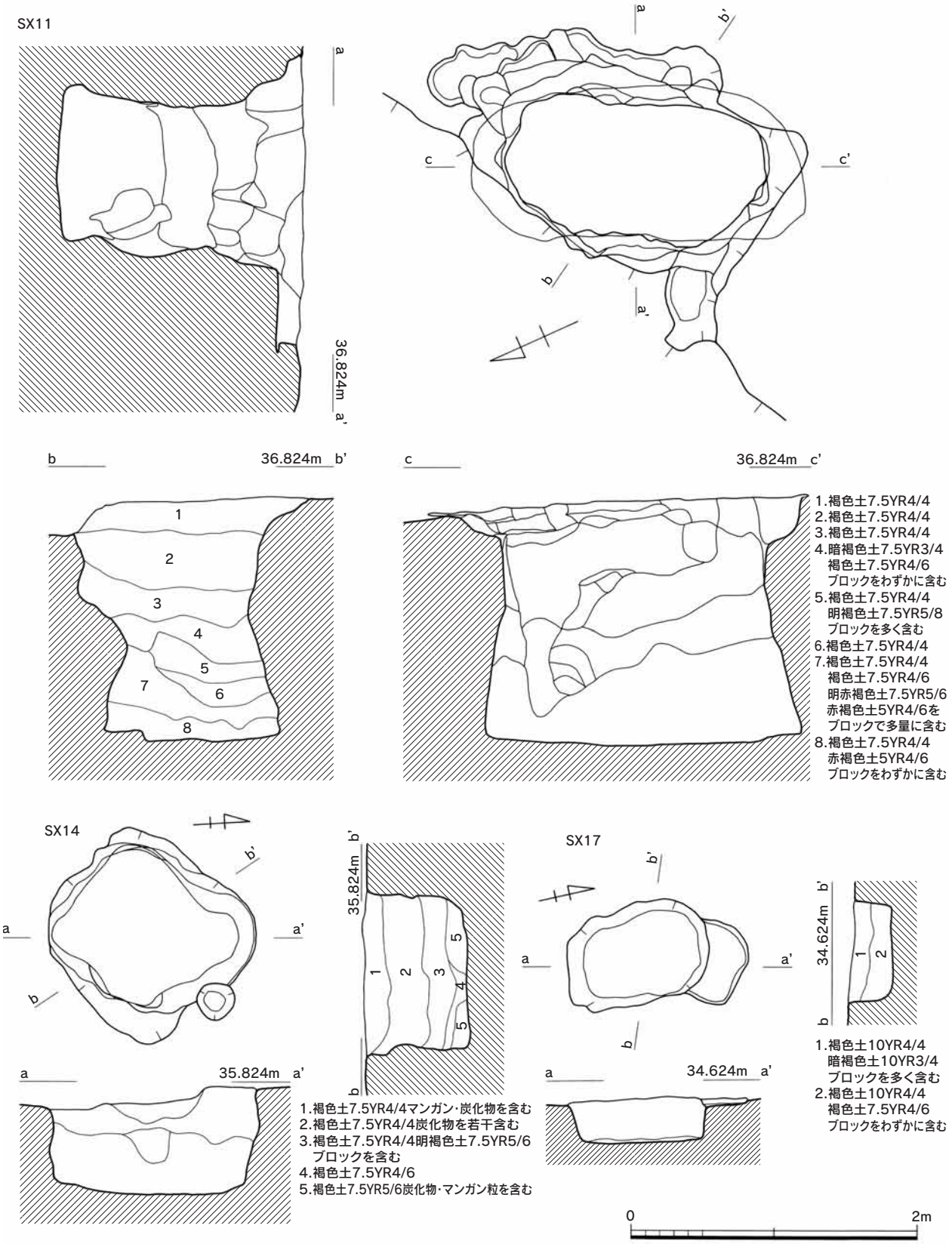
土師質土器（196）　鍋。口縁部は内湾し、内面の稜は明瞭である。（井上）

ＳＸ08（第37図）

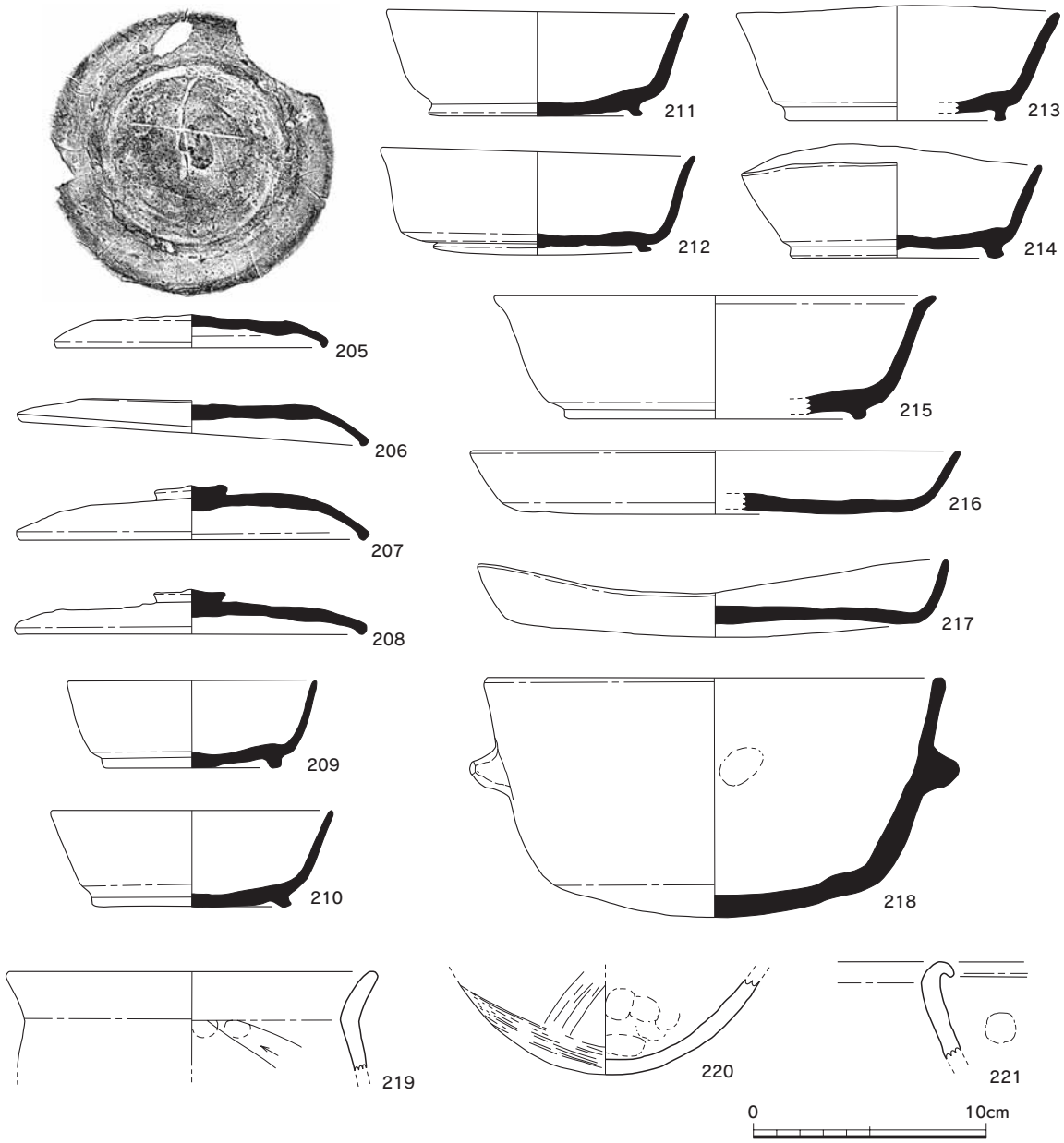
調査区の南側、ＳＤ03の北側に位置する。長さ1.20m、幅0.91m、深さ0.72mの楕円形プランを呈する。底面はほぼ平らで、掘方は箱形に近い。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は、安山岩の剥片が出土しているが、図化できなかった。（石木）

ＳＸ09（第39図･図版15）

調査区の南側、ＳＣ01の西側２mに位置する。長さ4.46m、幅2.95m、深さ0.20mの不整楕円形プランを呈する。底面は浅く、鍋底状を呈する。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・



第40図　２次ＳＸ11・14・17実測図（1／40）



第41図　2次ＳＸ15出土遺物実測図（1／3）

土師器・土師質土器・青磁・白磁・黒曜石・花崗岩などがある。　（石木）

出土遺物（第38図）

土師器（197）　杯。胎土は精良で、底部外面は糸切りである。

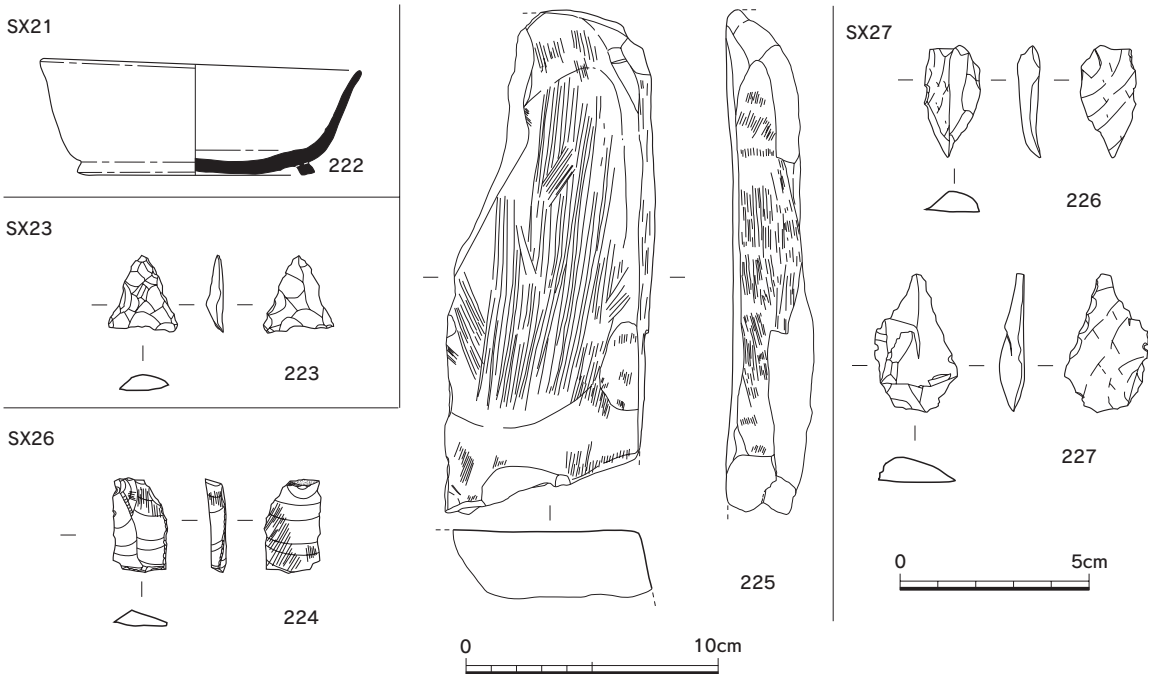
土師質土器（198・199）　198は鍋口縁片で、外面にススが付着している。199は擂鉢で、内面に擂目が施されている。

磁器（200）　青白磁、合子の蓋で花形の器型となるか。内面は露胎である。　（井上）

ＳＸ10（第37図）

調査区の南側、ＳＸ09の東側に接する。長さ1.69m、幅0.73m、深さ0.26mの隅丸長方形プランを呈する。底面は平らに近い。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器などが確認されたが、いずれも小片である。ヘラ切りと見られる土師器杯があるが、図化できなかった。

（石木）



第42図　2次ＳＸ21・23・26・27出土遺物実測図（223・224・226・227は1／2、他は1／3）

ＳＸ11（第40図･図版16）

調査区の南側、ＳＸ01の北側２ｍに位置する。長さ1.81ｍ、幅0.90ｍ、深さ1.73ｍの隅丸長方形プランを呈する。土坑の掘方は底面側が広がっており、平面プランは長さ2.30ｍ、幅1.09ｍの隅丸長方形を呈する。底面は平らに近く、埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・弥生土器・被熱する花崗岩・軽石などがあるが、須恵器は１層中に含まれ、混入と考えられる。（石木）

出土遺物（第38図）

土師器（201）　甕か？直線的で破損部から下方は膨らむ。内面は横位または斜位のハケメが施され、口縁端部は煤けている。

弥生土器（202）　壺底部である。平底で、内外面ともにハケメが施されている。

礫（203）　花崗岩で、表面が被熱のため赤変している。加工痕は認められない。（井上）

ＳＸ13（付図）

調査区の南側、ＳＸ01の東側３ｍに位置する。長さ1.90ｍ、幅0.50ｍ、深さ0.10ｍの不整形土坑である。須恵器・土師器・土師質土器などが出土した。（石木）

出土遺物（第38図）

瓦質土器（204）　素口縁の鉢で、内面にはハケメを施す。砂粒は少量しか含まず、焼成は不良である。（井上）

ＳＸ14（第40図）

調査区の南側に位置し、ＳＤ06に切られる。長さ幅ともに1.2ｍほどの正方形に近いプランをとる。深さ0.75ｍ。底面は平らで、掘方は箱形に近い。埋土は、褐色土を主体とする。出土遺物は弥生土器の小片があるが、図化できない。（石木）

ＳＸ15（第13図・図版17）

調査区の東壁近くに位置し、ＳＣ03・ＳＤ07を切る。径1.28～1.44mの不整円形を呈する。深さは0.28mと浅い皿形をなす。遺物は多量に出土したが、検出面から上層にかけての出土が多い。須恵器・土師器がある。（石木）

出土遺物（第41図・図版58）

須恵器（205～218）　205～208は杯Ｂ蓋。器高は低く、口縁端部は折り曲げ、天井部外面はヘラ切りである。206はつまみが外れる。207・208は低いつまみを持つ。209～215は杯Ｂ身。高台は低く、底部端からやや内側に貼り付ける。215の口縁端部は外反する。216・217は皿。いずれも焼成不良で、底部外面はヘラ切りである。218は把手付鉢である。素口縁で、丸底である。体部外面中位に把手を持つ。

土師器（219～221）　いずれも甕である。220は丸底で外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。221は口縁端部が強く外反する。小片のため傾きに難がある。（井上）

ＳＸ17（第40図）

調査区の東側、ＳＣ06の西側２mに位置する。長さ1.00m、幅0.70m、深さ0.30m。楕円形に近いプランを呈し、底面は平らで掘方は箱形になる。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物はない。（石木）

ＳＸ20（付図）

調査区の東側、ＳＣ06の北東側５mに位置する。長さ1.27m、幅0.74m、深さ0.42m。不整形プランを呈し、南東側はＳＰ311に切られる。埋土は黒褐色土。出土遺物は土師器・砥石などがある。（石木）

ＳＸ21（付図）

ＳＤ04を切る形で検出された。しかし、埋土や掘り込みの状況から、ＳＤ04と一連のものと考えられる。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器などがある。（石木）

出土遺物（第42図・図版59）

須恵器（222）　杯Ｂ身で体部は緩く口縁まで伸び、高台は低い。（井上）

ＳＸ23（付図）

ＳＤ01屈曲部の北側で確認された。ＳＤ01・ＳＰ692に切られる。長さ1.18m以上、幅0.88m、深さ0.30mの楕円形プランを呈する。底面は平らで、埋土は褐色土を主とする。出土遺物は弥生土器・安山岩製石鏃などがある。（石木）

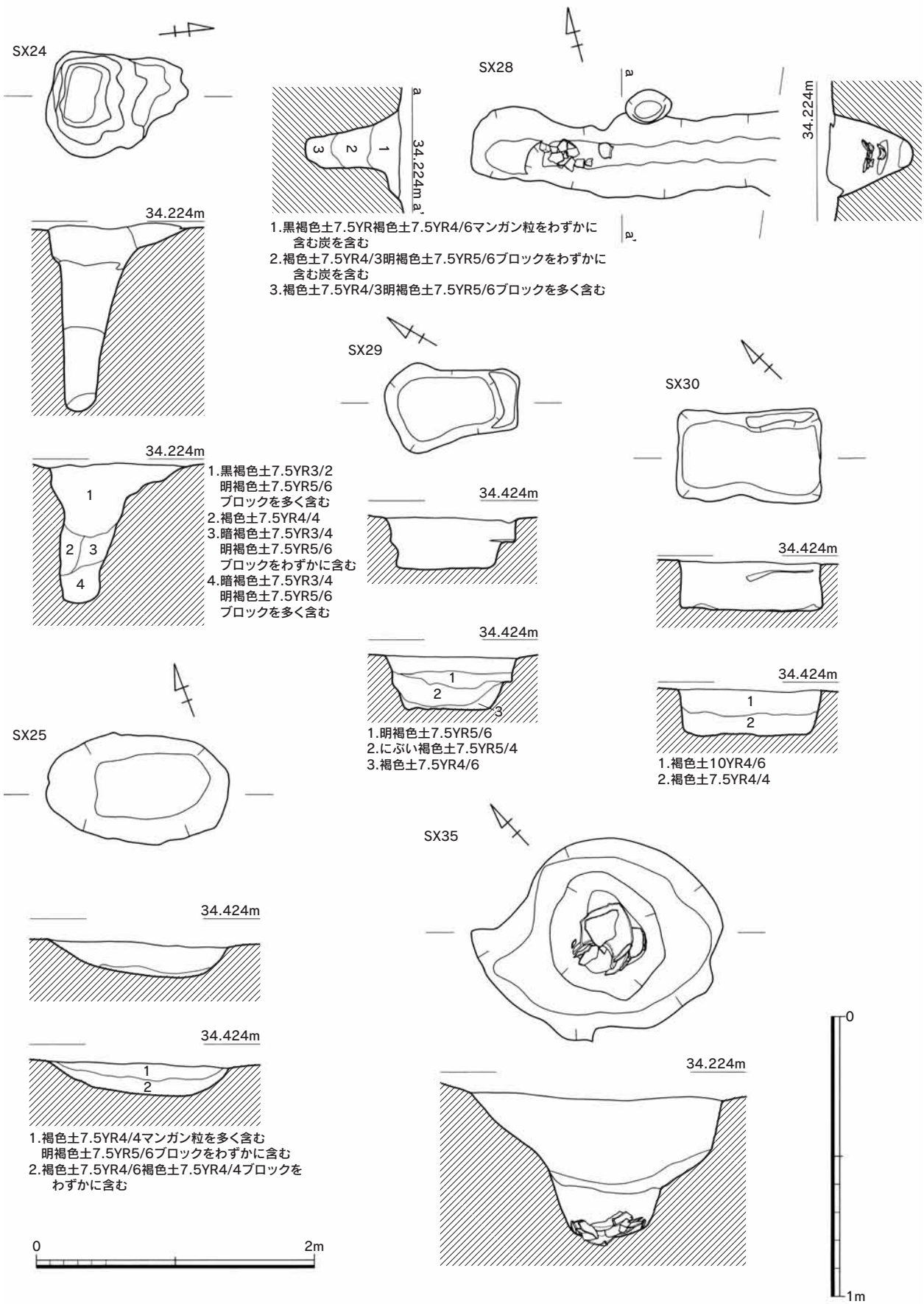
出土遺物（第42図・図版59）

石器（223）　安山岩製打製石鏃である。抉りは浅く、剥離は荒い。（井上）

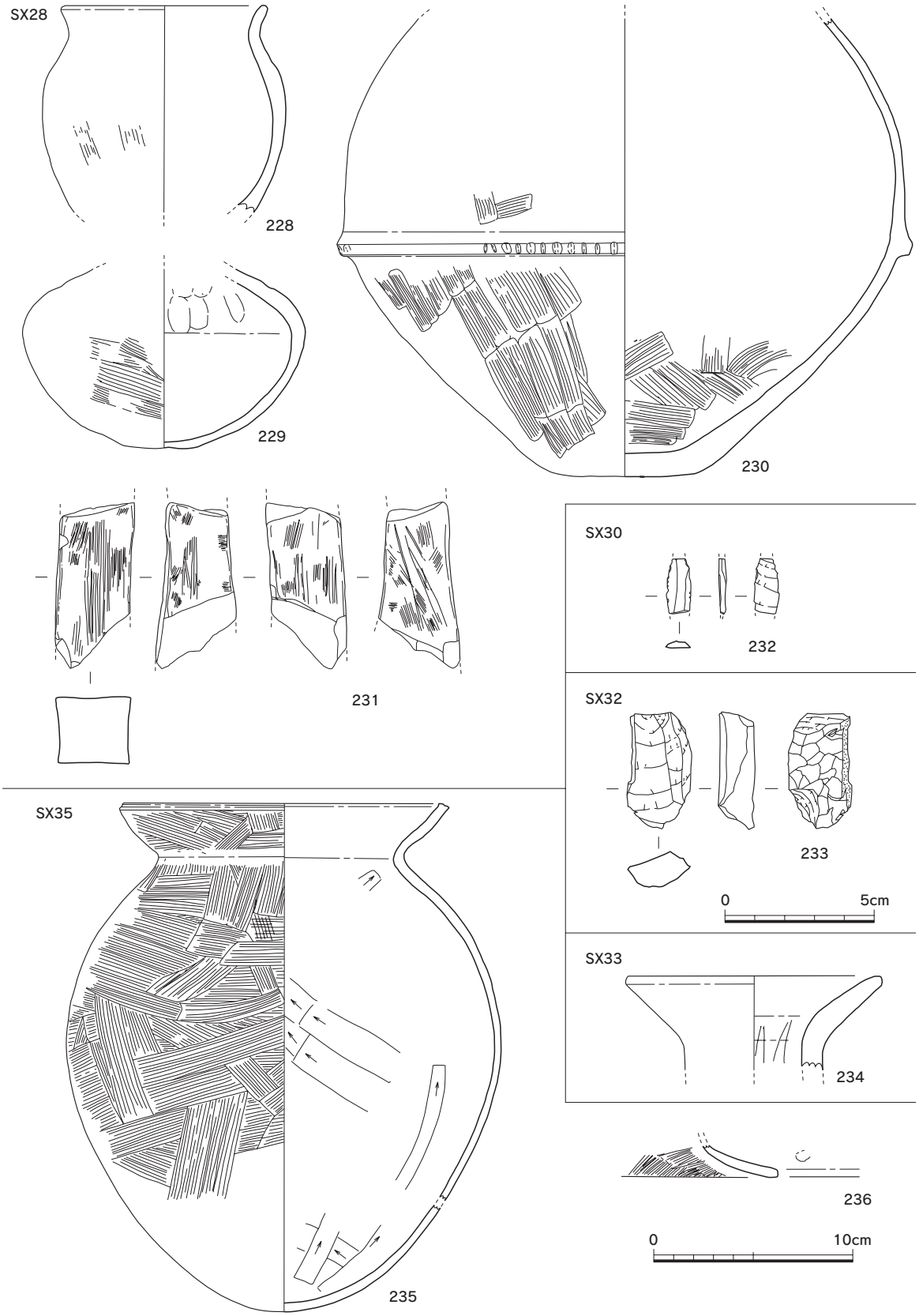
ＳＸ24（第43図・図版17）

調査区の東側、ＳＣ06の６m北側に位置する。長さ1.00m、幅0.74m、深さ1.35m。隅丸方形に近いプランを呈し、掘方は狭く深いが、北側は緩やかになる。底面は、長さ0.40m、幅0.20mの長方形プランを呈する。埋土は黒褐色土を主体とする。出土遺物は、弥生土器の小片が含まれるが、図化できなかった。（石木）

ＳＸ25（第43図）



第43図　２次ＳＸ24・25・28～30・35実測図（ＳＸ35は１／20、他は1／40）



第44図　2次ＳＸ28・30・32・33・35出土遺物実測図（232・233は1／2、他は1／3）

調査区の東側、ＳＸ35の６ｍ南側に位置する。長さ1.30ｍ、幅0.78ｍ、深さ0.22ｍの楕円形プランを呈する。鍋底状の浅い掘方を有し、埋土は褐色土を主体とする。出土遺物はない。　（石木）

ＳＸ26

調査区の東側、ＳＣ06の12ｍ北東側に位置する。長さ1.18ｍ、幅0.79ｍ、深さ0.20ｍの不整形プランを呈する。底面は凹凸が著しく、埋土は暗褐色土を主体とし、炭を含んでいた。出土遺物は、須恵器・土師器・黒曜石剥片などがある。　（石木）

出土遺物（第42図）

石器（224・225）　224は黒曜石製ユーズドフレイクである。一辺に刃こぼれ状の使用痕が認められる。225は凝灰岩製砥石の仕上げ砥である。破損しており全容は知れないが、残存部は２面を使用している。　（井上）

ＳＸ27（付図）

調査区の東側、ＳＣ06の６ｍ北側に位置する。耕地整理の溝により北側の一部を切られる。長さ1.32ｍ、幅0.97ｍ、深さ1.10ｍ。方形に近いプランを呈し、箱形に掘り込まれる。出土遺物は、安山岩製石器などがある。　（石木）

出土遺物（第42図）

石器（226・227）　226は安山岩製の剥片で使用痕は認められない。227は安山岩製ユーズドフレイクで、一辺に刃こぼれ状の使用痕が認められる。　（井上）

ＳＸ28（第43図・図版17）

調査区の東側、ＳＸ20北側に近接する。長さ2.18ｍ、幅0.5ｍ前後の溝状を呈し、東側は調査区外にのびる。西側は深さ40cmほどでテラスがつき、さらに底面は50～60cm、東側へむかって下がっている。埋土は黒褐色土を主体とし、炭を含む。中層辺りからは弥生土器の甕などが出土した。その他、砥石・黒曜石チップがある。　（石木）

出土遺物（第44図・図版59）

弥生土器（228～230）　228は甕で、体部外面は器表が摩滅しており明瞭ではないが、ハケメではなかろうか。体部最大径が口径を超える。229・230は壺で、体部は算盤玉状の形態である。230は体部外面と底部外面の境は丸みを帯び、体部中位に突帯を貼り付け、刻目を施す。

石器（231）　泥岩製の砥石である。鉄製品の刃部を研磨した痕跡が認められる。　（井上）

ＳＸ29（第43図）

調査区北東側に位置する。長さ0.95ｍ、幅0.63ｍ、深さ0.36ｍ。小型の長方形プランを呈する。底面は平らで、埋土は明褐色土から褐色土。出土遺物はない。　（石木）

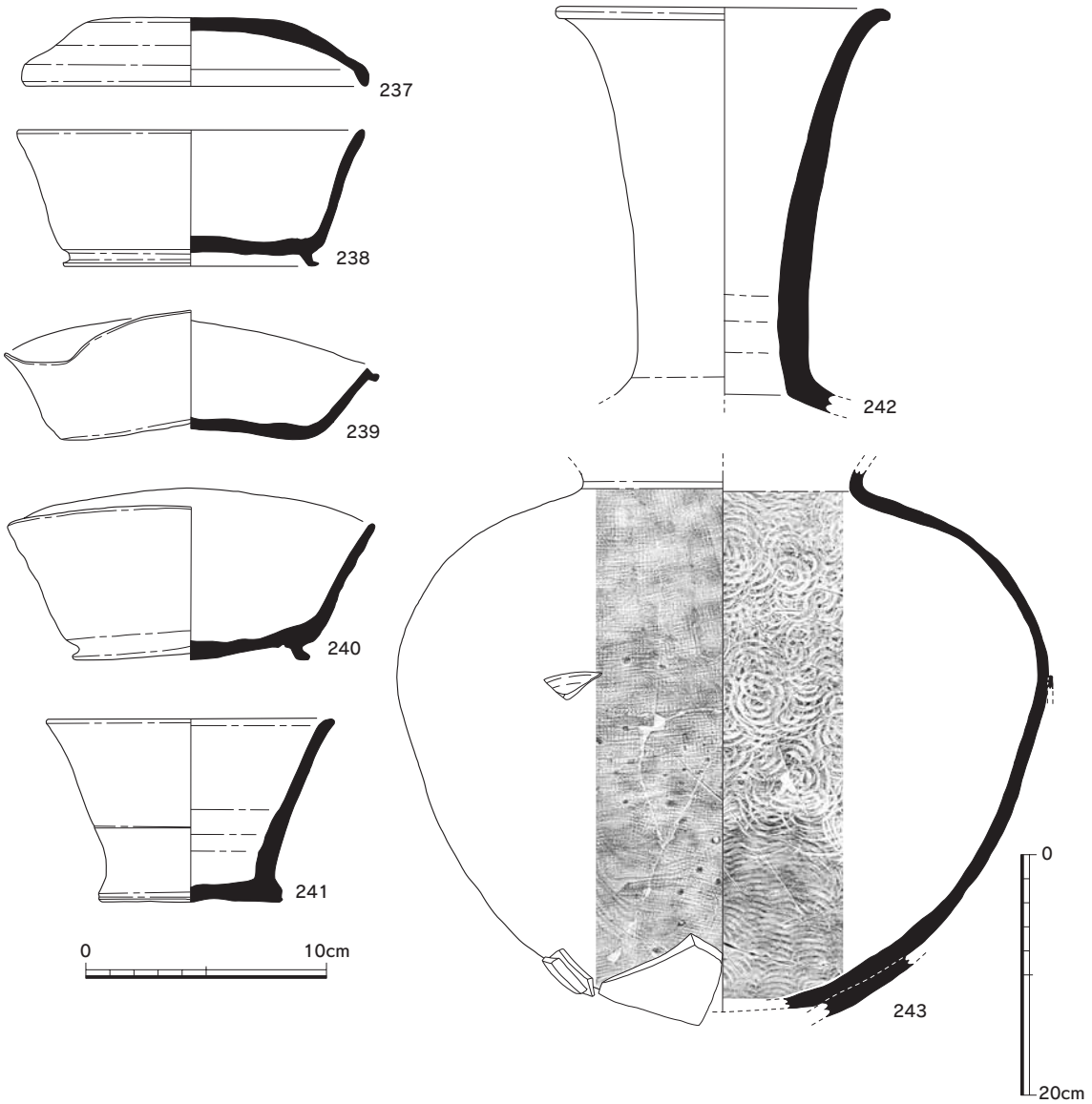
ＳＸ30（第43図）

調査区北東側に位置する。長さ1.03ｍ、幅0.65ｍ、深さ0.32ｍ。小型の長方形プランを呈する。底面は平らで、埋土は褐色土を主体とする。出土遺物は、安山岩製細石刃がある。　（石木）

出土遺物（第44図・図版59）

石器（232）　安山岩製細石刃である。縦長剥片の側面に微細な細部調整を施している。　（井上）

ＳＸ32（付図）



第45図　2次ＳＸ39出土遺物実測図①（243は1／6、他は1／3）

調査区北東側に位置する。径0.70m、深さ0.53mの円形プランを呈する。当初柱穴かと考えて掘り下げをおこなったが、柱痕を確認できず、土坑と判断した。底面は平らで、埋土はにぶい褐色土である。出土遺物は、須恵器・土師器・石器などがある。（石木）

出土遺物（第44図・図版59）

石器（233）　安山岩の石核である。縦長剥片を剥ぎ取った痕跡が認められる。（井上）

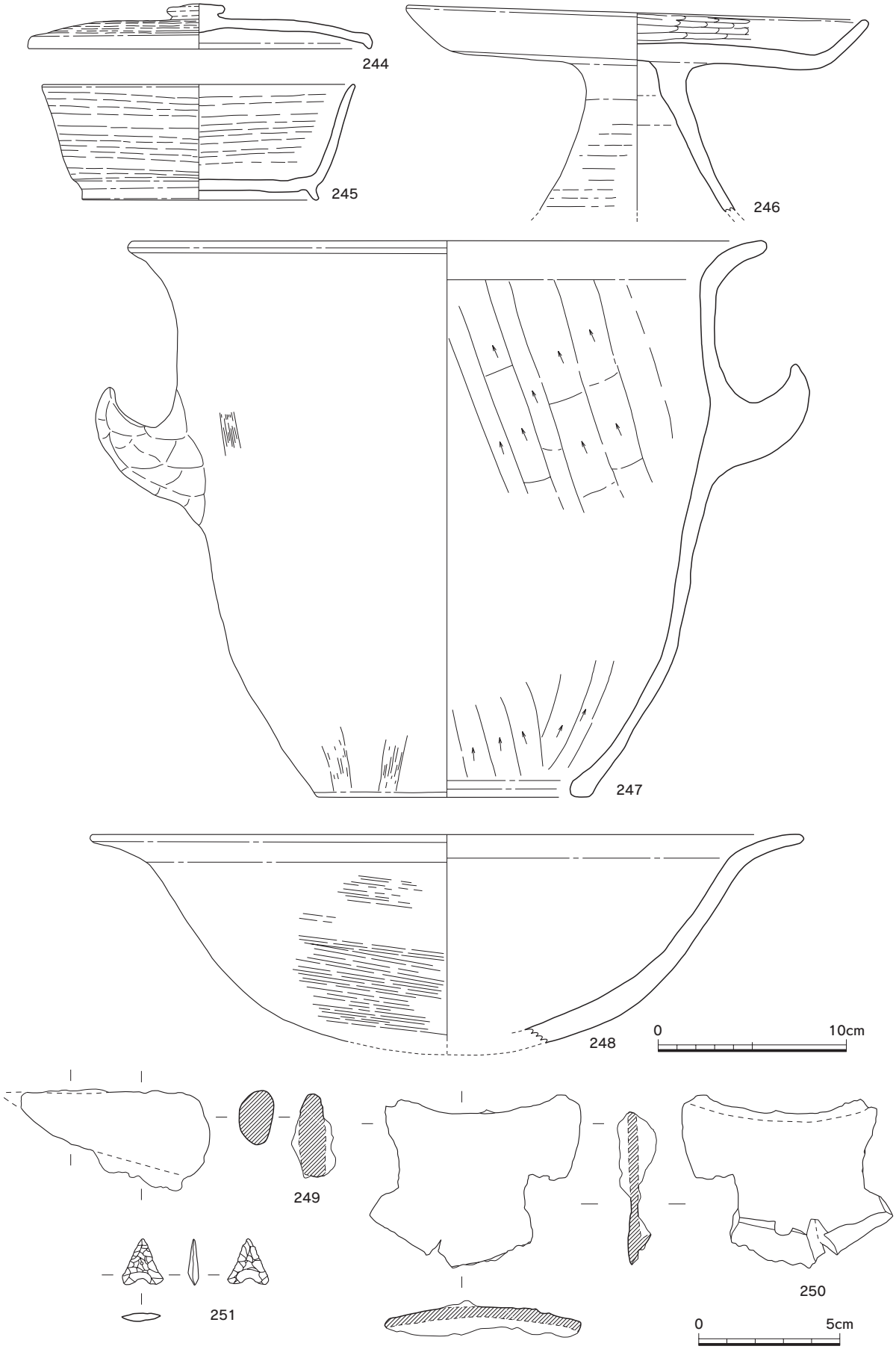
ＳＸ33（付図）

調査区の北東側に位置する。幅0.56～0.8mの溝状を呈し、東側は調査区外へむかってのびる。底面は一部ピット状に掘り下げられており、深さは約0.25～最大0.44mである。出土遺物は、弥生土器・土師器・黒曜石、安山岩チップ・焼土塊などがある。（石木）

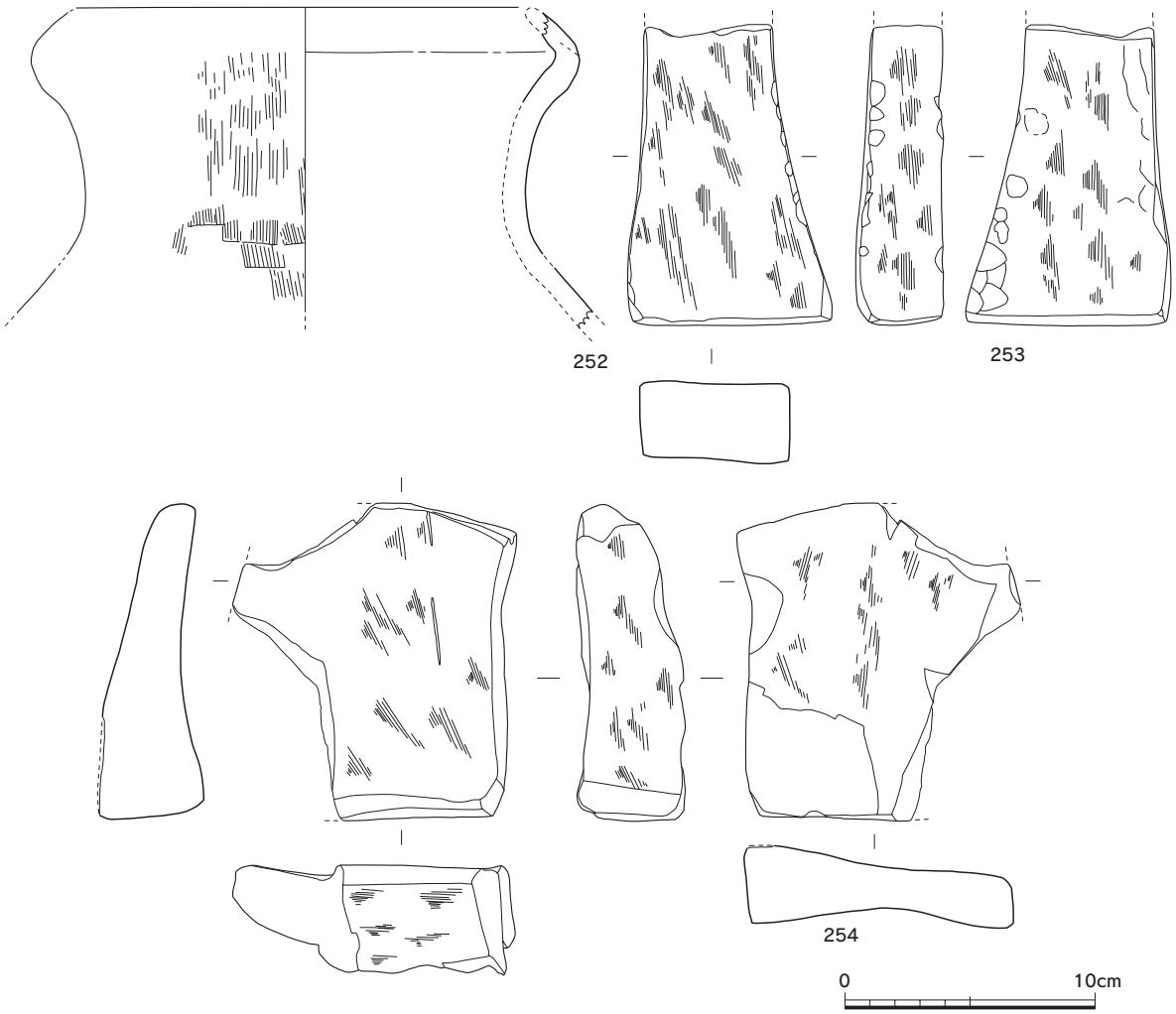
出土遺物（第44図）

土師器（234）　器台の上端部でラッパ状に開く。中位内面には絞り痕が認められる。（井上）

ＳＸ35（第43図・図版18）



第46図　2次ＳＸ39出土遺物実測図②（249～251は1／2、他は1／3）



第47図　2次ＳＸ40出土遺物実測図（1／3）

調査区の北東側、ＳＸ33西側３ｍに位置する。検出当初は長さ2.80ｍ、幅1.90ｍの不整形プランの広がりが確認されたが、５cmほど掘り下げた結果、土坑・ピットが確認された。このため、新たに検出された遺構のうち、遺物の出土した土坑をＳＸ35とした。径0.65～0.90ｍの円形プランを呈し、掘方は二段掘り状に下がり、底面は鍋底状を呈する。深さは1.06m。土坑底面からは、古式土師器甕がまとまって出土した。出土状況から、完形に近い状態で投棄されたものと考えたが、その後の接合作業がまずく、全体を復元することができなかった。（石木）

出土遺物（第44図・図版59）

土師器（235・236）　235は布留系甕。口縁部は内湾し、体部は倒卵形で、体部中位よりやや上方に最大径がある。236は高杯脚裾部である。胎土はやや粗く、内面にはハケメを施す。（井上）

ＳＸ39（第71図・図版18）

調査区の東側、ＳＤ07・09・12の交差する所にあたる。検出面では、長さ5.48ｍ、幅3.56ｍの土坑状のプランが検出され、20cm程度の深さに遺物が集中していたため、調査時は土坑と判断した。しかし、土坑掘方が平面・断面とも溝との区別がつけられず、溝の埋没時に遺物が投棄された可能性を否定することができない。このことから、ここではＳＤ09→ＳＤ07→ＳＸ39の順序を考えてお

きたい。埋土は暗褐色土。出土遺物は、須恵器・土師器・鉄刀子・黒曜石、安山岩チップなどがある。（石木）

出土遺物（第45図・図版60・61）

須恵器（237～243）　237は杯Ｂ蓋である。天井部外面は平坦で、口縁部は丸みを持つ。238・240は杯Ｂ身である。体部は深く、高台は低く外方へ突っ張る。底部外面は、238は回転ヘラケズリ、240はヘラ切りである。239は杯で、焼け歪みが著しい。241はすり鉢である。242は長頸壺である。243は大甕である。釉着している須恵器片４片のうち、３片は底部外面である。釉着位置と降灰位置から、正置で体部外面の破片釉着部を窯壁側にして焼成する。

土師器（244～248）　244～246の器形は須恵器であるが、244の杯Ｂ蓋、245の杯Ｂ身、246の高杯、いずれも丁寧な回転ヘラミガキが施されている。247は甑である。口縁部は外反し、裾部にむかってすぼまる。体部外面中位のやや上方に把手を貼り付ける。248は鉢である。体部は浅く、丸底で、体部外面はカキメが施される。

鉄器（249・250）　いずれも用途不明である。249の断面は円形で、刃部はついていない。250は先端が折り込まれて、鋤先状を呈する。厚さは3～4mmと薄く、横断面形は弧を描いている。上端部は生きているが、左右側面はまだ伸びるようである。

石器（251）　安山岩製打製石鏃で剥離は丁寧である。（井上）

ＳＸ40（付図）

調査区中央部よりやや東側に位置する。長さ1.45m、幅0.84m、深さ0.32mの楕円形プランを呈する。調査時この土坑周辺に住居跡の存在（ＳＣ10）を考えたが、住居プラン・掘方など認定するにいたらなかった。出土遺物は、弥生土器・石器などがある。（石木）

出土遺物（第47図）

弥生土器（252）　壺である。口縁部は袋状を呈し、頸部と体部の境はなだらかでしまりがない。

石器（253・254）　253は砂岩製砥石で３面を砥面として使用している。254は４面を砥面として使用しており、表面にマンガンもしくは煤、もしくは炭状のものが付着している。（井上）

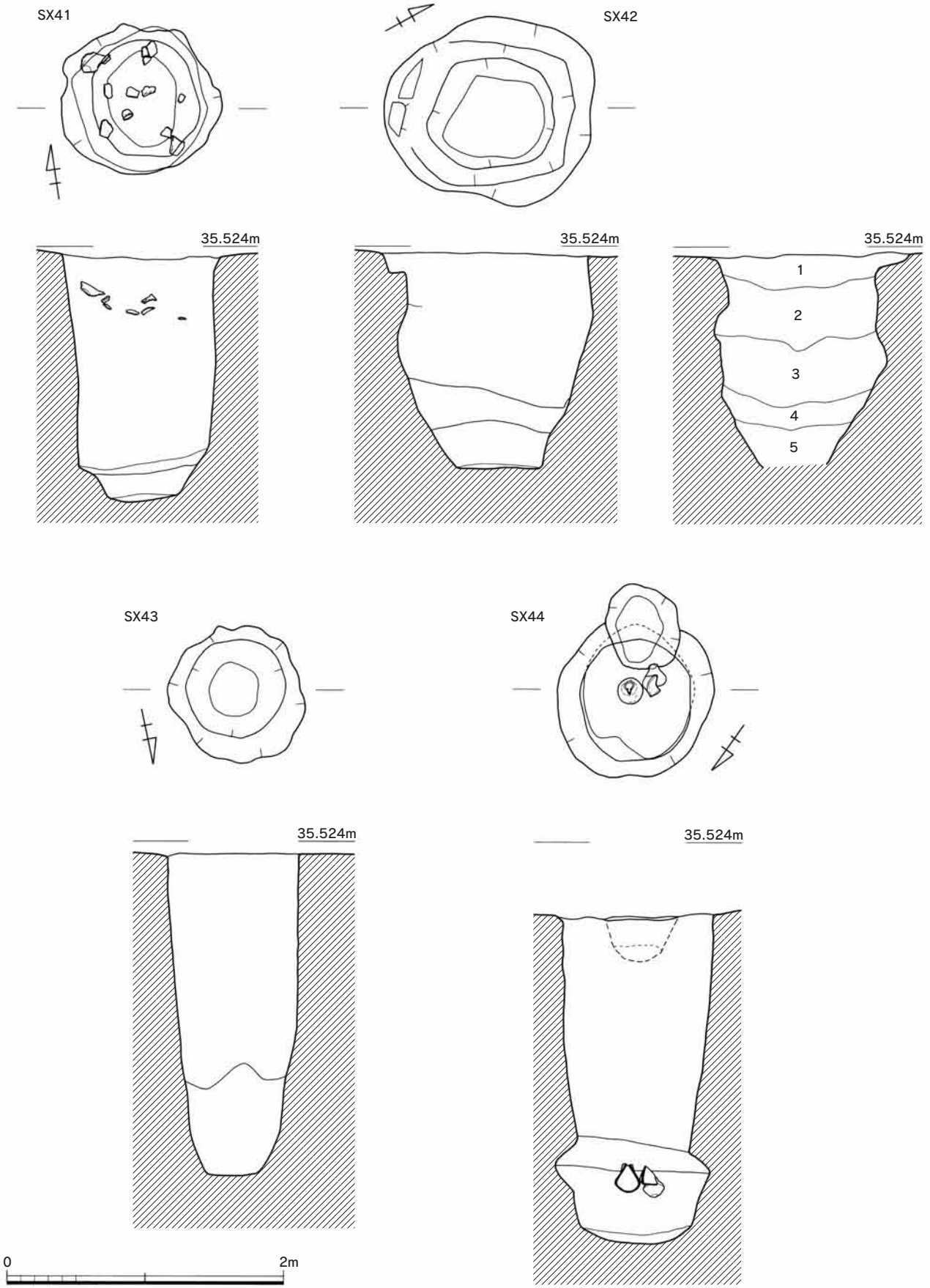
ＳＸ41（第48図・図版19）

調査区の中央部よりやや南側に位置する。ＳＸ42・43と隣接する。径1.07～1.15m、深さ1.80mの円形プランを呈する井戸である。ＳＸ42・43を含め、調査時も水が湧き出すような状況であった。遺物は、上層から最下層にかけて満遍なく出土している。弥生土器・焼土塊などがあり、祭祀土器を含め、多量の出土があった。（石木）

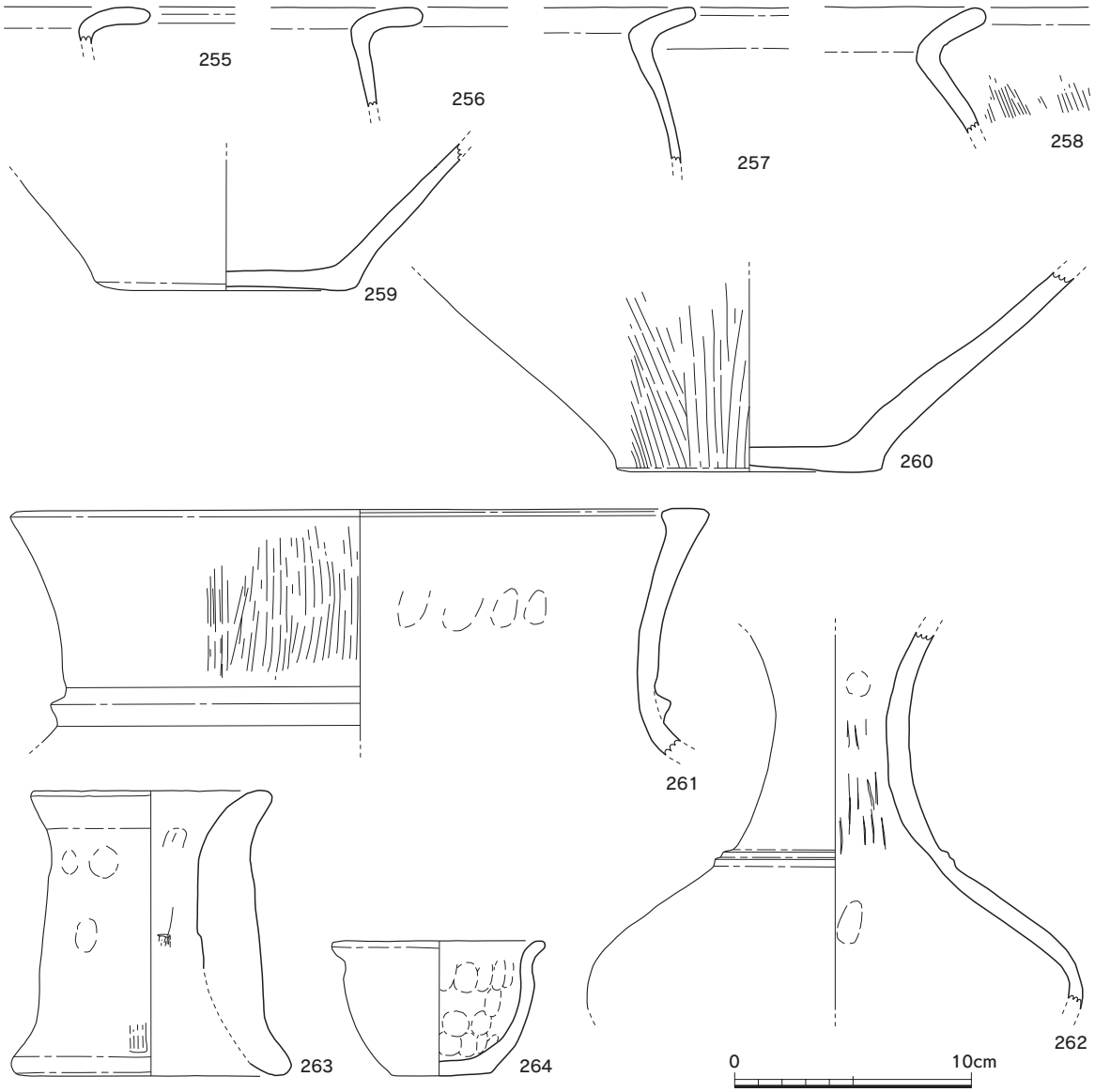
出土遺物（第49図・図版61）

弥生土器（255～264）　255～258は甕。口縁部は屈曲する。259～262は壺。261の口縁端部は内側が突出し、頸部は短い。頸部と体部の境に断面三角形の突帯を貼り付けている。262は袋状口縁壺である。外面は器表が摩滅しており、ヘラミガキは認められない。263は支脚である。器高は低く、口縁端部と脚裾部は開く。264はミニチュア土器、鉢である。口縁端部は外反し、底部は平底である。（井上）

ＳＸ42（第48図・図版20）



第48図　２次ＳＸ41～44実測図（1／40）



第49図　2次ＳＸ41出土遺物実測図（1／3）

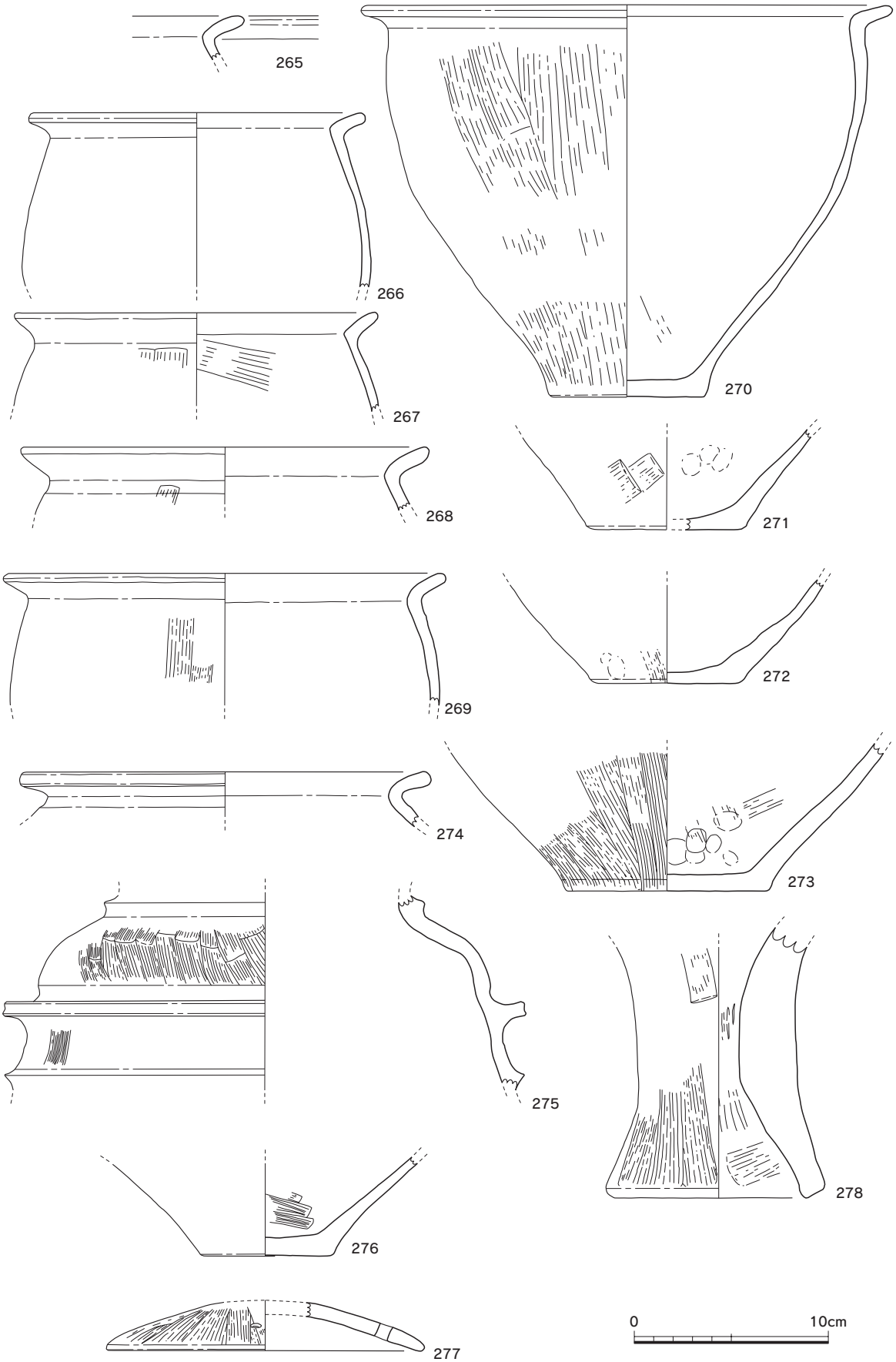
調査区中央部よりやや南側に位置する。径1.32～1.49m、深さ1.55mの円形プランを呈する井戸である。側壁は崩落が著しい。出土遺物の量は少ない。須恵器・弥生土器・安山岩剥片などがあるが、図化できるものはなかった。（石木）

ＳＸ43（第48図・図版21）

調査区中央部よりやや南側に位置する。径0.99m、深さ2.30mの円形プランを呈する井戸である。上層から下層まで遺物の出土を見る。弥生土器がある。（石木）

出土遺物（第50図・図版61）

弥生土器（265～278）　265～269・271～274は甕で、口縁部は屈曲する。274は口縁部の屈曲は強い。270は鉢としたが、判断に迷う。口縁部は屈曲し、体部上位が張り、底部は平底である。275・276は壺である。275は丹塗土器、瓢形壺で、肩部外面にハケメを施す。277は無頸壺の蓋である。口縁部上方に小孔が穿たれ、外面は放射状にハケメが施される。278は器台で、外面に縦位のハケメが施される。（井上）



第50図　2次ＳＸ43出土遺物実測図（1／3）

ＳＸ44（第48図・図版22）

調査区のほぼ中央部に位置する。径1.07～1.21ｍ、深さ2.33ｍの円形プランを呈する井戸である。南側の一部はＳＰ637に切られている。側壁下部は算盤玉状に広がっており、調査時ここに湧水点があったことから、侵食による崩落と考えられる。遺物はこの広がった部分から弥生土器が多量に出土しており、丹塗りの壺が２点正置した状態で出土した。また底面からは、打ち割られた花崗岩板石が出土しており、一部が失われていることから何らかの祭祀行為に用いられたと考えられる。弥生土器・台石などがある。（石木）

出土遺物（第51・52図・図版62・63）

弥生土器（279～291）　279～283は甕。口縁部は屈曲し、内面に稜がみられる。283は丹塗土器で、口縁端部には刻目が施される。284は壺で、袋状口縁壺の口頸部を打ち欠いていると考えられる。口縁部外面の沈線は焼成後に器表を引っ掻いてつけられたもので、打ち欠く際の目印にした可能性がある。口縁部下の小孔は焼成後外面側から穿孔されている。285～287は丹塗土器、袋状口縁壺である。286は丁寧にヘラミガキが施されている。287の体部最大径はやや下方にあり、底部は焼成後に打ち欠かれている。頸部も故意に打ち欠かれている可能性があるが、摩滅が著しく判断できない。288は壺で頸部外面と体部外面の境に突帯を貼り付ける。289は鉢である。平底で、口縁端部はやや内湾する。290・291は器台である。内外面ともに指頭圧痕がみとめられる。

石器（292・293）　花崗岩製、台石である。292は扁平な円礫を使用している。表面は小さな凹凸が激しい。293も扁平な礫であるが、加工痕は認められない。（井上）

ＳＸ45（第53図・図版23）

調査区の中央部よりやや南側に位置する。径0.78～0.95ｍ、深さ0.45ｍの円形プランを呈する。底面は凹凸が著しく、南側は大きく下がる。埋土は、上層は黄褐色土、下層は暗褐色土。上層から下層にかけて、土師器・黒色土器・棒状土製品など多量の遺物が出土した。土層の堆積状況から、土師器などが一括廃棄された様子が伺えるが、投棄段階では土坑はある程度埋没していたと考えられる。（石木）

出土遺物（第54図・図版63・64）

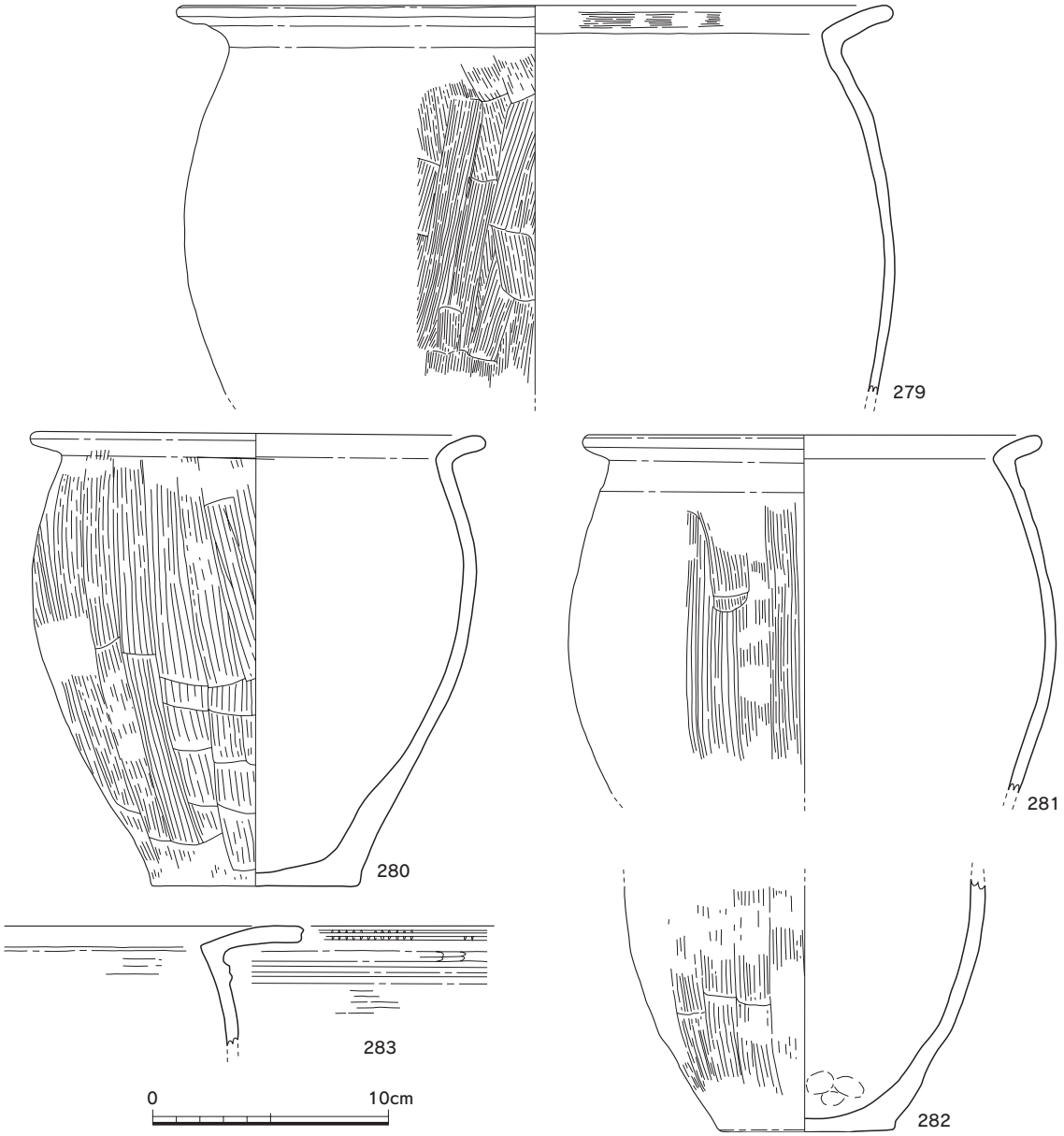
土師器（294～309・311）　294～299は小皿で、底部外面はいずれもヘラ切りである。300～309・311は丸底杯である。

黒色土器（310・312～314）　312はＡ類、310・313・314はＢ類の椀である。310は底部外面に高台が剥落したような痕跡がみられる。いずれも器表が摩滅しているため、ヘラミガキは部分的にしか認められない。

土製品（315）　棒状土製品で、一端が先細りしている。２面は平坦であるが、他の２面は緩く膨らむ。二次焼成をうけたような痕跡は認められない。（井上）

ＳＸ49（第53図・図版24）

調査区の中央部よりやや西側に位置する。長さ1.52ｍ、幅1.04ｍ、深さ0.30ｍの極めて不整形なプランを呈する。底面は水平に近く、東側は箱形に掘り込まれるが、西側はテラスをもつ。埋土は褐色土～黒褐色土を主体とし、炭化物を若干含む。出土遺物は、弥生土器がある。（石木）



第51図　2次ＳＸ44出土遺物実測図①（1／3）

出土遺物（第55図）

弥生土器（316・317）　須玖Ⅱ式の甕である。316は口縁片で、口縁端部下端が厚い。317は底部片で器種は壺となろうか。やや上げ底を呈す。（井上）

ＳＸ50（第53図・図版24）

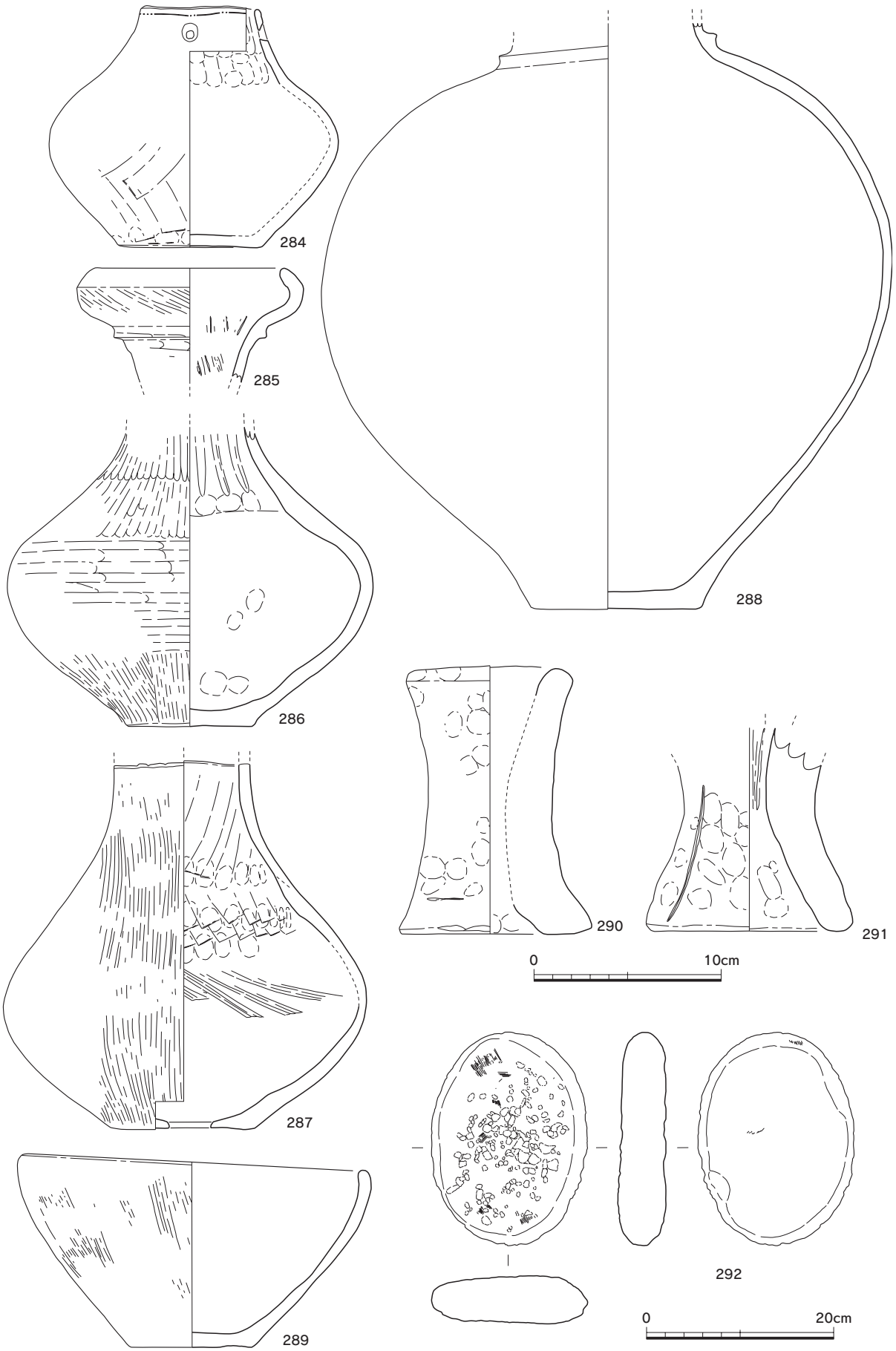
調査区の中央部やや西側に位置する。長さ1.16m、幅1.12m、深さ0.23mの略円形プランを呈する。底面は水平に近く、掘方は逆台形に近い。埋土は灰黄褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・石器などがある。（石木）

出土遺物（第55図・図版64）

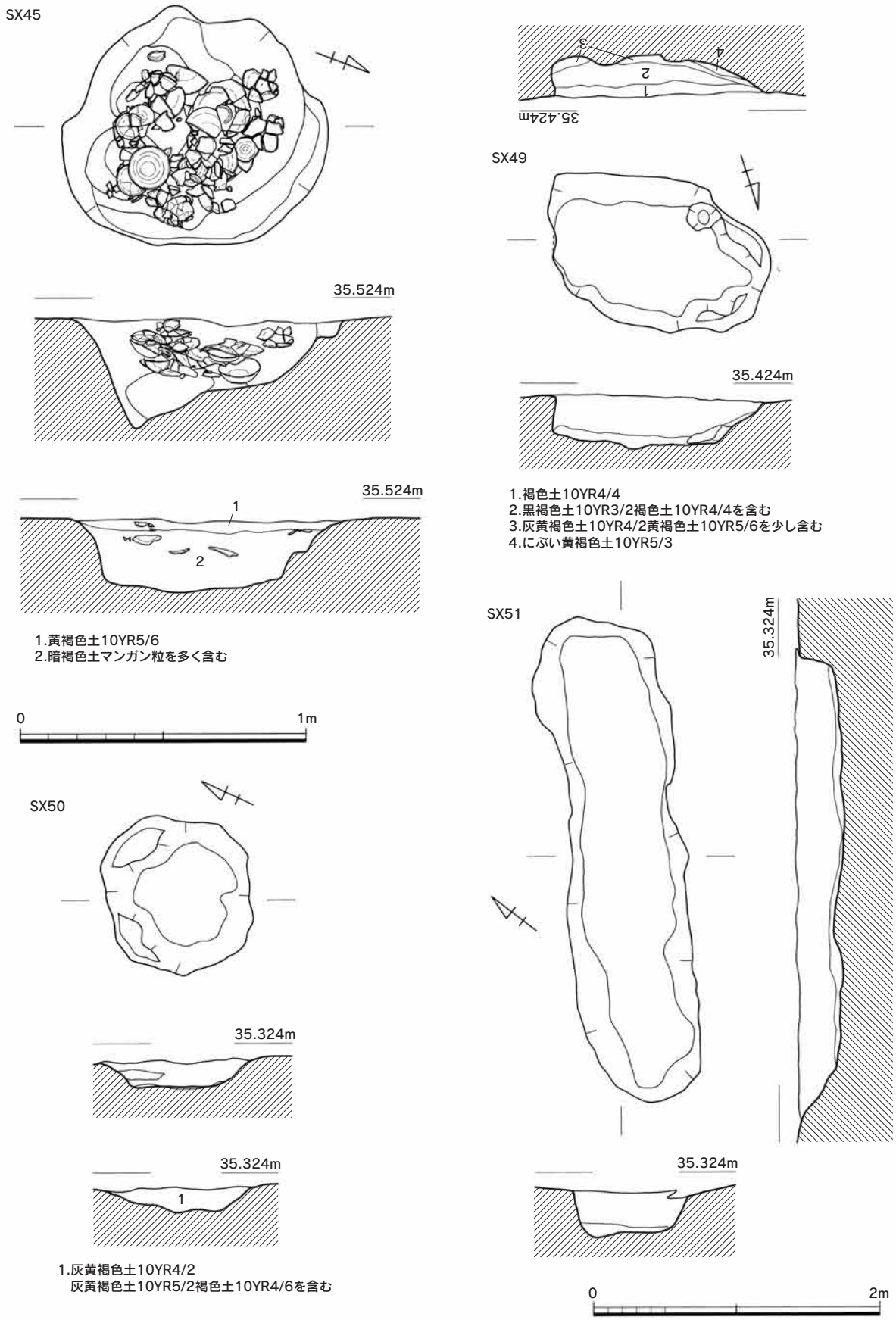
土師器（318）　椀である。高台は低く、外向きに貼り付けられる。

石器（319）　輝緑凝灰岩製石庖丁で、背部寄りに小孔が穿たれる。（井上）

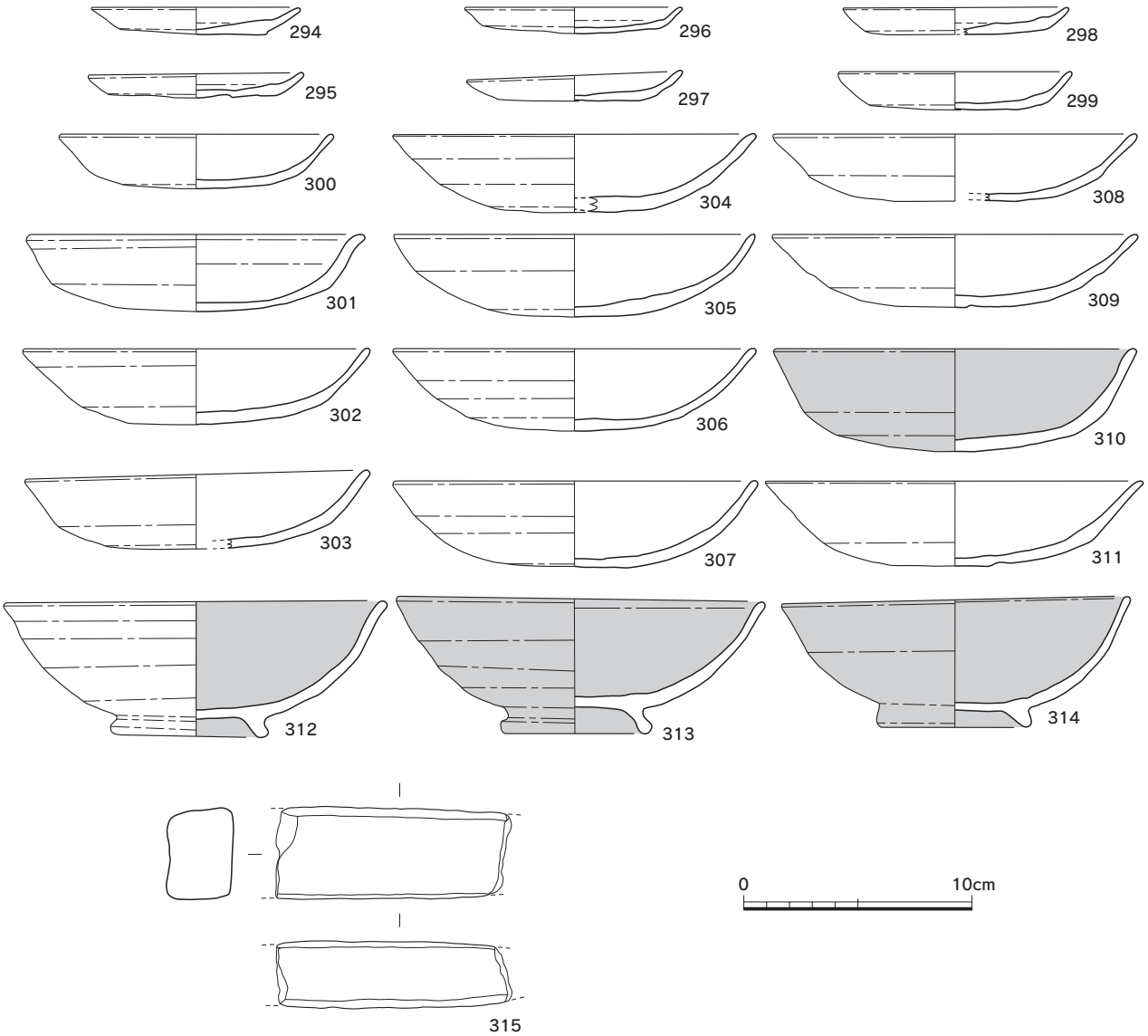
ＳＸ51（第53図・図版25）



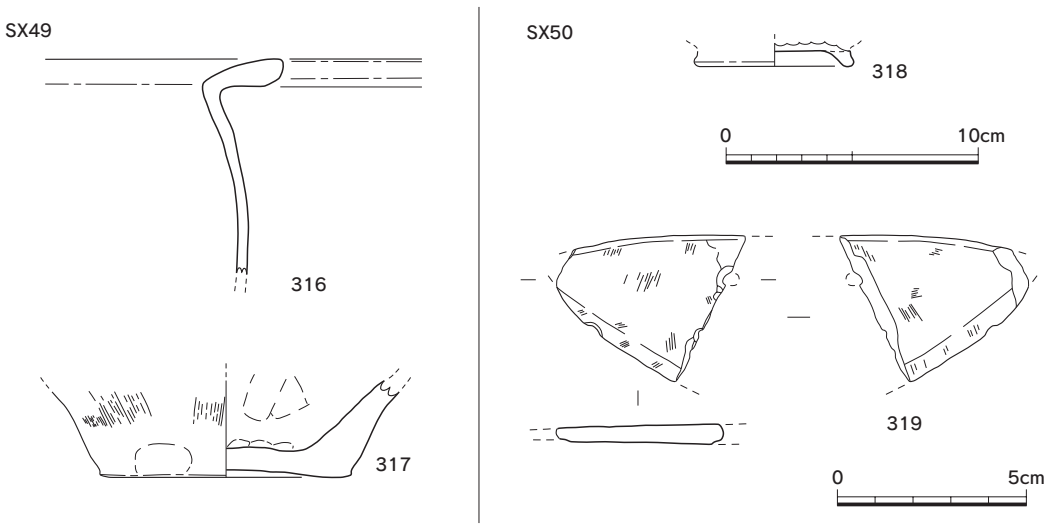
第52図　2次ＳＸ44出土遺物実測図②（292は1／6、他は1／3）



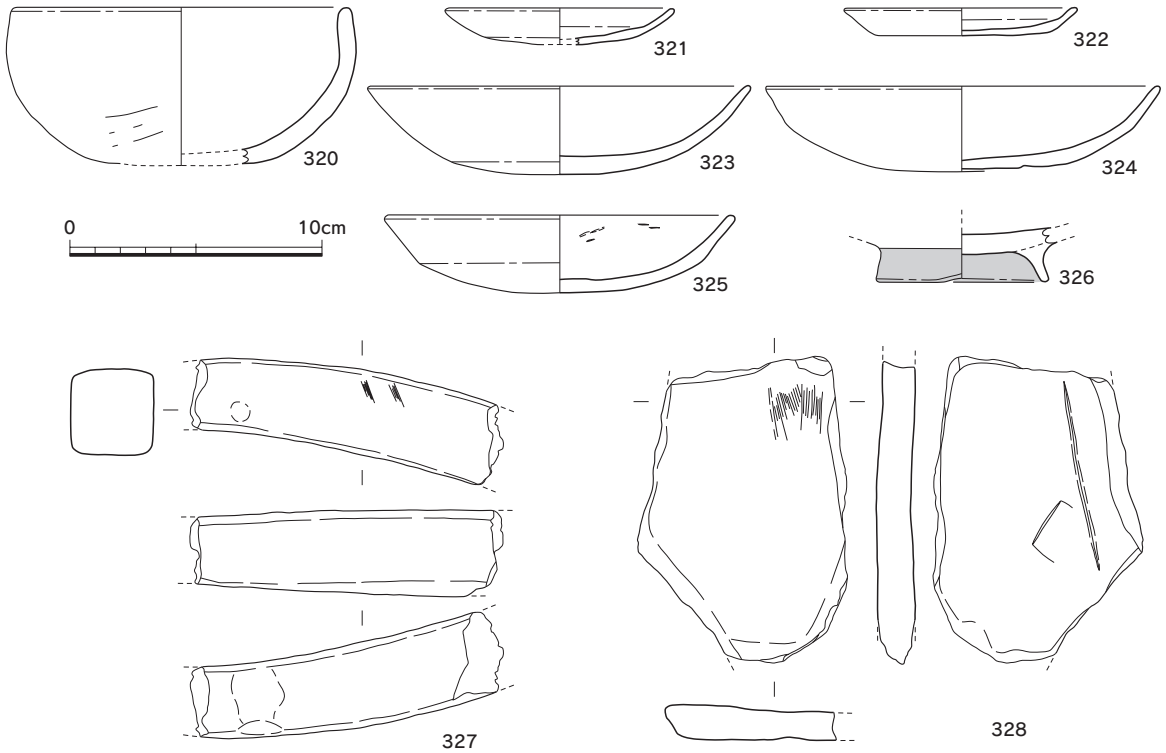
第53図　２次ＳＸ45・49～51実測図（ＳＸ45は1／20、他は1／40）



第54図　2次ＳＸ45出土遺物実測図（1／3）



第55図　2次ＳＸ49・50出土遺物実測図（319は1／2、他は1／3）



第56図　2次ＳＸ51出土遺物実測図（1／3）

調査区の中央部やや西側、ＳＸ50の１ｍ北東側に位置する。長さ3.40ｍ、幅0.80ｍ、深さ0.32ｍ。隅丸長方形プランを呈し、底面は凹凸があるがそれほど大きな差ではない。埋土は灰黄褐色土を主体とする。遺物は、上層から中層にかけて多く出土した。須恵器・土師器・黒色土器・土製品などがある。（石木）

出土遺物（第56図・図版64・65）

土師器（320～325・327）　320は椀。器壁は厚く、平底で口縁部は内湾する。321・322は小皿である。321は丸底気味で、322は平底である。323～325は丸底杯である。324・325は体部外面に稜を持つ。

黒色土器（326）　Ｂ類の椀である。高台は細く、高い。

土製品（327）　棒状土製品である。湾曲し、断面は正方形である。うち、１面は赤変・黒変しており、二次焼成を受けている可能性がある。

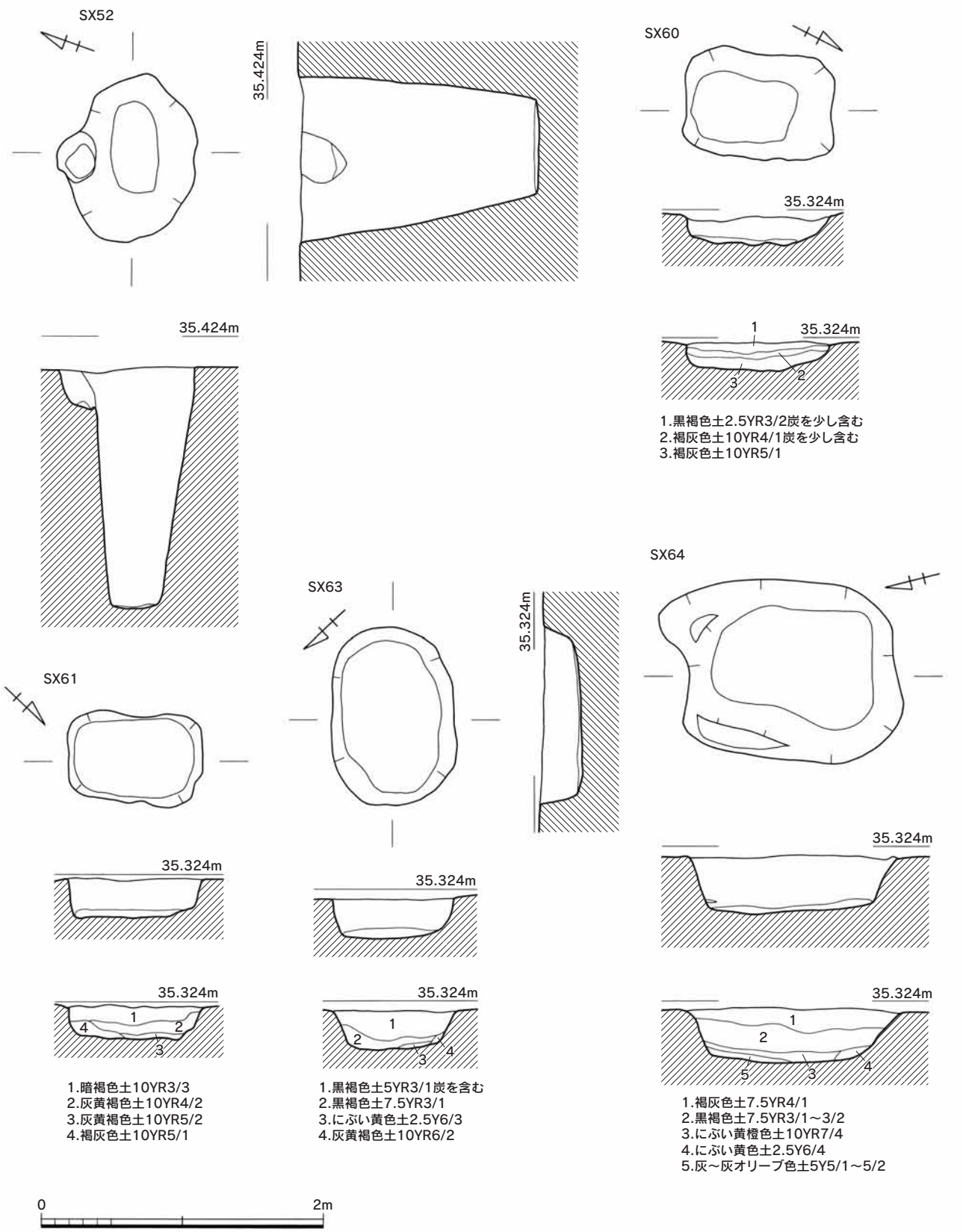
石器（328）　緑色片岩製砥石か。金属器刃部を作り出したのか、線刻状痕が認められる。（井上）

ＳＸ52（第57図）

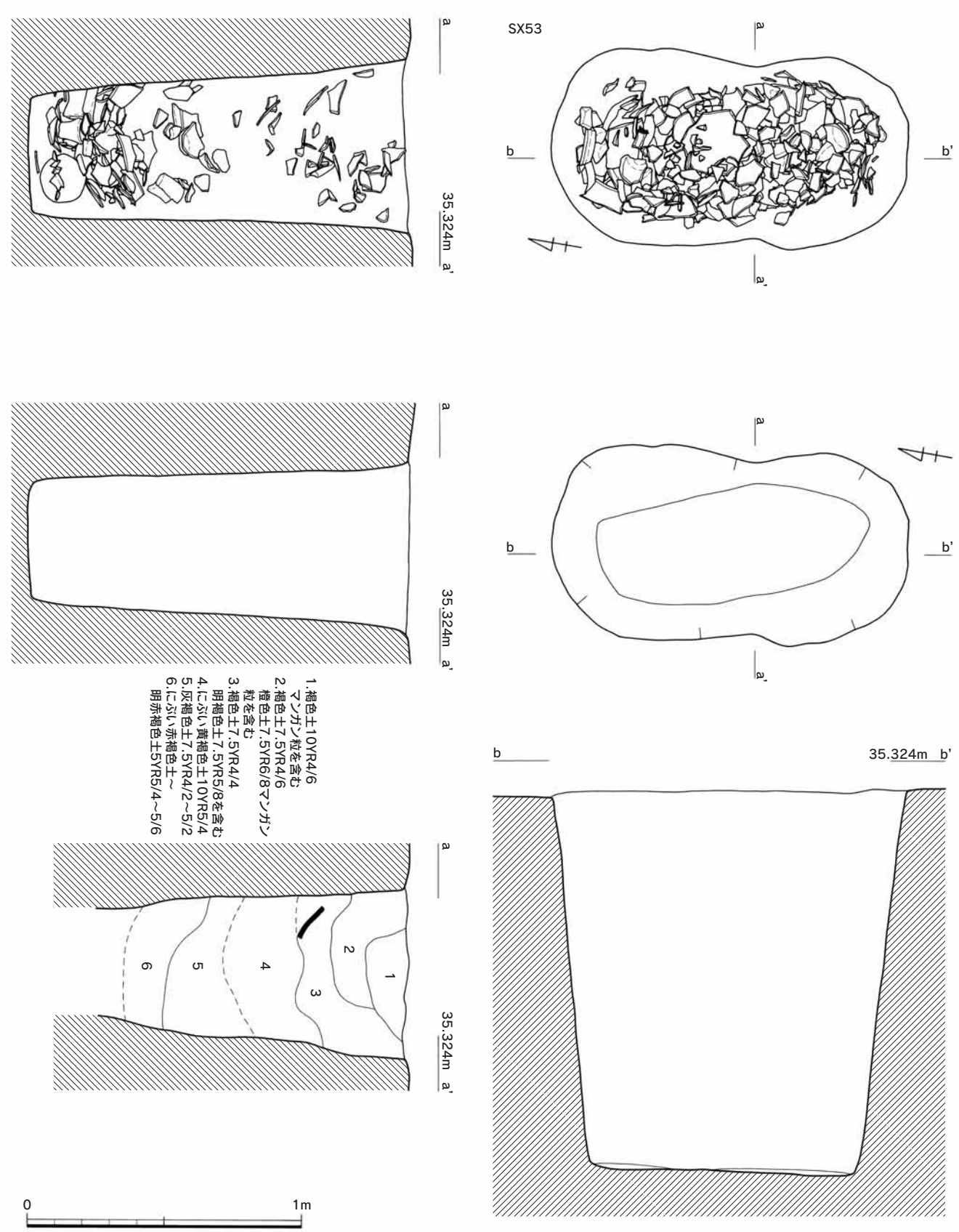
調査区のほぼ中央部、ＳＸ44の西側９ｍに位置する。ＳＸ53にプラン・掘方が近似している。長さ1.04ｍ、幅0.90ｍ、深さ1.68ｍ。楕円形プランを呈する。土坑の底面は隅丸長方形状を呈し、長さ0.64ｍ、幅0.33ｍ、ほぼ水平である。遺物の量は少なく、弥生土器がわずかに出土した程度である。図化できるものはなかった。（石木）

ＳＸ53（第58図・図版26・27）

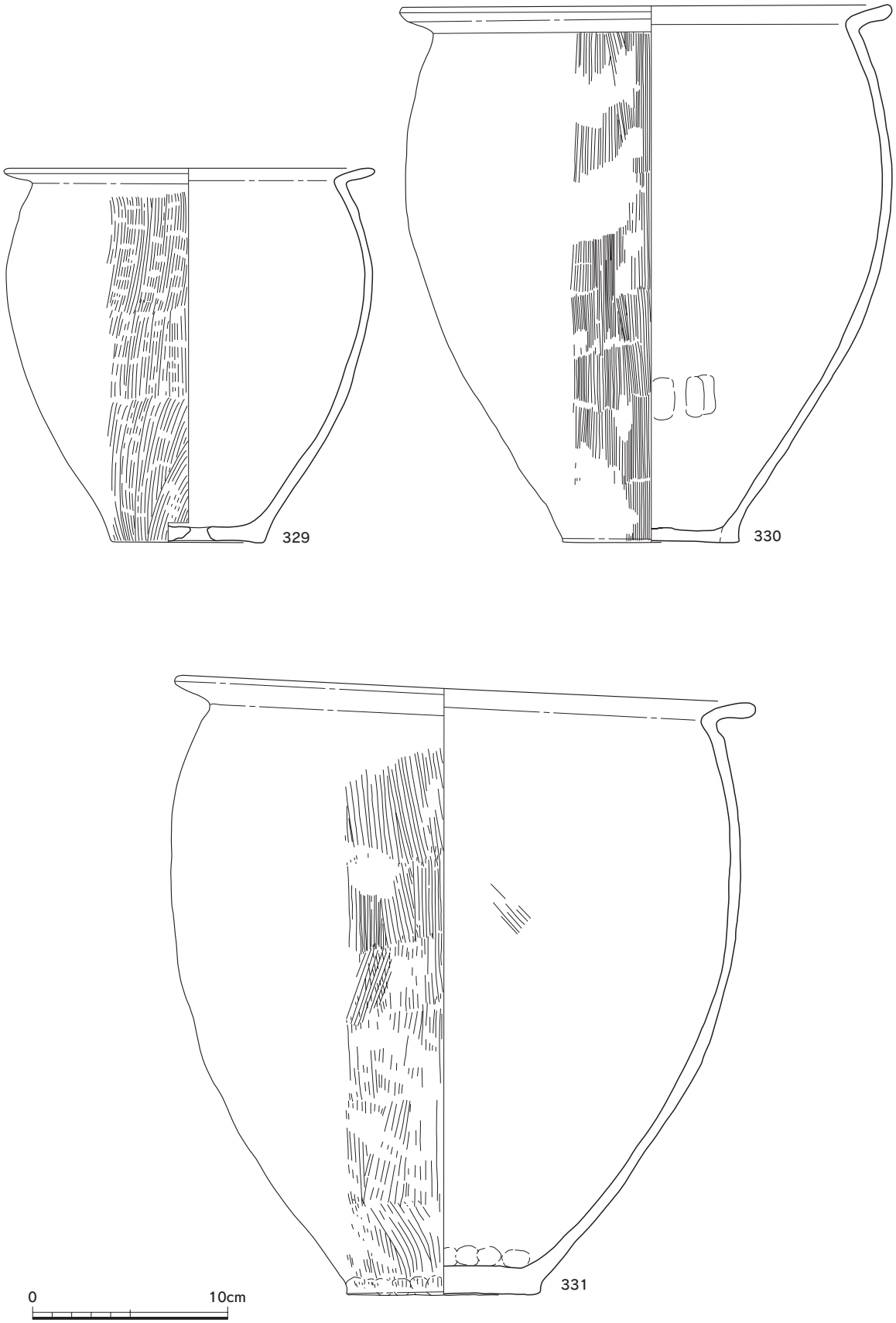
調査区のほぼ中央部、ＳＸ52の南側に隣接する。土坑の主軸方向は、ＳＸ52にほぼ直交する。長さ1.30ｍ、幅0.71ｍ、深さ1.39ｍ。隅丸長方形プランを呈する。土坑の底面は長さ1.00ｍ、幅



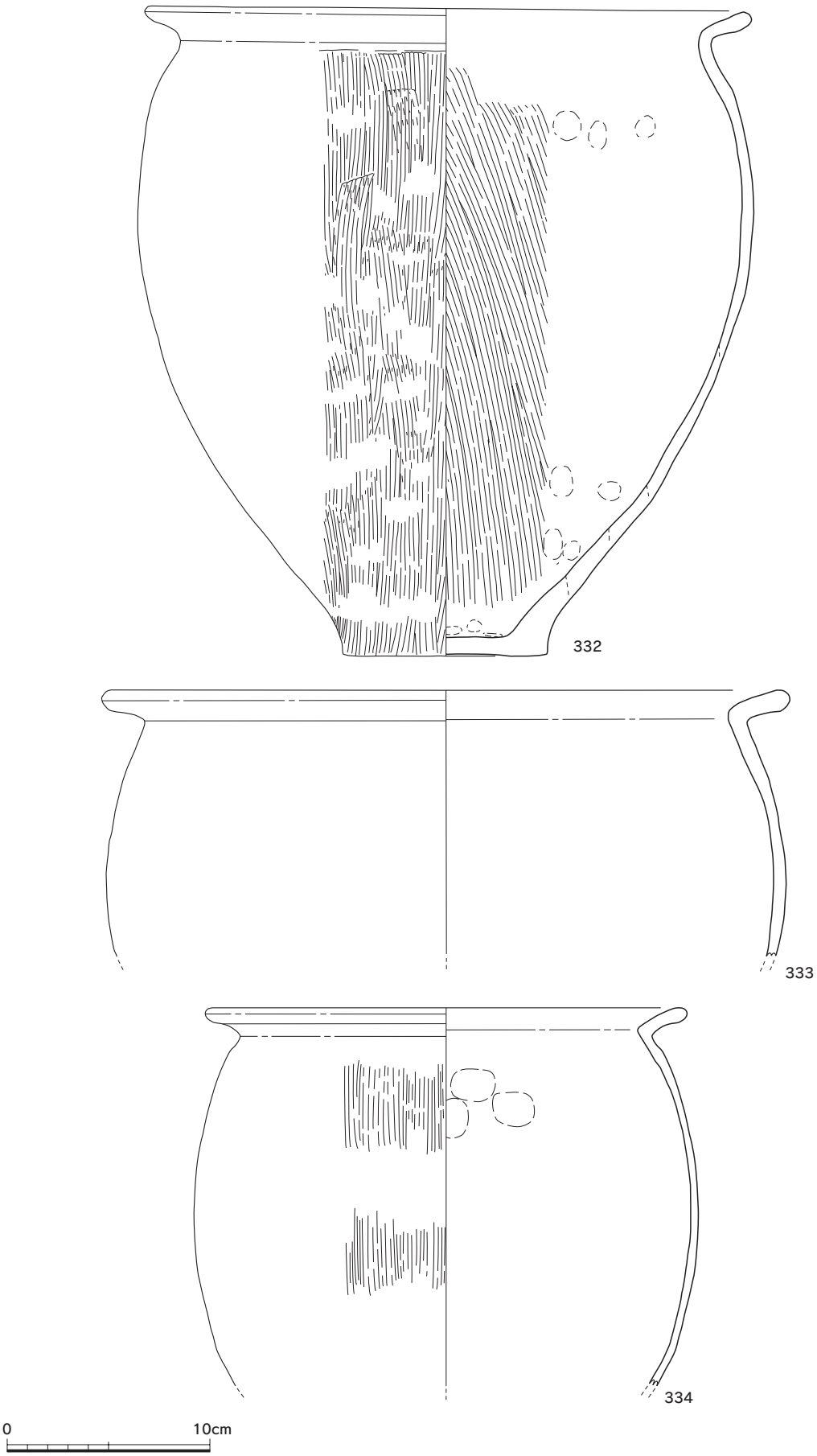
第57図　２次ＳＸ52・60・61・63・64実測図（1／40）



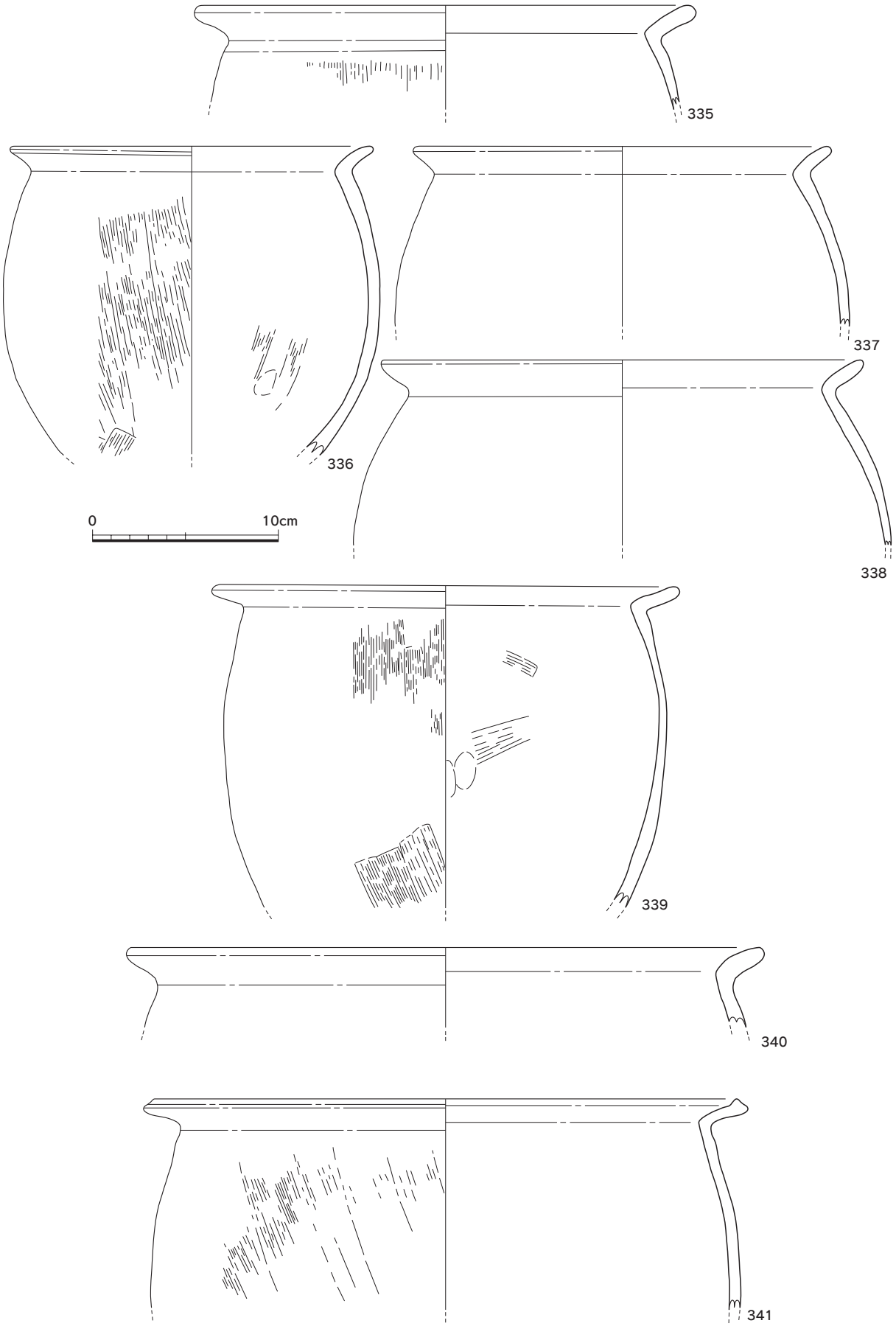
第58図　２次ＳＸ53実測図（1／20）



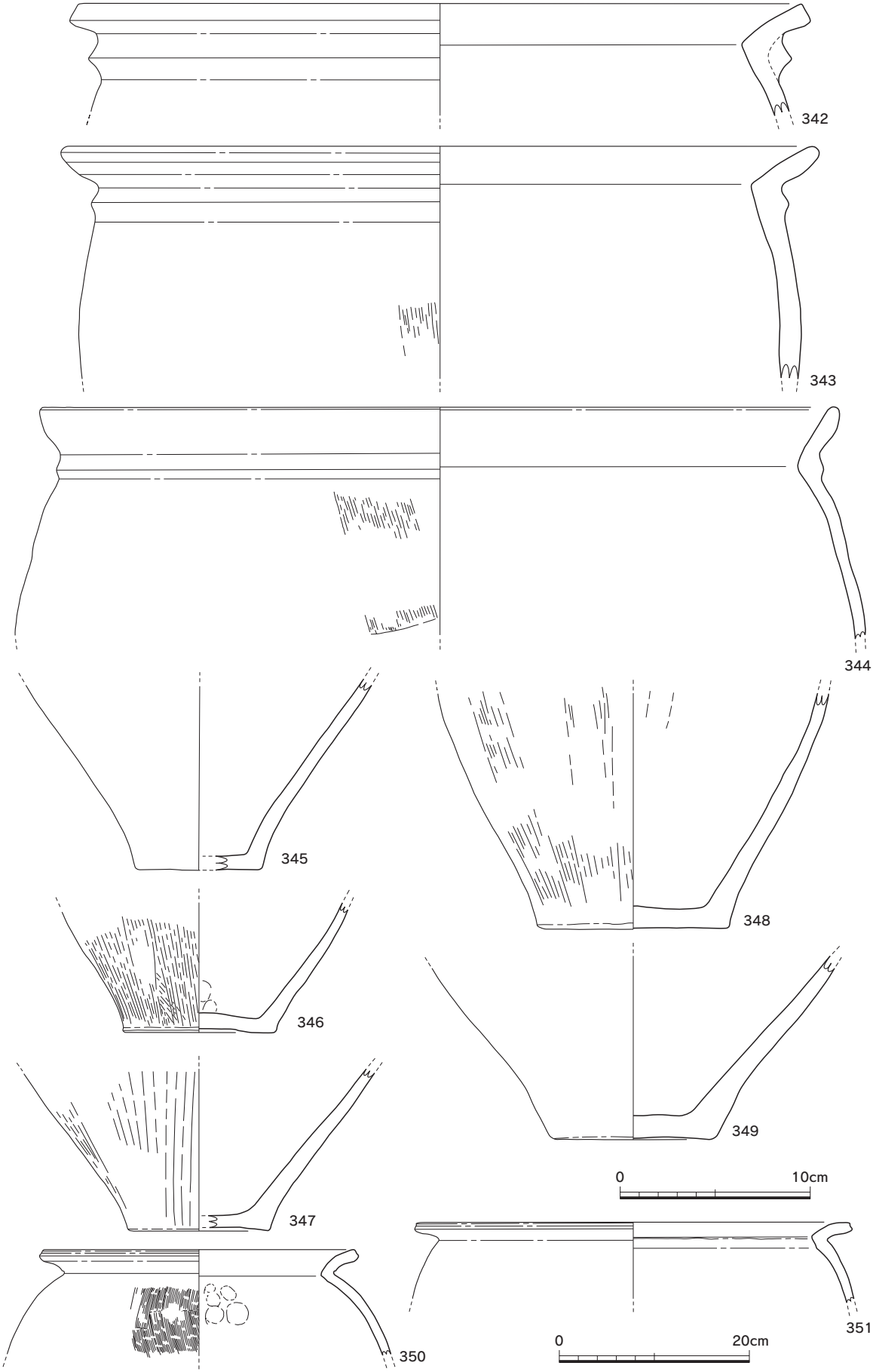
第59図　2次ＳＸ53出土遺物実測図①（1／3）



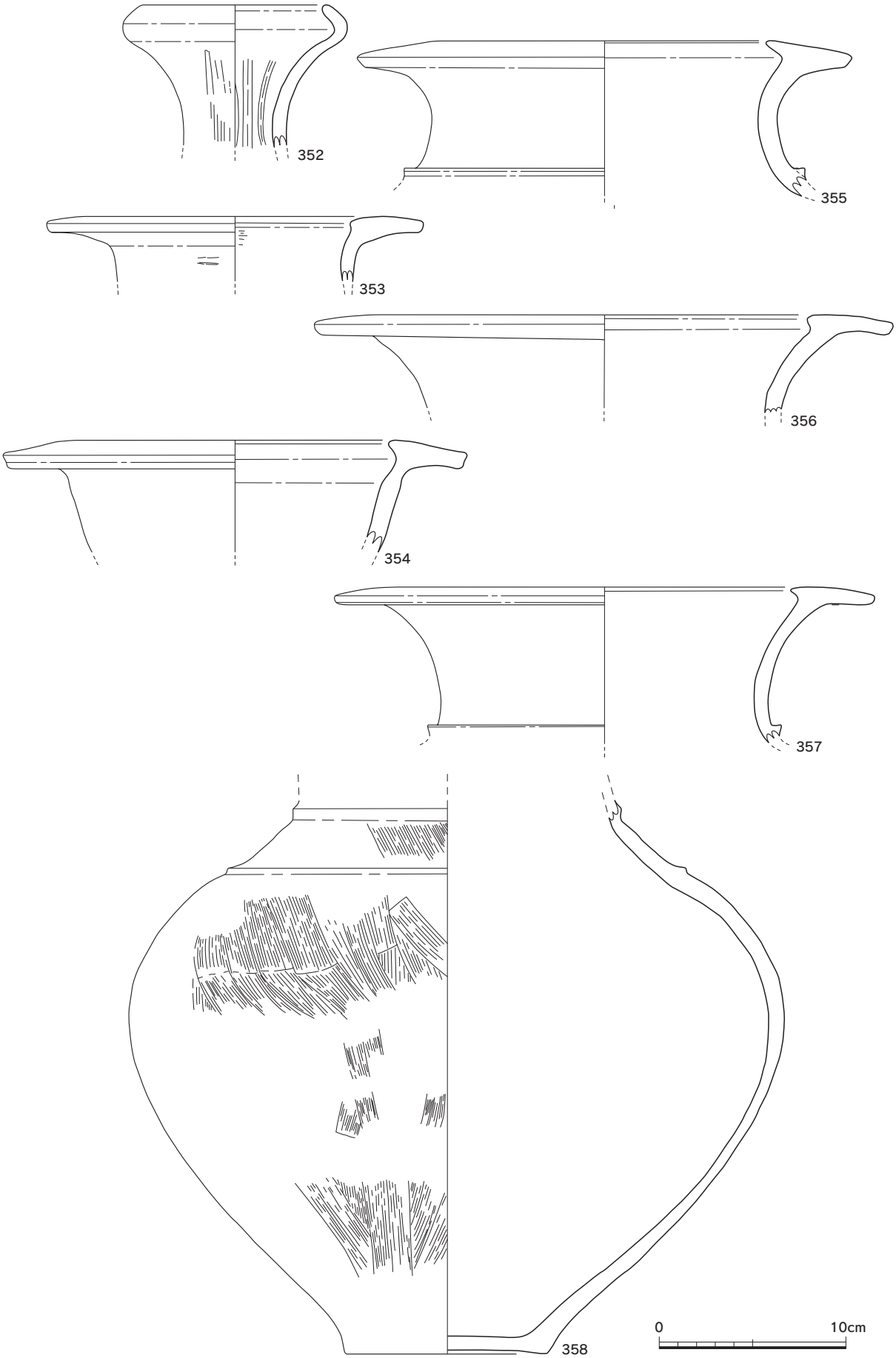
第60図　2次ＳＸ53出土遺物実測図②（1／3）



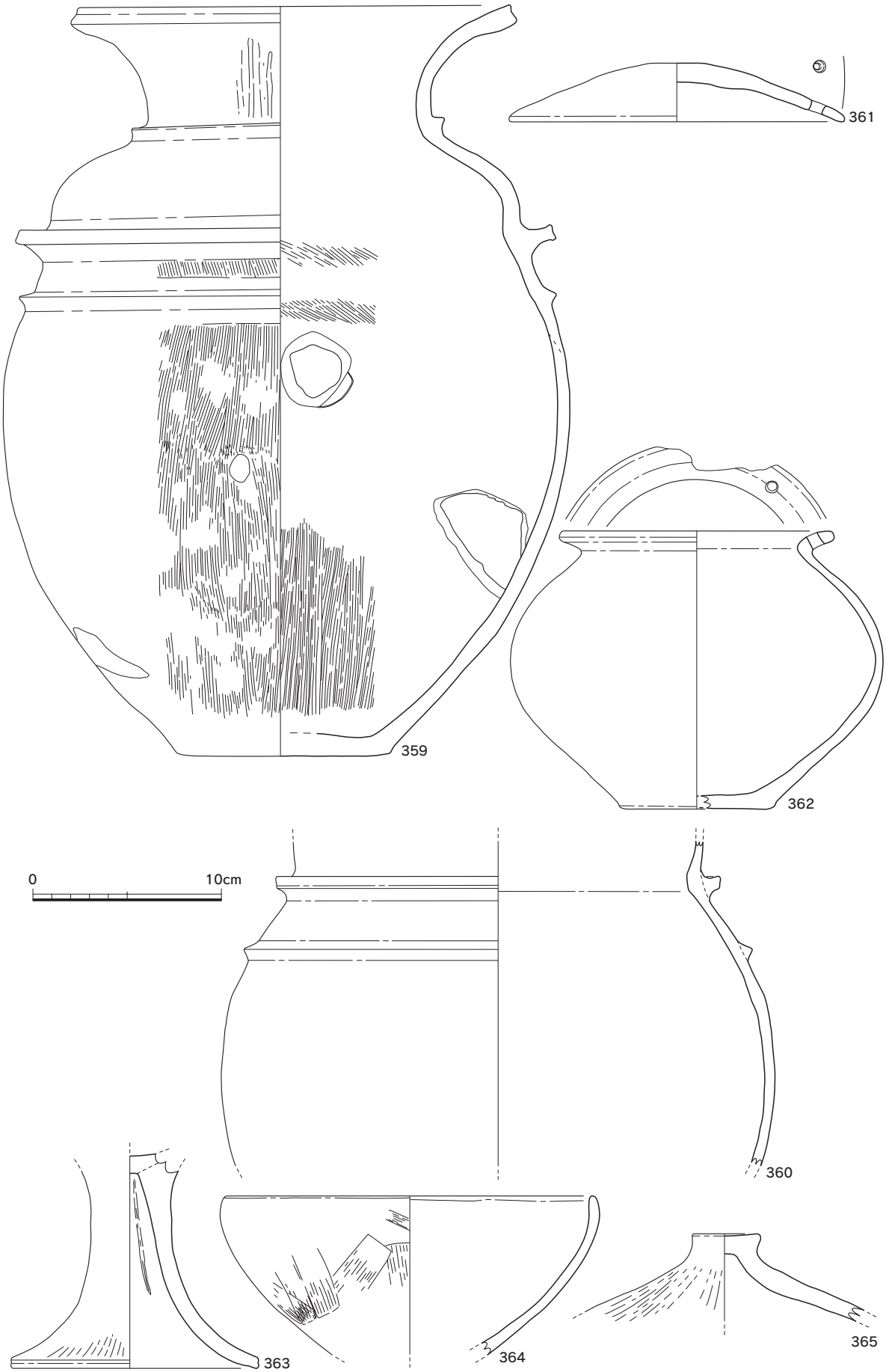
第61図　2次ＳＸ53出土遺物実測図③（1／3）



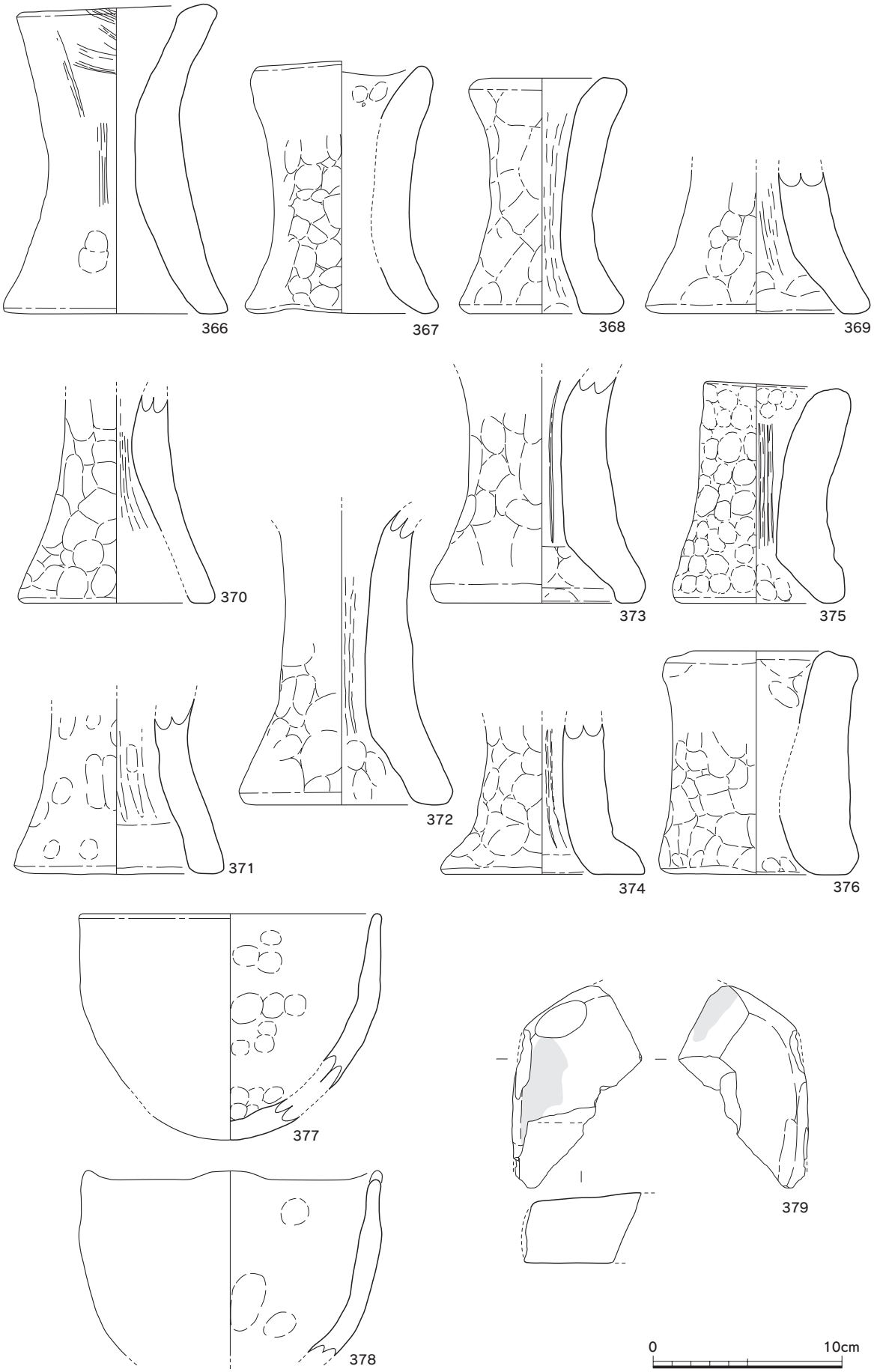
第62図　2次ＳＸ53出土遺物実測図④（350・351は1／6、他は1／3）



第63図　2次ＳＸ53出土遺物実測図⑤（1／3）



第64図　2次ＳＸ53出土遺物実測図⑥（1／3）



第65図　2次ＳＸ53出土遺物実測図⑦（1／3）

0.40ｍの長楕円形を呈し、ほぼ水平である。遺物は検出時から散見され、特に下層からは大量の土器が重なり合って出土した。土よりも土器が多く、一括して投棄されたものと考えられる。ほとんどが弥生土器であり、祭祀土器も多く含まれる。（石木）

出土遺物（第59～65図・図版65～67）

弥生土器（329～376）　329～351は甕である。口縁部は屈曲し、底部は外面中央がわずかに上底気味であるが、ほぼ平底である。329は焼成後、底部に穿孔した可能性がある。341は跳上口縁を呈し、342～344は頸部外面に断面三角形の突帯を貼り付けている。345・347は丹塗土器である。345は器表摩滅が著しく丹はかすかにしか残存しない。350・351は近似するが、胎土が若干異なることから別個体とした。352～362は壺。352～360は丹塗土器である。352は袋状口縁壺。353～357は広口壺となろう。口縁部は鋤先状を呈する。359は瓢形壺で体部５ヶ所に焼成後穿孔する。また、うち１ヶ所は穿孔部内面周囲に、線刻が施される。この線刻は焼成後に施されたもので、穿孔する範囲の目印ではなかろうか。また、他に１ヶ所、穿孔途中で中止したような痕跡が体部内面にみられる。361は無頸壺蓋、362は無頸壺である。363は丹塗磨研土器、高杯脚部である。364は口縁が内湾する鉢である。365は丹塗磨研土器、蓋である。366～376は器台である。366はハケメ調整が部分的にみられ、他は指頭圧痕やナデが施される。376は器壁の厚みが不均一である。

縄文土器（377・378）　縄文土器、鉢であろうか。378は波状口縁を呈す。胎土に角閃石を多く含み、内外面の器表はススが付着する。

石器（379）　砥石である。表面が部分的に赤変している。破断面は赤変していない。被熱か、付着物かの判断は困難であるが、付着物の可能性の方が高いと思われる。付着物であった場合は、錆や赤色顔料などが考えられよう。（井上）

ＳＸ54（付図）

調査区の中央部よりやや西側、ＳＸ50とＳＤ13に挟まれた所に位置する。検出時は埋土の広がりを認めたが、浅く終わり、掘方も明確でなかったため、平面図に図化できなかった。出土遺物は弥生土器がある。（石木）

出土遺物（第66図）

弥生土器（380）　壺底部片か。器壁は厚く、胎土は砂粒を多く含む。（井上）

ＳＸ55（付図）

調査区の中央部よりやや西側、ＳＸ５２の西側５ｍに位置する。長さ1.66ｍ、幅0.55ｍの不整形プランを呈し、深さ５cm程度と浅い。底面は平らだが、ピットが掘り込まれる。埋土は明褐色土。出土遺物は、須恵器・弥生土器・安山岩剥片などがある。（石木）

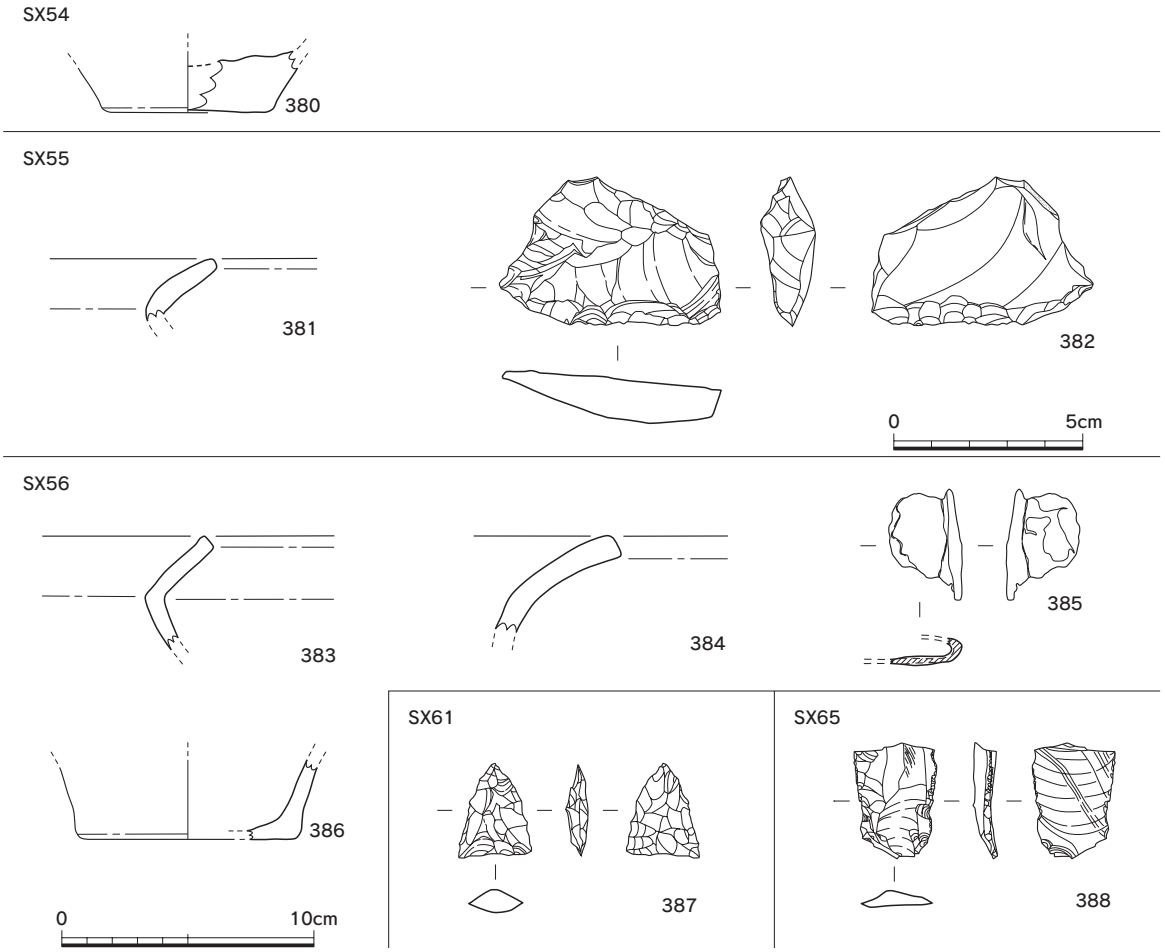
出土遺物（第66図・図版67）

弥生土器（381）　甕口縁片で、口縁部は屈曲する。須玖Ⅱ式か。

石器（382）　安山岩製スクレイパーである。（井上）

ＳＸ56（付図）

調査区の中央部やや西側、ＳＸ51・ＳＤ12に切られる。幅0.55～1.04ｍ、深さ0.17ｍの溝状を呈する。底面は平らだが、ピットが掘り込まれる。出土遺物は、弥生土器・銅製品がある。（石木）



第66図　2次ＳＸ54～56・61・65出土遺物実測図（382・385・387・388は1／2、他は1／3）

出土遺物（第66図・図版67）

弥生土器（383・384・386）　383・386は甕で、386は平底である。384は広口壺口縁片である。

銅製品（385）　用途は不明である。残存する端部の一端は立ち上がる。内面に鉄錆が付着しており、鉄芯に貼り付けていた可能性がある。（井上）

ＳＸ60（第57図）

調査区の西側に位置する。長さ1.02ｍ、幅0.74ｍ、深さ0.20ｍの隅丸方形プランを呈する。底面は平らに近く、掘方は断面鍋底状に近い。埋土は黒褐色土～褐色土を主体とし、炭化物を少し含む。出土遺物は、弥生土器があるが小片のため図化できなかった。（石木）

ＳＸ61（第57図・図版28）

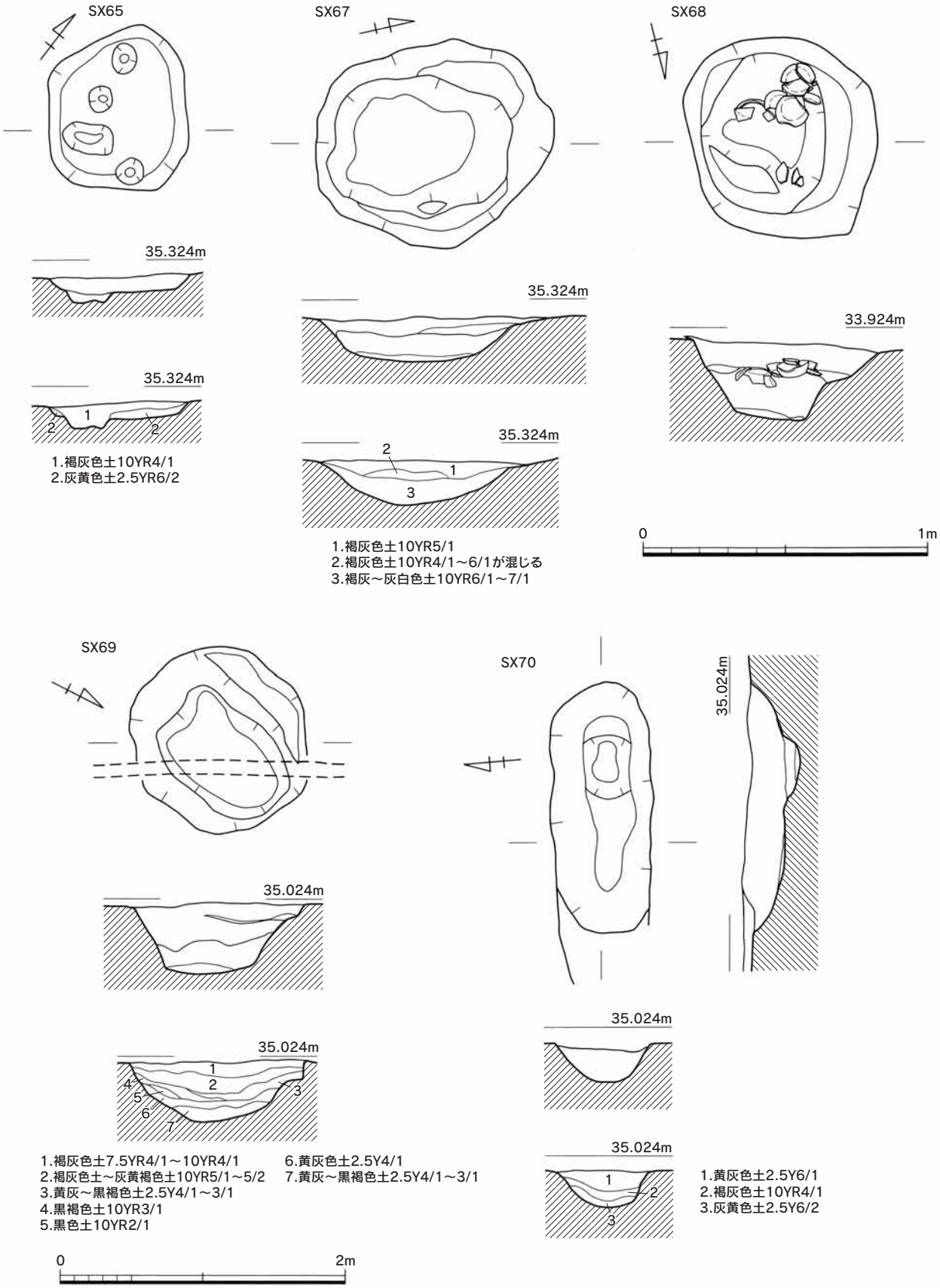
調査区の西側、ＳＸ60の５ｍ南東側に位置する。長さ0.95ｍ、幅0.59ｍ、深さ0.22ｍの長方形プランを呈する。底面は平らに近く、掘方は断面箱形に近い。埋土は暗褐色土～灰黄褐色土主体。出土遺物は、弥生土器・石器がある。（石木）

出土遺物（第66図・図版67）

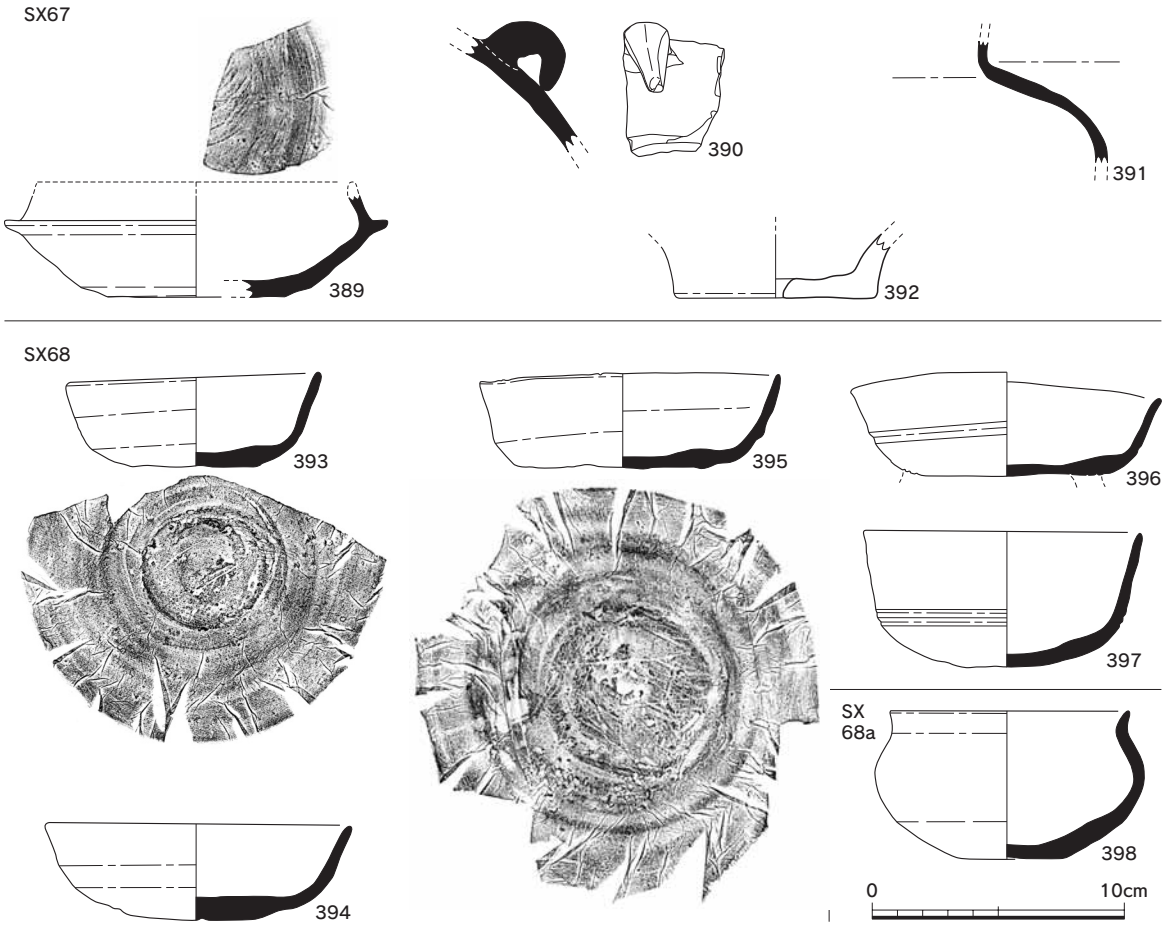
石器（387）　安山岩製打製石鏃である。刃部をわずかに欠損する。（井上）

ＳＸ63（第57図・図版28）

調査区の西側、ＳＸ60の東側10ｍに位置する。長さ1.26ｍ、幅1.87ｍ、深さ0.27ｍの楕円形プ



第67図　２次ＳＸ65・67～70実測図（ＳＸ68は1／20、他は1／40）



第68図　2次ＳＸ67・68出土遺物実測図（1／3）

ランを呈する。底面は平らに近く、掘方は箱形に近い。出土遺物は、弥生土器があるが、図化できなかった。（石木）

ＳＸ64（第57図・図版28）

調査区の西側、ＳＸ63の南側５ｍに位置する。長さ1.48ｍ、幅1.27ｍ、深さ0.42ｍの隅丸方形プランを呈する。底面は平らで、掘方は箱形に近い。埋土は灰褐色土～灰色土。出土遺物は、土師器・弥生土器があるが、小片のため図化できなかった。（石木）

ＳＸ65（第67図）

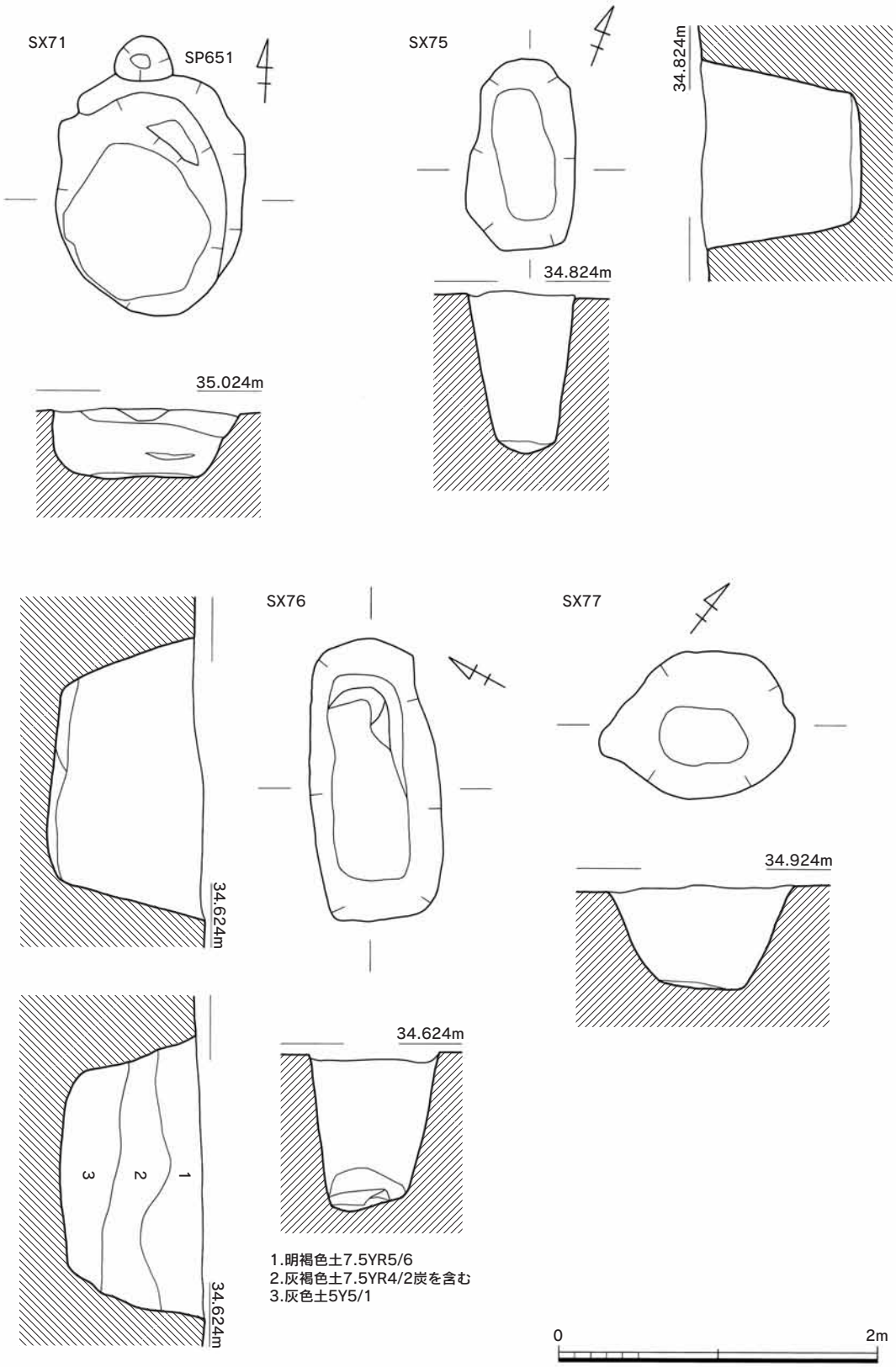
調査区の西側、ＳＸ60の北側10ｍに位置する。長さ1.15ｍ、幅0.98ｍ、深さ0.15ｍの方形に近いプランを呈する。底面は平らで、深さ５cm程度のピットが認められる。埋土は褐灰色土～灰色土。出土遺物は、弥生土器・黒曜石チップなどがある。（石木）

出土遺物（第66図・図版67）

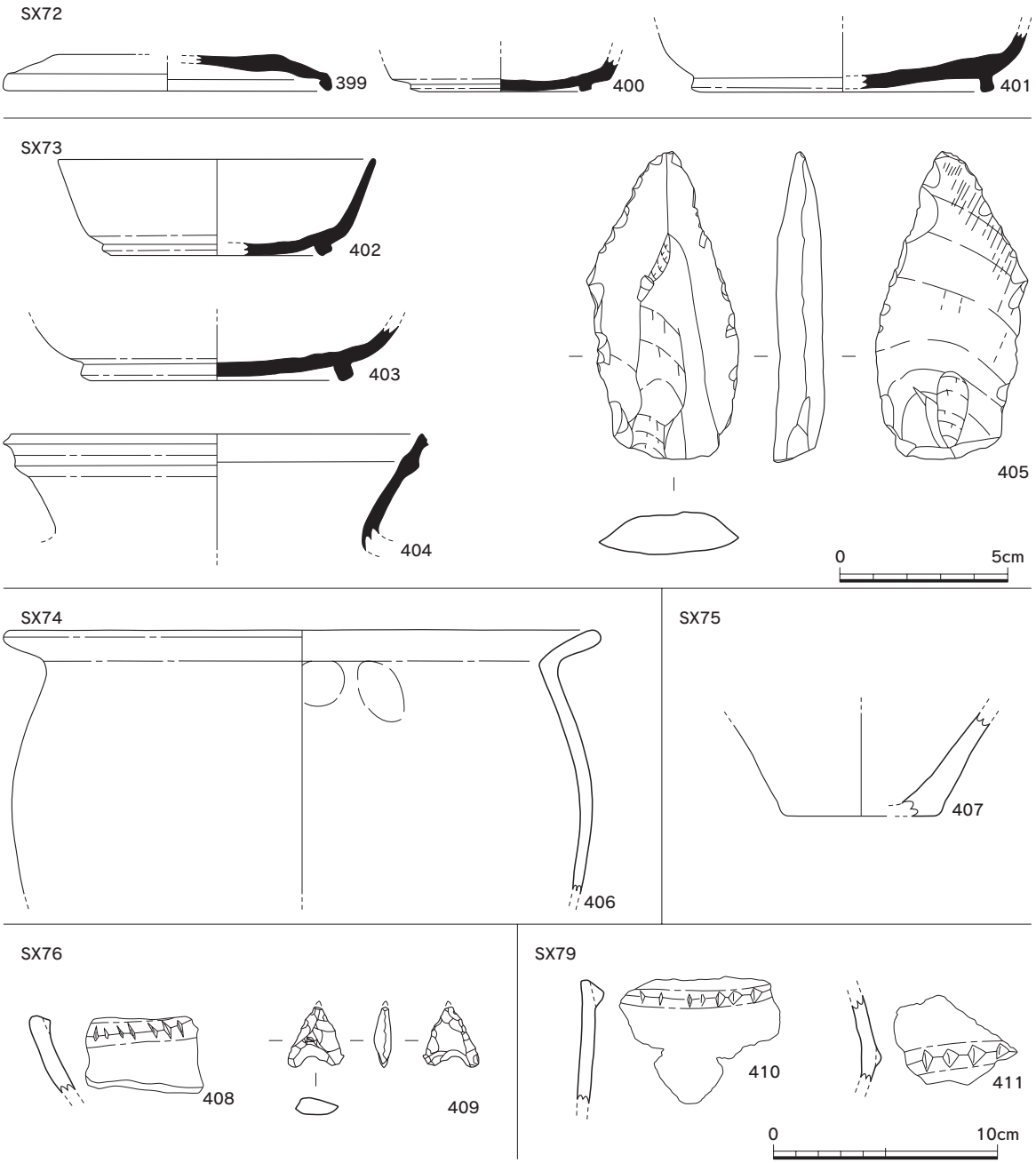
石器（388）　黒曜石製。縦長剥片の側縁部に、使用痕が認められる。（井上）

ＳＸ67（第67図）

調査時、土坑と溝状遺構の遺構番号が重複してしまった。幸いラベルの記載内容から、それぞれの遺構出土遺物の類別ができた。このため、土坑をＳＸ67、溝状遺構をＳＸ67ａとして報告する。ＳＸ67は、調査区の西側、ＳＸ65の北西側３ｍに位置する。長さ1.67ｍ、幅1.46ｍ、深さ0.31



第69図　２次ＳＸ71・75～77実測図（1／40）



第70図　2次ＳＸ72～76・79出土遺物実測図（405・409は1／2、他は1／3）

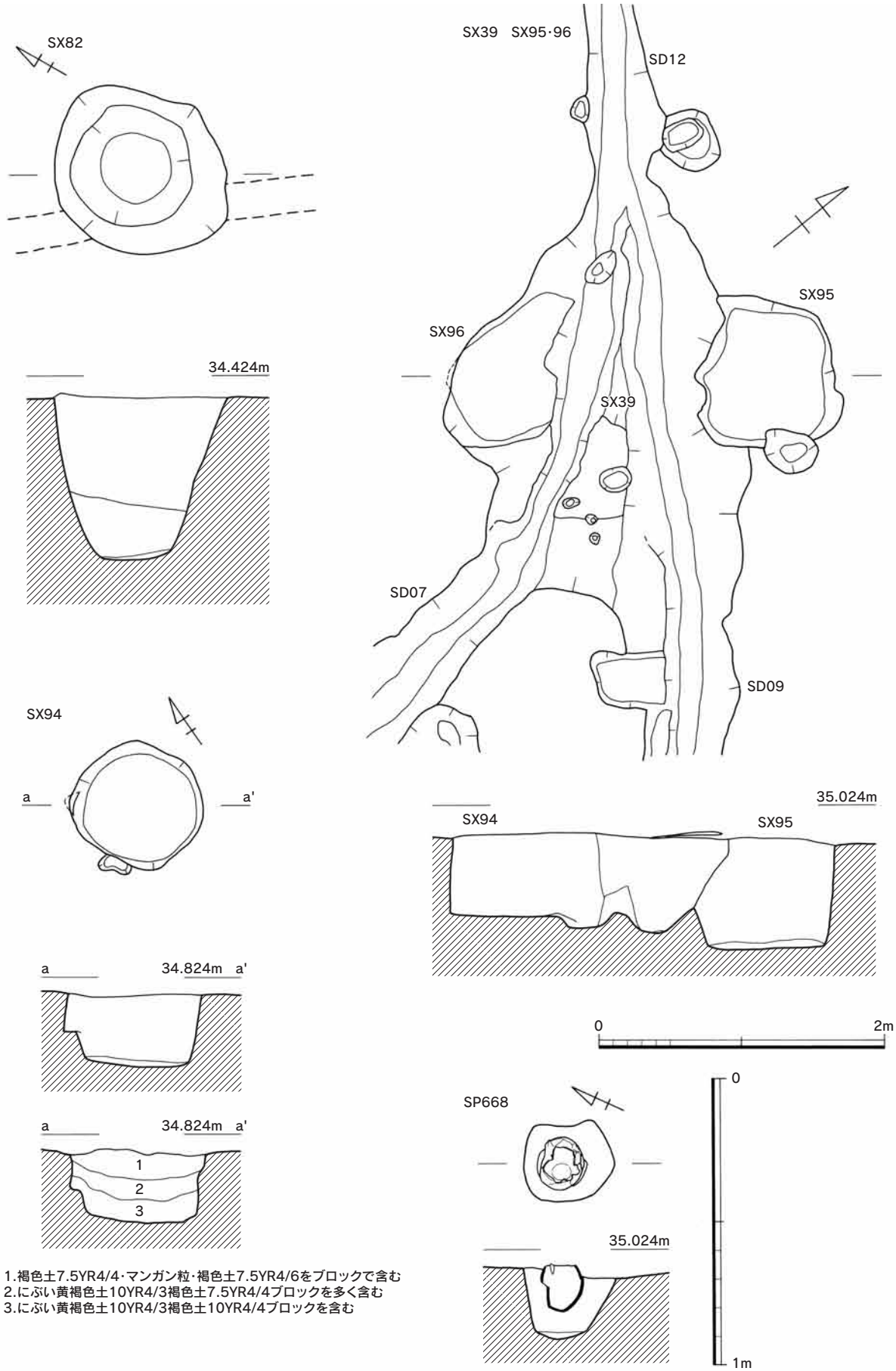
m。不整円形プランを呈し、鍋底状の掘方を有する。埋土は褐灰色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・黒曜石チップなどがあるが、図化できなかった。　（石木）

ＳＸ67ａ（付図）

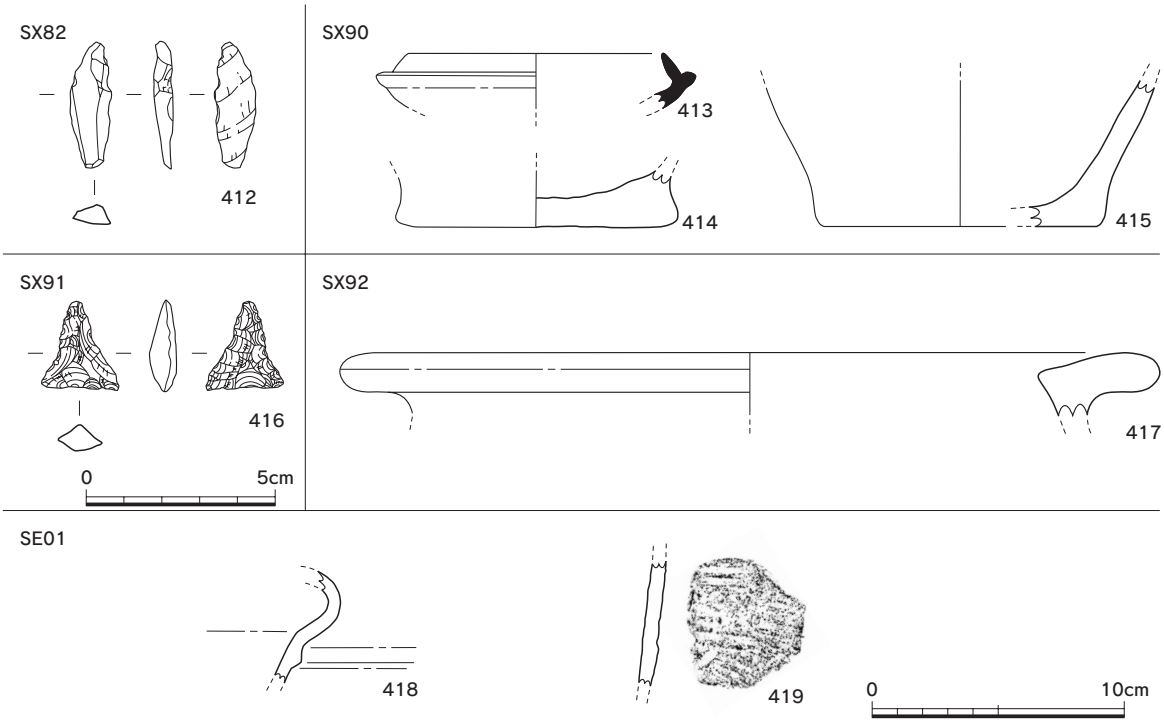
調査区の西側、ＳＤ11・13の重複部付近に位置する。検出時は、ＳＸ64・ＳＤ13間からＳＸ63にかけて弧状に巡る溝状遺構が確認された。幅1.70ｍ、深さ５cmと浅い。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・窯壁片などがある。　（石木）

出土遺物（第68図）

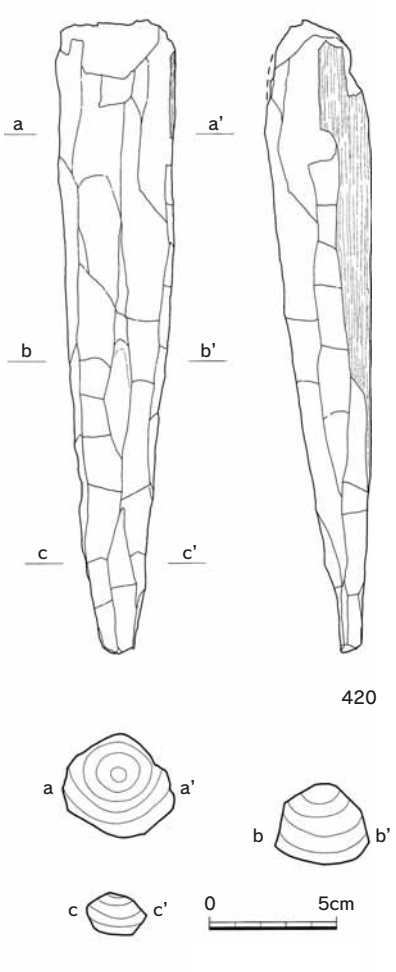
須恵器（389～391）　389は杯Ｈ身で、底部内面に当て具痕が認められる。390は提瓶肩部の把手である。基部から先端にかけて細くなり、先端は提瓶肩部についてはいるが、丁寧にナデつけられ



第71図　２次ＳＸ82・94～96・ＳＰ668実測図（ＳＰ668は1／20、他は1／40）



第72図　2次ＳＸ82・90～92・ＳＥ01出土遺物実測図（412・416は1／2、他は1／3）



第73図
2次ＳＥ01出土遺物実測図②（1／3）

てはいない。391は短頸壺である。

弥生土器（392）　弥生土器、甕底部である。平底の底部には焼成前に穿孔が施されている。（井上）

ＳＸ68（第67図）

調査時遺構番号が重複した。ラベルの記載内容からそれぞれの遺構出土遺物が確認できた。調査区中央部の土坑をＳＸ68、北西側の土坑をＳＸ68ａとする。ＳＸ68は調査区の中央部付近に位置する。径0.65～0.70m、深さ0.27mの円形プランを呈する。掘方は二段掘りを呈する。埋土中からは、二段掘りのテラスと同じレベルに須恵器などがまとまって出土した。

（石木）

出土遺物（第68図・図版67・68）

須恵器（393～398）　393～395は杯で、底部外面はヘラ切り。396は杯身で、底部外面の高台が剥落している。体部外面に沈線が施される。397は椀である。体部外面に沈線を二条施す。（井上）

ＳＸ68ａ（付図）

調査区北西側、ＳＤ11北西端部に隣接する。耕地整理の溝に切られ、土坑の西半は失われる。長さ1.3m程度、深さ1～3cmの浅い土坑と想定される。出土遺物は、須恵器・黒曜石チップ

などがある。（石木）

出土遺物（第68図）

須恵器（398）　398は短頸壺で、底部外面はヘラ切り、体部下半は回転ヘラケズリを施す。（井上）

ＳＸ69（第67図・図版29）

調査区の西側に位置する。耕地整理の溝に切られる。径1.30ｍの円形プランを呈し、掘方はすり鉢状となる。埋土は、褐灰色土などレンズ状堆積する。出土遺物は、土師器があるが小片のため図化できなかった。（石木）

ＳＸ70（第67図）

調査区の西側、ＳＸ69の北西側７ｍに位置する。耕地整理の溝に西側小口部分を削られる。長さ1.75ｍ、幅0.73ｍ、深さ0.30ｍ前後、隅丸長方形プランを呈する。底面は一部ピット状に掘り込まれる。埋土は、黄灰色土～褐灰色土。出土遺物は、土師器・安山岩剥片などがあるが、図化できなかった。（石木）

ＳＸ71（第69図）

調査区の西側、ＳＸ69の東側８ｍに位置する。長さ1.52ｍ、幅1.18ｍ、深さ0.40ｍの楕円形プランを呈する。底面は平らで、一部テラスがつく。北側の一部はＳＰ651に切られる。埋土は、上層は褐灰色土、下層は黄灰色土を主体とする。出土遺物は、土師器があるが小片のため図化できない。（石木）

ＳＸ72（付図）

調査区の西側、ＳＸ70の東側５ｍに位置する。径1.10～1.30ｍ、深さ0.40ｍの略円形プランを呈する。埋土は褐灰色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器などがある。（石木）

出土遺物（第70図）

須恵器（399～401）　399は杯Ｂ蓋で、口縁端部は折り曲げられる。400・401は杯Ｂ身で、高台は低い。400の高台は底部端からやや内側に貼り付けられる。（井上）

ＳＸ73（付図）

調査区の西側、ＳＸ72の北西側に位置する。埋土は黒褐色土。出土遺物には、須恵器・土師器・石器などがある。（石木）

出土遺物（第70図・図版68）

須恵器（402～404）　402・403は杯Ｂ身で、高台は低く、底部端からやや内側に貼り付けられる。404は甕頸部で、頸部外面は無文である。

石器（405）　安山岩製スクレイパーである。（井上）

ＳＸ74（付図）

調査区のやや西側、ＳＸ68の北東側３ｍに位置する。長さ0.80ｍ、幅0.70ｍ、深さ0.20ｍの略方形プランを呈する。出土遺物は、弥生土器がある。（石木）

出土遺物（第70図）

弥生土器（406）　甕。口縁部は屈曲し、上位にある体部最大径は口径とほぼ同じである。（井上）

ＳＸ75（第69図・図版30）

調査区中央部よりやや北側に位置する。長さ1.19ｍ、幅0.67ｍ、深さ1.00ｍの隅丸長方形プラン

を呈する。底面はほぼ平らで、掘方は逆台形に近い。出土遺物は、弥生土器・黒曜石チップがあり、祭祀土器を含む。（石木）

出土遺物（第70図）

弥生土器（407）　甕底部片である。器表摩滅しているが、体部外面にハケメが施される。（井上）

ＳＸ76（第69図・図版30）

調査区の北側、ＳＸ75の北東側10ｍに位置する。ＳＸ75と主軸方向が直交しており、ＳＸ52と同じ方向をとる。長さ1.77ｍ、幅0.82ｍ、深さ0.97ｍの隅丸長方形プランを呈する。底面は平らで、掘方は逆台形に近い。埋土は明褐色土～灰色土で、粘性が高い。出土遺物は、土師器・弥生土器・安山岩チップなどがある。（石木）

出土遺物（第70図・図版68）

突帯文土器（408）　口縁端部のわずか下方に突帯は貼り付けられ刻目が施される。小片のため縄文時代の所産か、弥生時代の所産か判別できない。

石器（409）　安山岩製打製石鏃で、切先を欠損する。（井上）

ＳＸ77（第69図）

調査区の中央部やや北側に位置する。長さ1.17ｍ、幅0.92ｍ、深さ0.66ｍの楕円形プランを呈する。底面は平らで、掘方は逆台形に近い。埋土は褐灰色土で炭を含む。出土遺物は、弥生土器・石斧などがある。（石木）

ＳＸ79（付図）

調査区の中央部やや北側に位置する。長さ1.24ｍ、幅0.94ｍ、深さ0.07ｍの浅い土坑である。底面は平らで、平坦である。出土遺物は、須恵器・突帯文土器などがある。（石木）

出土遺物（第70図）

突帯文土器（410・411）　410は口縁端部のわずか下方に、411は口縁部下の屈曲部に突帯が貼り付けられ刻目が施される。これらは同一個体の可能性があるが、接点は認められない。小片のため縄文時代の所産か、弥生時代の所産か判別できない。（井上）

ＳＸ82（第71図）

調査区の東側、ＳＣ06の北側８ｍに位置する。耕地整理の溝により切られる。径1.16～1.33ｍ、深さ1.10ｍの長楕円形を呈する。掘方・プランは井戸に類似するが、湧水は認められなかった。出土遺物は、石器がある。（石木）

出土遺物（第72図・図版68）

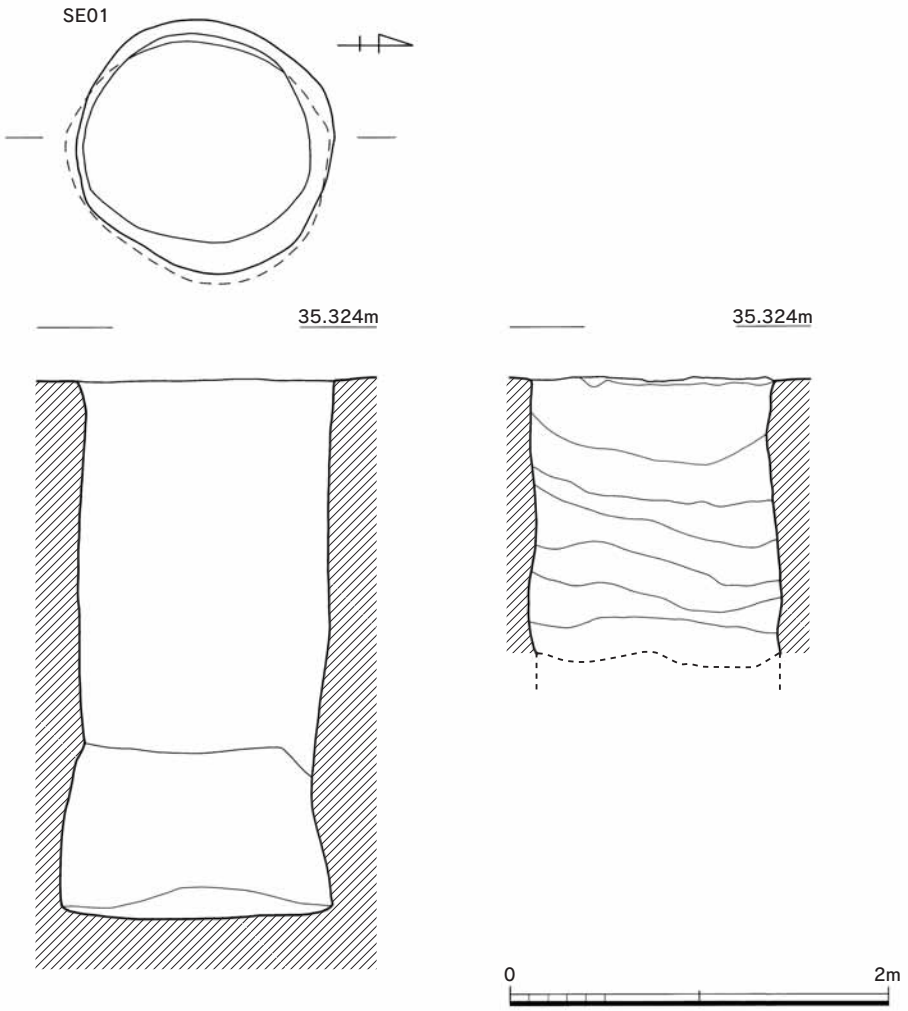
石器（412）　安山岩製剥片である。使用痕は認められない。（井上）

ＳＸ90（付図）

調査区の中央やや西側に位置する。旧石器トレンチ掘り下げ中に確認された。径1.03～1.10ｍ、深さ0.70ｍの略円形プランを呈する。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・黒曜石チップなどがある。（石木）

出土遺物（第72図）

須恵器（413）　杯Ｈ身で、受部上面に蓋を重ね焼きした痕跡が認められる。



第74図　２次ＳＥ01実測図（1／40）

弥生土器（414・415）　平底の甕底部片。415は底部外面と体部外面の境はややくびれる。　（井上）

ＳＸ91・92（付図）

調査区の中央やや西側、ＳＤ11・12に切られる。全体のプランがよく分からないが、深さ５cm程度の浅い土坑状となる。出土遺物は、須恵器・弥生土器・石器などがある。　（石木）

出土遺物（第72図・図版68）

石器（416）　ＳＸ91出土。黒曜石製打製石鏃である。

弥生土器（417）　ＳＸ92出土。甕である。口縁部は屈曲し、内面は突出している。　（井上）

ＳＸ94（第71図）

調査区の北側、ＳＸ75・76間に位置する。径0.90m、深さ0.50mの円形プランの土坑である。埋土は褐色土～黄褐色土を主体とする。出土遺物は、弥生土器があるが、図化できなかった。（石木）

ＳＸ95・96（第71図）

調査区の東側、ＳＤ07・09に切られる。ＳＸ95は一辺1.05m、深さ0.75mの方形に近いプランを呈する。底面は平らで、掘方は箱形に近い。ＳＸ96は深さ0.55mの不整形プランを呈し、底面は平らで、箱形に掘り込まれる。両者は相対しているが、掘方の状況から別個の遺構と考えられる。

出土遺物は、ＳＸ94・95ともになかった。（石木）

（5）井戸

ＳＥ01（第74図・図版31）

調査区の中央よりやや南東側、ＳＣ06の北西側８ｍに位置する。径1.36ｍ、深さ2.84ｍの円形プランを呈する。検出段階より井戸と確認できたため、遺構略号を与えた。箱形に掘り込まれ、底面は平らになる。埋土は褐色土～暗褐色土を主体とし、炭を含む。出土遺物は、弥生土器・黒曜石剥片などがある。（石木）

出土遺物（第72・73図）

弥生土器（418）　丹塗土器、袋状口縁壺で、器表が摩滅しているためヘラミガキが施されているかは不明である。

縄文土器（419）　体部外面に横位・斜位の条痕が認められる。（井上）

木器（420）　杭である。下層から出土した。先端のみ出土。径5cmほどの自然木を削り出す。樹種は不明。（石木）

（6）ピット

ＳＰ668（第71図・図版31）

調査区の西側、ＳＸ51の４ｍ西側に位置する。径0.25～0.30ｍ、深さ0.26ｍのピットである。検出時には、既に弥生土器甕が表出しており、掘り下げの結果、甕は埋土中位に正置されることが判明した。その他、弥生土器が出土している。（石木）

出土遺物（第76図）

弥生土器（442）　甕で底部はやや丸底気味である。（井上）

（7）その他の出土遺物

ＳＰ35

鉄器（421）　用途は不明である。断面は長方形で、先端は細くなっている。

ＳＰ107

土師質土器（422）　擂鉢である。擂目は5本一組か。

ＳＰ187

土師器（423）　高杯である。体部外面の屈曲は緩い。

ＳＰ195

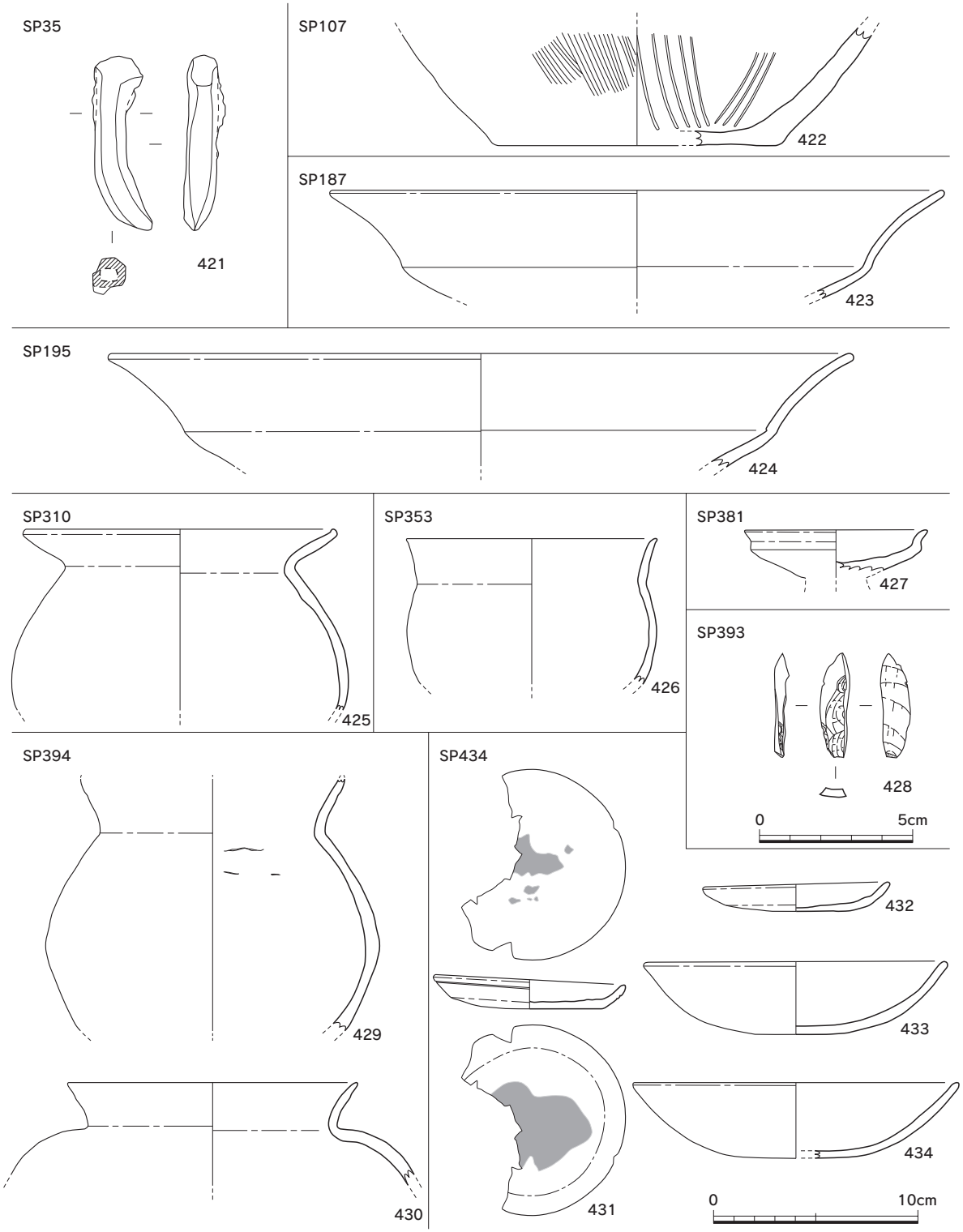
土師器（424）　高杯である。体部外面の屈曲は緩い。

ＳＰ310

土師器（425）　甕である。体部中位に最大径があるようである。

ＳＰ353

土師器（426）　丸底壺か。口縁部は短く、屈曲は緩い。



第75図　2次ＳＰ出土遺物実測図①（421・428は1／2、他は1／3）

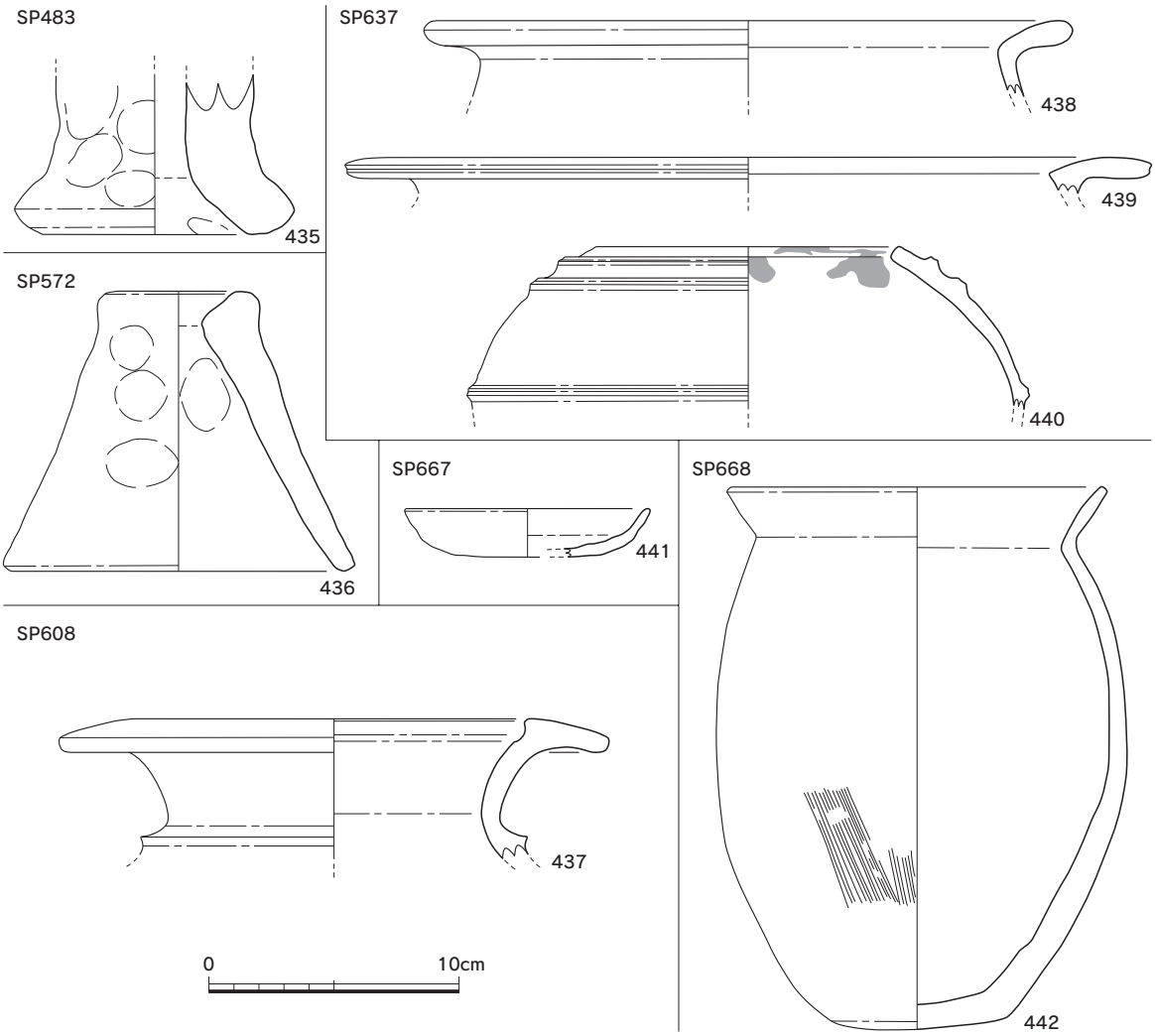
ＳＰ381

土師器（427）　器台である。杯部体部は浅く、口縁は外反する。

ＳＰ393

石器（428）　安山岩製ナイフ形石器である。側縁部の一部に刃潰しを施す。

ＳＰ394



第76図　2次ＳＰ出土遺物実測図②（1／3）

土師器（429・430）　いずれも甕。429は体部中位、430は体部上位に体部最大径があるようである。

ＳＰ434

土師器（431～434）　431・432は小皿である。431はススが内面に分厚く、底部外面に薄く付着している。433・434は丸底杯である。体部外面と底部外面の境の稜はなく、底部は平底に近くなってきている。

ＳＰ483

弥生土器（435）　器台である。器壁は分厚く、裾部は広がっている。

ＳＰ572

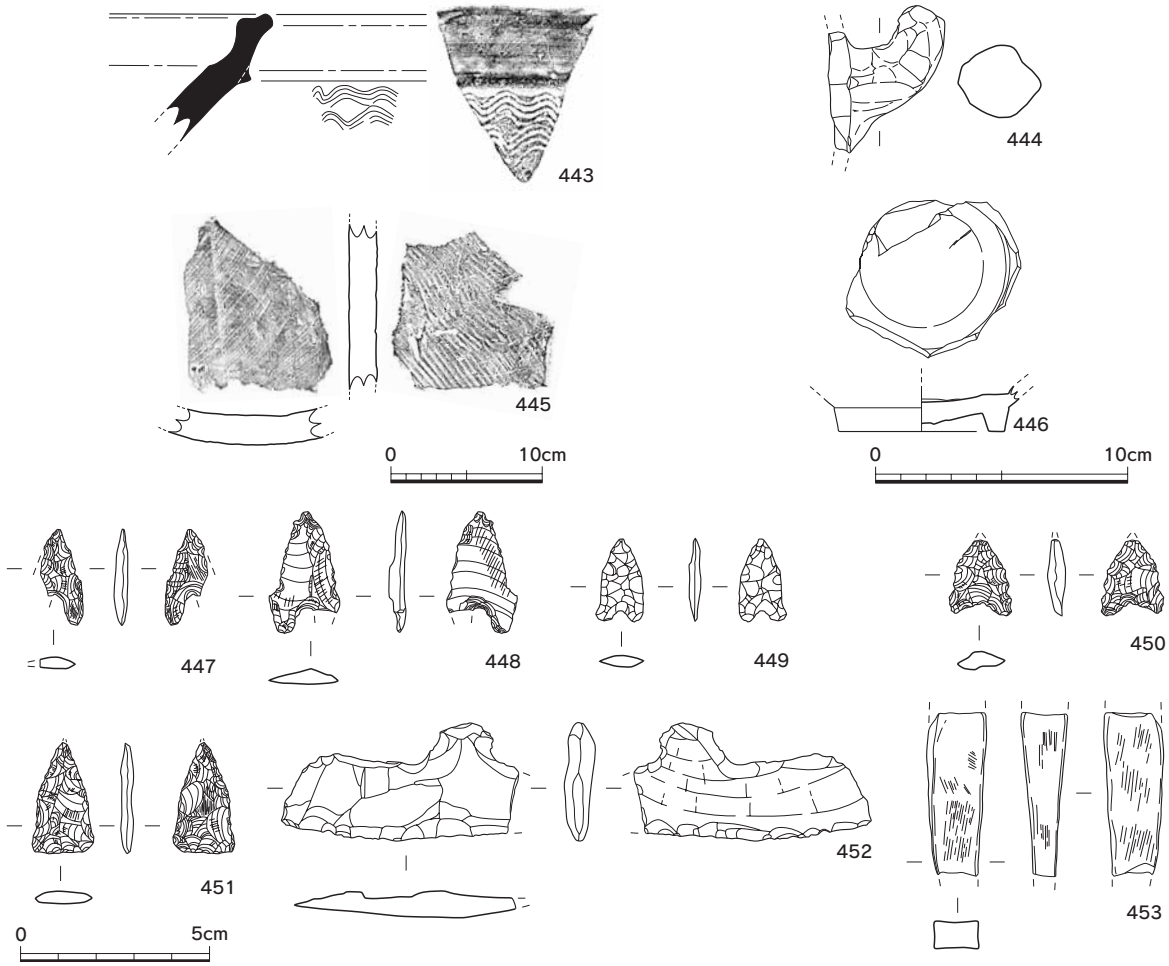
弥生土器（436）　支脚である。円錐状で、上端部は内面に向かって傾斜がついている。

ＳＰ608

弥生土器（437）　広口壺である。口縁部は鋤先状を呈し、頸部は短い。

ＳＰ637

弥生土器（438～440）　438・439は甕。439は丹が施されている。440は丹塗の壺で、体部中位



第77図　2次遺構検出時・その他出土遺物実測図（444は1／5、447～453は1／2、他は1／3）

から口縁部にかけて内湾する。体部下半を欠損し全体は不明であるが、広口壺の口頸部がないような形態であろう。断面M字形の突帯を口縁部外面に二条、体部外面中位に一条、計三条貼り付ける。周辺遺跡の九州大学筑紫地区遺跡群のＳＸ303旧河川から同様の壺が出土している。

ＳＰ667

土師器（441）　小皿である。体部外面と底部外面の境は丸みを持つ。

遺構検出時・その他

須恵器（443・444）　443は甕で、口縁部は二重口縁状を呈し、口縁部下外面に波状文を施す。487(本堂遺跡６次調査ＳＤ01出土)と同一個体か。口縁端部の形態・波状文の幅などが類似している。444は把手である。

瓦（445）　平瓦で、凸面は平行タタキ、凹面は布目痕が認められる。

磁器（446）　白磁椀で、残存する部分は見込みに施釉されるのみで、他は露胎である。太宰府分類Ⅳ類である。

石器（447～453）　447～451は黒曜石製打製石鏃である。447は抉りが深く、448は脚部が張り出し、451は平基式である。452は安山岩製石匙である。453は凝灰岩製砥石で、手持ち砥である。

（井上）

註１　報告書既刊。石木秀啓2005『牛頸野添遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第66集

Ｃ．小結

第２次調査は10,904㎡におよび、遺構の数も非常に多い。以下では、時期ごとに遺構の変遷を見ることで、各期の特色を抽出したい。

旧石器時代

細石刃（ＳＣ04・ＳＸ30）やナイフ形石器（ＳＣ06・ＳＣ09・検出面・ＳＤ08・ＳＰ393）が出土している。後期旧石器時代に位置付けられよう。いずれも新しい時代の遺構から出土したもので、当時の遺構については明らかにできなかったが、ＳＸ75・76など落とし穴と考えられる遺構もある。

縄文時代

該期の遺物は非常に少ない。ＳＥ01出土遺物には縄文土器の可能性があるものが含まれるが、時期は確言できない。石器は、基部のくり込みが深い石鏃（446・447など）や石匙（451）があるが、時期を決定できない。本調査区から南へ約350ｍの所に位置する本堂遺跡５次調査では、早期の撚糸文土器・押型文土器などが谷部から多量に出土している。こうした状況は本調査区では認められない。５次調査区周辺は痩せ尾根と谷部が入り組む丘陵地、２次調査区周辺は低い丘陵地であったことが想定され、居住など生活スペースとしては２次調査地側が適しているように思えるが、遺物の出土傾向には反映されない。今後、周辺調査区において該期の遺構・遺物の広がりを確認していく必要がある。

弥生時代

早期の遺構としては、ＳＤ08がある。遺物には突帯文土器を主とし、石鏃など若干の石器を含む。最終的には、前期のうちには埋没したようである。その他、突帯文土器がＳＢ01・ＳＸ76・79などから出土している。このうち、ＳＢ01・ＳＸ79は新しい時期の遺物を含む。ＳＸ76は遺物少量のため確言は難しいが、該期の遺構である可能性が高い。

前期の遺構から中期後葉までの遺物はまったく認められず、中期末以降の遺構が急に増加する。中期末～後期初頭の遺構として注目される遺構は、ＳＸ41・43・44などの井戸とＳＸ53のような祭祀土器を含む遺構である。遺物量は少ないが、ＳＸ42・ＳＥ01もこの時期にあたる可能性が高い。図化できる遺物はないが、ＳＸ52・75・76は掘方がＳＸ53と類似しており、該期の遺構である可能性がある。ＳＸ40・49・54・56・74・75・92は該期の遺物を含む土坑であるが、遺構の性格は判然としない。このように、中期末～後期初頭は遺構が多く多量の遺物が出土した。特に顕著なのは井戸であり、この時期以外のものと明確に判断できるものはない。竪穴住居跡などの居住遺構は確認できないが、大きく削平されるため、大部分が失われるのであろう。

後期中葉の遺構としては、ＳＣ04・ＳＸ28・ＳＰ668がある。ＳＣ08は主柱穴がＳＣ04と同じ方位をむき、出土遺物も弥生土器しか認められないことから、この時期にあたる可能性もある。

古墳時代

ＳＣ03は弥生時代後期末から古墳時代初頭にあたる。高杯は柳田Ｉａ式（註１）にあたろう。ＳＣ09の高杯はやや杯部が深く、逆台形に近い。類例がなくやや迷うが柳田IIａ～IIｂ式あたりか？ＳＸ35も同じ時期にあたる。竪穴住居跡は主柱穴も明確であり、規模も大きくなる。また、

ＳＰ出土遺物にも該期のものが認められ、広く遺構が展開していたことを示す。

古墳時代後期の遺構としては、ＳＸ67ａに６世紀中頃かと思われる杯Ｈ身が含まれる程度で、他の遺構からも小片・少量の出土しかなく、調査区内では該期の遺構は非常に少ない。

飛鳥時代

ＳＸ68は、杯Ｇ身が出土しており、７世紀中頃にあたる。ＳＤ13は、山形のつまみを有し、杯は高台をともなわないが、７世紀後半に位置付けできようか。

奈良時代

遺構の数が最も増える時期である。ＳＤ09・12はＳＤ07出土遺物よりもやや先行すると考えられる。７世紀末～８世紀初頭。

８世紀前半になると、ＳＤ07がＳＤ09・12を切る。杯身の高台は高く、杯蓋の口縁端部は短く折り曲げられる。ＳＤ11はＳＤ12を切る。杯Ｂ蓋の口縁端部の折り曲げは高くないが、つまみは大きく、杯Ｂ身は高台が高い。

８世紀前半～中頃にはＳＣ01があり、杯Ｂ身は細く高い高台を有し、高杯もこれに矛盾しない。ＳＣ05も同じ時期にあたる。ＳＣ02は該期の杯類を含むが、小片のため詳細な時期は不明。ＳＸ39は焼き歪んだ須恵器を含み、杯Ｂ身は深く、立ち上がりが細く高いが、土師器と合わせると８世紀前半～中頃においた方が妥当か？ＳＸ72・73は８世紀前半～中頃。

８世紀中頃には、ＳＸ15がある。杯Ｂ身の高台が低く、杯Ｂ蓋は山形のつまみを有するが折り曲げは小さい。８世紀中頃か？ＳＸ21も同様の時期である。

平安時代以降

８世紀後半以降、遺構・遺物は極めて少なくなる。特に９世紀代の遺構はまったく認められず、遺物もほとんどないが、11世紀以降再び遺物量の増加が認められ、遺構の数も増える。

ＳＤ10・ＳＸ45・51はいずれも太宰府分類Ⅻ型式ごろか？11世紀後半～12世紀前半。

ＳＤ01は弥生時代以降の遺物を含む。８世紀前半代の須恵器も多いが、主となるものは12～13世紀の土師器・陶磁器である。最終的な埋没年代は小皿（61）や龍泉窯系青磁（86）のようにＥ期（13世紀初頭～前半）にあたる（註２）。溝が機能していた時期は12世紀代にあたろうか？溝内からは焼け歪んだ瓦器や棒状土製品が出土するなど、瓦器焼成遺構が近接する可能性がある。

ＳＤ03は龍泉窯系青磁椀Ⅳ類を含み、Ｇ期（14世紀初頭～後半）にあたる。ＳＸ05出土の土師器鍋は15世紀後半～16世紀前半。ＳＸ01出土の土師器鉢は16世紀前半～中頃。陶器椀は朝鮮の雑釉陶器で15～16世紀。ＳＸ09は擂鉢から15～16世紀の間。注目されるのは、青白磁合子。森本分類Ⅱ－１群、11～12世紀代か？

ＳＤ04は、広東椀の蓋があり、18世紀末～19世紀初頭の年代が考えられるが、粉青沙器の小片を含み15～16世紀代の遺構の存在を示している。（石木）

註１　柳田康雄1991「２－２九州」『古墳時代の研究６』雄山閣

註２　土師器・陶磁器の編年については、以下の文献を参考にした。

山本信夫1990「統計上の土器」『九州上代文化論集－乙益重隆先生古稀記念論文集－』

茶道資料館1990『遺跡出土の朝鮮王朝陶磁－名椀と考古学－』平成二年秋季特別展図録

山村信榮1990「太宰府出土の瓦質土器」『中近世土器の基礎研究Ⅵ』

中島恒次郎1992「大宰府における椀形態の変遷」『中近世土器の基礎研究Ⅷ』

中世土器研究会編1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

佐藤浩司1995「北九州市域の15～16世紀の土師器」『大宰府陶磁器研究』

田中克子1997「野多目Ａ遺跡群第４次調査出土の近世初頭の遺物について」『博多研究会誌』第５号

森本朝子・片山まび2000「博多出土の高麗・朝鮮陶磁の分類試案」『博多研究会誌』第８号

山本信夫2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集

森本朝子2003「博多遺跡群出土の合子」『博多研究会誌』第11号

２．第４次調査

Ａ．調査概要（第78図・図版32）

第４次調査地は、事業地で最も北側の調査地にあたる。大野城市大字上大利578－1番地ほかにあたり、調査面積は670㎡である。調査地は、古くは田として利用されていたようであるが、元々は北東方向へむかう細長い丘陵の先端にあたる。調査地の上方は古くから道路が走っていたようであり、本来の地形は相当失われ、遺構の残存状況は極めて悪い。

試掘調査は平成15年１月11日から22日の間におこなった。調査地から南西方向の広い範囲を試掘調査した結果、北東方向へのびる谷部を検出した。谷部両側の斜面は表土剥ぎをおこない、ほとんど遺構は確認されなかったが、北側の一角にて遺物の出土と遺構の検出をみた。調査面積および遺構量はさほどの規模ではなかったが、他の調査との段取り上、発掘調査は平成15年５月22日より開始し、６月５日に終了した。

調査の結果、確認された遺構は土坑４基・溝１条である。遺物は、須恵器・土師器・白磁・黒曜石製石鏃・安山岩チップなどがある。（石木）

Ｂ．遺構と遺物

（1）溝

ＳＤ01（第79図・図版32）

調査区の東側を南から北へ流れる。溝幅は一定せず、溝底も不連続で一定しない。等高線に平行しており、北側は調査区外へのびている。深さは10～70cm程度。埋土は黄褐色土を主体とし、滞水していた可能性がある。出土遺物は須恵器・土師器・砥石などがある。（石木）

出土遺物（第80図・図版70）

須恵器（454）　杯Ｂ身で高台はしっかりしている。

弥生土器（455）　壺の肩部で、体部内面に横位のハケメ、体部外面は斜位のハケメが施される。

石器（456）　片岩製の手持ち砥石である。（井上）

（2）土坑

ＳＸ01（第79図・図版33）

調査区の南側に位置し、小判形プランを呈する。長さ1.01ｍ、幅0.76ｍ、深さ0.20ｍ。埋土は褐灰色土。出土遺物は須恵器・土師器・安山岩剥片がある。（石木）

出土遺物（第80図・図版70）

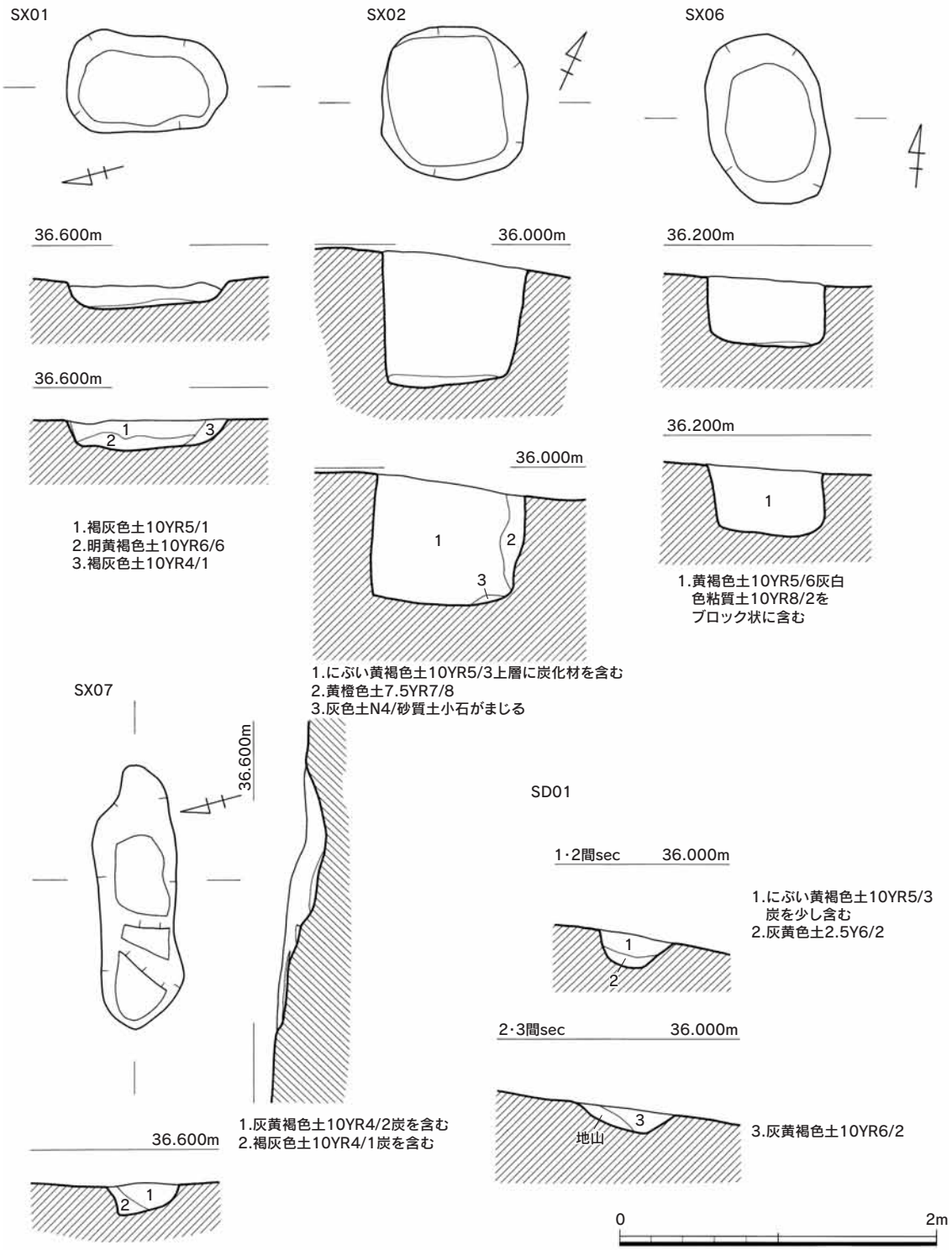
須恵器（457）　杯Ｈ身。体部は浅く、底部外面に回転ヘラケズリを施す。口縁部に重ね焼きの痕跡がある。（井上）

ＳＸ02（第79図・図版34）

調査区のほぼ中央に位置し、ＳＤ01・ＳＸ06に近接する。方形プランを呈し、長さ0.96ｍ、幅0.90ｍ、深さ0.86ｍ。埋土は黄褐色土～灰色土。下層からは小石が出土する。井戸であろうか？出土遺物は、炭化材があるのみで図化できるものはなかった。（石木）

ＳＸ06（第79図・図版35）

第78図　４次調査遺構配置図（1／200）

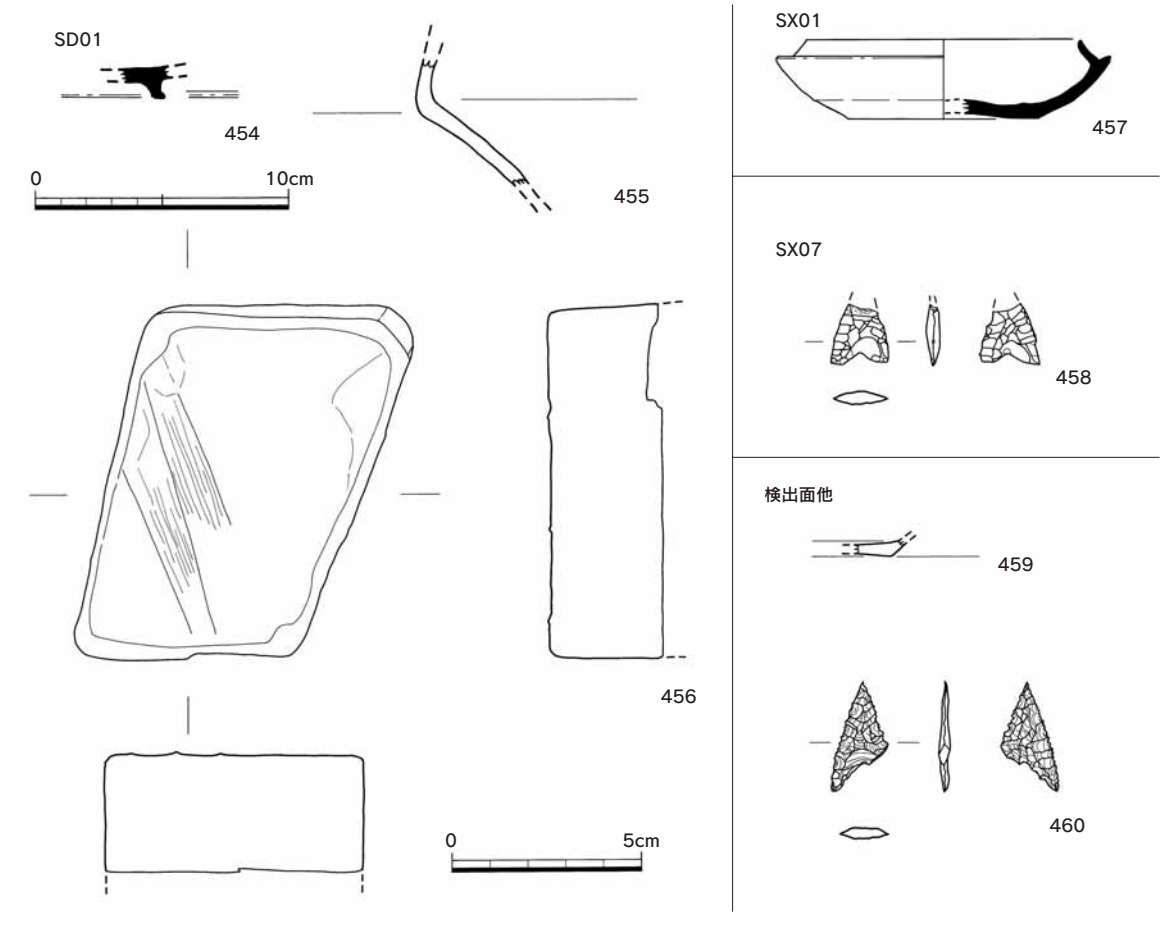


第79図　４次遺構実測図（1／40）

調査区のほぼ中央に位置し、ＳＸ02に近接する。小判形プランを呈する。長さ1.07ｍ、幅0.73ｍ、深さ0.40ｍ。埋土は黄褐色土。出土遺物はない。（石木）

ＳＸ07（第79図・図版33）

調査区の南側に位置し、ＳＸ01に近接する。隅丸長方形プランを呈し、等高線に直交している。長さ1.66ｍ、幅0.55ｍ、底面は一定せず、斜面下方へ向かって段々と下がり、埋土は灰黄褐色土



第80図　４次出土遺物実測図（456・458・460は1／2、他は1／3）

を主体とする。出土遺物は石器がある。（石木）

出土遺物（第80図）

石器（458）　安山岩製打製石鏃。抉りは浅く、切先を欠損する。（井上）

（3）その他の出土遺物

磁器（459）　白磁皿太宰府分類Ⅳ類。内外面ともごく薄い釉が施される。

石器（460）　黒曜石製打製石鏃。抉りは深く、脚部を片方欠損する。（井上）

C．小結

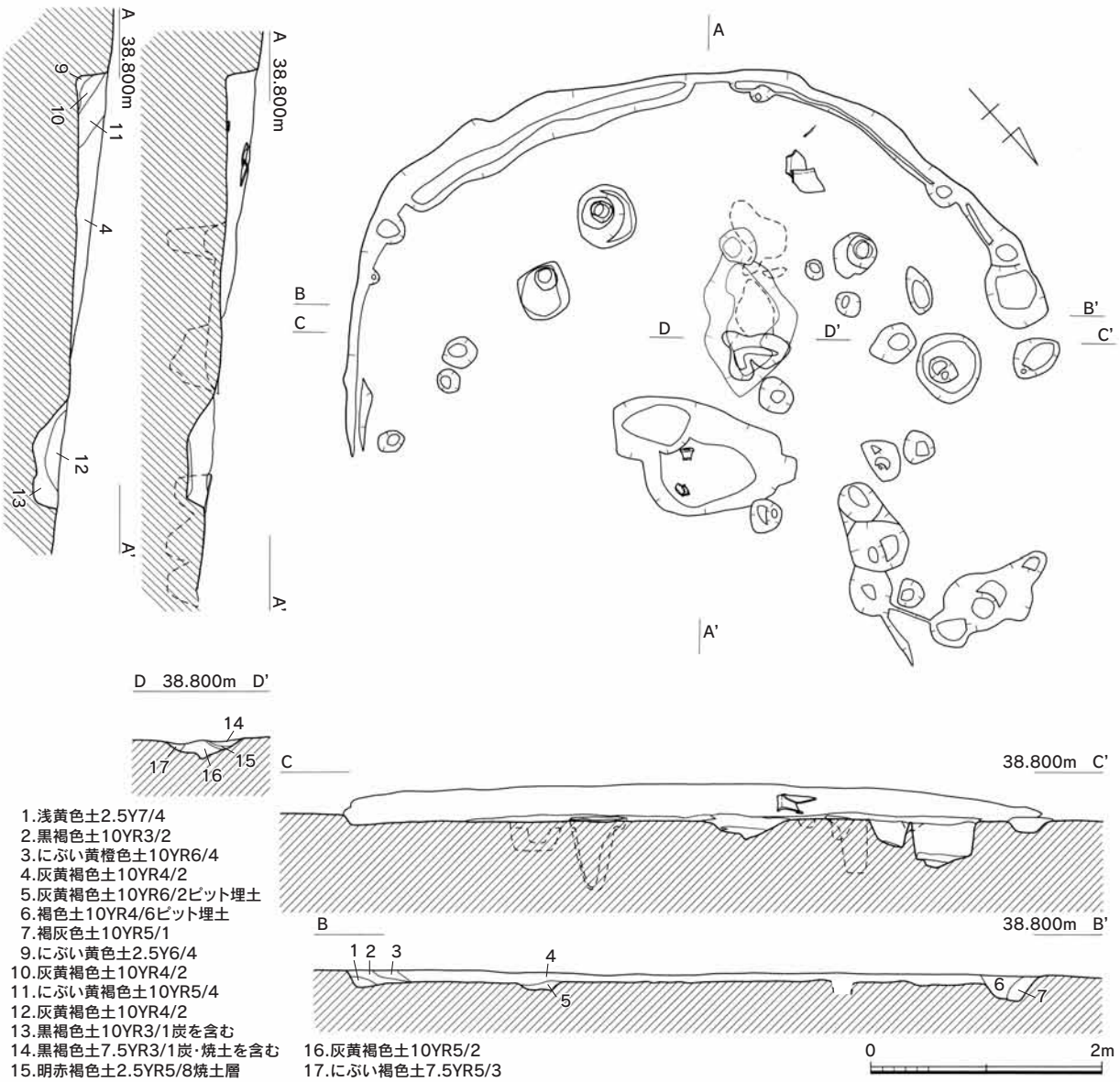
本調査地内で遺構の時期・性格が明らかになるものは少ない。ＳＸ07・検出面からは石鏃が出土しており、縄文時代以来の活動の痕跡が伺える。ＳＤ01は須恵器杯身小片があり、奈良時代のものと思料されるが、詳細は明らかではない。ＳＸ01は小田ⅣＡ期か？白磁皿は太宰府分類Ⅴ類かと思われるが、小片のため詳細不明。（石木）

３．第６次調査

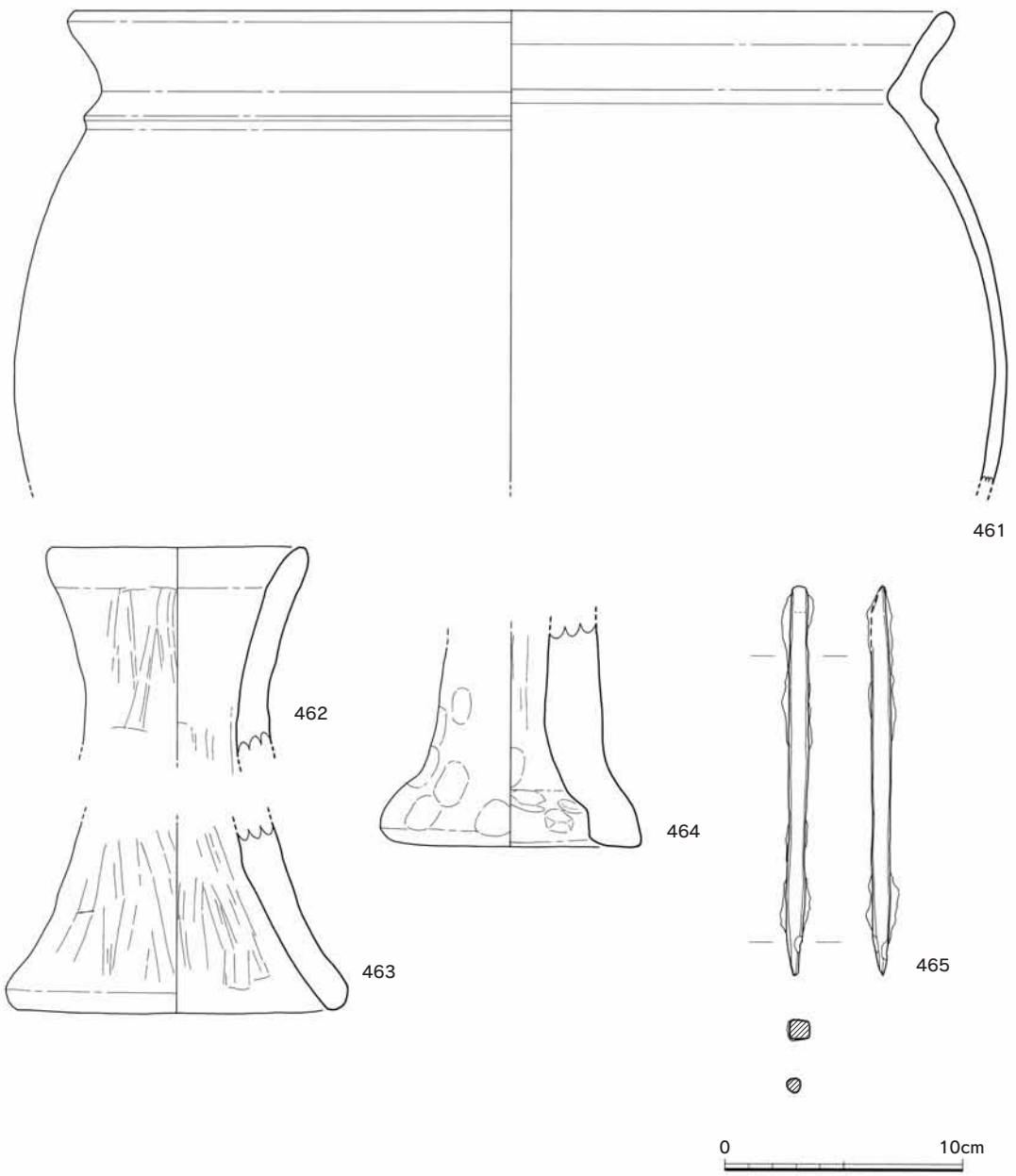
Ａ．調査概要（付図・図版36）

第６次調査地は、本堂遺跡２・３次調査地の間にあたる。大野城市大字上大利629番地ほかにあり、調査面積は1400㎡の細長い調査地である。調査時には耕地化され、ほぼ水平に造成されていた。２次調査地との現況の比高差は約２ｍと高かったことから、相当の削平を受けるものと考えていたが、表土剥ぎの結果、調査地は、３次調査地となった丘陵の斜面下方にあたり、水田面へ向かって緩く下がる緩斜面であることが判明した。先の耕地化は盛土によりおこなわれたようで、遺構の残存状況は割合よい。

試掘調査は39次試掘調査として、平成15年７月12日から25日の間におこなった。鳥栖ロームの２次堆積層を遺構検出面とし、遺構は調査地の全面に分布していたが、東側は検出に手間取り、剥ぎすぎた部分が多分にある。発掘調査は平成15年８月19日より開始し、10月７日に終了した。



第81図　６次ＳＣ01実測図（1／60）



第82図　６次ＳＣ01出土遺物実測図（1／3）

調査の結果、確認された遺構は竪穴住居跡２軒・土坑14基・溝１条である。溝は２次調査ＳＤ01の続きが検出された。遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・鉄鑿などがある。　（石木）

Ｂ．遺構と遺物

（1）竪穴住居跡

ＳＣ01（第81図・図版37・38）

調査区の東側に位置する。径6.15mの円形プランを呈するが、北半部を失っており、周壁は南半部しか確認できない。最も深い所で27cm。住居の中央部よりやや南側では、焼土の広がりが認められ、炉跡が確認できた。炉穴は長さ1.45m、幅0.75m、深さ11cm。周壁下には壁溝が認められる。中央部には長さ1.68m、幅1.00mの土坑があり、遺構検出時には住居跡埋土の範囲外にあ

ったため別遺構としたが（ＳＸ11）、遺物の時期・埋土は同じであることから住居の屋内土坑と考えた。主柱穴は３本確認された。埋土は灰黄褐色土を主体とする。出土遺物は弥生土器・鉄鑿があり、床面直上から461と465とが出土した。（石木）

出土遺物（第82図・図版70・71）

弥生土器（461～464）　461は甕。口縁部は屈曲し、頸部外面に断面三角形の突帯を巡らす。器表摩滅が著しい。462～464は器台。461・462の外面は板状工具による縦位のナデが施される。461は上端部、特に外面側の摩滅が著しい。463は裾部が膨らむ形態である。

鉄製品（465）　鑿状鉄製品。一端は柱状片刃状になっており、茎部の断面形は方形である。もう一端は細く尖っており、その断面形は円形である。（井上）

ＳＣ02（第83図・図版38）

調査区の東側、ＳＣ01の南側２ｍに位置する。検出時、等高線と平行する方向に長さ3.75ｍの方形プランを確認した。このため、この部分を竪穴住居跡と考え、掘り下げをおこなったが、主柱穴など住居内の施設は確認できなかった。埋土は黄橙色土を主体とし、６cmと浅い。出土遺物は、土師器が少量あるが、図化できるものはなかった。（石木）

ＳＣ03（第83図・図版39）

調査区の中央よりやや南側、ＳＤ01に隣接する。斜面部に長さ3.50ｍ、幅1.13ｍの台形プランを検出した。掘り下げの結果、最も深い所で30cmで、床面がほぼ水平となったため、竪穴住居跡と判断した。埋土は黄灰色土～黄褐色土で、斜面上方から流入した状況が伺える。出土遺物は、須恵器・土師器がある。（石木）

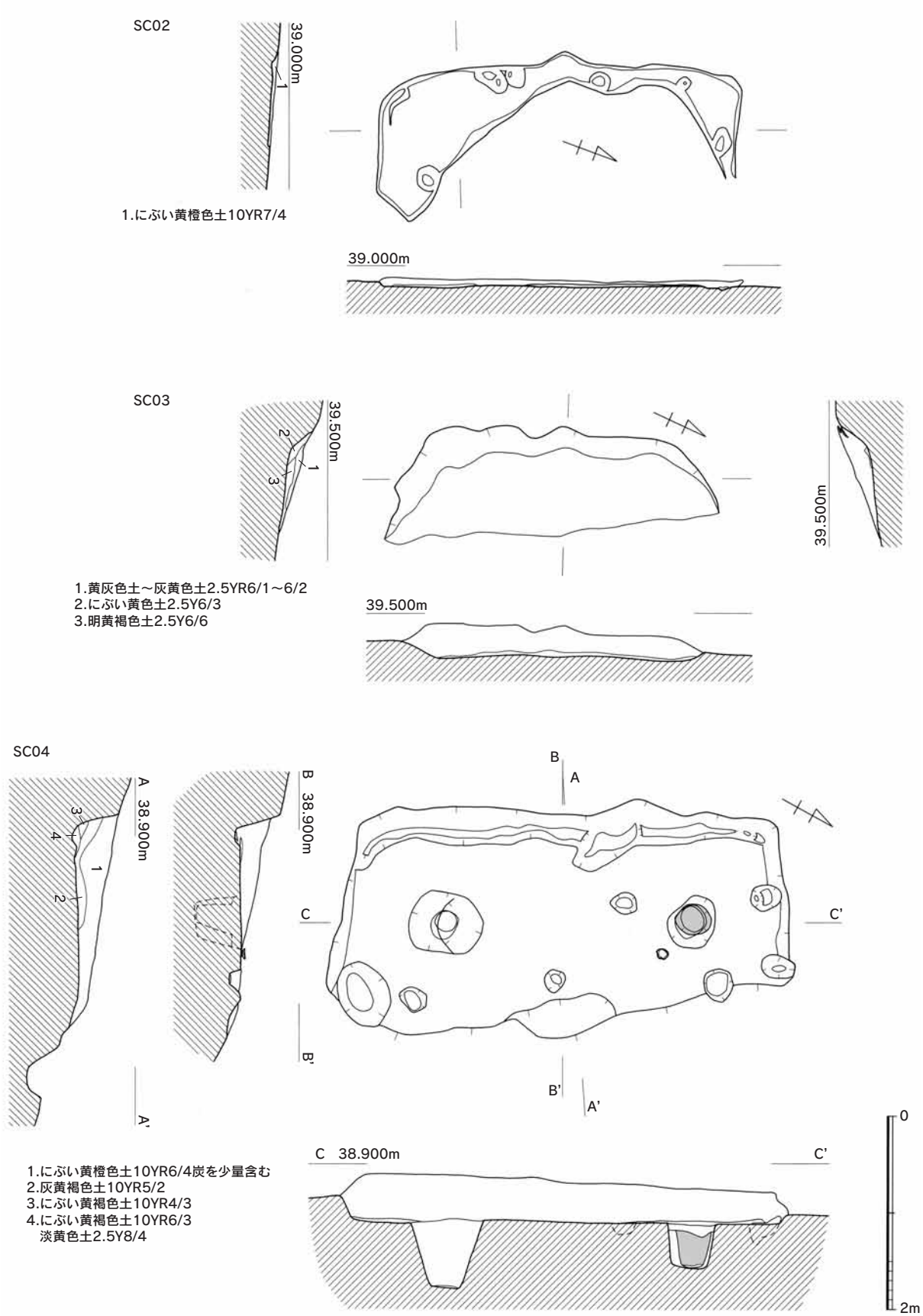
ＳＣ04（第83図・図版40）

調査区の中央よりやや南側、ＳＣ03に隣接する。西壁長4.32ｍ、残存幅2.32ｍの方形プランを呈する住居跡である。最も深い所で42cm、床面はほぼ水平で、西壁下には壁溝が巡らされる。住居の北半部はカクラン等により失われているが、主柱穴は２本確認される。埋土はにぶい黄橙色土を主体とし、斜面上方から堆積した様子が分かる。出土遺物は、須恵器・土師器などがあり、転用硯など特殊な遺物を含んでいる。（石木）

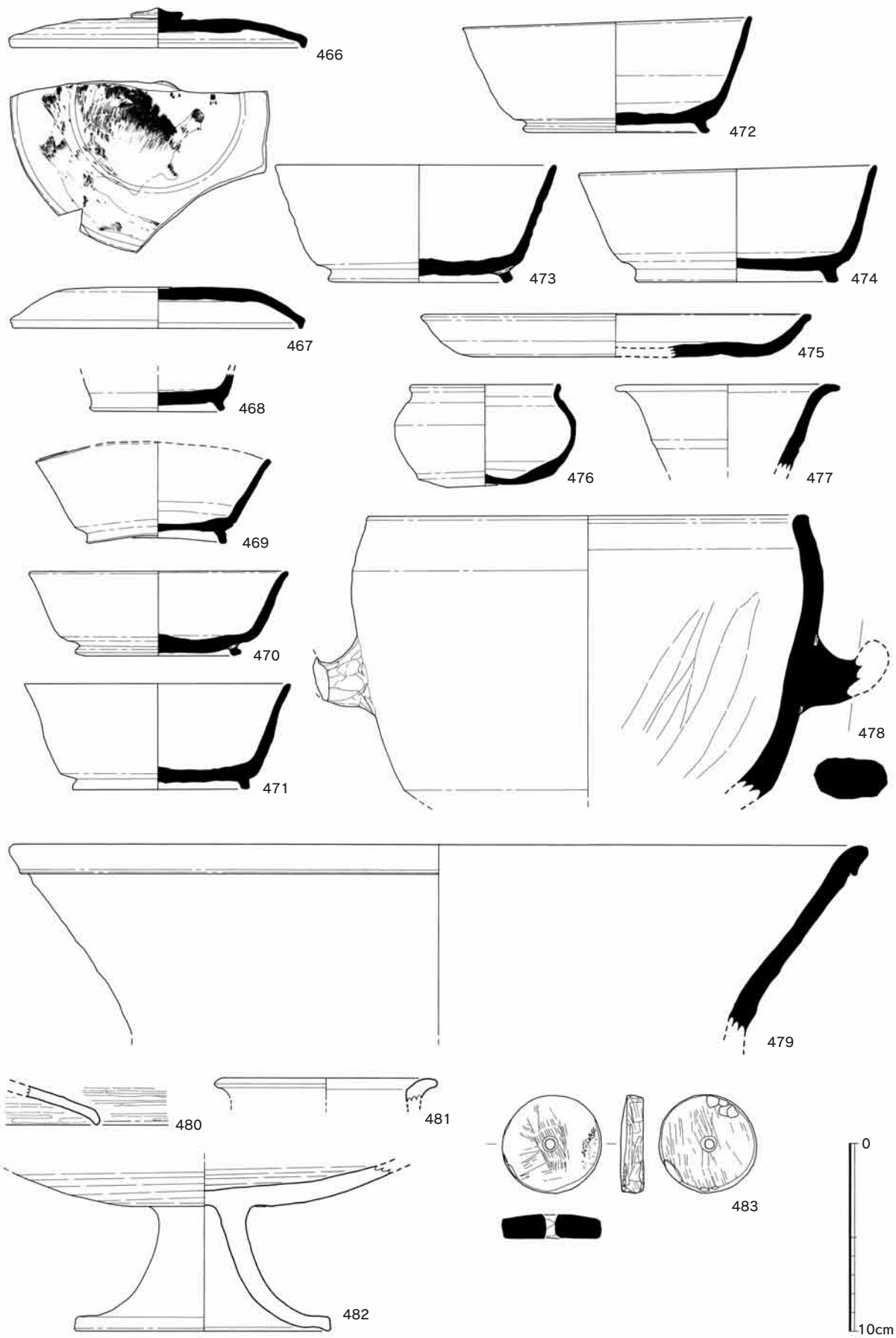
出土遺物（第84図・図版71）

須恵器（466～479・483）　466・467は杯Ｂ蓋で口縁端部を折り曲げる。467は転用硯で、内面に墨が付着している。468～474は杯Ｂ身で高台は低く、471～473の体部は深い。468は小型で底部端に高台が貼り付けられる。469はひどく焼け歪む。470は内面に胎土中の含有物が溶けたような黒色粒子が点々とみられる。470・472の底部外面にはヘラ記号が施される。475は皿。底部外面は回転ヘラ切り後回転ヘラケズリを施す。476は小型の短頸壺。477は長頸壺口縁片。口縁端部は水平となる。478は把手付鉢。口縁部はやや内湾し、断面楕円形の把手が貼り付けられる。内面は部分的に縦位のヘラケズリが施され、把手を貼り付けた部分は内外面とも指頭圧痕がみられる。54（本堂遺跡２次調査SD01出土）と類似する。479は甕。頸部外面に文様は施されない。483は紡錘車。側面部はヘラケズリ、他はナデが施される。上面にわずかだが布目痕がみられる。

土師器（480～482）　480は杯蓋、482は高杯である。内外面ともに回転ヘラミガキが施されて



第83図　６次ＳＣ02～04実測図（1／60）



第84図　６次ＳＣ04出土遺物実測図（1／3）

いる。480の口縁端部はわずかにつまむ程度で、482は低脚である。481は甕。口縁部片で内外面に少しススが付着している。（井上）

（2）溝

ＳＤ01（第85図・図版41）

調査区の中央よりやや南側に位置する。北側は２次調査区からのび、調査区を横断して斜面部にまで至る。調査区内では、ＳＣ03の直下から掘り込みが認められ、幅2.85ｍでほぼまっすぐのびる。溝の断面は逆台形で、底面は凹凸が少なく、斜面上方から２次調査区へむかって下がるが、斜面上方の掘り込み部分から8.2ｍの所とさらに６ｍ下がった所に高さ10cmほどの段が設けられる。埋土は、暗褐色土～にぶい黄褐色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・陶磁器などがある。（石木）

出土遺物（第86図・図版71）

須恵器（484～488）　484は杯Ｂ蓋。485は大型の蓋で口径23.6cmを測る。口縁端部はかえりを持ち、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。486・487は甕。486は頸部片で外面に沈線三条・波状文、487は443（本堂遺跡２次調査出土）と同一個体か。二重口縁で頸部外面に波状文を少なくとも二条施す。488は甑の裾部か。裾部内面はヨコナデ、その上方は強いナデ、外面に二条一組の沈線を二組施す。

土師器（489～490・492）　489は皿で底部を欠損し口縁端部はわずかに外反する。490は壺。頸部は締まり、口縁部は大きく開く。内面は粘土の輪積み痕がみられる。492は脚付皿。脚部は短く、端部は一方に突っ張る。

土師質土器（491）　鍋。頸部内面の稜は明瞭で、内面はハケメが施され、ススが付着する。

瓦質土器（493）　擂鉢。内面は器表が摩滅する。擂目は五条一組で、内外面、特に外面にススが付着する。鍋として転用されたか。

磁器（494・495）　龍泉窯系青磁椀。494は口縁片で端部は釉が摩滅する。内面は無文、外面は蓮弁文を片彫りする。太宰府分類Ⅱ類であろう。495は底部片で、見込に草花文を片彫りし、畳付きの釉は削り取る。高台内にトチン様のものが釉着する。太宰府分類Ⅰ類か。（井上）

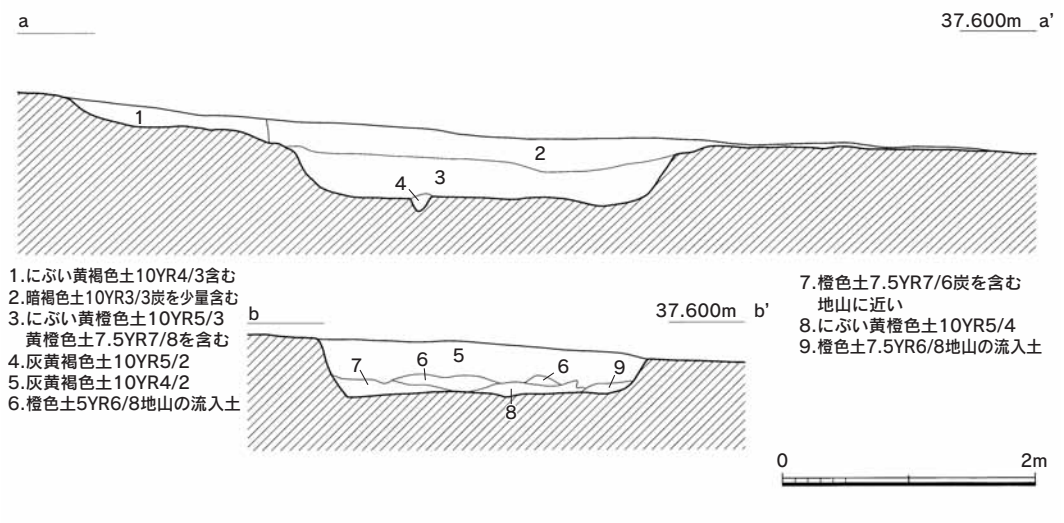
（3）土坑

ＳＸ04（第87図・図版42）

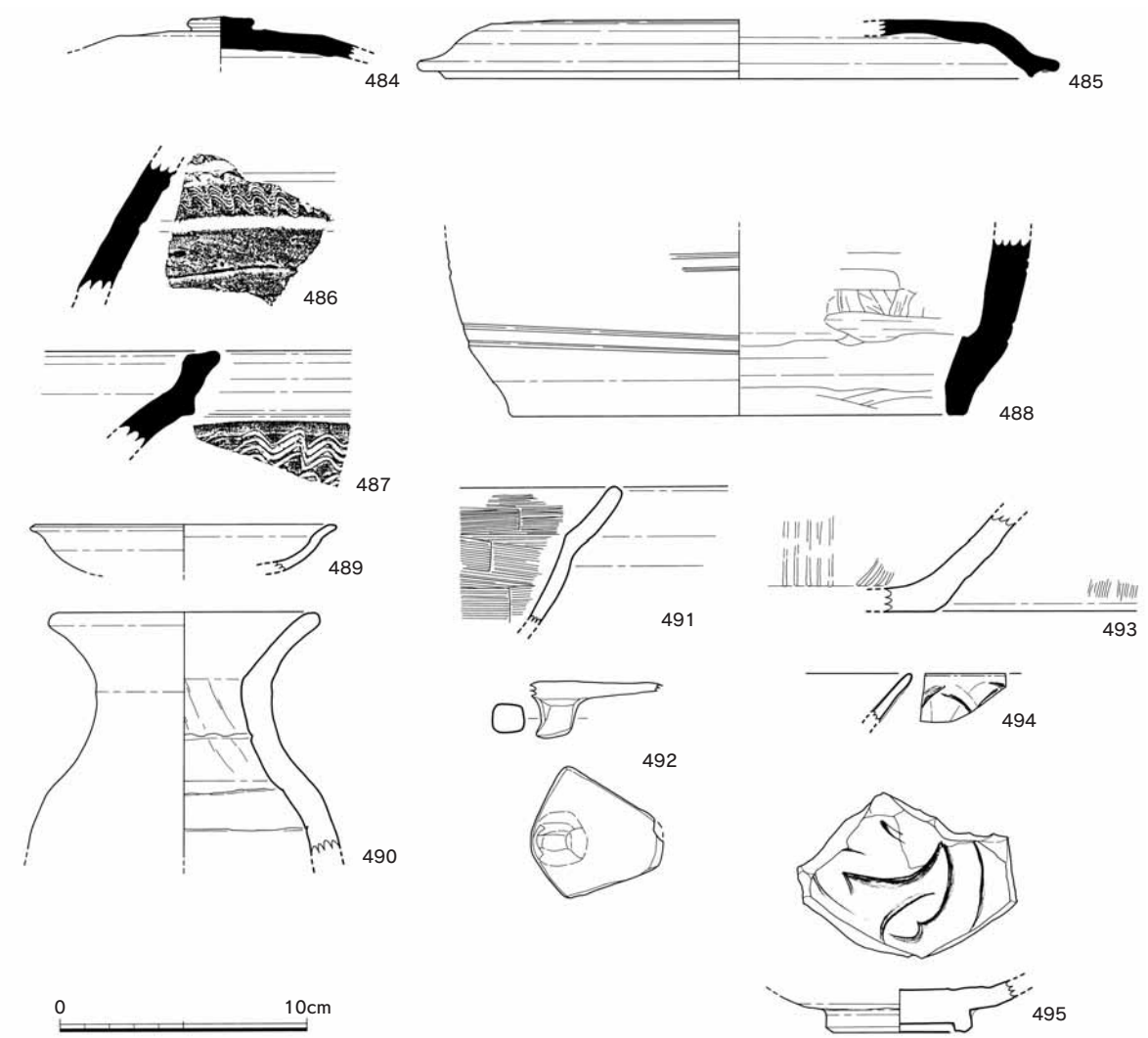
調査区の南東側に位置する。深さ0.80ｍ、径1.73～2.00ｍの楕円形プランを呈する。底面は水平に近く、掘方は箱形に近い。埋土は黄褐色土を主体とする。出土遺物は、弥生土器と思われる小片が出土しているが、図化できなかった。（石木）

ＳＸ05（第87図・図版43）

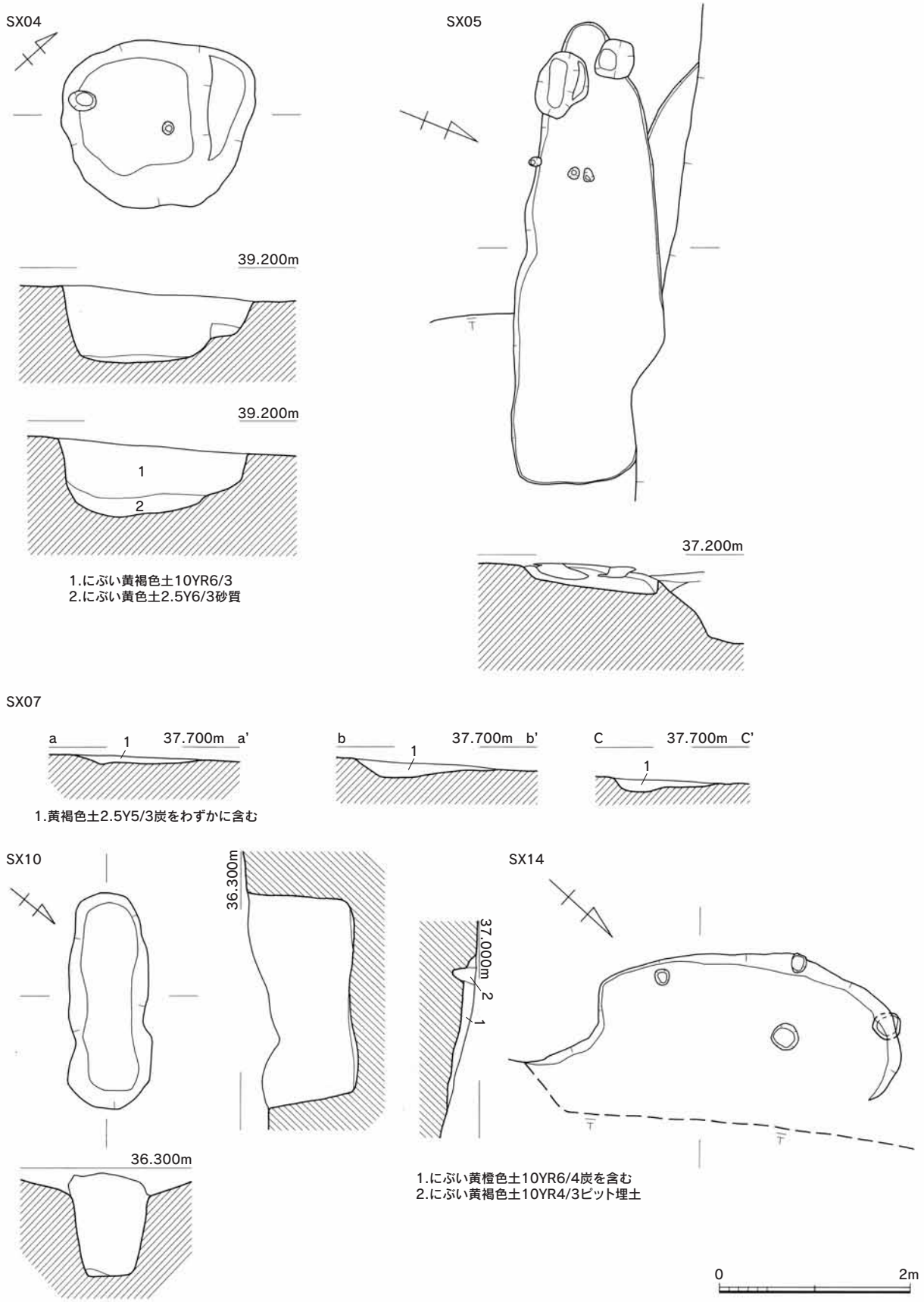
ＳＤ01に切られ、真ん中ほどをＵ字溝により切られる。検出当初は竪穴住居跡かと考えたが、掘り下げの結果浅い土坑であると判断した。長さ4.8ｍ、幅1.57ｍ、深さ0.2ｍ程度。底面は斜面下方へむかって緩く下がり、凹凸は少ない。埋土は、にぶい黄褐色土。出土遺物は、須恵器・土師



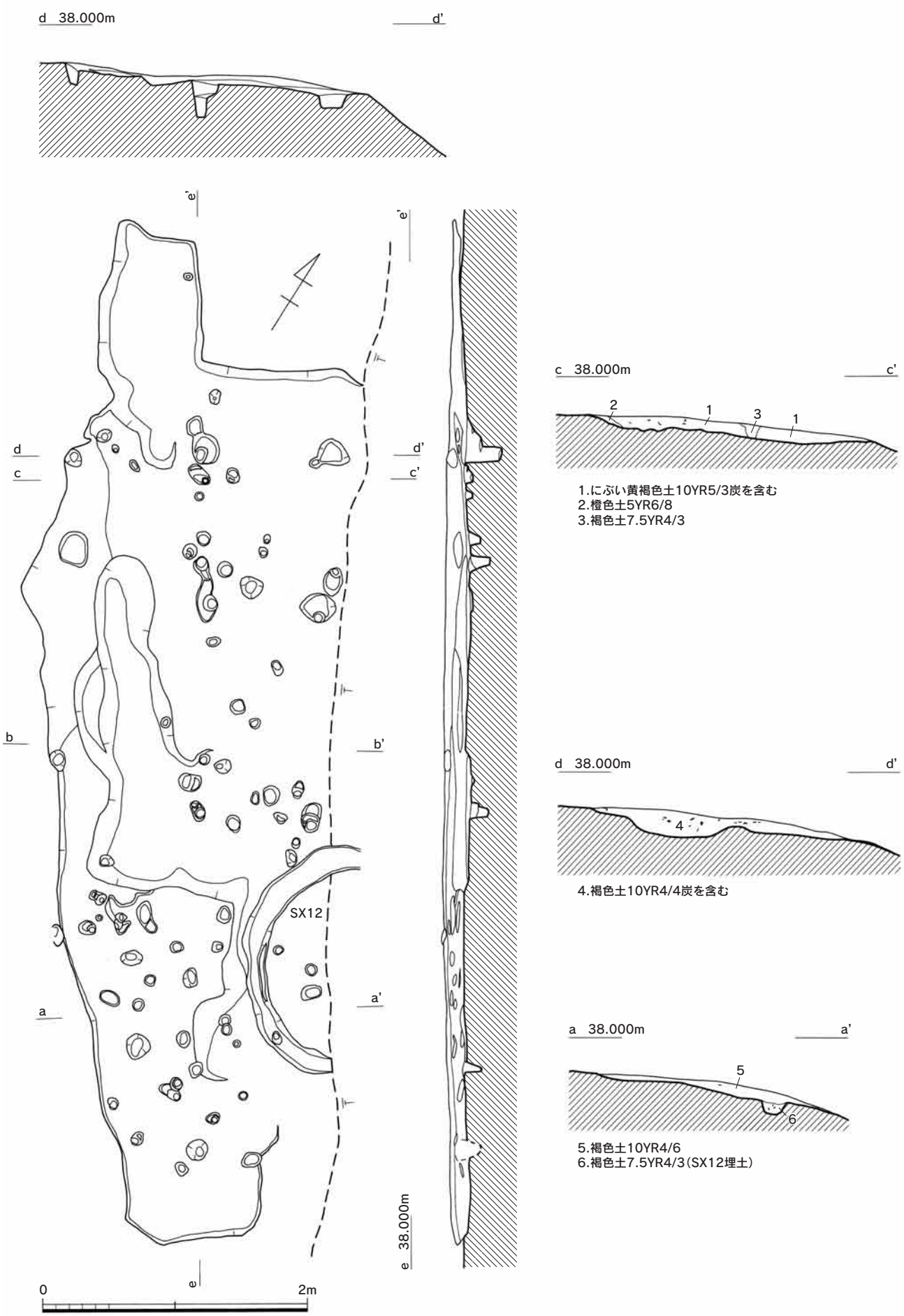
第85図　６次ＳＤ01土層実測図（1／60）



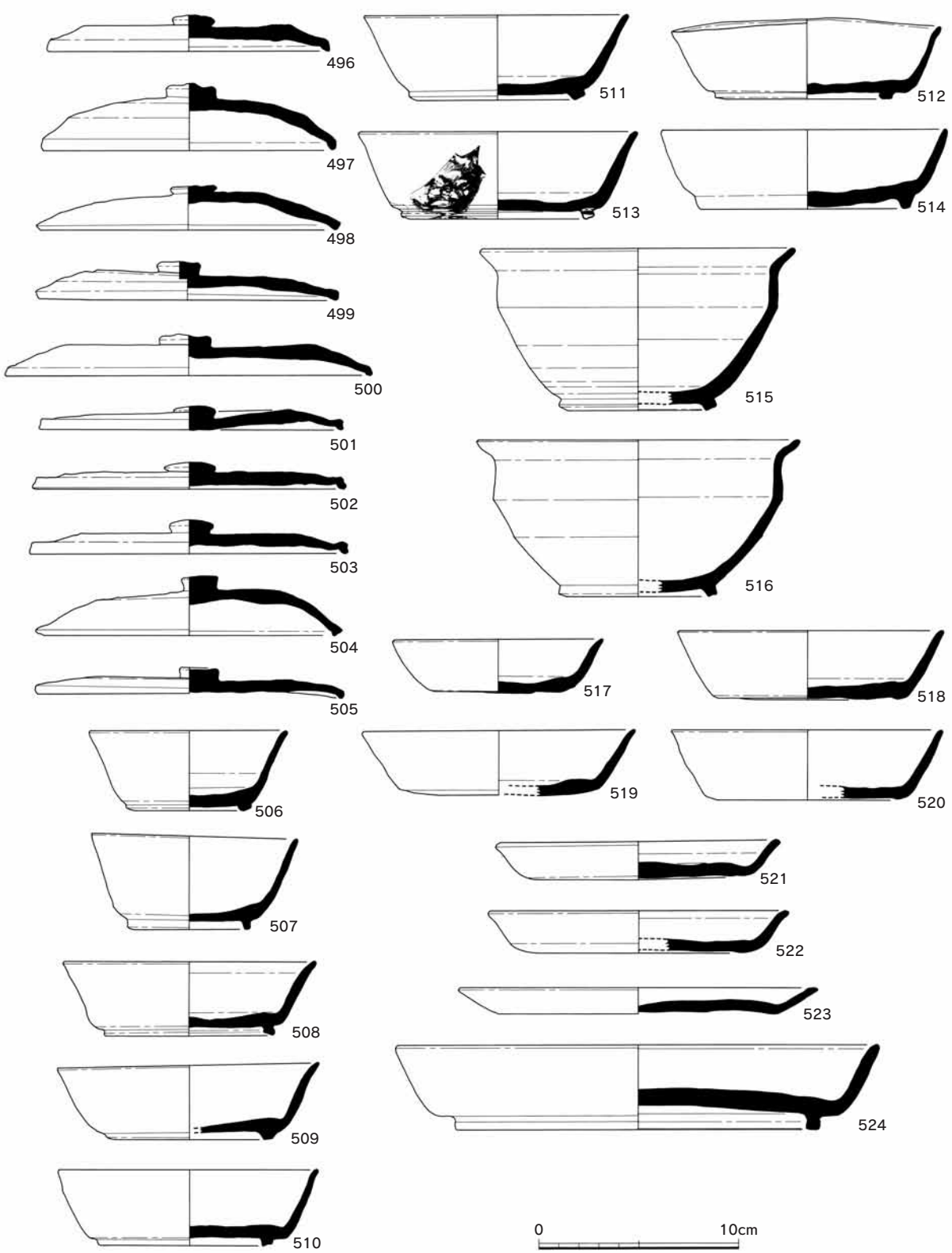
第86図　６次ＳＤ01出土遺物実測図（1／3）



第87図　６次ＳＸ04・05・07・10・14実測図（1／60）



第88図　６次ＳＸ06実測図（1／80）

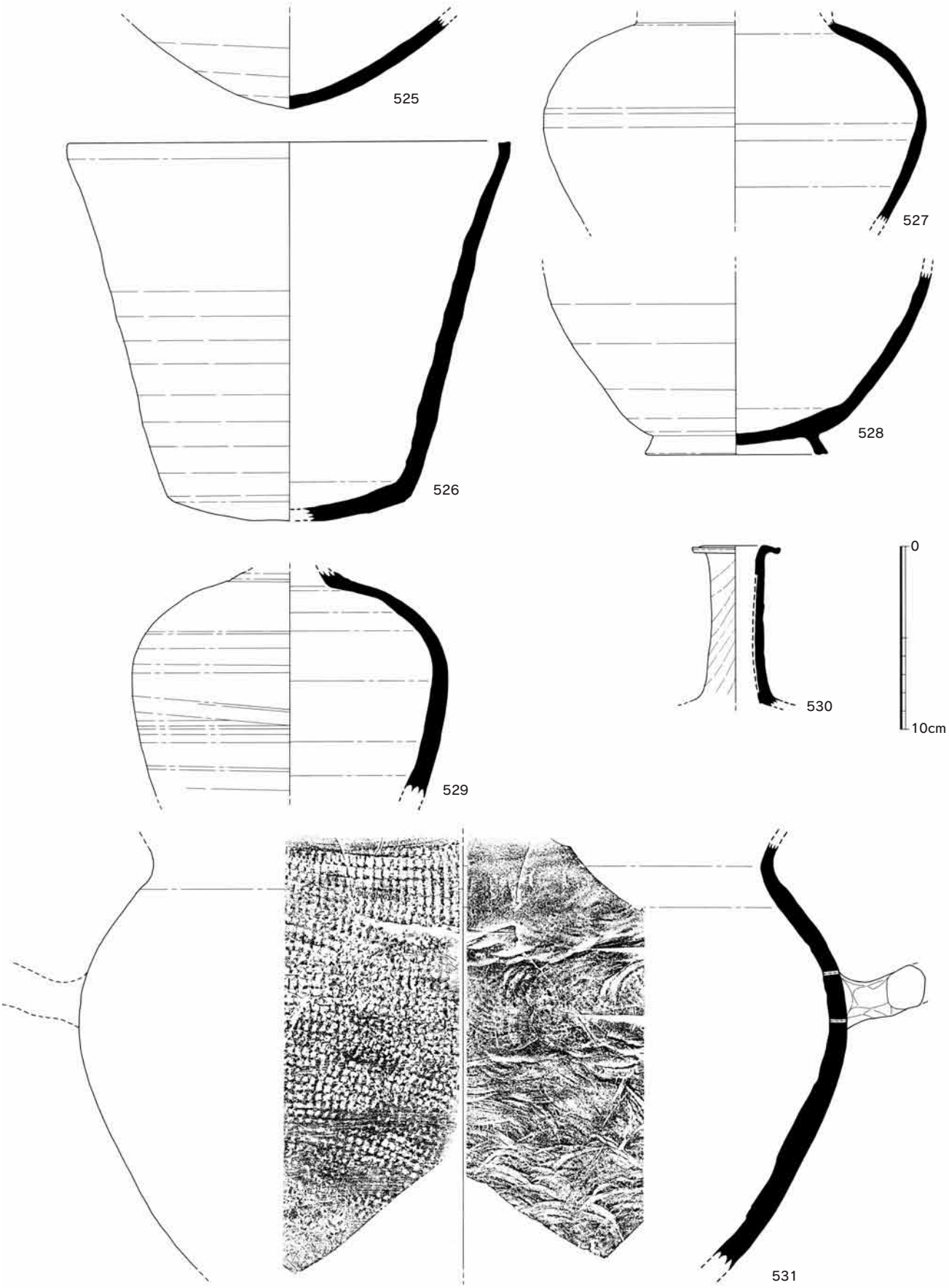


第89図　６次ＳＸ06出土遺物実測図①（1／3）

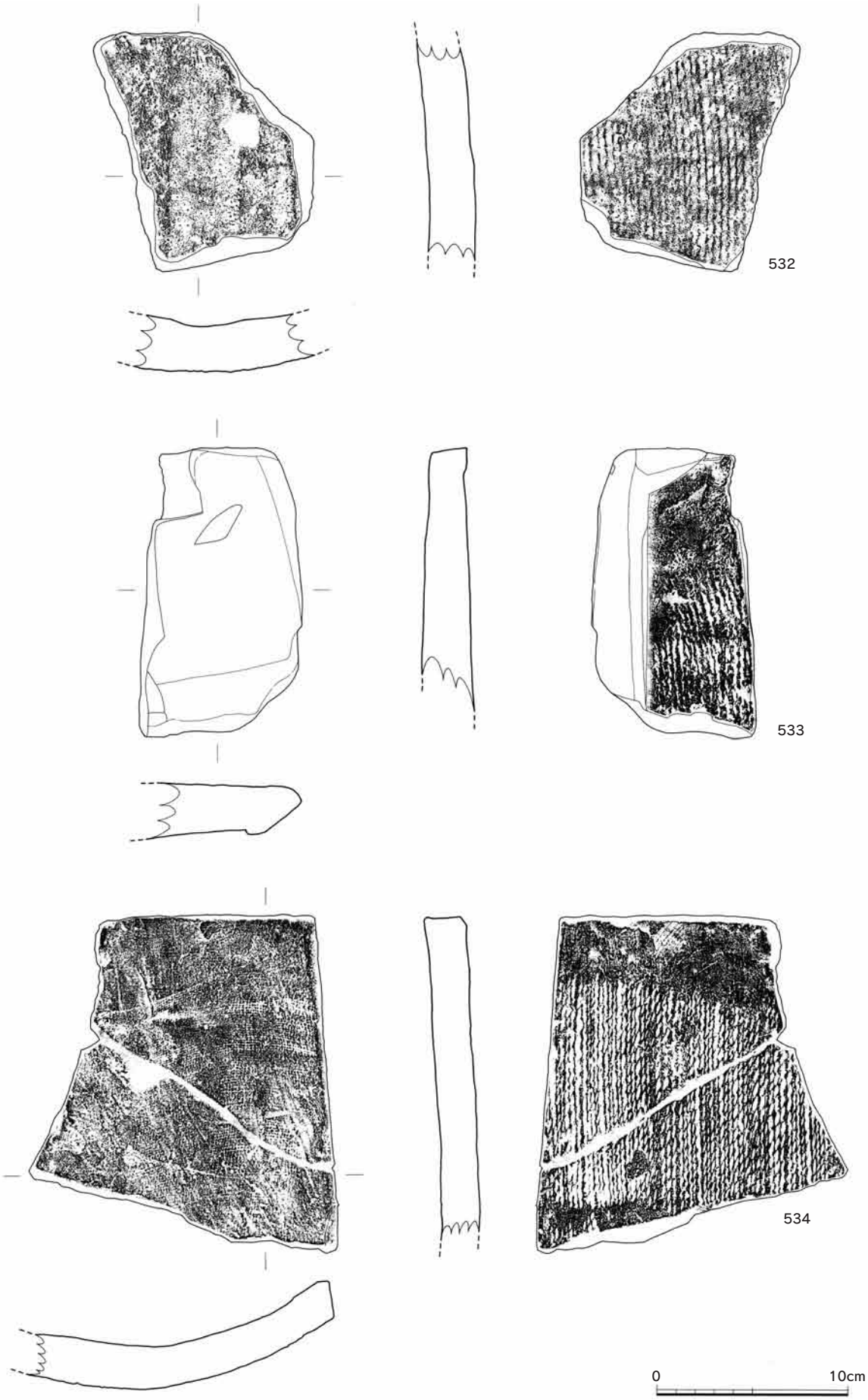
器・瓦質土器・陶磁器があるが、U字溝掘方からの中世以降の遺物が多く、遺構の時期を決定することができない。（石木）

出土遺物（第94図）

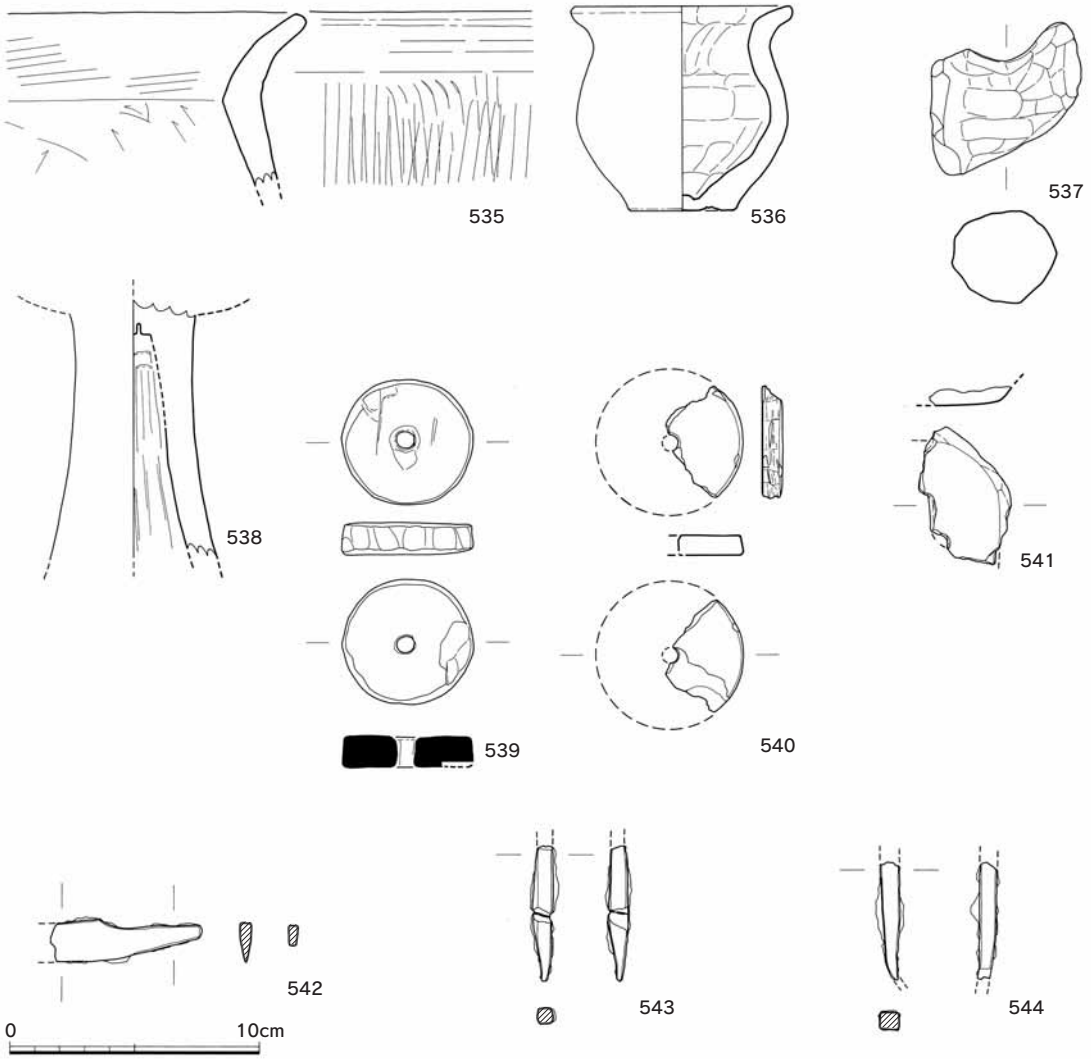
土師質土器（556）　素口縁の擂鉢である。



第90図　６次ＳＸ06出土遺物実測図②（1／3）



第91図　６次ＳＸ06出土遺物実測図③（1／3）



第92図　６次ＳＸ06出土遺物実測図④（1／3）

須恵器（557）　擂鉢で、口縁部は玉縁状を呈す。

陶器（558）　擂鉢で、口縁部は片口状である。

磁器（559）　染付椀である。　（井上）

ＳＸ06（第88図・図版44）

調査区の北側に位置する。長さ15.40m、幅4.80m。検出時、大きな遺構の広がりを認め、切り合いがあるものと考えて精査をおこなったが、埋土の差を認めることができなかった。掘り下げの結果、南半部は５cm程度で掘り上がったが、北半部は長さ8.00m、幅1.90m、西半部より20cmほど掘り下げられる。また南半部には幅0.25～0.40m、深さ0.15mの弧状の溝が巡る（ＳＸ12）が、埋土からＳＸ06より先行する。底面にはピットが散在しており、竪穴住居跡である可能性も残るが、カマドなど住居にともなう施設はない。埋土は褐色土を主体とし、炭を含む。検出時から多量の遺物の出土があった。須恵器・土師器・瓦・鉄器などがある。　（石木）

出土遺物（第89～92図・図版72・73・74）

須恵器（496～531・539）　496～505は杯Ｂ蓋。いずれも器高は低く、口縁端部を折り曲げ、つまみを貼り付ける。496・499・500～503・505は天井部が平坦で、497・498・504は丸みをもつ。天井部外面の調整は、504・505は回転ヘラケズリ、他は回転ヘラ切りである。506～514は杯Ｂ身。高台は低く、底部端のやや内側に貼り付ける。506・507の体部は深い。513は外面に墨が付着している。515・516は稜椀。高台は低く、底部から体部上位は開き、体部上位が屈曲して稜をなし、稜から頸部までは垂直となる。これらはほぼ同じ法量を測り、体部外面の調整はいずれも回転ヘラケズリ後、丁寧に回転ナデが施される。517～520は杯。517はやや小型である。521～523は皿。521・522は口縁部がかすかに外反する。523の体部は浅い。524は盤で底部外面は回転ヘラケズリを施す。525は鉄鉢の底部片。526は鉢。体部はバケツ形で底部は丸みを帯び、体部外面は回転ヘラケズリが施される。527・528は短頸壺。いずれも薬壺形となろう。529・530は水瓶でこれらは同一個体であろう。肩部の位置は高く、底部に向かってすぼまる。530の頸部は細く、全体にしぼり痕がみられ、口縁端部は下がる。531は把手付甕。内面は同心円文当て具痕、外面は格子目タタキが施される。把手は体部に対して横に接合され、半円形状を呈し断面は円形である。接合方法は、体部に円孔を切り取り、そこにそれぞれ把手の端部を差し込んで接合する。体部内面の把手端部を差し込んだ部分は丁寧にナデ付けた後、棒状工具を往復させこすっている。539は扁平な紡錘車である。

瓦（532～534）　いずれも平瓦である。凸面は縄目タタキが施される。

土師器（535～538）　535は甕口縁片で体部内面はヘラケズリ、口縁部内面・体部外面はハケメが施される。536は小型の壺。平底で体部中位が張り、口縁部は開く。537は把手で、断面は円形である。538は高杯。脚部内面にしぼり痕と軸芯痕がみられる。

石製品（540・541）　滑石製品である。540は紡錘車で全面研磨されている。541は円板状石器。側面部が一部、残存する。残存する側面部に対して、中心ではない偏った位置に径7mm程の孔が穿孔されている。

鉄器（542～544）　542は刀子、基部である。543～544は棒状鉄製品で、断面は方形である。

（井上）

ＳＸ07（第87図・図版45）

調査区の北側、ＳＸ06の斜面上方に位置する。長さ25.65m、幅0.90～1.83m。断面を見ると、斜面を深さ最大20cmほどＬ字形に掘り込んでいることが分かる。底面はほぼ水平になる。埋土は黄褐色土、炭をわずかに含む。出土遺物は、須恵器・土師器・瓦などがある。（石木）

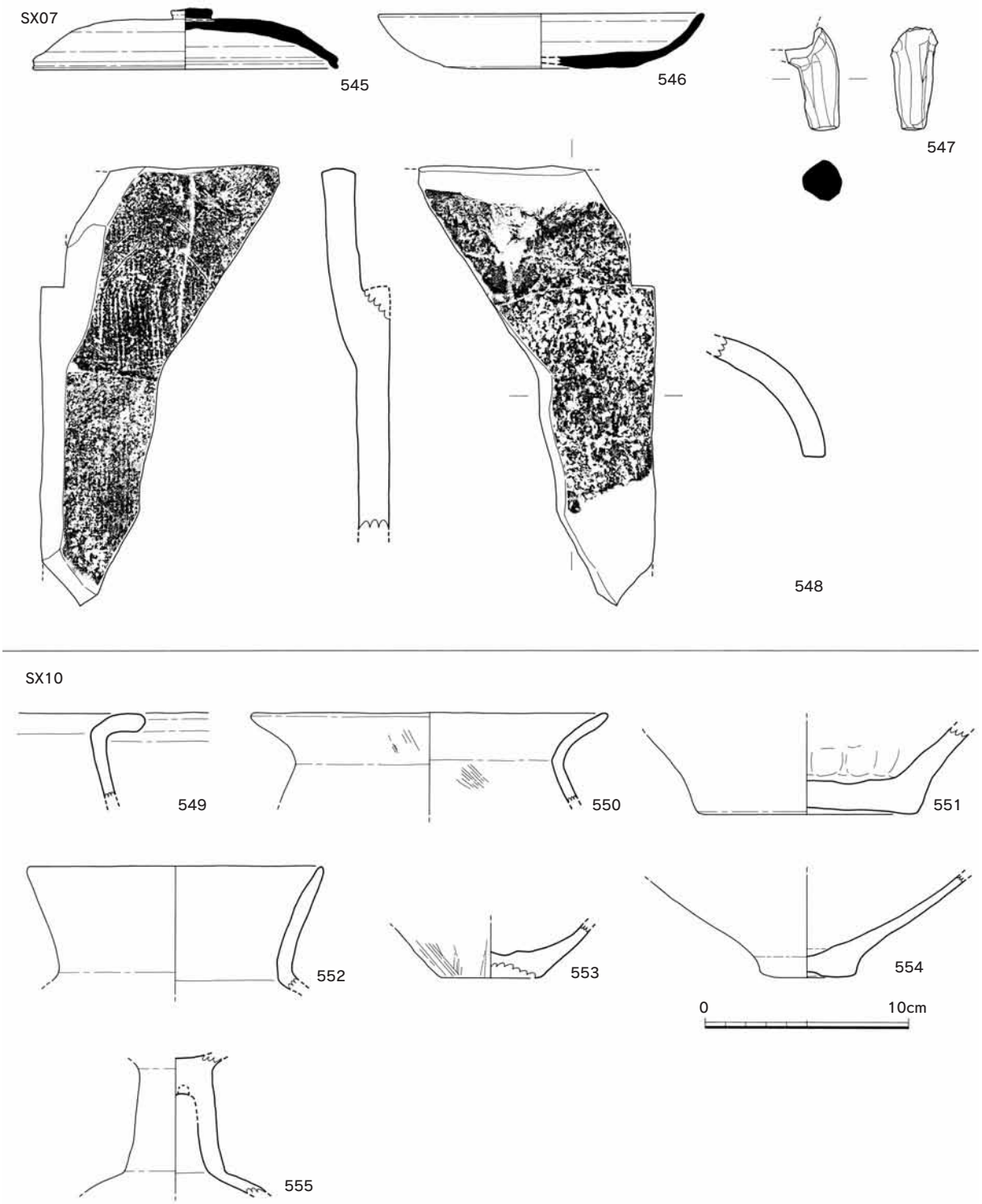
出土遺物（第93図・図版75）

須恵器（545～547）　545は杯Ｂ蓋で体部は丸みをもつ。546は皿。体部は丸みをもって口縁部へと至る。547は硯脚部か。ヘラケズリで丁寧に面取りされ、本体との接合面はＬ字形である。

瓦（548）　丸瓦。玉縁がつく。凸面は縄目タタキ、凹面は布目痕がみられる。（井上）

ＳＸ10（第87図・図版46）

調査区の中央よりやや南側に位置する。長さ2.24m、幅0.82m、深さ1.11m。隅丸長方形プランを呈し、底面はほぼ水平になる。出土遺物は、弥生土器・土師器の小片がある。（石木）

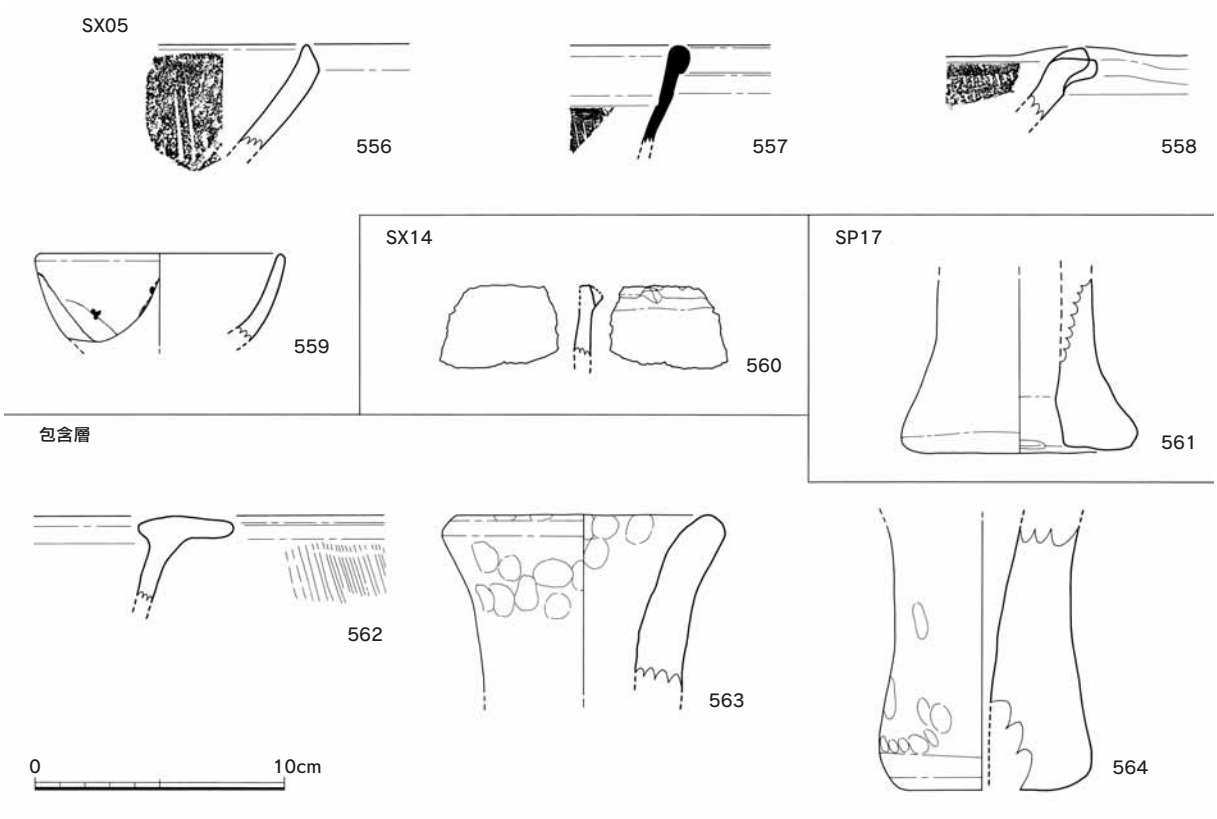


第93図　６次ＳＸ07・10出土遺物実測図（1／3）

出土遺物（第93図）

弥生土器（549・551）　549は甕口縁片で口縁部は屈曲する。551は壺か。底部はやや上げ底気味である。

土師器（550・552～555）　550・554は甕。554は底部が小さく、底部外面中央はくぼむ。552・553は壺。552は丸底壺か。553の体部外面下位はハケメ調整が施される。555は高杯脚部。脚部



第94図　６次ＳＸ05・14・ＳＰ17・包含層出土遺物実測図（1／3）

は短く、脚裾部は強く屈曲し広がる。（井上）

ＳＸ14（第87図・図版46）

調査区の北側、ＳＸ06に近接する。長さ3.20m、幅1.40mの楕円形プランを呈する。周壁は最大10cmほどと浅く、底面は緩やかに斜面下方へ向かって下がる。埋土はにぶい黄橙色土を主体とする。出土遺物は、弥生土器がある。（石木）

出土遺物（第94図）

突帯文土器（560）　口縁端部に突帯が貼り付けられ、刻目が施される深鉢もしくは甕である。外面は横位の板ナデが施される。（井上）

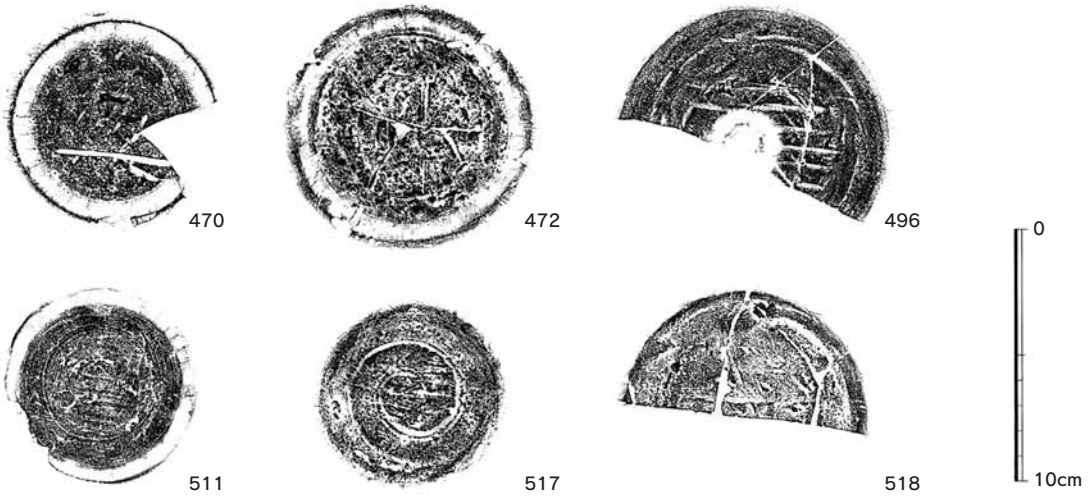
（4）その他の出土遺物

ＳＰ17

弥生土器（561）　支脚で、脚裾部は指頭圧痕が顕著である。

調査区南側包含層

弥生土器（562～564）　562は広口壺。口縁部は鋤先形状を呈し、外面はハケメが施される。563・564は支脚。外面はナデ・指頭圧痕が施される。（井上）



第95図　６次ヘラ記号拓本図（1／3）

C．小結

６次調査は、２・３次調査地に挟まれた細長い調査区であるが、３次調査地へむかっては急傾斜で上がっており、遺構も少なくなるため２次調査地からの続きと考えてよい。

弥生時代の遺構としては、ＳＸ14は刻目突帯文土器が出土しており、早期にあたる可能性がある。ＳＣ01は中期末にあたる竪穴住居跡で、２次調査地にも相当数の建物が存在した可能性を示唆するものである。また、住居床面から出土した鉄鑿は朝倉市（旧甘木市）平塚山の上遺跡ＳＨ056（註１）に類例があり、やや大型のものは比恵遺跡76次調査竪穴住居跡001（註２）がある。両者は弥生時代後期前半、古墳時代初頭と考えられ、ＳＣ01例よりやや後出する。

ＳＸ10は弥生時代中期末の遺物を含むが、最新相は古墳時代初頭の遺物がある。

奈良時代の遺構は本調査区内で最も多く、ＳＣ04、ＳＸ06・07がある。ＳＣ04は８世紀前半。転用硯を含み、床面上からは陶製紡錘車、土師器にはヘラミガキを施す。ＳＸ06は、８世紀中頃から後半。杯蓋のつまみは小さくなるものを含み、ＳＣ04より新しい様相を示す。ＳＸ07も遺物量が少ないが、ＳＸ06とほぼ同じ時期とできよう。ＳＸ07出土遺物には円面硯の脚部を含み、ＳＣ04から転用硯が出土し、ＳＸ06・07に量は少ないながら瓦を含むことから、周辺に何らかの公的施設が存在した可能性がある。

ＳＤ01は、13世紀初頭～前半の龍泉窯系青磁椀を含み、15世紀代の土師器鍋を含むことから埋没期間はこの頃にあたろうか？　（石木）

註１　隈部敏明1996『平塚山の上遺跡Ⅰ』甘木市文化財調査報告書第36集

註２　吉武学2003『比恵32－比恵遺跡群第76次・第77次調査報告－』福岡市埋蔵文化財調査報告書第771集

４．第15次調査

A．調査概要（第96図・図版47）

第15次調査地は、三兼池の北東側に位置し、県道31号線から約500ｍ北側の上大利交差点北西角にある。大野城市大字上大利640－１ほかにあたり、調査面積は、約400㎡である。調査地は元々水田として利用されていたものが荒地になっており、南東に向かって緩やかに下る平坦な地形となっていた。上大利の集落が立地する低位段丘面である独立丘陵と牛頸山から派生した低丘陵末端との間の平坦地に位置する。

試掘調査は重機により調査地全体を表土剥ぎする方法で進めた。Aso-４火砕流堆積物に由来する黄灰色・黄橙色のローム層を遺構検出面とし、散漫ながらピット・土坑等が確認され、須恵器・土師器等の遺物も出土したことから調査を実施することとなった。発掘調査は平成17年12月７日から22日の間におこなった。調査は埋土灰褐色土のものを遺構と認定し、遺構掘削・精査を行った。遺構の形状が不整形で浅く、摩滅が激しい複数時期の遺物小片が出土したものについては、報告書作成作業時に、耕作により攪拌された包含層と判断した。

調査の結果、確実に遺構と認定できたものは少数に留まり、土坑７基・ピット16基・溝２条・平面不整形な浅い窪み状の遺構が確認された。遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・石器・陶磁器などがある。

B．遺構と遺物

（1）土坑

ＳＫ01（第97図・図版48）

１区ほぼ中央に位置し、一部が調査区北側に続く。現状で5.20ｍ×3.60ｍの不整形を呈し、深さ20cmを測る。遺物は黒曜石剥片が１点出土するのみであった。

ＳＫ02（第97図・図版48）

１区ほぼ中央、ＳＸ01・02の南に位置する。0.60ｍ×0.60ｍの隅丸方形を呈し、深さ８cmで底面は皿状となる。底面南辺に長さ13cmの礫が据え置かれていた。遺物は須恵器片が出土したが、図化に堪えるものはなかった。

ＳＫ03（第97図・図版48）

１区ほぼ中央、調査区南壁に接した位置にある。現状で1.40ｍ×0.45ｍを測り、やや形の崩れた長方形の土坑が２基、浅いテラスにより連結した形状を呈す。深さは南側の深い方で18cm、北側の浅い方で14cmを測る。遺物は弥生土器と黒曜石剥片が出土したが、図化に堪えるものはなかった。

ＳＸ11（第97図・図版49）

２区西端、ＳＸ12のすぐ北に位置し、調査区北側に続く。現状で幅6.40ｍの長楕円形の土坑に不整形で浅いテラスが連結する形状を呈し、深さ10cmを測る。

出土遺物（第99図・図版76）

須恵器（565）　甕。口縁部が基部から大きく外反し、端部外面は肥厚する。口径21cmを測る。

弥生土器（566）　甕棺である。大形の壷形土器で、口縁部内面に粘土帯を貼り付け肥厚させている。端部無紋。

石器（567）　黒曜石製の打製石鏃である。凹基無茎式で抉りは浅く弧状を呈す。先端部を欠損する。他に黒曜石剥片多数とサヌカイト剥片１点が出土している。

ＳＸ15（第97図・図版48）

３区中央でＳＸ16の北に隣接した位置にある。0.70ｍ×0.63ｍの台形を呈し、深さ13cmを測る。遺物の出土はなかった。

ＳＸ16（第97図・図版48）

３区中央でＳＸ15の南に隣接した位置にある。0.50ｍ×0.30ｍのやや角張った楕円形を呈し、深さ９cmを測る。遺物は出土しなかった。

ＳＸ18（第97図・図版49）

２区南でＳＸ12から6.5ｍ南東に位置する。0.75ｍ×0.33ｍの略楕円形を呈し、深さ９cmを測る。遺物は出土しなかった。

（２）ピット（第98図・図版48）

ピットは3区に中心をもちながらも調査区全体に分布する。建物を構成するものは確認できなかった。

ＳＰ01（第98図・図版48）

１区西に位置し、遺構の半分以上が調査区外に続く。現状で直径0.35ｍ、深さ10cmの隅丸方形を呈すものと推定される。

出土遺物（第99図・図版76）

須恵器（568・569）　568・569は杯G身である。568は口径9.6cm、摩滅が激しく器面観察が難しいが、底部外面にヘラ切り後ナデを施す。569は口径9.7cm、底部が小さく平らで、外面にヘラケズリが施される。底部外面にヘラ記号あり。

ＳＰ02（第96図・図版76）

出土遺物（第99図・図版76）

須恵器（571）　杯G身。口径9.4cmを測り、底部外面にヘラ切り後ナデを施す。

ＳＰ03（第98図・図版48）

１区東に位置し、一部が調査区外に続く。現状で0.80ｍ×0.60ｍの平面略方形で擂鉢状の小穴に隅丸長方形の小穴が一段深く掘り込まれた形状を呈す。深さは30cmを測る。遺物は出土しなかった。

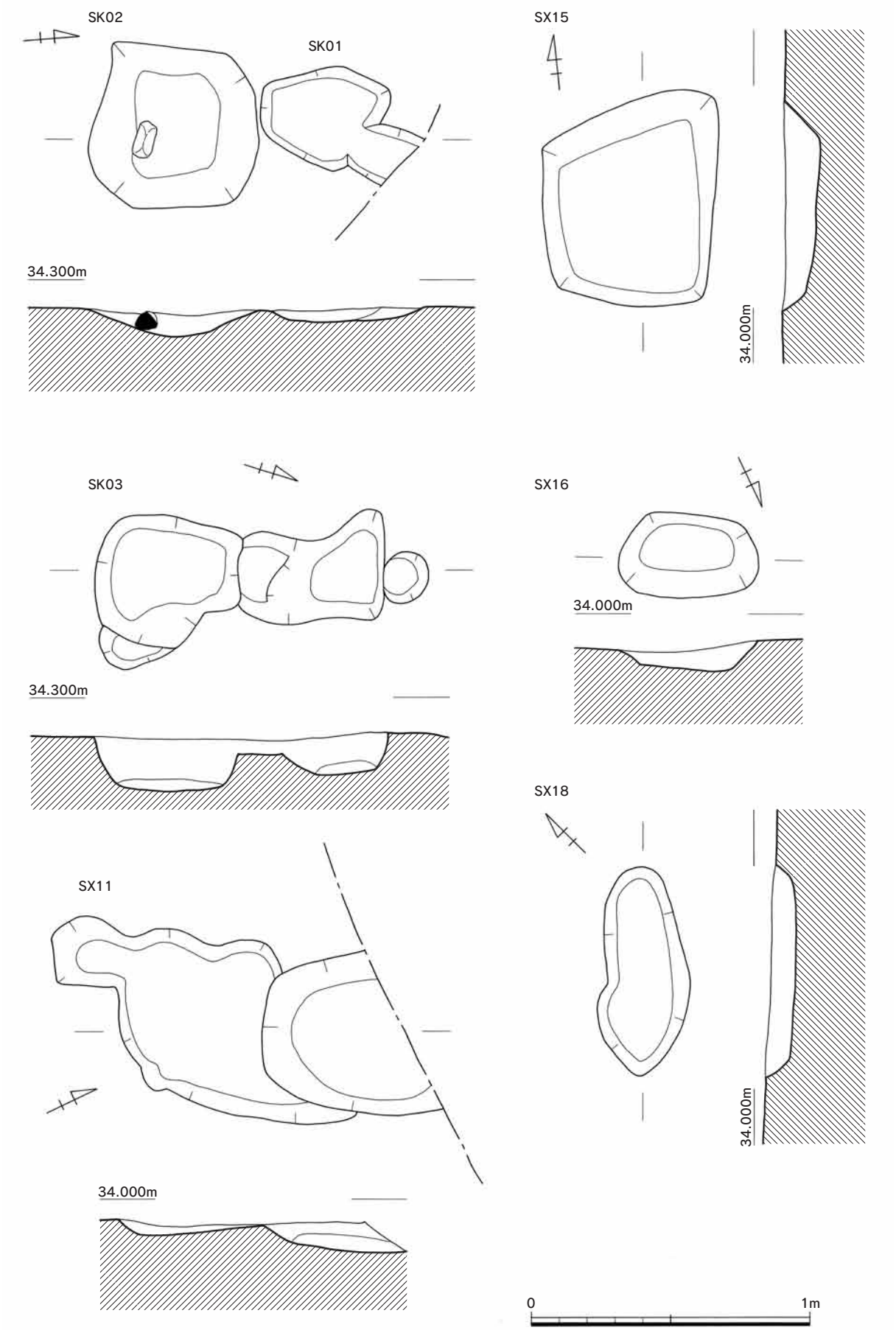
ＳＰ06（第98図・図版48）

３区北に位置し、直径0.20ｍの円形のピットに楕円形の浅いピットが連結した形状を呈す。深さは南側で20cm、北側で５cmを測る。遺物は黒曜石剥片が１点出土するのみであった。

ＳＰ10（第98図・図版48）

３区南、ＳＰ11の約２ｍ南に位置し、直径0.25ｍの隅丸台形を呈す。深さ20cmを測る。

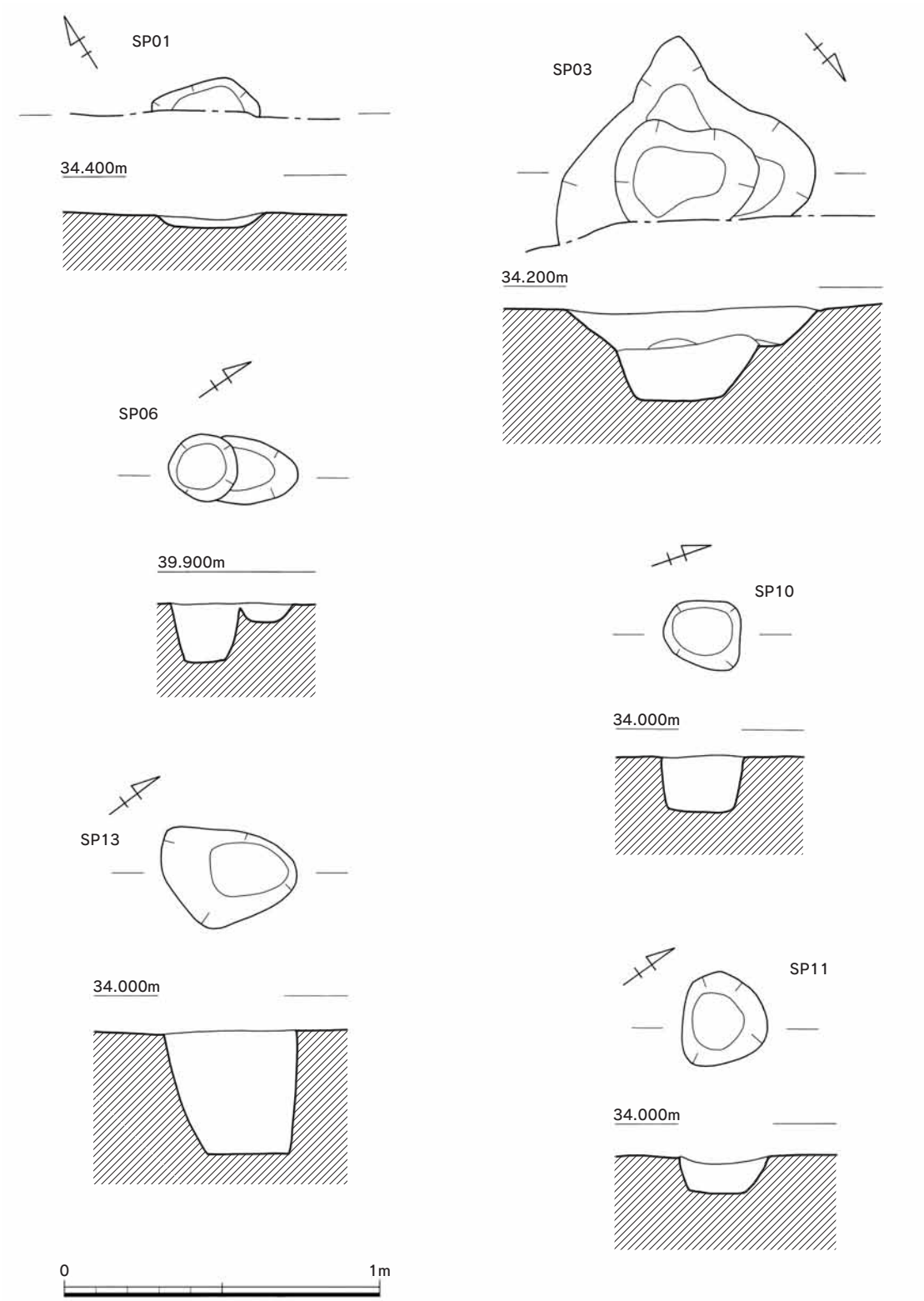
第96図　15次調査遺構全体図（1／200）



第97図　15次ＳＫ01～03、ＳＸ11・15・16・18実測図（1／20）

ＳＰ11（第98図・図版48）

３区中央、ＳＰ10の約２ｍ北でＳＰ13の約１ｍ南西に位置する。直径約0.3mの略円形を呈し、深さ10cmを測る。遺物は小片が多く判然としないため、図化できるものはなかった。



第98図　15次ＳＰ01・03・06・10・11・13実測図（1／20）

ＳＰ13（第98図・図版48）

３区中央、ＳＰ11の約1m北東に位置し、0.4m×0.3mの略楕円形を呈す。深さ40cmを測り比較的深い。遺物は須恵器片が1点出土した。（早瀬）

（3）溝跡

調査区２区西を中心に分布する。ＳＤ01とＳＸ07・08がある。

ＳＸ07（第100図・図版49）

調査区２区西に位置し、溝跡ＳＸ08と接して調査区南に続く。幅最大長約0.4ｍを測り、調査区南壁から溝が約1.3m延びたところで東に折れてL字状を呈す。断面形は箱形を呈し、溝底は底面からピットが掘り込まれたように小さな凹凸が激しく認められる。溝の深さは浅いところで15cm、深いところで30cmを測る。遺物は須恵器杯H蓋・甕、土師器・黒曜石剥片が出土しているが、いずれも小片であり、図化に堪えうるものはなかった。

ＳＸ08（第100図・図版49）

調査区２区西に位置し、溝跡ＳＸ07と北端が接する。幅最大長約40cmを測り、南北に延びる。断面逆台形で、溝底はピットが掘り込まれたように３箇所で深くなる。深さは浅いところで10cm、深いところで25cmを測る。遺物は、焼成不良の須恵器片が1点と黒曜石剥片が出土した。

ＳＤ01（第96図）

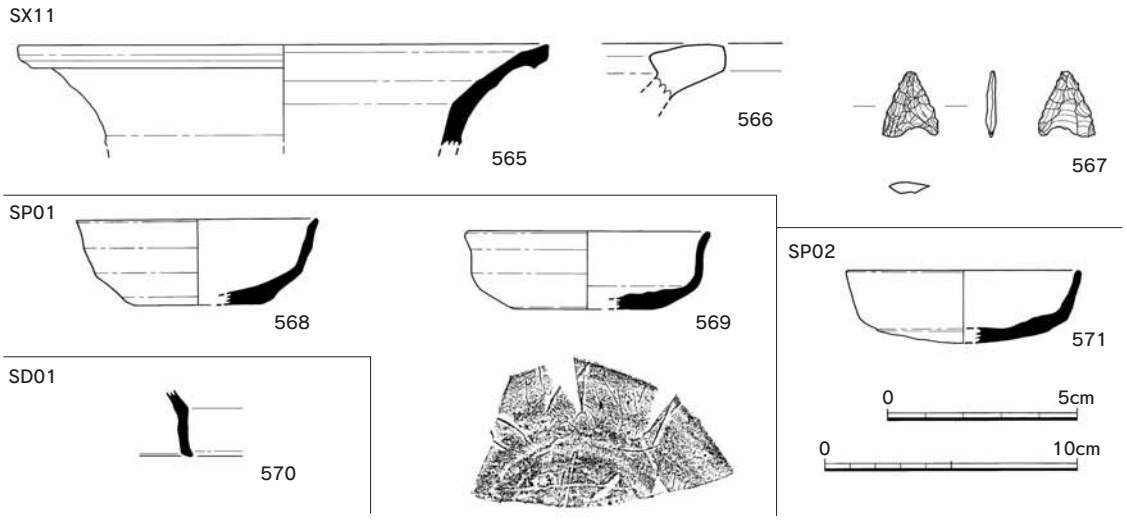
１区に位置し、調査区北壁で長さ2.6mを測る。

出土遺物（第99図）

須恵器（570）　壺蓋である。体部から屈曲して、口縁部が下方へ直線的に延びる。口縁端部は強いナデにより面をなす。内外面とも回転ナデが入る。

（4）その他の遺構・遺物

調査で検出された遺構のほとんどは、その性格が不明なものであった。これらは窪み状で底面に



第99図　15次ＳＤ01、ＳＸ11、ＳＰ01・02出土遺物実測図（567は１／２、他は１／３）

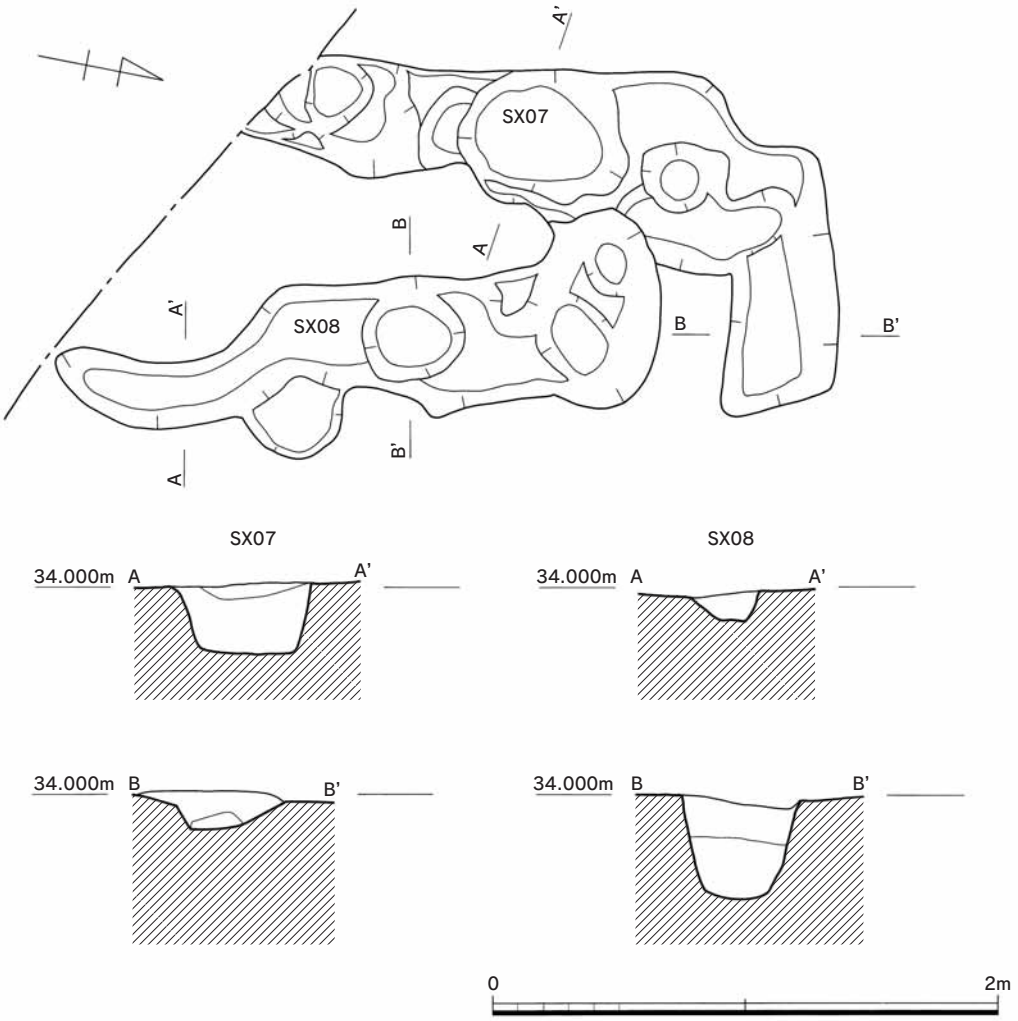
凹凸が少ないものと（ＳＸ01・02）、底面の凹凸が激しい溝が平行して群をなすもの（ＳＸ05・12・13）の大きく２種類に分けることができる。以下では、２種の代表的な遺構を取り上げる。

ＳＸ01･02（第101図・図版48）

１区中央に位置し、調査区の南北に続くため、確認できたのは遺構の一部であると考えられる。S字状に湾曲しながら南北方向に走り、ＳＸ01で幅1.10m、深さ10cm、ＳＸ02で幅1.10m、深さ５cmを測る。ＳＸ01では溝の西肩に集中して、ＳＸ02では溝全体に直径0.10～0.30mのピットが底面に掘り込まれる。

出土遺物（第103図・図版76・77）

須恵器（572～581）　ＳＸ01からは須恵器（572～577）が出土している。572～576は杯G蓋である。572は口径８cmを測り、天井部の1／３に丁寧な回転ヘラケズリが施されたのち、頂部に宝珠形つまみが貼り付けられる。573は口径8.4cmを測り、つまみはつかない。天井部はヘラ切り後ナデ調整である。574は口径9.6cm、ヘラ切り後ナデが施される。頂部が欠損しているためつまみの有無は不明である。575は天井部ヘラ切り未調整である。577は瓶類の口縁部である。端部は



第100図　15次溝跡（ＳＸ07・08）実測図（1／30）

丸く仕上げられ、直線的に立ち上がる。口径5.2cmを測り、内外面とも丁寧な回転ナデが施される。

ＳＸ02からは、須恵器（578～581）が出土している。578は杯蓋である。口径11.6cm、天井部は平らで、ヘラ切り後ナデである。579は杯H身で、口径11.2cmを測る。受部は内傾しながら短く立ち上がる。調整は回転ナデが施される。580は椀である。底部ナデ、体部にはカキメが施される。また底部に×字状にヘラ記号が刻まれている。581は高杯の脚部である。脚部は短い。裾部は緩やかに広がり端部が短く下方へ折れる。

石器（582～584）　すべてＳＸ02から出土している。582は安山岩製打製石鏃である。凹基無茎式で抉りは非常に浅い。先端部を欠損する。583は安山岩製のスクレーパーである。一部に自然面を残し、一辺に微細剥離を施す。584は凝灰岩製の円礫で、紡錘形を呈す。他に図化していないが、黒曜石剥片が出土している。

ＳＸ12（第102図・図版49）

２区に位置し、2.10ｍ×1.30ｍの範囲で、底面から壁面にピットが掘り込まれ凹凸の激しい溝状の落ち込みが群をなす。溝状の落ち込みは東西方向と北西－南東方向の２群認められる。溝１条の幅は平均0.2ｍである。底面に酸化鉄の沈着が目立つ。同様の遺構は他にＳＸ06･13がある。ＳＸ13は、ＳＸ12の東に隣接し、形状、溝状落ち込みの方向性も一致し、明瞭な境界を持たずに連続しているため、これらは一連の遺構である可能性が高い。

ＳＸ12では、須恵器・土師器・黒曜石・サヌカイト剥片が出土しているが、図化に堪えるものはなかった。以下では、ＳＸ05・13出土の遺物について説明する。

ＳＸ05（第96図）

出土遺物（第103図・図版77）

須恵器（585）　585は、杯H身である。口径13.4cm。口縁部は内傾して立ち上がり比較的長い。底部は丸く仕上げられる。口縁部外面に須恵器片が釉着する。

弥生土器（586）　586は甕で、口縁部はＬ字状に屈曲し、口縁直下に無紋の三角突帯が貼り付く。

ＳＸ13（第96図）

出土遺物（第103図・図版77）

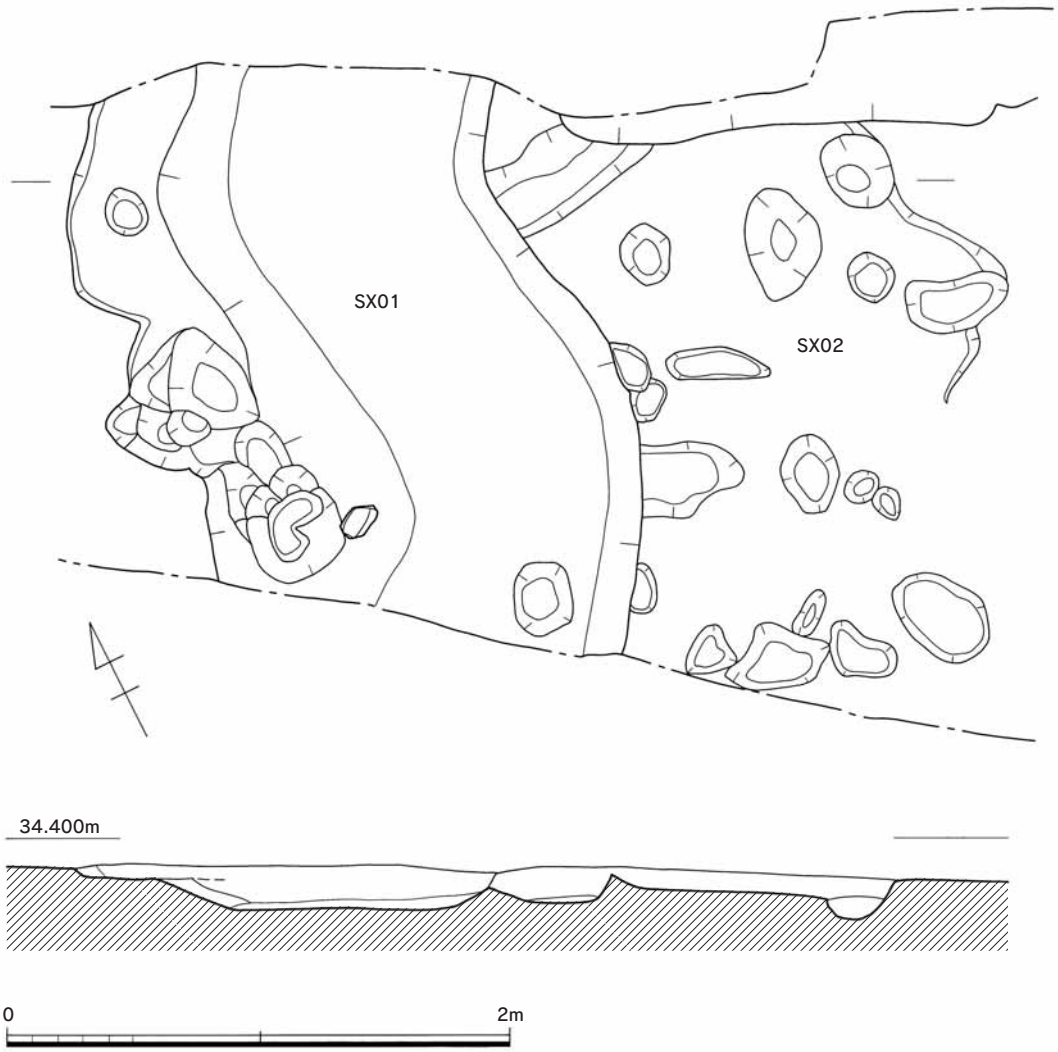
弥生土器（587・588）　587は甕体部片。ごくわずかに屈曲する部分に突帯が貼り付けられ、刻みが施される。調整は摩滅のため不明。588は甕、あるいは鉢。口縁部が頸部から曲がって直線的に開く。

石器（589）　凝灰岩製のノミ形磨製石斧である。側面にわずかに敲打痕が残る。刃部先端がわずかに欠ける。

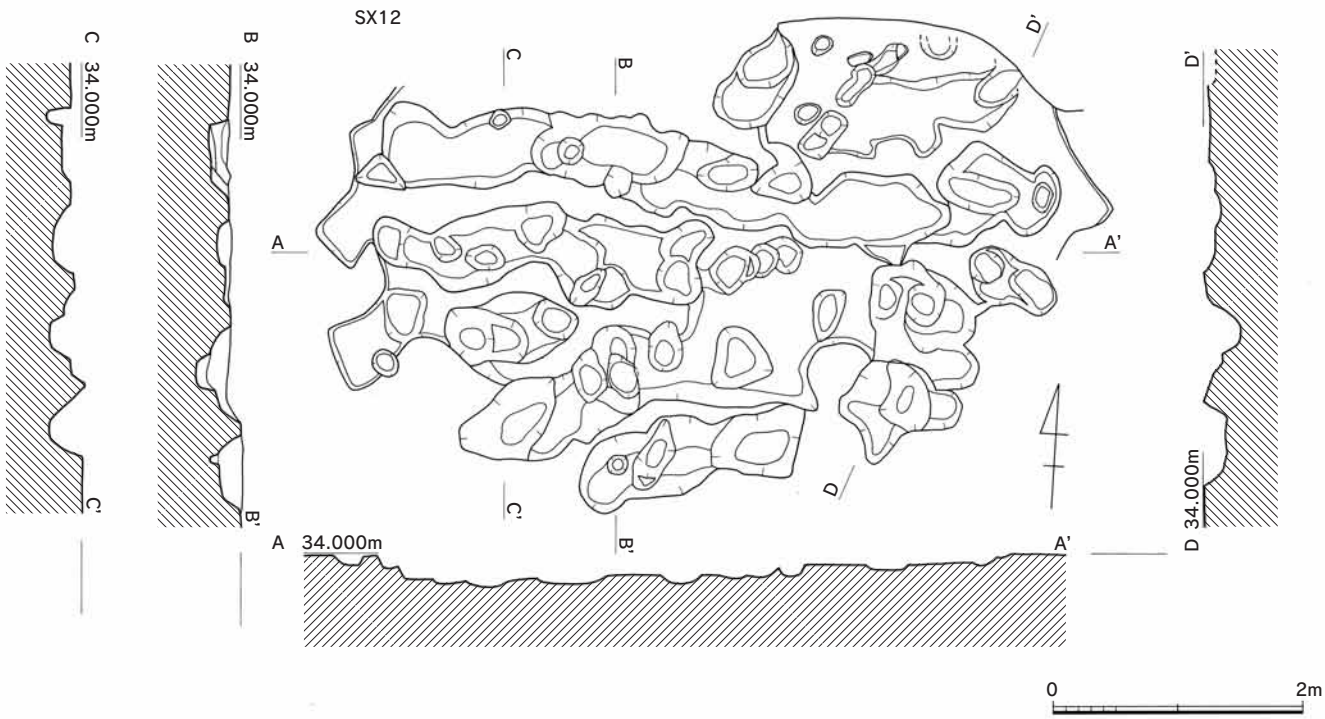
包含層出土遺物（第104図・図版77・78）

包含層からは、須恵器・土師器・石器・陶磁器が出土しているが、小片で摩滅を激しく受けているものが大多数であった。

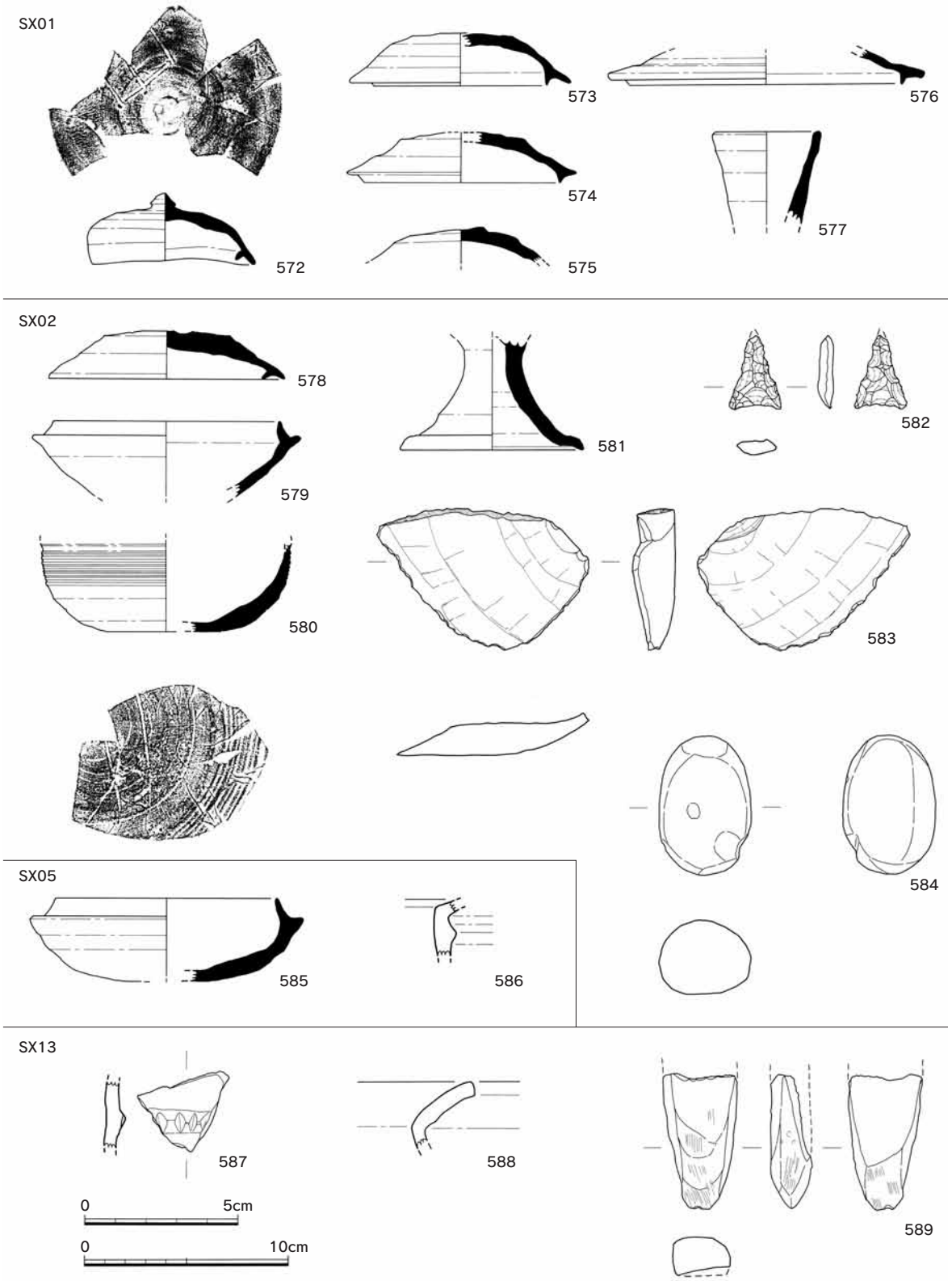
須恵器（590・591）　590は杯Ｂ身で、体部は外上方に直線的に開く。口径は14.6cmを測る。体部と底部の境はやや角張り、高台は体部と底部の境より内側につけられ、内端部で接地する。591は高杯で、脚部は短く、裾部は緩やかに開く。脚部径は口径より小さいと推定される。



第101図　15次ＳＸ01・02実測図（1／30）

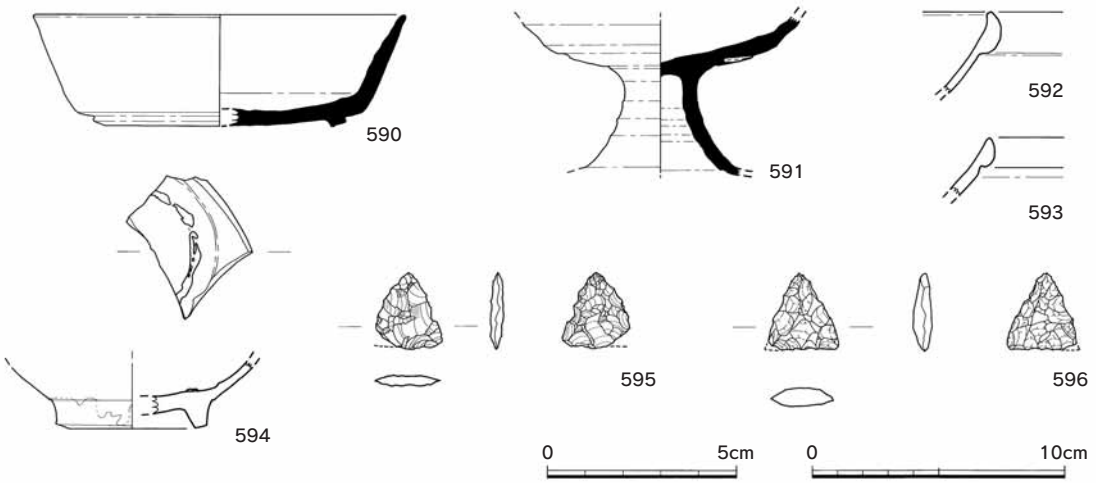


第102図　15次ＳＸ12実測図（1／60）



第103図　15次ＳＸ01・02・05・13出土遺物実測図（582～584・589は1／2、他は1／3）

磁器（592～594）　592～594は白磁である。592は白磁椀口縁部で、玉縁は比較的肉厚である。太宰府分類Ⅳ類か。593は白磁椀口縁部。太宰府分類Ⅱ類か。594は白磁椀底部である。太宰府分類Ⅳ類か。



第104図　15次耕作土・包含層出土遺物実測図（595・596は1／2、他は1／3）

石器（595・596）　595・596は打製石鏃である。595は腰岳産黒曜石製で、平基式である。基部片方を欠損する。表面先端部付近に局部磨製痕跡あり。596は安山岩製で、平基式。

C．小結

15次調査地は、２次調査地の北東に隣接し、２次調査地へむかって緩やかに下る。耕地化により撹乱されており、遺構の時期・性格が明らかになるものは非常に少ない。

弥生時代の遺構は、ＳＸ13がある。前期前半頃と中期以降と思われる甕または鉢が出土している。また遺物としては、ＳＸ05から中期以降と思われる甕が出土しているほか、遺構内・包含層から石器・剥片が多数出土している。

古墳時代後期の遺構は、６世紀末から７世紀初頭と考えられる杯Ｈ身が出土するＳＸ05がある。遺物はＳＸ02で杯H身が出土しているほかには、小片・少量の出土しかなく、該期の遺構・遺物は非常に少ない。

飛鳥時代の遺構は、ＳＰ01・02、ＳＸ01・02があり、杯Ｇ蓋・身が出土していることから、７世紀中頃にあたると考えられる。

また包含層から、８世紀前半から中頃の須恵器と、太宰府分類Ⅳ類かと思われる白磁椀が出土しており、奈良時代と鎌倉時代に再び活動の痕跡が伺える。

以上のような時期の変遷は、隣接する２次調査地の遺構の時期の変遷とほぼ一致する。よって、本調査地は、２次調査地周辺に広がる遺跡の縁辺に位置するものと考えられる。　（早瀬）

表１　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
1	突帯文土器	深鉢 or 甕	SB01-2	②3.9+α	全面ナデ。口唇部に接して突帯貼付刻目。口唇部指頭圧痕。	A:密。2mm以下の白色粗砂を含む。B:良。C:外明黄褐10YR7/6、黒斑黒2.5Y2/1、内黄灰2.5Y4/1。	内面と口縁部外面に煤付着。
2	弥生土器	甕	SB01-5掘方	②4.4+α	全面ナデ。	A:密。2mm以下の白色粗砂(石英・長石)を多く含む。B:良好。C:外暗黄灰2.5Y5/2、内黄灰2.5Y6/2。	頸部外面に煤付着。
3	弥生土器	甕	SB01-1	②6.1+α③(9.0)	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外褐7.5YR4/3、内にぶい赤褐5YR4/4～赤褐5YR4/6 。	
4	石器	剥片	SB01-6掘方	長1.65幅1.0厚0.5 重0.5	規格的な剥離技術で剥離されたものではない。		腰岳産黒曜石。
5	須恵器	杯身?	SC01-2	①(9.0)②3.85 ③(6.0)高台高0.5	体部内外面回転ナデ、底部内外面不定方向ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外暗灰N3/ 、内青灰5PB5/1。	
6	須恵器	高杯	SC01-2 SC01-4	①(15.2)②4.2+α	体部内外面回転ナデ、底部内面不定方向ナデ、体部～底部工具による回転ヘラ削り、脚部との接合部強いナデ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外灰白2.5Y7/1、内青灰5B5/1。	
7	陶器	壺	SC01-5	②2.2+α	外面回転ナデ後施釉、内面回転ナデ、無釉。	A:密。1～2mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:外灰オリーブ7.5Y5/3、内明オリーブ灰2.5GY7/1。	
8	須恵器	杯 or 杯身	SC02西半	②3.5+α	全面回転ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂・黒色粒子を含む。B:良好。C:外灰N5/ ～にぶい褐7.5YR5/3、内灰N5/ 。	
9	弥生土器	甕	SC02西半	②3.7+α	口唇部内面と口縁部外面ナデ、頸部外面ハケメ、内面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～3mmの白色砂礫を多く含む。B:やや良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4、内灰白10YR8/2・褐灰10YR4/1。	
10	土師器	小型丸底壺	SC02東西セクションベルト	①(11.95) ②4.05+α	内面と口縁部外面ミガキ。他は磨滅の為調整不明。	A:精良。1～4mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外にぶい橙7.5YR7/4～橙7.5YR7/6・黒7.5YR1.7/1、内橙7.5YR7/6・黒7.5YR1.7/1。	口縁部内外面に黒斑。
11	弥生土器	甕 or 鉢	SC03南西区床面	②5.0+α	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～3mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:内外共灰白2.5Y8/2～明黄橙10YR7/6・褐灰10YR4/1。	内外面の一部黒斑。
12	弥生土器	甕 or 鉢	SC03南西区床面	②4.9+α	全面磨滅の為調整不明。	A:1～5mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:外黒褐2.5Y3/1、内灰白5Y8/2・黄灰2.5Y4/1。	
13	突帯文土器	深鉢 or 甕	SC03ベルト中	②2.0+α	全面ナデ。口唇部に接して突帯貼付刻目。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外褐灰10YR4/1～黒褐10YR3/1、内褐灰10YR4/1。	
14	土師器	直口壺	SC03南東区 SC03南東区床面	①(6.9)②11.6 ③(3.8)	外面ナデ?(磨滅)。手づくね成形。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1・黒褐2.5Y3/1、内黒褐2.5Y3/1。	口縁から底部まで黒斑。
15	土師器	高杯	SC03南東区床面 SC03南東区 SC03北西区床面 SC03北東区床面 SC03東ベルト	①(30.3)②7.0+α	外面ハケメ(磨滅)。底部内面不定方向ナデ。他はナデ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/3～にぶい黄褐10YR5/3。	終末期。
16	土師器	高杯	SC03南東区床面	②3.8+α脚裾部径(14.0)	外面ハケメ後指頭圧痕。内面やや強いヨコナデ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂を少量。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4、内褐灰10YR5/1～浅黄橙10YR8/3。	
17	土師器	台付椀	SC03-P-1	①(12.8)②9.65+α	外面ハケメ。体部内面ナデ。底部内面指頭圧痕。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/3、内黄橙10YR8/6～浅黄橙10YR8/4。	
18	土師器	椀	SC03南西区ピット	①(9.4)②4.0+α	全面ナデ。	A:精良。1mm以下の白色粗砂・金雲母をやや多く含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4・黄橙10YR8/6・青黒5B2/1、内にぶい黄橙10YR7/4・灰5Y4/1。	体部外面下半に黒斑。
19	土師器	椀	SC03南西区(SD07間ベルト)	①12.55②4.9	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂をやや多く、赤色粒子を僅かに含む。B:やや良好。C:外灰白10YR8/1～8/2、内灰白10YR8/2。	
20	土師器	椀	SC03南西区	②4.7+α	口唇部内面から体部外面磨滅の為調整不明。内面ハケメ。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂・赤色粒子を含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/3。	
21	土師器	手づくね土器椀	SC03北東区床面	①6.0②3.8	手づくね成形。	A:やや粗。1～2mmの白色砂礫を多く含む。B:やや不良。C:外浅黄橙7.5YR8/6・明褐灰7.5YR7/1、内黄橙7.5YR7/8。	
22	弥生土器	甕	SC04-①	②5.75+α	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。1～3mmの白色砂礫を多く含む。B:やや不良。C:内外共橙5YR6/8。	
23	弥生土器	甕	SC04-②	②4.3+α③5.3	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。1～3mmの白色砂礫を多量に含む。B:やや不良。C:外明赤褐5YR5/8、内にぶい黄橙10YR7/2。	
24	弥生土器	甕	SC04-③	②9.8+α③(9.2)	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～3mmの白色砂礫を多量に含む。B:やや不良。C:外橙5YR6/6、内明赤褐5YR4/8・浅黄橙10YR8/3、黒斑灰黄褐10YR6/2・黒褐2.5Y3/1。	体部外面に黒斑。

表２　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
25	弥生土器	甕	SC04-①	②28.6+α③(9.0)⑤体部(27.5)	体部外面ハケメ(磨滅)。底部外面ナデ。内面ナデ?(磨滅)。	A:やや粗。1～4mmの白色砂礫・赤色粒子を多く含む。B:やや良好。C:外橙7.5YR6/6・浅黄橙10YR8/4・にぶい黄橙10YR6/4、内灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3・灰黄褐10YR5/2、黒斑黄灰2.5Y5/1～4/1。	体部外面中位黒斑。
26	弥生土器	高杯	SC04-②	①(19.4)②8.1+α	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～5mmの白色砂礫を多量に含む。B:やや不良。C:内外共橙5YR6/8・明黄褐10YR7/6。	
27	石器	砥石	SC04-①	長12.38+α 幅6.98+α厚1.85 重241.2	砥面4面。裏面鉄分付着。		凝灰岩。端部を欠損。仕上げ砥。
28	石器	細石刃	SC04西区床面	長2.5幅0.48 厚0.15重0.2	石核から規格的にはぎ取った縦長剥片。		安山岩?打点部欠損。
29	須恵器	杯身	SC05-①	①(14.0)②4.9 ③9.3高台高0.6	体部内外面回転ナデ、底部内面中央不定方向ナデ、底部内面周辺やや粗い回転ナデ、底部外面ヘラ切り後ナデ、高台貼付後回転ナデ。	A:密。1mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外青灰5B6/1～5/1～暗青灰5B4/1、内青灰5PB6/1～5/1。	
30	弥生土器	甕	SC05-6	②2.6+α	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面磨滅の為調整不明。	A:やや密。1mmの白色粗砂を少量含む。B:やや良好。C:外橙5YR7/8、内浅黄橙10YR8/4・にぶい黄褐10YR4/3。	
31	弥生土器	甕	SC05 4区	②5.65+α	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～4mmの白色砂礫を含む。B:やや不良。C:外明黄褐10YR7/6・橙7.5YR7/6、内明黄褐10YR7/6。	
32	白磁	椀	SC05-13	②3.2+α④7.05 高台高0.73	内面と体部外面回転ナデ後施釉、他は回転ヘラ削り、削り出し高台。	A:精良。1mm以下の黒色粒子を含む。B:やや良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4・淡黄2.5Y8/3・灰白2.5Y8/2、内淡黄2.5Y8/3。	太宰府分類Ⅳ類。
33	鉄器	鉋	SC05 2区	長5.75幅1.6厚1.0	柄は棒状木質部に樹皮巻の木質部、巻き方2方向。		
34	石器	ナイフ形石器	SC06南東区床面	長3.1幅1.35 厚0.65重1.5	縦長剥片を素材とし、基部と背部にプランティング。		腰岳産黒曜石。九州型。
35	石器	打製石鏃	SC06北西区ピット	長2.03+α幅1.6+α 厚0.33重0.9	表裏面とも粗い剥離。		安山岩。
36	土師器	甕	SC07(旧SX18)	②3.45+α	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4、内灰白2.5Y8/2。	
37	土師器	甕	SC07(旧SX18)	②2.6+α③4.9	体部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面不定方向ナデ、指頭圧痕。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/2～7/3、内灰白2.5Y7/1。	
38	土師器	高杯	SC07(旧SX18)	②1.8+α脚裾部径(11.2)	外面ヨコナデ。内面磨滅の為調整不明。	A:やや密。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外橙5YR6/8～7/8、内橙5YR6/8・明黄褐10YR7/6。	
39	土師器	高杯	SC07(旧SX19-1)	②2.25+α脚裾部径(14.7)	全面磨滅の為調整不明。穿孔1ヶ所残存。	A:やや密。1mm以下の白色粗砂・赤色粒子をごく僅かに含む。B:良好。C:外橙7.5YR7/6、内灰5Y6/1・橙7.5YR7/6。	穿孔。
40	土師器	小型丸底壺	SC07(旧SX19-1)	②7.1+α	手づくね成形。	A:粗。1～4mmの白色砂礫・赤色粒子を多く含む。B:やや不良。C:外暗灰黄2.5Y5/2～灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y6/2。	
41	石器	砥石	SC08南区	長8.1幅1.9厚1.2 重20.5	砥面3面。		凝灰岩。仕上げ砥。
42	土師器	甕	SC09-2	②4.1+α	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4・浅黄橙10YR8/3、内黒褐2.5Y3/2・暗灰黄2.5Y4/2・淡黄2.5Y8/3。	
43	土師器	甕or壺	SC09P-7	②2.4+α	全面ナデ。	A:やや粗。1～4mmの白色砂礫を多量に含む。B:良好。C:外灰白10YR8/1、内灰白5Y8/1、黒斑黒N2/ 。	底部外面に黒斑。
44	土師器	高杯	SC09-4	①(23.8)②7.1+α 杯部高6.15	底部内面と体部外面ナデ?(磨滅)。体部内面ハケメ。体部下方ヨコナデ。杯底部外面ナデ。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂・赤色粒子をやや多く含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y8/1～淡黄2.5Y8/3、黒斑灰N5/ ～暗灰N3/ 。	杯部外面に黒斑。
45	土師器	高杯	SC09P-7上面検出時	②5.4+α脚部基部径2.64	外面丁寧なナデ、内面ナデ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外灰白10YR8/1・褐灰10YR6/1・灰黄褐10YR6/2・淡赤橙2.5YR7/4、内灰黄褐10YR6/2・灰白2.5Y8/1。	
46	土師器	鉢	SC09-5	①(13.1)②5.2+α	外面粗いハケ状条痕。内面ナデ後ヘラ状工具痕。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:やや良好。C:外にぶい黄橙10YR6/3・にぶい黄褐10YR5/3、内にぶい黄橙10YR7/3～7/2。	
47	土師器	椀?	SC09-P-4	②3.5+α	外面磨滅の為調整不明、内面ナデ。	A:やや密。1mmの白色粗砂を僅かに含む。B:やや良好。C:外にぶい黄橙10YR7/3～浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR6/3・浅黄橙10YR8/3。	

表３　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
48	石器	剥片	SC09-5	縦2.5横1.1厚0.65 重1.0	自然面が残る。		腰岳産黒曜石。
49	須恵器	杯蓋?	SD01 e-e'セクションベルト内	②1.65+α	外面2/3回転ヘラ削り、内面1/2不定方向ナデ、他は回転ナデ、内面当て具痕(同心円?)。	A:やや粗。1～4mmの白色砂礫・黒色粒子をやや多く含む。B:良好。C:内外共灰白N7/ 。	当て具痕。同心円?
50	須恵器	杯蓋	SD01 2区下層	①(16.0)②1.8+α	外面1/3回転ヘラ削り、内面3/4不定方向ナデ、他は回転ナデ(左回り)。つまみ欠損。	A:密。1～2mmの砂粒を少量含む。B:不良。C:外灰白N7/ 、内灰白N8/ 。	つまみ欠損。
51	須恵器	杯蓋	SD01 5区最上層黄褐色土層 SD01 5区上層	①(19.0)②1.4	外面1/2回転ヘラ削り、内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ、他は回転ナデ、天井部に板状圧痕。	A:密。2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白10Y7/1～灰10Y6/1、内明オリーブ灰5GY7/1。	焼け歪む。
52	須恵器	皿	SD01-5区上層	①(18.8)②2.45 ③(15.0)	体部内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、底部外面回転ヘラ削り。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰10Y6/1～灰白10Y7/1、内灰白10Y7/1。	
53	須恵器	鉢	SD01 1層	②3.55+α	全面回転ナデ。	A:密。1mmの白色粗砂をごく僅かに含む。B:良好。C:外灰N4/ 、内灰白N7/ 。	
54	須恵器	把手付鉢	SD01 3区下層 SD01 2区 SD01 4区黄褐色土層 SD01 3区上層下層混	①(25.2)②17.7 ③(13.3)	口縁部内外面と体部外面回転ナデ、体部下半～底部外面回転ヘラ削り、内面回転ナデ後丁寧なタテナデ、把手部貼付後指頭圧痕。	A:やや密。1～3mmの白色砂礫を含む。B:良好。C:外暗青灰5PB4/1・暗赤灰5R4/1、内暗青灰5PB4/1～暗青灰5PB3/1・暗赤灰5R4/1。	
55	須恵器	壺	SD01 4区上層	①(12.2)②3.6+α	全面回転ナデ。	A:密。粗砂ほとんど含まない。B:不良。C:外暗青灰5B4/1、内青灰5B5/1、断面にぶい赤褐5YR5/3。	
56	須恵器	大甕	SD01 4区上層 SD01 3区東半3層下層	②10.1+α	全面回転ナデ後頸部外面中位に１条沈線、その上部に斜線文。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂・黒色粒子を多く含む。B:やや不良。C:外灰5Y5/1～灰7.5Y4/1～オリーブ黒7.5Y3/1、内褐灰10YR4/1。	
57	須恵器	瓦塔	SD01検出面635番地地点	長5.8+α幅6.4+α 厚2.4+α	全面ナデ?(磨滅)。	A:密。1～3mmの白色砂礫を少量含む。B:不良。C:内外共灰白N7/ 。	
58	土師器	甕	SC01-3	②6.6+α	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面はナデ?(磨滅)、内面ヘラ削り。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外橙5YR6/8、内にぶい黄褐10YR4/3。	
59	土師器	甑	SD01(上大利634番地)4区黄褐色土層	縦8.2横6.1厚4.2	全面ナデ、指頭圧痕。	A:粗。2～5mmの白色砂礫を非常に多く含む。B:やや不良。C:にぶい黄橙10YR6/4～明黄褐10YR6/6～黒褐10YR3/1 。	把手。
60	土師器	小皿	SD01 3区上層下層混	①8.25②1.05③6.0	内外面回転ナデ、底部外面糸切り。板状圧痕。	A:やや粗。1mm以下の石英・金雲母・長石を多く含む。B:やや良好。C:外橙7.5YR7/6～橙5YR7/6、内橙7.5YR7/6。	
61	土師器	小皿	SD01-5区上層	①(9.0)②0.95 ③(7.9)	内面と体部外面は回転ナデ、底部外面糸切り、板状圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。金雲母を含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/3～灰白10Y7/1、内褐灰10YR6/1。	
62	土師器	小皿	SD01 4区下層 SD01 4区最下層	①(9.9)②1.65 ③(5.6)	体部内外面回転ナデ、底部内面不定方向ナデ、底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。	A:やや密。1～2mmの白色礫をごく僅かに含む。B:やや不良。C:外灰白10YR8/2、内灰白10YR8/2・橙7.5YR6/6。	
63	土師器	杯	SD01 3区上層下層混	①(10.3)②2.0 ③(7.1)	体部内外面ヨコナデ、底部内面不定方向ナデ、底部外面ヘラ切り後一定方向ナデ。	A:やや粗。1mm以下の粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白2.5Y8/2、内淡黄2.5Y8/3。	
64	土師器	高台付小皿	SD01 5区下層	①(9.7)②2.25 ④(7.0)高台高1.05	底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:粗。1～2mmの白色粗砂・雲母・白色粒子を含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/4・にぶい橙5YR6/4、内浅黄橙10YR8/4。	
65	土師器	杯	SD01 5区上層	①(13.8)②2.6 ③(7.9)	内面と体部外面回転ナデ(底部内面中央は強い)。底部外面糸切り。板状圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量、赤色・黒色粒子を含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/4～10YR8/3、内明黄褐10YR7/6。	
66	土師器	杯	SD01-5区上層	①14.6②2.45 ③11.7	口縁部内外面端部形成の為の回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。底部外面糸切り。板状圧痕。他は回転ナデ。	A:密。1mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共橙7.5YR6/6。	
67	土師器	杯	SD01-5区上層	①15.1②2.5 ③12.0	体部内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、底部外面糸切り、板状圧痕。	A:密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。赤色粒子を含む。B:やや不良。C:内外共浅黄橙7.5YR8/4～橙7.5YR7/6。	
68	土師器	杯	SD01 4区下層	①14.6②2.8 ③11.2	体部内外面回転ナデ、底部外面糸切り後ナデ、底部内面不定方向ナデ。	A:粗。1mm以下の白色粗砂・赤色粒子・雲母を含む。B:良好。C:外浅黄橙7.5YR8/4～7.5YR8/6、内浅黄橙7.5YR8/6。	
69	土師器	杯	SD01 4区最下層	①15.6②3.2③11.5	体部内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、底部外面ヘラ切り、板状圧痕。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂を僅かに含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/4～黄橙10YR6/4、内浅黄橙10YR8/4。	
70	土師器	杯	SD01 4区最下層	①15.65②3.1③11.7	体部内外面ヨコナデ、底部内面不定方向ナデ、底部外面糸切り、板状圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂・角閃石・雲母等を含む。B:良好。C:外褐灰10YR4/1・黄褐10YR5/8、内灰白10YR8/2・褐灰10YR5/1。	
71	土師器	丸底杯	SD01 4区下層	①(16.5)②3.8	内面と体部外面回転ナデ、底部外面ヘラ切り。	A:精良。1mm以下の白色粗砂・赤色粒子を含む。B:不良。C:外浅黄橙10YR8/4、内橙5YR7/6。	

表４　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
72	土師器	椀	SD01 2区下層	①(15.2)②5.8 ④6.7高台高0.6	高台貼付ヨコナデ、底部外面不定方向ナデ?他は磨滅の為調整不明。	A:密。1～4mmの白色礫を僅かに含む。B:不良。C:外浅黄橙7.5YR8/6、内橙7.5YR7/6。	
73	土師質土器	鉢	SD01 4区下層	②7.05+α	全面磨滅の為、調整不明。	A:粗。1～2mmの白色砂礫を含む。B:やや不良。C:内外共浅黄橙10YR8/4 。	
74	土師質土器	鍋	SD01-5区溝精査	①(38.0)②9.0+α	口縁部内外面ヨコナデ後指頭圧痕、口縁部下ハケメ後指頭圧痕、体部外面ハケメかナデ(磨滅の為調整不明瞭)、内面ハケメかヨコナデ。	A:粗。3～5mmの白色の粗砂礫を多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4～灰黄褐10YR4/2、内灰黄2.5Y6/2～灰黄褐10YR4/2、煤黒2.5Y2/1。	口縁部内面煤付着。
75	土師質土器	鍋	SD01 5区下層 SD01 5区上層 SD01 5区溝精査	②18.1+α	内外面指頭圧痕後ナデ、内面煤付着。	A:粗。5mmの白色粗砂(礫)を多く含む。B:良。C:外橙2.5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4、内黒2.5Y2/1。	
76	瓦器	椀	SD01-5区下層一括	①(16.0)②5.5 ④6.6高台高0.55	全体に回転ナデ?(焼成不良の為、調整不明瞭)。	A:密。1mmの白色粗砂を僅かに含む。B:やや不良。C:外灰7.5Y4/1、内灰7.5Y4/1～灰白5Y7/2。	
77	瓦器	椀	SD01-5区上層	①(16.3)②5.4 ④(6.9)高台高0.7	内面と体部外面丁寧な回転ナデ(ミガキ?)。高台貼付。高台内面ナデ。	A:密。2mmの白色粗砂をごく少量含む。B:やや不良。C:外灰7.5Y4/1～オリーブ黒7.5Y3/1、内灰7.5Y5/1。	
78	瓦器	椀	SD01 4区下層	①(16.4)②5.9 ④(6.9)高台高0.55	内面と体部外面回転ナデ、底部外面ヘラ切り、高台貼付。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y8/1～8/2、高台部灰N4/ 。	焼け歪む。
79	白磁	椀	SD01-5区最上層(黄褐色土層) SD01-5区上層	①(17.1)②6.35 ④6.2高台高1.45	内面と体部外面上半回転ナデ後施釉。体部外面下半回転ヘラ削り。高台周辺と底部外面露胎。削出高台。	A:密。灰白色N8/ の胎土に1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外釉灰白10Y8/1、胎土灰白5Y5/1、内釉灰白7.5Y7/2。	太宰府分類Ⅴ-4a類。
80	白磁	椀	SD01 3区上層下層混	②2.4+α④6.3高台高1.45	体部外面から高台内側回転ナデ、内面回転ナデ後施釉、底部外面回転ヘラ削り。貼付高台。	A:密。1～4mmの砂礫を少量含む。B:良好。C:外灰白N8/ 、内釉灰白7.5Y7/1 。	太宰府分類Ⅴ類。
81	白磁	皿	SD01-2区	①(12.0)②3.65+α	全面回転ナデ後施釉。	A:密。1mmの砂粒を僅かに含む。B:良好。C:外灰白5Y7/1、内灰白7.5Y8/1。	
82	白磁	椀	SD01-3区最上層(溝東側の平坦面)	②1.7+α	全面回転ナデ後施釉、口縁端部施釉後ヘラ削り(口禿)。	A:密。1mm以下の粗砂を含む。B:良好。C:釉灰白2.5GY8/1、露胎浅黄2.5Y7/4。	太宰府分類Ⅴ類。
83	白磁	椀	SD01 1区ベルト上層	②1.45+α	全面回転ナデ後施釉。	A:精良。B:良好。C:内外共灰白2.5Y8/1、釉にぶい橙7.5YR7/3。	
84	白磁	壺?	SD01-1区ベルト上層	②1.25+α	全面回転ナデ後施釉。	A:精良。B:良好。C:外明オリーブ灰2.5GY7/1、内灰N6/ 。	
85	青磁	椀	SD01-2区	①15.3②6.5④6.2高台高0.95	高台内露胎、畳付釉を削る、他は回転ナデ後施釉。	A:密。1mm以下の砂粒をごく僅かに含む。B:良好。C:釉オリーブ灰5GY6/1、露胎浅黄橙10YR8/4。	龍泉窯系。
86	青磁	椀	SD01-2区	①(17.0)②2.9+α	全面回転ナデ後施釉。外面蓮弁文。	A:密。1mm以下の砂粒を僅かに含む。B:良好。C:釉オリーブ灰10Y5/2、胎土明青灰5PB7/1。	龍泉窯系。釉に全体的にヒビがが入るが剥落している部分はない。
87	青磁	椀	SD01-5区最上層(黄褐色土層) SD01-5区上層	②3.2+α	全面施釉、内外面櫛目文。	A:密。黒色粒子を少量含む。B:良好。C:内外共明オリーブ灰2.5GY7/1。	同安窯系。
88	白磁	皿	SD01北1層	②2.0+α③(4.4)	内面と体部外面回転ナデ後施釉、底部外面ヘラ切り。	A:精良。B:良好。C:釉灰オリーブ7.5Y6/2、胎土灰白2.5Y8/1。	太宰府分類Ⅱ×Ⅳ類。
89	青磁	皿	SD01 3区上層下層混	②1.8+α③4.8	内面と体部外面回転ナデ後施釉、底部外面中央回転ナデ、底部外面周辺回転ヘラ削り。	A:精良。B:良好。C:外釉灰オリーブ5Y6/2、胎土灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y5/1、内釉灰オリーブ5Y6/2。	同安窯系。
90	青磁	水注把手	SD01(上大利634番地)4区黄褐色土層	②5.1+α	外面ナデ後櫛目文後施釉、内面ナデ後施釉。	A:密。1mm以下の赤色粒子を僅かに含む。B:良好。C:明オリーブ灰2.5GY7/1。	越州窯系。
91	陶器	小鉢	SD01(上大利634番地)4区黄褐色土層	②2.15+α	全面回転ナデ後施釉。	A:密。1mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:内外共暗オリーブ5Y4/4。	
92	瓦	丸瓦	SD01(635番地)	長5.52+α厚3.05+α	凸面ナデ?凹面布目圧痕。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外共灰白N7/ 。	
93	瓦	平瓦	SD01-5区最下層(砂層)	長8.3+α幅9.6+α厚2.4	凸面格子目タタキ。縁辺部を除き、タタキ後ナデ消し?凹面布目圧痕?(磨滅)。	A:粗。2～5mmの白色礫を多量に含む。B:良好。C:外灰白N7/～灰N6/、内灰白10Y8/1～灰N5/ 。	
94	瓦	平瓦	SD01(635番地)3区下層	長11.4+α幅8.4+α厚2.15+α	凸面タタキ後ナデ、凹面布目圧痕。	A:粗。2～5mmの白色礫を多く含む。B:不良。C:内外共灰白5Y7/1 。	
95	弥生土器	甕	SD01-2区	①(22.4)②1.8+α	全面ヨコナデ。	A:粗。1～3mmの砂礫を多く含む。B:良好。C:外淡赤橙2.5YR7/4～にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/2。	煤付着?
96	弥生土器	複合口縁壺	SD01 4区上層 SD01 3区上層下層混	①(11.8)②10.1+α 頸部径(15.2)	口縁部内外面ヨコナデ、頸部内面タテハケ、他は磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～3mmの粗砂をやや多く含む。B:やや良好。C:外灰白2.5Y8/2、内浅黄橙10YR8/4 。	
97	弥生土器	壺	SD01e-e'セクションベルト内	②5.3+α	頸部外面ヨコナデ、内面ナデ、突帯刻目。	A:粗。1～3mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外灰白2.5Y8/2、内淡黄2.5Y8/3 。	

表５　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
98	弥生土器	甕 or 壺	SD01南2層	②3.3+α③7.7	体部外面ヨコナデ、底部外面不定方向ナデ、他は磨滅の為調整不明。	A:やや粗。2～5mmの白色礫・赤色粒子を多く含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR6/3、内浅黄橙10YR8/4。	
99	弥生土器	器台	SD01 4区下層	①11.0②12.0+α	外面は口縁部指頭圧痕、他はタテハケメ、内面は口縁部と下半ヨコハケメ、上半指頭圧痕、屈曲部シボリ痕。	A:粗。1～3mmの白色砂礫を多量に含む。B:やや不良。C:外橙5YR6/6、内橙5YR7/8～7/6 。	
100	土製品	棒状土製品	SD01 3区上層下層混	長9.4+α幅3.9+α 厚2.8+α	全面ナデ?(磨滅の為調整不明)。	A:粗。1～5mmの砂礫を多く含む。B:やや不良。C:浅黄橙10YR8/3。	
101	土製品	棒状土製品	SD01 5区最下層	長9.2+α幅4.55+α 厚4.3+α	全面ナデ。	A:粗。3mmの石英・長石等の白色礫を多量に含む。B:良好。C:淡黄2.5Y8/3～灰黄2.5Y6/2。	
102	土製品	棒状土製品	SD01 5区上層	長14.0+α幅4.5+α 厚4.35+α	全面ナデ、一部指頭圧痕。	A:やや粗。1～4mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:淡黄2.5Y8/3・黄灰2.5Y6/1・黒褐2.5Y3/2。	
103	土師器	不明	SD01 5区下層	②5.01+α③3.93	体部ヨコナデ、一部指頭圧痕。底部ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂をごく僅かに含む。B:良好。C:内外共灰白2.5Y8/2 。	
104	滑石製品	石鍋	SD01 5区下層	②4.75+α	全面削り。		
105	石器	打製石鏃	SD01 1層	長2.0+α幅1.8+α 厚0.5抉0.43重2.1	表裏面とも粗い剥離。		凹基式。姫島産黒曜石。
106	石器	ナイフ形石器	641番地遺構検出時	長4.3+α幅1.6+α 厚0.65重3.2	表面の背部は先端部のみにブランティングを施す。他は素材の自然面を残す。		姫島産黒曜石。
107	石器	剥片	SD01 4区下層	縦3.8横3.8厚1.8 重22.7	自然面が残る。		サヌカイト。
108	石器	石匙	SD01南2層	縦2.6横6.87 厚1.05重13.1	刃部両面細かい剥離、つまみ部は片面のみ剥離。		安山岩。
109	石器	磨製石斧	SD01 3区上層下層混	長5.9+α幅5.3 厚1.67重81.6	全面研磨。		流紋岩。刃部に刃こぼれ状のつぶれ(使用痕)。
110	軽石		SD01 3区上層下層混	縦5.25横7.1厚3.4 重23.0	加工している可能性があるが、全面風化し調整不明。		
111	鉄器	不明	SD01 1層	長8.2+α幅1.9+α 厚3.5+α?	扁平。		
112	鉄器	不明	SD01 4区下層	長4.2幅1.4厚0.15			
113	木器	杭	SD01(635番地)2区下層	長14.4+α幅3.7+α 厚2.85+α	先端部は一部素材面が残るが、殆ど周囲からの加工により削り出している。		
114	須恵器	杯身	SD03-2	②2.8+α④(11.4) 高台高0.5	外面と体部内面は回転ナデ、底部内面はナデ。	A:1～2mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外灰N6/ ・一部暗青灰5PB3/1、内灰N6/ 。	
115	青磁	椀	SD03-2	②3.8+α	全面施釉。	A:1mm以下の砂粒。B:良好。C:内外共灰オリーブ7.5Y5/2。	釉の発色は龍泉系だが、無文で、色も龍泉とは異なる。
116	陶器	壺	SD03-2	②11.5+α	外面回転ナデ後施釉、内面回転ナデ。	A:密。細かい砂粒を含む。B:良好。C:外オリーブ褐2.5Y4/3、釉灰黄2.5Y7/2、内灰5Y6/1。	釉薬はほとんど剥がれている。
117	鉄器	不明	SD03-2	長3.6+α幅1.8 厚1.2			
118	須恵器	杯蓋	SD04	①(17.0)②2.8	外面2/5回転ヘラ削り、内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ、他は回転ナデ(磨滅)。	A:密。1～2mmの白色粗砂を少量含む。C:外橙7.5YR7/6、内灰白5Y7/2。	
119	広東椀	蓋	SD04	①(10.0) ②3.0つまみ径(4.9) つまみ高0.8	回転ナデ後、全体に施釉。その後、内外面に染付。	A:密。細かい黒色粒子を少量含む。B:良好。	1780～1840年内に生産された。
120	粉青沙器	椀	SD04	①(14.0)②3.4+α	象嵌技法。	A:密。B:良好。C:内外共灰白5Y8/1・灰5Y6/1。	
121	鉄器	棒状鉄製品	SD04	長14.6+α幅0.5 厚0.5			上部円形から下部方形。
122	鉄器	棒状鉄製品	SD04	長8.55+α+5.0+α 幅0.65厚0.65			接合しないが、同一個体と考えられる。先端近くに木質?が残る。
123	須恵器	杯蓋	SD07-2	①(16.8)②1.8	外面は1/2回転ヘラ削り、内面は4/5回転ナデ、口縁部周辺は端部形成の為の回転ナデ、他は回転ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰10Y6/1、内灰7.5Y5/1。	焼け歪む。
124	須恵器	杯身	SD07-3	①(11.6)②3.2受部径(13.8)	外面1/2回転ヘラ削り、内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:密。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外灰N4/ 、内灰白N7/ 。	底部外面にヘラ記号。

表６　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
125	須恵器	杯身	SD07-3	①(9.8)②4.0④(7.3) 高台高0.6	体部内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、高台回転ナデ。	A:密。1mm以下の粗砂を少量含む。B:良好。C:外オリーブ灰2.5GY5/1～5GY5/1～暗灰N3/ 、内青灰5B5/1。	外面全体に降灰。
126	須恵器	杯身	SD07-2	②3.9+α④9.0高台高0.9	外面は体部から高台内面周辺部回転ナデ(左回り)、高台中心部不定方向ナデ、体部内面回転ナデ、底部内面中心部不定方向ナデ。	A:1～3mmの白色礫をやや多く含む。B:良好。C:外青灰10B6/1、内青灰5B6/1。	
127	須恵器	杯身	SD07-2(3区)	②3.9+α④10.4高台高0.9	外面は体部回転ナデ、底部ヘラ切り、高台部貼付回転ナデ、内側貼付時のツメ跡。体部内面回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B:良。C:外灰10Y5/1、内褐灰10YR5/1。	
128	須恵器	杯身	SD07-2(3区)	①(18.9)②4.8 ④(14.6)高台高0.5	内面～体部外面回転ナデ(磨滅)、底部外面ヘラ切り、高台周辺回転ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内外共橙7.5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/3。	
129	須恵器	杯	SD07-3	①(15.1)②4.8 ③(11.1)	内面～体部外面回転ナデ(磨滅)、底部ヘラ切り。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:内外共灰黄2.5Y7/2～6/2。	
130	土師器	甕	SD07ａ区セクションベルト内	①(15.1)②8.4+α	口縁部内面～体部外面はナデ、体部内面ヘラ削り後ナデ。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。土器の小破片も含む。B:良。C:外にぶい黄褐10YR5/4、内橙7.5YR6/6。	内面に煤付着。
131	土師器	甕	SD07-2	①(17.1)②8.1+α	口縁端部内面～外面ナデ、頸部外面～体部外面ハケメ後ナデ消し(磨滅?)、口縁部内面ハケメ、体部内面底部～口縁部方向へのヘラ削り。	A:密。2mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:外にぶい橙5YR6/3～7.5YR6/4、内灰黄褐10YR5/2。	口縁端部内面から外面全体に煤付着。
132	土師器	甑	SD07-2	縦5.6横4.9 厚3.9	全面指頭圧痕。	A:粗。1～3mmの白色礫を含む。B:良好。C:橙7.5YR7/6。	把手。
133	石器	打製石鏃	SD07-3	長2.0+α幅1.38 厚0.55抉0.15重1.2	表裏面ともに素材面を残さず、粗い剥離。		凹基式。腰岳産黒曜石。
134	石器	剥片	SD07清掃中	縦1.6横2.83厚0.9 重2.9	自然面が残る。		腰岳産黒曜石。
135	石器	剥片	SD07-2(3区)	縦1.1横3.4厚0.7 重1.7	石核打面部から剥離されたもの。作業面の調整痕と考えられる細かな剥離。		黒曜石。
136	石器	剥片	SD07-1	縦6.23横7.18厚2.05 重178.0	自然面が残る。		安山岩。
137	瓦質土器	香炉 or 火鉢	SD07-2	縦4.15横6.5 厚1.15	口縁端部～外面ナデ、内面指頭圧痕。	A:精良。1mmの砂礫を僅かに含む。B:不良。C:内外共明オリーブ灰2.5GY7/1。	
138	弥生土器	甕	SD08-3	②3.1+α	口唇部と突帯ナデ、体部内外面ハケメ。口唇部に接して突帯貼付後刻目。	A:粗。1～2mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外灰白10YR7/1、内褐灰10YR6/1・にぶい黄褐10YR5/4。	
139	弥生土器	甕	SD08-11	②2.9+α	口唇部と突帯ナデ、外面ハケメ、内面磨滅の為調整不明。口唇部よりやや下に突帯貼付後刻目。	A:粗。1～2mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR6/3、内橙2.5YR6/8。	
140	弥生土器	甕	SD08-14	②4.1+α	全面磨滅の為調整不明、体部屈曲部に突帯貼付後刻目。	A:粗。1～3mmの石英・長石・黒雲母の礫を多く含む。B:良好。	
141	弥生土器	浅鉢	SD08-12	②3.45+α	口縁部外面ミガキ、屈曲部内面ヨコナデ、体部内面ナデ?、他は磨滅の為調整不明。	A:石英、長石、角閃石、雲母等を多く含む。B:良好。C:黄灰2.5Y4/1～にぶい黄橙10YR4/3、内オリーブ黒7.5Y3/1。	
142	弥生土器	浅鉢	SD08-12	②4.8+α	口縁部内面から口唇部外面ヨコナデ、他はミガキ。口唇部粘土貼付。	A:1mmの白色礫を少量含む。B:良好。C:外灰黄褐10YR4/2、内黒10YR2/1。	
143	弥生土器	甕	SD08-12	②3.7+α	体部外面ヨコハケメ、底部外面ナデ?、内面磨滅の為調整不明。	A:1～3mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:内外共灰黄2.5Y7/2。	
144	弥生土器	甕	SD08-9区	②2.1+α③9.4	体部外面ヨコナデ、底部外面ナデ。内面磨滅の為調整不明。	A:1～3mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外橙2.5YR6/8、内にぶい黄褐10YR4/3。	
145	弥生土器	甕	SD08-10区	②6.9+α③6.5	体部外面タテハケメ、底部外面ナデ。内面ヨコハケメ。	A:粗。1～4mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外黄褐10YR5/8、内灰白2.5Y8/2。	
146	石器	打製石鏃	SD08-2	長1.93幅1.6厚0.4 重0.9	裏面に素材面が残る。全面に粗い剥離。		平基式。腰岳産黒曜石。
147	石器	縦長剥片	SD08-6区	縦3.6横1.58 厚0.45重2.0	自然面は残らない。		安山岩。打点部欠損。
148	石器	剥片	SD08 3区	縦1.95横2.68 厚0.75重2.1	自然面は残らない。		安山岩。
149	石器	ナイフ形石器	SD08-8区	縦4.55横2.4厚1.4 重9.1	素材は分厚い横広剥片。打面部と対辺の1/2にブランティング加工を施し、対辺の残り1/2に鋭い刃部を残す。		腰岳産黒曜石。

表７　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
150	石器	剥片	SD08-10区	縦3.8横4.9厚1.1 重20.4	自然面が残る。		安山岩。
151	須恵器	杯身	SD09ベルト(SX39東側)	②2.7+α④(8.9) 高台高0.9	体部内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後ナデ。	A:精良。4mm以下の石英・長石等を少し含む。B:体部良好、高台部やや不良。C:内外共灰N6/、高台部浅黄5Y7/3～灰白5Y7/2。	
152	土師器	二重口縁壺?	SD09-aセクションベルト	②4.4+α	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。3mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:やや不良。C:外灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/2、内黄灰2.5Y6/1～5/1。	
153	須恵器	杯身	SD12-8	①(13.8)②6.15 ④(8.8)高台高0.8	体部内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後ナデ?底部外面ヘラ切り後ヨコナデ(全面磨滅)。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:外灰白7.5Y7/1、内灰白5Y8/1。	
154	須恵器	高杯	SD12-1区	②9.1+α	外面回転ナデ、シボリ痕、内面シボリ痕後ヨコナデ。外面中位に2条の沈線。沈線の上下に透かし2方向計4ヶ所。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰10Y6/1、内灰白10Y7/1。	
155	弥生土器	甕or壺	SD12-2区上層	②5.6+α	全面磨滅の為、調整不明。	A:やや粗。3mm以下の白色粗砂礫を多く含む。B:良好。C:内外共灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/2。	
156	弥生土器	壺	SD12-2区上層	②4.6+α	体部外面ヨコナデ(磨滅)、体部内面ナデ。	A:やや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4、内浅黄2.5Y8/4。	
157	石器	打製石鏃	SD12-6区	長2.0幅1.5+α 厚0.32抉0.1重0.8	表裏面ともに素材面が残り、粗い剥離。		凹基式?腰岳産黒曜石。
158	石器	石庖丁	SD12-5区	長4.2幅4.7 外孔0.8内孔0.35 孔間2.7背孔1.1 厚0.75重18.6	穿孔部2ヶ所。		穿孔部に紐ズレ。 刃部丸み。 流紋質凝灰岩。
159	須恵器	高杯	SD10 2区	②5.25+α	杯部内面と脚部外面磨滅の為調整不明。杯部と脚部の接合部外面と脚部内面回転ナデ。	A:精良。1mm以下の石英・長石等を少し含む。B:やや不良。C:内外共灰白5Y8/2～浅黄2.5Y7/3。	
160	土師器	椀	SD10 1区	①(15.4)②(5.45) ④6.4 高台高0.9	磨滅の為調整不明。	A:やや粗。5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母をやや多く含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4～橙7.5YR7/6、内浅黄橙10YR8/4。	
161	須恵器	杯蓋	SD11-3区	①16.6②2.85 つまみ径(2.5) つまみ高0.8	外面1/2回転ナデ?他は磨滅の為調整不明。	A:精良。2mm以下の石英・長石等を少し含む。B:不良。C:内外共浅黄2.5Y7/4～灰白2.5Y8/2。	
162	須恵器	杯身	SD11-9区周辺検出面	①(14.3)②6.3 ④(8.8) 高台高0.85	体部内外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り?、底部内面回転ナデ後ナデ。高台回転ナデ。	A:精良。1mm以下の長石等を少し含む。B:良好。C:内外共灰N6/ 。	
163	須恵器	杯身	SD11-9区周辺検出面	①(14.3)②5.25 ④(10.5)高台高0.9	体部内外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り?、底部内面回転ナデ後ナデ。高台貼付回転ナデ。	A:精良。2mm以下の石英・長石等を少し含む。B:良好。C:内外共灰N6/ 。	
164	須恵器	杯身	SD11-10	①(15.9)②5.45+α ④(10.2)	体部内外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り後回転ナデ、底部内面回転ナデ後ナデ。高台欠損。	A:精良。2mm以下の石英・長石等を少し含む。B:良好。C:内外共灰N6/ 。	口縁部は焼き歪む。
165	須恵器	杯身	SD11-9西 SD03-6	①16.35②6.5 ④9.2高台高0.8	体部内外面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。高台貼付回転ナデ。体部外面に沈線を螺旋状に廻らす。	A:精良。1mm以下の石英・長石等を少し含む。B:やや不良。C:外にぶい赤褐5YR5/3～灰褐5YR5/2、内にぶい赤褐5YR5/3。	焼き歪み顕著。口縁部が外側へ開く。
166	須恵器	甑	SD11-9 SD11-8(重複部にて検出面) 配置図7下半SD03周辺検出時	①(24.8)②18.5 ③(15.7)	口縁部内外面回転ナデ、体部外面回転ナデ後工具ナデ、体部内面縦位ヘラ削り後ナデ、内面下端回転ナデ後ナデ、外面下端横位ナデ後ナデ。下端面取り。	A:精良。2mm以下の石英・長石・黒色細粒等を少し含む。B:良好。C:内外共灰白7.5Y7/1。	
167	弥生土器	壺?	SD11-6区	②10.45+α	口縁部外面は斜方向ハケメ、屈曲部内面はヨコハケメ、他は磨滅の為調整不明。突帯刻目。	A:粗。3mm以下の石英・長石・角閃石・雲母等を多く含む。B:良好。C:外淡黄2.5Y8/3、内灰白2.5Y8/2。	
168	弥生土器	甕	SD11-8(検出面)	②2.15+α	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。4mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4～浅黄橙10YR8/3、内灰黄褐10YR6/2。	
169	土師器	高杯	SD11-9	②6.15+α	脚部外面ナデ、脚部内面上半シボリ痕、下半ナデ。	A:精良。1mm以下の石英・長石・雲母・赤色粒等を少し含む。B:良好。C:外淡黄2.5Y8/3、内浅黄橙10YR8/3～8/4。	
170	土師器	高杯	SD11-10	②7.45+α	杯部接合部内外面ヨコナデ。脚部外面ナデ?(磨滅)内面ヘラ削り。裾部屈曲部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り後ヨコナデ。裾部外面ナデ。	A:精良。1.5mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外共浅黄2.5Y7/3。	脚部内面に工具を差し込んでヘラ削りを施す。

表８　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑧

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
171	石器	打製石鏃	SD11-3区	長2.1幅1.45 厚0.25重0.7	表裏面とも粗い剥離。		凸基式。腰岳産黒曜石。
172	石器	剥片	SD11-6区	縦2.4横2.55 厚1.55重7.8	明確な剥片剥離によるものではない。		黒曜石。
173	石器	剥片	SD11-9	縦5.15横7.05 厚1.05重22.3	自然面が残る。		安山岩。
174	石器	スクレイパー	SD11-11	長9.1+α幅9.8 厚1.9重218.7	大型剥片の縁部の両面に剥離を施し、刃部を作出。片面は自然面。		安山岩。もとの大きさは不明。
175	須恵器	杯蓋	SD13-1区 SD13-2区 SD13-1・2区間ベルト	①(11.7)②2.4 つまみ径(1.8) つまみ高0.65 かえり部径(13.7)	外面回転ヘラ削り2/3、内面3/4回転ナデ後不定方向ナデ、つまみヨコナデ、他は回転ナデ。	A:密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共灰赤2.5YR5/2。	口縁部外面ヘラ記号?
176	須恵器	杯	SD03-5区 (SD13)	①15.0②4.6③7.6	体部内外面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。	A:1mmの白色礫を多く含む。B:良好。C:外灰5Y5/1、内灰N6/ 。	底部外面にヘラ記号。
177	須恵器	杯	SD13-2区上層	①(14.0)②3.75	外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:内外共浅黄2.5Y7/3～灰黄2.5Y7/2。	底部外面ヘラ記号。
178	須恵器	椀	SD13-2区上層	②5.0+α③(10.0)	体部内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、底部外面ヘラ切り。	A:密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰10Y5/1 、内暗灰N3/ 。	外面降灰。
179	須恵器	横瓶	SD13-2区下層 SD13-1区	①11.3～11.8 ②6.0+α	口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ、体部内面同心円当て具痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰N4/ ～暗灰N3/ 、内暗灰N3/ 。	焼き歪む。
180	弥生土器	甕	SD13-2・3区上層	②6.2+α	口縁部内面と体部内面に指頭圧痕、他は磨滅の為調整不明。	A:やや粗。4mmの礫を少量、2mm以下の粗砂を多く含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y7/1～8/2。	
181	弥生土器	甕	SD03-5 (SD13)	②11.35+α③(7.0)	外面磨滅の為、調整不明。内面は頸部から体部中位までナデ。下方に指頭圧痕顕著。	A:やや粗。4mm以下の白色粗砂礫を多量に含む。角閃石を少量含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/4。	
182	弥生土器	甕	SD03-5 (SD13)	②11.0+α③(7.4)	内外面は磨滅の為、調整不明(ナデ?)。	A:やや粗。3mm以下の白色粗砂礫を多く含む。B:やや不良。C:外にぶい橙5YR6/4、内淡黄2.5Y8/3。	
183	弥生土器	複合口縁壺	SD03-5区 (SD13)	②2.4+α	内外面ナデ。屈曲部外面に粘土貼付。	A:2mm以下の白色礫を多く含む。B:良好。C:外淡黄2.5Y8/3、内灰白5Y8/1。	浮文(円形)。
184	弥生土器	壺	SD03-5 (SD13)	②3.4+α③4.2	内外面ナデ。	A:1～5mmの白色礫を多く含む。B:やや良好。C:外にぶい黄橙10YR6/3・煤黒5Y2/1、内橙5YR6/8。	
185	弥生土器	高杯	SD03-5区 (SD13)	②4.6+α 脚部基部径3.25	脚部外面ナデ。杯部接合部分は粘土貼付後、ヨコナデ。内面にシボリ痕。	A:1～2mmの礫を含む。B:やや良好。C:外灰白5Y8/2、内灰白5Y8/2に黄2.5Y7/8が混じる。	
186	弥生土器	高杯	SD03-5 (SD13)	②10.4+α 脚部基部径5.1	外面タテハケメ、内面上部シボリ痕、内面下部シボリ痕後ヨコナデ。杯部との接合部は粘土円盤充填。杯部内面ナデ。	A:1～3mmの白色礫を含む。B:やや良好。C:外橙7.5YR6/8、内灰白10YR7/1。	
187	弥生土器	支脚	SD03-4区 (SD13)	②6.2+α③(15.25)	内外面はナデ。内面裾部に粘土貼付。	A:1～3mmの白色礫(石英・長石等)を多く含む。B:良好。C:外にぶい橙7.5YR6/4・一部明赤褐5YR5/6、内灰白5Y8/1。	
188	土師器	甕 or 甑	SD03-4区 (SD13)	縦2.6横3.9厚2.1	全面指頭圧痕。	A:1～3mmの白色礫(石英・長石等)を多く含む。B:やや良好。C:灰白2.5Y8/2。	把手。
189	石製品	磨製石斧	SD03-3・5区上層 (SD13)	長8.6+α幅5.5+α 厚3.9重311.1	全面研磨。		砂岩製。刃部に刃こぼれ状痕跡? 風化。
190	礫		SD03-3・5区下層 (SD13)	縦2.5横4.0厚1.3	人為的な加工なし。		安山岩。
191	須恵器	杯蓋	SX01 2区1層	①(16.0)②2.2+α	体部内外面回転ナデ、天井部外面回転ヘラ削り。	A:密。1mm以下の白色砂粒を含む。B:良。C:外灰黄2.5Y5/1、内灰黄褐10YR5/2～にぶい黄橙10YR7/3。	天井部外面ヘラ記号?
192	土師器	高杯	SX01 1層	②5.35+α脚裾径(4.5)	脚部内外面ナデ、内面にシボリ痕。	A:密。1mmの白色粗砂・赤色粒子を僅かに含む。B:良。C:外橙7.5YR6/6～明黄褐10YR7/6、内橙5YR6/6。	
193	土師質土器	鍋	SX01 3区2層 SX01 1区～3区1層	②6.55+α	外面～口縁部内面ナデ、内面ハケメ。	A:密。1mmの白色粗砂を少量含む。B:良。C:外明赤褐5YR5/6～褐灰10YR4/1、内浅黄橙10YR8/3。	外面に煤付着。
194	雑釉陶器	椀	SX01検出面	②2.6+α④4.5高台高1.0	体部外面～高台まで施釉。高台内にも施釉?内面は施釉。	A:密。黒色粒子を多く含む。B:良好。C:釉にぶい黄橙10YR7/4、胎土浅黄橙10YR8/3。	見込みに目跡(砂目)。朝鮮系。
195	石製品	茶臼 (上臼)	SX01 1層 SX01 4区2層	擂目面径(19.0) 厚12.6重2010			側面に挽き孔1ヶ所、その周辺に1段の方形浮き彫り装飾6分画か?

表９　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑨

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
196	土師質土器	鍋	SX05	②6.8+α	内外面ヨコナデ。磨滅の為調整不明。	A:密。1mm以下の白色粗砂・角閃石を含む。B:良好。C:内外共にぶい橙5YR6/4～5YR7/3。	傾きに難あり。
197	土師器	杯	SX09北区	②1.9+α③(8.0)	外面は回転ナデ、底部糸切り、内面回転ナデ。	A:密。2mmの白色粗砂・赤色粒子を含む。B:やや不良。C:内外共にぶい黄橙10YR7/4。	
198	土師器	鍋	SX09北区	②3.2+α	内外面ヨコナデ。	A:密。1mmの白色粗砂を含む。B:良。C:外灰黄褐10YR4/2～浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/3。	外面に煤付着。
199	土師器	擂鉢	SX09北区	②8.4+α	外面ナデ。内面擂目。	A:密。2mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内外共橙5YR6/8。	
200	青白磁	合子(蓋)	SX09南区	②1.45+α	内外面施釉。	A:密。黒色粒子を含む。B:良好。C:外明緑灰7.5GY8/1、内灰白5Y8/1。	合子の蓋と思われ、花形の器形をするものと思われる。
201	土師器	甕?	SX11ベルト2～4層	②6.1+α	外面から口縁部内面磨滅の為調整不明。内面ハケメ後ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。赤色粒子を含む。B:良。C:内外共にぶい黄橙10YR7/4～6/4。	口縁端部に煤付着。
202	弥生土器	壺	SX11北半2～4層	②3.9+α③(7.1)	外面はハケメ後ナデ消した部分あり。内面ハケメ。	A:密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良。C:外にぶい黄橙10YR7/4、内橙7.5YR7/6。	
203	礫	焼石	SX11ベルト2～4層	縦8.8横12.95 厚4.15			花崗岩。全体に被熱。
204	瓦質土器	鉢	SX13	②3.5+α	外面～口縁部内面ナデ。内面ハケメ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:外黄灰2.5Y4/1、内灰黄2.5Y6/2。	
205	須恵器	杯蓋	SX15南区	①11.7②1.5	天井部外面ヘラ切り後ナデ。内面と口縁部外面回転ナデ。	A:密。1mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:外灰N4/ 、内灰N6/ 。	天井部外面ヘラ記号。
206	須恵器	杯蓋	SX15南区上層	①(15.1)②1.75	つまみ貼付後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。口縁部回転ナデ。天井部内面回転ナデ後不定方向ナデ。	A:密。1mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:内外共灰白N7/ 。	焼け歪む。
207	須恵器	杯蓋	SX15南区	①15.1②2.4つまみ径3.15つまみ高0.5	つまみ貼付後回転ナデ。つまみ周辺ヘラ切り後回転ナデ。他は回転ナデ(磨滅)。	A:密。1mm以下の粗砂を含む。B:不良。C:外灰白2.5Y8/1、内淡黄2.5Y8/3。	焼け歪む。
208	須恵器	杯蓋	SX15南区 SX15南区下層	①15.1②1.9つまみ径3.1つまみ高0.55	つまみ貼付後回転ナデ。つまみ周辺ヘラ切り後回転ナデ。口縁部内外面回転ナデ。内面回転ナデ後不定方向ナデ。	A:密。1mm以下の粗砂を含む。B:やや不良。C:内外共にぶい黄橙10YR7/2～7/3。	
209	須恵器	杯身	SX15北区上層	①(10.6)②3.75④7.6⑤高台高0.5	内面と体部外面回転ナデ?(磨滅)。高台貼付後回転ナデ、底部外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:外浅黄2.5Y7/4～灰白5Y8/2、内灰白5Y8/1。	
210	須恵器	杯身	SX15南区 SX15南区上層	①(12.1)②4.15 ④8.6高台高0.4	内面と体部外面回転ナデ。高台貼付後ヨコナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ?(磨滅)。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:不良。C:外淡黄2.5Y8/4、内浅黄2.5Y7/4。	
211	須恵器	杯身	SX15北区上層	①13.0②4.6④9.2高台高0.6	体部内外面回転ナデ。高台貼付後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:外淡黄2.5Y8/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	
212	須恵器	杯身	SX15南区	①13.5②4.6④9.4高台高0.3	内面と体部外面回転ナデ。高台貼付後回転ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。1mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰N5/ 、内灰N6/ 。	焼け歪む。補修痕?
213	須恵器	杯身	SX15ベルト中	①13.9②4.9④9.4高台高0.6	内面と体部外面回転ナデ。高台貼付後ナデ。底部外面ヘラ切り。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含まない。B:やや不良。C:外灰黄2.5Y6/2～灰褐7.5YR6/2 、内にぶい黄橙10YR7/3。	やや焼け歪む。
214	須恵器	杯身	SX15南区	①12.9②4.9④9.2高台高0.5	体部内外面回転ナデ。高台貼付後回転ナデ。底部外面ヘラ切り。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。体部内面下位指頭圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含まない。B:良好。C:外灰N5/ 、内灰N6/ 。	焼け歪む。釉着物。
215	須恵器	杯身	SX15南区	①(19.0)②5.25 ④(13.0)高台高0.4	内面と体部外面回転ナデ、高台貼付後ナデ、底部外面回転ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:内外共橙7.5YR6/8。	
216	須恵器	皿	SX15南区下層	①(21.0)②2.7	体部内外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:不良。C:内外共橙5YR6/8。	
217	須恵器	皿	SX15南区	①20.2②3.3	体部内外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:不良。C:内外共橙5YR6/8。	焼け歪む。
218	須恵器	把手付鉢	SX15ベルト中 SX15北区上層	①(19.8)②10.3	口縁部外面～内面回転ナデ、体部外面に把手貼付ナデ後、回転ヘラ削り？後底部回転ナデ。	A:密。2mm以上の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
219	土師器	甕	SX15南区	①(15.6)②4.3+α	外面と口縁部内面ナデ(磨滅)。頸部下内面指頭圧痕。	A:やや粗。3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/4～橙5YR6/6、内褐灰10YR5/1～にぶい黄橙10YR7/3。	
220	土師器	甕	SX15ベルト中	②4.3+α	外面ハケメ後ナデ。内面ヘラ削り後指頭圧痕。	A:やや粗。3mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4～6/4、内灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/3。	

表10　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑩

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
221	土師器	甕	SX15南区	②4.2+α	全面ナデ。口縁部下外面指頭圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:外灰黄褐10YR4/2～橙7.5YR6/8、内黄橙7.5YR7/8。	口縁部。
222	須恵器	杯身	SX21	①12.8②4.6 ④9.45高台高0.55	体部内外面ヨコナデ、外面下方に脚部貼付、底部ヘラ切り後不定方向ナデ。	A:密。1～2mmの白色粗砂をごく僅かに含む。B:良好。C:外暗灰N3/ ～灰N5/ ～4/ 、内灰N6/ ～4/ 。	焼け歪む。
223	石器	打製石鏃	SX23北区	長2.02幅1.8 厚0.45抉0.15重1.0	表裏面とも剥離粗く、雑な作り。		凹基式。安山岩。
224	石器	ユーズドフレイク	SX26南区	長2.5幅1.45厚0.6 重1.7			縦長剥片の右側面に刃こぼれ(使用痕)。腰岳産黒曜石。
225	石器	砥石	SX26南区	長20.0幅8.35 厚2.75重705.5	砥面2面。		凝灰岩。仕上げ砥。裏面は大きく破損し、作業面は残存しない。
226	石器	剥片	SX27	長2.95幅1.5厚0.6 重2.1			安山岩。使用痕なし。
227	石器	ユーズドフレイク	SX27	長3.65幅2.2 厚0.65重3.5			安山岩。不定形剥片の一辺に刃こぼれ状(使用痕)の細かい剥離。
228	弥生土器	甕	SX28	①(10.4)②10.45+α	口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケメ?(磨滅)。内面ナデ?(磨滅)。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外灰白10YR8/1・にぶい黄褐10YR4/3、内灰白7.5Y8/1。	
229	弥生土器	壺	SX28	②9.0+α③3.6 ⑤体部(14.2)	体部外面ハケメ。体部内面上位指頭圧痕後ナデ。体部内面下位磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:外灰白2.5Y8/1～8/2、内灰白2.5Y8/1～8/2～灰黄2.5Y7/2。	体部下半外面に黒斑。
230	弥生土器	壺	SX28	②23.0+α③(7.2) ⑤体部(28.9)	外面ハケメ(突帯より上は磨滅の為不明瞭)。突帯ヨコナデ。内面上位ナデ。内面下位ハケメ。底部外面ナデ。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂を多く含む。角閃石をごく僅かに含む。B:良好。C:外浅黄2.5Y7/3、内にぶい黄橙10YR7/3・褐灰10YR5/1・橙2.5YR6/8、黒斑黒2.5Y2/1。	体部下半外面に黒斑。
231	石器	砥石	SX28	長8.35+α幅4.0 厚4.0重161.0	砥面4面。		泥岩。深い線状痕。両端欠損。
232	石器	細石刃	SX30	長1.85幅0.83厚0.25 重0.4	石核から規格的にはぎ取った縦長剥片。		安山岩。打点部一部と先端部欠損。
233	石器	石核	SX32	縦3.9横2.18厚1.25 重11.9	剥片剥離作業は4回。		安山岩。
234	土師器	器台	SX33-3	上端部径(12.9)②4.75 +α	口縁部から外面ナデ。内面シボリ痕。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂を多量に含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR7/3～7/4、内灰白10YR8/1。	
235	土師器	甕	SX35(庄内式土器埋納ピット)	①16.55②(25.5)頸部径12.3	外面ハケメ。内面ヘラ削り。内外面共磨滅が進んでいる。	A:やや粗。1mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外灰白10YR8/1、煤黒褐10YR3/1、内灰白10YR8/1～浅黄橙10YR8/3。	煤付着。
236	土師器	高杯	SX35	②1.6+α	外面ナデ。内面ハケメ。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白2.5Y8/2、内橙5YR7/8。	
237	須恵器	杯蓋	SX39東区	①(14.4)②2.85	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:不良。C:外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/1～8/2。	
238	須恵器	杯身	SX39北区	①(14.4)②5.65 ④(10.6)高台高0.7	外面回転ナデ。高台貼付後回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。内面回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。	A:密。1～5mmの白色砂礫をやや多く含む。B:良好。C:外灰N6/、内青灰5PB5/1。	
239	須恵器	杯	SX39北区	①15.6②5.4③10.4	外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。内面回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。	A:1～3mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白N7/～灰N6/、内明青灰5PB7/1。	焼け歪む。
240	須恵器	杯身	SX39北区	①(15.7)②7.15 ④(9.9)高台高0.75	外面回転ナデ。高台貼付後回転ナデ。底部外面ヘラ切り後回転ナデ。内面回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。	A:やや密。1～4mmの白色砂礫を少量含む。B:良好。C:外暗青灰5PB4/1、内青灰5PB6/1。	焼け歪む。
241	須恵器	すり鉢	SX39北区	①12.0②7.6③7.65	内外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。	A:密。1～2mmの白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:外黄灰2.5Y6/1・灰褐5YR5/2、内灰N5/～4/。	
242	須恵器	長頸壺	SX39東区	①13.9②16.95+α 頸部径7.1	頸部内面上部と外面回転ナデ。頸部内面下部と肩部内外面ナデ。	A:密。1～2mmの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:外赤褐10R5/3・灰白10YR8/1、内灰黄2.5Y7/2・にぶい橙7.5YR7/3。	
243	須恵器	大甕	SX39北区	②42.0+α⑤体部(54.2)頸部径(23.2)	外面縦格子タタキ、頸部タタキ後ナデ、上部降灰、下部自然釉ダレ、平行タタキ。内面同心円文当て具痕、頸部ナデ。	A:密。1mmの白色粗砂をごく僅かに含む。B:良好。C:内外共灰N3/～暗灰N3/。	
244	土師器	杯蓋	SX39東区	①18.3②2.4つまみ径 3.15つまみ高0.8	外面回転ヘラミガキ、回転ナデ。内面回転ヘラミガキ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外橙5YR7/8・黒2.5Y2/1、内橙5YR7/6～7/8。	天井部外面に黒斑。

表11　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑪

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
245	土師器	杯身	SX39東区 SX39北区	①(16.7)②6.1④12.6 高台高0.6	外面回転ヘラミガキ。底部外面ヘラ切り後回転ヘラミガキ。高台貼付後ナデ。内面回転ヘラミガキ(磨滅の為不明瞭)。底部内面磨滅の為不明。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内外共橙5YR7/6～7/8。	
246	土師器	高杯	SX39北区	①(24.5)②11.0+α	杯部外面磨滅の為調整不明。脚部外面ミガキ。杯部内面回転ヘラミガキ。脚部内面ナデ。	A:やや粗。1mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外橙5YR7/6～6/8、内橙5YR6/6～7/8。	
247	土師器	甑	SX39西区 SX39北区	①33.95②29.55 裾部径14.5	外面上部ヨコナデ。外面下部磨滅の為不明。把手指頭圧痕。内面ナデ、ヘラ削り、底部煤(磨滅の為不明)。	A:やや粗。1～4mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:外橙5YR7/6～6/6、内橙7.5YR7/6～にぶい橙7.5YR7/4・にぶい黄橙10YR7/2～7/4。	
248	土師器	鉢	SX39北区 SX39東区	①(37.8)②11.1+α	外面上部丁寧な回転ナデ、他はカキメ?内面丁寧な回転ナデ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外橙5YR7/8～にぶい黄橙10YR7/3～6/4、内橙5YR7/8～6/8。	
249	鉄器	不明	SX39	長6.6+α幅3.55+α 厚1.55			
250	鉄器	不明	SX39	長6.1+α幅7.5+α厚 1.4+α		A:粗。B:良。C:外黄灰2.5Y4/1～にぶい黄橙10YR6/3、内オリーブ黒7.5Y3/1。	鋤先状を呈する。
251	石器	打製石鏃	SX39東区	長1.62幅1.45厚0.35 抉0.22重0.5	表裏面とも丁寧な剥離。		凹基式。安山岩。縄文。
252	弥生土器	袋状口縁壺	SX40	①口外径(21.8) ②12.0+α	口縁部外面ナデ、ヨコナデ。頸部外面タテハケメ。口縁部内面ヨコナデ。頸部内面磨滅の為調整不明。	A:粗。7mm以下の石英・長石等を多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR6/3、内にぶい黄橙10YR7/4。	炭化物付着。
253	石器	砥石	SX40	長12.1+α幅8.4+α 厚3.3重511	砥面4面。		砂岩。約半分を欠損。
254	石器	砥石	SX40	長12.7+α幅11.35+α 厚4.35+α重522	砥面5面。		砂岩。外面マンガンの吸着顕著あるいは炭?煤?
255	弥生土器	甕	SX41	②1.4+α	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。5mm以下の石英・長石・雲母・赤色粒等をやや多く含む。B:良好。C:内外共橙5YR6/8。	
256	弥生土器	甕	SX41最下層	②4.2+α	頸部外面ヨコナデ。他は磨滅の為調整不明。	A:粗。6mm以下の石英・長石・雲母・赤色粒等を多く含む。B:良。C:外橙7.5YR7/6～にぶい黄橙10YR6/4、内明黄褐10YR6/6～浅黄橙7.5YR8/4。	
257	弥生土器	甕	SX41-5	②6.6+α	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。5mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/4。	
258	弥生土器	甕	SX41最下層	②5.2+α	頸部外面ハケメ後ヨコナデ?体部外面ハケメ、内面から口縁部外面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。3mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良。C:内外共橙5YR7/6。	口縁部内面に黒斑。
259	弥生土器	壺	SX41 SX41最下層 SX53セクションベルト3層	②6.2+α③11.0	外面下部ヨコナデ。底部外面ナデ?(磨滅)。他は磨滅の為調整不明。	A:粗。4mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:外にぶい橙7.5YR7/4～灰白10YR8/2、内灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y6/1。	底部外面に黒斑。
260	弥生土器	壺	SX41-1	②8.5+α③(11.2)	外面タテハケメ。内面及び底部外面磨滅の為調整不明。	A:粗。5mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:外橙7.5YR6/6、内橙7.5YR6/6～7/6。	体部外面下半に煤付着。
261	弥生土器	壺	SX41-6	①(29.5)②10.5+α	外面上部ハケメ(磨滅)。外面下部ヨコナデ。口縁部内面ヨコナデ。口縁部下内面指頭圧痕。他は磨滅の為調整不明。	A:粗。4mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内外共橙7.5YR6/6。	
262	弥生土器	壺	SX41最下層 SX41	②15.65+α	外面磨滅の為調整不明。内面タテナデ、ヨコナデ。	A:密。5mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:外丹明赤褐2.5YR5/6・にぶい黄橙10YR7/4、内橙7.5YR6/6～黄灰2.5Y4/1。	丹塗り。
263	弥生土器	支脚	SX41	上端部径(10.2)② 12.05裾部径(11.8)	外面ハケメ、指頭圧痕(磨滅)。内面上部シボリ痕?(磨滅)。底部磨滅の為調整不明。	A:粗。1～3mmの白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/3～8/4、内黄灰2.5Y6/1。	
264	弥生土器	鉢	SX41-7	①9.5②5.7③4.2	外面磨滅の為調整不明。内面かすかに指頭圧痕が見られるが磨滅の為調整不明。	A:粗。5mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:外浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR6/4。	ミニチュア土器。
265	弥生土器	甕	SX43井戸中～下層	②2.3+α	口縁部内面ナデ。他は磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄褐10YR5/3・浅黄橙10YR8/3。	
266	弥生土器	甕	SX43-59 SX43-15	①(17.4)②9.1+α	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。1～3mmの白色粗砂・赤色粒子をやや多く含む。B:良好。C:外橙7.5YR7/6、内にぶい黄橙10YR6/3～6/4。	
267	弥生土器	甕	SX43井戸中～下層	①(18.8)②5.1+α	口縁部内外面ナデ。口縁部下外面ハケメ。口縁部下内面ヨコハケメ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂を少し含む。B:やや良好。C:内外共橙5YR7/6～7/8。	

表12　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑫

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
268	弥生土器	甕	SX43-3	①(21.0)②3.2+α	口縁部外面ヨコナデ。口縁部下外面ハケメ。内面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外共浅黄橙10YR8/3～8/4。	
269	弥生土器	甕	SX43-25	①(22.8)②6.8+α	口縁部外面ナデ。体部外面タテハケメ。内面磨滅の為調整不明。	A:粗。1～3mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外明赤褐5YR5/6・橙5YR6/8、内明赤褐5YR5/6。	
270	弥生土器	鉢	SX43-22　SX43-17 SX43-13　SX43-30 SX43-69　SX43-1 SX43-50　SX43-48 SX43-53　SX43-58 SX43-71　SX43-10	①(27.4)②20.2 ③(7.8)	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ハケメ。内面と底部外面磨滅の為調整不明。	A:密。1mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
271	弥生土器	甕	SX43-38	②5.2+α③(8.2)	外面ハケメ。底部外面ナデ。内面一部指頭圧痕(磨滅)。	A:密。赤色粒子を僅かに含む。B:良好。C:外橙7.5YR7/6、内黄橙7.5YR7/8・黒7.5Y2/1。	
272	弥生土器	甕	SX43-64	②5.3+α③(8.0)	外面ハケメ、指頭圧痕(磨滅)。内面指頭圧痕。底部内外面ナデ。	A:やや密。1mmの白色粗砂・赤色粒子を少量含む。B:良好。C:外浅黄橙7.5YR8/6、内浅黄橙7.5YR8/4～黄橙7.5YR8/8。	
273	弥生土器	甕	SX43-16	②7.6+α③(10.5)	外面タテハケメ。底部外面ナデ。内面ハケメ後指頭圧痕、ナデ?(磨滅)。底部内面ナデ。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外橙5YR7/8・明黄褐10YR7/6～6/8、内橙5YR6/6。	底部外面に黒斑。
274	弥生土器	甕	SX43-68	①(21.2)②2.8+α	口縁部と体部外面ナデ。体部内面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂・金雲母をやや多く含む。B:良好。C:外橙2.5YR7/6、内橙2.5YR6/8・にぶい黄橙10YR7/4。	
275	弥生土器	瓢形壺	SX43-24	②10.0+α	体部外面ハケメ。突帯ヨコナデ、ナデ。内面ナデ。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外共橙5YR6/8。	丹塗り?
276	弥生土器	壺	SX43	②5.1+α③6.9	外面磨滅の為調整不明。底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ハケメ。	A:密。1～2mmの白色粗砂をごく僅かに含む。B:良好。C:外橙7.5YR6/6、内黄褐2.5Y5/3。	丹塗り。
277	弥生土器	無頸壺蓋	SX43-60	①(16.4)②2.6+α	外面タテハケメ(磨滅)。内面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外明赤褐5YR5/6、内橙5YR6/8。	焼成前穿孔。
278	弥生土器	器台	SX43-33 SX43-72 SX43	②13.95+α 裾部径11.3	外面ハケメ。内面上部シボリ痕。内面下部ハケメ?底部ナデ。	A:粗。1～5mmの白色砂礫を多く含む。B:やや不良。C:外灰白10YR8/2・明黄褐10YR7/6、内にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR5/2。	
279	弥生土器	甕	SX44下層	①30.4②16.5+α	口縁部内面ハケメ。外面ヨコナデ。外面ハケメ。内面磨滅の為調整不明瞭、ナデ。	A:粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:外橙7.5YR7/6、内淡橙5YR8/4・橙5YR7/8。	
280	弥生土器	甕	SX44下層 SX44 2層	①19.3②19.35③8.9	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ、底部外面ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/4・浅黄橙7.5YR8/6、内浅黄橙10YR8/3～8/4・浅黄橙7.5YR8/6。	体部外面に3ヶ所黒斑。
281	弥生土器	甕	SX44下層	①(19.5)	口縁部内外面ヨコナデ。外面ハケメ。内面ナデ。	A:やや密。1mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外灰白10YR8/2～灰黄褐10YR6/2、内浅黄橙10YR8/4～黄橙10YR8/6。	反転合成復元のため、中心がややずれている。
282	弥生土器	甕	SX44 3層	②10.7+α③7.4	体部外面ハケメ。底部外面ナデ。体部内面ナデ。底部内面指頭圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂・赤色粒子・雲母を少量含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/3・浅黄橙7.5YR8/6、内灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3。	体部下半外面に黒斑。
283	弥生土器	甕	SX44	②5.1+α	口縁端部沈線後刻目、他ミガキ?(磨滅)。	A:密。1mm以下の白色粒子を少し含む。B:良好。C:外明赤褐2.5YR5/8、内赤褐2.5YR4/6。	須玖Ⅱ式(新)。丹塗り。
284	弥生土器	壺	SX44-3	①6.35②2.9+α③7.7⑤体部15.25孔外径0.8～1.0孔内径0.4～0.7	体部下半斜位板ナデ。口縁部内面指頭圧痕。口縁部外面沈線(焼成後?)。口縁部下に穿孔2ヶ所。	A:やや密。1mm以下の石英・長石・雲母・赤色粒等を少し含む。B:良。C:外明黄褐10YR7/6、内灰白10YR8/1。	穿孔2ヶ所。外面全体と口縁部内面丹塗り。口縁部打ち欠き。
285	弥生土器	袋状口縁壺	SX44下層	①(10.2)②6.1+α 口外径(12.1)	口縁部外面ハケメ、ナデ。外面突帯から下ミガキ。口縁部内面ヨコナデ。内面口縁部下位シボリ痕。	A:精良。1mm以下の白色粗砂をごく僅かに含む。B:良好。C:外明赤褐5YR5/6、内灰白2.5Y8/2。	丹塗り。
286	弥生土器	袋状口縁壺	SX44下層	②16.0+α③7.0 ⑤体部(19.6)	頸部外面タテミガキ、体部上半ヨコミガキ、下半タテミガキ、底部外面ナデ、表面丹塗。頸部内面シボリ痕、指頭圧痕、ナデ。体部～底部内面ナデ一部指頭圧痕。	A:精良。B:良好。C:外明赤褐2.5YR5/6、内にぶい黄橙10YR7/3～7/4。	体部内外面下半黒斑有り。 丹塗り。
287	弥生土器	袋状口縁壺	SX44-1	②19.7+α③7.7 ⑤体部19.4	外面ヘラミガキ、内面上部板状工具によるナデアゲのちナデ、中位ハケメ。	A:やや密。1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:外明赤褐2.5YR5/6、内灰白2.5Y7/1。	丹塗り。頸部及び底部打ち欠き。
288	弥生土器	壺	SX44下層	②31.3+α③7.0 ⑤体部30.5	外面不定方向ナデ。頸部回転ナデ。底部磨滅の為不明。内面不定方向ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:外橙2.5YR7/6～5YR7/6、内橙2.5YR6/6。	
289	弥生土器	鉢	SX44下層	①18.9②10.35③6.6	外面ハケメ。内面ハケメ後ナデ。底部外面ナデ。	A:粗。1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙7.5YR8/3～8/4。	底部外面に黒斑。

表13　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
290	弥生土器	器台	SX44下層	上端部径8.9②14.35 裾部径10.3	内外面指頭圧痕。口縁部と底部ナデ。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:外灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/4、内灰黄2.5Y7/2・浅黄橙10YR8/3。	
291	弥生土器	器台	SX44 2層	②10.9+α裾部径(11.0)	外面指頭圧痕、縦方向に薄く沈線状の線、内面上部シボリ痕、内面下部指頭圧痕、裾部ナデ。	A:粗。1～4mmの白色砂礫を多く含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4・橙2.5YR6/6、内橙7.5YR6/6・灰黄褐10YR4/2。	
292	石器	台石	SX44下層	縦22.85横16.7 厚5.15重3350	扁平な礫を使用。		花崗岩(金雲母、角閃石を多く含む)。両面に使用の為、凹凸が認められる。特に片面は凹凸が顕著。
293	石器	台石	SX44下層	長52.0幅27.5 重14370	板状を呈す。		花崗岩製。
294	土師器	小皿	SX45-27	①9.1②1.2③6.4	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り。磨滅の為不明瞭。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5YR8/2。	
295	土師器	小皿	SX45-56	①9.5②1.1③7.4	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り?板状圧痕。	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外灰白2.5YR8/1、内灰白2.5YR8/2。	
296	土師器	小皿	SX45-42 SX45-37	①9.5②1.15③7.7	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り、板状圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:不良。C:内外共灰白2.5YR8/1～8/2。	
297	土師器	小皿	SX45-6	①9.5②1.35③6.2	内外面回転ナデ。口縁部内面強いナデ。底部ヘラ切り後ナデ、板状圧痕。	A:密。1mm以上の白色粗砂を含まない。B:やや不良。C:外灰白10YR8/1～にぶい黄橙10YR7/2、内灰白10YR8/1。	
298	土師器	小皿	SX45-1	①9.9②1.2③7.9	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。	A:やや粗。3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや良好。C:外灰白10YR8/1、内浅黄橙10YR8/3。	
299	土師器	小皿	SX45-14	①10.2②1.65③7.6	内外面回転ナデ?底部ヘラ切り。	A:密。1mm以上の白色粗砂を含まない。赤色粘土を含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5YR8/2。	
300	土師器	丸底杯	SX45-8	①12.1②2.4	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り?板状圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:外灰白5Y8/1～7/1、内灰黄2.5Y7/2。	
301	土師器	丸底杯	SX45-13	①14.8②3.4	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り、板状圧痕。	A:密。2mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
302	土師器	丸底杯	SX45-17 SX45-28 SX45-39	①15.3②3.3	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り、板状圧痕。	A:密。1mmの白色粗砂を含む。B:やや不良。C:外灰白10YR8/2、内灰白10YR8/1。	
303	土師器	丸底杯	SX45-11	①15.1②3.4	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り、板状圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
304	土師器	丸底杯	SX45-48	①(15.9)②3.45	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り。	A:密。1mm以下の白色粗砂をわずかに含む。B:やや不良。C:外浅黄橙7.5YR8/4～灰白10YR8/2、内灰白10YR8/1。	
305	土師器	丸底杯	SX45-4	①(15.8)②3.6	内外面回転ナデ?底部ヘラ切り。磨滅の為不明瞭。	A:密。2mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y8/1～8/2。	
306	土師器	丸底杯	SX45-7	①(15.9)②3.6	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り、板状圧痕。	A:密。1mmの白色粗砂を含む。B:やや不良。C:外浅黄橙10YR8/4、内灰白10YR8/1。	
307	土師器	丸底杯	SX45-28	①16.0②3.7	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り、板状圧痕。	A:密。2mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:外灰白10YR8/2、内浅黄橙10YR8/5。	
308	土師器	丸底杯	SX45-29	①(15.95)②2.95	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り?板状圧痕。	A:やや粗。2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:灰白10YR8/2、内灰白10YR8/1～8/2。	
309	土師器	丸底杯	SX45-15	①(16.0)②3.2	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り?板状圧痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外共灰5Y5/1。	
310	黒色土器B類	丸底杯	SX45-25	①(15.9)②4.5	内外面回転ナデ、ミガキ。底部ヘラ切り?	A:密。1mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:外オリーブ黒7.5Y3/1～黒7.5Y2/1、内オリーブ黒5Y3/1。	内外面にミガキが施してある可能性があるが、不明。
311	土師器	丸底杯	SX45-5	①16.5②3.7	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り、板状圧痕。	A:やや粗。2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内外共浅黄橙10YR8/3～灰白10YR8/1。	
312	黒色土器A類	椀	SX45-3 SX45-9	①16.4②6.0④6.9 高台高0.85	体部外面・底部回転ナデ。高台貼付。内面ミガキ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外黄灰2.5Y4/1、内黒褐2.5Y3/1～黒N1.5/。	
313	黒色土器B類	椀	SX45-26	①15.8②6.0④6.6 高台高1.2	内外面回転ナデ。高台内面ヘラ切り。高台貼付ナデ。	A:密。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:外黒7.5Y2/1、内オリーブ黒5Y3/1。	
314	黒色土器B類	椀	SX45-12	①15.1②5.75④6.4 ⑤1.05	内外面回転ナデ。高台内面ヘラ切り、回転ナデ。高台貼付。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:外灰白10YR8/2、内灰白2.5Y8/2～8/1、焼きムラ黒N2/。	口縁端部～内面焼きムラ?

表14　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑭

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
315	土製品	棒状土製品	SX45-15	長10.3+α幅4.1 厚2.9	全体ナデ調整。	A:やや粗。2～3mmの白色粗砂を多く含む。B:良。C:灰白10YR8/2～にぶい橙7.5YR7/4。	
316	弥生土器	甕	SX49北側	残存高7.5	全面磨滅の為調整不明。	A:粗。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:不良。C:外灰黄2.5Y6/2・浅黄2.5Y7/3、内浅黄2.5Y7/4。	口縁上面に黒斑。
317	弥生土器	壺	SX49セクションベルト	③(10.0)	外面ハケメ、ナデ。底部ナデ。体部内面と底部ナデ、底部～体部の立ち上がり部指頭圧痕。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外淡黄2.5Y8/3・淡赤橙2.5Y7/4、内灰白2.5Y8/2。	内面黒斑。底部中央が凹む。切り離しの際の痕跡か?
318	土師器	椀	SX50セクションベルト	④6.3	高台貼付。磨滅の為調整不明。	A:密。B:不良。C:内外共灰白2.5Y8/1。	
319	石器	石庖丁	SX50東側	縦3.85横5.0厚0.5 孔径(内孔)(0.3) 重11.9			輝緑凝灰岩製(立岩産)。穿孔１ヶ所残存。
320	土師器	椀	SX51-6 SX51-4 SX51-5 SX51-7	①(13.9)②(6.4)	内外面磨滅の為調整不明。外面体部下半ヘラ削りか。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや良好。C:外淡黄2.5Y8/3、内淡黄2.5Y8/3～8/4。	外面一部に黒斑。
321	土師器	小皿	SX51 2層	①(9.1)②(1.45)	口縁内外面ヨコナデ。内外面不定方向ナデ。	A:1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:外黄2.5Y8/6、内淡黄2.5Y8/3。	
322	土師器	小皿	SX51 2層	①9.25②1.1③6.9	口縁内外面回転ナデ。内面不定方向ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
323	土師器	丸底杯	SX51-11 SX51東側	①15.15②3.5	外面上半ナデ、下半ヘラ切り後ナデ。内面上半磨滅の為調整不明、下半不定方向ナデ。	A:密。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外共灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3。	底部に黒斑。
324	土師器	丸底杯	SX51-12 SX51-8 SX51東側	①15.6②3.4	外面磨滅の為調整不明。底部ヘラ切り。内面ナデ。	A:密。1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白2.5Y8/1・淡橙5YR8/3、内灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3・淡橙5YR8/3。	内外面一部に赤化。
325	土師器	丸底杯	SX51-9	①13.9②3.25	口縁部外面磨滅の為不明瞭、ナデか?体部下半ヘラ切り後ナデ。内面コテあてのミガキ。	A:やや密。1mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白5Y8/1、内灰白5Y8/1・黄灰2.5Y6/1。	内面には側面と底面に傷のような痕跡が認められる。皿として使用か?
326	黒色土器Ｂ類	椀	SX51 1層	④6.85高台高1.3	内面磨滅の為器表剥落。底部外面ヘラ切り。高台貼付後ナデ。	A:やや密。白色粗砂を数点含む。B:不良。C:外淡黄2.5Y8/3、内灰白2.5Y8/2。	
327	土製品	棒状土製品	SX51-1	縦12.43横3.5厚3.3	全面ナデ?	A:やや密。1～4mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3。	やや曲がっている。
328	石器	砥石?	SX51-3	縦12.2横8.35厚1.4 重260	扁平な礫。		緑色片岩。使用痕は認められない。
329	弥生土器	甕	SX53(第5面下)S-17	①(19.1)②19.2③7.8	口縁内外面磨滅の為調整不明、ナデか?外面ハケメ。底部磨滅の為調整不明。内面ナデ。	A:粗。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:外橙5YR7/8、内黄褐10YR5/6・橙2.5YR6/6。	底部穿孔か?体部外面下端に黒斑。
330	弥生土器	甕	SX53(第5面)N16	①25.2②27.6③9.1	内外面口縁部ナデ、外面タテハケメ、底部ナデ、内面磨滅しているがハケ後ナデ消し、下部指頭圧痕。	A:やや密。1～3mmの石英・長石を含む。金雲母をごく僅かに含む。砂粒を多く含む。B:良好。C:外灰黄褐10YR4/2、内暗褐10YR3/3。	外面全体に煤付着。口縁部内面に黒斑?
331	弥生土器	甕	SX53-137 SX53第5面N62 SX53第5面N71 SX53第5面下S09 SX53第5面下S10 SX53第5面下S-15 SX53第5面下S-17(中) SX53第5面下36 SX53第5面下112 SX53第5面下115 SX53第5面下116 SX53第5面下117 SX53第5面下118 SX53第5面下120 SX53第5面下121 SX53第5面下122 SX53第5面下131 SX53第5面下132 SX53第5面下138 SX53第5面下140 SX53第5面下145 SX53第5面下146 SX53第5面下150 SX53第5面下151 SX53第5面下153 SX53第5面下155 SX53最下層	①29.8②31.75③9.9	口縁部外面ナデ、口縁直下～下部までタテハケメ、下部指頭圧痕、底部ナデ、籾殻圧痕、内面ナデ、ハケメ後ナデ消し?中位斜方向ハケメ、底部指頭圧痕。	A:やや粗。1～3mmの石英・長石・砂粒を多く含む。赤色粒子をごく僅かに含む。B:良。C:外灰黄褐10YR4/2・橙2.5YR6/8、内にぶい褐7.5YR5/4・黒褐7.5YR2/2。	口縁部～体部外面煤付着。
332	弥生土器	甕	SX53-128出土 SX53(第5面)N57 SX53(第5面)N58 SX53(第5面)N42 SX53(第5面)N43 SX53(第5面)N67 SX53-129 SX53-144 SX53-130 SX53 最下層	①29.9②32.05 ③10.1⑤体部30.4	口縁部内外面ヨコナデ、外面口縁直下から下部ハケメ、底部ナデ、内面ハケメ、下部ヨコナデ、ナデ、底部ナデ、指頭圧痕。	A:粗。3mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:外にぶい橙7.5YR7/4～橙7.5YR7/6、内明黄褐10YR6/6～にぶい黄橙10YR7/4。	口縁部外面煤付着。頸部外面炭化物付着。
333	弥生土器	甕	SX53(第5面)N55 SX53図2-②	①(34.0)②13.1+α	口縁部外面ナデ、他はハケメ?(磨滅)。内面ナデ。	A:やや粗。2～4mmのやや大粒の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4～灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y7/2。	
334	弥生土器	甕	SX53(第5面)S52 SX53(第5面)N35 SX53(第5面下)S-12	①(23.4)	口縁から内面ナデ、指頭圧痕。外面ハケメ(磨滅の為単位不明)。	A:密。2mm以下の白色粗砂を含む。B:良好。C:外灰黄褐10YR5/2、内にぶい黄褐10YR4/3。	

表15　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑮

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
335	弥生土器	甕	SX53図3-31	①(27.0)②5.6+α	口縁部内外面と内面ヨコナデ。外面ハケメ。	A:密。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外浅黄橙7.5YR8/6・灰白10YR7/1、内浅黄橙10YR8/3。	口縁外面に黒斑。
336	弥生土器	甕	SX53図2-21 SX53図2-22 SX53図2-20	①(19.6)②16.6+α	口縁部内外面ヨコナデ。外面タテハケメ。内面ナデ、一部ハケメや指頭圧痕。	A:1～2mmの白色粗砂、金雲母、赤色粒子をやや多く含む。B:良好。C:外橙5YR6/7、内橙5YR6/8。	体部外面下半に黒斑。
337	弥生土器	甕	SX53図3-37	①(22.7)②9.7+α	口縁部内外面ヨコナデ。内外面磨滅のため調整不明。内面ハケメ?	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外共淡橙5YR8/3・浅黄橙10YR8/3。	
338	弥生土器	甕	SX53(第5面)S30 SX53(第5面)S2	①(26.0)	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外共橙5YR6/6。	
339	弥生土器	甕	SX53-141 SX53-123 SX53-152 SX53-154 SX53-135 SX53-147 SX53-146 SX53-128 SX53-148 SX53-149 SX53最下層 SX53図2-22	①25.25	口縁部内外面ヨコナデ。外面ハケメ。内面ハケ後指頭圧痕か?体部外面上部と下部でハケの単位が異なる。下の方が粗く、上が細かい、工具の差か?	A:やや密。1～2mmの白色粗砂をわずかに含む。B:良好。C:外灰白10YR8/1～8/2・橙2.5YR6/8、内灰白10YR8/1～8/2。	
340	弥生土器	甕	SX53(第5面)S3	①(34.0)②4.3+α	内外面共にナデ。	A:やや粗。1～3mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:外灰黄2.5Y6/2、内灰5Y6/1。	
341	弥生土器	甕	SX53図3-⑲ SX53図2-④	①(32.8)②11.35+α	口縁部内外面ヨコナデ、上端部貼付後ヨコナデ。外面ハケメ。内面磨滅の為調整不明。	A:やや密。1～2mmの白色粗砂、金雲母を多く含む。B:良好。C:外にぶい橙7.5YR7/4、内明赤褐5YR5/6。	
342	弥生土器	甕	SX53図3-22	①(39.0)②5.9+α	内外面ヨコナデ。口縁部下突帯貼付後ナデ。	A:密。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4、内灰白7.5YR8/2。	
343	弥生土器	甕	SX53図3-30 SX53(第5面)N10 SX53図3-48	①(40.0)②12.25+α	口縁部内外面と内面ナデ。口縁部下突帯ヨコナデ。外面ハケメ?(磨滅)。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y7/1～灰黄2.5Y7/2。	
344	弥生土器	甕	SX53最下層	①(42.2)②12.2+α	口縁部外面・内面磨滅の為不明、頸部外面ヨコナデ、他はハケメ。	A:やや密。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外橙7.5YR7/6、内橙7.5YR7/6・橙2.5YR6/6。	
345	弥生土器	甕	SX53-南④ SX53-図2-① SX53-図3-④	③(6.5)	全面磨滅の為調整不明。	A:やや密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:やや良好。C:内外共橙5YR6/8。	
346	弥生土器	甕	SX53(第5面)S8	②6.35+α③8.0	外面タテハケ、底部ナデ。内面ナデ、指頭圧痕?(磨滅)。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外橙5YR7/6・にぶい黄橙10YR7/4、内橙5YR6/8・灰白2.5Y8/2。	底部外面に黒斑。
347	弥生土器	甕	SX53(第5面)N26 SX53(第5面下)S4	③7.4	外面ミガキ、丹塗り(やや剥離)。底部と内面は磨滅の為調整不明。	A:精良。1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4、内橙7.5YR7/6・灰白7.5YR8/1。	
348	弥生土器	甕	SX53(第5面)S21 SX53(第5面)S30	②12.45+α③10.1	外面ハケメ。底部ナデ。内面ナデ?(磨滅)。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。赤色粒子をやや多く含む。B:良好。C:外橙2.5YR6/6、内橙5YR7/6。	表面剥落顕著。
349	弥生土器	甕	SX53-107 SX53(第5面)S36 SX53(第5面)N46 SX53(第5面)N8	②9.7+α③8.4	全面磨滅の為調整不明。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外淡赤橙2.5YR7/4～橙2.5YR7/6、内にぶい黄橙10YR6/3。	
350	弥生土器	甕	SX53(第5面)S31	①(32.6)②11.15+α	内外面上部ナデ。外面タテハケメ、内面ナデ、指頭圧痕。	A:やや粗。1～3mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/3～にぶい橙7.5YR7/4。	351と同一個体。
351	弥生土器	甕	SX53図2-⑬	①(46.0)②8.05+α	内外面ナデ、外面上部丁寧なナデ。	A:密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外共浅黄橙10YR8/3～8/4。	350と同一個体。
352	弥生土器	袋状口縁壺	SX53-北④	①(10.0)	外面ミガキ。頸部内面ヘラ工具圧痕。	A:密。2mm以下の白色粗砂、金雲母を少量含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/4、内にぶい黄橙10YR7/4、朱赤10R4/6。	内外面丹塗り。外面のミガキは磨滅により不明。内面にヘラ工具圧痕。
353	弥生土器	広口壺	SX53図3-54	①(20.1)②3.5+α	内外面磨滅のため調整不明。内面・口縁部外面丹塗り。	A:精良。B:良好。C:外橙5YR7/6、内にぶい橙5YR7/4・灰白7.5YR8/1。	全体的に丹が剥落。
354	弥生土器	広口壺	SX53(第5面)S15	①(24.9)	内外面ナデ後ミガキ?口縁上部と外面丹塗り。	A:密。2mm以下の白色粗砂を含む。金雲母を少量含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4～にぶい橙5YR6/4、内橙5YR6/6、丹赤褐2.5YR4/8。	口縁上部に黒斑。
355	弥生土器	広口壺	SX53最下層	①(26.5)②7.45+α	内外面ナデ。口縁上部から外面丹塗り。	A:密。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外浅黄橙7.5YR8/6・灰白10YR8/2、内浅黄橙10YR8/3～8/4・明赤褐2.5YR5/8。	外面丹塗り。剥落顕著。
356	弥生土器	広口壺	SX53(第5面)N49	①(31.0)②5.25+α	外面ミガキ?(磨滅)。内面ナデ。	A:密。1～3mmの白色粗砂を少量含む。B:不良。C:外橙5YR6/8、内明黄褐10YR6/8～明赤褐2.5YR5/8。	丹塗り。

表16　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑯

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
357	弥生 土器	広口壺	SX53図2-⑧	①(29.0)	磨滅の為調整不明。頸部突帯上部に丹残存。	A:やや密。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外橙5YR6/8、内橙5YR6/8・褐10YR4/4。	丹は表面全体に塗布してあったが、剥落?
358	弥生 土器	壺	SX53図2-25 SX53図2-⑲ SX53図2-24 SX53埋土 SX53(第5面下)S1 SX53(第5面下)S-16	②29.65+α③10.8 ⑤体部(35.1)	頸部外面ヨコナデ、上部ハケメ、ヨコナデ、中部ハケメ、下部磨滅の為不明、底部ナデ。内面上部ナデ一部工具痕、他は磨滅の為不明。	A:やや粗。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外丹塗り赤褐2.5YR4/6・灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/4・にぶい黄橙10YR7/4、内灰白2.5Y8/2。	丹塗り。
359	弥生 土器	瓢形壺	SX53-127	①(23.6)②39.85③11.3⑤体部30.05頸部径15.1	口縁部外面ヨコナデ、ヨコナデ後ミガキ、外面ヨコナデ、ハケメ、内面口縁部ヨコナデ、内面ハケメ。底部内外面磨滅の為不明。	A:やや粗。3mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良。C:外丹塗り赤橙10R6/8、内明黄褐10YR7/6。	丹塗り。穿孔5ヶ所。体部下半内面炭化物付着。
360	弥生 土器	瓢形壺	SX53-155 SX53-127 SX53最下層	②16.1+α⑤(31.8)	外面上半ヨコナデ、丹塗り。下半磨滅の為調整不明、ミガキ後丹塗りか?内面磨滅の為調整不明。	A:密。1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR6/4、内にぶい黄橙10YR6/4・橙2.5YR6/8。	本来は全体に丹塗りしていたものと考えられる。
361	弥生 土器	無頸 壺蓋	SX53(第5面)S53	①(17.9)②3.1	内外面ナデ。	A:やや粗。2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良。C:外橙7.5YR7/6～浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/3。	穿孔あり。
362	弥生 土器	無頸壺	SX53(第5面)N3 SX53(第5面)N69	①(14.6)②14.75 ③8.2	内外面ナデ。	A:やや粗。1～5mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外にぶい橙7.5YR6/4～明黄褐10YR6/6、内にぶい橙7.5YR7/4、黒斑黒褐10YR3/1。	口縁部穿孔。体部に黒斑。底部穿孔?
363	弥生 土器	高杯	SX53(第5面)N65	②11.4+α脚裾部径13.15	杯部内面、脚部外面磨滅の為調整不明。脚裾部1/4ミガキ、丹塗り。脚部内杯部底部、裾部1/2ナデ、上半シボリ痕。	A:密。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外橙5YR6/8、内明赤褐2.5YR5/6。	
364	弥生 土器	鉢	SX53 SX53(第5面)S53 SX53 最下層	①(20.0)②8.4+α	外面タテハケメ。口縁部から内面ナデ。	A:やや密。1mmの白色粗砂をわずかに含む。B:良好。C:内外共灰白10YR8/2・橙5YR7/6。	
365	弥生 土器	蓋	SX53-126	②4.65+α つまみ径3.6	外面上部ナデ?つまみヨコナデ、体部ミガキ、丹塗り。内面ナデ。	A:密。1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外暗赤10R3/6、内灰白10YR8/1。	
366	弥生 土器	器台	SX53-119	上端部径10.6②16.4 裾部径11.9	外面タテハケメ、斜方向ハケメ後ナデ、下部指頭圧痕、内面ナデ。	A:1～4mmの石英を多く含む。1～3mmの長石をやや多く含む。砂粒をやや多く含む。B:良。C:内外共にぶい黄橙10YR7/2～明茶褐10YR7/6。	
367	弥生 土器	器台	SX53(第5面)N19	上端部径(9.7)②13.4 裾部径(10.3)	外面指頭圧痕。上下端ナデ。内面表面剥離の為不明、上下1/4指頭圧痕。	A:粗。1～5mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4～6/4、内にぶい黄橙10YR5/4。	
368	弥生 土器	器台	SX53-131	上端部径(8.3)②12.5 裾部径8.65	外面指頭圧痕。内面シボリ痕。上下端ナデ。下端内面指頭圧痕。	A:粗。1～4mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:外橙7.5YR7/6、内黄褐10YR6/2・橙7.5YR6/6。	
369	弥生 土器	器台	SX53最下層 SX53-155	②7.6+α裾部径11.9	外面指頭圧痕。下端ナデ。内面上半シボリ痕、下半指頭圧痕。	A:粗。1～5mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y7/2・にぶい黄橙10YR7/4。	
370	弥生 土器	器台	SX53(第5面)N20 SX53(第5面)N22 SX53 図3-⑪	②11.0+α裾部径10.4	外面指頭圧痕。下端ナデ。内面シボリ痕、下1/3剥落の為調整不明。	A:やや粗。1～4mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外淡黄2.5Y8/3・明黄褐10YR6/6・橙7.5YR7/6、内にぶい黄橙10YR6/3。	
371	弥生 土器	器台	SX53(第5面)S51	②9.3+α裾部径11.1	外面指頭圧痕。下端、内面下1/3ナデ。内面シボリ痕。	A:やや粗。1～4mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外橙5YR7/6・にぶい黄橙10YR6/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	
372	弥生 土器	器台	SX53-143	②15.6+α裾部径11.35	外面指頭圧痕。内面シボリ痕、上端磨滅の為調整不明、下端1/4指頭圧痕。下端ナデ。	A:やや密。1～4mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4、内浅黄橙7.5YR8/6。	
373	弥生 土器	器台	SX53(第5面)N9	②12.0+α裾部径(10.9)	外面指頭圧痕。下端ナデ。内面シボリ痕、下1/4ナデ、指頭圧痕。	A:粗。1～5mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:外明黄褐10YR6/6、内橙5YR7/8。	
374	弥生 土器	器台	SX53(第5面)S27	②7.9+α裾部径10.8	外面指頭圧痕。底部～内面下端ナデ。内面シボリ痕。	A:やや粗。1～4mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR6/4、内にぶい黄橙10YR6/4・橙7.5YR7/6。	
375	弥生 土器	器台	SX53(第5面)S35	上端部径7.8②11.75 裾部径9.1	内外共に指頭圧痕、内面は棒状の工具痕。	A:1～4mmの石英・1～3mmの長石を多く含む。角閃石を少量含む。B:良。C:内外共橙5YR7/6。	
376	弥生 土器	器台	SX53図3-⑩ SX53図3-⑭	上端部径(10.3) ②11.85裾部径10.0	上端～外面指頭圧痕。下端ナデ。内面指頭圧痕。	A:粗。1～5mmの白色粗砂を多く含む。B:やや良好。C:外灰白2.5Y8/2、内灰黄2.5Y6/2。	
377	縄文 土器	鉢	SX53-北側 SX53北④	①(16.0)	口縁～外面ナデ。内面指頭圧痕。	A:密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共黒10YR2/1。	
378	縄文 土器	鉢	SX53-埋土 SX53北側	①(15.5)	外面丁寧なナデ。内面ナデ、指頭圧痕。	A:密。2mmの白色粗砂、角閃石を含む。B:良好。C:外黒2.5Y2/1、内黒2.5Y2/1～黄灰2.5Y5/1。	
379	石器	砥石	SX53(第5面)N2	縦10.75横6.85 厚2.75重264.9	全面使用か? 扁平な礫を使用。		安山岩?被熱?

表17　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑰

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
380	弥生土器	壺	SX54	③(6.6)	内外面ナデ。	A:やや粗。3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:外にぶい橙5YR7/4～にぶい黄橙10YR7/4、内暗青灰10BG4/1。	
381	弥生土器	甕	SX55西側	②2.5＋α	内外面ナデ。	A:やや粗。3mmのやや大粒の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。	
382	石器	スクレイパー	SX55清掃中	長5.85幅3.9 厚1.4重31.3	不定形剥片の一側縁に表裏から剥離を加え刃部を作出。		安山岩。
383	弥生土器	甕	SX56北側	②4.5＋α	内外面ナデ。体部外面ハケメ?	A:やや粗。3mmのやや大粒の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰黄2.5Y7/2、内浅黄2.5Y7/3。	
384	弥生土器	広口壺	SX56北側	②3.8＋α	磨滅の為調整不明。	A:やや粗。3mmの白色粗砂を含む。赤色粒子も少し含む。B:やや不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	
385	銅製品	不明	SX56北側	長2.9+α幅1.95+α 厚0.7			鉄のサビ?何かに接していた?内面に顕著。
386	弥生土器	甕	SX56南側	③(8.0)	内外面ナデ。	A:密。2mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:外明黄褐10YR6/6、内灰黄2.5Y6/2。	
387	石器	打製石鏃	SX61-2	長3.45幅1.95 厚0.6重1.9	表裏面とも粗い剥離。		平基式。安山岩。
388	石器	ユーズドフレイク	SX65	長3.0幅2.15 厚0.4重3.9	素材は縦長剥片。		黒曜石。両側縁に細かな刃こぼれ(使用痕)。
389	須恵器	杯身	SX67-4周辺検出面	受部径(15.2)	外面2/5回転ヘラ削り、内面1/3当て具痕、他は回転ナデ。	A:密。1mm以上の白色粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:外灰N6/、内明青灰5PB7/1。	
390	須恵器	提瓶	SX67-4	②5.2＋α	体部内外面回転ナデ。把手ナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白N8/、内灰N5/。	把手。
391	須恵器	短頸壺	SX67-3	②4.8＋α	内外面回転ナデ。	A:密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	頸部内外面降灰。
392	弥生土器	甕	SX67-1	③(10.0)	内外面ナデ。	A:やや粗。2mm以下の白色粗砂を少量。B:良好。C:外灰白2.5Y8/1～黒7.5Y2/1、内灰白2.5Y8/2。	底部穿孔。
393	須恵器	杯	SX68図2	①10.1②3.8③4.8	外面1/3切り離し後ナデ、内面1/3一定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:精良。1～3mmの砂粒を多く含む。B:良好。C:内外共灰N7/～6/。	底部の外面にヘラ記号。
394	須恵器	杯	SX68図5	①12.2②3.9③6.2	外面1/3不定方向ナデ、1/6回転ナデ、他は磨滅の為調整不明。	A:やや粗。B:不良。C:外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい橙7.5YR7/4。	
395	須恵器	杯	SX68図1	①11.9②3.3③8.5	外面1/2ヘラ切り離し後、不定方向ナデ、内面1/2不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:良。0.5～1mmの石粒を多く含む。B:良好。C:外褐灰5YR6/1～にぶい橙5YR6/4～にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい橙5YR6/4。	底部の外面にヘラ記号。底部と体部の境付近の外面に指の跡あり。外面に焼きムラあり(焼成時の設置位置によるものか?)
396	須恵器	杯身	SX68図4	①12.3②4.1③6.0	外面1/3回転ナデ、1/7回転ヘラ削り、内面1/2不定方向ナデ、他は回転ナデ。体部外面沈線１条。	A:精良。B:良好。C:外灰黄2.5Y6/2～青灰5BG6/1、内青灰5BG6/1～青灰10BG5/1。	底部の沈線は高台を接着させるためのものか?
397	須恵器	椀	SX68図3	①11.0②5.4	内面1/3不定方向ナデ、他は磨滅の為調整不明。体部外面沈線２条。	A:良。1mmの白色粗砂を含む。B:不良。C:外灰白2.5Y8/2、内灰黄2.5Y7/2。	
398	須恵器	短頸壺	SX68	①(9.6)②5.9③4.4	外面1/5ヘラ切り離し後、不定方向ナデ、2/5回転ヘラ削り、内面1/4不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:密。B:良好。C:外灰N6/、内灰N6/～暗赤灰5R3/1。	底部の内面は丸みをもって傾斜している。
399	須恵器	杯蓋	SX72	①(14.6)②1.4+α	外面1/2回転ヘラ削り、内面1/3不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:良。1～2mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:内外共明青灰10BG7/1。	つまみ貼付の痕あり。
400	須恵器	杯身	SX72	②1.6+α④(8.0)	高台内回転ヘラ削り、内面3/4不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:密。B:良好。C:内外共青灰5PB6/1。	
401	須恵器	杯身	SX72	②2.5+α④(13.5)	高台内回転ナデ、他は磨滅の為調整不明。	A:やや粗。B:不良。C:外灰白2.5Y8/1～黄灰2.5Y4/1、内灰白2.5Y8/1。	
402	須恵器	杯身	SX73-2	①(14.1)②4.3 ④(10.3)	磨滅の為調整不明。	A:やや粗。B:不良。C:外灰白2.5Y7/1～暗黄灰2.5Y5/2、内灰白2.5Y7/1。	
403	須恵器	杯身	SX73-2	②2.4+α④(12.1)	高台内ヘラ切り離し後、不定方向ナデ、高台貼付の為の回転ナデ。内面3/4不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:良。B:良。C:内外共灰白N8/。	
404	須恵器	甕	SX73-1	①(1.9)②5.2+α	内外面回転ナデ。	A:密。B:良好。C:内外共灰N6/～灰N4/。	
405	石器	スクレイパー	SX73-1	長9.2幅4.52 厚1.5重61.7	縦長剥片の両側縁に細かい剥離。		安山岩。

表18　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑱

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
406	弥生土器	甕	SX74	①(26.6)②11.8+α	磨滅の為調整不明。	A:粗。1～1.5mmの白色粗砂を多く含む。B:不良。C:外にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR4/2、内灰黄褐10YR6/2～10YR4/2。	口縁部との境の体部内面に指頭圧痕あり。
407	弥生土器	甕	SX75	②4.6+α③(6.9)	外面磨滅の為調整不明、ハケメ?内面ナデ。	A:良。B:良好。C:外灰白7.5YR8/2～黄橙7.5YR8/8、内灰白5Y7/1～灰5Y5/1。	底部との境の体部にわずかに刷目調整あり?外面に丹を塗布した可能性あり。
408	突帯文土器	甕?	SX76	②3.4+α	磨滅の為調整不明。	A:粗。B:良好。C:外オリーブ黒5Y3/1～灰5Y7/1～橙7.5YR7/6、内灰5Y5/1～オリーブ5Y5/4。	口縁端部から下がった位置に刻目突帯が付く。
409	石器	打製石鏃	SX76	長1.8幅1.63 厚0.5抉0.32重0.8	片面に大きく素材面が残る。		凹基式。安山岩。
410	突帯文土器	深鉢or甕	SX79	②5.5+α	口縁部ヨコナデのち刻目。外面ナデ。内面ヨコナデ。	A:粗。B:良好。C:外にぶい黄2.5Y6/3～黒褐2.5Y3/1、内黄褐2.5Y4/1～黒褐2.5Y3/1。	口縁端部から下がった位置に刻目突帯が付く。
411	突帯文土器	深鉢or甕	SX79	②4.0+α	外面ヨコナデ、つまみ貼付時ヨコナデ。内面ヨコナデ。	A:粗。B:良好。C:内外共黒褐2.5Y3/1。	
412	石器	剥片	SX82	長3.35幅1.1 厚0.5重1.4	縦長の不定形剥片。		安山岩。
413	須恵器	杯身	SX90	①(10.2)②2.2+α 受部径(12.6)	口縁部～内面回転ナデ。外面降灰により調整不明。	A:やや良。B:良好。C:内外共灰白N7/。	外面に降灰。受部上面に蓋の口唇部との接合痕あり。
414	弥生土器	甕	SX90	②2.2+α③11.2	磨滅の為調整不明。	A:粗。B:良好。C:外にぶい橙7.5YR7/3～橙2.5YR7/6、内明黄褐10YR7/6。	体部外面に丹がわずかに残る。
415	弥生土器	甕	SX90	②5.8+α③(11.2)	剥落部分が多いが、外面ハケメ、内面ナデ。	A:粗。B:良好。C:外淡赤橙2.5YR7/3～にぶい橙2.5YR6/3、内にぶい橙5YR7/3。	
416	石器	打製石鏃	SX91	長2.35幅2.05 厚0.7重1.9	表裏面とも粗い剥離。		平基式。黒曜石。
417	弥生土器	甕	SX92	①(32.5)②2.6+α	磨滅の為調整不明。口縁外面下半ヨコナデ。	A:粗。0.5～2mmの白色砂粒を多く含む。B:良好。C:外灰褐7.5YR6/2～にぶい橙7.5YR7/4、内明褐灰7.5YR7/2。	
418	弥生土器	袋状口縁壺	SE01下層	②4.4+α	丹塗り。丁寧なナデ。	A:密。1mm以下の白色粗砂を含む。赤色粒子・雲母を僅かに含む。B:良。C:外丹明赤褐2.5YR5/6～にぶい赤褐2.5YR4/4、浅黄橙7.5YR8/4、内にぶい橙7.5YR7/3。	丹塗り。
419	縄文土器	不明	SE01 4層	②4.9+α	外面条痕文、内面ナデ。	A:やや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良。C:外にぶい黄橙10YR6/3～7/4、内褐灰10YR4/1 。	外面に条痕文を施す。時期、形態不明。
420	木器	杭	SE01	長(25.0)	径6cmの木より削り出し。		一部未加工面残る。
421	鉄器	不明	SP35	長5.7幅1.5厚1.2			
422	土師質土器	擂鉢	SP107	②5.8+α③(14.2)	外面タテハケメ、底部調整不明。内面ナデ後スリ目。	A:やや粗。B:良好。C:内外共橙7.5YR7/6。	体部内面に擂目。体部外面にハケメ。
423	土師器	高杯	SP187	①(30.2)②5.2+α	磨滅の為調整不明。	A:粗。B:良好。C:外橙7.5YR7/6～黒7.5YR2/1、内明褐7.5YR5/6。	体部外面に黒斑。
424	土師器	高杯	SP195	①(36.6)②5.5+α	内外面ナデ。	A:精良。B:良好。C:外黄橙10YR8/6～明黄褐10YR6/6～黒10YR2/1、内明黄褐10YR6/6。	体部外面に焼きムラ。
425	土師器	甕	SP310	①(15.4)②8.8+α	外面ナデ。頸部内面、口縁ナデ、体部内面横方向ヘラ削り。	A:やや粗。B:良好。C:外黄橙10YR8/6～灰黄褐10YR5/2、内にぶい黄橙10YR7/4～灰黄褐10YR5/2。	体部内面に横方面のヘラ削り痕。
426	土師器	丸底壺?	SP353	①(12.2)②7.1+α	内外面ナデ。	A:やや粗。B:良好。C:内外共橙5YR6/8。	口縁端部の厚みが不均一(2mm～4mm)
427	土師器	器台	SP381	①(9.0)②2.3+α	磨滅の為調整不明。	A:やや粗。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4～橙5YR6/6、内橙5YR6/6～灰5Y4/1。	
428	石器	ナイフ形石器	SP393	長3.4幅1.0 厚0.45重1.2	不定形剥片の一部に細かいブランティング状の剥離。		安山岩。
429	土師器	壺	SP394	②12.6+α	磨滅の為調整不明。体部内面に接合痕あり。	A:粗。B:良好。C:外浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y5/1、内浅黄2.5Y7/3。	
430	土師器	甕?	SP394	①(14.2)②5.0+α	磨滅の為調整不明。	A:粗。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/3～黒褐10YR3/1、内灰白10YR8/2～褐灰10YR5/1。	
431	土師器	小皿	SP434	①9.4②1.2～1.7 ③4.7	底部外面ヘラ切り離し後ナデ、内面不定方向ナデ、口縁内外面ヨコナデ。口縁外面に沈線。	A:精良。B:良好。C:外浅黄2.5Y7/3～暗灰黄2.5Y4/2、内灰黄2.5Y7/2。	底部外面に煤付着。底部内面に灯明の芯の痕跡?あり。
432	土師器	小皿	SP434	①9.1②1.2～1.4 ③3.8	底部外面ヘラ切り離し後ナデ、内面不定方向ナデ、口縁内外面回転ナデ。	A:良。B:良好。C:内外共にぶい黄橙10YR7/3。	
433	土師器	丸底杯	SP434	①(14.9)②3.7	磨滅の為調整不明。	A:良。B:良好。C:外灰白10YR8/2～褐灰10YR5/1、内灰白10YR8/2。	

表19　本堂遺跡２次調査出土遺物観察表⑲

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
434	土師器	丸底杯	SP434	①(16.0)②(1.8)	磨滅の為調整不明。	A:良。B:良好。C:外淡黄2.5Y8/3～黄褐2.5Y5/3～黄褐2.5Y4/1、内淡黄2.5Y8/3。	体部外面に煤付着。
435	弥生土器	器台	SP483	②6.4+α裾部径(9.0)	内面上2/3縦方向ナデ、他はナデ。体部内外面に指頭圧痕が多数ある。	A:粗。B:良好。C:外明黄褐10YR7/6・明褐7.5YR5/6、内灰白2.5Y8/2。	
436	弥生土器	支脚	SP572	上端部径(6.4)②11.2 裾部径(14.1)	磨滅の為調整不明。	A:粗。B:良好。C:外明黄褐10YR7/6、内浅黄橙10YR8/3～黄橙10YR8/6。	
437	弥生土器	広口壺	SP608	①(21.9)②5.4+α	磨滅の為調整不明。	A:粗。B:良好。C:内外共橙7.5YR6/6。	
438	弥生土器	甕	SP637	①(26.0)②3.1+α	磨滅の為調整不明。	A:粗。B:良好。C:外にぶい黄褐10YR5/3、内にぶい黄橙10YR7/4～黒10YR2/1。	
439	弥生土器	甕	SP637	①(32.8)②1.5+α	磨滅の為調整不明。口縁端部に沈線。	A:精良。B:良好。C:内外共橙5YR6/8。	外面に丹が残る。
440	弥生土器	壺	SP637	①(12.0)②6.5+α	内外面ナデ。	A:良。B:良好。C:外暗赤褐5YR3/4、内にぶい橙5YR7/4～明赤褐5YR5/6。	外面に丹塗り、内面にも丹塗りの痕跡あり。
441	土師器	小皿	SP667	①(9.8)②1.9+α	底部外面ヘラ切り離し後ナデ、口縁部内外面、内面ナデ。	A:良。B:良好。C:内外共浅黄10YR8/3。	
442	弥生土器	甕	SP668	①(15.2)②21.7③7.0	口縁部内外面ヨコナデ、底部不定方向ナデ、体部ハケメ。内面縦方向ナデ。	A:粗。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4～黒10YR2/1、内にぶい黄橙10YR7/4。	体部外面上部に黒斑。体部外面下部に煤付着。
443	須恵器	甕	遺構検出中赤10-11・8の範囲内	②5.1+α	内外面回転ナデ、外面突帯下部に波状文。	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共灰10Y6/1～5/1。	復元口径は、37.0cm程度になると思われる。
444	須恵器	甑	SC10 2区	縦5.8横4.65厚2.9	全面指頭圧痕。	A:やや密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰オリーブ5Y6/2～5/2、内暗灰N3/。	把手。
445	瓦	平瓦	暗渠排水掘方内	長11.2+α幅10.2+α 厚1.8	凸面タタキ痕。凹面布目痕後ハケメ?	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰N6/～黄褐10YR5/6、内灰N5/。	
446	白磁	椀	L字排水路内	④(6.6)高台高1.0	削出高台。内面見込み釉の掻き取り。	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:外灰白10Y8/1～N7/、釉灰オリーブ7.5Y6/2、灰白7.5Y8/1。	太宰府分類Ⅶ類。
447	石器	打製石鏃	遺構配置図7中央部検出時	長2.55幅1.15+α 厚0.35抉0.35重0.7	表裏面にわずかに素材面が残る。		凹基式。腰岳産黒曜石。
448	石器	打製石鏃	配置図7左下検出時	長3.25幅1.9 厚0.45抉0.65重1.5	表裏面とも基部と先端部のみに剥離。		腰岳産黒曜石。
449	石器	打製石鏃	遺構配置図7中央部検出時	長2.2幅1.28 厚0.3抉0.35重0.7	表裏面とも丁寧な剥離。		凹基式。姫島産黒曜石。
450	石器	打製石鏃	配置図7北面検出時	長2.02幅1.65 厚0.48抉0.3重1.1	素材面が残る。表裏面とも粗い剥離。		凹基式。淀姫産黒曜石。
451	石器	打製石鏃	遺構配置図7中央部検出時	長2.93幅1.65 厚0.32重1.4	表裏面にわずかに素材面が残り、粗い剥離。		平基式。腰岳産黒曜石。
452	石器	石匙	配置図7北面検出時	縦3.1横6.3厚0.8 重12.9	横広剥片の表裏面に細かい剥離を施し、刃部及びつまみ部を作出。		安山岩。体部の一部を欠損。
453	石器	砥石	不明	長4.3幅1.6 厚1.25重11.7	砥面４面。極めて小型。		凝灰岩。手持ち砥。両端欠損。

表20　本堂遺跡４次調査出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ※()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
454	須恵器	杯身	SD01-4	高台高0.8 残存高1.2	内面ナデ、外面回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内外.灰10Y6/1	
455	弥生土器	壺	SD01-4	残存高5.1	体部内外面ハケメ、他はヨコナデ	A:密。3mm以下の白色粗砂を多く含むB:良好C:内.浅黄2.5Y7/3　外.にぶい黄橙10YR7/4	
456	石器	砥石	SD01-2	長さ9.4　幅7.3 厚さ3.1　重さ455.4g			扁岩製。手持ち砥石。仕上げ砥。
457	須恵器	杯身	SX01検出面	①(10.8)　②3.1 ③(7.55)　受部径(13.2)	内面1/2ナデ、外面3/4回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂をやや多く含むB:良好C:内.灰N5/　外.灰N4/～灰白7.5Y7/1	
458	石器	打製石鏃	SX07	残存長1.6　最大幅1.55　最大厚0.4　抉長0.3　重さ0.8g			安山岩製。凹基式。弥生時代のものか。
459	白磁	皿	調査区壁面清掃中	残存高0.7	回転ナデ後施釉	A:密。2mm以下の粗砂をごくわずかに含むB:良好C:内.灰白5GY8/1　外.灰白2.5GY8/1	太宰府分類白磁皿Ⅳ類。
460	石器	打製石鏃	遺構検出時	長さ2.88　残存幅1.5 最大厚0.3　抉長0.8 重さ0.7g			腰岳産黒曜石。凹基式。

表21　本堂遺跡６次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ※()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
461	弥生土器	甕	SC01N0.1	①(37.4) 残存高19.7	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:不良C:内.浅黄橙7.5YR8/6～にぶい橙7.5YR7/3　外.橙7.5YR7/6～にぶい橙7.5YR7/3	
462	弥生土器	器台	SX11ベルト中	上端部(11.0)　残存高8.7	内面中位シボリ痕、外面板ナデ、他はナデ	A:密。3mm以下の白色砂粒を多く含むB:良好C:内.褐灰10YR5/1　外.にぶい黄橙10YR6/4	
463	弥生土器	器台	SX11ベルト中 SX11N0.2	裾部径(14.2) 残存高8.0	脚端部はナデ、他は板ナデ	A:やや粗。5mm以下の白色砂粒を多く含むB:良好C:内.にぶい黄橙10YR6/4～褐灰10YR4/1　外.明黄褐10YR7/6～にぶい黄橙10YR7/3	
464	弥生土器	器台	SX11N0.1	裾部径10.9 残存高9.4	内面中位シボリ痕、他は手づくね	A:やや粗。3mm以下の白色砂粒を多く含むB:良好C:内外.にぶい黄橙10YR7/4～浅黄橙10YR8/4	
465	鉄器	鑿状鉄器	SC01床面鉄器	長さ16.3　幅0.8 厚さ0.8　重さ28.4g			
466	須恵器	杯蓋	SC04-1	①(15.9)　②2.1 つまみ径2.7 つまみ高0.6	内面3/5回転ナデ後ナデ、外面1/3回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.灰N6/～オリーブ褐2.5Y4/3　外.灰N6/	転用硯。内面に墨が付着。
467	須恵器	杯蓋	SC04-1	①(15.8)　②2.2	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:密。4mm以下の白色砂礫を少し含むB:不良C:内外.明黄褐10YR7/6～黒褐10YR3/1	生焼け。
468	須恵器	杯身	SC04-1	残存高2.1　高台径7.3 高台高0.5	底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:灰N6/～4/	
469	須恵器	杯身	SC04-1	①12.5　残存高5.2 高台径7.5 高台高0.65	底部内面1/2回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂をごくわずか含むB:良好C:内外.緑灰10GY6/1～オリーブ灰5GY6/1、暗オリーブ灰5GY3/1	歪みが著しい。
470	須恵器	杯身	SC04-1	①(13.8)　②4.5 高台径8.8　高台高0.7	底部内外面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.緑灰10GY6/1　外.灰白N7/～明オリーブ灰2.5GY7/1、暗緑灰10GY3/1	底部内面に焼き膨れ。底部外面にヘラ記号。
471	須恵器	杯身	SC04-2　SC04検出面 SC04ベルト内	①(14.2)　②5.6 高台径9.45　高台高0.6	底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂をごくわずか含むB:良好C:内.灰N6/　外.灰5Y4/1～N6/	
472	須恵器	杯身	SC04-1	①15.4　②6.15 高台径9.95　高台高0.6	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後未調整、他は回転ナデ	A:粗。5mm以下の白色砂礫を非常に多く含むB:良好C:内.青灰5BG6/1　外.暗青灰10BG3/1～青灰10BG5/1	底部外面にヘラ記号。
473	須恵器	杯身	SC04-1	①(15.0)　②6.25 高台径9.8　高台高0.7	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を含むB:良好C:内.黄灰2.5Y6/1～灰10Y5/1　外.灰10Y5/1	
474	須恵器	杯身	SC04-1	①(16.0)　②6.2 高台径(10.9) 高台高0.7	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面器表摩滅のため調整不明、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色砂粒を少し含むB:やや不良C:内.灰5Y6/1～灰オリーブ5Y6/2外.灰白5Y7/2～灰5Y6/1	
475	須恵器	皿	SC04ベルト内	①(20.8)　②2.3 ③(16.6)	底部外面回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。4mm以下の白色砂礫を少し含むB:不良C:内.にぶい褐7.5YR6/3～明褐7.5YR5/6　外.橙7.5YR7/6～6/6	
476	須恵器	短頸壺	SC04-1	①(8.1)　②5.5 ③7.2 体部最大径(9.7)	外面2/5回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。5mm以下の白色砂礫を少し含むB:良好C:内外.明緑灰7.5GY7/1～暗緑灰10GY3/1	

表22　本堂遺跡６次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ※()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
477	須恵器	長頸壺	SC04-2 SD02周辺検出時	①(12.0)　残存高4.6	回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.灰白5Y7/2～オリーブ黒5Y3/2 外.褐灰7.5YR6/1～オリーブ黒5Y3/1	
478	須恵器	把手付鉢	SC04-1 SD02周辺検出時	①(23.6) 残存高15.0　体部最大径(25.2)	内面一部回転ナデ後ヘラケズリ、把手てづくね、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂をごくわずか含むB:良好C:褐灰10YR4/1～灰黄褐10YR5/2	
479	須恵器	甕	SC04ベルト内　SC04-1 SD02周辺検出時 SD04検出面	①(46.0) 残存高10.3	回転ナデ	A:密。4mm以下の白色砂礫を少し含むB:良好C:内.オリーブ灰2.5GY6/1　外.暗緑灰7.5GY4/1～灰10Y4/1	
480	土師器	杯蓋	SC04-1	残存高2.0	回転ナデ後ヘラミガキ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内外.にぶい褐7.5YR5/4	
481	土師器	甕	SC04ベルト内	①(12.0)　残存高1.3	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:内外.橙5YR6/6～浅黄橙10YR8/4	口縁部内外面にスス付着。
482	土師器	高杯	SC04-1	脚裾部径(13.7) 残存高8.8	杯部内外面の一部ヘラミガキ、杯部・脚部の境ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内外.橙7.5YR6/6　脚部内.黒10YR2/1～褐灰10YR4/1	脚部内面にスス付着。
483	須恵器	紡錘車	SC04-2床面	径5.3　厚さ1.25 孔径0.5	側面部ヘラケズリ、他はナデ	A:精良。1mm以下の白色砂粒をごくわずか含むB:良好C:明緑灰10GY7/1～灰N6/	布目痕。
484	須恵器	杯蓋	SD01-2検出ピット中	残存高1.7　つまみ径2.7　つまみ高0.6	内面回転ナデ後ナデ、天井部外面ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.灰白10YR7/1　外.褐灰10YR4/1	
485	須恵器	蓋	SD01上層	①(23.8)　残存高2.35 受部径(26.0)	天井部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。4mm以下の白色砂礫を少し含むB:良好C:内.灰白10YR7/1　外.褐灰10YR5/1～灰黄褐10YR5/2	
486	須恵器	甕	SD01ベルト上層	残存高5.4	外面に沈線三条、その間に波状文、他は回転ナデ	A:精良。1mm以下の白色粗砂をごくわずか含むB:良好C:内.灰白5Y7/1～暗オリーブ5Y4/3　外.オリーブ灰2.5GY5/1	波状文は二段。
487	須恵器	甕	SD01-2上層	残存高3.9	頸部外面に波状文二条、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.緑灰10G5/1　外.暗青灰5BG3/1	
488	須恵器	甑	SD01-0上層	残存高7.4 裾部径(18.6)	内面ヘラケズリ、裾部内面ヨコナデ、裾部面取り、外面回転ナデ後ナデ、沈線四条	A:密。ほとんど砂粒を含まないB:良好C:内外.灰白N7/～明オリーブ灰2.5GY7/1	
489	土師器	皿	SD01下層	①(12.5)　残存高1.9	外面回転ナデが一部みられるが、ほとんどは器表摩滅のため調整不明	A:精良。3mm以下の白色砂粒を少し含むB:良好C:内外.浅黄橙10YR8/4	
490	土師器	壺	SD01-2上層　SD01一括 SD01-下層	①(11.0)　残存高9.9	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。3mm以下の石粒を多く含む。B:やや不良C:内.浅黄橙7.5YR8/4　外.にぶい黄橙10YR6/4	
491	土師質土器	鍋	SD01ベルト上層	残存高5.5	内面ハケメ、外面器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含むB:良好C:内.黒褐10YR3/1　外.浅黄橙10YR8/4～明黄褐10YR7/6	内面にスス付着。
492	土師器	脚付皿	SD01上層	残存高2.3	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:密。2mm以下の白色砂粒を少し含むB:良好C:内.灰黄褐10YR6/2　外.浅黄橙10YR8/3	
493	瓦質土器	擂鉢	SD01上層	残存高3.9	内面擂目、外面ハケメ後ナデ	A:密。2mm以下の白色砂粒を少し含むB:良好C:内.灰白10YR8/2　外.灰白10YR8/1～にぶい黄橙10YR7/3	内外面にスス付着。擂目は五条一単位。
494	青磁	椀	SD01上層	残存高2.0	外面に蓮弁文、内外面ともに施釉	A:精良。砂礫をほとんど含まないB:良好C:胎土.灰白N7/　釉.オリーブ灰2.5GY6/1～5/1	龍泉窯系。太宰府分類Ⅱ類。
495	青磁	椀	SD01ベルト上層	残存高2.1　高台径5.9 高台高0.9	底部内面に片彫草花文、底部外面はケズリ出し、内外面ともに施釉(畳付きは釉を掻き取る)	A:精良。砂礫は含まないB:良好C:胎土.灰白10YR8/1～にぶい黄橙10YR7/2　釉.灰オリーブ7.5Y5/3	龍泉窯系。太宰府分類Ⅰ類。高台内にトチン様のもの釉着。
496	須恵器	杯蓋	SX06-3	①(14.1)　②1.8 つまみ径2.0　つまみ高0.6	内面2/3回転ナデ後ナデ、外面1/2回転ヘラ切り一部その後回転ナデ、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内外.灰7.5Y6/1	天井部外面に板状圧痕。
497	須恵器	杯蓋	SX06-2	①14.75　②3.35 つまみ径2.45　つまみ高0.75	内面3/4回転ナデ後ナデ、外面1/3回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を含むB:良好C:内.灰10YR6/1～青灰5B6/1　外.灰10Y6/1～5/1	内面に杯類脚部・外面に口縁部重ね焼き痕。内面を上にして焼成する。やや焼け歪む。
498	須恵器	杯蓋	SX06-2	①(15.2)　②2.25 つまみ径2.3　つまみ高0.3	外面1/5回転ヘラ切り後ナデ?、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:暗灰N3/	内外面重ね焼き痕。
499	須恵器	杯蓋	SX06-4	①15.05　②1.95 つまみ径2.2　つまみ高0.75	内面1/2回転ナデ後ナデ、外面2/5回転ヘラ切り後回転ナデ、他は回転ナデ	A:精良。3mm以下の白色砂礫を少し含むB:やや不良C:内.明オリーブ灰2.5GY7/1、灰N5/　外.灰白N7/、灰N5/	内外面に重ね焼き痕、外面に擦痕。
500	須恵器	杯蓋	SX06-2	①(18.4)　②2.1 つまみ径2.6　つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラ切り?、つまみ回転ナデ?、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を含むB:不良C:浅黄2.5Y7/3　外.灰黄2.5Y7/2	
501	須恵器	杯蓋	SX06-2	①15.2　②1.2　つまみ径2.1　つまみ高0.6	内面3/4回転ナデ後ナデ、外面1/4回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.暗灰N3/　外.灰N4/	

表23　本堂遺跡６次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ※()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
502	須恵器	杯蓋	SX06-2 SX06-3・4間ベルト中	①(15.85)　②1.35 つまみ径2.6　つまみ高0.5	外面1/3回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:精良。2mm以下の白色砂礫をごくわずか含むB:良好C:内外.灰白N7/	
503	須恵器	杯蓋	SX06-2	①(16.0)　②1.7 つまみ径2.2　つまみ高0.7	内面2/3回転ナデ後ナデ、外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:内.灰白7.5Y7/1　外.灰10Y6/1	外面に重ね焼き痕。
504	須恵器	杯蓋	SX06-2　SX06-3	①(15.35)　②3.0 つまみ径1.8　つまみ高0.7	内面2/3回転ナデ後ナデ、外面1/5回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:粗。4mm以下の白色砂礫を多く含むB:良好C:内.灰10Y6/1　外.灰N6/　口.内.暗オリーブ灰5GY3/1	内面に重ね焼き痕。
505	須恵器	杯蓋	SX06-3	①15.4　②1.6　つまみ径1.85　つまみ高0.65	内面2/3回転ナデ後ナデ、外面2/5回転ヘラケズリ後回転ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂をやや多く含むB:やや不良C:内外.灰黄2.5Y7/2	
506	須恵器	杯身	SX06-3	①(9.9)　②4.0　高台径(6.25)　高台高0.3	体部内面と底部の境回転ナデ、底部外面ナデ、高台回転ナデ、他は器表摩滅のため調整不明	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:不良C:内.橙5YR6/8～にぶい橙7.5YR7/4 外.にぶい赤褐5YR5/4～明赤褐5YR5/6、黒褐5YR3/1～灰褐5YR4/2	体部外面に黒斑。
507	須恵器	杯身	SX06-2	①10.35　②4.8　高台径6.25　高台高0.5	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後回転ナデ?、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.灰N5/　外.暗灰N3/	
508	須恵器	杯身	SX06-4	①(12.7)　②3.7　高台径8.6　高台高0.5	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:精良。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.灰N6/　外.にぶい黄橙10YR7/2、オリーブ灰5GY5/1～暗オリーブ灰5GY3/1	
509	須恵器	杯身	SX06-2	①13.05　②3.85 高台径8.6　高台高0.4	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.灰白10Y7/1　外.灰10Y6/1	
510	須恵器	杯身	SX06-2	①13.1　②3.8　高台径8.8　高台高0.4	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を含むB:良好C:内.灰N5/　外.暗灰N3/～灰白7.5Y7/1	外面に焼きむら。
511	須恵器	杯身	SX06-3	①(13.3)　②4.25 高台径8.8　高台高0.55	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:精良。3mm以下の白色砂礫を少し含むB:やや不良C:内.灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR7/2　外.灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y5/1	底部外面に板状圧痕。
512	須恵器	杯身	SX06-3	①(13.55)　②4.05 高台径9.1　高台高0.35	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を含むB:良好C:内.灰白7.5Y7/1　外.灰白5Y7/1	やや焼け歪む。口縁と高台部に焼きむら。
513	須恵器	杯身	SX06-2	①(14.0)　②4.35 高台径(9.7)　高台高0.5	底部内面回転ナデ後ナデ、外面は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。5mm以下の白色砂礫を少し含むB:良好C:内.灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR7/2　外.灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR7/2、黒褐10YR3/1	外面に墨状のものが付着。
514	須恵器	杯身	SX06-3	①(14.4)　②3.95 高台径10.6　高台高0.7	器表摩滅のため調整不明	A:精良。2mm以下の白色粗砂をごくわずか含むB:不良C:内外.灰白2.5Y8/2	生焼け。
515	須恵器	稜椀	SX06-2	①(15.8)　②8.1　高台径(7.9)　高台高0.6	内面1/2回転ナデ後ナデ、体部外面3/5回転ヘラケズリ後回転ナデ、他は回転ナデ	A:精良。3mm以下の白色砂礫をごくわずか含むB:良好C:内.青灰5B6/1　外.暗緑灰10G3/1	体部外面に斜線状の圧痕。
516	須恵器	稜椀	SX06-2　SX06-3 SX06検出面	①(16.1)　②7.8 高台径7.8　高台高0.6	内面1/2回転ナデ後ナデ、体部外面3/5回転ヘラケズリ後回転ナデ、他は回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まないB:良好C:内.灰N4/　外.オリーブ灰2.5GY6/1～灰N4/	外面に焼きむら。
517	須恵器	杯	SX06-4	①10.45　②2.7 ③6.8	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後未調整、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内.灰N6/～灰白N7/　外.灰N6/～灰白N7/、暗緑灰7.5GY4/1	底部外面に板状圧痕。外面に重ね焼き痕。
518	須恵器	杯	SX06-3	①(13.3)　②3.45 ③9.7	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後未調整、他は回転ナデ	A:精良。2mm以下の白色粗砂をごくわずか含むB:良好C:内外.灰N6/	
519	須恵器	杯	SX06-2	①13.6　②4.2 ③9.8	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含むB:良好C:内外.灰10Y6/1～5/1	
520	須恵器	杯	SX06-2	①(13.65)　②3.5 ③(9.0)	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:内外.灰10Y6/1	
521	須恵器	皿	SX06-4	①14.2　②2.0 ③11.2	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:精良。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:内外.明オリーブ灰5GY7/1、オリーブ灰5GY5/1	内外面に重ね焼き痕。
522	須恵器	皿	SX06-2	①(15.0)　②2.1	底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:精良。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内外.灰N5/～青灰5BG5/1	
523	須恵器	皿	SX06-2	①(18.0)　②1.3 ③(14.1)	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を含むB:良好C:内外.灰10Y6/1	
524	須恵器	盤	SX06-4	①(24.2)　②4.25 高台径(18.2)　高台高0.8	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:内.にぶい黄橙10YR7/2　外.灰10Y6/1～灰白10Y7/1	
525	須恵器	鉄鉢	SX06-2	残存高5.05	内面回転ナデ後ナデ、外面回転ヘラケズリ	A:精良。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内外.灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR7/2	

表24　本堂遺跡６次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ※()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
526	須恵器	鉢	SX06-3	①(24.2)　②20.7 ③(12.5)	底部体部外面3/5回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。3mm以下の粗砂を多く含むB:良好C:内.灰白10Y7/1　外.灰10Y6/1～オリーブ黒10Y3/1	同一個体と思われる体部と底部を合成（接点はない）。
527	須恵器	短頸壺	SX06-3　SX06-2 SX06検出面	残存高11.1　体部最大径(21.0)	体部外面下半回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:精良。3mm以下の白色砂礫を少し含むB:良好C:内.明緑灰10GY7/1　外.灰白N7/～灰N4/	外面に焼きむら。
528	須恵器	短頸壺	SX06-3　SX06検出面	残存高10.0　高台径10.0　高台高1.0	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り、体部外面回転ヘラケズリ？、他は回転ナデ	A:密。1mm以上の粗砂をほとんど含まないB:良好C:内.灰N7/　外.灰N6/～5/	
529	須恵器	水瓶	SX06-3	残存高12.3　体部最大径(17.3)	体部外面板材を用いた回転ナデ、他は回転ナデ	A:精良。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:内外.灰白10YR7/1～8/2	
530	須恵器	水瓶	SX06-3	①4.9　残存高8.7	回転ナデ	A:密。1mm以下の粗砂をほとんど含まないB:良好C:内外.灰N6/～オリーブ黒10Y3/1	口縁下方内面と頸部外面に焼きむら。シボリ痕あり。
531	須恵器	把手付甕	SX06-4　SX06検出面 SX07検出面	残存高23.4　体部最大径(42.0)	体部内面同心円文当て具痕、体部外面格子目タタキ後一部ヨコナデ、把手てづくね、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色砂粒を少し含むB:良好C:内.にぶい褐7.5YR6/3　外.灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR7/4	
532	瓦	平瓦	SX06-2	残存長11.6　残存幅11.0　残存厚2.65	凹面器表摩滅のため調整不明、凸面縄目タタキ	A:粗。7mm以下の砂粒を多く含むB:やや不良C:凹凸.黄橙7.5YR8/8～7/8	凹面に模骨痕。凸面に黒斑。
533	瓦	平瓦	SX06-3	残存長15.1　残存幅8.5　残存厚2.9	凹面ナデ、凸面縄目タタキ	A:やや粗。4mm以下の石英・長石などを多く含むB:やや不良C:凹.灰N5/　凸.黒褐10YR3/1	
534	瓦	平瓦	SX06-2　SX06-2・3間ベルト	残存長(17.7)　残存幅16.2　残存厚2.3	凹面布目痕後ナデ、狭端部ナデ、凸面平行タタキ・狭端部側は平行タタキ後ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:凹.浅黄2.5Y7/3～7/4　凸.黒褐2.5Y3/1～3/2	
535	土師器	甕	SX06-4	残存高7.0	口縁内面横位のハケメ、体部内面ヘラケズリ、体部外面縦位のハケメ、他はヨコナデ	A:密。5mm以下の白色砂礫を多く含むB:良好C:内.浅黄橙10YR8/3　外.黒10YR2/1	外面黒斑。
536	土師器	壺	SX06検出面	①(8.8)　②8.5 ③(4.2)　体部最大径(8.4)	体部内面下半指頭圧痕・中位ヨコナデ、他はナデ	A:やや粗。3mm以下の白色砂礫を多く、角閃石を少し含むB:良好C:内外.にぶい黄橙10YR6/4	
537	土師器	甑	SX06-4	残存高4.6	内面はヘラケズリ、把手は手づくね	A:やや粗。3mm以下の白色砂礫を多く含むB:良好C:内外.橙5YR6/8～明褐7.5YR5/6	
538	土師器	高杯	SX06検出面	残存高10.4	脚部内面ナデ、外面器表摩滅のため調整不明	A:やや不良。4mm以下の白色砂礫を非常に多く含むB:やや不良C:内.明褐7.5YR5/6 外.明黄褐10YR6/6	脚部内面にシボリ痕・軸芯痕。
539	須恵器	紡錘車	SX06-2	径5.25　厚さ1.25 孔径0.7　重さ37.5ｇ	器表摩滅のため調整不明	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:灰白10YR8/1	
540	石器	紡錘車	SX06-3	径(5.9)　最大厚0.8 孔径(0.6)　重さ16ｇ	丁寧に研磨される		滑石製。
541	石器	円板状石器	SX06-3	重さ17.4ｇ	研磨される		滑石製。
542	鉄器	刀子	SX06検出面	残存長6.05　刃幅1.7 刃厚0.48　基幅1.0 基厚0.3　基長4.05 重さ12.0g			
543	鉄器	棒状鉄製品	SX06-3	残存長5.45　最大幅0.85　厚さ0.8　重さ8.0ｇ			
544	鉄器	棒状鉄製品	SX06-2	残存長4.7　幅0.8 厚さ0.7　重さ5.5g			
545	須恵器	杯蓋	SX07検出面	①(15.0)　②3.0 つまみ径2.0　つまみ高0.5	内面3/4回転ナデ後ナデ、外面1/3回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。1mm以下の白色砂粒を少し含むB:良好C:つまみ.青灰5B6/1　内外.緑灰5G6/1～オリーブ灰5GY6/1	
546	須恵器	皿	SX07検出面	①(16.0)　②2.7 ③(9.5)	底部内面回転ナデ後ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。2mm以下の白色粗砂を少し含むB:やや不良C:内.浅黄橙10YR8/3　外.にぶい黄2.5Y6/3～灰白2.5Y7/1	
547	須恵器	円面硯?	SX07-3	残存高5.0	ヘラケズリ	A:密。1mm以下の白色砂粒を少し含むB:良好C:暗緑灰7.5GY3/1	
548	瓦	丸瓦	SX07検出面	残存長21.4　残存幅11.7　玉縁長5.8 厚さ1.5	凹面布目痕、側面部・狭端部ヘラ切り、凸面縄目タタキ	A:密。5mm以下の白色砂粒を少し含むB:不良C:凹凸.橙7.5YR7/6	
549	弥生土器	甕	SX10	残存高4.5	口縁外面回転ナデ、他は器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。3mm以下の白色砂粒を多く含むB:やや不良C:内外.明黄褐10YR6/6～浅黄橙10YR8/4	
550	土師器	壺?	SX10	①(17.6)　残存高4.3	体部内面ハケメ、口縁外面ハケメ後ヨコナデ、他はヨコナデ	A:密。3mm以下の白色砂粒を多く含むB:やや不良C:内外.浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR6/4	

表25　本堂遺跡６次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ※()は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
551	弥生土器	壺	SX10　SX10下層	残存高4.2　③(10.9)	内面指頭圧痕、底部外面ナデ?器表摩滅のため不鮮明、外面器表摩滅のため調整不明	A:密。2mm以下の白色粗砂をやや多く含むB：不良C：内.橙７.５YR７/６～浅黄橙7.5YR8/4　外.橙5YR6/6	
552	土師器	壺	SX10	①(14.5)　残存高6.0	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。2mm以下の白色砂粒を多く含むB:やや不良C:内外.浅黄橙10YR8/4	
553	土師器	壺	SX10	残存高2.7　③4.9	内面指頭圧痕がみられるがほとんど器表摩滅のため調整不明、外面縦位のハケメ	A:密。3mm以下の白色砂礫を多く含むB:やや不良C:内外.黒褐10YR3/1、浅黄橙10YR8/3	
554	土師器	甕	SX10	残存高5.0　底径4.7	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:密。3mm以下の白色砂礫を多く含むB:やや不良C:内.灰白N7/～にぶい黄橙10YR7/2　外.褐灰10YR4/1～灰白10YR8/1～8/2	
555	土師器	高杯	SX10	残存高6.7	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。3mm以下の白色砂粒を多く含むB:やや不良C:内外.浅黄橙10YR8/4	
556	土師質土器	擂鉢	SX05-2・3間U字溝掘方内	残存高4.2	内外面とも器表摩滅のため調整不明	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良好C:内外.橙7.5YR7/6	
557	須恵器	擂鉢	SX05-2	残存高4.0	回転ナデ、口縁に施釉	A:密。1mm以下の白色粗砂をごくわずか含むB:良好C:内外.灰N5/　釉.暗褐10YR3/4	
558	陶器	擂鉢	SX05-2・3間U字溝掘方内	残存高3.3	施釉	A:精良。砂粒はほとんど含まないB:良好C:内.釉.黒褐10YR3/1　外.釉.にぶい黄橙10YR5/4	
559	陶磁器	染付椀	SX05-2	①(10.0)　残存高3.5	施釉	A:精良。砂粒をほとんど含まないB:良好C:内外.明緑灰7.5GY8/1　釉.明緑灰7.5GY7/1	
560	突帯文土器	深鉢or甕	SX14-1	残存高2.9	内面はナデ、外面は横位の板ナデ	A:粗。2mm以下の白色粗砂や金雲母を非常に多く含むB:良好C:内.浅黄橙10YR8/3　外.にぶい黄橙10YR6/4	刻目突帯文。
561	弥生土器	支脚	SP17	残存高6.9 裾部径9.5	手づくね、内外面とも器表摩滅のため調整不鮮明	A:やや粗。4mm以下の白色砂粒を多く含むB:やや不良C:内.にぶい橙7.5YR7/4　外.橙7.5YR7/6～6/6	
562	弥生土器	広口壺	調査区南側包含層	残存高3.5	頸部外面ハケメ、他はナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含むB:良C:内.橙7.5YR6/6　外.橙5YR6/8	
563	弥生土器	支脚	調査区南側包含層	上端部径(10.0) 残存高7.0	内面ナデ、外面指頭圧痕、他はナデ	A:やや粗。5mm以下の白色砂粒を多く含むB:やや不良C:内.にぶい橙7.5YR6/4　外.橙5YR6/8	
564	弥生土器	支脚	調査区南側包含層	残存高10.5 裾部径8.5	内面しぼり痕、外面指頭圧痕、裾部ナデ	A:やや粗。5mm以下の白色礫を多く含むB:やや不良C:内.橙5YR7/8　外.明赤褐5YR5/8	

表26　本堂遺跡15次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④最大径(受部径を含む)	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
565	須恵器	甕	2区　SX11埋土中	①(21.0)　残存高4.0	回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂ごく僅かに含む　B:良好　C:外.青灰色(5B5/1)、内.青灰色(5B6/1)	口頸部1/5残存。
566	弥生土器	甕棺	2区　SX11-2埋土中	残存高2.0	摩滅のため調整不明	A:やや粗。径3mm以下の白色砂礫を多少含む　B:良好　C:にぶい黄橙色(10YR7/3)	口縁部1/10残存。
567	石器	打製石鏃	2区　SX11-2埋土中	残長1.7　幅1.5 厚0.3　重0.5			腰岳産黒曜石製。先端ごく僅かに欠損。
568	須恵器	杯身	1区　SP01埋土中	①(9.6) ②3.4 ③5.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、底部内面摩滅により調整不明、他は回転ナデ	A:密。径2mm以下の白色粗砂多少含む　B:良好　C:外.灰白色(7.5Y7/1)～にぶい褐色(7.5YR6/3)、内.灰色(7.5Y6/1)	口縁部1/8、体部1/3残存。
569	須恵器	杯身	1区　SP01埋土中	①(9.7) ②（3.2） ③(5.4)	底部外面回転ヘラ削り後ナデ、他は回転ナデ	A:精良。径1mm以下の白色粗砂を多少含むB:良好　C:青灰色(5B5/1)	ヘラ記号あり。多少焼け歪む。口縁部1/4、体部1/3残存。
570	須恵器	壺蓋	1区　SD01埋土中	残存高2.5	回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂ごく僅かに含む　B:良好　C:灰色(N5/)	口縁部1/8残存。
571	須恵器	杯身	1区　SP02埋土中	①(9.4) 残存高2.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、底部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:密。径2mm以下の白色粗砂を多く含むB:良好　C:外.緑灰色(10G6/1)～黄褐色(2.5Y5/3)、内.灰色(5Y5/1)	口縁部1/8、体部1/5残存。
572	須恵器	杯蓋	1区　SX01-2埋土中 表土除去耕作土～包含層一括	①(8.0)②3.5ツマミ径1.3	天井部外面回転ヘラ削り、天井部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:精良。径1mm程の白色粗砂を少量含むB:良好　C:灰色(N5/)	ヘラ記号あり。大きく歪む。口縁部1/4、体部1/2残存。
573	須恵器	杯蓋	1区　SX01-1埋土中 1区　SX02-1埋土中 表土除去耕作土～包含層一括	①(8.4) ②2.6 ④(10.8)	天井部外面回転ヘラ切り後未調整、天井部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:密。径3mm以下の白色粗砂を多少含むB:良好　C:青灰色(5B5/1)～黄褐色(2.5Y5/4)	3/5残存。

表27　本堂遺跡15次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④最大径(受部径を含む)	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
574	須恵器	杯蓋	1区　SX01-1埋土中	①(9.7) ④(11.2)　残存高2.4	天井部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:精良。径1mm以下の白色粗砂、赤色粒子を少量含む　B:良好　C:橙色(7.5YR6/6)	1/7残存。
575	須恵器	杯蓋	1区　SX01-2埋土中	残存高1.7	天井部外面ヘラ切り後未調整、天井部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:精良。径1mm以下の白色粗砂を少量含む B:良好　C:明赤褐色(5YR5/6)～黒褐色(5YR2/1)	体部1/3残存。
576	須恵器	杯蓋	1区　SX01-1埋土中	①(13.2) ④(15.6) 残存高1.6	回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む B:良好　C:外.灰褐色(5YR4/2)～褐灰色(5YR4/1)、内.褐灰色(5YR4/1)	口縁部の1/8残存。
577	須恵器	瓶類	1区　SX01-2埋土中	①(5.2) 残存高4.5	回転ナデ	A:精良。砂粒ほとんど含まない　B:良好 C:灰色(N6/)～オリーブ黒色(7.5YR3/1)	口縁部の1/8残存。
578	須恵器	杯蓋	1区　SX02-1埋土中	①(11.6) ②2.3	天井部外面ヘラ切り後ナデ、天井部内面調整不明、他は回転ナデ	A:精良。径1mm以下の白色粗砂を僅かに含む B:良好　C:外.灰黄色(2.5Y7/2)～灰色(5Y6/1)、内.淡黄色(2.5Y8/4)～褐色(10YR4/6)	1/4残存。
579	須恵器	杯身	1区　SX02-1埋土中	①(11.2) ④(13.2) 残存高3.7	底部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂、黒色粒子僅かに含む B:良好 C:外.青灰色(5B6/)、内.灰白色(5Y7/1)	口縁部1/5残存。
580	須恵器	椀	1区　SX02-1埋土中	③(5.6) 残存高4.3	底部外面回転ヘラ削り、底部内面不定方向ナデ、体部外面中央にカキメ、他は回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を僅かに含む B:良好　C:灰色(N6/)～オリーブ褐色(2.5Y4/3)	ヘラ記号あり。 体部1/3残存。
581	須恵器	高杯	1区　SX02-2埋土中	③8.8 残存高5.4	脚部外面中央部に斜め方向のナデ、脚部内面しぼり痕、他は回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂をごく僅かに含む　B:良好　C:青灰色(5B5/)	脚部4/5残存。
582	石器	打製石鏃	1区　SX02-2埋土中	残長2.4 幅1.7 厚0.5 重1.5			安山岩製。先端僅かに欠損。
583	石器	スクレイパー	1区　SX02-1埋土中	縦4.6　横6.9　厚1.4 重33.3	一部自然面を残し、一辺に微細剥離を施す		安山岩製。完存。
584	石器	円礫	1区　SX02-1埋土中	長4.5　幅3.0　厚2.4 重39.9	加工痕跡は認められず、自然円礫の利用である。紡錘形を呈す		凝灰岩製(角閃石を多く含む)。ほぼ完存。
585	須恵器	杯身	1区　SX05-1埋土中	①(11.0) ④(13.4) 残存高4.1	底部外面調整不明、底部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少量含む　B:良好　C:外.灰白色(5Y7/1)～灰色(5Y5/1)、内.灰色(N6/)	口縁部外面に須恵器片が2片釉着。口縁部1/2、体部1/4残存。
586	弥生土器	甕	1区　SX05-1埋土中	残存高2.7	摩滅のため調整不明	A:粗。径2mm以下の白色粗砂を多く含む B:良好　C:外.黄色(2.5Y8/6)～橙色(7.5YR6/6)、内.明黄褐色(2.5Y7/6)	口縁部付近破片のみ。
587	弥生土器	甕	2区　SX13-1埋土中	残存高4.0	ナデ。体部に突帯を貼り付け刻目をつける	A:やや粗。径2mm以下の白色粗砂を多く含む　B:良好　C:外.黒褐色(10YR3/1)、内.明褐色(7.5YR5/6)	体部破片のみ残存。
588	弥生土器	甕	2区　SX13(1・2区間ベルト)埋土中	残存高3.3	摩滅のため調整不明	A:やや密。径1mmほどの白色粗砂を多少含む　B:良好　C:外.浅黄色(2.5Y7/4)、内.淡黄色(2.5Y8/4)	口縁部1/10残存。
589	石器	ノミ形石斧	2区　SX13-2埋土中	残長4.4　幅2.4 厚1.3 重22.4	磨製		緑色凝灰岩製 刃部側1/2ほど残存。
590	須恵器	杯身	表土除去耕作土～包含層一括	①(14.6) ②4.4 ③10.0	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、高台部貼り付け後ナデ、底部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:密。径2mm以下の白色粗砂を多少含む B:良好　C:外.灰黄褐色(10YR6/2)、灰褐色(7.5YR6/2)～橙色(7.5YR6/6)、内.褐灰色(7.5YR6/1)～灰褐色(7.5YR6/2)	わずかに焼け歪む 1/2残存。
591	須恵器	高杯	表土除去耕作土～包含層一括 1区 SX01-2埋土中	残存高6.3	杯部外面下部回転ヘラ削り、杯部内面不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:密。径3mm以下の白色砂礫を多少含む B:良好　C:外.灰色(N6/)～暗灰色(N3/)、灰色(5Y4/1)、内.灰白色(N7/)～暗灰色(N3/)	杯部1/6、脚部1/3残存。
592	白磁	椀	表土除去耕作土～包含層一括	残存高3.2	施釉のため調整不明	A:密。黒色粒子を多少含む　B:良好　C:灰オリーブ色(5Y6/2)	口縁部1/9残存。
593	白磁	椀	調査区壁清掃中耕作土客土	残存高2.3	体部外面回転ヘラ削り、体部内面横ナデ、他は施釉のため調整不明	A:密。黒色粒子を多少含む　B:良好　C:淡黄色(2.5Y8/3)	口縁部1/12残存。
594	白磁	椀	表土除去耕作土～包含層一括	③(6.0) 残存高2.7	底部外面および高台部ヘラ削り、底部内面一部釉欠き取り、他は施釉のため調整不明	A:密。砂粒ほとんど含まない　B:良好　C:明オリーブ灰色(2.5GY7/1)～灰黄色(2.5Y7/2)	底部1/4残存。
595	石器	打製石鏃	調査区壁清掃中耕作土客土	長2.0　残幅1.8 厚0.3　重0.9	表面先端部付近に局部磨製痕跡		腰岳産黒曜石製。基部片方欠損。
596	石器	打製石鏃	調査区壁清掃中　包含層	残長2.1　幅1.9 厚0.5 重1.5			安山岩製。先端部、基部を欠損するが、調査時のものであり、本来は完存に近かったと考えられる。

Ⅲ．まとめ

１．本堂遺跡の井戸

本堂遺跡では、今回、計５基の井戸が検出された。大野城市においては、このように井戸が複数基検出された弥生集落の調査は初めてであった。そこで福岡県内における弥生時代の井戸を集成し、研究史・地域ごとの展開・井戸を構成する諸要素・祭祀例などについて検討し、本堂遺跡の理解に努めたい。

（１）研究史

森氏は井戸祭祀について、井戸掘削時・埋井の祭祀の存在について指摘している（註１）。宇野氏は井戸を構成する諸要素・集落内における配置・井戸祭祀行為について体系的に論じた（註２）。堀氏は西日本における井戸を時期毎に検討し、井戸は青銅器生産やガラス製品生産などの手工業に係わって発達した可能性があり、時期が下れば、低地性多重環濠集落の発達とも関連することを指摘している。また初現期と中期後半以降は、その構造・掘削技術は異なっていること、その背景には初現期の井戸は朝鮮半島、福岡平野において中位段丘上に掘削される井戸は楽浪郡との関連を指摘している（註３）。

これらの研究から弥生時代の井戸への理解は進んではいるが、特に祭祀行為については進展が認められない。

（２）福岡県内の井戸

福岡県内の井戸出土例をもとに集成した。この表は県内各市町村発行の報告書を参照し、井戸と報告されているもの全てを扱った。なお、今回はそれ自体が井戸であるかどうかの検討は行わず、報告書の記載に従った。この表によると現在、福岡県内において、確認できたのは661基、50遺跡で、特に中期後半に井戸が増加することが分かる。以下に地域ごとに概観したい。ここでは一覧表中の井戸を全て取り扱い、（　）中は井戸の基数を表す。

①地域ごとの井戸の展開

（響灘～周防灘周辺）前期末に北九州市松本遺跡（９）で初見され、以後、同市高槻（２）・守恒遺跡（２）で確認される。この３遺跡の他に、弥生時代のいつに属するのか不明であるが、志井雀木遺跡（１）で、確認される。これらの集落は河川沿いに成立した集落である。

（京都平野）縄文～弥生時代の井戸がみやこ町徳永川ノ上遺跡（９）で確認される。これらは所属時期が明確ではないが、他に縄文時代に属する井戸が１基、確認されている点が注目される。また、この地域では、他に井戸を持つ集落は確認されていない。

（今宿平野）中期末～後期初頭に福岡市今宿五郎江遺跡（１）で確認される。この他に所属時期が不明であるが、青木遺跡（２）で確認される。

（早良平野）前期末～中期初頭に福岡市吉武遺跡群（２）で初見され、以後、同市有田（３）・野方久保遺跡（１）で確認される。

（福岡平野）早期に粕屋町江辻遺跡（１）、前期～中期初頭に福岡市東那珂遺跡（２）、前期後半～中期前半に志免町横枕（２）・中山遺跡（１）、中期に福津市手光於緑遺跡（１）、中期中頃以降に

福岡市井尻（18)・比恵（298)・那珂（70)・板付（22)・高畑（６)・下月隈（３)・寺島（１)・席田大谷（２)・席田青木遺跡（１)、中期後半～中期末に大野城市仲島（１)・本堂遺跡（５)、後期前半以降に春日市須玖永田（２)・須玖唐梨（16)・赤井手遺跡（１）で確認される。これらから福岡平野においては特に比恵・那珂台地、板付台地に展開した集落で井戸が発達することが分かる。

（筑紫平野）北部においては前期に属するものは認められない。中期前半～中期中頃に小郡市大板井遺跡（２)、中期前半～後期中頃に筑前町中原（５)・迫額（15)・慮木藪遺跡（７)、後期後半に筑紫野市矢倉遺跡（１)、終末に大刀洗町西森田遺跡（１）で確認されるのみである。中部の久留米市では、前期末～中期初頭に久保遺跡（22)、中期に仁王丸古墳（１)、中期後半に彼坪遺跡（１)、後期に碇（２)・道蔵（５)・良積（84)・東烏遺跡（１)、うきは市では中期初頭に仁右衛門遺跡（１）で確認される。南部は、前期中頃～中期前半に大川市下林西田遺跡（13)、前期後半～中期前半に筑後市常用日田行遺跡（１)、中期初頭～中期中頃・後期後半～終末に大川市酒見貝塚（10)、中期前半～後期初頭に柳川市磯鳥フケ遺跡（２)、後期に八女市アモメ遺跡（１)、時期不明の井戸が筑後市水田杉ノ本遺跡（１）で確認される。筑紫平野においては、筑前町東小田地区、久留米市北野町、大川市に展開した集落で井戸が発達する。

以上、県内の井戸の時期について地域ごとに概観した。これらから早期には粕屋町江辻遺跡、前期には今宿平野と筑紫平野北部を除く各地域で井戸が認められるが、これらの井戸を持つ集落は継続的に井戸を掘削しない。このことは集落の消長との関連を考える必要があろう。集落において継続的に掘削されるようになるのは中期中頃以降で、福岡市では井尻・比恵・那珂・板付・高畑遺跡、春日市では須玖永田・須玖唐梨遺跡である。また堀氏は井戸が稲作文化の導入に伴わないことも指摘されている（註３)。実際に早期から終末まで弥生時代を通じて営まれていた集落である板付遺跡では、井戸は中期後半以降にしか認められない。このことから、やはり堀氏の指摘通りであることが理解される。しかしながら板付遺跡における井戸の発達の背景に、手工業のみがあるとは考えにくい。板付遺跡では中期以降、集落が拡大しており、これも井戸の発達と関連すると考えられる。また井戸が確認されている集落数は、現在50遺跡で、調査が行われている弥生集落に対して、少ないものである。これは井戸が弥生時代を通じて発達するのではなく、井戸を必要としない集落もあったためと考えられる。井戸発生の背景には、青銅製品やガラス製品生産の他にも集落の立地や人口など、様々な要因があると考えられる。

②井戸を構成する諸要素

宇野氏によると井戸の構造には、井戸壁面の崩落を防ぐ井戸側、井戸底の浄水・集水のための礫敷・水溜、井桁・覆屋・作業場・排水溝などの地上施設、水を汲む釣瓶などがある（註２)。以下に県内出土例から、井戸を構成する諸要素を述べる。

井戸側は「井戸枠」「井筒」などの名称で報告される例もあり、２例、確認されている。縦板材を組み合わせるもの（守恒遺跡第１地点Ｅ-2：中期中頃以前)、刳り貫き丸太（有田81次ＳＥ18：中期後半以前）が確認されている。またその他に壁面を補強するものが６例あり、壁面に板を杭で固定した可能性があるもの（久保２次ＳＥ2：前期末～中期)、板材・杭・石材で保護するもの（手光於緑１号井戸：中期前半～中期後半)、壁面崩落部に木材を縦横に貼り付けるもの（板付18次

A4区第１号井戸跡：中期後半～後期初頭)、壁面に杭を打ち込むもの（比恵９次11号井戸：後期、比恵６次ＳＥ44：後期後半、比恵100次ＳＥ011：終末）などがある。

底面施設は８例、確認されている。礫敷（松本遺跡Ｉ区３号井戸：前期末～中期初頭)、大型甕を打ち割って底面に敷くもの（板付26次Ｆ-7b区２号竪穴・那珂54次２号井戸・比恵19次ＳＥ-01：中期後半、板付18次Ａ４区第１号井戸跡：中期後半～後期初頭、比恵６次ＳＥ17：中期末、比恵27次ＳＥ4：中期末～後期初頭、井尻B17次Ｂ区ＳＥ4154：後期前半）が確認されている。またその内２例は、底面に敷いた大型甕片の泥除けのためか打ち割った大型甕口縁片を壁面に沿って立てる。また、この他にも砂を底面に敷く例がある。

地上施設については以下のものが認められる。井桁は有田遺跡３次１号井戸（中期後半～後期初頭）で出土するが、この井戸に伴うかは不明である。厚手の板材の両側に方形の抉りを入れ、組み合わせるもので、抉り部分は焼いて削り込んでいる。また井戸脇に伴うピットが検出される例があり覆屋などの地上施設が考えられているが、いずれもその構造を復元できるまでには至っていない。比恵30次ＳＥ-018（中期末）は１個、比恵６次ＳＥ35（後期前半）・比恵６次ＳＥ49（後期後半）は井戸を挟んで２個、須玖永田遺跡Ｉ区２号井戸は取り囲むように３個検出されている。

釣瓶の可能性があるものは２点出土している。比恵９次３号井戸（中期後半）下層から網状のものに包まれていた痕跡がある双孔広口壺が、比恵６次ＳＥ04から口縁部下突帯の直下に細縄状のものを巻き結んだ袋状口縁壺が出土する。

これらの諸要素を持つ井戸は、県内の井戸のうち、数パーセントである。従って、その主流は素掘り井戸であることが理解される。

③井戸祭祀

井戸には祭祀の遺物が伴うものと、伴わないものがある。祭祀遺物には土器・石器・木製品・赤色顔料・獣骨・果核などがある。中でも、特に土器は認識し易く、報告事例も多い。井戸から出土する土器は、底面直上やその上方から完形や穿孔された土器（中期～後期初頭は丹塗土器）が出土することが多い。宇野氏によると祭祀土器には壺を中心とする祭祀の存在が指摘されている（註２)。祭祀土器の出土例をみると、壺を複数器種、他にも甕や鉢、器台などの器種を組み合わせるもの（例：板付25次Ｆ-5c区４号竪穴：後期前半、那珂34次ＳＥ0006：後期中頃、比恵50次Ｃ区ＳＥ319：後期後半）もあり、また完形品と破砕品を組み合わせたもの（例：板付55次Ｆ-5i区ＳＥ02：中期末、那珂９次ＳＥ-19：中期末～後期初頭）などがある。

（３）本堂遺跡の井戸

今回の調査区からは素掘りの井戸が５基検出された。ＳＸ41～ＳＸ43の３基は１ヶ所に掘削され、その時期は中期末である。ＳＥ01・ＳＸ44はそれぞれ別の個所に１基ずつ掘削される。ＳＥ01は袋状口縁壺の口縁部のみしか出土しておらず、中期後半～後期初頭のものであろう。ＳＸ44も中期末であるが、他の井戸よりは新しいと考えられる。

構造はいずれも素掘りで、ＳＸ41・42以外の断面形はほぼ円筒形を呈する。また、ＳＸ44は壁面の一部が抉れているが、本来は円筒状のものである。

井戸祭祀と考えられる土器はＳＸ44から出土している。壁面抉れ部と同レベルの底面上約0.4m

から、打ち欠かれた丹塗磨研の袋状口縁壺が２個出土した。うち１個体は口頸部を打ち欠き、その縁に小孔を穿孔する。これは井尻・板付・比恵・那珂遺跡などで出土する双孔広口壺に類する。常松氏は、双孔広口壺の分布が福岡市内に偏っていることから、「奴国の土器」と称されている（註４）。この壺は井戸からの出土率が高く、釣瓶の機能を持つ可能性も指摘されている（註５）。今回出土した双孔広口壺は他の集落出土例のように予め双孔広口壺を頭に描いて製作したのではなく、袋状口縁壺を加工して製作している点が他の例と異なり、双孔広口壺の出土例としてはその南限となる。また底面から打ち割られた花崗岩の板石が出土した。福岡市有田遺跡３次２号井戸では、井戸を埋め戻す途中で線刻が施された玄武岩質の板石が出土し、祭祀との関連が指摘されている。この他に板状の石が井戸に伴う例は認められないが、本堂遺跡の場合も、底面から出土していること、意図的に打ち割られていることなどから、祭祀との関連も考えられる。

集落における井戸の配置は集合する場合が多く、全ての集落に認められることではないが、特に多数の井戸が検出されている比恵・那珂遺跡群においては、切り合う例までも認められる。これは報告書において水脈との関連が推測されているが、藤田氏はそれも踏まえた上でムラ内部の水汲み場が設定されていたことを指摘されている（註６）。本調査区では特定の建物や住居跡に伴う井戸も認められないことから、集落における井戸のあり方は建物付属型ではなく、集落付属型と考えられる。また中期末の井戸3基が1ヶ所に掘削され、その周囲に空閑地があることからも、藤田氏の指摘のようにムラの水汲み場という認識があり、その周辺は共有空間だったのではないだろうか。

本調査地に展開した集落は弥生時代前期は溝が１条確認されるのみで、中期後半～末に集落が発展する。後期になると集落は廃絶しており、再び集落が展開するのは古墳時代になってからである。残念ながら井戸発生の背景を語れるほど遺跡の残存状況は良好でなく、十分に説明することができない。しかし、青銅製品やガラス製品の生産を示すような遺構・遺物はともに認められないことから、少なくともそれとは違う要因で井戸が発生したと考えられよう。集落の発展期に井戸も発達するという点では、先に見た板付遺跡と共通しており、人口増加が背景の１つであることが考えられる。本調査区の弥生集落は、隣接する調査区（本堂８次）にも及んでおり､その全体の中で、改めて集落像をとらえる必要があり、今後の課題としたい。（井上）

註１　森貞次郎1981「弥生時代の遺物にあらわれた信仰の形態」『神道考古学講座』第１巻　雄山閣

註２　宇野隆夫1986「３　井戸」『弥生文化の研究』７　雄山閣

註３　堀大介1999「井戸の成立とその背景」『古代学研究』146　古代學研究會

註４　常松幹雄2002「奴国の土器―双孔広口壺―」『福岡考古』第20号

註５　森貞次郎・岡崎敬1961「板付遺跡」『日本農耕文化の生成』東京堂

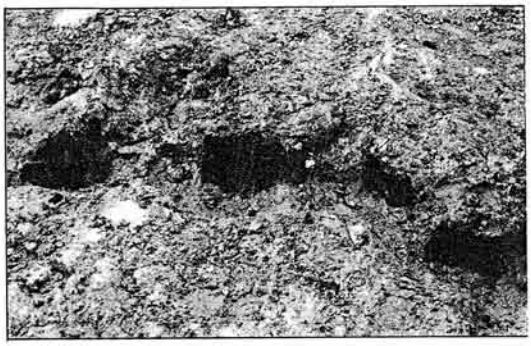
註６　藤田三郎1999「弥生時代の井戸と唐古・鍵遺跡の井戸祭祀」『みずほ』第30号

〈参考文献〉

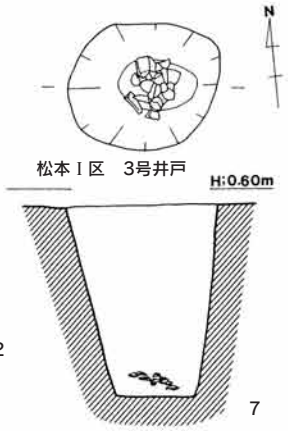
藤田三郎 1988 「弥生時代の井戸－奈良・大阪の井戸を中心に－」『同志社大学考古学シリーズⅣ　考古学と技術』 同志社大学考古学シリーズ刊行会　森浩一編

※各遺跡の報告書は、集成の出典を参照。

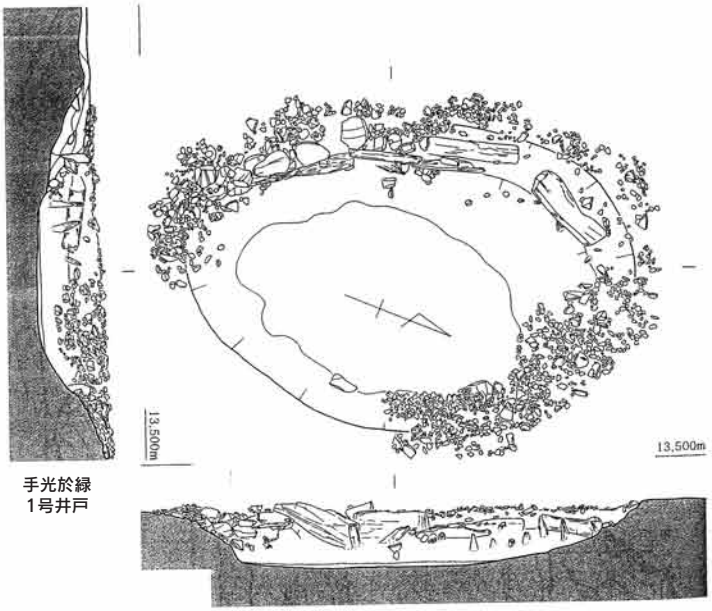
守恒　第1地点E-2　1



2

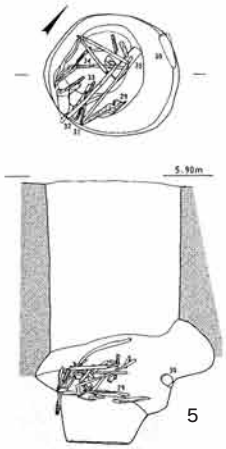


松本Ⅰ区　3号井戸　7

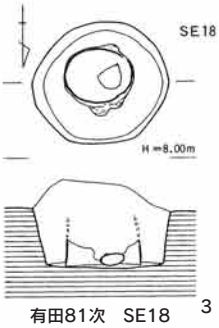


手光於縁
1号井戸　4

比恵9次　11号井戸

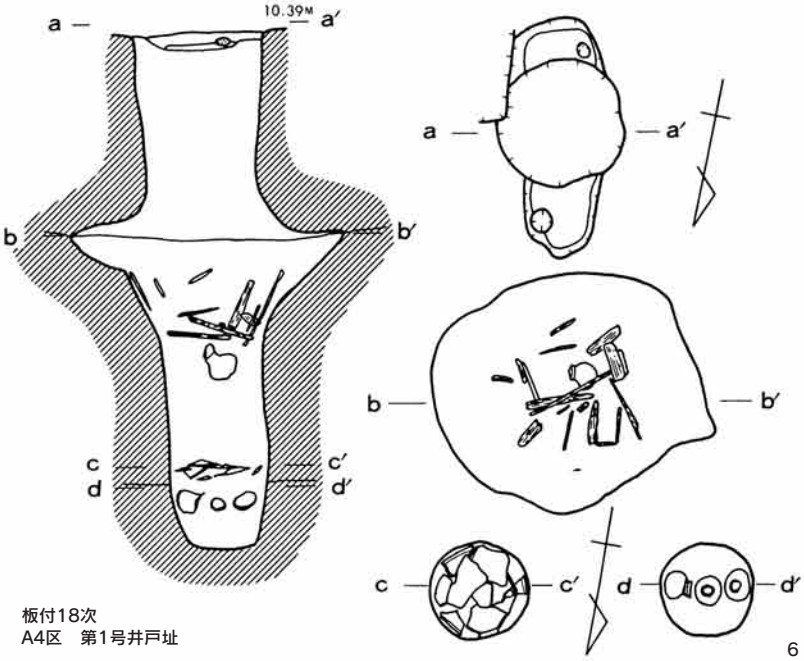


5



有田81次　SE18　3

0　3m



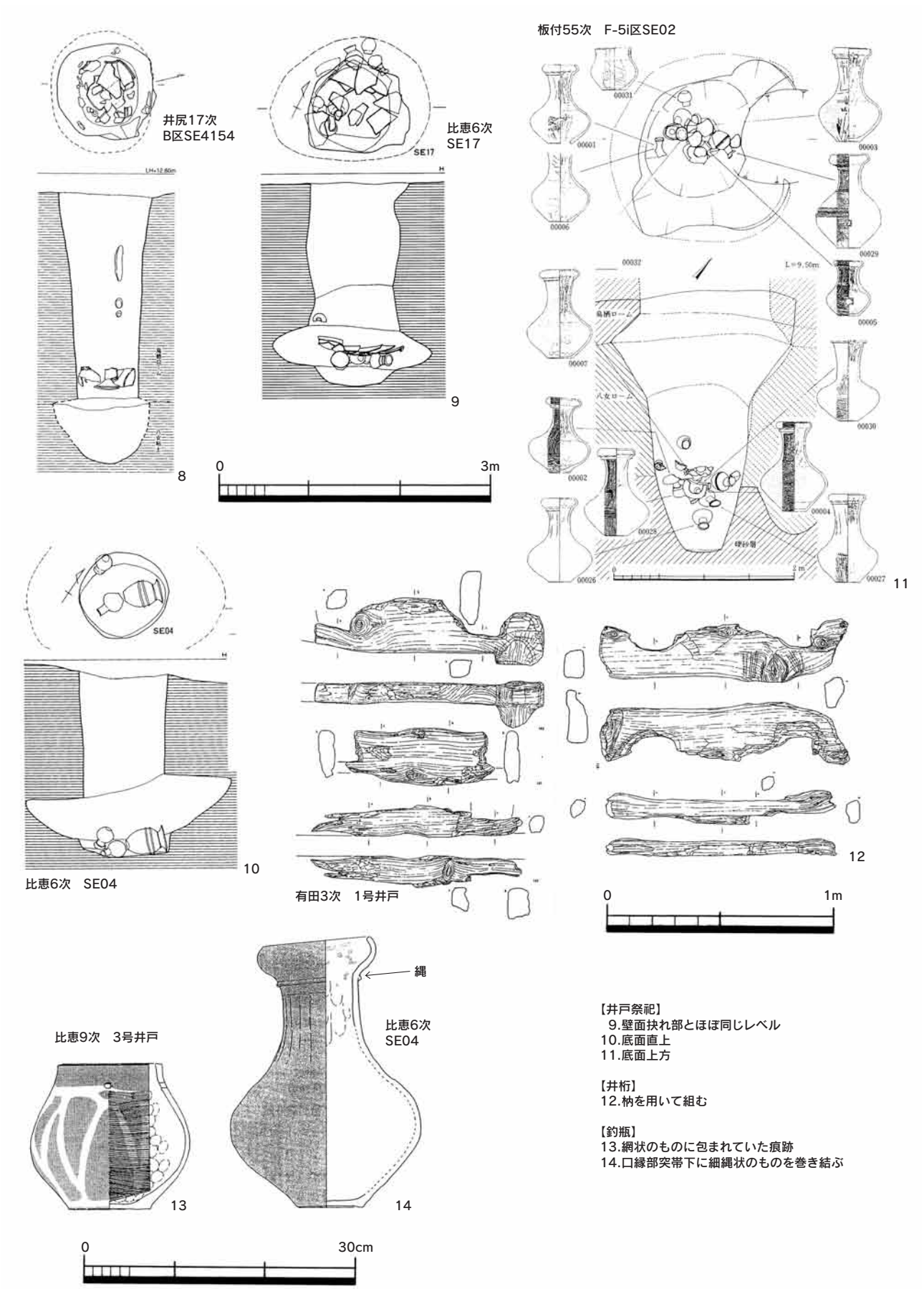
板付18次
A4区　第1号井戸址　6

【井戸側】
1.縦板材組み合わせ
2.同上(1を拡大)
3.割り抜き丸太

【壁面補強】
4.板材・杭・石材使用
5.杭を打ち込む
6.木材を縦横に貼り付ける

【底面施設】
7.礫敷
6.大型甕を打ち割って敷きつめる
8.同上
9.同上

第105図　井戸を構成する諸要素1



【井戸祭祀】
9.壁面抉れ部とほぼ同じレベル
10.底面直上
11.底面上方

【井桁】
12.枘を用いて組む

【釣瓶】
13.網状のものに包まれていた痕跡
14.口縁部突帯下に細縄状のものを巻き結ぶ

第106図　井戸を構成する諸要素２・井戸祭祀パターン

表28　福岡県内弥生時代井戸集成①

時期：早＝早期、前＝前期、前中＝前期中頃、前後＝前期後半、前末＝前期末、中＝中期、中初＝中期初頭、中前＝中期前半、中中＝中期中頃、中後＝中期後半、中末＝中期末、後＝後期、後初＝後期初頭、後前＝後期前半、後中＝後期中頃、後後＝後期後半、後末＝後期末、終＝終末期、古初＝古墳初頭、古前＝古墳前期、縄文＝縄文時代、弥生＝弥生時代

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
〈大野城市〉						
1	本堂2 SE01	上大利(丘陵)	中後～後初	①1.4×1.35②2.85	本報告	
2	本堂2 SX41	同上	中末	①1.2×1.1②1.8	本報告	
3	本堂2 SX42	同上	中末？	①1.55×1.35②1.55	本報告	
4	本堂2 SX43	同上	中末	①径1.0②2.35	本報告	
5	本堂2 SX44	同上	中末	①径1.15②2.4	本報告	底面上0.4mで丹塗壺・双孔広口壺などが出土。底面から台石が出土。
6	仲島55 4区	仲畑(低位段丘2m)	中後	①径1.3②0.75	市71	
〈北九州市〉						
7	守恒 第1地点E-1	小倉南区大字守恒(低丘陵17.5～19.5m)	中期末	①1.55×1.3②1.45	(財)50	土器廃棄。
8	守恒 第1地点E-2	同上	中中以前	不明	(財)50	井戸側(幅8～20cm、厚さ2cmの縦板材を12枚用いる)検出。
9	高槻8 E-1	八幡東区松尾町(丘陵35.5～33.75m)	中初～中前	①1.45×1.3②0.6	(財)192	
10	高槻8 E-2	同上	中初～中後	①1.1×1.0②0.9	(財)192	
11	松本Ⅰ 1号井戸	八幡西区大字永犬丸(低地0～1m)	前末～中初	①0.85×0.92②1.28	(財)216	
12	松本Ⅰ 2号井戸	同上	前末～中初	①1.05×1.2②1.48	(財)216	底面から完形の壺が出土。
13	松本Ⅰ 3号井戸	同上	前末～中初	①1.08×1.28②1.54	(財)216	底面にこぶし大の礫を敷き、小壺が出土。
14	松本Ⅰ 4号井戸	同上	前末～中初	①1.0×0.84②1.45	(財)216	底面上0.2～0.5mに土器廃棄。
15	松本Ⅰ 拡張部1号井戸	同上	前末～中初	①1.08×0.7②1.26	(財)216	
16	松本Ⅱ 1号井戸	同上	前末～中初	①1.75×不明②1.05	(財)216	廃棄土器のみ。
17	松本Ⅱ 2号井戸	同上	前末～中初	①径0.9②1.2	(財)216	底面上0.15mでミニチュア壺・磨石が出土。
18	松本Ⅲ E区49号土坑	同上	前末～中初	①0.8×0.95②1.35	(財)231	底面上0.3～0.4mで土器出土(一括埋納)。
19	松本Ⅲ E区53号土坑	同上	前末～中初	①1.05×1.4②1.65	(財)231	底面上0.3m・上層から土器出土(2回、廃棄)。
20	志井雀木 A区2号土坑	小倉南区大字志井(微高地36.5～37.5m)	弥生	①1.36×1.45②3.1以上	(財)294	
〈京都郡〉						
21	徳永川ノ上 C地区 1号井戸	みやこ町豊津大字徳永(河岸段丘29～30m)	縄文～弥生	①径1.28②1.82	県椎田道路4	
22	徳永川ノ上 C地区 2号井戸	同上	縄文～弥生	①径0.89②1.27	県椎田道路4	
23	徳永川ノ上 C地区 3号井戸	同上	縄文～弥生	①径0.81②1.6	県椎田道路4	
24	徳永川ノ上 C地区 4号井戸	同上	縄文～弥生	①径1.26②1.43	県椎田道路4	
25	徳永川ノ上 C地区 5号井戸	同上	縄文～弥生	①径1.15②1.7	県椎田道路4	
26	徳永川ノ上 C地区 6号井戸	同上	縄文～弥生	①径0.91以上②1.19以上	県椎田道路4	
27	徳永川ノ上 C地区 7号井戸	同上	縄文～弥生	①径1.13②1.24	県椎田道路4	
28	徳永川ノ上 E地区 1号井戸	同上	縄文～弥生	①径0.85②1.44	県椎田道路4	
29	徳永川ノ上 E地区 2号井戸	同上	縄文～弥生	①径0.69②1.06	県椎田道路4	
〈福津市〉						
30	手光於縁 1号井戸	手光南(沖積地11.75～14.25m)	中前～中後	①3.5×2.5②0.5	福間町17	壁面に部分的に井戸保護(板材・杭・石材)を施し、保護材と壁面の隙間には裏込め土を充填。
〈福岡市〉						
31	青木2 SE-02	西区今宿(低丘陵9.5～10m)	弥生	①1.93×1.24②2.3	市350	
32	青木2 SE-03	同上	弥生	①2.0×1.63②2.4	市350	
33	今宿五郎江2 SE-01	西区今宿(台地3～6.5m)	中末～後初	①2.0×1.5②1.2	市238	底面から壺などが出土。
34	吉武1 Ⅳ区SE-01	西区飯盛(扇状地19～20m)	中後	①2.94×2.3②1.27	市514	
35	吉武1 Ⅳ区SE-02	同上	前末～中初	①1.84×1.42②1.55	市514	
36	野方久保1 B地点SE-04	西区野方(扇状地)	後	①1.4×1.4②0.5	市348	
37	有田3 1号井戸	早良区有田(洪積台地8.75～9.75m)	中後～後初	①2.2×2.3②3.3以上	市155	未完掘。壁面崩落部・中位～下位の地山を修復(粘土・土器使用)する。上面施設の井桁材出土。壁面崩落部下から祭祀土器出土。
38	有田3 2号井戸	同上	中後～終	①径1.8②3.1	市155	底面を粘土で保護するが、湧水部分は穿孔。掘削時の祭祀(底面から丹塗袋状口縁壺2を埋置)、廃棄時の祭祀(底面上2.1～2.7mに窓明き甕・線刻板石)を行う。井戸側があったと考えられる。
39	有田81 SE18	早良区有田(洪積台地～沖積地8～10m)	中後以前	①0.96×1.08②0.7	市129	井戸側(径0.5m・厚さ約1.5cmの刳り貫き丸太)を使用。底面から径20cmの石が出土。
40	井尻B3 井戸33	南区井尻(台地9.9～14m)	終～古初	①径1.5②1.7	市411	
41	井尻B3 井戸40	同上	中中	①径1.3②2.2	市411	
42	井尻B3 井戸41	同上	後	①径1.1②1.7	市411	
43	井尻B4 SE-07	同上	後中	①0.9×0.8②1.7	市412	
44	井尻B6 井戸13	同上	中末	①1.2×1.0②3.3	市529	
45	井尻B11 SE07	同上	後中	①0.8×0.85②2.0	市644	底面上0.2mで完形の複合口縁壺が出土。
46	井尻B11 SE11	同上	中中	①1.25×1.05②1.2	市644	
47	井尻B11 SE14	同上	中中～後後	①1.2×1.0②0.6	市644	
48	井尻B17 E区SE01	同上	後中	①0.9×0.8②2.1	市787	
49	井尻B17 E区SE02	同上	後中	①0.95×0.9②3.6	市787	底面～中位でほぼ完形土器が出土。
50	井尻B17 E区SE03	同上	後中	①0.85×0.8②2.7	市787	
51	井尻B17 B区SE4154	同上	後前	①1.05×1.08②2.98	市834	底面上1m(烏栖ローム層最下部)で大型甕片(壁面は立て、中央部は敷きつめられた状態)が出土。壁面に窪みあり。
52	井尻B17 B区SE4200	同上	中後？	①0.83×0.87②1.7以上	市834	未完掘。
53	井尻B17 B区SE4202	同上	後中	①0.92×0.94②3.65	市834	底面上0.65mで完形の甕1、底面付近からほぼ完形の壺数点が出土。
54	井尻B17 B区SE4231	同上	後中	①0.85×0.87②3.5	市834	
55	井尻B17 B区SE4236	同上	後初	①1.55×1.43②2.28	市834	
56	井尻B17 B区SE4444	同上	中末～後初	①1.56×1.51②4.7	市834	壁面にわずかな窪みを底面上3.7m前後で5箇所確認。いずれも下が平らで、横棒を架けたり、足をかけるための窪みか。
57	井尻B17 B区SE4669	同上	中中～中後	①2.04×1.93②2.99	市834	
58～63	板付	博多区板付(洪積台地8～12m)	中後～中末		『日本農耕文化の生成』	日本考古学協会による調査(S26～S29)。
64	板付3 P5、S-Ⅴ区井戸址Ⅰ	同上	中末～後初	①0.9×0.95②3.6	市8	最下層から完形の袋状口縁壺2が出土。
65	板付3 P4、S-Ⅶ区井戸址Ⅱ	同上	中後	①径0.95②1.3以上	市8	未完掘。
66	板付18 A4区第1号井戸跡	同上	中後～後初	①径1.0②4.07	市39	壁面を補強する(壁面の喫水線下方に木材を縦横に貼付ける)。甕棺(体部上半部)を打ち割って敷きつめる。底面上0.5mで袋状口縁壺3出土。
67	板付20 F-5a区井戸	同上	後後	①径1.0②3.19	市49・539	
68	板付25 F-5c区1号竪穴	同上	後中	①径1.38②1.52	市49・567	祭祀を行う。ミニチュア土器出土。
69	板付25 F-5c区3号竪穴	同上	後後	①1.15×0.97②1.95	市49・567	
70	板付25 F-5c区4号竪穴	同上	後前	①1.15×1.05②1.68	市49・567	底面上0.2mで完形壺1、0.6～0.75mでほぼ完形の袋状口縁壺1・長頸壺1・双孔広口壺1・甕2が出土。
71	板付26 F-7b区2号竪穴	同上	中後	①0.84×0.74以上②1.57	市49・567	最下層に大型甕片を敷きつめる。底面上0.3mで袋状口縁壺・器台、0.6mは甑形壺・器台が出土(井戸祭祀)。
72	板付26 F-7b区3号竪穴	同上	後前	①0.83×0.8以上②1.7	市49・567	底面から土器や木片が出土(井戸祭祀)。
73	板付28 F-6b区井戸	同上	中末	①径1.1②2.2	市49・539	底面上0.2mで丹塗の袋状口縁壺2、0.5～1.1mで袋状口縁壺5・甑形壺2・壺1、1.3～1.7mで広口壺3、1.95m～上面は甕・広口壺・鉢など小型品が16出土(井戸祭祀は4回)。

表29　福岡県内弥生時代井戸集成②

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
74	板付34 E-5･6区SK-3	博多区板付(洪積台地8～12m)	後	①径1.8②1.6	市73	
75	板付55 F-5i区　SE01	同上	終	①1.35×1.05②2.6	市362	底面上0.2～0.7mで壺4、0.7mで壺1、0.85～1.3mで甕1・壺3、1.35mで壺1が出土(井戸祭祀は4回)。
76	板付55 F-5i区　SE02	同上	中末	①1.5×1.5②2.9	市362	底面上0.3mで丹塗の袋状口縁壺1、0.55～1.0mで丹塗の袋状口縁壺12(4点の完形品の上に破砕された壺が敷きつめられる)、1.2mで双孔広口壺1が出土。
77	板付55 F-5i区　SE03	同上	終	①径1.1②2.95	市362	底面から直口壺2出土。
78	板付55 F-5i区　SE04	同上	中末～後初	①0.75×0.5以上②2.05	市362	
79	板付64 SE-01	同上	中末	①0.8×0.9	市410	未完掘。
80	高畑18 Ⅱ･Ⅲ区SE039	同上	終	①2.2×1.6②2.2	市699	
81	高畑18 Ⅱ･Ⅲ区SE043	同上	後	①1.0×1.1②1.3	市699	
82	高畑18 Ⅱ･Ⅲ区SE046	同上	後後	①1.6×1.3②1.3	市699	底面から壺1が出土。
83	高畑18 Ⅱ･Ⅲ区SE070	同上	後後	①径2.2②1.2	市699	
84	高畑18 Ⅱ･Ⅲ区SE074	同上	弥生	①1.4×1.5②1.5	市699	
85	高畑18 Ⅱ･Ⅲ区SE081	同上	終	①0.8×0.9②1.5	市699	
86	下月隈B3 SE01	博多区下月隈(沖積低地8～9m)	中末～後初	①1.7×2.0②2.3	市457	
87	下月隈B3 SE02	同上	中末～後初	①1.2×1.3②2.4	市457	
88	下月隈B3 SE04	同上	中末～後初	①1.1×1.2②2.0	市457	
89	那珂8 SE02	博多区那珂(中位段丘8～9m)	中末	①1.1×1.0②1.55	市153	
90	那珂8 SE04	同上	中	①1.2×0.8②2.35	市153	
91	那珂9 SE-05	博多区竹下(中位段丘8～9m)	後初	①径1.1②2.85	市598	底面上0.3mで破砕された甕棺1・完形の小型甕2、1.9～2.35mで壺5・袋状口縁壺3・鉢1などが出土(井戸廃棄の祭祀)。
92	那珂9 SE-19	同上	中末～後初	①1.9×1.6②1.4	市598	底面から完形の袋状口縁壺1、底面付近から甕形壺の破片が多く出土(完形品1と破砕土器で構成される廃棄時の祭祀)。
93	那珂10 SE24	同上	後後	①径0.8②1.1	市291	底面から複合口縁壺1・鉢1が出土。
94	那珂10 SE26	同上	後後	①径0.5②1.1	市291	
95	那珂11 1号井戸	同上	中末～後初	①径0.8②4.5	市291	未完掘。
96	那珂13 SE228	博多区那珂(中位段丘8～9m)	終	①径1.2②2.7	市222	底面から一括投棄。
97	那珂13 SE225	同上	後後	①径1.0②3.0	市222	
98	那珂13 SE465	同上	後後	①1.4×1.1②3.2	市222	底面から無頸壺1・長頸壺1・複合口縁壺2が出土(一括投棄)。
99	那珂13 SE1080	同上	後後	①径0.8②2.0	市222	底面付近から長頸壺1・壺1が出土。
100	那珂14 SE-03	博多区竹下(中位段丘8～9m)	終	①0.6×0.8②1.4	市291	底面から土器群が出土。
101	那珂14 SE-04	同上	後後	①径0.8②1.95	市291	底面付近から壺1・長頸壺1が出土。
102	那珂14 SE-06	同上	後前	①径1.12②1.95	市291	
103	那珂14 SE-19	同上	後中	①径約1.5②3.28	市291	底面から底面上1.4mで長頸壺3、1.6～1.8mで複合口縁壺2・壺1・甕1、1.9～2.2mで壺2、2.2～2.5mで甕2・器台2、2.8m～上面で複合口縁壺1・壺1・甕1・鉢1が出土(投棄は5回)。
104	那珂20 SE03	博多区那珂(中位段丘8～9m)	後初	①径1.4②5.0	市324	廃棄時の祭祀が行われるか？
105	那珂23 SE83	博多区竹下(中位段丘8～9m)	後前	①径1.4②2.7	市290	
106	那珂24 SE01	博多区那珂(中位段丘8～9m)	中後	①径1.0②2.4	市年報4	
107	那珂30 1号井戸	同上	後後	①0.8×0.7②3.2	市292	
108	那珂32 SE1002	同上	後前	①1.05×1.1②2.4	市365	
109	那珂32 SE1003	同上	後中	①0.9×0.97②3.4	市365	底面から完形壺5が出土。
110	那珂32 SE1004	同上	中末～後初	①径約1.0②3.4	市365	底面からミニチュア土器が出土。
111	那珂32 SE1011	同上	後中	①0.9×0.95②4.2	市365	底面から完形の甕1、木製容器1が出土。
112	那珂32 SE1038	同上	後中	①0.75×0.9②3.7	市365	底面から完形の複合口縁壺・長頸壺が出土。
113	那珂33 014	同上	中後～中末	①1.14×1.05②5.1	市364	八女粘土層と青灰砂境の湧水点で祭祀。
114	那珂34 SE0003	同上	終	①2.15×2.4②2.7	市365	底面から壺が出土。
115	那珂34 SE0005	同上	終	①0.88×1.0②2.9	市365	底面から壺4・甕1、底面上0.8mで壺5・直口壺1・短頸壺1・脚付鉢2、1.6mで複合口縁壺1・甕1・器台1、2.6m～上面で複合口縁壺2・甕2が出土(投棄は4回)。
116	那珂34 SE0006	同上	後中	①1.1×1.15②3.7	市365	底面から複合口縁壺1・壺5・直口壺1・把手付木製品、底面上1.1mで壺4、同1.1mで完形を含む壺3・甕1が出土(投棄は3回)。
117	那珂34 SE0007	同上	後中	①2.35×2.45②2.9	市365	
118	那珂34 SE0008	同上	後後	①1.55×1.9②2.6	市365	底面から壺1、底面上0.8～1.3mで完形を含む壺が出土(投棄は2回)。
119	那珂34 SE0012	同上	後後	①径1.15②2.9	市365	
120	那珂34 SE0014	同上	後中	①1.6×1.7②2.2	市365	中位から完形を含む土器群が出土。
121	那珂37 C調査区SE24	同上	弥生	不明	市366	
122	那珂37 C調査区SK27	同上	中以降	不明	市366	
123	那珂41 SE-016	同上	中末～後初	①1.3×1.5②3.75	市399	底面上0.7～0.8mと1.0～1.3mで完形を含む土器群が出土。
124	那珂41 SE-029	同上	後前	①1.1×1.15②3.15	市399	底面付近から袋状口縁壺・木製容器が出土。
125	那珂46 SE-16	同上	中末～後初	①1.0×1.2②3.6	市399	
126	那珂49 SE-01	博多区東光寺(中位段丘8～9m)	終	①径0.94②3.4	市455	
127	那珂50 B区SE03	博多区竹下(中位段丘8～9m)	中末	①径0.9②1.32	市518	
128	那珂50 B区SE04	同上	中末	①径1.2②2.65	市518	底面上0.1～0.7mで土器が一括出土(井戸祭祀)。
129	那珂50 B区SE07	同上	中末	①径1.1②1.35	市518	
130	那珂50 B区SE08	同上	後中	①0.85×0.92②0.95	市518	底面から甕の下半部2が出土。
131	那珂50 B区SE10	同上	後中	①径0.87②0.92	市518	底面から小型の直口壺1が出土。
132	那珂50 B区SE11	同上	中末	①径0.92②2.75	市518	底面から土器群が出土。
133	那珂50 B区SE13	同上	中末	①1.12×1.02 ②2.44	市518	
134	那珂54 1号井戸	同上	中後	①径1.1②2.2以上	市525	未完掘。
135	那珂54 2号井戸	同上	中後	①1.2×1.3②1.35	市525	中位に甕棺上半部片を敷きつめる(埋没途中の底面か)。底面からほぼ完形の甕2が出土。
136	那珂58 SE41	博多区那珂(中位段丘8～9m)	中	①径0.5②1.0	市563	
137	那珂64 SE096	博多区竹下(中位段丘8～9m)	後中	①径1.1②1.8	市638	底面から完形の支脚1、底面上0.6mで破砕された複合口縁壺1、1.0～1.4mで器台を中心に集中出土(投棄)。
138	那珂64 SE102	同上	後前	①径0.9②1.6	市638	
139	那珂64 SE103	同上	中後	①径1.1②1.75	市638	
140	那珂64 SE107	同上	中後	①径1.0②1.9	市638	
141	那珂64 SE112	同上	終	①径0.9②1.5	市638	底面上0.05mで底部を穿孔する完形壺1が出土。
142	那珂64 SE117	同上	終	①径1.1②1.7	市638	底面上約0.15mで完形の長頸壺1・複合口縁壺2・壺体部下半1が出土(投棄)。
143	那珂64 SE119	同上	終	①径1.1②2.2	市638	底面上約0.1mで壺体部下半1・長頸壺体部1、複合口縁壺3が出土(投棄)。
144	那珂64 SE120	同上	後中	①径0.9②1.7	市638	
145	那珂69　SE1001	博多区那珂(中位段丘8～9m)	中後	①径0.9②3.0	市800	底面から石斧1、底面上約0.5mで全面に破片・完形品、下層から多量の丹塗土器などが出土。
146	那珂69　SE1002	同上	中後	①径0.8②1.8	市800	
147	那珂70 SE012	博多区竹下(中位段丘8～9m)	後中	①1.2×1.3②4.7	市673	底面上0.5mで壺1、1.2mで壺2、1.7～2.1mで袋状口縁壺1・壺2・甕4、2.1～2.25mで複合口縁壺1・袋状口縁壺2・壺1が出土(井戸祭祀は4回)。
148	那珂74 028号遺構	博多区那珂(中位段丘8～9m)	後前	①1.65×1.1②2.1	市673	底面上0.9mで完形の直口壺1が出土。

表30　福岡県内弥生時代井戸集成③

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
149	那珂74 031号遺構	博多区那珂(中位段丘8～9m)	後前	①径1.3②2.2	市673	
150	那珂75 SE021	博多区竹下(中位段丘8～9m)	中後	①1.05×1.0②1.7	市714	底面上約0.1mで丹塗袋状口縁壺2が出土(内1は穿孔)。
151	那珂79 SE04	博多区那珂(中位段丘8～9m)	後中	①1.5×1.2②3.35	市756	底面上0.2mで体部を打ち欠かれた複合口縁壺1が出土。
152	那珂79 SE05	同上	中後	①径1.25②3.9	市756	底面上0.8mから中位で土器が多量に出土(投棄)。
153	那珂86 SE001	同上	後初	①0.95×0.9②4.0	市802	底面上0.4～0.8mで袋状口縁壺1・壺2が出土(投棄)。南北両側壁面に足掛け状の抉り込みが2ヶ所。
154	那珂93 SE002	博多区東光寺(中位段丘8～9m)	中後	①0.65×0.8②1.05	市842	
155	那珂93 SE006	同上	中後	①0.8×0.9②0.85	市842	
156	那珂106 SE02	博多区那珂(中位段丘8～9m)	中中～中後	①1.6×1.6②3.7	市889	底面から広口壺3・大型甕1・鉢1・器台3・筒形器台1・蓋1、底面上2.2mで広口壺2・壺1・甕3・高杯1・鉢2、2.7～3.2mで壺4・広口壺1・窓明き甕2・甕12・鉢1・筒形器台1・支脚1などが出土(投棄は3回)。
157	那珂106 SE06	同上	終	①0.88×0.8②2.97以上	市889	未完掘。底面から壺1出土。
158	那珂106 SE17	同上	後後～終	①0.95×0.91②3.5	市889	
159	東那珂4 04号遺構	博多区東那珂(中位段丘5m前後)	前	①0.87×0.75②0.5	市637	
160	東那珂4 22号遺構	同上	中初	①1.1×0.9②0.5	市637	
161	比恵6 SE02	博多区博多駅南(中位段丘5～8m)	後前	①0.86×0.89②2.13	市94・130	足掛け用か、壁面に4ヶ所くぼみあり。
162	比恵6 SE03	同上	後前	①0.8×0.84②1.13	市94・130	
163	比恵6 SE04	同上	中末	①0.9×0.96②2.03	市94・130	底面から袋状口縁壺2(内1は口縁部下突帯の直下に細縄状のものを巻き結ぶ。釣瓶か)、瓢形壺1が出土。
164	比恵6 SE05	同上	後後	①0.6×0.6以上②0.74	市94・130	底面上0.15mで複合口縁壺1が出土。
165	比恵6 SE06	同上	後前	①1.0×1.2②1.8	市94・130	未完掘。
166	比恵6 SE07	同上	後後	①0.7×0.75②1.23	市94・130	底面付近からほぼ完形の甕1・直口壺2・注口土器1が出土。
167	比恵6 SE08	同上	後	①0.61×0.76②0.56	市94・130	
168	比恵6 SE09	同上	後後	①0.67×0.77②0.94	市94・130	底面上0.15～0.2mで破砕された壺2点が出土。
169	比恵6 SE10	同上	後前？	①1.08×1.2②2.14	市94・130	
170	比恵6 SE11	同上	中～後	①径1.12②2.78	市94・130	
171	比恵6 SE12	同上	後前	①1.09×1.16②1.0	市94・130	底面上0.1mでほぼ完形の甕1個が出土。
172	比恵6 SE13	同上	中～後	①1.0×1.02②1.37	市94・130	
173	比恵6 SE14	同上	後前	①1.0×0.7以上②2.0	市94・130	底面上0.1～0.3mで複合口縁壺・甕・椀など5個体分ほどが出土。
174	比恵6 SE15	同上	後前	①0.95×1.05②2.31	市94・130	
175	比恵6 SE16	同上	後後	①0.96×1.13②1.66	市94・130	
176	比恵6 SE17	同上	中末	①1.0×1.05②2.24	市94・130	壁面が大きく抉れる付近から多量の土器片が出土。大型甕口縁片を側壁に沿うようにめぐらせ、内面を上にして一面に敷きつめる。その下から壺などが出土。
177	比恵6 SE18	同上	後前	①0.88×0.9②1.53	市94・130	
178	比恵6 SE19	同上	後前	①径0.88②1.19	市94・130	
179	比恵6 SE20	同上	後前	①径0.9②2.13	市94・130	底面上0.1mで袋状口縁壺2・壺1・甕1・鉢1が出土。
180	比恵6 SE21	同上	後後	①1.0×0.8以上②0.7	市94・130	
181	比恵6 SE22	同上	後後	①0.85×1.0②1.79	市94・130	底面から直口壺1・短頸壺1・甕3が出土。
182	比恵6 SE23	同上	後前	①0.85×0.95②1.78	市94・130	底面から袋状口縁壺が出土。
183	比恵6 SE25	同上	中～後	①0.6×0.66②0.9	市94・130	
184	比恵6 SE26	同上	中末	①0.73×0.87②1.44	市94・130	
185	比恵6 SE27	同上	後前	①0.93×1.05②1.6	市94・130	
186	比恵6 SE28	同上	後前	①0.95×1.3②1.94	市94・130	
187	比恵6 SE29	同上	後前	①1.02×1.08②1.75	市94・130	底面から壺2が出土。
188	比恵6 SE30	同上	後前	①0.94×0.97②1.13	市94・130	底面から壺2が出土。
189	比恵6 SE31	同上	後前	①0.93×1.08②2.09	市94・130	
190	比恵6 SE32	同上	後前	①1.15×0.55以上②1.23	市94・130	
191	比恵6 SE33	同上	後前	①径1.06②2.15	市94・130	底面から壺1が出土。
192	比恵6 SE34	同上	後前	①径1.1②1.93	市94・130	
193	比恵6 SE35	同上	後前	①径0.95②1.83	市94・130	遺構面の井戸脇にピット2個(地上施設か)あり。底面から袋状口縁壺2・甕1が出土。
194	比恵6 SE36	同上	後後	①1.0×1.22②0.52	市94・130	
195	比恵6 SE37	同上	後後	①0.8×0.9②0.7	市94・130	底面上0.1mで壺3が出土。
196	比恵6 SE38	同上	後後	①0.65×0.67②0.92	市94・130	底面上0.1mで複合口縁壺1・直口壺1が出土。
197	比恵6 SE39	同上	後後	①0.9×1.1②1.0	市94・130	
198	比恵6 SE40	同上	後後	①0.9×0.7以上②0.83	市94・130	
199	比恵6 SE41	同上	後後	①0.75×0.83②1.12	市94・130	
200	比恵6 SE42	同上	後前	①0.84×0.94②1.39	市94・130	底面上0.02～0.1mで長頸壺1・壺底部1が出土。
201	比恵6 SE43	同上	後後	①0.8×1.05②1.36	市94・130	底面付近から完形の複合口縁壺1・甕1、口縁部を欠損した壺・甕がまとまって出土。
202	比恵6 SE44	同上	後後	①0.82×0.85②1.21	市94・130	底面上0.35mの北側壁に、約0.35m離れて丸杭が2本、打ち込まれていた。
203	比恵6 SE45	同上	後後	①0.77×0.9②1.06	市94・130	底面付近から完形の複合口縁壺1・短頸壺1が出土。
204	比恵6 SE47	同上	後後	①0.7②0.94	市94・130	
205	比恵6 SE48	同上	後後	①0.75×0.85②0.95	市94・130	底面から複合口縁壺1・直口壺1が出土。
206	比恵6 SE49	同上	後後	①径0.9②1.2	市94・130	遺構面に井戸を挟むようにピットが各1(地上施設か)あり。底面付近から複合口縁壺1・短頸壺1が出土。
207	比恵6 SE50	同上	後後	①径1.0②1.12	市94・130	底面から穿孔された壺胴部・底部片が出土。
208	比恵9 2号井戸	同上	弥生	①径0.8②0.4	市145	
209	比恵9 3号井戸	同上	中後	①径0.8②2.1	市145	下層から完形の双孔広口壺1(籠状のもので包まれるか)、抉れ最大部で完形の広口壺1・無頸壺1が出土。
210	比恵9 4号井戸	同上	中後	①径1.0②2.5(推定)	市145	底面上0.5mで丹塗の広口壺2・壺1・樽形甕1が出土(一括投棄)。
211	比恵9 5号井戸	同上	後前	①径1.3②2.6	市145	底面から甕1・複合口縁壺1が出土(投棄)。
212	比恵9 6号井戸	同上	後中～後後	①径1.4②2.75	市145	抉れ部と同レベルで複合口縁壺2・壺1・木製品が出土(投棄)。
213	比恵9 7号井戸	同上	弥生	①1.0×0.9②3.0	市145	
214	比恵9 8号井戸	同上	後中	①径1.0②1.82	市145	底面は烏栖ローム層。壁面に幅0.06mで縦方向に打ち下ろされる工具痕あり。底面から完形壺1が出土。
215	比恵9 9号井戸	同上	後中	①径1.2②1.9	市145	底面から破砕された複合口縁壺上半部1が出土。
216	比恵9 10号井戸	同上	後中	①径1.1②2.2	市145	底面から複合口縁壺1・壺12・短頸壺1・甕1が出土(一括投棄)。井戸さらえが行われる。
217	比恵9 11号井戸	同上	後	①径1.0②2.0	市145	抉れ部に小杭が打ち込まれていた(土留めか)。
218	比恵9 12号井戸	同上	後前	①径0.9②2.5	市145	抉れ部と同レベルで複合口縁壺1・長頸壺1・壺4・甕1が出土(一括投棄)。
219	比恵9 13号井戸	同上	後中	①径1.1②1.7	市145	底面から下半部で木製品・加工材が出土。
220	比恵9 14号井戸	同上	後中	①径1.2②3.0	市145	抉れ部と同レベルで壺1・木製品などが出土。
221	比恵9 16号井戸	同上	後中	①径1.0②1.45	市145	底面から長頸壺1・壺1・複合口縁壺1が出土(一括投棄)。
222	比恵9 19号井戸	同上	後後	①径1.0②2.7	市145	上面から1.5mは垂直に掘り、そこから東側に中心をずらしてさらに約1m程、すぼまるように掘る。
223	比恵9 20号井戸	同上	後中	①不明②2.5	市145	
224	比恵9 24号井戸	同上	後後	①径1.0②1.6	市145	段掘部分からその上0.4m間で壺2など、多くの土器が出土(投棄)。

表31　福岡県内弥生時代井戸集成④

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
225	比恵9 25号井戸	博多区博多駅南(中位段丘5～8m)	終	①径1.0②1.4	市145	
226	比恵9 26号井戸	同上	後前	①1.2×0.9②2.9	市145	抉れ部の下方から壺2・袋状口縁壺1・甕2が出土(投棄)。
227	比恵9 28号井戸	同上	中後	①0.9×0.7②1.6	市145	ほぼ底面直上から丹塗の広口壺2・甑形壺1・鉢1・ミニチュア土器1・大型甕1が出土(一括投棄)。
228	比恵9 29号井戸	同上	後後	①径0.6②2.5	市145	
229	比恵9 30号井戸	同上	後前	①1.1×1.0②2.9	市145	抉れ部と同レベルで高杯2・鉢1・甕3など完形品を含む土器群が一括出土。
230	比恵10 1号井戸	同上	後前	①径1.1②2.3	市145	底面上0.2mから抉れ部と同レベルにかけて壺7・長頸壺2・袋状口縁壺1・双孔広口壺1・鉢3・甕1・器台2などが出土(一括投棄)。
231	比恵11 SE01	同上	中～後初	①0.71×0.75②0.73	市146	
232	比恵11 SE03	同上	中～後初	①径0.9	市146	未完掘。
233	比恵11 SE05	同上	中後～中末	①径1.05②2.17	市146	
234	比恵11 SE06	同上	中後～後	①1.02×0.83②1.49	市146	
235	比恵13 SE16	同上	後	①径約0.9②1.0	市596	
236	比恵13 SE101	同上	終～古初	①1.4×1.2②2.0	市596	
237	比恵14 SE01	同上	後中～後後	①径0.95②1.84	市174	
238	比恵14 SE02	同上	終	①0.9×0.83②2.56	市174	底面上0.1mで甕1・壺1・短頸壺1、下層から木製品が出土。
239	比恵14 SE03	同上	後中～後後	①1.2×0.9②2.83	市174	底面から完形壺2・壺体部下半1が出土。
240	比恵14 SE04	同上	終	①径0.9②2.5	市174	底面上0.2mで壺2・複合口縁壺3が出土。
241	比恵14 SE06	同上	後	①0.66×0.6②0.85	市174	
242	比恵14 SE08	同上	後中	①0.84×0.74②2.35	市174	底面上0.25mで複合口縁壺2が出土(一括投棄)。
243	比恵15 SE10	同上	終～古前	①径0.8②0.8	市596	底面上0.4mに段があり、この付近で土器類が出土。
244	比恵15 SE11	同上	終～古前	①1.2×0.9②1.3	市596	底面上0.4mに段があり、この付近で完形品が出土(一括投棄)。
245	比恵17 SE-02	同上	後前～後中	①径1.18②3.95	市227	抉れ部の若干上からほぼ完形の壺3が出土(井戸祭祀か)。
246	比恵17 SE-03	同上	中後	①径1.15②4.4	市227	抉れ部と同レベルで袋状口縁壺7・無頸壺1・双孔広口壺2・壺1・甕1が出土(一括投棄)。
247	比恵18 SE-01	同上	後中	①径1.7②2.57	市227	底面上0.6mの中央付近に赤色顔料が広がっていた(最厚数mm以下)。この面より下位に完形の複合口縁壺2・壺3・鉢1などが多量出土。
248	比恵18 SE-19	同上	終	①0.93×0.82②1.48	市227	底面から壺1が出土。
249	比恵19 SE-01	同上	中後	①径1.0強②1.8	市255	底面から破砕された甕棺が敷きつめられ、その上から無頸壺が出土。
250	比恵19 SE-16	同上	中後	①0.9×0.8②1.8	市255	
251	比恵20 SE-02	同上	終	①径1.56②1.62	市227	
252	比恵20 SE-03	同上	終	①0.9×1.07②1.74	市227	底面から複合口縁壺などが出土(一括投棄)。
253	比恵20 SE-04	同上	後前？	①径0.8②2.03	市227	
254	比恵23 SE-01	同上	中	①2.0×1.65②1.32	市227	
255	比恵27 SE02	同上	後後	①1.05×0.84②0.97	市255	
256	比恵27 SE04	同上	中末～後初	①径1.1②1.9	市255	底面上0.6mでくりぬきの井戸側が出土するが、この井戸に伴うかは不明。打ちかかれた大型甕も出土しており、それと組み合わせて使用された可能性もある。最下層から袋状口縁壺1出土。
257	比恵30 SE-009	同上	中末	①0.79×0.83②1.41	市289	底面付近から破砕された甑形壺1が出土。
258	比恵30 SE-014	同上	中末	①0.8×1.0②2.0	市289	底面付近から口縁部を打ち欠いた袋状口縁壺1が出土。
259	比恵30 SE-018	同上	中末	①1.4×1.5②3.1	市289	壁面(底面上2.3m)に掘り込みが2ヶ所。遺構面に柱穴1ヶ所(地上施設か)。最下層から把手付の木製容器・抉れ最大部付近で完形の袋状口縁壺2・把手付木製品1、他に木製品多数が出土。
260	比恵40 SE23	同上	後中	①0.81×0.75②1.38	市368	埋土中位からミニチュア土器1・甕1・複合口縁壺1が出土(投棄)。
261	比恵40 SE53	同上	終以降	①0.63×0.75②0.78	市368	他の井戸群と比べ底面が浅く、規模も小さい。
262	比恵40 SE111	同上	後中～後後	①1.0×0.98②1.69	市368	底面から壺1・複合口縁壺1・器台1が出土(投棄)。
263	比恵40 SE112	同上	後後	①0.97×0.95②1.3	市368	下層から甕1が出土。
264	比恵40 SE113	同上	後前	①1.06×1.05②1.1	市368	
265	比恵40 SE118	同上	後中～後後	①1.2×1.16②1.47	市368	
266	比恵40 SE120	同上	終以降	①0.9×0.81②1.3	市368	
267	比恵41 SE40	同上	中末	①0.95×1.0②1.3	市401	底面付近から完形の丹塗長頸壺1・木製品・木材が出土。
268	比恵42 SE15	同上	後中	①1.22×1.03②2.1	市368	最下層から長頸壺2・甕2が出土(一括投棄)。
269	比恵42 SE16	同上	後中～後後	①1.07×0.98②1.84	市368	最下層からほぼ完形の長頸壺1・複合口縁壺2が出土(投棄)。
270	比恵42 SE30	同上	後後	①1.23×1.15②2.72	市368	
271	比恵42 SE47	同上	中末～後初	①1.0×1.94②2.52	市368	最下層から大型甕片・甕1、丹塗の袋状口縁壺2・壺1・双孔広口壺1が一括出土。
272	比恵42 SE74	同上	後中～後後	①1.35×1.31②2.73	市368	
273	比恵42 SE123	同上	後初～終	①0.9×0.89②2.08	市368	
274	比恵42 SE162	同上	後中	①1.11×1.23②2.4	市368	底面から甕1・壺1、底面上0.45m付近から甕・壺が出土。
275	比恵42 SE168	同上	後中～後後？	①1.09×0.9②2.21	市368	未完掘。
276	比恵42 SE202	同上	中末～後前	①0.81×0.79②1.37	市368	
277	比恵42 SE230	同上	後後	①1.5×1.14②2.26	市368	中層と下層の境に一括投棄。
278	比恵42 SE260	同上	終	①1.75×1.63②1.34	市368	
279	比恵42 SE315	同上	後前～後中	①1.48×1.36②2.16	市368	
280	比恵42 SE378	同上	後後～終	①0.97×0.86②1.52	市368	
281	比恵42 SE448	同上	後後～終	①1.07×0.88②2.12	市368	
282	比恵42 SE449	同上	終	①径0.83②1.66	市368	底面上0.2mで壺1が出土。
283	比恵42 SE489	同上	後前～後中	①1.19×1.17②3.12	市368	
284	比恵42 SE500	同上	後後～終	①0.93×0.83②2.23	市368	最下層から複合口縁壺3・壺3・鉢1・器台脚部1が出土(投棄)。
285	比恵42 SE506	同上	終～古前	①1.8×1.16②0.8	市368	板材or刳り貫き材の井戸側(長径0.88×短径0.5m)出土。
286	比恵42 SE625	同上	後後？	①1.1×1.07②2.01	市368	
287	比恵42 SE651	同上	終～古前？	①1.17×0.95②1.27	市368	
289	比恵43 Ⅰ区SE72	同上	後前	①0.89×0.76②2.75	市453	底面上0.1mでミニチュアの複合口縁壺1が出土。
288	比恵43 Ⅰ区SE68	同上	後後～終	①1.35×1.27②1.7	市453	底面上0.15mで無頸壺1が出土。
290	比恵43 Ⅰ区SE74	同上	後中	①1.12×1.21②2.95	市453	底面上0.4～0.9mで完形の複合口縁壺2・壺1・無頸壺1が出土。
291	比恵43 Ⅰ区SE76	同上	後後	①0.82×0.85②2.85	市453	底面上0.4mで完形壺1と、体部片が出土。
292	比恵43 Ⅰ区SE80	同上	後	①0.89×0.83②2.24	市453	
293	比恵43 Ⅰ区SE81	同上	後後	①1.02×0.97②3.54	市453	底面上0.5mで完形壺1が出土。
294	比恵43 Ⅰ区SE86	同上	後後	①0.85×0.95②3.22	市453	底面から複合口縁壺1・壺3が出土。
295	比恵43 Ⅰ区SE87	同上	後後～終	①1.19×1.07②1.8	市453	
296	比恵43 Ⅰ区SE89	同上	後後～終	①0.9×0.85②2.26	市453	底面上0.4mで壺1が出土。
297	比恵43 Ⅰ区SE104	同上	後	①1.03×1.1②3.12	市453	
298	比恵43 Ⅰ区SE105	同上	中後	①0.8×0.86②1.82	市453	
299	比恵43 Ⅱ区SE01	同上	後中	①1.0×1.2②1.75	市453	底面上0.35mで複合口縁壺1が出土。
300	比恵43 Ⅱ区SE02	同上	後中	①径0.84②1.32	市453	
301	比恵44 SE134	同上	後前	①1.0×0.95②1.24	市368	
302	比恵46 SE-04	同上	後	①1.29×0.93②0.42	市403	
303	比恵46 SE-05	同上	後	①1.35×1.32②0.54	市403	
304	比恵48 SE09	同上	後後～終	①1.03×1.02②0.93	市368	
305	比恵48 SE10	同上	終	①0.95×0.86②1.18	市368	

表32　福岡県内弥生時代井戸集成⑤

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
306	比恵48 SE20	博多区博多駅南(中位段丘5～8m)	中～後後？	①0.8×0.73②0.9	市368	未完掘。
307	比恵48 SE103	同上	後後	①0.77×0.74②0.78	市368	底面から口頸部を打ち欠いた壺が1点出土。
308	比恵48 SE105	同上	後後～終	①0.86×0.69②1.68	市368	
309	比恵48 SE116	同上	終	①0.99×0.98②1.95	市368	最下層から壺や甕が出土(投棄)。
310	比恵48 SE206	同上	終	①1.03×1.0②0.93	市368	
311	比恵48 SE231	同上	終	①0.97×0.94②1.6	市368	
312	比恵48 SE232	同上	後中	①0.8×0.78②0.88	市368	
313	比恵48 SE233	同上	終	①0.76×0.64②1.09	市368	
314	比恵48 SE236	同上	後後	①1.37×1.33②2.1	市368	
315	比恵48 SE244	同上	終	①1.3×1.21②1.76	市368	
316	比恵48 SE245	同上	後後～終	①1.08×0.88②1.73	市368	
317	比恵48 SE252	同上	後中～後後	①1.46×1.41②2.76	市368	
318	比恵48 SE253	同上	後後	①1.15×1.12②2.38	市368	
319	比恵48 SE254	同上	後後	①1.58×1.18②1.61	市368	最下層から完形壺がまとまって出土。
320	比恵48 SE255	同上	終	①0.83×0.8②1.02	市368	
321	比恵48 SE263	同上	終	①0.95×0.88②0.88	市368	最下層から完形壺1が出土。
322	比恵48 SE264	同上	後後～終	①1.43×1.33②0.84	市368	
323	比恵48 SE269	同上	後後～終	①1.07×0.99②1.01	市368	
324	比恵48 SE279	同上	終～古前	①1.18×1.03②0.83	市368	
325	比恵48 SE299	同上	後～古前	①1.67×1.26②1.43	市368	中位から上位にかけて、遺物がまとまって出土。
326	比恵48 SE306	同上	後中～後後	①1.11×1.06②1.67	市368	
327	比恵48 SE309	同上	後後～終	①1.12×0.88②0.59	市368	
328	比恵48 SE325	同上	後後	①1.08×1.0②1.74	市368	
329	比恵48 SE372	同上	後後	①1.03×0.81②1.09	市368	
330	比恵49 井戸5	同上	中	①径0.8②1.1	市401	壁面上半部には、縦方向のV字状の溝が顕著(工具痕か)。
331	比恵50 C区SE043	同上	中末	①径0.98②3.02	市451	底面上0.7mで丹塗の袋状口縁壺などが出土(底面上約0.6mまでは崩落した八女粘土層が堆積する)。
332	比恵50 C区SE045	同上	後前	①径1.1②2.45	市451	抉れ部と同レベルで完形壺1・ほぼ完形の壺1が出土。
333	比恵50 C区SE074	同上	中末	①1.04×1.2②2.55	市451	
334	比恵50 C区SE116	同上	後後	①1.0×1.1②2.45	市451	
335	比恵50 C区SE122	同上	後前	①径1.1②2.46	市451	
336	比恵50 C区SE123	同上	後	①径1.0②1.72	市451	
337	比恵50 C区SE124	同上	終	①0.8×0.85②1.15	市451	
338	比恵50 C区SE125	同上	後前	①1.18×1.38②2.42	市451	
339	比恵50 C区SE134	同上	後後～終	①1.32×1.0②2.7	市451	
340	比恵50 C区SE137	同上	後後	①径1.0②2.4	市451	底面上0.35・0.7mでほぼ完形の複合口縁壺2が出土。
341	比恵50 C区SE170	同上	後初	①0.92×1.36②2.18	市451	底面から甕・壺・ミニチュア鉢などが出土。
342	比恵50 C区SE215	同上	中末	①1.37×1.52②2.78	市451	
343	比恵50 C区SE219	同上	後初	①1.07×1.38②2.75	市451	底面から壺？1出土。
344	比恵50 C区SE271	同上	終	①径0.9②2.28	市451	底面上0.1mでほぼ完形の畿内系広口壺1・在地系長頸壺1が出土。
345	比恵50 C区SE278	同上	終	①径0.8②2.45	市451	底面上0.15mでほぼ完形の畿内系長頸壺1・在地系短頸壺1が出土。
346	比恵50 C区SE273	同上	後前	①0.89×0.94②1.82	市451	底面から袋状口縁壺1・甕1・鉢1・ミニチュア土器1が出土。
347	比恵50 C区SE274	同上	後後	①0.89×0.95②1.65	市451	底面から複合口縁壺4・長頸壺1・直口壺2・甕3などが10個体分出土。
348	比恵50 C区SE275	同上	終	①1.02×1.04②1.4	市451	
349	比恵50 C区SE276	同上	後後	①径1.5②2.2	市451	
350	比恵50 C区SE280	同上	終	①径1.05②2.5	市451	底面・底面上0.1mで短頸壺各1が出土。
351	比恵50 C区SE282	同上	後中	①1.54×1.6②3.2	市451	
352	比恵50 C区SE319	同上	後後	①径0.85以上②2.7	市451	底面から底面上0.5mまで(抉れ最大部付近)複合口縁壺8・短頸壺2・長頸壺2・壺3・甕1など計20個あまりが出土。
353	比恵50 C区SE320	同上	中後	①0.72×0.88②1.88	市451	
354	比恵50 C区SE321	同上	中末	①0.73×0.78②0.92	市451	底面からほぼ完形の袋状口縁壺1・双孔広口壺1が出土。過去に1度調査された形跡があった。
355	比恵51 SE-101	同上	終	①径0.9②2.0	市452	三韓系瓦質土器出土。
356	比恵51 SE-102	同上	後後	①0.9×1.0②2.1	市452	
357	比恵51 SE-103	同上	後中	①径1.1	市452	未完掘。最下層から後期後半の完形土器20点以上と木製品多数が出土。
358	比恵51 SE-104	同上	終	①径0.8②1.6	市452	最下層から甕1が出土(投棄)。
359	比恵51 SE-105	同上	中後	①0.9×1.2②3.1	市452	
360	比恵51 SE-106	同上	終	①0.7×0.8②1.4	市452	
361	比恵51 SE-107	同上	後	①0.8×0.9②2.1	市452	
362	比恵51 SE-108	同上	後後	①0.8×0.9②2.0	市452	
363	比恵51 SE-109	同上	終	①0.8×0.9②2.7	市452	
364	比恵51 SE-203	同上	終	①0.7×0.9②2.4	市452	
365	比恵53 SE54	同上	中後	①0.8×0.84②1.48	市451	底面から中期後半の大型甕底部が出土。
366	比恵54 SE-01	同上	後初	①径約1.0②3.15	市520	
367	比恵54 SE-06	同上	後初	①径約1.0②3.2強	市520	
368	比恵55 井戸18	同上	後前	①1.35×0.95②2.1	市442	底面から複合口縁壺1が出土。
369	比恵57 SE069	同上	後中	①径1.3②1.9	市530	
370	比恵57 SE077	同上	後後	①径0.95②1.85	市530	底面から完形甕1が出土。
371	比恵57 SE078	同上	中末	①径1.15②3.3	市530	底面から6個体以上の土器が出土(投棄)。
372	比恵57 SE079	同上	後中	①径0.65②1.65	市530	
373	比恵57 SE087	同上	後中～後後	①径1.0②1.7	市530	
374	比恵57 SE088	同上	後中	①径1.05②2.3	市530	底面上0.35mで短頸壺1が出土。
375	比恵57 SE097	同上	中後	①径1.0②2.8	市530	
376	比恵57 SE102	同上	後	①径1.3②1.4	市530	
377	比恵57 SE119	同上	後前～後中	①径1.15②2.3	市530	底面上0.4mで完形壺1が出土。
378	比恵57 SE120	同上	後前	①径1.0②2.0	市530	底面上0.2mで短頸壺1・甕2が出土。
379	比恵57 SE128	同上	弥生	①径1.2②1.6	市530	
380	比恵57 SE129	同上	後初	①径1.0②2.5	市530	最下層から破砕された複合口縁壺1が底面を覆うような状態で、烏栖ローム層と八女粘土層の境から完形の短頸壺1が出土。
381	比恵57 SE130	同上	中後以降	①1.2②3.0以上	市530	未完掘。
382	比恵57 SE131	同上	後中	①径1.25②3.2	市530	抉れ部と同レベルから完形壺が出土。
383	比恵57 SE135	同上	後初	①径1.4②2.9	市530	抉れ部と同レベルから完形品が数個体出土。
384	比恵57 SE147	同上	終	①径0.9②1.7	市530	底面から短頸壺1が出土。
385	比恵57 SE148	同上	後初	①径1.1②2.4	市530	底面上0.15mで複合口縁壺2・壺3が出土。
386	比恵57 SE149	同上	中後～中末	①径1.15②2.45	市530	
387	比恵57 SE153	同上	中後～中末	①径2.0②2.6	市530	
388	比恵57 SE155	同上	終～古初	①径0.9②2.0	市530	底面から甕1が出土。
389	比恵57 SE156	同上	後中	①径0.9②1.4	市530	底面は烏栖ローム層。
390	比恵57 SE160	同上	中後～中末	①径1.2②3.2	市530	
391	比恵57 SE165	同上	中後	①径1.3②2.2	市530	

表33　福岡県内弥生時代井戸集成⑥

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
392	比恵58 SE01	博多区博多駅南(中位段丘5～8m)	後前	①1.2×1.25②1.9	市561	
393	比恵58 SE02	同上	終	①1.8×1.3②2.2	市561	底面上0.7mで短頸壺1が出土。
394	比恵58 SE03	同上	中後	①径1.4②0.95	市561	
395	比恵58 SE04	同上	中後～後初	①1.46×1.12②0.8	市561	
396	比恵58 SE05	同上	後中	①1.06×1.1②1.0	市561	
397	比恵58 SE06	同上	後後	①1.5×1.2②2.0	市561	
398	比恵58 SE07	同上	後前	①2.7×2.5②1.7	市561	
399	比恵58 SE08	同上	後前	①1.5×1.3②1.1	市561	
400	比恵58 SE09	同上	後前以降	①径0.95②7.9	市561	
401	比恵59 1号井戸	同上	中	①1.71②1.7以上	市562	未完掘。
402	比恵60 1号井戸	同上	中中	①1.4×1.55②1.4	市562	
403	比恵60 2号井戸	同上	終	①径0.95②1.75	市562	底面から破砕された壺1が埋置された状態で出土。
404	比恵60 3号井戸	同上	終	①径1.15②0.48	市562	底面から甕が出土(2号井戸出土破片と接合できる)。
405	比恵60 4号井戸	同上	後前	①1.05×1.1②1.5	市562	底面上0.08～0.13mで壺体部1・鉢1が埋置されて出土。
406	比恵61 SE07	同上	後	①0.95×0.75②1.0	市562	
407	比恵61 SE08	同上	後	①径0.8②0.7	市562	
408	比恵63 井戸14	同上	中後～中末	①径0.75②2.4	市595	
409	比恵69 SE01	同上	後前	①径0.9②1.35	市671	底面上0.05mで完形壺1が出土。
410	比恵69 SE02	同上	後後～終	①径1.0②1.5	市671	底面は烏栖ローム層。
411	比恵70 SE55	同上	後中	①径1.3②1.2	市671	底面上0.2mで甕1が出土。
412	比恵70 SE56	同上	終	①径0.9②1.4	市671	
413	比恵71 SE84	博多区山王(中位段丘5～8m)	中後～中末	①0.92×0.84②1.6	市671	底面上0.1mで丹塗磨研の袋状口縁壺が出土。
414	比恵79 SE002	同上	後	①径0.7②1.0	市821	
415	比恵79 SE003	同上	後中	①0.8×0.9②0.85	市821	
416	比恵79 SE004	同上	後後	①径0.9②0.8	市821	床面上0.1mでほぼ完形の甕と、これに敷くように大きめの土器破片が密着した状態で出土。
417	比恵79 SE005	同上	後後	①1.1×0.9②1.8	市821	
418	比恵79 SE006	同上	後後～終	①0.7×0.8②0.65	市821	底面上0.05mで複合口縁壺の口縁部(完存)のみが出土。
419	比恵79 SE007	同上	中後～後初	①径0.85②1.0	市821	
420	比恵79 SE008	同上	中後～後初	①径1.0②1.2	市821	
421	比恵79 SE009	同上	終	①径0.8②1.6	市821	底面上0.1mで口縁部を欠く壺が出土。埋土から瓦質土器の小型甕出土。
422	比恵79 SE010	同上	後後～終	①径0.9②0.95	市821	
423	比恵79 SE011	同上	後後	①0.9×0.95②1.2	市821	底面から口縁部を欠く壺1・頸部を欠く壺1が出土。
424	比恵79 SE012	同上	後中～後後	①径0.9②1.5	市821	
425	比恵79 SE013	同上	中後	①3.1×2.5以上②2.6	市821	
426	比恵79 SE014	同上	後～終	①径0.95②0.7	市821	底面から直口壺1が出土。
427	比恵79 SE015	同上	後中～終	①0.9×1.05②0.8	市821	底面から壺体部1が出土。
428	比恵79 SE016	同上	後	①0.9×0.95②0.5	市821	
429	比恵79 SE022	同上	弥生	①径0.65②0.75	市821	
430	比恵79 SE023	同上	後前	①1.3×1.15以上②1.4	市821	底面から壺1・底面上0.3mで甕1(後期前半)、底面上1.0mの平坦面で底部を欠く甕1(後期後半頃)が出土。
431	比恵82 SE001	博多区博多駅南(中位段丘5～8m)	後後	①1.0×0.9②1.1	市832	底面上0.1mで複合口縁壺1が出土。
432	比恵82 SE003	同上	中末	①径0.9②1.9	市832	
433	比恵82 SE004	同上	後後	①径0.8②1.9	市832	底面上0.15mで短頸壺1が出土。
434	比恵82 SE008	同上	後中～終	①0.9×0.7②2.4	市832	底面付近から壺体部1が出土。
435	比恵82 SE009	同上	後後	①1.0×0.9②2.6	市832	底面上0.25mで複合口縁壺2が出土。
436	比恵82 SE010	同上	後後	①径約0.7②1.7	市832	底面は烏栖ローム層。底面上0.1mで完形の長頸壺1・短頸壺1・壺2が出土。
437	比恵82 SE012	同上	後中	①0.9×0.7②2.2	市832	底面上0.1mで直口壺1が出土。
438	比恵82 SE013	同上	終	①径0.7②2.8	市832	
439	比恵82 SE018	同上	後前	①径0.9②1.6	市832	
440	比恵82 SE019	同上	終	①径0.8②2.0	市832	底面は烏栖ローム層。底面付近から複合口縁壺が出土。
441	比恵82 SE020	同上	終	①1.1×1.0②1.4	市832	底面は烏栖ローム層。
442	比恵82 SE021	同上	終	①0.7×0.6②1.3	市832	底面は烏栖ローム層。底面上0.15mで長頸壺1・壺1が出土。
443	比恵82 SE025	同上	後前	①径0.9②2.0	市832	底面は烏栖ローム層。底面から袋状口縁壺1が出土。
444	比恵82 SE027	同上	中末～後初	①径0.8②2.1	市832	烏栖ローム層と八女粘土層の境で底部を欠損する大型甕、底面上0.25mで丹塗磨研の口縁部を欠く袋状口縁壺1、双孔広口壺1・甕底部1が出土。
445	比恵82 SE028	同上	中末～後初	①径1.1②3.8	市832	底面上1.0mで鉢1・丹塗り磨研袋状口縁壺2、複合口縁壺1、同じく1.0mで頸部を欠く丹塗り磨研壺1・口縁部を欠く袋状口縁壺1、底面上1.35mで大型甕・丹塗磨研の袋状口縁壺1などが出土。
446	比恵87 SE03	同上	中中	①径1.05②2.2	市857	
447	比恵87 SE04	同上	後後	①径1.15②1.55	市857	底面に口縁部を欠く複合口縁壺1を埋置。
448	比恵87 SE05	同上	中後	①径1.1②2.1	市857	底面上0.1mで袋状口縁壺1が出土。
449	比恵87 SE07	同上	中中	①径0.65②0.9	市857	底面は烏栖ローム層。
450	比恵87 SE11	同上	後中～後後	①径1.0②2.6	市857	
451	比恵87 SE12	同上	中末	①径約1.0②2.4	市857	底面に丹塗り磨研袋状口縁壺1、壺1を埋置。
452	比恵87 SE13	同上	中末	①径0.75②1.9	市857	底面から双孔広口壺2・直口壺1・甕1が出土。
453	比恵87 SE14	同上	中末	①0.65×0.8②3.1	市857	
454	比恵87 SE16	同上	中末	①径0.9②2.1	市857	底面上約0.1mで完形双孔広口壺5・広口壺1・直口壺・袋状口縁壺4・壺の計13個が出土。
455	比恵95 SE02	博多区山王(中位段丘5～8m)	中末	①径1.0②1.5	市899	底面から袋状口縁壺1が出土。
456	比恵100 SE011	博多区博多駅南(中位段丘5～8m)	終	①1.0×1.12②0.86	市956	底面付近から小型壺2・木製品が出土。覆土途中で杭が打ち込まれたような状況が1箇所あり、未確認だが、井戸側のような構造が最下部にあった可能性もある。
457	比恵102 SE-014	同上	後後	①1.25×0.9②1.8	市956	
458	比恵102 SE-040	同上	中末	①1.0×1.07②1.95	市956	
459	席田青木4 SE01	博多区青木(小丘陵4.5～5.5m)	終	①0.74×0.7②0.96	市712	
460	席田大谷5 SE01	博多区東平尾(丘陵7～8m)	終～古初	①1.4×1.5②1.0	市828	底面にピットが2基みられる。
461	席田大谷6 SE-40	同上	後前	①2.1×1.6②1.6	市907	
462	寺島 SE64	南区横手南町(中位段丘15.5～16.5m)	後前	①1.05×1.2②3.3	市753	
〈糟屋郡〉						
463	江辻遺跡 第5地点SK-35	粕屋町大字江辻(沖積低地9～11m)	早	①1.64×1.5②0.49	粕屋町19	
464	横枕 1号井戸	志免町大字別府(沖積低地4.5～5.5m)	前後	①径1.5②0.92以上	志免町8	未完掘。
465	横枕Ⅱ 1号井戸	同上	前後～中前	①1.0×0.7以上②1.18	志免町11	
466	中山 2号井戸	志免町大字別府(丘陵25～37.5m)	中前	①径1.1②1.8以上	志免町10	未完掘。側面に足掛け板を挟んだと思われる対になる掘り込みが4ヶ所確認された。
〈春日市〉						
467	赤井手 A地点1区井戸跡	大字小倉(低丘陵23.5～38.5m)	終？	①6.0×6.8②1.0以上	市6	未完掘。西側は幅2.3～2.8m、深さ0.8mの溝に直結し、井戸と接する部分は、細い階段を設けていて水汲み場としている。
468	須玖永田 Ⅰ区1号井戸	日の出町(沖積地15m前後)	後中	①1.3×1.54②0.7	市18	底面上0.15mで炭化した木材に混じって完形に近い壺2・甕・ミニチュア土器が出土。

表34　福岡県内弥生時代井戸集成⑦

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
469	須玖永田 Ⅰ区2号井戸	日の出町(沖積地15m前後)	後中	①1.5×1.4②1.17	市18	井戸を取り囲むように周囲から径30cm前後の柱穴3個あり(地上施設)。本来は4個の柱穴からなるか。底面上0.5mで多量の木製品・自然木などが出土。
470	須玖唐梨 1号井戸	大字須玖(沖積地16～16.5m)	終	①2.1×1.8②1.05	市19	底面上0.05mで完形品を含む壺などが出土。
471	須玖唐梨 2号井戸	同上	終	①1.5×1.5以上②1.32	市19	
472	須玖唐梨 3号井戸	同上	後後～終	①1.8×1.8②0.95	市19	
473	須玖唐梨 4号井戸	同上	後後～終	①1.5×2.0②1.0	市19	
474	須玖唐梨 5号井戸	同上	後後	①1.55×1.3以上②1.45	市19	
475	須玖唐梨 6号井戸	同上	終	①2.1×1.85②1.2	市19	
476	須玖唐梨 7号井戸	同上	後後	①1.1×1.65以上②1.0	市19	
477	須玖唐梨 8号井戸	同上	後後	①1.1×0.8②1.2	市19	底面上0.2mで加工痕のない木片がまとまって出土。
478	須玖唐梨 9号井戸	同上	後後～終	①1.1×1.05②0.85	市19	
479	須玖唐梨 10号井戸	同上	終	①1.05×0.7以上②0.9	市19	
480	須玖唐梨 13号井戸	同上	後後	①1.05×1.0②1.0	市19	
481	須玖唐梨 14号井戸	同上	後後	①1.1×1.0②0.85	市19	
482	須玖唐梨 16号井戸	同上	後後～終	①1.1×0.95②1.45	市19	
483	須玖唐梨 17号井戸	同上	後後～終	①0.95×1.05②1.0	市19	
484	須玖唐梨 18号井戸	同上	後後～終	①1.16×0.9②0.95	市19	
485	須玖唐梨 19号井戸	同上	終	①1.2×0.9以上②0.85	市19	
〈筑紫野市〉						
486	矢倉 井戸	大字筑紫(丘陵47.5～48.5m)	後後	①1.4×1.5②2.75	市8	底面上0.35mでほぼ完形の複合口縁壺が、その上から破砕した大型甕(終末)が出土。
〈朝倉郡〉						
487	慮木薮 1号井戸	筑前町大字東小田(河岸段丘24.5～26.5m)	後前～中	①1.34×1.45②2.27	夜須町24	
488	慮木薮 2号井戸	同上	後初～後前	①1.5×1.6②1.9	夜須町24	
489	慮木薮 3号井戸	同上	後初～後前	①2.1×2.5②2.35	夜須町24	
490	慮木薮 4号井戸	同上	後初～後前	①1.81×1.45②2.31	夜須町24	
491	慮木薮 5号井戸	同上	後中	①2.0×2.25②2.0	夜須町24	
492	慮木薮 6号井戸	同上	中末～後初	①2.11×2.37②1.1	夜須町24	
493	慮木薮 7号井戸	同上	後初	①2.03×(1.9)②1.6	夜須町24	
494～508	迫額 1～15号井戸	筑前町大字東小田(河岸段丘。標高不明)	中末～後初	不明	夜須町40	竪穴住居跡や掘立柱建物が集中した区域で、2基ずつ対になって検出された箇所が5ヶ所認められる。井戸底に杭が等間隔に穿たれたものがある。
509	中原 1号井戸	筑前町大字東小田(河岸段丘23.5～25.0m)	中～後初	①1.1×1.2②1.6	夜須町55	
510	中原 2号井戸	同上	後初	①径2.0②1.6	夜須町55	
511	中原 3号井戸	同上	中前～後初	①1.23×1.35②1.94	夜須町55	
512	中原 4号井戸	同上	中後	①1.28×1.35②1.85	夜須町55	
513	中原 5号井戸	同上	後初	①径1.4②2.1	夜須町55	
〈うきは市〉						
514	仁右衛門畑 68号土坑	吉井町大字新治(自然堤防28.5～29m)	中初	①3.45×2.20②1.65	県浮羽ﾊﾞｲﾊﾟｽ14	
〈小郡市〉						
515	大板井Ⅻ　1号井戸	大板井(台地12～12.5m)	中前～中中	①1.28×1.06②1.2	市133	
516	大板井Ⅻ　2号井戸	同上	中前～中中	①1.64×1.32②1.18	市133	
〈三井郡〉						
517	西森田2 Ⅴ地点7号井戸	大刀洗町大字本郷(台地17m前後)	終	①0.9×0.7②1.05	大刀洗町19	
〈久留米市〉						
518	仁王丸古墳 SE012	北野町大字仁王丸(沖積地11m前後)	中	不明	北野町18	未完掘。
519	彼坪3･4 Ⅰ区126号土坑	北野町今山(沖積平野6.5～7.5m)	中後	①径1.5②2.8	県202	中層から下層にかけて木製品、丹塗大型甕などが出土。
520	良積 SE004	北野町赤司(沖積平野9.5～10.5m)	終	①0.88×0.86②1.97	市214	
521	良積 SE005	同上	後	①1.37×1.13②2.11	市214	
522	良積 SE006	同上	終	①1.45×1.41②2.37	市214	
523	良積 SE007	同上	後後	①1.58×1.4②2.14	市214	
524	良積 SE015	同上	後後	①1.9×1.5②2.2	市214	
525	良積 SE016	同上	後	①1.41×1.14②2.14	市214	
526	良積 SE018	同上	後後	①1.12×1.03②1.6	市214	
527	良積 SE022	同上	終	①1.29×1.16②1.92	市214	
528	良積 SE023	同上	終	①1.53×1.2②1.2	市214	
529	良積 SE025	同上	後後	①1.0×0.9②1.62	市214	
530	良積 SE032	同上	終	①1.3×1.1②1.15	市214	
531	良積 SE034	同上	終	①1.96×1.86②1.83	市214	
532	良積 SE037	同上	後後	①0.96×0.96②1.95	市214	
533	良積 SE045	同上	終	①1.23×1.18②1.88	市214	
534	良積 SE046	同上	終	①0.81×0.77②2.03	市214	
535	良積 SE050	同上	後後	①1.49×1.33②1.42	市214	
536	良積 SE051	同上	終	①1.37×1.35②2.59	市214	
537	良積 SE064	同上	終	①1.27×1.25②2.16	市214	
538	良積 SE065	同上	後	①0.85×0.8②2.22	市214	
539	良積 SE066	同上	後後	①1.08×0.91②2.17	市214	
540	良積 SE069	同上	終	①1.02×1.0②2.0	市214	
541	良積 SE070	同上	終	①1.59×1.55②2.35	市214	
542	良積 SE074	同上	後後	①2.52×2.28②2.4	市214	
543	良積 SE078	同上	後？	①1.16×1.15	市214	未完掘。
544	良積 SE080	同上	終	①1.45×1.42	市214	未完掘。
545	良積 SE086	同上	終	①1.41×1.32	市214	未完掘。
546	良積 SE091	同上	後～古前	①1.0×0.87	市214	未完掘。
547	良積 SE093	同上	終	①1.68×1.56	市214	未完掘。
548	良積 SE096	同上	終～古前	①1.4以上×1.0以上	市214	未完掘。
549	良積 SE103	同上	終	①1.47×1.28	市214	未完掘。
550	良積 SE105	同上	後後	①1.14×1.03	市214	未完掘。
551	良積 SE106	同上	後？	①1.15×1.13	市214	未完掘。
552	良積 SE107	同上	終	①1.05×0.9？	市214	未完掘。
553	良積 SE108	同上	終	①1.19×0.94	市214	未完掘。
554	良積 SE109	同上	後	①0.86×0.73	市214	未完掘。
555	良積 SE110	同上	後後	①1.15×1.11	市214	未完掘。
556	良積 SE112	同上	後？	①0.89×0.87	市214	未完掘。
557	良積 SE113	同上	終～古前	①1.65×1.4	市214	未完掘。
558	良積 SE114	同上	終～古前	①1.17×0.9以上	市214	未完掘。
559	良積 SE117	同上	後前	①1.45×1.29	市214	未完掘。
560	良積 SE118	同上	終～古前	①2.2×1.9	市214	未完掘。

表35　福岡県内弥生時代井戸集成⑧

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
561	良積 SE122	北野町赤司(沖積平野9.5～10.5m)	後？	①1.3×1.23	市214	未完掘。
562	良積 SE123	同上	後後	①2.4×2.03	市214	未完掘。
563	良積 SE128	同上	後	①0.92×0.5以上	市214	未完掘。
564	良積 SE135	同上	終	①1.12×1.1	市214	未完掘。
565	良積 SE138	同上	終	①1.14×1.06	市214	未完掘。
566	良積 SE140	同上	後	①1.15×1.12	市214	未完掘。
567	良積 SE152	同上	後後	①1.04×1.04	市214	未完掘。
568	良積 SE161	同上	終	①1.24×1.1	市214	未完掘。
569	良積 SE167	同上	終	①1.0×0.93	市214	未完掘。
570	良積 SE168	同上	終	①1.33×1.15	市214	未完掘。
571	良積 SE180	同上	後後	①1.2×1.05	市214	未完掘。
572	良積 SE182	同上	後後	①1.42×1.36	市214	未完掘。
573	良積 SE185	同上	終	①1.12×1.1	市214	未完掘。
574	良積 SE186	同上	終	①1.48×1.4	市214	未完掘。
575	良積 SE187	同上	後後	①1.19×1.11	市214	未完掘。
576	良積 SE188	同上	後	①2.53×2.36	市214	未完掘。
577	良積 SE191	同上	終	①1.04×0.76以上	市214	未完掘。
578	良積 SE211	同上	後後	①0.93×0.92	市214	未完掘。
579	良積 SE212	同上	後後？	①1.18×0.67以上	市214	未完掘。
580	良積 SE213	同上	終	①0.73×0.68	市214	未完掘。
581	良積 SE215	同上	後？	①0.88×0.83	市214	未完掘。
582	良積 SE217	同上	後？	①1.21×1.1	市214	未完掘。
583	良積 SE218	同上	後後	①1.54×0.79以上	市214	未完掘。
584	良積 SE219	同上	終	①1.1×0.8②1.2	市214	未完掘。
585	良積 SE224	同上	終	①1.18×1.2	市214	未完掘。
586	良積 SE225	同上	終	①1.21×1.16	市214	未完掘。
587	良積 SE226	同上	終	①1.06×0.97	市214	未完掘。
588	良積 SE230	同上	後後	①1.01×0.96	市214	未完掘。
589	良積 SE233	同上	終	①0.93×0.91	市214	未完掘。
590	良積 SE239	同上	後後	①1.0×1.0	市214	未完掘。
591	良積 SE243	同上	後？	①1.0×0.9	市214	未完掘。
592	良積 SE244	同上	終	①0.9×0.9	市214	未完掘。
593	良積 SE245	同上	後？	①1.3×0.75	市214	未完掘。
594	良積 SE246	同上	終	①1.1×0.95	市214	未完掘。
595	良積 SE247	同上	終	①1.73×1.26	市214	未完掘。
596	良積 SE249	同上	終	①1.9×1.56	市214	未完掘。
597	良積 SE251	同上	終	①2.01×1.76	市214	未完掘。
598	良積 SE255	同上	後後	①1.25×1.22	市214	未完掘。
599	良積 SE256	同上	終	①1.59×1.53	市214	未完掘。
600	良積 SE257	同上	後後	①1.32×1.0	市214	未完掘。
601	良積 SE264	同上	後後	①2.57×1.55	市214	未完掘。
602	良積 SE266	同上	後後	①1.08×0.63以上	市214	未完掘。
603	良積 SE268	同上	終	①1.32×1.03	市214	未完掘。
604	道蔵2 SE202	大善寺町中津(低台地4.75～7m)	後前	①径1.8②約1.4	市73	底面から甕・器台などが出土。
605	道蔵4 SE425	同上	後後～終	①1.08×1.16②1.1	市73・112	
606	道蔵4 SE426	同上	後後	①約3.0×約2.5②約2.9	市73・112	下層からほぼ完形の壺2・甕1が出土。この他に韓式土器の小片が出土。
607	道蔵11 SE1103	同上	後中	①径1.7	市127	未完掘。
608	道蔵11 SE1106	同上	終	①径1.2	市127	未完掘。
609	東烏1 SE25	安武町安武(低台地7.5～9.5m)	後後	①2.7×2.1②2.1	市128	底面上0.35mで、壺1が出土。
610	碇1 SE1	安武町住吉(低台地3～5.5m)	後初	①1.66×1.5②0.73	市190	底面から壺・甕など多数が出土。
611	碇2 SE20	同上	後初	①1.3×1.1②1.8	市191	
612	久保1 Ⅰ区SE3	城島町楢津(デルタ地帯3～4m)	前末～中初	①1.45×1.41②1.23	市225	
613	久保1 Ⅰ区SE4	同上	前末～中初	①1.03×0.86以上②2.18	市225	埋土から擬朝鮮系無文土器のミニチュア鉢出土。
614	久保1 Ⅰ区SE8	同上	前末～中初	①1.92×1.79②2.63	市225	
615	久保1 Ⅰ区SE11	同上	前末～中初	①1.72×1.64②2.81	市225	下層から黒色磨研壺・完形壺・鉢が大量に出土(井戸使用中および廃棄時の祭祀)。
616	久保1 Ⅰ区SE12	同上	前末～中初	①0.92×0.8②2.76	市225	
617	久保1 Ⅰ区SE13	同上	前末～中初	①0.71×0.8②2.76	市225	
618	久保1 Ⅰ区SE16	同上	前末～中初	①0.8×0.71②1.18	市225	
619	久保1 Ⅰ区SE19	同上	前末～中初	①1.18×0.8②1.23	市225	
620	久保1 Ⅰ区SE21	同上	前末～中初	①1.01×0.97②2.34	市225	
621	久保1 Ⅰ区SE23	同上	前末～中初	①2.53×1.04②2.08	市225	
622	久保1 Ⅱ区SE1	同上	前末～中初	①3.15×2.38以上②2.44	市225	底面上1.4mで完形 黒色磨研壺1が出土。
623	久保1 Ⅱ区SE2	同上	前末～中初	①0.97×0.88②2.4	市225	解体痕のあるイノシシの左肩甲骨と穿孔されたヒョウタンが出土(井戸祭祀か)。
624	久保1 Ⅱ区SE3	同上	前末～中初	①1.82×1.45②3.05	市225	埋土から擬朝鮮系無文土器壺出土。
625	久保1 Ⅱ区SE4	同上	前末～中	①1.46×0.91以上②2.01	市225	
626	久保1 Ⅱ区SE6	同上	前末～中初	①2.47×2.11②2.67	市225	
627	久保1 Ⅱ区SE7	同上	前末～中初	①0.99×0.92②2.62	市225	
628	久保2 SE1	同上	前末～中	①0.69×0.68②1.81	市225	
629	久保2 SE2	同上	前末～中	①0.78×0.72②1.92	市225	底面上1.0mで樹皮の残る棒材2本が出土。部分的な壁の崩落を防ぐために板を杭で固定した可能性がある。下層から出土したヒョウタンと半裁した木製の剣把出土(廃棄時の祭祀か)。
630	久保2 SE28	同上	前末～中	①1.8×1.28②不明	市225	未完掘。上面-2.5mで完形の黒色磨研壺5、-0.95mで完形の黒色磨研壺1が出土(井戸祭祀)。
631	久保2 SE92	同上	前末～中	①0.73×0.69②2.05	市225	
632	久保2 SE105	同上	前末～中	①1.19×1.06②2.54	市225	底面上0.2mで壺・完形黒色磨研壺・鉢が出土(廃棄時の祭祀)。
633	久保2 SE135	同上	前末～中	①1.82×1.42②2.46	市225	
〈筑後市〉						
634	水田杉ノ本2 C区SE140	大字水田(低位段丘8～8.5m)	弥生	①2.24×1.16以上②0.66	市44	
635	常用日田行2　SE1035	大字常用(低位段丘7～8m)	前後～中前	①2.0×1.85②1.4以上	市57	未完掘。
〈大川市〉						
636	酒見貝塚 第1トレンチ井戸跡	大字酒見(沖積平野3～4m)	終	①不明②1.9	市2	底面上0.6mで完形壺2・小型壺1が出土。
637	酒見貝塚 第3トレンチ 1号井戸	同上	後後～終	①径1.15②3.0以上	市2	未完掘。上面に水を汲み易くするためと考えられる平坦なテラスを設けていた(硬く踏みしめられる)。上層から壺・鉢・片口土器などの完形品かそれに近い状態で出土(井戸祭祀)。
638	酒見貝塚 第3トレンチ 2号井戸	同上	中前	①径1.0②2.25	市2	上面に足が置ける程度のテラスを作り出している。

表36　福岡県内弥生時代井戸集成⑨

	遺　跡・遺　構	所　在（立地・標高）	時　期	規模(m) ①上面　②深さ	出　典	備　　考
639	酒見貝塚 第3トレンチ 3号井戸	大字酒見(沖積平野3～4m)	後後以前	不明	市2	
640	酒見貝塚 第4トレンチ 1号井戸	同上	中中	①1.3×不明②1.5	市2	上端から1段下がったところに小さな水汲み用のテラスを設ける。
641	酒見貝塚 第4トレンチ 2号井戸	同上	中前	不明	市2	未完掘。
642	酒見貝塚 第4トレンチ 3号井戸	同上	中中	不明	市2	未完掘。
643	酒見貝塚 第7トレンチ 1号井戸	同上	中初	①不明②1.6	市2	
644	酒見貝塚 第7トレンチ 2号井戸	同上	終	①不明②1.35	市2	2段目のテラスは水汲みの際に硬く踏みしめられる。
645	酒見貝塚 第7トレンチ 3号井戸	同上	終～古初	不明	市2	未完掘。上面-1.4mから完形壺3・小型甕1などが出土。
646	下林西田 SK3	大字下林(沖積平野2.5～3.5m)	前中～中初	①0.57×0.78②1.5	県132	
647	下林西田 SK17	同上	前中～中初	①1.55×1.27②1.3	県132	最下層から焦げた丸木と木片が出土。
648	下林西田 SK30	同上	弥生	①0.59×0.65②1.0	県132	
649	下林西田 SK37	同上	前中～前後	①0.62×0.7②1.35	県132	底面付近の牡蠣の層直上から壺が出土。
650	下林西田 SK41	同上	前中～中初	①0.68×0.77②0.94	県132	
651	下林西田 SK44	同上	前末～中初	①0.6×0.62②1.07	県132	底面から擬朝鮮系無文土器壺が出土。
652	下林西田 SK46	同上	前後～中初	①径0.74②0.85	県132	底面から完形およびそれに近い壺3(擬朝鮮系無文土器壺1含む)・壺底部片、そのやや上位で長頸壺1(擬朝鮮系無文土器)が出土。
653	下林西田 SK68	同上	前末～中初	①0.84×0.87②1.22	県132	中位付近で無頸壺1、その下方で壺1が出土。無頸壺の中からは炭化米・炭化物・種子など、壺の中には炭化物・種子・棒状土製品などが出土。
654	下林西田 SK69	同上	前後	①1.45×1.8以上②1.62	県132	
655	下林西田 SK75	同上	前末～中初	①0.64×0.98②1.0以上	県132	未完掘。
656	下林西田 SK76	同上	前末～中初	①1.4×1.46②1.17	県132	埋土から擬朝鮮系無文土器が出土。
657	下林西田 SK79	同上	中初～中前	①0.7×0.76②1.51	県132	
658	下林西田 SK81	同上	中前	①0.92×1.2②0.77	県132	
〈柳川市〉						
659	磯鳥フケ SE003	三橋町磯鳥字フケ (沖積低地2.5～3.5m)	中前～中後	①径1.15②1.1以上	市1	未完掘。
660	磯鳥フケ SE052	同上	中末～後初	①径1.7②1.0以上	市1	未完掘。
〈八女市〉						
661	アモメ2 4地点井戸	大字柳瀬字アモメ (自然堤防。標高不明)	後	①径2.2②不明	市34	

〈参考文献〉　※（　）は発行機関　数字はシリーズ名
森貞次郎・岡崎敬1961『日本農耕文化の生成』(赤村)1・2 (朝倉町)5～11 (芦屋町)1・5～10 (甘木市)1・2・5・13～15・17～20・22～69 (飯塚市)4・5～8・10～15・17～30・32 (稲築町)2～4 (浮羽町)3～6・8～12 (碓井町)2・5 (宇美町)4・5・7～9・14～16 (大川市)1～10 (大野城市)1～73 (大牟田市)1・3・4・6～20・23～37・40～60 (岡垣町)3・4・6・7・11～15・17～23 (小郡市)1～5・7・9・11～13・15～22・24・25・27～42・44～78・80～86・97～108・110～133・135～141・143～150・152～183・185～199・201～207・211～214・228 (遠賀町)1～17 (嶺田町)2～11 (春日市)2～9・11～19・21～40・42～50 (勝山町)1～3・5・8・9 (嘉穂町)1・5～8・10・20～22 (嘉麻市)1 (川崎町)1・3～5 (香春町)10～16 (苅田町)3・5・7・9・22～27・29～33・37～39 (北九州市)2・9・17～21・23～26・28～38・40・43～45・48～66・68～99・101～110 (北野町)1～21 (九州大学)筑紫地区遺跡群1～4 (鞍手町)1～4・7～15 (久留米市)3～9・12～14・23・24・26～29・32～41・43～48・53～56・58～62・64～92・94・96～181・183～209・211・212・215～227・229～250 (黒木町)1～3 (桂川町)3～7・12～17 (小石原村)2～8 (古賀市)1～8・10・20～26・31・33～36・39 (犀川町)1～6・9 (財団法人北九州市芸術文化振興財団)1～53・55～380 (篠栗町)1～7 (椎田町)3～12・14・15 (志摩町)1～10・13～16・18～26 (志免町)1・2・4～16 (城島町)1 (庄内町)2・3 (上陽町)1 (新宮町)1～18 (新吉富村)1・3～8・10～17 (須恵町)3～8 (瀬高町)3～8・10～15・17 (添田町)3・5・6 (大平村)2・4・5・7～10・12・13 (高田町)1～10(田川市)1・2・4・5・7～11 (太宰府市)1・3～8・10・11・13～88 (大刀洗町)1～43 (立花町)1～12 (田主丸町)1～26 (筑後市)3～10・19～36・38～73 (築上町)1・2 (筑前町)1～3 (筑穂町)2～9 (築城町)1～11 (津屋崎町)3～5・7～22 (豊津町)1・4～6・9・11～24・26～30 (那珂川町)1・3・5～27・29～55・57～68 (中間市)3 (二丈町)1～7・9～16・18～32 (直方市)2・3・6～34 (杷木町)1～3・6 (東峰村)1 (久山町)1～12 (広川町)3～12・14～19・21～23 (福岡市)10・18～21・26～76・79・81～176・179～475・477～584・586～639・641～740・956年報1～19 (福岡県)22・29・31・33・34・36～39・42・44～46・48～51・53・55～62・64～87・90～92・94・95・97～112・114～121・123～128・130～132・134～154・156～209・211～214 八女市室岡所在遺跡群調査概報 三沢所在遺跡予備調査概報 三沢所在遺跡調査概報 津古内畑3～5次 佐谷・脇田山古墳調査報告 覗山無線中継所1 有明海沿岸道路大川バイパス1～3 飯塚庄内田川バイパス2 飯塚バイパス1 一級河川山国川築堤1～6 今宿バイパス1～10・12・13 浮羽バイパス1～3・5～24 岡垣バイパス1・2 貝元Ⅰ・Ⅱ 九州新幹線1～7 椎田道路1～9 椎田バイパス1～9 高田大和バイパス1 筑紫野バイパス1～4・6・7 仲哀改良工事1・2 二丈・浜玉道路Ⅰ・Ⅱ 東九州自動車道1 広川インターチェンジ1 福岡東バイパス1 福岡南バイパス1～9 福間バイパス1 冷水バイパス1 豊前バイパス1～10 八木山バイパス1 行橋バイパス1・2 若宮宮田工業団地1～3 (宝珠山村)1・2 (方城町)3・8・9 (星野村)2 (穂波町)1～9・13・14 (前原町)1～34・36～43 (前原市) 44～46・48～54・56・79・81～96 (三潴町)1～6・8 (水巻町)1・2・5～8 (みやこ町)1・2 (宮田町)1～3 (三輪町)4・5・8・10・12 (宗像市)1～22・24・27～29・31・33～48・50・52～57 (夜須町)6・8～34・36～38・40・42～47・50～57 (柳川市)1 (八女市)7～15・19～35・37～76 (八幡市)1・2 (山川町)1～4 (行橋市)9・10・13～15・18・20・21・24～34 (吉井町)2・4～6・8～15 (吉富町)1～3 (若宮町)5・6・8・9・11～20

２．奈良時代の本堂遺跡群

（１）牛頸窯跡群の集落

８世紀代は牛頸窯跡群が最盛期を迎え、井手・後田窯跡群など群の中でも南部の山間において操業が盛んにおこなわれる。一方、野添・浦ノ原遺跡群など牛頸窯跡群北部の丘陵においても操業はおこなわれており、８世紀後半代にあたる本堂遺跡５次２～５号窯跡灰原からは瓦塔屋蓋部の破片を含め、パンケース数百箱におよぶ須恵器が出土している（註１）。

これら牛頸窯跡群南北の窯跡群を理解する上で、重要となるのは集落遺跡の在り方である。南部の集落遺跡として挙げられる塚原・日ノ浦遺跡群は牛頸川西岸の河岸段丘上に広がり、６世紀後半から集落の展開が認められ、以後９世紀前半まで継続する。これは牛頸窯跡群の推移と一致しており、牛頸地区周辺の須恵器工人集落と考えて大過ない（註２）。一方、北部の集落遺跡としては上園遺跡が知られる。遺跡は大野城市大字上大利に所在し、低丘陵に挟まれた平地に位置する。主に５世紀後半以降集落の展開が認められ、中心部の調査はおこなわれていないため詳細は不明であるが、６世紀中頃の竪穴住居跡から粘土塊が出土し、焼け歪んだ土器が出土するなど上大利地区周辺の須恵器工人集落として捉えられる。しかし、６世紀後半以降奈良時代の遺構は散見されるものの様相は不明であった（註３）。

本堂遺跡群は、上大利北土地区画整理事業にともない遺跡の存在が確認され、現在18ヶ所の発掘調査が実施されている。遺跡は上園遺跡の西側低丘陵上に立地しており、上園遺跡と一連のものと考えられる。区画整理地内では17ヶ所の調査が実施され、８世紀代の遺構・遺物が数多く確認されている。今回報告をおこなった本堂遺跡２･６次調査地においても該期の遺構を確認しており、これまで様相が不明であった牛頸窯跡群北部の集落について資料を得ることができた。以下では、２・６次調査の成果を整理するとともに、調査地内の集落相について出土遺物の分析から特徴を抽出し、牛頸窯跡群北部の集落像の一端を明らかにしていきたい。

（２）２・６次調査地の奈良時代の遺構

本報告の遺跡のうち、８世紀代の遺構が認められた２・６次調査地は隣接しており、元々一つの集落として捉えることができる。２次調査では竪穴住居跡３軒（ＳＣ01・02・05)、土坑５基（ＳＸ15・21・39・72・73)、溝４条（ＳＤ07・09・11・12)、６次調査では竪穴住居跡１軒（ＳＣ04)、土坑２基（ＳＸ06・07）がある。

遺構の時期的推移を見ると、7世紀末～８世紀初頭には溝（２次ＳＤ09・12）が掘られ、前半になると溝（２次ＳＤ11）が前代の溝を切り込む。前半～中頃には竪穴住居跡３軒（２次ＳＣ01・05、６次ＳＣ04)、土坑３基（２次ＳＸ39・72・73）など生活遺構の展開が見られ、中頃～後半は土坑４基（２次ＳＸ15・21、６次ＳＸ06・07）となり､８世紀後半から９世紀の遺構・遺物は確認できない。したがって、２・６次調査地内では８世紀前半を中心に集落の展開が認められるが、継続せず、８世紀後半には他の場所に移動しているようである。

また、確認された遺構は６次調査地に近いほうに位置するが、密集することなく散在している。さらに６次調査地の南側に隣接する本堂遺跡３次調査では、７世紀中頃～後半の窯跡１基が確認され（註４)、２次調査地でもＳＸ68・ＳＤ13など同様の時期の遺構が確認されるが、住居跡等の生

活遺構は確認できない。以上のことから、本堂２・６次調査地では低丘陵上に集落が営まれるのは８世紀前半から中頃～後半の極めて短い期間のみの集住である。

（３）集落の特徴

では、２・６次調査地で確認された集落はいかなる位置付けができるのであろうか？先述したように、調査地の南側丘陵では窯の操業が継続しており、調査地内からは焼け歪んだ須恵器も多く出土することから、須恵器工人との関わりを考えることができる。しかし一方で、調査地内で検出された竪穴住居跡にカマドが確認されるものが少ないことや住居内外において須恵器の原料となる粘土や未焼成遺物が確認できず、ロクロピットなどの工房関連遺構も確認できない。また、塚原・日ノ浦遺跡群で確認されたような大型の廃棄土坑は少なく、周辺で長期間安定した窯の操業がおこなわれている割に、須恵器工人を想起させるような遺構・遺物に乏しく、集住の期間も非常に短いのが２・６次調査地の奈良時代の特徴と言える。

（４）硯と金属器模倣須恵器

２・６次調査地出土遺物の中で注目されるのは、６次ＳＣ04出土転用硯と６次ＳＸ06出土遺物である。牛頸窯跡群内で、窯跡以外から硯が出土することは極めて少ない。同様に、墨書土器の出土も非常に少なく、大野城市内では後原遺跡３次ＳＸ01（註５）、石勺遺跡Ｊ地点カクラン（註６）・御笠の森遺跡９次１区ＳＥ02（註７）などで散見される程度である。しかし、ハセムシ窯跡群12地区出土ヘラ書き須恵器（註８）や塚原遺跡群出土ヘラ書き須恵器（註２）を見ると律令制の施行とともに文字が使われていたことが分かる。したがって、本堂遺跡群を含む牛頸窯跡群の周囲には文字を使用する社会が広がっていたが、硯の出土が少ないことは文字を書く人も少なかったことを示しており、転用硯の出土は一般集落と異なる要素として注目できる。

また６次ＳＸ06出土遺物について注目して見たい。ここからは多くの須恵器の他、土師器・紡錘車・瓦などが出土し、遺構の形態から竪穴状の建物が存在した可能性が高い。出土遺物の中で特に注目されるのが、稜椀・鉢・瓶である。これらは、金属器である蓋鋺・鉄鉢・水瓶を写したものとされ、７世紀初頭にはじまる「金属器指向型」の基調の中で出現した器種と理解されている（註９）。また、これらの器種は仏器を模倣していることから、出土遺跡や遺構に対し一般集落ではなく、寺院であることの根拠の一つとされることもある。以下では、牛頸窯跡群および旧筑紫郡内の遺跡から出土した７世紀後半～８世紀の金属器模倣須恵器の集成をおこない、出土傾向から各器種の出土遺跡の性格について検討をおこないたい。なお取上げる器種は、蓋（環状つまみと宝珠状つまみの２種）・稜椀・椀・鉢（鋺形と鉄鉢形の２種）・瓶（水瓶形）・托とする。また、消費遺跡については硯・墨書土器も項目に加え、遺跡の性格を判断していく。

まず生産遺跡の状況について取上げる。牛頸窯跡群内から出土した金属器模倣須恵器について集成した結果、現在22遺跡29ヵ所からの出土が確認できる（註10）。これは７世紀後半以降の窯の数が1999年の集成時点で129基とされている結果から見ると１／５程度であり（註11）、生産量も非常に少ない。また、複数器種の生産が確認された遺跡も３遺跡と非常に少ない。次に各器種の異同を明らかにしたい。鉢（鋺形）は７世紀中頃に出現し、８世紀中頃まで存続する。鉢（鉄鉢形）はやや遅れ７世紀後半頃に出現し、以後８世紀を通じて生産されている。瓶（水瓶形）は８世紀代

に入って生産がおこなわれるが、量は少ない。以上、鉢（鋺形・鉄鉢形）・瓶（水瓶）の３つの器種は、７世紀中頃以降８世紀代を中心として継続した生産が認められるが、蓋・稜椀・椀・托については非常に少量で単発的な生産がうかがえる。したがって、牛頸窯跡群における金属器模倣須恵器の生産は限定的であり、特に椀類・托に関しては類例が非常に少ない事が判明した。

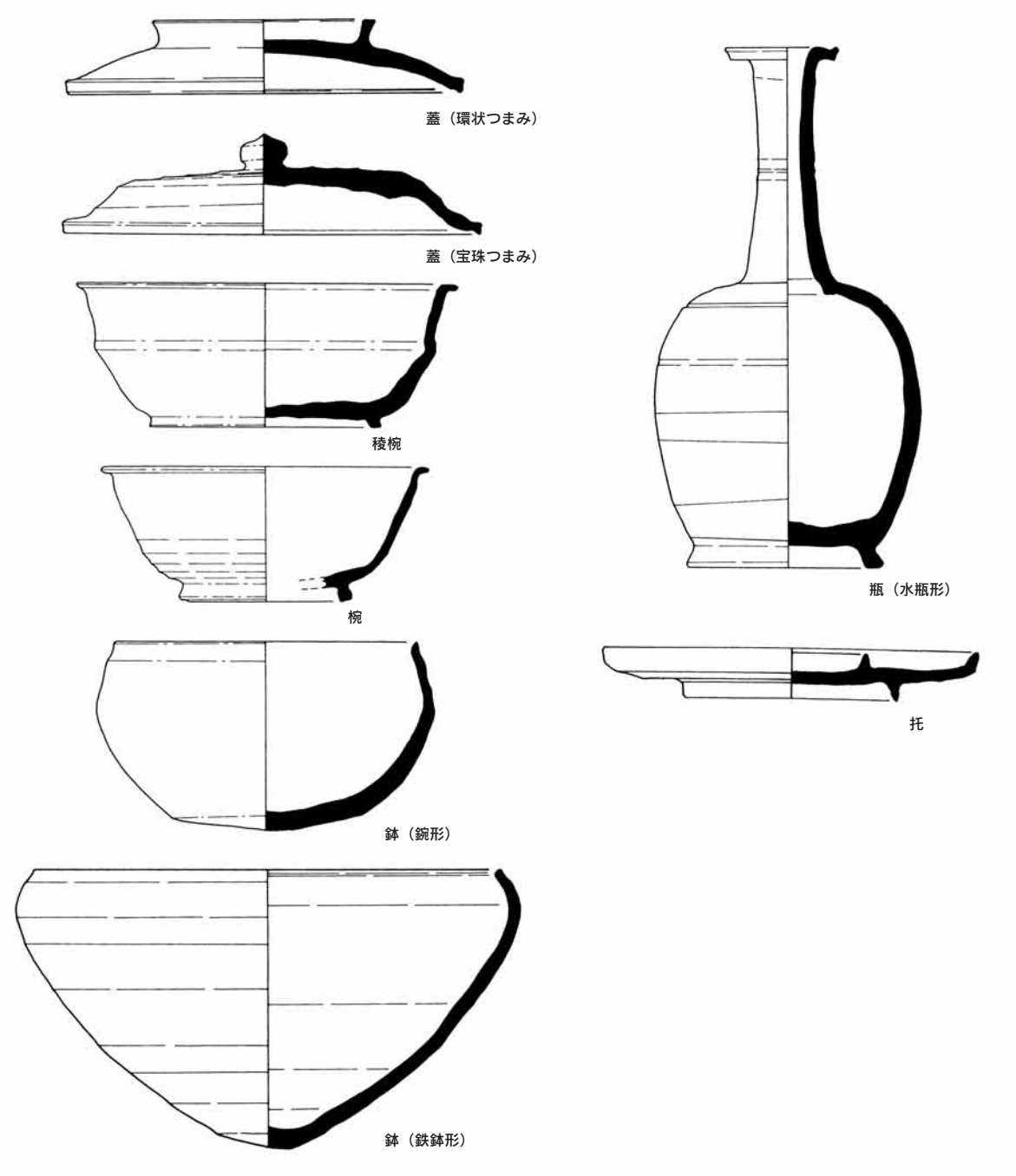
次に消費遺跡について取上げる。管見に及ぶ限りでは、45遺跡65ヵ所からの出土が見られる。出土遺跡としては、大宰府政庁・官衙域・条坊域からの出土が多く、18遺跡24ヵ所を数える。ついで、寺院跡８遺跡９ヵ所、祭祀遺跡５遺跡７ヵ所を数える。また、その他の遺跡においても京ノ尾遺跡群・大曲り遺跡・龍頭遺跡は鉄生産、日ノ浦・塚原遺跡群は須恵器生産に関わる遺跡と考えられ、貝元遺跡・原ノ口遺跡では官衙的とも推測される掘立柱建物が確認されるなど、一般集落とは考えにくい遺跡からの出土が多いようである。

各器種の出土傾向についてみると、最も多いのは鉢（鋺形・鉄鉢形）である。中でも鉢（鉄鉢形）が多く、遺跡の性格に関わらず広く出土しており、偏った出土傾向は認められない。したがって、鉢から遺跡の性格を規定する要素を見出すことはできない。一方、瓶（水瓶）は全体量がわずか４点と少ないが、宝満山遺跡群などの祭祀遺跡からの出土が多く、灰釉陶器であるが観世音寺僧坊地区に推定される大宰府史跡70次調査濁茶色土から頸部片が出土することから、仏教や祭祀に関わる遺物である可能性が高い。椀・稜椀に関しては、日ノ浦・塚原遺跡群や本堂遺跡群など牛頸窯跡群周辺の集落以外からは出土していない。他地域においても、管見の及ぶ範囲で稜椀の出土が認められるのは、消費遺跡では肥前久池井Ｂ遺跡ＳＫ775、生産遺跡では肥後荒尾窯跡群皮籠田窯跡と極めて少ない状況にある（註12）。したがって、小川真理子氏によって播磨では「官衙遺跡に伴う遺物」とされた稜椀（註13）も、大宰府周辺では今のところ位置付け不明である。蓋（環状つまみ）の出土は稜椀の存在を示唆するものかもしれないが、この種の蓋は通常の杯B身にともなうことも予想されることから注意が必要である。

（５）本堂遺跡２･６次調査の位置付け

金属器模倣須恵器の出土遺跡について検討をおこなった結果、鉢は官衙・祭祀遺跡を問わず広く出土するが、瓶（水瓶形）は祭祀遺跡からの出土が多く、椀・稜椀に関しては生産遺跡周辺のみ出土する事が明らかになった。６次ＳＸ06からはこれら３つの器種が出土しており、水瓶の存在から仏教・祭祀的な性格を考えることができる。また３つの器種はセットとして存在した可能性も考えられ、組み合わせに何らかの意味があった可能性が高い。以上から、本堂遺跡では８世紀前半代の２・６次調査地集落内に仏教・祭祀遺構が存在することが明らかとなった。

関東地方においては、集落内で確認される「寺」「佛」などの仏教的な墨書土器や四面庇建物に対して「村落内寺院」の名称が与えられ、初期寺院や国分寺以外の仏教施設の存在が明らかにされている（註14）。笹生衛氏は千葉県の事例を基に、仏教施設・遺物が確認される遺跡について７類型に分類され、国分寺・定額寺の山寺・別院から祖先供養の場まで、仏教施設に様々な形態・規模・情景が存在することを指摘した（註15）。九州ではこの種の遺跡の存在はあまり注目されていない。宮田浩之氏は筑前・筑後・豊前・肥前・肥後国から26遺跡を遺構・遺物から抽出しているが、関東のような事例を見出すまでにはいたっていない（註16）。



第107図　７世紀中頃～８世紀代の金属器模倣須恵器（1／3）

本堂遺跡６次ＳＸ06は仏教・祭祀関連の竪穴状遺構と考えられ、須恵器工人集落とは異なる様相を示す事が明らかになった。２・６次調査地内では該期の掘立柱建物は確認できず、仏教・祭祀に関わる遺構は極めて小規模な在り方を示すが、調査区の北側１kmには「寺」などの墨書土器や木簡等を多量に出土した九州大学筑紫キャンパス内遺跡があり、遺構の内容は明らかではないものの、近くに寺院が存在したものと考えられている（註17）。これまでの調査で、本堂遺跡群では粘土塊や粘土を貯留した土坑・窯壁片などが出土した調査地もあり（註18）、上園遺跡の調査もあわせると牛頸窯跡群を支えた須恵器工人集落が存在したことは確実である。しかしその一方で、遺跡内および周辺で仏教･祭祀的な遺物を含む集落が展開する状況もうかがえることから、今後整理作業を進

めていくにあたって、性格の異なる両者の遺構の時期と内容を明らかにした上で集落の実像について考察をおこない、「村落内寺院」の在り方について検討をおこなっていきたい。　（石木）

註１　中村浩2004『牛頸本堂遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第64集
註２　徳本洋一編1994『牛頸日ノ浦遺跡群』大野城市文化財調査報告書第42集
　　徳本洋一編1995『牛頸塚原遺跡群』大野城市文化財調査報告書第44集
註３　舟山良一1986『上園遺跡Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第18集
　　舟山良一編1987『上園遺跡Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第21集
註４　中村浩2003『牛頸本堂遺跡群Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第61集
註５　石木秀啓編1998『後原遺跡Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第53集
註６　丸尾博恵1999『石勺遺跡Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第56集
註７　林潤也2004『御笠の森遺跡Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第63集
註８　中村浩編1989『牛頸ハセムシ窯跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第30集
註９　西弘海1986『土器様式の成立とその背景』真陽社
註10　この数は報告されているもののみであり、図化できないような破片の存在も考えられるが、一応の目安としてとらえておく。
註11　舟山良一1999「九州の須恵器窯」『窯跡研究会第２回シンポジウム　須恵器窯の技術と系譜発表要旨集』
註12　出典は九州土器研究会資料によった。事例はさらに増えるものと考えられる。
註13　小川真理子1990「稜椀の研究」『今里幾次先生古稀記念　播磨考古学論叢』
註14　須田勉2006「古代村落寺院とその信仰」『古代の信仰と社会』国士舘大学考古学会編
註15　笹生衛2005「古代東国集落と仏教信仰」『古代官衙・集落研究会　在地社会と仏教　研究報告資料』奈良文化財研究所
註16　宮田浩之2005「西国における在地社会と仏教の受容」『古代官衙・集落研究会　在地社会と仏教　研究報告資料』奈良文化財研究所
註17　西健一郎1994『九州大学埋蔵文化財調査報告－九州大学筑紫地区遺跡群－（第三冊）』九州地区春日原地区埋蔵文化財調査室
註18　平成13年９月８日に現地説明会をおこなった本堂遺跡１次調査地では、竪穴住居跡内や土坑から粘土の貯留が確認され、焼成不良遺物の出土など須恵器工人の集落と考えられる。

表37　金属器模倣須恵器出土一覧（窯跡）

No.	遺　跡	遺　構	蓋（環）	蓋（宝）	稜椀	椀	鉢（鋺）	鉢（鉄鉢）	瓶（水瓶）	托	遺構の時期	遺跡の種類	文　献	備　考
1	宮ノ本遺跡群	4号窯跡灰原Ⅲ区中層					1				7c中～後	窯跡	太市報10集	蓋付？
2	宮ノ本遺跡群	4号窯跡灰原Ⅳ区					4				7c中～後	窯跡	太市報10集	
3	小田浦窯跡群	50－Ⅱ号窯跡					1				7c後	窯跡	大市報35集	
4	小田浦窯跡群	39地点1号土坑					1				7c後	土坑	大市報40集	
5	上平田窯跡群	2号窯跡					1				7c後	窯跡	大市報4集	
6	ハセムシ6地区	灰原･最下段灰原					2	5		6	7c後～8c前	窯跡	大市報30集	
7	ハセムシ12地区	最下段下層灰層						1			7c後～8c前	窯跡	大市報30集	
8	後田窯跡群	66－Ⅰ号窯跡					4				7c後～8c前	窯跡	大市報33集	
9	浦ノ原窯跡群	3号窯跡					2				7c後～8c前	窯跡	春市報11集	
10	浦ノ原窯跡群	8号窯跡					1				7c後～8c前	窯跡	春市報11集	
11	井手窯跡群（A－2地区）	3号窯跡灰原						2			8c前	窯跡	県報80集	
12	道ノ下窯跡群（K地区）	14～18号窯跡灰原					1				8c前	窯跡	県報80集	
13	井手窯跡群（B－4地区）	44号南側土坑							1		8c前	土坑	県報89集	
14	長者原窯跡群（I地区）	59号窯跡				1					8c前	窯跡	県報89集	
15	長者原窯跡群（I地区）	62号窯跡				1					8c前	窯跡	県報89集	
16	井手窯跡群（B－1地区）	19～21号窯跡灰原					1		1		8c前	窯跡	県報89集	
17	井手窯跡群（B－2地区）	23～26号窯跡灰原						4	2		8c前～中	窯跡	県報80集	
18	笹原窯跡群（M－1地区）	51･52号窯跡灰原						2			8c前～中	窯跡	県報89集	
19	本堂遺跡5次調査	7号窯跡						1			8c前～中	窯跡	大市報68集	
20	足洗川窯跡群（C地区）	34～37号窯跡灰原						1			8c前～中	窯跡	県報80集	
21	ハセムシ18地区	Ⅵ号窯跡灰原灰層						1			8c前～中	窯跡	大市報23集	
22	井手窯跡群（B－1地区）	1号土坑	1								8c中～後	土坑	県報89集	
23	井手窯跡群（B－1地区）	22･30～32号窯灰原						3			8c中～後	窯跡	県報89集	
24	井手窯跡群（B－2地区）	28号窯跡内							1		8c中～後	窯跡	県報80集	
25	ハセムシ18地区	Ⅲ号窯跡灰原灰層						1			8c中～後	窯跡	大市報23集	
26	石坂窯跡群C地点	1号窯跡									8c中～後	窯跡	大市報14集	円面硯あり
27	後田窯跡群	59地点灰原					1				8c中～後	窯跡	大市報33集	
28	本堂遺跡5次調査	2～5号窯跡灰原下						1			8c後	窯跡	大市報68集	
29	本堂遺跡5次調査	2～5号窯跡灰原D区						2	1		8c後	窯跡	大市報68集	
30	本堂遺跡5次調査	2～5号窯跡灰原E区						3			8c後	窯跡	大市報68集	
31	本堂遺跡5次調査	2～5号窯跡灰原H･I区							1		8c後	窯跡	大市報68集	
32	惣利遺跡	3号竪穴状遺構	1								8c後	土坑	春市報14集	
33	井手窯跡群（B－2地区）	24号窯跡内									8c末～9c初	窯跡	県報80集	

表38　金属器模倣須恵器出土一覧（集落等）①

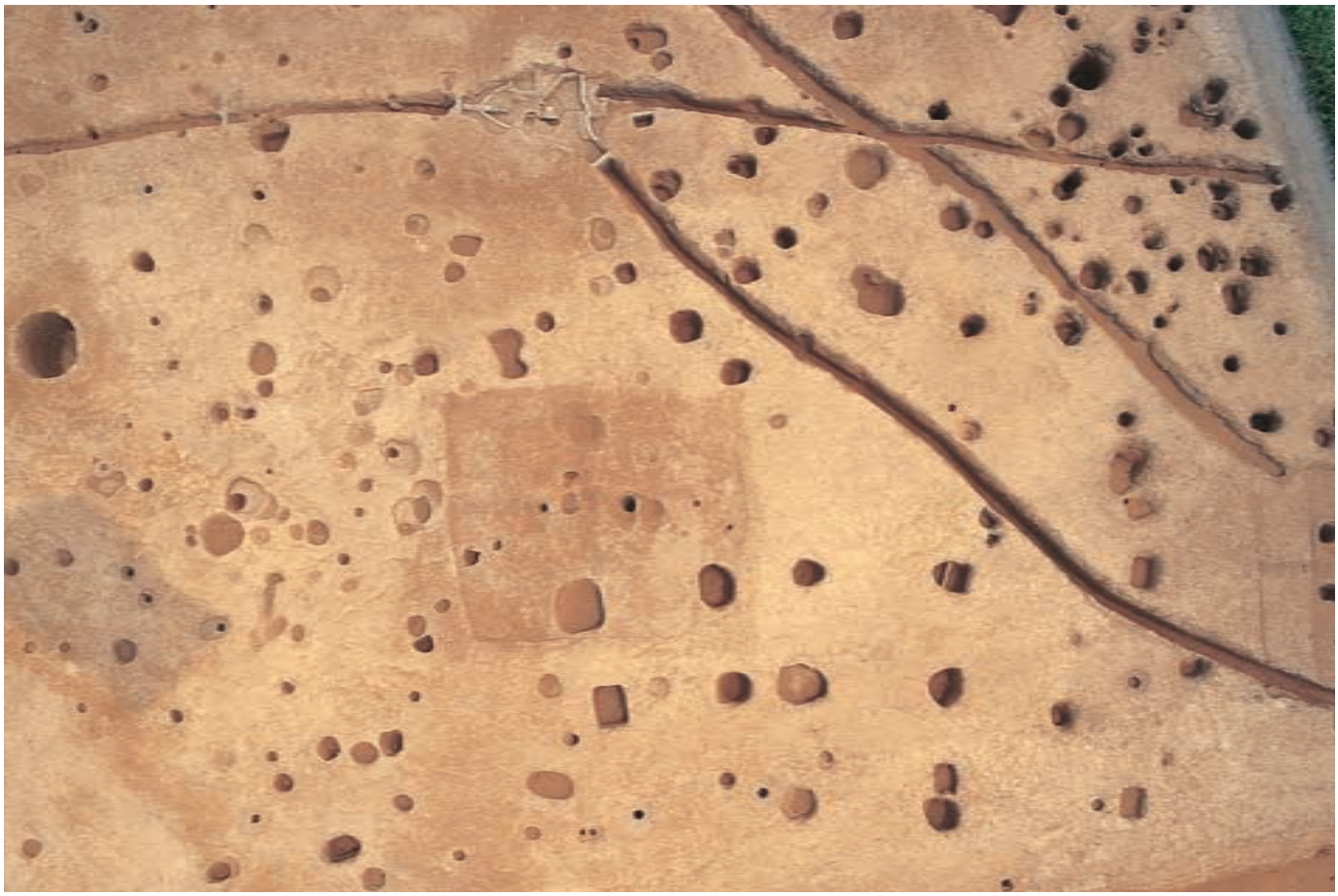
No.	遺　跡	遺　構	蓋(環)	蓋(宝)	稜椀	椀	鉢(鋺)	鉢(鉄鉢)	瓶(水瓶)	托	硯				墨書	遺構の時期	遺跡の種類	文　献	備　考
											円	風	転	他					
1	京ノ尾遺跡4次	SX110黒色土						1								6c後～8c後	集落	太市報85集	
2	大宰府政庁跡	回廊東北隅地区第2整地層					1									6c後～8c前	政庁	政庁跡	
3	塚原遺跡群	SK13					1									7c後	集落	大市報44集	拠点集落
4	塚原遺跡群	SK05								1						7c後	集落	大市報44集	拠点集落
5	古水遺跡	3号土坑					1									7c後	集落	春市報47集	
6	惣利北遺跡	3号住居跡					1									7c後	集落	春市報16集	他住居硯あり
7	塚原遺跡群	SK12					1	2								7c後～8c後	集落	大市報44集	拠点集落
8	大宰府史跡147次	暗褐色土	1								2				5	7c後～8c後	官衙	史平5概報	「御」「海」ほか
9	今光･宗石遺跡群第2地点	2号土坑						1								7c後～8c前	集落	那町報58集	貝徳寺？
10	大宰府史跡147次	茶褐色土下層						1			1				2	7c後～8c前	官衙	史平5概報	「木」ほか
11	大曲り遺跡	窯状遺構					1									7c後～8c前	集落	筑市報49集	
12	京ノ尾遺跡6次	黒灰色土						1								7c後～近世	集落	太市報85集	
13	大宰府史跡105次	暗茶色土						1							3	7c前～9c前	官衙	史昭62概報	「古田」など
14	龍頭遺跡	1号住居跡					2									7c中	集落	県報123集	
15	龍頭遺跡	4号住居跡						1								7c中	集落	県報123集	
16	龍頭遺跡	5号住居跡						1								7c中	集落	県報123集	
17	大宰府史跡75次	SX1989	1													8c～9c前	官衙	史昭56概報	
18	塚原遺跡群	SK10				1		1								8c後	集落	大市報44集	拠点集落
19	後野・山ノ神前遺跡群	Ⅰ区4号祭祀遺構						1								8c後	祭祀遺跡	那町報49集	
20	後野・山ノ神前遺跡群	Ⅰ区19号祭祀遺構						1								8c後	祭祀遺跡	那町報49集	
21	大宰府条坊跡65次	SK005淡褐灰色土					1									8c後	条坊	太市報28集	
22	大宰府条坊跡65次	SK110						1								8c後	条坊	太市報28集	
23	大宰府条坊跡81次	SK130						2								8c後	条坊	太市報28集	
24	大宰府条坊跡89次	SK015						1								8c後	条坊	太市報28集	
25	大宰府条坊跡89次	SK122						1								8c後	条坊	太市報28集	
26	島本遺跡2次	SD001茶色砂質土						1							2	8c後	西門官道側溝	太市報77集	「伯」「田□」
27	大宰府条坊跡154次	SE065灰茶色砂質土						1							1	8c後	条坊	太市報48集	
28	大宰府条坊跡120次	SD025						1								8c後	条坊	太市報48集	
29	大宰府史跡129次	SX3830						1								8c後	官衙	史平3概報	
30	大藪池遺跡群	西側	1												1	8c後？	寺院？	那町報49集	瓦ほか
31	大宰府条坊跡120次	SD061	2					1							3	8c後～	条坊	太市報48集	鉄製鍋杖
32	日ノ浦遺跡群	1号住居跡				1										8c前	集落	大市報42集	拠点集落
33	宮ノ本遺跡9次	明褐色土						1								8c前	集落	太市報39集	
34	大宰府条坊跡64次	SE015						1								8c前	条坊	太市報37集	
35	宝満山遺跡群27次	8トレンチ茶色土							1							8c前～後	祭祀遺跡	太市報79集	
36	宝満山遺跡群27次	8トレンチ茶褐土						1								8c前～後	祭祀遺跡	太市報79集	
37	大島遺跡3地点	3号土坑					脚付1									8c前～中	集落	筑市報23集	
38	大宰府条坊跡	第6トレンチSD001						1							4	8c前～中	条坊内	太市報5集	「元」「南」「十」
39	別所次郎丸遺跡	灰色シルト質土	1					4							1	8c前～中	寺跡？	県報114集	「□寺湯□」
40	大宰府史跡122次	SX3682						平底1								8c前～中	寺跡？	史平2概報	
41	後原遺跡3次	SX01					1	1							1	8c中～後	集落？	大市報53集	
42	日ノ浦遺跡群	SK20		1	1											8c中～後	集落	大市報42集	拠点集落
43	日ノ浦遺跡群	SK17			1											8c中～後	集落	大市報42集	拠点集落
44	九大筑紫キャンパス内遺跡	中央部地区13J･MSD701包含層						2		1		1	30		21	8c中～後	寺跡？	九報3冊	「寺」など
45	本堂遺跡6次	SX06			2			1	1							8c中～後	集落	本報告	
46	今光遺跡群	大溝							1							8c末～9c初	祭祀遺跡	今光遺跡群	
47	筑前国分尼寺13次	暗茶色土(包含層)					1									8c後	寺跡	太市報25集	灯明具あり
48	大宰府史跡126次	SB3800C	1														観世音寺	史平3概報	
49	大宰府史跡126次	講堂後背部褐色土	1													～12c	観世音寺	史平3概報	
50	塚原遺跡群	遺構不明							1								集落	大市報44集	拠点集落
51	貝元遺跡	15号溝						1							1	弥生～8c後	条坊	県貝Ⅱ	
52	大宰府条坊跡149次	149SX085黒色土	1													～10c	条坊	太市報43集	

表39　金属器模倣須恵器出土一覧（集落等）②

No.	遺　跡	遺　構	蓋(環)	蓋(宝)	稜椀	椀	鉢(鋺)	鉢(鉄鉢)	瓶(水瓶)	托	硯				墨書	遺構の時期	遺跡の種類	文　献	備　考
											円	風	転	他					
53	大宰府条坊跡89次	SK070						1								～12c	条坊	太市報28集	
54	日焼遺跡3次	遺構外黒色シルト						1					1			～12c	集落	太市報74集	
55	宝満山遺跡群21次	3トレンチ黄灰色土						1								～12c	祭祀遺跡	太市報55集	
56	宝満山遺跡群21次	3トレンチ灰褐土						1								～12c	祭祀遺跡	太市報55集	
57	九大筑紫キャンパス内遺跡	中央部地区13J・K包含層					1				2	1				～12c	集落？	九報3冊	
58	原ノ口遺跡	2号溝					1									～12c	集落	春市報33集	集落内瓦出土
59	大宰府史跡121次	SD3630						1								～13c	寺跡？	史平2概報	
60	大宰府条坊跡81次	茶褐色土						1									条坊	太市報28集	
61	大宰府条坊跡212次	包含層暗茶褐色土層	1														条坊	太市報57集	荒尾産
62	龍頭遺跡	1号掘立柱建物						1									集落	県報123集	
63	水城跡32次	SX135⑤層						平底1									集落	大史報Ⅰ平12年	
64	大宰府条坊八条七～八坊	4N・4S・4C区4層	1														条坊	史昭53概報	
65	宝満山遺跡群	上宮祭祀遺跡							1								祭祀遺跡	宝地宝	

図　　版

（１）２次調査地全景（北西から）



（２）２次ＳＢ01・03・04全景（真上より）

図版２

（１）２次ＳＣ01全景（北から）

（２）２次ＳＣ01土層（北から）

（１）２次ＳＣ02全景（西から）

（２）２次ＳＣ02土層（西から）

図版４

（１）２次ＳＣ03全景（南西から）

（２）２次ＳＣ03土層（南西から）

（１）２次ＳＣ04全景（北東から）

（２）２次ＳＣ04土層（北西から）

図版６

（１）２次ＳＣ05全景（西から）

（２）２次ＳＣ05土層（北から）

（１）２次ＳＣ06全景（北東から）

（２）２次ＳＣ08全景（北東から）

図版８

（１）２次ＳＣ09全景（西から）

（２）２次ＳＣ09・ＳＤ13土層（南東から）

２次ＳＤ01西半部全景（北東から）

図版10

（1）２次ＳＤ01土層
(a-a'面)(北から)

（2）２次ＳＤ01土層
(b-b'面)(北東から)

（3）２次ＳＤ01土層
(c-c'面)(北東から)

（1）２次ＳＤ01土層
(d-d'面)(東から)

（2）２次ＳＤ01土層
(e-e'面)(東から)

（3）２次ＳＤ01床面
検出小穴

図版12

（1）２次ＳＤ07土層
(a-a'面)(南東から)

（2）２次ＳＤ08土層
(a-a'面)(北西から)

（3）２次ＳＤ08土層
(b-b'面)(北西から)

（1）２次ＳＤ09土層
(b-b'面)(西から)

（2）２次ＳＤ13土層
(a-a'面)(北西から)

（3）２次ＳＤ13土層
(d-d'面)(北西から)

図版14

（1）２次ＳＸ01全景（北から）

（2）２次ＳＸ01土層（東から）

（1）２次ＳＸ09全景（南西から）

（2）２次ＳＸ09土層（北東から）

図版16

（1）２次ＳＸ11全景（南西から）

（2）２次ＳＸ11土層（南西から）

（1）２次ＳＸ15全景
（南から）

（2）２次ＳＸ24全景
（東から）

（3）２次ＳＸ28全景・遺物出土状況

図版18

（1）２次ＳＸ35全景（真上から）

（2）２次ＳＸ39全景（東から）

（1）２次ＳＸ41全景（南から）

（2）２次ＳＸ41土層（南から）

図版20

（1）２次ＳＸ42全景（南東から）

（2）２次ＳＸ42土層（北西から）

（1）２次ＳＸ43全景
（北東から）

（2）２次ＳＸ43遺物出土
状況（北西から）

（3）２次ＳＸ43土層
（西から）

図版22

（1）２次ＳＸ44全景（北西から）

（2）２次ＳＸ44土層（北西から）

（1）２次ＳＸ45全景（北西から）

（2）２次ＳＸ45土層（北東から）

図版24

（1）２次ＳＸ49全景
（北西から）

（2）２次ＳＸ49土層
（南西から）

（3）２次ＳＸ50全景
（南東から）

（1）２次ＳＸ51全景（東から）

（2）２次ＳＸ51土層（北東から）

図版26

２次ＳＸ53遺物出土状況（南東から）

（1）２次ＳＸ53全景（南東から）

（2）２次ＳＸ53土層（南東から）

図版28

（1）２次ＳＸ61全景
（北から）

（2）２次ＳＸ63全景
（北西から）

（3）２次ＳＸ64全景
（北から）

（1）２次ＳＸ68全景
（北から）

（2）２次ＳＸ69全景
（北西から）

（3）２次ＳＸ69土層
（南西から）

図版30

（1）２次ＳＸ75全景（東から）

（2）２次ＳＸ76全景（北東から）

（1）２次ＳＥ01全景（北東から）

（2）２次ＳＰ668全景（南から）

（１）４次調査地全景（北東から）

（２）４次ＳＤ01土層（１･２間)(南から）

（３）４次ＳＤ01土層（２･３間)(南から）

（1）４次ＳＸ01・07
全景（北東から）

（2）４次ＳＸ01土層
（東から）

（3）４次ＳＸ07土層
（東から）

（1）４次ＳＸ02全景（北西から）

（2）４次ＳＸ02土層（南から）

（1）４次ＳＸ06全景（南東から）

（2）４次ＳＸ06土層（南から）

図版36

６次調査地全景（東から）

（1）６次ＳＣ01全景（北から）

（2）６次ＳＣ01遺物出土状況（北西から）

図版38

（1）６次ＳＣ01炉穴土層
（北東から）

（2）６次ＳＣ01土層
（南東から）

（3）６次ＳＣ02全景
（南東から）

（1）６次ＳＣ03全景（北から）

（2）６次ＳＣ03土層（南東から）

図版40

（1）６次ＳＣ04全景（北から）

（2）６次ＳＣ04土層（南から）

（1）６次ＳＤ01全景（北から）

（2）６次ＳＤ01土層（北東から）

図版42

（1）６次ＳＸ04全景（東から）

（2）６次ＳＸ04土層（東から）

（1）６次ＳＸ05全景（北から）

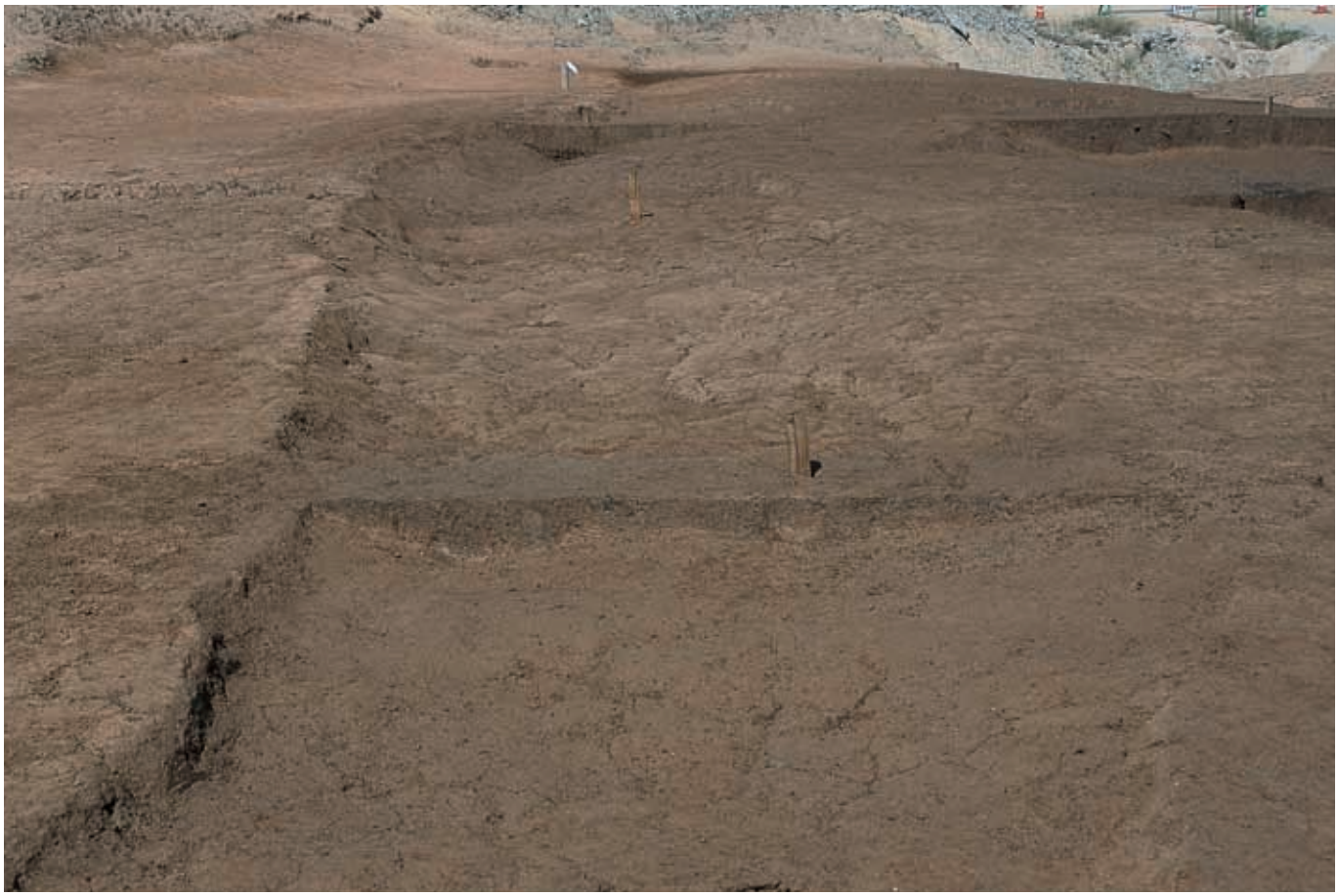
（2）６次ＳＸ05土層（北東から）

図版44

（1）６次ＳＸ06全景（東から）

（2）６次ＳＸ06土層（南東から）

（1）６次ＳＸ07全景（南東から）



（2）６次ＳＸ07土層（南東から）

図版46

（1）６次ＳＸ10全景（北から）

（2）６次ＳＸ14土層（南東から）

（1）15次調査地遠景（南から）

（2）15次調査地全景（南西から）

（1）15次１区土坑群、ＳＸ01・02全景（西から）

（2）15次３区ピット群全景（東から）

（1）15次溝跡ＳＸ07・08
全景（南から）

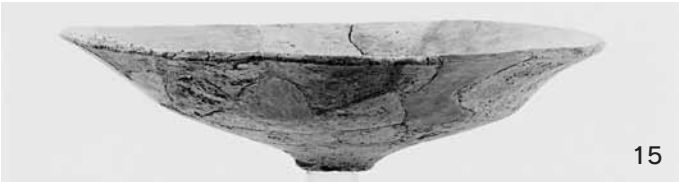
（2）15次ＳＸ12全景
（東から）

（3）15次ＳＸ13全景
（西から）

（1）２次ＳＸ44出土遺物

（2）２次ＳＸ53出土遺物

14


15

17

19

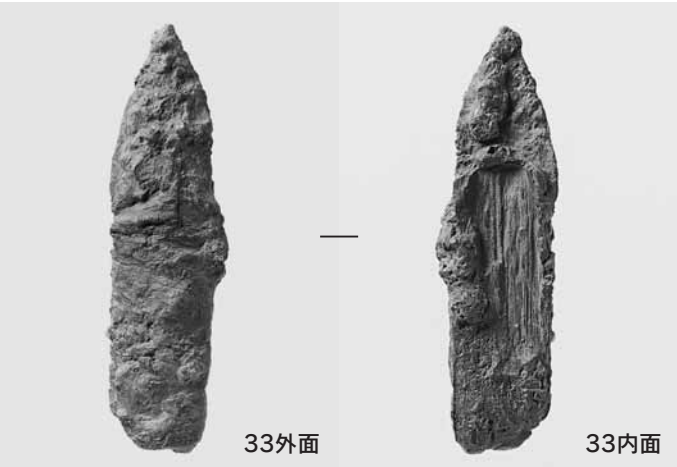
21

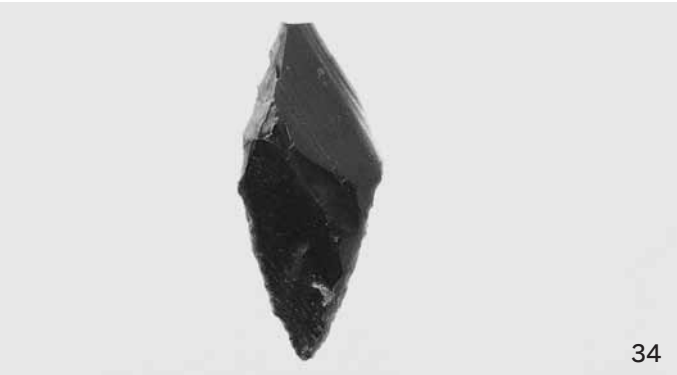
26

27

28

29


33外面 33内面


34

２次調査出土遺物①

35

41

44

48

54

55

57

60

64

65

２次調査出土遺物②

66

68

69

70

74

77

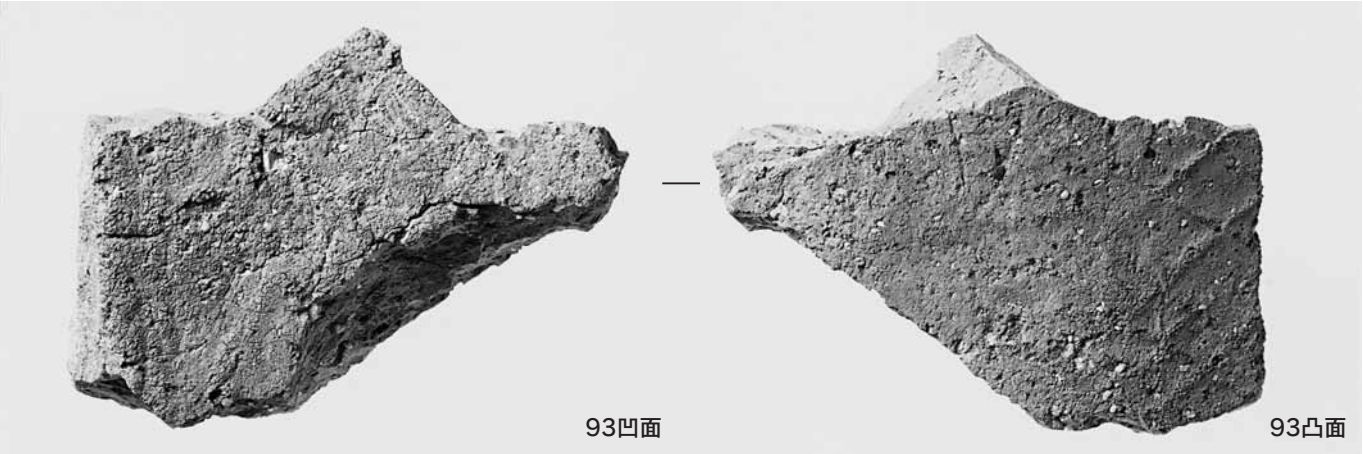
78

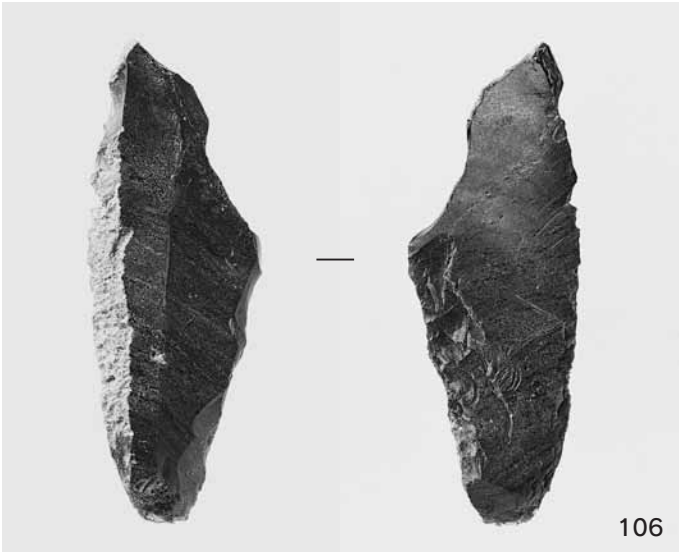
79

85

90

２次調査出土遺物③





２次調査出土遺物④

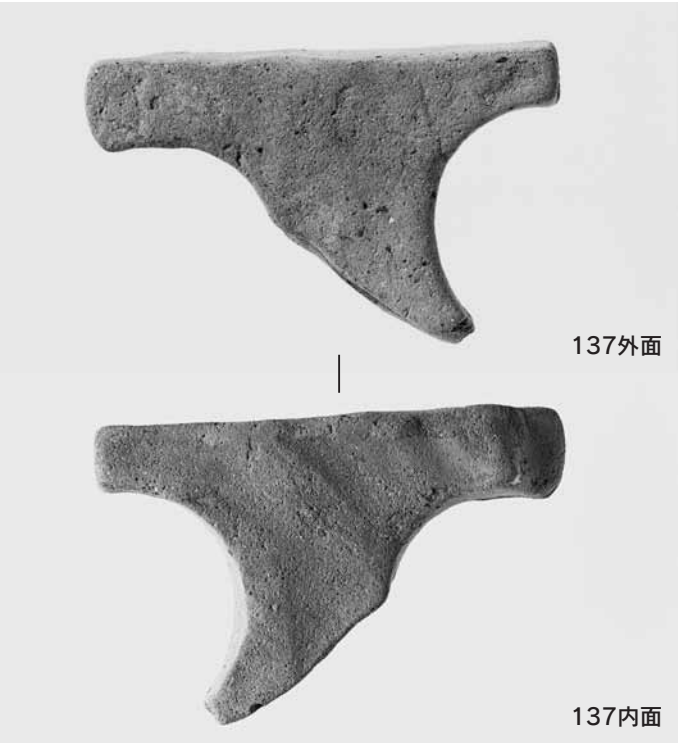
109

110

111

117

128


137外面
137内面

138

139

120外面
120内面

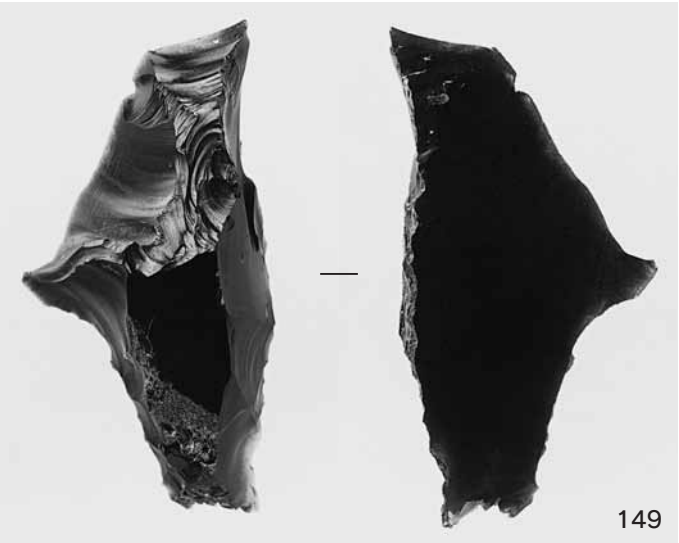
２次調査出土遺物⑤

140

141 142

146

147


149

157

158

160

161

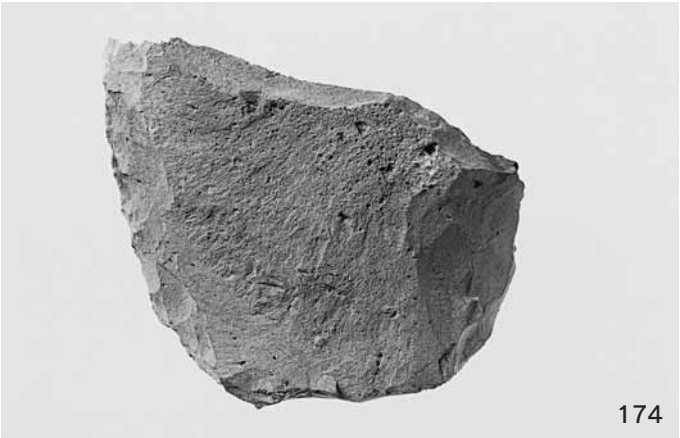
165

166

２次調査出土遺物⑥

170

171


174

176

189

194

195

２次調査出土遺物⑦

205

206

207

208

209

211

212

213

214

217

218

221

222

223

224

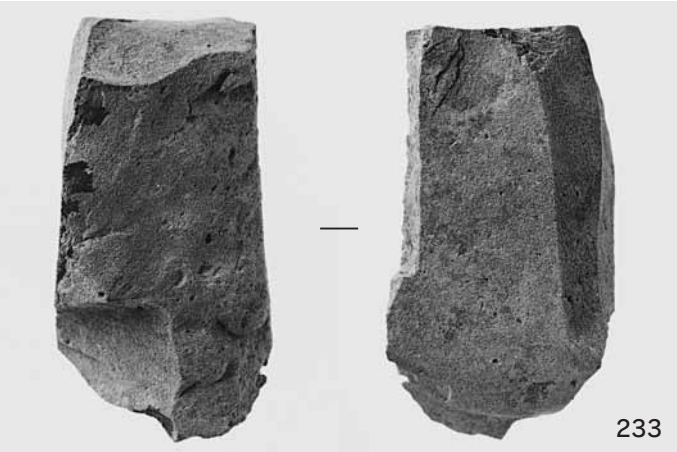
225

228

229

231

232


233

235

２次調査出土遺物⑨

239

240

241

242

244

243

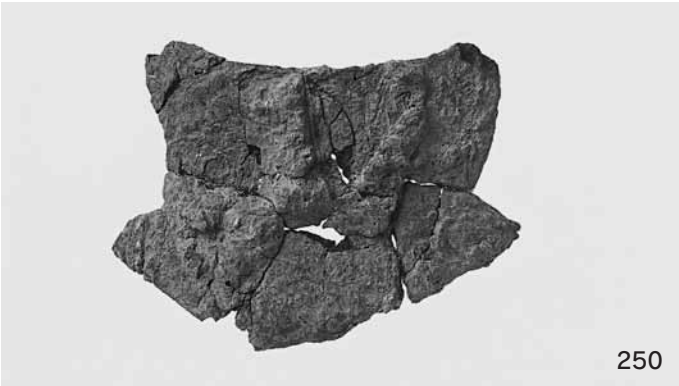
245

246

247

248

249


250

251

253

254

264

278

280

２次調査出土遺物⑪

281

283

284

285

286

287

288

289

290

292

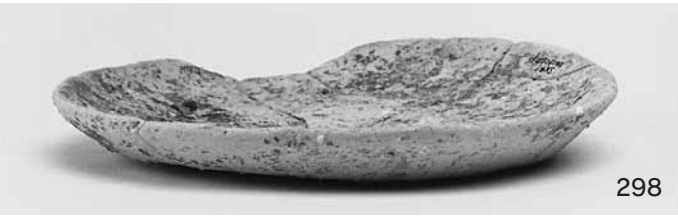
293

294

295

296

297


298

299

300

301

302

303

305

307

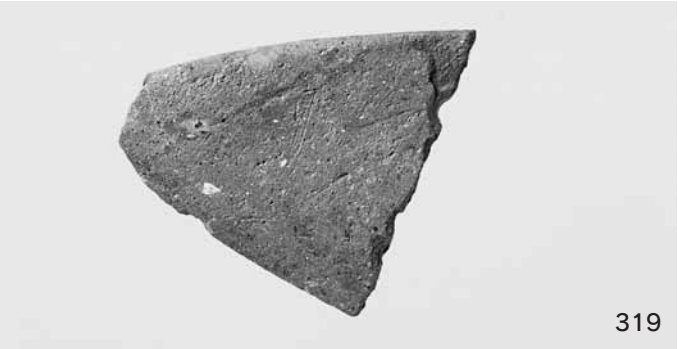
311

312

313

314

315


319

320

322

323

324

325

327

331

330

331

332

336

339

359

362

363

365

366

368

370

371

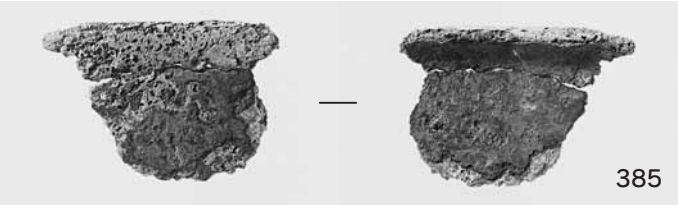
374

375

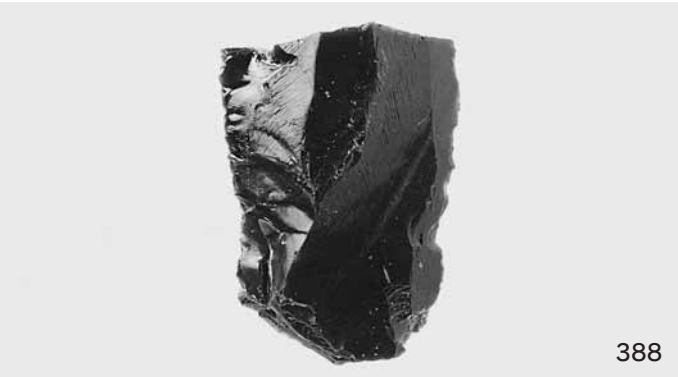
376

378

382


385

387

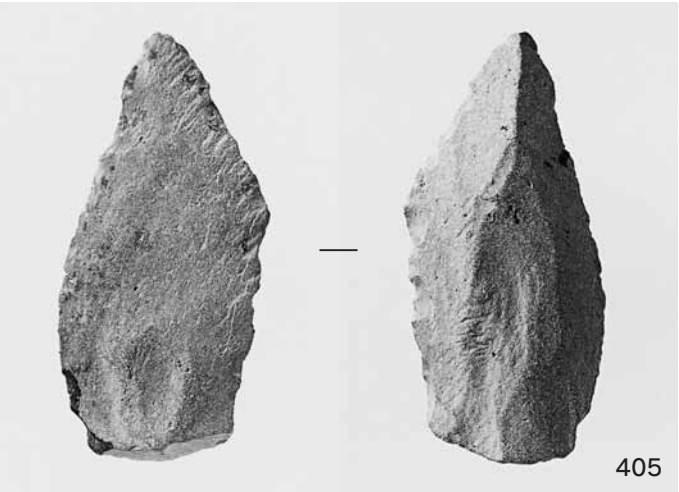

388

393

394

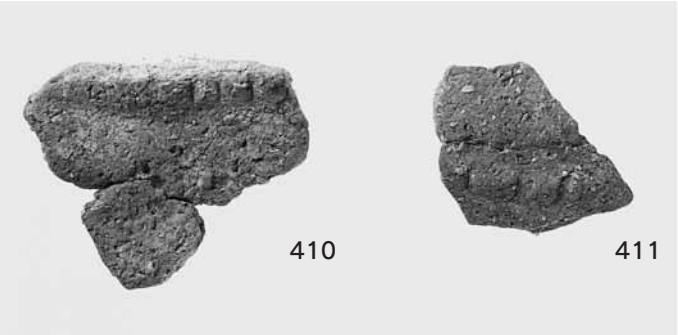
395

396


405

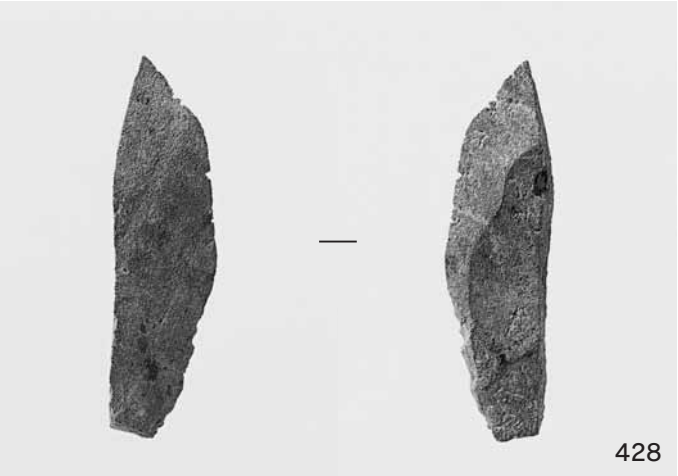
408

409


410 411

412

416


428

432

431

442

443

444

445凸面

445凹面

447

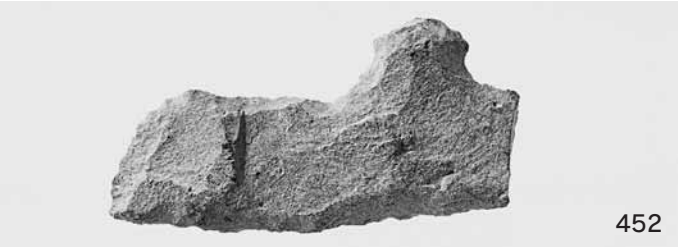
２次調査出土遺物⑲

448

449

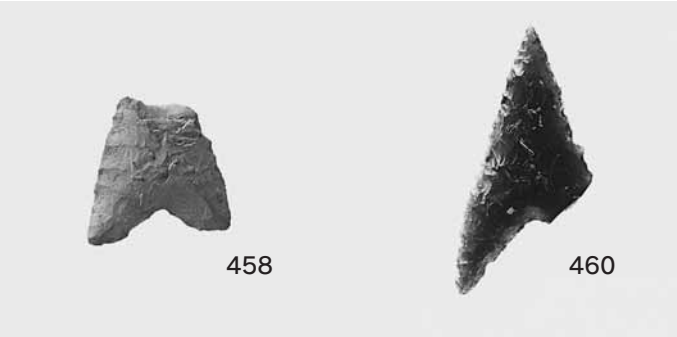
450

451


452

453

457


458 460

461

465

２次調査出土遺物⑳、４・６次調査出土遺物

464

466

469

471

472

473

474

476

478

487

６次調査出土遺物②

492

496

497

498

499

501

502

503

504

505

506

507

508

509

510

502

６次調査出土遺物③

515

516

517

519

521

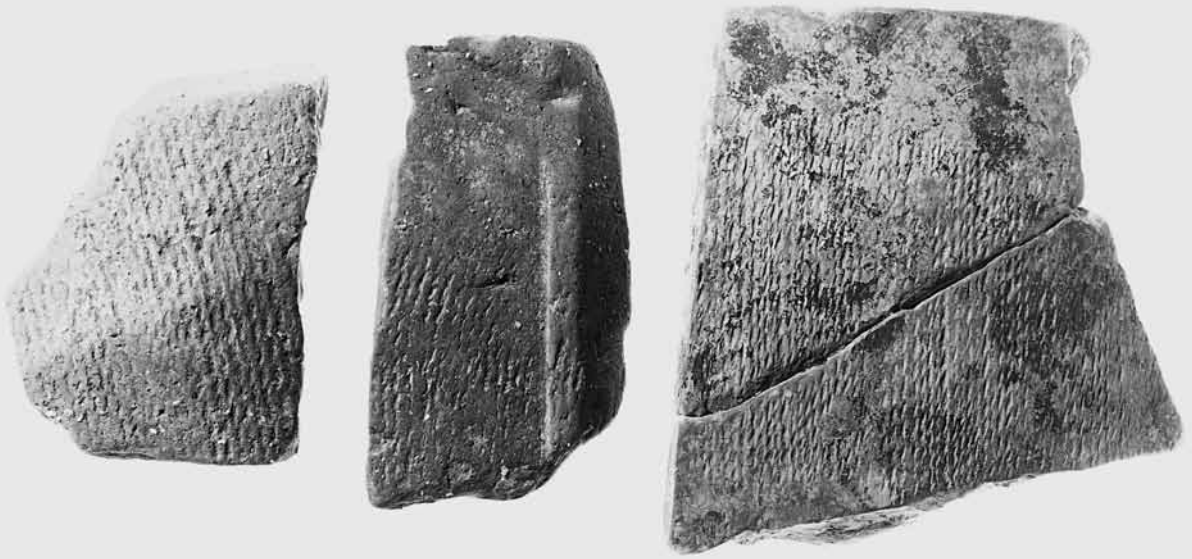
530

536

483

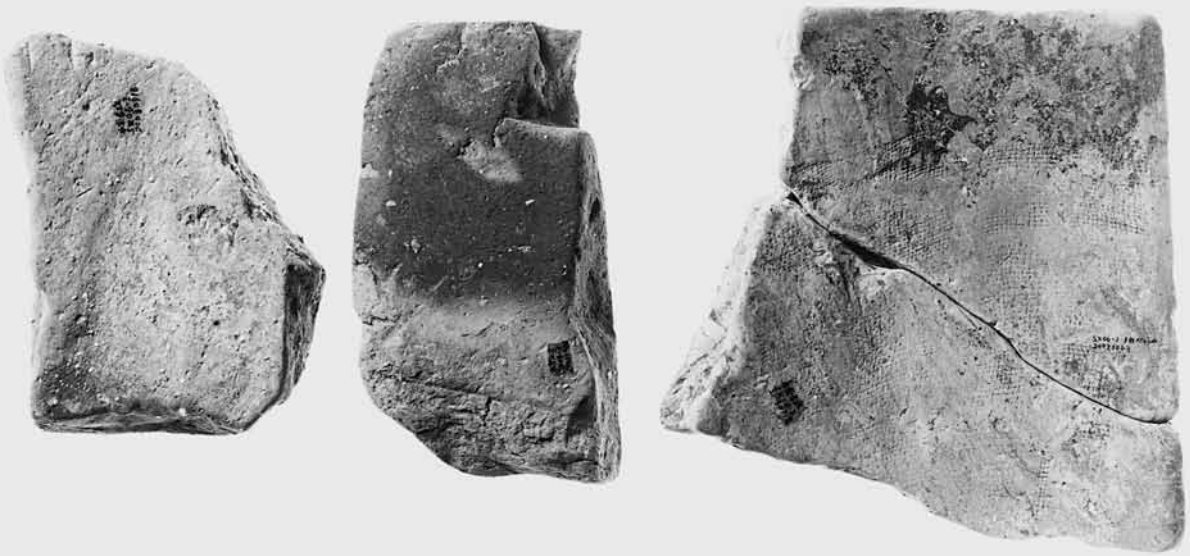
547

６次調査出土遺物④



532　533　534

凸面



532　533　534

凹面

539

540

541

542

543

544

548

６次調査出土遺物⑥

565

566

567

568

569

571

572

573

574

577

578

579

15次調査出土遺物①

580

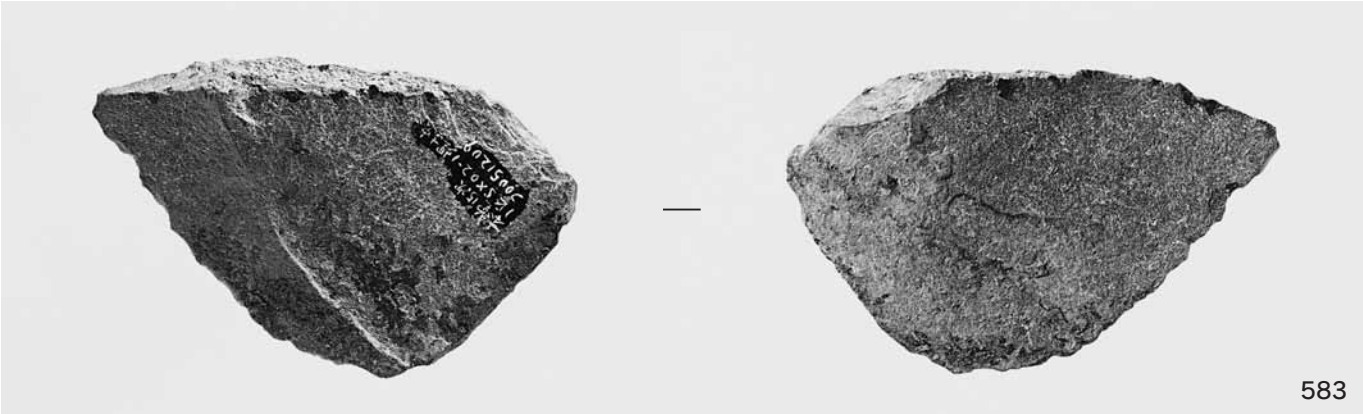
581

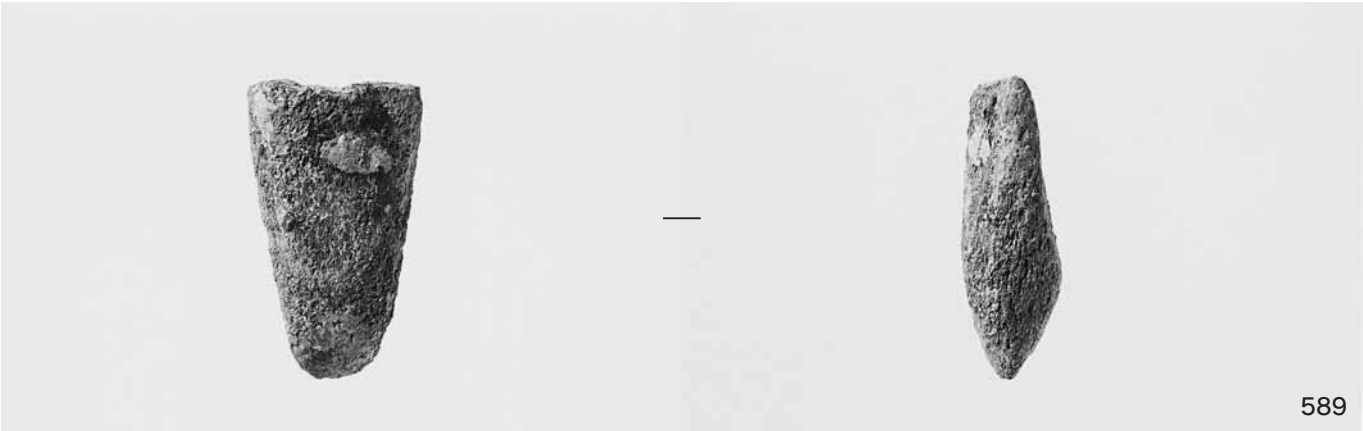
582

584

585

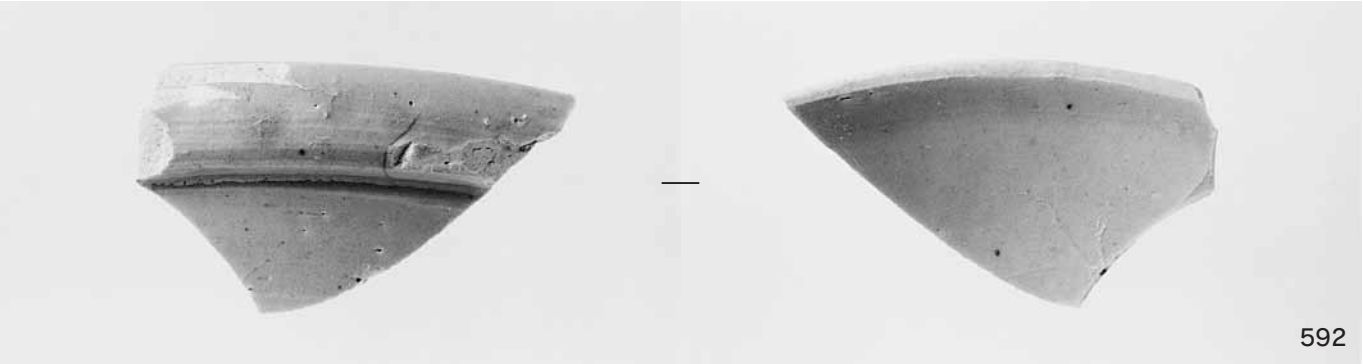
26

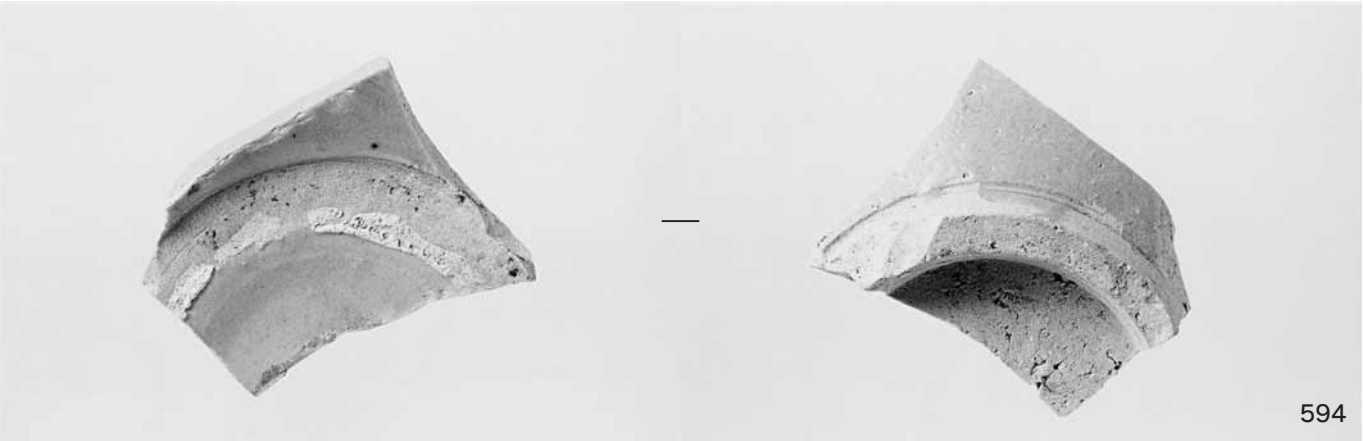

583


589

15次調査出土遺物②

図版78





15次調査出土遺物③

付　図　　本堂遺跡２・６次調査遺構全体図（1/300）

報告書抄録

ふりがな	うしくびほんどういせきぐん　ご
書名	牛頸本堂遺跡群Ⅴ
副書名	上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅵ
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第76集
編著者名	石木秀啓・早瀬　賢・井上愛子
編集機関	大野城市教育委員会
所在地	〒816-8510　福岡県大野城市曙町二丁目２番１号　　電話092（501）2211
発行年月日	2008年2月29日

所有遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
本堂遺跡（ほんどういせき） 第２次調査	福岡県大野城市大字上大利637番地他（ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり）			33° 30′ 50″	130° 29′ 00″	2003.3.28 ～ 2003.7. 7	10,904	区画整理

所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	集落遺跡	弥生～平安	竪穴住居跡・掘立柱建物・溝・土坑・井戸	須恵器・土師器・弥生土器・陶磁器・石器	

要約

旧石器時代から中近世にいたるまでの遺物が出土しているが、中でも遺構・遺物ともに増加するのは弥生時代中期末ごろ・奈良時代前半・平安時代である。削平が著しく残存状態はよくないが、残された遺構の年代から見るといずれの時期も短期間の集住である。弥生時代の集落は、竪穴住居の他には井戸が5基確認された。また土坑には土器が大量に廃棄されたものも確認され、祭祀行為にともなうものと考えられる。奈良時代前半は遺構の数が最も多くなる。土坑からは焼け歪んだ須恵器が出土しており、近接する本堂3・8次調査で確認された窯跡との関連が考えられるが、竪穴住居からは粘土等の須恵器製作との関連を示す遺物は出土しておらず、一概に須恵器作りに関わる集落とは言い難い面がある。平安時代になると大きな溝が掘られるが、丘陵東側にあり、集落の周囲を囲むようなものではない。溝の床面は平らで、丘陵部へ向かって緩やかに上がり、一部段がつく部分がある。通常の溝とは異なる機能を有していた可能性がある。

所有遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
本堂遺跡（ほんどういせき） 第４次調査	福岡県大野城市大字上大利578-1ほか（ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり）			33° 30′ 55″	133° 28′ 50″	2003.5.22 ～ 2003.6. 5	670	区画整理

所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡（ほんどういせき） 第４次調査	集落跡	縄文・奈良・平安	土坑・溝	須恵器・弥生土器・陶磁器・石器	

要約

土坑・溝が確認されたが、出土遺物が少なく時期を確定するにはいたらなかった。石器は基部の抉りが深い縄文時代早期と考えられるもので、周辺での遺構の存在をうかがわせる結果となった。

報告書抄録

ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第６次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利629番地 他			33° 30′ 45″	130° 29′ 00″	2003.8.19 ～ 2003.10.7	1,400	区画整理

所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほんどういせき 本堂遺跡 第６次調査	集落遺跡	弥生・奈良	竪穴住居跡・ 溝・土坑	須恵器・土師器・ 弥生土器・鉄器	

要約	遺跡は丘陵緩斜面に位置する。弥生時代の竪穴住居跡は中期末頃に位置付けられ、隣接する２次調査地の集落と同じ時期に含まれ、同一の集落であったことが判明した。住居のプランは円形を採用しており、時期が分かるものは少ないが、２次調査地では方形プランの竪穴住居跡が主である事から時期差があると考えられる。奈良時代の遺構は竪穴住居跡・土坑がある。竪穴住居跡からは転用硯が出土し、また不整形の土坑からは、稜椀・鉢・水瓶等が出土している。このことから、仏教に関わる施設の存在が想定される。平安時代の溝は２次調査地からまっすぐのびて丘陵斜面を上がる。排水とは異なる、区画目的で掘られた可能性があったと考えられる。

ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第15次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利640－1 他			33° 30′ 50″	133° 29′ 00″	2003.12. 7 ～ 2003.12.22	400㎡	区画整理

所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほんどういせき 本堂遺跡 第15次調査	集落跡	弥生～奈良・鎌倉	土坑・ピット・溝	須恵器・弥生土器・ 石器	

要約	本堂遺跡15次調査は、上大利北土地区画整理事業にともなう。後世の撹乱により、確認された遺構は非常に少ないが、弥生時代中期後半から後期初頭と古墳時代後期の性格不明遺構、飛鳥時代のピット・性格不明遺構が確認された。このほか奈良・鎌倉時代の遺物が一定量出土し、概期の活動の痕跡が認められる。南西に隣接する調査区では、弥生時代から平安時代の集落の広がりが確認されており、本調査区は集落の縁辺に位置するものと推定される。今後、周辺調査区などを含めて総体的に捉え、集落の変遷について検討する必要がある。

大野城市文化財調査報告書　第76集

牛頸本堂遺跡群Ⅴ

平成20年 2月29日

発 行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2－2－1

印 刷　井上紙工印刷株式会社
福岡県朝倉市持丸625－1